

序

平成 23 年の東日本大震災から 14 年余りの月日が経過しましたが、福島県には今もなお震災に起因する解決すべき様々な課題が残されています。こうした状況を踏まえ、令和 7 年 6 月には、国において令和 8 年度からの 5 年間の「第 3 期復興・創世期間」とする新たな復興基本方針が閣議決定され、学校再開の支援、震災の影響に鑑み特別に措置される教員加配、被災した子どもへの心のケア、地域とのつながりを深める特色ある教育の充実、福島国際研究教育機構（F－R E I）との連携を通じた多様な学びの推進などに引き続き取り組んでいくこととしています。

さて、県教育委員会では「学びの変革」と、その実現に向けた環境づくりとしての「学校の在り方の変革」を柱に掲げ、「第 7 次福島県総合教育計画」（令和 4 年度～令和 12 年度）による施策を展開しています。目まぐるしく変化する社会情勢の中で、子どもたち一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せである「Well-being」を実現させていくためには、社会の課題に主体的に向き合い、多様な他者と協働して解決に向かう力を育んでいくことが不可欠です。復興・創生の過程という困難な状況の中で培われた他者との対話や協働を通して得た学びを充実・発展させるとともに、教職員が主体的に研さんを重ね、やりがいと達成感を持って働くことができる持続可能な教育環境を構築し、児童生徒の健やかな成長と自己実現を図るため、「教職員働き方改革アクションプラン」を作成し取り組んでいます。

本教育年報は、令和 6 年度における教育に関する施策概要や事業実績等を集録しており、本県教育行政を一望できる資料として、教育関係者のみならず、多方面の方々に広く御利用いただいております。

県教育委員会といたしましては、学びを支える大人、そして学びの当事者である子どもたちと思いや活動を共有していきたいという願いから公式 note のサイトを利用するなど、新しい情報発信の方法を工夫しているところです。本書が、継承される情報発信として今後も教育施策を推進する上での参考資料として広く活用され、本県教育振興の一助となることを願っています。

令和 7 年 11 月

福島県教育委員会

※ 本書は、旧字体等（機種依存文字）が用いられている場合、常用漢字で表記しています。また、敬称は省略しています。

教育年報目次

第1章 教育行政の概観

1 令和6年度の本県教育の概要	1
2 「学びの変革推進プラン」に関連する主な事業・取組	1
3 県立高校改革計画の概要	14

第2章 教育行政

第1節	教育委員会	18
1	教育委員会	18
2	審議事項	18
第2節	教育庁組織	21
第3節	企画調整	22
1	教職員現職教育計画の策定	22
2	調整事務	22
第4節	広報・広聴	23
1	教育委員会だより	23
2	教育年報	23
3	福島県教育	23
4	ふくしま教育ニュース	23
5	「第7次福島県総合教育計画」マンガ・動画	23
6	教育庁各課・所・館の広報誌・紙	24
6	記者発表及び資料提供（投げ込み）件数	27
7	教育フォーラム	28
8	「ふくしま教育の日」啓発推進事業	28
9	「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト	28
第5節	調査統計	28
1	地方教育費調査（一般統計）	28
2	社会教育調査（基幹統計）	28
3	進路状況等に関する調査	28
第6節	教職員の給与	29
1	給料関係	29
2	給料関係（給与制度のアップデート）	29
3	諸手当関係（給与制度のアップデートを含む）	29
第7節	附属機関等	30
1	福島県社会教育委員の会議	30
2	福島県文化財保護審議会	31
第8節	市町村教育委員会	32
1	概要	32
2	組織	32
3	令和6年度市町村教育委員会援助指導の概要	33
第9節	職員団体との話し合い	33
1	福島県教職員組合	33
2	福島県高等学校教職員組合	33
3	福島県立高等学校教職員組合	34
4	福島県学校事務労働組合	34
第10節	審査請求事件及び訴訟事件	34
1	審査請求事件	34
2	訴訟事件	34
第11節	公益法人等の指導等並びに公益信託の状況	35

	1 公益法人等	35
	2 公益信託	35
第12節	表彰及び叙勲	35
	1 教育・文化関係表彰	35
	2 文部科学大臣表彰	36
	3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲	36
第13節	奨学育英	38
	1 福島県奨学資金	38
	2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与制度	38

第3章 教育財政

第1節	令和6年度決算	39
	1 歳入	40
	2 歳出	40
第2節	学校教育施設	42
	1 県立学校	42
	2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）	43
第3節	産業教育設備整備事業	44
	産業教育施設・設備の整備	44
第4節	理科教育振興法補助事業	44
	1 理科設備	44
	2 算数・数学設備	44
第5節	情報処理設備整備事業	44
	県単独事業	44
第6節	体育施設	45
	1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）	45
	2 社会体育施設整備費補助	45

第4章 教育の情報化

第1節	基盤整備	46
第2節	人材の育成・活用	46

第5章 義務教育

第1節	概要	47
第2節	学校管理	47
	1 児童生徒数・学級数と教職員定数	47
	2 教職員人事・任用	50
	3 教育職員免許状の授与状況	50
	4 学校の設置及び統廃合	51
	5 学校防火	51
	6 へき地対策	52
第3節	学校教育	53
	1 概要	53
	2 現職教育	55
	3 教育課程	58
	4 学力向上等	58
	5 道德教育	58
	6 特別活動	59

	7 生徒指導・進路指導	60
	8 幼稚園教育	60
	9 へき地教育	61
	10 教科用図書	61
	11 教育研究団体	63
第4節	国際化・科学技術の進展等への対応	65
	1 中学生・高校生の科学・技術研究論文	66
	2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文	67

第6章 高等学校教育

第1節	概要	69
第2節	学校管理	70
	1 生徒数と教職員数	70
	2 教職員人事・任用	75
	3 学校の設置及び統廃合 - 公立高等学校の設置・廃止等(令和7年度) -	78
第3節	学校教育	79
	1 概要	79
	2 現職教育	85
	3 教育課程	86
	4 学力向上対策等	88
	5 生徒指導・進路指導	89
	6 学校行事	89
	7 産業教育	90
	8 学校訪問	90
	9 県立学校学校教育指導委員	90
	10 教育研究団体	91
第4節	文化活動の振興	92

第7章 特別支援教育

第1節	概要	96
第2節	学校管理	96
	1 児童生徒数と教職員定数	96
	2 特別支援学校及び特別支援学級の実態	99
	3 教職員人事・任用	101
第3節	学校教育	102
	1 概要	102
	2 現職教育	105
	3 教育課程（特別支援学校教育課程運営改善講座）	105
	4 訪問教育	106
	5 生徒指導・進路指導	106
	6 特別活動	107
	7 学校訪問	107
	8 県立学校学校教育指導委員	107
	9 就学相談・支援	107
	10 教科用図書	108
	11 教育研究団体	108

第8章 体育・健康

第1節	概要	109
	1 学校体育の充実	109
	2 学校保健・学校安全の充実	109
	3 食育の推進	109
	4 学校給食の充実	110
第2節	表彰	110
	1 体育関係	110
	2 学校保健・学校安全関係	110
	3 学校給食関係	112
第3節	学校体育	112
	1 学校体育関係各種研修	112
	2 福島県高等学校体育連盟	113
	3 福島県中学校体育連盟	115
第4節	学校保健・学校安全	116
	1 学校保健・学校安全研修会等	116
	2 児童・生徒の健康管理費補助	116
	3 福島県学校保健会	116
	4 独立行政法人日本スポーツ振興センター	116
第5節	学校給食	117
	1 学校給食用パン品質調査	117
	2 食育等に関する研修会等	117
	3 学校給食関係の国庫助成実績	117

第9章 社会教育

第1節	概要	118
	1 社会教育一般	118
	2 地域コミュニティの再生	118
	3 家庭教育	118
	4 青少年教育	118
	5 成人教育	118
	6 子どもの読書活動推進	118
	7 ユネスコ活動	118
	8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業	118
第2節	社会教育一般	119
	1 社会教育推進体制の充実	119
	2 社会教育施設の整備充実	119
	3 社会教育関係職員の研修	119
	4 社会教育研究集会	119
	5 社会教育指導員の設置	119
	6 社会教育主事の市町村派遣	119
	7 社会教育研修会	118
	8 福島県公民館研究集会	120
	9 社会教育職員研修派遣	120
	10 出版資料	120
第3節	地域コミュニティの再生	120
	1 地域学校協働本部事業	120
	2 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業	121
第4節	家庭教育	121
	地域でつながる家庭教育応援事業	121
	1 目的	121
	2 家庭教育応援プロジェクト	121

	3 家庭教育応援リーダー育成事業	121
第5節	青少年教育	122
	1 福島県地域学校協働本部	122
	2 ふくしま絆ふれあい支援事業	122
第6節	成人教育	123
第7節	子どもの読書活動推進	123
	1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト	123
	2 第五次 福島県こども読書活動計画推進計画作成事業	123
第8節	ユネスコ活動	124
	1 ユネスコ協会事務局一覧	124
	2 福島県ユネスコ活動研修会	124
第9節	チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業	124
	1 目的	124
	2 ふくしまキッズパワーアップ事業	124
	3 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業	124
	4 心のケアが必要な子どもを対象とした自然体験事業	124
第10節	公民館等社会教育施設	125
	1 公民館を除く主な社会教育施設	125
	2 文化施設の整備充実	129
第11節	福島県立図書館	130
	1 概要	130
	2 資料の収集・整理	130
	3 館内サービス	132
	4 館外サービス	136
	5 図書館協力	137
第12節	福島県立美術館	138
	1 概要	138
	2 美術品の収集・保存	139
	3 展示事業	139
	4 調査研究事業	143
	5 教育普及事業	144
	6 館外連携	146
第13節	福島県立博物館	148
	1 概要	148
	2 資料収集事業	149
	3 保存管理事業	149
	4 展示事業	151
	5 調査研究事業	154
	6 教育普及事業	157
	7 文化財・自然資料レスキュー	162
	8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト	162
	9 ポリフォニックミュージアム	163
	10 三の丸からプロジェクト	163
第14節	福島県自然の家	164
	1 概要	164
	2 教育目標及び基本的視点	164
	3 新型コロナウイルスの影響	165
第15節	福島県郡山自然の家	165
	1 概要	165
	2 施設・設備の概要	166
	3 利用状況	166
	4 企画事業	167
第16節	福島県会津自然の家	170
	1 概要	170
	2 施設・設備の概要	171

	3 利用状況	171
	4 企画事業	171
第17節	福島県いわき海浜自然の家	174
	1 概要	174
	2 施設・設備の概要	176
	3 利用状況	177
	4 企画事業	177

第10章 文化財

第1節	文化財保護体制の充実	181
	1 指定文化財保護体制の充実（文化財パトロール）	181
	2 文化財保護指導者研修会	181
	3 市町村文化財保護担当者会議	181
第2節	埋蔵文化財保護の充実	181
	1 埋蔵文化財保護体制	181
	2 開発事業地内の保護対策	181
	3 令和6年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況	182
	4 埋蔵文化財保護体制充実のための研修	182
	5 埋蔵文化財保護普及活動	182
	6 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業	182
	7 開発事業に伴う試掘・確認・発掘調査件数	183
	8 範囲内容確認調査・史跡整備に係る調査・学術調査	183
	9 令和6年度 試掘・確認調査	184
	10 令和6年度 発掘調査	185
第3節	文化財保存助成の充実	185
	1 令和6年度 文化財保存助成事業	185
	2 令和6年度 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）	185
	3 令和6年度 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）	186
第4節	文化財の保護と公開の推進	187
	1 第66回北海道・東北ブロック民俗芸能大会	187
	2 文化財防火デーの実施	187
第5節	銃砲刀剣類の登録状況	187
	1 登録審査委員	187
	2 登録審査会の実施状況	187
	3 銃砲刀剣類の譲受け・相続等の届出状況	187
第6節	福島県文化財センター白河館の運営状況	188
	1 入館者数	188
	2 入館者の内訳と傾向	188
	3 団体利用者の内訳と傾向	188
	4 情報発信事業の利用者	189
	5 資料管理業務	189
	6 研修事業の状況	189
	7 体験学習事業の状況	189
	8 講演会・講習会	190
	9 常設展事業	191
	10 企画展事業	191
	11 ボランティア運営事業	191
	12 市町村への技術支援の状況	191
	13 その他	191

第11章 福利厚生

[教職員の健康管理・福利厚生事業]

第1節	概要	192
第2節	事業実績	192
	1 教職員の健康管理	192
	2 保健事業	194
	3 厚生事業	195
第3節	貸付事業	197
	1 共済組合	197
	2 貸付けの状況	197
第4節	宿泊・保養施設	197
第5節	児童手当（特例給付を含む）	197
第6節	財産形成貯蓄制度	197

[福利給付事業]

第7節	概要	197
第8節	短期給付	198
	1 共済組合	198
	2 互助会	198
第9節	長期給付	199
	1 恩給	199
	2 退職手当	199
	3 年金	200

第12章 福島県教育センター

第1節	概要	202
	1 調査・研究事業	202
	2 研修事業	202
	3 情報教育事業	202
	4 教育相談事業	202
	5 教育図書・資料事業	202
第2節	調査・研究事業	202
	1 調査・研究	202
	2 長期研究員制度による研究	203
第3節	研修事業	203
	1 研修講座の概要	203
	2 研修講座	205
	3 指導主事派遣等	208
第4節	情報教育事業	208
	研修講座の概要	208
	1 ネットワークを活用するための講座（小・中・高・特支）	209
	2 授業実践講座（小・中・高・特支）	209
	3 校務の効率化を目指す講座（小・中・高・特支）	209
第5節	教育相談	209
	1 対象別	209
	2 区分別	209
	3 地区別来所相談件数	209
	4 月別相談件数・回数	209
第6節	教育図書・資料事業	209
	1 教育図書・教育資料の収集	209
	2 教育資料の刊行	209

第13章 福島県特別支援教育センター

第1節	概要	210
	1 教育相談事業	210
	2 教職員研修事業	210
	3 調査研究・教育研究事業	210
	4 教育図書・資料の収集・提供事業	211
	5 広報・啓発事業	211
	6 情報教育事業	211
第2節	教育相談事業	211
	1 教育相談対象	211
	2 形態	211
	3 現状と課題	212
第3節	教職員研修事業	212
	1 教職員の研修講座	212
第4節	調査研究・教育研究事業	214
	1 調査研究	214
	2 教育研究	216
	3 長期研究員制度による研究	218
第5節	教育図書・資料の収集・提供事業	218
	1 教育図書の収集・整理	218
	2 教育関係定期刊行物の収集・整理	218
	3 教育資料の収集・整理	218
第6節	広報・啓発事業	218
	1 所報「特別支援教育」(77号)	218
	2 研究紀要「第38号」	218
第7節	情報教育事業	219
	1 I C T活用支援	219
	2 情報機器活用	219
	3 情報教育ネットワークとW e bサイトの充実	219

第 1 章 教育行政の概観

1 令和 6 年度の本県教育の概要

県教育委員会においては、令和 4 年度から「学びの変革」を柱に掲げた第 7 次福島県総合教育計画（令和 3 年 12 月策定）がスタートした。本計画では、福島の良さを大切に「福島ならではの」教育を進めるとともに、それを実現するため、一方通行の画一的な授業から個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく「学びの変革」とその実現のための環境づくりとしての「学校の在り方の変革」を掲げている。その年次計画である「学びの変革推進プラン」により当該年度に具体的に実施する取組を明らかにした上で主要施策を戦略的に推進し、本県教育の充実を図った。

東日本大震災及び原子力発電所事故から 13 年が経過してもなお、多くの子どもたちが県内外への避難生活を続けているなど厳しい状況が続いているが、富岡支援学校が「ふたば支援学校」と校名を変更し、令和 7 年 1 月に双葉郡檜葉町に新築・移転するなど、本県教育の復興に向けて着実に取り組んだ。また、県内初の公立夜間中学の開校や「県立高等学校改革後期実施計画」に基づく郡山高校と修明高校の学科改編、「いわき総合高等学校」の令和 7 年度開校に向けた整備を行ったほか、県立安積中学校の開校に向けて、小学校 6 年生及び保護者向けの説明会を行った。さらに、第二次福島県特別支援学校全体整備計画に基づく特別支援学校の整備も進めた。

また、「福島県幼児教育振興計画」を策定し、幼・小の接続や連携の円滑な接続を進めた。

新型コロナウイルス感染症は令和 5 年 5 月に 5 類感染症に移行し、大きな影響を受けてきた各種行事・研修等の教育活動がコロナ禍前の状況に戻つつある。

2 「学びの変革推進プラン」に関連する主な事業・取組

(1) 「学びの変革推進プラン」

ア 性質

第 7 次福島県総合教育計画（令和 4 年度から令和 12 年度までの 9 年間の教育計画）の年次計画として作成するもの。

イ 「学びの変革」とは

- 全ての子どもに必要な資質・能力を育成するため、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革すること。
- 「子どもたち一人一人に必要な力を確実に育成していく」という本来の学校の役割を果たすことができるよう、「学校の在り方の変革」も同時に進める。

(2) 令和 6 年度「学びの変革推進プラン」点検・評価結果報告より

ア 政策を取り巻く現状

令和 4 年度から「学びの変革」と「学校の在り方の変革」を柱に掲げ、第 7 次福島県総合教育計画を展開しているところであり、その年次計画として「学びの変革推進プラン」を作成した。

主な事業のアウトプットは概ね達成しているものの、「施策 1『学びの変革』によって資質・能力を確実に育成する」や、「施策 2『学校の在り方の変革』によって教員の力、学校の力を最大化する」における基本指標は、未達成のものが多く、引き続き施策の効果的な改善を通して「学びの変革」を推進していくことが必要である。

学びの変革推進プラン「福島ならではの」教育の充実 ～個人と社会のWell-beingの実現～

施策1 「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する

事業のアウトプット指標は概ね目標を達成しているものの、基本指標は未達成が多く、引き続き学力向上に向けた取組が必要である。小中学生の国語、算数(数学)両方が、全国平均を下回っており、記述式の回答や、思考力・判断力・表現力を中心に、全般的に課題が見られるため、学力調査の結果分析の手法やそれに伴う授業改善の手立てなどにおいて、助言を必要とする教員、学校への支援が必要である。

施策2 「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の力を最大化する

教職員多忙化解消アクションプランⅡ(R3～5)の取り組みにより、「時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合」は改善されているものの下げ止まり感がある。R6年2月から新たに「教職員働き方改革アクションプラン」(R6～10)を策定したところであるが、新型コロナの5類引き下げにより学校行事や部活動がコロナ禍前の状況に戻っている側面もあるため、改めて学校現場の業務のやり方を見直し、働き方改革を着実に推進することが必要である。

施策3 学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる

全国平均は下回っているものの、不登校の児童生徒数は小・中学校で増加傾向、高校でやや増加となっており、全国と同様の動きとなっている。引き続き、子どもたちの状況に応じた教育機会の提供や支援を行っていくことが求められる。

施策4 福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する

地域における探究学習が進み、基本指標「震災学習の実施率」は目標値を達成することができたが、「地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合」については達成できなかった。福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成においては、福島国際研究教育機構(F-REI)の設立を好機と捉え、初等中等教育段階からのシームレスな人材育成が求められる。

施策5 人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる

自分手帳の活用が進み、新体力テストの全国平均との比較値は横ばいであるが、中学2年生については、R6年度の目標を達成した。社会教育施設等の利活用促進においては、資料の充実や注目度の高い企画展等の開催など、利用者のニーズを踏まえた取組が引き続き必要である。

施策6 安心して学べる環境を整備する

少人数教育の充実においては、必要な加配教員を確保し、きめ細かな指導体制を維持することができた。避難地域12市町村の特色ある教育においては、特色あるカリキュラム編成・実証に関する取組を通じて、地域で活躍する人材育成に寄与したと考えられる。

施策1 「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する

施策評価

主な事業のアウトプット指標は概ね達成しているものの、**基本指標は未達成が多く、引き続き学力向上に向けた取組が必要**である。

「全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値」は、小中学生の国語、算数(数学)両方が、全国平均を下回っており、記述式の回答や、思考力・判断力・表現力を中心に、全般的に課題が見られるため、学力調査の結果分析の手法やそれに伴う授業改善の手立てなどにおいて、助言を必要とする教員、学校への支援が重要である。**経験の浅い教員を含む全ての教員が、児童の現状に応じた個別的・継続的な支援を行えるよう、各学校への具体的な支援につなげていく。学力調査の結果を分析した授業改善ランドデザインを作成・配布し、学力向上支援アドバイザーや研修支援チームによる支援を行う**とともに、学力向上対策会議を開催し、授業改善の手立ての共有をはかるなど、対応策を講じていく。英語力の育成については、目標値を意識したものの、全国平均は下回っており、R6年度からの新事業によりさらなる英語力向上に取り組む。

「自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合」は、小学校・中学校ともに増加の傾向にあり(小学生:R5:75.9%→R6:77.5%、中学生:R5:73.1%→R6:77.9%)、**自己肯定感・自己表現力を育む取組の成果が見られた**。

【見方】施策1～6共通

- ※1 ① 達成状況 …… 「達成」「未達成」の判定。(R6最新値が公表されていないものは、予測に基づき「達成見込み」「未達成見込み」の判定。)
- ② 見直し判定 …… 「上方」:20%以上向上の開きがある。・「R12達成」:最終目標値を達成。・「下方」:50%以上下向きの開きがある。当該項目に該当の場合、指標の見直しを検討する。(目標値と比較)
- ③ 詳細判定 …… 「改善(+20%)」・「やや改善(+10%)」・「横ばい(±5%)」・「やや悪化(-10%)」・「悪化(-20%)」の判定。(基準値と比較)
- 括弧書きは最新値がR6より前の数値の場合、基準値と最新値を比較した結果。
- ※2 「指標の分析」の目的は採点ではなく、対策を練り上げるために実施する。
- ※3 アウトプット=活動実績
- ※4 「主な取組」の「主な事業」中の (→):指標にプラスの影響を与えた事業、(→):十分な影響を与えられなかった事業

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)※1			指標の分析※2
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
地元自治体等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校の割合(高等学校)	88.2% (R3)	94.8% (R5)	100% (R6)	80% (R6)	達成	—	やや改善	学習指導要領の改訂により探究的な学びの機運が高まったことに加え、「ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業」をはじめとする県教育委員会の諸事業により、地域人材等を活用した取組が積極的に行われ、実績値の向上につながったと思われる。 定時制や通信制の高校では、実施するのが物理的に難しいという意見もあったが、好事例を共有するなど、支援の在り方を検討する。
地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合(高校在学中)	17.0% (R2)	36.3% (R5)	55.9% (R6)	100% (R6)	未達成	—	改善	これまで取り組んできた地域課題探究学習への支援の成果により、昨年度よりも大きく上昇した。地域に対する具体的なアクション数はまだ少ないものの、主体的に行動している生徒が、「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」等に出場して日頃の探究活動の成果を発表し、客観的な評価を受けてさらに深化させている事例が増えている。 地域人材等の活用が増加しているため、今後も自治体や社会へ目を向ける取組を積極的に行えるようになり、地域人材等を巻き込んだ生徒の活動をアウトプットする生徒相互の勉強会の場を設けたり、生徒同士での相乗効果を狙い、地域課題探究活動を活性化できるように支援する。

施策1

「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合 (小学校)	74.2% (R3)	75.9% (R5)	77.5% (R6)	84% (R6)	未達成	－	横ばい	各学校では、学校教育活動を通じて児童の自己肯定感など非認知能力の向上に取り組んでいるが、調査結果を活用して児童一人一人の実態を把握し、より具体的な働きかけを行う必要がある。非認知能力の育成は児童の個別の状況に応じた対応が求められるため、指導方法や教員の専門性、人的・時間的リソースの不足が課題となっている。 ふくしま学力調査の結果や、自己肯定感向上に成功した学校の事例を収集し、取組事例集として広く県内に周知することで、効果的な取組を促進する。さらに、自己肯定感向上を視点にした授業研修や指導ガイドラインの作成を進め、学力向上と生徒指導の両面から教員の指導力向上を図ることが重要である。
〃 (中学校)	72.9% (R3)	73.1% (R5)	77.9% (R6)	84% (R6)	未達成	－	横ばい	令和6年度の目標値には到達しなかったものの、各学校では引き続き学校教育活動を通じて自己肯定感など非認知能力の向上に取り組んでいる。しかし、調査結果を活用し、生徒一人一人の実態を把握することで、より具体的な働きかけが求められている。非認知能力の育成は生徒の個別の状況に応じた対応が必要であるが、指導方法の難しさや教員の専門性不足、人的・時間的リソースの不足が課題となっている。 これらを踏まえ、ふくしま学力調査の結果や成功事例を収集し、取組事例集として広く周知することが重要である。さらに、自己肯定感向上を目的とした授業研修や指導ガイドラインの作成を進め、学力向上と生徒指導の両面から教員の指導力向上を図ることで、今後の取組の充実を目指す必要がある。
全国学力・学習状況調査の結果をふくしま学力調査等の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合(小・中学校) (「行っている」小学校)	95.1% (R3)	96.8% (R5)	97.4% (R6)	100% (R6)	未達成	－	横ばい	ふくしま学力調査は5回目となり、データ分析に基づく教育指導の改善や指導計画への反映が広がっているため、本指標の実績値は毎年上昇するとともに、全国平均(61.1%)を常に上回っており、目標値の100%に着実に近づいている。 全国学力・学習状況調査では、「授業改善グランドデザイン」を、ふくしま学力調査では、「報告書」や「学力の伸びを引き出した学校の取組事例集」をそれぞれ作成・配布し、両調査の目的の違いについて周知していく。さらに、授業づくり支援や伴走支援の訪問時に、各学校の校内研修会で分析データの活用方法について助言を行うことで、学校現場への支援につなげていく。
〃 (「よく行っている」小学校)	23.9% (R3)	26.0% (R5)	31.0% (R6)	32% (R6)	未達成	－	横ばい	令和6年度の全国学力・学習状況調査では全国平均(31.7%)を下回ったものの、目標値には近づいている。特に、「どちらかといえば行っている」と回答した割合は全国平均を上回っており、ふくしま学力調査に対する理解も進んできているため、今後も実績値は向上していく見込みである。 全国学力・学習状況調査では、「授業改善グランドデザイン」を、ふくしま学力調査では、「報告書」や「学力の伸びを引き出した学校の取組事例集」をそれぞれ作成・配布し、両調査の目的の違いについて周知していく。さらに、授業づくり支援や伴走支援の訪問時に、各学校の校内研修会で分析データの活用方法について助言を行うことで、学校現場への支援につなげていく。

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
全国学力・学習状況調査の結果をふくしま学力調査等の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合(小・中学校) (「行っている」中学校)	91.7% (R3)	93.4% (R5)	94.2% (R6)	100% (R6)	未達成	－	横ばい	ふくしま学力調査は5回目となり、データ分析に基づく教育指導の改善や指導計画への反映が広がっているため、本指標の実績値は毎年上昇しており、全国平均(63.7%)を常に上回っていることから、目標値の100%に着実に近づいている。 全国学力・学習状況調査では、「授業改善グランドデザイン」を、ふくしま学力調査では、「報告書」や「学力の伸びを引き出した学校の取組事例集」をそれぞれ作成・配布し、両調査の目的の違いについて周知していく。さらに、授業づくり支援や伴走支援の訪問時に、各学校の校内研修会で分析データの活用方法について助言を行うことで、学校現場への支援につなげていく。
〃 (「よく行っている」中学校)	18.4% (R3)	21.0% (R5)	22.0% (R6)	29.0% (R6)	未達成	－	横ばい	令和6年度の全国学力・学習状況調査では全国平均(25.6%)を下回ったが、目標値には近づいている。「どちらかといえば行っている」と回答した割合は全国平均を上回っており、ふくしま学力調査に対する理解も進んできたため、今後も実績値は向上していく見込みである。 全国学力・学習状況調査では、「授業改善グランドデザイン」を、ふくしま学力調査では、「報告書」や「学力の伸びを引き出した学校の取組事例集」をそれぞれ作成・配布し、両調査の目的の違いについて周知していく。さらに、授業づくり支援訪問の際には、各学校の校内研修会で分析データの活用方法について助言を行い、学校現場への支援につなげていく。
全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値(全国＝100)(小・中学校 国語)	99 (R3)	100 (R5)	97.4 (R6)	102以上 (R6)	未達成	－	横ばい	全国平均をやや下回る状況で、「話すこと・聞くこと」の領域や選択式の解答に差が大きい。授業での発表や家庭学習の習慣が結果に影響していると考えられる。 学力調査の分析をもとに、児童の思考力・判断力・表現力を高める具体的な学習方略や主体的な学びを促す授業のポイント盛り込んだ授業改善グランドデザインを作成し、各学校に配布した。さらに、学力向上対策会議を開催し、教育関係者と改善ポイントを共有するとともに、共有内容を基にしたチェックリストを活用することで、経験の浅い教員も含めた児童一人一人に応じた支援体制を整え、学力と授業の質の向上を目指した。
〃 (小学校 算数)	95 (R3)	98 (R5)	94.6 (R6)	100以上 (R6)	未達成	－	横ばい	全国平均をやや下回り、「変化と関係」の領域や記述式解答の習熟度不足が見られる。特に「筋道を立てて説明させる授業」や「つまづきを想定した授業」項目に差がある。 学力調査の分析をもとに、児童の思考力・判断力・表現力を高める学習方略や主体的な学びを促す授業のポイント盛り込んだ授業改善グランドデザインを作成し、各学校に配布した。さらに、学力向上支援アドバイザーや研修支援チームによる継続的支援や、授業改善のポイントを共有する会議を開催するとともに、共有内容を基にしたチェックリストを活用することで、経験の浅い教員も含めた児童一人一人に応じた支援体制を整え、学力と授業の質の向上を目指した。

施策1

「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値(全国=100)(小・中学校 国語)	101 (R3)	99 (R5)	98.1 (R6)	100以上 (R6)	未達成	－	横ばい	全国平均をやや下回り、「話すこと・聞くこと」の領域や記述式・短答式解答の習熟度不足が見られる。特に、「他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる」項目に差がある。学力調査の分析をもとに、児童の思考力・判断力・表現力を高める学習方略や主体的な学びを促す授業のポイントを盛り込んだ授業改善グランドデザインを作成し、各学校に配布した。さらに、授業改善のポイントを共有する会議を開催するとともに、共有内容を基にしたチェックリストを活用することで、経験の浅い教員も含めた児童一人一人に応じた支援体制を整え、学力と授業の質の向上を目指した。
〃 (中学校 数学)	96 (R3)	90 (R5)	91.4 (R6)	100以上 (R6)	未達成	－	横ばい	全国平均を下回り、「数と式」「図形」「データの活用」などの領域で差が大きい。記述式問題では、「最後まで解答を書こうと努力した」項目に差があり、知識の定着だけでなく、深い思考や自分の言葉で表現する力の育成が課題となっている。 学力調査の分析をもとに、思考力・判断力・表現力を高める指導ポイントや授業例を盛り込んだ改善グランドデザインを作成し、各学校に配布した。さらに、学力向上支援アドバイザーや研修支援チームによる継続的支援や、連携を深める対策会議を開催した。主体的な学びや非認知能力の育成に焦点を当てたチェックリストを活用し、経験の浅い教員も含めた児童一人一人に応じた支援体制を整え、学力と指導の質の向上を目指した。
ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合(小・中学校 国語)	83.5% (R3)	81.3% (R5)	61.6% (R6)	100% (R6)	未達成	－	悪化	昨年度の81.3%から減少しており、目標値には届いていない。児童の学力向上に向けて、調査の特性を活かし、児童一人一人の学習方略や非認知能力を把握するとともに、それに基づく授業改善を進める必要がある。 資料や分析ツール、活用事例を作成し、各学校での分析と指導に役立てられるよう支援した。また、分析方法や活用方法についての研修会も開催し、教員の指導力向上と調査結果の効果的な活用を推進した。これにより、児童の実態把握と個別指導の充実を図り、学力向上を目指した。
〃 (小学校 算数)	73.5% (R3)	63.9% (R5)	67.5% (R6)	100% (R6)	未達成	－	やや悪化	昨年度実績より児童に学力の伸びが見られたが目標値には達していない。児童の学力向上に向けて、調査の特性を活かし、児童一人一人の学習方略や非認知能力を把握するとともに、それに基づく授業改善を進める必要がある。 資料や分析ツール、活用事例を作成し、各学校での分析と指導に役立てられるよう支援した。また、分析方法や活用方法についての研修会も開催し、教員の指導力向上と調査結果の効果的な活用を推進した。これにより、児童の実態把握と個別指導の充実を図り、学力向上を目指した。

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合(小・中学校 国語)	76.3% (R3)	64.9% (R5)	61.3% (R6)	100% (R6)	未達成	－	やや悪化	昨年度実績より減少しており、目標値には届いていない。調査の特性を活かし、児童一人一人の学習方略や非認知能力を把握するとともに、それに基づく授業改善を進める必要がある。 資料や分析ツール、事例を作成し、学校の指導に役立てるとともに、研修会を開催して教員の指導力向上と調査結果の効果的な活用を推進した。これにより、児童の実態把握と個別指導を充実させ、学力向上を目指した。
〃 (中学校 数学)	70.8% (R3)	53.9% (R5)	71.1% (R6)	100% (R6)	未達成	－	横ばい	昨年度実績の53.9%から大幅に増加したものの、目標値には達していない。調査の特性を活かし、児童一人一人の学習方略や非認知能力を把握するとともに、それに基づく授業改善を進める必要がある。 資料や分析ツール、活用事例を作成し、各学校での分析と指導に役立てられるよう支援する。また、分析方法や活用方法についての研修会も開催し、教員の指導力向上と調査結果の効果的な活用を推進した。これにより、生徒の実態把握と個別指導の充実を図り、学力向上を目指した。
CEFR A1以上(英検3級以上相当)の英語力を有する生徒の割合(中学3年生)	37.3% (R元)	35.8% (R5)	38.2% (R6)	42.0% (R6)	未達成	－	横ばい 横ばい	外部試験未受験者に対しても、CEFR A1レベル相当の基準を示し、授業公開や指導助言を通じて目標達成を促進し、前年より増加したものの、全国平均(52.4%)を下回る状況である。英語指導の質向上や授業改善、教員の英語力把握が課題であり、研修体制の充実や好事例の発信が必要である。教員間で言語活動の捉え方によりばらつきがあるため、助言体制の整備も求められる。今後は、教員が主体的に課題を設定し、対話的に研修を進める機会を設け、4技能(聞く、読む、話す、書く)のバランスのとれた英語力向上と授業改善を推進した。
CEFR A2以上(英検準2級以上相当)の英語力を有する生徒の割合(高校3年生)	34.7% (R元)	40.6% (R5)	45.9% (R6)	50.0% (R6)	未達成	－	やや改善	22校に対する英語民間試験の実施、パフォーマンステストの事例研究による生徒の英語力の評価方法改善、「パフォーマンステストを意識した授業改善」をテーマに行った教員への研修等により、5、3ポイントの改善につながり着実に向上しているものの、全国平均(51.6%)には及ばない状況である。 バランスのとれた4技能の育成や、指導力向上、授業改善、英語力の把握が引き続き課題となっている。特に、話すこと・書くこと両方のパフォーマンステストの実施率が課題であり、教員の指導力向上や授業改善を目的とした研修や好事例の発信に取り組んでいく。
児童生徒がコンピューター等のICTを活用する学習活動を行う回数(1クラスあたり)	「ほぼ毎日」 小学校 40.4% 中学校 53.9% 「週1回以上」 小学校 46.8% 中学校 34.1% (R3)	「ほぼ毎日」 小学校 52.6% 中学校 57.9% 「週1回以上」 小学校 45.3% 中学校 40.1% (R6)	「ほぼ毎日」 小学校 59.3% 中学校 69.4% 「週1回以上」 小学校 39.1% 中学校 29.2% (R6)	「ほぼ毎日」 100% (R6)	未達成	－	やや改善	各種研修会において、「ふくしまGIGAスクールリーフレット」等の資料を活用しながら、一人一台端末を有効に活用するための取組を紹介してきたことが、徐々に成果としてあらわれてきたと推察する。 全国平均(「ほぼ毎日」小学校69.0%、中学校67.5%)と比較すると、小学校において差があるが、オンライン研修会等を実施し、クラウドを活用することの利点を伝えることで活用を促していきたい。

主な取組

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標※3	対応方針
取組1 複雑な社会の課題を主体的に解決する力の育成				
ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業（ア）※4	＜基本指標＞地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 地域ネットワーク推進委員を県内7地域に配置し、若手人材及び地域人材を発掘し、各校における地域課題探究活動での活用を推進する。また、地域人材や若手人材について、地域人材ネットワークバンクに登録し、各校が活用できるよう支援し、学校と地域の連携を強化するとともに、若手人材と地域とのつながりを創出する。各校の特色ある地域課題探究活動を支援し、その取組を発信する場を設け、生徒同士での相乗効果を図る。このような取組により、高校生時代に地域について学び、卒業後には高校生の学びの支援を通して地域に関わり続け、将来的には地域創生の当事者になるというサイクルを作る。	3,312万円	【未達成】 地域人材ネットワークバンクの登録者数 実績値：221人 （目標値：250人） ▶前年度【未達成】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与える見込みである。地域ネットワーク推進委員の配置等を通じて、各校において特色や地域性を活かした課題探究活動が展開されていることがその理由である。次年度は、各高校の地域課題探究活動を充実させるために、地域人材等に関するICT教材を活用して全県立高校での活用を図るとともに、教員の研修を充実させ、校内体制やプログラムの構築を図りたい。
取組2 創造性あふれる人材の育成				
WWLコンソーシアム構築支援事業（ア）	＜基本指標＞地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 福島における原子力災害からの復興を果たし、持続可能な社会を創造していくグローバル・リーダーの資質・能力の育成に取り組む福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校を「WWLコンソーシアム構築支援事業」拠点校に指定し、探究と海外研修を軸とし、また、大学と連携したグローバル人材育成のカリキュラム開発・実践その体制整備を支援する。県内外におけるグローバル人材育成を担う連携校や海外の連携校や国際機関等とも目的と情報を共有し、ネットワークを形成していき。	872万円	【達成】 地域の個人、団体との協働による課題探究プロジェクト数 実績値：93件 （目標値：80件） ▶前年度【未達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標に合致し、プラスの影響を与えている。大学と連携した高度な学びを行かしながら、多様な人々との議論ができる海外研修や高校生国際会議を実施することとしている。次年度は、オープンバッジの取得が単位認定につながるよう、東北大学と必要な協議を行う。
取組3 学校段階を見通した確かな資質・能力の育成				
ふくしま幼児教育研修センター事業（ア）	＜基本指標＞全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値（全国＝100）（小・中学校）（小学校 国語） 県内3地区に、幼児教育推進モデル地区として指定し、3年間で幼児教育施設での教育・保育の質の向上と、幼児教育と小学校教育の円滑な接続のための検証を行う。また、各地区で年2回の研究公開を実施し、それらの成果等を県内に発信し、共有を図る。併せて、幼児教育施設への支援を進めるに当たり、担当部局を一元化するために幼児教育センター設置し、公私・施設類型を越えた一体的な支援体制を確立する。	571万円	【達成】 研修会参加人数 実績値：433人 （目標値：300人） ▶前年度【-】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当事業は、公開保育や乳幼児教育施設と小学校の合同研修、幼児教育振興指針の策定と周知を通じて、非認知能力を育む幼児教育の質を向上させている。複数の指導主事がモデル地区の3市に研修支援を行い、すべての園種と小学校が合同で研修を実施している。年2回の公開保育や幼小連携に関する研修には、多くの保育者や教員が参加し、現場のニーズも高まっている。今後は、先進的な取組をさらに広げるため、令和7年度も成果をまとめたカリキュラムをパンフレットにして配付し、幼児教育の質向上とプログラム推進を広く周知する。また、好評だったオンライン・シンポジウムを改善して開催し、情報発信を強化する。さらに、令和6年10月に策定された幼児教育振興指針の概要版を配布し、市町村や保育者向けに趣旨説明会を開催する。これらの施策を通じて、地域全体の幼児教育の理解と実践力を深め、幼児期の教育環境の充実と持続的な発展を目指す。
主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
ふくしま英語力向上事業（ア）	＜基本指標＞CEFR A1以上（英検3級以上相当）の英語力を有する生徒の割合（中学3年生）、CEFR A2以上（英検準2級以上相当）の英語力を有する生徒の割合（高校3年生） 県立高校の生徒1・2年生に対し、授業内で英語民間試験等を実施する。また、教員の授業力と英語力の向上を図るため、主体的・対話的・協働的な研修を実施するほか、推進リーダー配置小学校及び接続中学校において、互見授業を実施する。	2,866万円	【未達成】 英語民間試験を受験した児童生徒の数 9,003人 （目標値：12,280人） ▶前年度【-】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与える見込みではあるが、成果と課題を検証しながら、より効果的な事業運営を目指す必要がある。昨年度、総合計画の指標を見直し、目標値を上方修正したところ。本事業により、生徒の英語力を把握・検証する機会を充実させるとともに、教師の指導力・英語力向上に取り組む、令和6年度～令和8年度の3年間で重点的に英語力の向上に取り組む。
取組4 エビデンス（根拠）に基づいた教育施策の推進				
一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業（ア）	＜基本指標＞ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合 児童生徒の学力の伸びを測定し、客観的なデータに基づいて分析することにより、本県児童生徒の一人一人の学力を確実に伸ばす。	6,854万円	【達成】 各学校におけるふくしま学力調査の分析を促す資料の公表件数 実績値：3件 （目標値：3件） ▶前年度【達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は、総合計画の児童生徒に関する指標「ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合（小・中学校）（国語・数学）」に十分な影響を与えられなかったと考えられる。「ふくしま学力調査」の目的についての理解は着実に進んでいるが、調査結果の効果的な分析や活用については十分な理解が図られていない学校もあるため、分析や活用方法に関する資料の提示、オンライン研修会を実施し、理解を図っていく必要がある。
取組5 ICTの活用などによる学びの変革				
新時代の学校におけるICT環境研究開発事業（ア）	＜補充指標＞福島県教育環境に満足していると回答した県民の割合（意識調査） 新学習指導要領及び新時代の学びに必要なICT環境を整備し、授業改善、児童生徒の情報活用能力育成に取り組むこと等を通して、児童生徒の学力向上を図る。	3億4,330万円	【達成】 ICT支援員の配置 拠点校13校、訪問支援校86校 ▶前年度【-】	規模・内容・手法を維持して継続 これまで月に1日配置校、週に1日配置校としていたICT支援員を、13校の拠点校に配置し、必要に応じて柔軟に拠点校以外の86校へ訪問しサポートにあたることができるようにした。サポートについては、ICT環境整備に係る支援が主な内容となっているが、今後は授業支援、教材作成支援、教員研修の実施等のサポートも充実させていく。引き続き児童生徒の情報活用能力の育成に資するとともに、教員の働き方改革も推進していく。

施策2 「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の力を最大化する

施策評価

教職員働き方改革アクションプランに基づき取組を進め、本施策の基本指標である「**時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合**」は令和5年度から**減少しており、一定の効果が現れたものの、目標値には達していない**。

質の高い教育活動を展開するためには、教職員の心身の健康保持や児童生徒と向き合う時間の確保等が不可欠であり、教職員の多忙化は解決すべき喫緊の課題である。学びの変革の実現のためには、複雑化・困難化した膨大な業務で教職員の健康が損なわれかねない状況や、授業準備や日々の研さん、研修に時間を割くことができない状況に陥っている「学校の在り方」を変革することが不可欠であることから、**ボトムアップ型の業務改善の取組を進めるなど、現場の声を取り入れてプランの実効性を高めるとともに、管理職へのさらなる意識付けを進めていく必要がある**。

教員が主体的に学び、やりがいを持って働くことができる持続可能な教育環境の構築はもとより、児童生徒の健やかな成長と自己実現を図るため、働き方改革を着実に推進することが求められる。

授業環境におけるICTの導入は着実に進みつつある一方、教員のICT活用指導力は全都道府県中40位(R5年度)と低い状況にある。**あらゆる場面に対応し、対面とオンライン、紙とデジタル等を組み合わせた最適な指導手法を選択できるよう、特定の教員に偏ることなくICT活用力を向上させることが求められる**。

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合	12.1% (R2)	14.5% (R5)	12.0% (R6)	0% (R6)	未達成	—	やや改善	教職員の時間外勤務時間は減少傾向にある。令和6年度は、全公立学校にスクール・サポート・スタッフを配置したこともあり、平日の学内勤務時間や副校長・教頭の勤務時間が減少した。一方、小中学校の主幹教諭や教諭の勤務時間は微増しており、コロナ禍の影響で学校行事や部活動が以前の状況に戻ったことが一因と考えられる。大会の精選等が教育委員会だけでは難しい状況で、地域や保護者の理解促進も十分ではない。時間外勤務の削減には引き続き取り組みが必要であり、従来の対策だけでは目標達成は難しい状況である。
英語担当教員のうちCEFR B2以上(英検準1級以上相当)の英語力を有する教員の割合(中学校)	23.3% (R元)	31.4% (R5)	32.4% (R6)	50% (R12)	—	—	やや改善	令和6年度以降、英語担当教員エンパワーメント研修において、研修プログラムの内容に英語外部試験受験を取り入れている。英語担当教員のうち、CEFR B2以上を取得する教員の割合は前年度より1.0ポイント増加しており、経年でも増加傾向にあるが、全国平均(46.2%)とはまだ開きがある状況である。
〃 (高等学校)	55.0% (R元)	66.6% (R5)	71.1% (R6)	80% (R12)	—	—	やや改善	令和6年度以降、英語担当教員エンパワーメント研修において、研修プログラムの内容に英語外部試験受験を取り入れている。英語担当教員のうち、CEFR B2以上を取得する教員の割合は、前年度比4.5ポイントの増加であり、経年では増加傾向にあるが、全国平均(82.2%)とはまだ開きがある状況である。

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
授業にICTを活用して指導できる教員の割合(小・中・高・特別支援学校)	63.7% (R元)	72.2% (R4)	76.1% (R5)	100% (R12)	—	—	(やや改善)	学校現場におけるICT活用が進む中、授業場面における活用事例の普及が必要であるため、モデル校の取組の展開や「ICT活用ハンドブック」の配付などにより、指標の改善傾向が見られた。 一方で、教員のICT活用状況には個人・学校・地域格差があるなど効果的な活用で課題があるため、県内全市町村教育長を対象に文部科学省担当課からGIGAスクール構想の現在地や今後の展望・課題について講演いただき、県全域にICT活用への期待や見通しを共有した。 今後も、ハード面の整備に加え、具体的な活用場面を想定したICTの効果的な活用について周知を行うなど、ICTの効果的な活用を促していく。
地域の人と連携した授業等を複数回行った教員の割合(小・中・高・特別支援学校)	52.5% (R3)	52.2% (R4)	67.5% (R5)	70% (R5)	未達成	—	(やや改善)	令和6年度の実績は令和7年6月から11月に調査予定である。 学習指導要領の改訂と県教育委員会の探究的な学びの推進により教員の意識の変化が進んできたことや、質問者と回答者間で認識のズレがなくなるよう文言の定義を補足したことから前年度より増加した。校種別では、小学校は77.2%(前年度65.9%)と目標を超えだったが、中学校62.1%、高校57.4%、特別支援学校61.2%は未達成だった。要因は、連携実績の少ない学校の体制不足や、地域人材との調整の難しさ、教員の異動や多忙化による連絡調整の困難さにある。 今後は、進行管理や課題把握、地域コーディネーターの配置、研修による教員の資質向上や授業準備時間確保を進め、児童生徒の学びを充実させる。

主な取組

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 教職員の働き方改革の推進				
部活動指導員配置促進事業(ア)	<基本指標> 時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合 教員の働き方改革の観点から、適切な練習時間や休養日の設定など部活動の適正化を進めている市町村を対象に、部活動指導員配置に係る経費の一部を補助する。高等学校に対しても部活動指導員を配置する。中学校・高等学校の部活動を担当する教員の支援を行うとともに、部活動の適正化と指導体制の充実を図る。	9,916万円	【達成】 部活動指導員配置人数(中学校、高校) 実績値: 中学校:123人 高校:85人 (目標値:中学校100人、高校80人) ▶前年度【達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。時間外勤務時間が月80時間を超えた教員の割合が、中学校ではR5の25.0%から29.0%に増加したものの、高校ではR5の19.3%から16.0%に縮減しており、本事業が一定の効果を上げたと考えられる。 教員の働き方改革が求められている中、教育庁全体として教員の多忙化解消に取り組んでおり、重要な施策であることから、部活動指導員の配置人数を増加確保してより多くの教員の負担を軽減するため事業を継続する。 近隣市町村同士での情報共有や県スポーツ協会との連携により人材確保に努める。

主な事業		概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組2 教員の養成・採用・研修					
ふくしまっ子の可能性を伸ばす支援事業（ア）		＜基本指標＞全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値（全国＝100）（小・中学校） 小・中学校の学力向上に向け、算数・数学の担当教員の指導力向上や教科担任制の推進を行うため、指導主事による学校訪問や、オンライン研修等により、教員の指導力向上や教員同士の学び合う文化の醸成、授業の質的改善を目指す。 また、地域毎の教育課題に対応する研修会を実施するとともに、成果を水平展開することで全体的に質の高い教育活動を図る。	383万円	【達成】 学力向上支援アドバイザーの配置人数及び配置学校数 人数：10人 配置学校数：40校 （目標値：人数10人、配置学校40校） ▶前年度【－】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は、総合計画の指標にプラスの影響を与えた。全国学力・学習状況調査結果で一定の成果を見せており、次年度は学校からのニーズや要望に応え、アドバイザーの増員や配置校の増加を図る。算数・数学の授業改善に係る定期的、継続的な支援機会が増加することによって、教員の指導力向上をとおして児童生徒の学力向上につながると思われる。併せて、指導主事による学校訪問を継続することで、授業改善に係る伴走支援の充実を図り、指導力向上に対する相乗効果が期待できると考える。
ふくしま英語力向上事業（ア）（再掲）		＜基本指標＞CEFR A1以上（英検3級以上相当）の英語力を有する生徒の割合（中学3年生）、CEFR A2以上（英検準2級以上相当）の英語力を有する生徒の割合（高校3年生） 県立高校の生徒1・2年生に対し、授業内で英語民間試験等を実施する。また、教員の授業力と英語力の向上を図るため、主体的・対話的・協働的な研修を実施するほか、推進リーダー配置小学校及び接続中学校において、互見授業を実施する。	2,866万円	【達成】 英語民間試験を受験した児童生徒の数9,003人 ▶前年度【－】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与える見直しではあるが、成果と課題を検証しながら、より効果的な事業運営を目指す必要がある。 昨年度、総合計画の指標を見直し、目標値を上方修正したところ。本事業により生徒の英語力を把握・検証する機会を充実させるとともに、教師の指導力・英語力向上に取り組み、令和6年度～令和8年度の3年間で重点的に英語力の向上に取り組む。
取組3 チームとしての学校マネジメントの推進					
福島スクール・サポート・スタッフ事業（ア）		＜基本指標＞時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合 福島県内の全公立学校にスクール・サポート・スタッフを配置することにより、学校の指導体制の充実とチーム力の強化を図り、児童生徒に対して効果的な教育活動を行うことができるようにする。	4億7,762万円	スクール・サポート・スタッフの配置校数 644校 （義務547、高校74、特支援23） ▶前年度【－】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。アウトカム指標値、目標値を達成した結果から見て取れるように、教員の1週間あたりの学内総勤務時間削減の大きな要因になったと考えられる。教員の多忙化が解消されることにより、児童・生徒と向き合う時間が確保されるとともに、総合計画の対応指標にあるとおり、学校の指導体制の充実とチーム力の強化が図られ、学校組織の活性化の推進につもつながる。 教員の働き方改革は喫緊の課題であり、教員の多忙化解消の推進に向けて、より効果的な事業となるよう、その内容を見直しを図る予定。
働き方と勤務の在り方変革事業（ア）		＜基本指標＞時間外勤務時間月80時間を超える教職員の割合 すべての公立学校にボトムアップによる教職員の働き方改革を進める働き方改革推進委員会（既存の委員会と兼ねる）を立ち上げ、県教育委員会が各校の委員等を対象に校内の業務改善に関する研修会等を実施し、各学校の働き方改革の取組を支援する。	118万円	【達成】 研修普及者実績値：674人 （目標値：674人） ▶前年度【－】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。各学校での校内体制の整備に効果が表れている。教員の働き方が改革されることにより、児童・生徒と向き合う時間が確保されるとともに、総合計画の対応指標にあるとおり、学校の指導体制の充実とチーム力の強化が図られ、学校組織の活性化の推進につもつながる。 教員の働き方改革は喫緊の課題であり、より効果的な事業となるよう、内容の見直しを図る予定。
取組4 学校の特色化・魅力化の推進					
●県立高等学校改革の推進 一本県高等学校教育をめぐる課題に対応する－ ○ 県立高等学校改革後期実施計画に基づく統合校の教育内容検討委員会を7回行い、統合校の教育内容について検討を進めた。 ○ 令和8年度に統合する船引・小野統合校及び平商業・四倉統合校について、中学2年生及び保護者向けの説明会を開催し、周知を図った。また、校名の検討を行い、統合校の名称がそれぞれ「あぶくま柏嶋高等学校」、「いわき商業情報高等学校」と決まった。 ○ 県立高等学校改革後期実施計画に基づき、修明高等学校において、文理科から「文理探究科」への学科改編を行った。 ○ 県立安積中学校の開校に向け、小学6年生及び保護者向けの説明会を開催し、周知を図った。					

施策3

学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる

施策評価

不登校の児童生徒数は小・中学校で増加傾向、高校でやや増加となっており、全国と同様の動きとなっている。学校になじめない子どもたちの居場所づくりのため、**スペシャルサポートルームの設置やroom-fを全県に拡充し、児童生徒の心のケアや教職員・保護者等への助言・援助、教職員の教育相談の質質向上のため、公立・私立共にスクールカウンセラーの配置や派遣**を行っており、スクールカウンセラー設置校数はアウトプットを達成している。

本施策は、誰一人取り残すことなく、全ての子どもたちが可能性や個性を伸ばしていくことが重要であるため、特別支援学校の地域支援センター機能の強化や家庭教育への支援充実などにより引き続き子どもたちの状況に応じた教育機会の提供や支援を行い、多様性を力に変える土壌をつくっていく。

基本指標（成果指標）	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況（予測）			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
不登校の児童生徒数（小・中学校）※1,000人当たりの出現率	16.4人（R元）	27.0人（R4）	33.6人（R5）	目標値は設定しない	－	－	（悪化）	不登校児童生徒数は全国と比べて低いが、年々増加している。令和5年度の調査では、福島県の公立小・中学校の不登校復帰率は小学校32.1%、中学校31.4%であり、「学校生活に対してやる気が出ない」などの相談が最も多く、小学校28.6%、中学校33.5%だった。 今後も、スクールカウンセラーを配置し、不安や悩みを抱える児童生徒に対してカウンセリング等を行うとともに、研修会を通して教職員の教育相談コーディネーター力の向上や学校における教育相談体制の充実を図っていく。また、スペシャルサポートルームの通観や全県に拡充する不登校児童生徒支援センター（roomF）のICTを活用したオンライン通観など、不登校児童生徒の多様な学習機会学びを機会を確保しつつ社会的自立に向けた援助を行っていく。
不登校の生徒数（高校）※1,000人当たりの出現率	8.8人（R元）	9.8人（R4）	11.0人（R5）	目標値は設定しない	－	－	（悪化）	すべての県立高校にスクールカウンセラーを配置し、校内に居場所を設置するなど、生徒の多様な悩みや不安を早期に把握し、対策を講じている。高校における1,000人当たりの不登校児童生徒数は全国と比べて低いが、年々増加している。 高校生の悩みが多様化していることから、カウンセラーや教職員の教育相談スキルの向上が課題となっている。 関係機関と情報共有を行いながら、生徒の問題を早期に発見し、不登校の悪化を防ぐために継続的な指導を進めていく。
個別の教育支援計画の引継ぎ率	71%（R2）	82.9%（R5）	85.6%（R6）	100%（R6）	未達成	－	やや改善	個別の教育支援計画を適切に引き継ぎ、切れ目のない支援体制の構築を目指すために、関係機関や学校間の連携を強化し、研修や情報共有の仕組みを整備している。具体的には、通知や会議の開催、支援計画の作成・活用、支援・システムの改善など、多角的な取組を進めた。 これにより、個別の教育支援計画の引き継ぎ率は年々向上しているが、本人や保護者の理解不足や同意の取得、情報伝達の遅れなどの課題も存在する。特に、進学時の引き継ぎや保護者の障がい受容、学校間の引き継ぎ不足が指摘されている。

施策3

学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
朝食を食べる児童生徒の割合(小・中・高・特別支援学校)	96.5% (R2)	95.8% (R5)	95.7% (R6)	97.7% (R6)	未達成	—	横ばい	全体指導に加え、栄養教諭による個別指導や継続的な食育推進、意識啓発を行っているが、本県の朝食摂取率は令和5年度から微減し、特に高校の摂取率は89.7%と低い。調査によると、全校種の欠食理由として「寝坊して食べる時間がなかった」や「食欲がなかった」が主なものとして挙げられ、生活時間の乱れが欠食の原因と考えられる。また、高校では、「部活動の朝練や学校の朝の活動で食べられなかった」「遠距離通学で食べる時間がない」などの理由も挙げられた。 児童生徒が望ましい食習慣を身につけるためには、自分手帳を活用した自己マネジメント能力の育成が重要で、食に関する意識改善や肥満改善にも寄与する。食育推進コーディネーターや栄養教諭を対象とした研修会や、「朝食について見直し週間」などの取組を通じて、生活習慣の見直しを促すとともに、学校・家庭・地域が連携し、次代を担う子どもの食環境の改善に努める必要がある。

主な取組

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 不登校児童生徒、帰国児童生徒、外国人児童生徒等への個別支援の充実				
不登校・いじめ等対策推進事業(ア)	<基本指標> 不登校の児童生徒数(小・中学校) 県内においては、震災後不登校の児童生徒が増え続けている。R5年度より、学校生活に困難を感じる児童生徒の学び機会を確保するために、学校内に特別な学習の場となるスペシャルサポートルーム(SSR)を設置し、その効果が確認されている。今後は、SSRの取組を充実させながら、この取組を県内に広める。いじめについては、県主導型から、児童生徒の取組を支援し広める方向に発展させる。推進校を指定し、それらの取組を県内に広めていくことにより、小中学校におけるいじめ防止等の取組を推進する。	835万円	【達成】 スペシャルサポートルーム(※)実践校数 実績値: 30校 (目標値: 30校) ▶ 前年度【達成】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与え、子どもの居場所づくりの促進を行うことができた。一方で、不登校児童生徒数が増加していることについて、今年度事業の継続と周知、SSRの増設等に取り組んでいく。また、不登校児童生徒の保護者が相談できる窓口一覧を活用し、居場所となる施設を探したり、相談先を選んだりする参考となるよう活用を進める。
スクールカウンセラー活用事業(ア)	<基本指標> 不登校の生徒数(高校) 高校生の問題行動や不登校等を未然に防止するため、個々の生徒の状況を早期に把握し、早期に対応するとともに、教職員の教育相談に関する資質向上を図ることをねらいとし、県立高等学校にスクールカウンセラーを配置する。 また、東日本大震災で被災した県立高等学校及び避難した生徒を受け入れている県立高等学校の生徒等の心のケアにあたるため、スクールカウンセラーを派遣する。	1億1,028万円	【達成】 スクールカウンセラー設置校数 実績値: 80校 (目標値: 80校) ▶ 前年度【達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標において、プラスの影響を与えた。総合計画の施策3においては、震災の影響等により心のケアが必要な子どもが多いと記載されている。当該事業では、すべての県立高等学校へスクールカウンセラーを配置することにより、各学校における教育相談体制整備し、高校生に対して問題行動等の早期発見、早期対応することができた。 高校生の問題行動や不登校等を未然に防止するために、個々の生徒の状況を早期に把握し、早期に対応するとともに、教職員の教育相談に関する資質向上を図るため、県立高等学校にスクールカウンセラーを配置するとともに、スキルアップのための研修等も検討していく。
取組2 地域で共に学び、共に生きる共生社会の形成に向けた特別支援教育の充実				
ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業(ア)	<補完指標> 個別的教育支援計画の引継ぎ率 特別な支援を必要とする子どもたちの乳幼児期から学校卒業後まで、切れ目のない支援と学びを引き継ぎ、子どもや保護者を支える体制を整えるため、市町村の特別支援教育に係る地域支援体制の整備、病気療養中の児童生徒に対する学習支援体制の構築、すべての教員に求められる特別支援教育に関する研修の推進、高等部生徒の就職率向上に向けた取組を行う。	3,736万円	【達成】 地域支援センター等における相談・研修支援件数 実績値: 3,082件 (目標値: 3,000件) ▶ 前年度【未達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。今後は、関係者へ個別的教育支援計画の活用、引継ぎ等について更に周知、障がいのある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じ、障がいの特性に応じた充実した支援、学校や地域において適切な指導及び必要な支援が行われるよう、引き続き当該事業を継続して実施する。 市町村における連携強化につながる取組としては、次年度の各管内における体制促進協議会において、市町村教育委員会と保健福祉関係部局を一同に集め、個別的教育支援計画の活用及び引き継ぎ等に向けた各関係機関の役割について確認し、具体的な取り組みにつなげていく。
取組3 家庭教育支援、家庭の経済的支援の充実				
高校・大学等奨学金貸付金(ア)	<補完指標> 福島県の教育環境に満足していると回答した県民の割合(意識調査) 能力があるにもかかわらず、経済的理由から修学困難と認められる高校・専修学校(高等課程)/大学・高等等に在学する者に対して奨学金を貸与する。	2億169万円	新規貸与者数 実績値: 80人 ▶ 前年度【未達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与える。奨学金を貸与することで、教育の機会均等を図ることがその理由である。奨学金貸与を希望する者は年々減少しているが、セーフティネットとしての役割を果たすため奨学金貸与の制度は必要であり、今後も継続的に事業を行っていく。
地域でつながる家庭教育応援事業(ア)	<基本指標> 不登校の児童生徒数(小・中学校) 本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、家庭教育について親自身が学ぶ機会が充実するように支援する。さらに、企業と連携して、地域の家庭教育の推進を図る。 また、各地域で主体的に家庭教育の支援が行えるよう学習プログラムを活用を進めるとともに、地域で子育て中の親を支援する家庭教育支援者のスキルを高める。	110万円	【未達成】 家庭教育支援者の資質向上に向けた研修会への参加人数 実績値: 247人 (目標値: 350人) ▶ 前年度【未達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。その理由は、研修を通して、家庭教育支援者の育成を継続して行うことで、県内全域に支援団体の増加が見込まれ、さらには支援チームの資質向上と横の連携が図られるためである。また、未登録の支援団体が新たに福島県家庭教育支援チームとして登録することで各地域での支援活動を推進し、支援の届きにくい家庭への支援が見込まれるためである。
元気なふくしまっ子食環境整備事業(ア)	<指標> 肥満傾向児出現率の全国平均との比較値(全国=100) 食習慣、肥満等の健康課題に対応するため、栄養教諭を始めとした食育指導者の資質向上を図り、園児、児童生徒等の食生活環境の整備を行うとともに、食育の観点から地場産物活用を促進するため、県内小・中学生を対象に地場産物を活用した料理コンテストを開催し、入賞したレシピを県民に発信する。	354万円	【未達成】 ごはんコンテスト応募数 実績値: 17,401件 (R6) (目標値: 19,000件) ▶ 前年度【達成】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。 肥満傾向児の出現率の全国との格差については、本事業の実施により、全国との差が大きく開いた震災以降、改善傾向が見られており、コンテスト終了後に求めた保護者からの感想では、コンテストへ取り組むことで料理への関心が高まったとの声が多いことから、継続して実施していく必要がある。 一方、肥満傾向児の出現率自体は、値が悪化した震災以降、改善傾向にあったが、コロナ禍の影響により再び悪化した。R5年度は前年度から改善したものの、震災前の値まで回復していないことから、栄養に関する専門的な知識を有する栄養教諭が中心となって、積極的に個別指導に取り組んでいくことが重要となっている。このため、栄養教諭が個別指導に必要とされる資質・能力を身につけるための研修等が必要である。

施策4

福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する

施策評価

震災学習の実施率はR5年度実績で97.7%となり、最終目標をほぼ達成している。一方で、地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合については、順調に割合をのばしているものの、R6年度の目標を達成できなかった。地域に対し具体的なアクションができる生徒がまだ少ないため、地域人材等を巻き込んだ活動をアウトプットしたり、生徒相互の勉強会を設けたりするなど、地域課題探究活動を支援していく。

児童生徒が自分の暮らす地域において探究学習を進め、地域の魅力や課題を改めて見つめ直す機会を設けることで、郷土への理解促進や愛着の醸成に寄与している。福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成においては、福島国際研究教育機構(F-REI)、福島イノベーション・コースト構想推進機構及び県による包括連携協定をふまえた連携も図りながら、初等中等教育段階からシームレスな人材育成を進める。今後も、学校と地域の協働や地域をフィールドとした探究的な学びを推進し、福島の未来を担う人材の育成に取り組んでいく必要がある。

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
震災学習の実施率 (学校における震災学習の実施率(小・中学校))	30.7% (R2)	98.4% (R5)	97.7% (R5)	80% (R5)	達成 見込み	—	(改善)	小中学校等の自然体験活動等への補助を行う「ふくしまキッズパワーアップ事業」では、震災学習を必須活動としており、令和6年度は本事業を活用した小中学校169校、9,399名(R7.2月末現在)が震災関連施設の訪問や語り部からの震災に関する講話等とおして震災について学んだ。 今後も、より多くの子どもが震災について学び、考えることができるよう支援の充実を図る必要がある。
地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合(高校在学中)(再掲)	17.0% (R2)	36.3% (R5)	55.9% (R6)	100% (R6)	未達成	—	改善	これまで取り組んできた地域課題探究学習への支援の成果により、昨年度よりも大きく上昇した。地域に対する具体的なアクション数はまだ少ないものの、主体的に行動している生徒が、「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」等に出席して日頃の探究活動の成果を発表し、客観的な評価を受けてさらに深化させている事例が増えている。 地域人材等の活用が増加しているため、今後も自治体や社会へ目を向ける取組を積極的に行えるよう支援していく必要がある。

主な取組

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 東日本大震災・原子力災害の教訓の継承、福島のと未来の発信				
チャレンジ！子どもがふみだす体験活動 (ア)	<基本指標> 震災学習の実施率 自然体験及び福島ならではの多様な体験活動に加え、震災の正しい理解と復興に立ち向かった人々の思いを理解する震災を学ぶ学習の実施及び被災地や震災関連施設訪問、語り部からの学び等について、子どもたちが復興に主体的に考え、表現する社会体験活動の実施に対し、その経費の一部を補助する。 また、不登校傾向の児童・生徒など心のケアを必要とする子どもを対象とした自然体験活動を県内3つの自然の家で実施する。	1億 274 万円	【達成】 参加人数(ふくしまの未来事業) 実績値:1,263人 (目標値:1,200人) ▶前年度【未達成】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。震災学習や自然体験活動を通じて、教育環境の充実に寄与したことがその理由である。今年度の成果と課題をふまえ、次年度は以下の点を見直しして事業を継続する。家庭教育支援チームとの連携により、保護者との関わりをととした不登校等の子どもたちの支援については、家庭教育支援チーム等との繋がりをもつ家庭が見られるなど成果があったので、さらなる拡充を図っていく。

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 東日本大震災・原子力災害の教訓の継承、福島のと未来の発信				
震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業 (ア)	<基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 震災と復興に関する地域課題探究活動を通して、福島における震災、復興、そして未来について、自分の考えを持ち、自分の言葉で語ることのできる「高校生語り部」を育成する。 この学びの過程で、生徒の思考力、判断力、表現力等を育成するとともに、県内外の高校生等との交流を通して、震災に関わる風化防止、風評払拭につなげる。	754 万円	【達成】 実践校指定数 18校(R6) (目標値:17校) ▶前年度【達成】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。R5年度からは、事業効果の一層の増大を図るため、語り部活動の範囲を海外へ拡大して事業を継続した結果、複数校で積極的な活動実績があり、R6年度も2校が2カ国での交流活動及び情報発信を予定している。R7年度はリーフレット作成費用を拡充し、各学校における情報発信を強化して実施する予定。一方、事業に積極的な学校と毎年不参加の学校が固定化され、学校間の温度差が拡大、新規で「実践校」に応募する学校が増えていない。交付に際しての手続きの煩雑さや新規行事の立ち上げへの躊躇が要因と考えている。自分の言葉で語ることのできる高校生の育成を目指す本事業は、各校で盛んになりつつある探究活動と密接に結びつく。アウトプット・アウトカム指標達成のため、教育活動全体を通じて事業参加を検討してもらえよう働きかけるとともに、煩雑さを少しでも緩和することを目指す。
取組2 福島イノベーション・コースト構想を担う人材の育成				
福島イノベーション人材育成事業 (ア)	<基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 国家プロジェクトとして浜通り地域等の新たな産業基盤の構築を目指す福島イノベーション・コースト構想の実現に向け、構想を担う人材の育成が求められている。H30年度より県内の対象校において実施している、各校の特色を活かし、地域の企業等と連携したイノベティブな教育プログラムを継続し、チャレンジ精神を持って福島県の復興・創生に貢献する人材の育成を進める。	3,485 万円	【未達成】 成果報告会参加者数 実績値:140人 (目標値:170人) ▶前年度【未達成】	規模・内容・手法を維持して継続 指標については今年度は未達成となったが、当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。工業系高校の卒業後県内留保率が事業実施前に比べて伸びており、今後も基本指標にプラスの影響を与えると見込める。 成果報告会への参加を幅広く周知しながら、対象校の取組や研究成果の全県的な普及を図っていく。福島の更なる復興を後押しする有為人材を育成するため、今後も継続的な支援が必要である。
取組3 学校と地域の連携・協働の推進				
ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業 (ア) (再掲)	<基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 地域ネットワーク推進委員を県内7地域に配置し、若手人材及び地域人材を発掘し、各校における地域課題探究活動での活用を推進する。また、地域人材や若手人材について、地域人材ネットワークバンクに登録し、各校が活用できるよう支援し、学校と地域の連携を強化するとともに、若手人材と地域とのつながりを創出する。各校の特色ある地域課題探究活動を支援し、その取組を発信する場を設け、生徒同士での相乗効果を図る。このような取組により、高校生時代に地域について学び、卒業後には高校生の学びの支援を通して地域に関わり続け、将来的には地域創生の当事者になるというサイクルを作る。	3,312 万円	【未達成】 地域人材ネットワークバンクの登録者数 実績値:221人 (目標値:250人) ▶前年度【未達成】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与える見込みである。地域ネットワーク推進委員の配置等を通じて、各校において特色や地域性を活かした課題探究活動が展開されていることがその理由である。 次年度は、各高校の地域課題探究活動を充実させるために、地域人材等に関するICT教材を活用して全県立高校での活用を図るとともに、教員の研修を充実させ、校内体制やプログラムの構築を図りたい。

施策5

人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる

施策評価

全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値は横ばいとなっており、R6年度の中学2年生の数値については、目標値を達成しているが、小学5年生の数値については目標値を達成することができなかった。

児童生徒の健康課題の認識や運動習慣の定着を促す自分手帳は、小中学校で活用が進み、R5年度に引き続き、小中学校では基本指標を達成している一方で、高校での活用率は目標値を達成できておらず、更なる利便性の向上のため、自分手帳のデジタル化を進める必要がある。被災地での移動図書館や、社会教育施設等の利活用促進においては、サービス向上に向けた資料の充実や、注目度の高い企画展等の開催により、利用者の多様なニーズに応え、地域に根ざした学びの場となるための取組が引き続き必要である。

文化財保存活用地域計画の作成に着手する市町村数も順調に増加しており、事業の成果が現れてきている。

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値(全国=100)(小5 男子)	98.9 (R元)	99.4 (R5)	99.0 (R6)	99.3 以上 (R6)	未達成	—	横ばい	体育科の授業改善や「自分手帳」の活用、「運動身体づくりプログラム」の徹底、「児童期運動指針」に基づく運動習慣の推進などを継続しているが、全国平均値を下回り、昨年度の改善傾向から再び低下に転じている。コロナ禍での活動制限が影響していると考えられる。 令和元年度以降、体力合計点の平均値の低下や1週間の運動時間が全国平均を下回る状況も続いているため、体育科の授業充実や運動習慣化の取組を継続し、改善を図る必要がある。
〃 (小5 女子)	101.1 (R元)	101.3 (R5)	101.0 (R6)	101.4 以上 (R6)	未達成	—	横ばい	体育科の授業充実や運動習慣化の取組を継続しており、令和6年度の体力調査も全国平均値を上回ったが、今年度は横ばいとなった。 令和元年度以降、体力合計点の平均値の低下や1週間の運動時間が全国平均を下回る状況も続いているため、体育科の授業改善や「自分手帳」の活用、「運動身体づくりプログラム」の徹底、「児童期運動指針」に基づく運動習慣の推進などを継続していく。
〃 (中2 男子)	99.3 (R元)	100.1 (R5)	100.7 (R6)	99.5 以上 (R6)	達成	—	横ばい	令和6年度の体力調査は全国平均値を上回り、現行調査を開始した平成25年度以降最も高い値となった。本県では運動やスポーツに積極的な生徒とそうでない者の二極化、運動部非所属者の運動習慣定着が課題となっている。 体力・運動能力をより向上させるためには、生徒が自分の健康をマネジメントする能力(健康マネジメント能力)の更なる育成が重要であり、「自分手帳」や「体力向上推進計画書」の活用を通して望ましい運動習慣を形成していく必要がある。

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値(全国=100)(中2 女子)	100.1 (R元)	101.5 (R5)	101.0 (R6)	100.1 以上 (R6)	達成	—	横ばい	令和6年度の体力調査は全国平均を上回った。昨年度はコロナ禍の影響による低下傾向から改善されたが、今年度は横ばいとなった。本県では運動やスポーツに積極的な生徒とそうでない者の二極化、運動部非所属者の運動習慣定着が課題となっている。 体力・運動能力をより向上させるためには、生徒が自分の健康をマネジメントする能力(健康マネジメント能力)の更なる育成が重要であり、「自分手帳」や「体力向上推進計画書」の活用を通して望ましい運動習慣を形成していく必要がある。
自分手帳の活用率(小学生)	95.5% (R2)	100% (R5)	100% (R6)	100.0% (R6)	達成	—	横ばい	令和6年度の自分手帳の活用については、年度初めの講習会で効果的な活用方法を紹介したことで、活用率100%を達成した。今後はデジタル化を進め、利便性を向上させて継続的に100%を維持することを目指す。 記入内容を基にした健康マネジメント能力の育成も重要な課題であり、周知・普及を図る。令和8年度のデジタル化の本格稼働に向けては、実証研究校での実践を通じてコンテンツの改善を進め、確実な活用と効果的な使い方の周知を継続する。また、デジタル化をとおして活用の利便性を高め、利用機会を増やすことも目指す。
〃 (中学生)	87.9% (R2)	95.6% (R5)	97.1% (R6)	94.0% (R6)	達成	—	やや改善	令和6年度の自分手帳の活用状況は、年度初めの自分手帳活用講習会で効果的な活用方法を紹介したことで、年々活用率が向上している。単に手帳に記入するだけでなく、その内容を活用して健康マネジメント能力の育成につなげる方法についても周知・普及させることが重要な課題である。 今後は、デジタル化を推進し、より利便性を高めることで、活用率100%を目指す。また引き続き、学校の教育活動内での確実な活用と、効果的な使い方についての情報提供を自分手帳活用講習会などの機会を通じて行う。さらに、自分手帳のデジタル化により、活用の利便性を一層高め、利用の機会を増やしていく。
〃 (高校生)	23.3% (R2)	38.0% (R5)	33.7% (R6)	48.9% (R6)	未達成	—	改善	自分手帳活用講習会を通して中学校から高校への自分手帳の確実な引継ぎを周知し、活用率の向上を図った。しかし、引継ぎの徹底が図れなかったため、高校生の利用率が低下した。ICT端末やスマホを活用したデジタル化により、利用促進と健康マネジメント能力の育成を図る必要がある。 手帳の記入内容を活用した健康マネジメント能力の育成と、確実な引継ぎを促進するため、デジタル化を計画している。令和8年度の本格導入に向けて、実証研究や周知活動を行い、効果的な活用と引継ぎの円滑化を図る。自分手帳のデジタル化により、利用しやすさと機会を拡大し、生徒の自己マネジメント能力向上を目指す。
肥満傾向児出現率の全国平均との比較値(全国=100)(幼・小・中・高)	133.8 (R元)	130.9 (R4)	133.8 (R6)	123.0 (R6)	未達成	—	横ばい	震災後、肥満傾向児の出現率はゆるやかに改善していたが、コロナ禍の影響で再び増加に転じ、その後は回復傾向にある。学校保健統計調査では、震災前は順位34位だったが、震災後は46位。現在は44位と改善の兆しが見えない。 子どもの肥満は家庭環境に大きく影響されるため、保護者や家庭との連携を進めつつ、児童生徒自身が健康管理できる自己マネジメント能力の育成が重要である。運動習慣や食習慣の改善、地域・学校との連携を強化し、自分手帳のデジタル化を推進して、保護者が健康状態を把握できる仕組みを整えることも必要である。今後は個別指導や相談を充実させ、肥満改善に取り組むことが求められる。

施策5

人生100年時代を見通した多様な学びの場をつくる

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
県立美術館の入館者数	11,915人 (R2)	86,338人 (R5)	100,986人 (R6)	100,000人 (R6)	達成	—	改善	令和6年度は、県ゆかりの美術家展や企画展を開催し、10万人の来館者数を達成した。企画展の内容や開催回数は集客に大きく影響し、大型企画展を複数回開催することは費用面で難しいため、人気の高い展覧会や自主企画を選定して開催する必要がある。 広報活動では、新聞やテレビ、HP、SNSを活用し、年齢層に合わせて魅力をわかりやすく伝える工夫を行う。さらに、多様な機関と連携し、団体や県外、インバウンド客の誘致を推進し、安心して来館できる環境整備や要望への迅速な対応にも努めている。
県立博物館の入館者数	65,632人 (R2)	96,274人 (R5)	113,516人 (R6)	129,000人 (R6)	未達成	—	改善	令和6年度は排煙設備の不具合やトイレ改修工事により全館休館や観覧休止があり、入館者数は目標未達となった。 春夏秋冬の企画展やバリアフリー化、洋式トイレの整備を進め、利便性向上に努めた。共通観覧券のキャッシュレス化や多言語サイン、デジタルコンテンツの導入により、外国人観光客や多様な利用者の利便性を高める。さらに、体験型プログラムや野外講座、館外事業を充実させ、「三の丸からプロジェクト」の情報発信や関係機関との連携を強化し、文化観光の推進と博物館の自動化を目指している。
県文化財センター白河館の入館者数	11,249人 (R2)	14,383人 (R5)	17,442人 (R6)	30,000人 (R6)	未達成	—	改善	中学生以下を主なターゲットとした「U・15の考古学」展や全国的に関心を集める前田遺跡出土品を活用した企画展、まほろん感謝デーなどファミリー層に訴求するイベントを行い、目標未達となったものの対前年度比121%増と増加傾向にある。また、移動展やおでかけまほろん、館長講演会、「子ども考古学教室」等を通して、広域かつ幅広い年齢層の文化財への理解の増進に努めている。 学校による団体利用は、授業時数・バス代の確保といった外的要因のため頭打ちとなっている。今後は、指定管理者との密接な連携のもと、魅力ある展示の企画、ファミリー層に訴求するイベントの開催等の取組を継続するとともに、広報を重点的にを行い、館の魅力の更なる発信を行っていく。また、新たに建設予定の出土品収蔵庫や保存処理室・自然科学分析室の見学ツアー等新たな企画を検討し、入館者の増につなげていく。
市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数	0 (R2)	3 (R5)	3 (R6)	4 (R6)	未達成	—	横ばい	令和3年12月に白河市、令和4年7月に津芳松市、令和5年7月に喜多方市が文化財保存活用地域計画を作成し、文化庁の認定を受けた。令和6年度に予定されていた同計画1件の認定が令和7年度に後ろ倒しとなったため、令和6年度の目標は未達成であった。同計画の作成には2～3年を要するものであり、令和6年度末時点で7市町村が策定に向けて調整中であるため、令和7年度以降は目標を達成できる見込みである。引き続き計画作成に向けての支援を行うとともに、計画策定市町村が増加していくよう趣旨の周知に努める。

主な取組

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 生涯にわたり健康マネジメント能力など学び続ける力の育成				
ふくしまっ子健康マネジメントプラン(ノ)	<基本指標> 自分手帳の活用率 児童生徒の健康課題を解決するため、健康教育に係る専門家を派遣し、運動習慣の形成、食習慣の指導を行うとともに、児童生徒自らが健康課題に取り組めるよう自己マネジメント力を育成するため自分手帳を活用した事業を実施する。また、当事業の成果等を健康マネジメント支援委員会で評価・検証する。	882万円	【未達成】 自分手帳の配布数実績値:14,162冊(目標値:14,338冊) ▶ 前年度【達成】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。肥満傾向児の出現率は、震災後悪化したのが、自分手帳の活用率が向上し、児童生徒の健康マネジメント能力の育成が図られた結果、回復傾向が見られた。一方、震災前の状況までには戻っていないことから、改善を進めていくためには、自分手帳を更に有効活用しやすいようデジタル化する必要がある。次年度は、実証研究校を指定し、デジタル版自分手帳の改善を図る。令和7年度は開発期間のため、実際に高校生の活用率の向上が見られるのは令和8年度以降になる見込みである。
取組2 地域における多様な活動機会の充実				
地域学校協働本部事業(ノ)	<基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 1 復興に向けた学びを通じた協働のまちづくり事業 地域と学校が連携・協働のもと幅広い地域住民等が参画し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する。 ○ 評価・検証委員会・推進委員会:地域学校協働本部事業の実施に伴い、被災地における問題解決に向けての明確な目標設定や効果測定、事業評価・検証を実施する。 ○ 地域学校協働活動推進・協働活動推進研修:地域学校協働本部事業にかかわる研修会を実施し、資質等の向上を図る。 ○ 補助市町村:被災12市町村と避難児童生徒が在籍市町村等対象。地域学校協働活動、放課後子ども教室、家庭教育支援活動等 2 地域学校協働活動補助事業 地域の総合窓口として「地域コーディネーター」を配置し、学校の窓口として「地域連携担当教職員」を任命し、地域と学校がパートナーとなって連携・協働していく組織的・継続的な体制を構築する。	1億2,705万円	【達成】 支援自治体・団体数実績値:42(R6.3)(目標値:41) ▶ 前年度【達成】	規模・内容・手法を一部見直しして継続 当該事業は総合教育計画の基本指標にプラスの影響を与えた。その理由は自治体等への支援について、子ども教育環境の改善や地域の活性化、住民の絆づくり等の成果を実感しているという声が多く寄せられるなど、本事業に対する必要性や期待がますます大きくなっていることからである。そのために、コミュニティ・スクール導入に向けた取組とコミュニティ・スクールのさらなる充実に向けた取組が必要である。その上で、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進に向けて、関係機関と連携して進めていく。
取組3 生涯学習の機会の充実				
県立図書館、県立美術館、県立博物館の整備・充実(ノ)	<基本指標> 県立美術館の入館者数、県立博物館の入館者数 県立図書館、県立美術館、県立博物館において、常設展、企画展、教育普及活動などの充実を図り、各施設における利活用を促進する。	2億3,106万円	【未達成】 入館者数(美術館・博物館):214,484(美術館:100,968、博物館:113,516)(目標値:229,000(美術館:100,000、博物館:129,000)) ▶ 前年度【未達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。 <県立美術館> 魅力ある企画展や関連イベントの開催等により、3月末の入館者数は100,968人となり、10万人という目標を達成したところ。次年度は、人気の高い大型企画展や注目度の高い自主企画展を開催するほか、どの年齢層にも企画展の内容や魅力を、わかりやすく伝えるような表現で広報する。また、団体客や県外からの来館促進やインバウンド等の新たなニーズにも対応していく。 <県立博物館> 博物館に求められる役割の多様化に対応するため、移動展(アウトリーチ事業)やゲストティーチャー等、幅広い活動の充実を図り、文化観光や地域の活力向上にも取り組んできたところ。次年度は、収入確保や来館者の満足度向上、入館者数の増加につなげるため、オリジナルグッズの製作を検討していくほか、コンテンツ配信システムにより、来館者の利便性向上と、インバウンド、外国語ユーザー増につなげていきたい。
主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組4 地域に根ざした文化の継承と活用				
文化財保存活用促進事業(ノ)	<補完指標> 市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数 福島県文化財保存活用大綱に掲げた措置を実現するための具体的な取組として、次の事業を実施する。 ・「文化財に係る災害時の相互支援に関する協定」「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」連絡会議の開催 ・文化財保護行政担当者研修会の開催 ・文化財保護審議会の開催	7万円	【達成】 文化財保護行政担当者研修会へ参加した市町村数実績値:59市町村(目標値:59市町村) ▶ 前年度【未達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は、総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。全市町村が文化財保護行政担当者研修会に参加したことで、市町村職員の文化財保存行政に係る意識啓発に繋がり、文化財保存活用地域計画作成の必要性の理解に寄与したと考えられるためである。次年度も同様に事業を継続することで、次年度も目標達成となることが見込まれる。

施策6 安心して学べる環境を整備する

施策評価

少人数教育の充実においては、必要な加配教員を確保し、きめ細かな指導体制を維持することができた。引き続き、過疎・中山間地域における「**極**」**少人数での学びの充実支援を含め、必要な取組を継続していく必要がある。**
避難地域12市町村の特色ある教育においては、双葉郡教育復興ビジョンの推進に係る事業や、ふたば未来学園中学校・高等学校における特色あるカリキュラム編成・実証等を通じて、**地域の復興を担う人材育成を推進**している。引き続き、**創造的な教育復興の実現に必要な取り組みを継続**していく必要がある。

基本指標(成果指標)	基準値	前年度値	最新値	目標値	令和6年度の指標の状況(予測)			指標の分析
					達成状況	見直し判定	詳細判定	
地元自治体等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校の割合(高等学校)(再掲)	88.2%(R3)	94.8%(R5)	100%(R6)	80%(R6)	達成	—	やや改善	学習指導要領の改訂により探究的な学びの機運が高まったことに加え、「ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業」をはじめとする県教育委員会の諸事業により、地域人材等を活用した取組が積極的に行われ、実績値の向上につながったと思われる。 定時制や通信制の高校では、実施するのが物理的に難しいという意見もあったが、好事例を共有するなど、支援の在り方を検討する。
地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合(高校在学中)(再掲)	17.0%(R2)	36.3%(R5)	55.9%(R6)	100%(R6)	未達成	—	改善	これまで取り組んできた地域課題探究学習への支援の成果により、昨年度よりも大きく上昇した。地域に対する具体的なアクション数はまだ少ないものの、主体的に行動している生徒が、「ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト」等に出場して日頃の探究活動の成果を発表し、客観的な評価を受けてさらに深化させている事例が増えている。 地域人材等の活用が増加しているため、今後も自治体や社会へ目を向ける取組を積極的に行えるようにしたり、地域人材等を巻き込んだ生徒の活動をアウトプットする生徒相互の勉強会の場を設けたり、生徒同士での相乗効果を狙い、地域課題探究活動を活性化できるように支援する。
不登校の児童生徒数(小・中学校) ※1,000人当たりの出現率(再掲)	16.4人(R元)	27.0人(R4)	33.6人(R5)	目標値は設定しない	—	—	(悪化)	不登校児童生徒数は全国と比べて低いが、年々増加している。令和5年度の調査では、福島県の公立小・中学校の不登校復帰率は小学校32.1%、中学校31.4%であり、「学校生活に対してやる気が出ない」などの相談が最も多く、小学校28.6%、中学校33.5%だった。 今後も、スクールカウンセラーを配置し、不安や悩みを抱える児童生徒に対してカウンセリング等を行うとともに、研修会を通して教職員の教育相談コーディネート力の向上や学校における教育相談体制の充実を図っていく。また、スペシャルサポートルームへの通級や全県に拡充する不登校児童生徒支援センター(roomF)のICTを活用したオンライン通級など、不登校児童生徒の多様な学習機会学びを機会を確保しつつ社会的自立に向けた援助を行っていく。
不登校の生徒数(高校) ※1,000人当たりの出現率(再掲)	8.8人(R元)	9.8人(R4)	11.0人(R5)	目標値は設定しない	—	—	(悪化)	すべての県立高校にスクールカウンセラーを配置し、校内に居場所を設置するなど、生徒の多様な悩みや不安を早期に把握し、対策を講じている。高校における1,000人当たりの不登校児童生徒数は全国と比べて低いが、年々増加している。 高校生の悩みが多様化していることから、カウンセラーや教職員の教育相談スキルの向上が課題となっている。 関係機関と情報共有を行いながら、生徒の問題を早期に発見し、不登校の悪化を防ぐために継続的な指導を進めていく。

主な取組

主な事業	概要	決算額	アウトプット指標	対応方針
取組1 少人数教育の充実				
少人数教育推進事業(ノ)	<補充指標> 福島県教育環境に満足していると回答した県民の割合 学級編制を弾力化し、小学1、2年及び中学1年を「30人学級」、小学3～6年及び中学2、3年を「30人程度学級」とする。国の標準学級数に比して増えた学級数分の加配教員を配置し、一人一人の児童生徒に対してのきめ細かな教育を充実させる。	38億1,889万円	加配教員の配置人数 実績値:383人	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。学級編制の弾力化や加配教員の配置を通じて、一人一人の児童生徒に対するきめ細かな教育の充実に寄与したと考えられることがその理由である。 令和6年度は、383名の加配教員を配置し、各学校において必要な教員を確保して教育活動を進めることができた。 各学校における多様化・複雑化する課題に対応するには少人数教育推進によるきめ細かな教育環境整備が必要不可欠であるため、他事業で実施している教員の多忙化解消や教員の魅力発信等の取り組みを通じた教員の確保を前提としながら必要な加配教員を配置できるよう、引き続き本事業を継続する必要がある。
取組2 避難地域12市町村などの特色ある教育				
福島県教育復興推進事業(ノ)	<基本指標> 地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合 ふくまの復興を担い世界へ発信していく人材を育成するため、双葉郡内8町村の小・中学校で実施する双葉郡教育復興ビジョン推進に係る事業や、ふたば未来学園中学校・高等学校における特色あるカリキュラム編成・実証に関する取組を実施する。 また、南相馬地域の高校における地方創生を担う人材育成のため、講演会や生徒・教員に対する研修等を実施する。	5,652万円	【達成】 先進的な教育手法を取り入れたふくまの復興を担い、世界へ発信していく能力を持つ人材を生み出すためのカリキュラム受講者数 実績値:1,429人 (目標値:1,260人) ▶前年度【達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。特色あるカリキュラム編成・実証に関する取組を通じて、地域で活躍する人材育成に寄与したと考えられることがその理由である。 地域の未来へ向けた教育の復興は必要不可欠であるため、引き続き規模等を維持して継続する。課題に対しては、国担当者へ状況を報告しており、改善に向けて県と国の意思統一に引き続き注力していく。
取組3 学びを支える施設設備等の整備				
長寿化事業(高等学校・特別支援学校)(ノ)	<基本指標> 福島県教育環境に満足していると回答した県民の割合(意識調査) 老朽化している学校施設の長寿化を図るため、長寿化計画に基づき、大規模改修や建替えを計画的に実施する。	7億2,713万円	【達成】 高等学校の大規模改修工事の完了件数 実績値:2件 (目標値:2件) ▶前年度【未達成】	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。高等学校及び特別支援学校の大規模改修工事を計画的に進め、教育環境を改善できたことがその理由である。 施設の老朽化対策には、整備棟数の増加や財源確保、人材確保、体制整備が必要であり、持続的な整備と将来の資金計画を検討する必要がある。
取組4 防災・危機管理などの安全安心な学校づくり				
教育相談推進事業(ノ)	<基本指標> 不登校の児童生徒数(小・中学校) ※1,000人当たりの出現率 1 学校教育相談員活動経費:いじめ問題等解決のため、学校教育相談員の配置と、相談に応じるフリーダイヤルを設置する。 2 緊急時カウンセラー派遣事業:学校に関わる緊急事態発生時に、児童生徒のPTSDを防止するため臨床心理士を学校に派遣する。 3 スクールカウンセラー等派遣事業:問題行動等の未然防止や早期解決のため、SC等を小・中学校に配置する。 4 スクールソーシャルワーカー派遣事業:SSWを配置して、関係機関等と連携し、児童生徒等の心・生活のケアにあたる。 5 サポートティーチャー派遣事業:サポートティーチャー(ST)を学校に派遣し、教科の学習を支援するとともに、授業外、長期休業時や土曜学習会等における相談活動と学習支援を充実し、児童生徒の心のケアと学習のつまづきを解消する。 6 24時間子どもSOS電話相談事業:問題の相談に応じるために、フリーダイヤルを設置し、相談を受ける事業を委託する。	7億732万円	スクールカウンセラーへの相談件数 実績値:73,147件 (アウトプット指標未設定)	規模・内容・手法を維持して継続 当該事業は総合計画の基本指標にプラスの影響を与えた。SCやSSWの配置を通じて、1,000人当たりの不登校児童生徒数が全国平均を下回ったことがその理由である。 多様化・複雑化した生徒指導上の問題を解決するためには、SCやSSWとの連携は不可欠である。各校でチームで解決に当たることができるよう教育相談体制を整えるとともに、各校における効果的な活用を促していくためには、引き続き同規模で事業を継続する必要がある。 そのため、本県の児童生徒の状況や相談内容、相談件数を国に丁寧に説明し、補助事業の継続を要望していく。

第7次福島県総合教育計画の指標一覧

【児童生徒に関する指標】

指 標	最 新 値	目 標 値 (令和12年度)	施策との 主な関連
地域の課題を解決するための提言や、社会に貢献する何らかの活動を行った生徒の割合（高校在学中）	55.9% (令和6年度)	100%	施策1 施策4
自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合（小・中学校）	小学校 77.5% 中学校 77.9% (令和6年度)	100%	施策1
ふくしま学力調査の結果の経年比較により、学力が伸びた児童生徒の割合（小・中学校）	小学校 国語 61.6% 算数 67.5% 中学校 国語 61.3% 数学 71.1% (令和6年度)	100%	施策1
全国学力・学習状況調査の全国平均正答率との比較値（小・中学校）	小学校（6年生） 国語 97.4 算数 94.6 中学校（3年生） 国語 98.1 数学 91.4 (令和6年度)	102以上 100以上 102以上 100以上	施策1 施策4
全国学力・学習状況調査の結果の上位層と下位層の児童生徒の割合	小学校国語（全国） 上位層28%（29.9%） 下位層26%（24.6%） 小学校算数 上位層28%（33.8%） 下位層25%（20.0%） 中学校国語 上位層32%（33.5%） 下位層19%（18.9%） 中学校数学 上位層20%（27.3%） 下位層24%（20.3%） (令和6年度)	上位層の児童生徒の割合を全国平均以上 下位層の児童生徒の割合を全国平均以下	施策1

指 標	最 新 値	目 標 値 (令和12年度)	施策との 主な関連
中学3年生のうちCEFR A1以上（英検3級以上相当）高校3年生のうちCEFR A2以上（英検準2級以上相当）の英語力を有する生徒の割合	中学校 38.2% 高等学校 45.9% (令和6年度)	67.0%	施策1 施策4 施策5
全国体力・運動能力、運動習慣等調査における新体力テストの全国平均との比較値（小・中学校）	小5男子 99.0 小5女子 101.0 中2男子 100.7 中2女子 101.0 (令和6年度)	100.0以上 101.9以上 100.0以上 100.2以上	施策1 施策5
肥満傾向出現率の全国平均との比較値（幼・小・中・高）	133.8 (令和6年度)	100	施策5
朝食を食べる児童生徒の割合（小・中・高・特別支援学校）	95.7% (令和6年度)	100.0%	施策3 施策5
不登校の児童生徒数（1,000人当たり）	小・中学校 33.6人 高等学校 11.0人 (令和5年度)	数値は毎年度把握し分析する (目標値は数値しない)	施策3

【学校に関する指標】

指 標	最 新 値	目 標 値 (令和12年度)	施策との 主な関連
地元自治体や企業等と共に課題解決に向けた学習活動を実施した学校、または探究学習等を基に地元自治体に政策の提言等を行った学校の割合（高等学校）	100.0% (令和6年度)	100%	施策1 施策4
地域の人と連携した授業等を複数回行った教員の割合（小・中・高・特別支援学校）	67.5% (令和5年度)	100%	施策1 施策2 施策4
学校における震災学習の実施率（小・中学校）	97.7% (令和5年度)	100%	施策4 施策6

指 標	最 新 値	目 標 値 (令和12年度)	施策との 主な関連
全国学力・学習状況調査の結果をふくしま学力調査等の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っている学校の割合	「行っている」 小学校 97.4% 中学校 94.2% 「よく行っている」 小学校 31.0% 中学校 22.0% (令和6年度)	100% 50%	施策1 施策2
英語担当教員のうち、CEFR B2以上（英検準1級程度以上）の英語力を有する教員の割合	中学校 31.4% 高等学校 66.6% (令和5年度)	50.0% 80.0%	施策1 施策2
授業にICTを活用して指導できる教員の割合（小・中・高・特別支援学校）	76.1% (令和5年度)	100%	施策1 施策2
児童生徒がコンピューター等のICTを活用する学習活動を行う回数（1クラス当たり）	「ほぼ毎日」 小学校 59.3% 中学校 69.4% 「週1回以上」 小学校 39.1% 中学校 29.2% (令和6年度)	「ほぼ毎日」 100%	施策1
児童生徒が自身の健康課題を認識し解決する力を育成するため、自分手帳を活用している学校の割合	小学校 100% 中学校 97.1% 高等学校 33.7% (令和6年度)	100%	施策1 施策5
個別の教育支援計画の引継ぎ率（幼・小・中・高）	85.6% (令和6年度)	100%	施策3
時間外勤務時間月80時間及び45時間を超える教職員の割合	80時間超 小学校 8.6% 中学校 27.9% 高等学校 13.8% 特別支援学校 3.1% 全体 12% 45時間超 小学校 47.0% 中学校 64.3% 高等学校 39.9% 特別支援学校 21.8% (令和6年度)	80時間超 全て0% 45時間超 全て令和2年度の現況値3分の1以下	施策2

【地域に関する指標】

指 標	最 新 値	目 標 値 (令和12年度)	施策との 主な関連
県立美術館、県立博物館、県文化財センター・白河館の入館者数	美術館 100,968人 博物館 113,616人 文化財センター 17,442人 白河館 (令和6年度)	100,000人 129,000人 30,000人	施策5
市町村における文化財保存活用地域計画を作成した市町村数	3 (令和6年度まで)	10	施策5

3 県立高校改革計画の概要

これまで県教育委員会では、1997年（平成9年）6月に「県立高等学校改革計画第一次まとめ」（以下、「一次まとめ」という。）、1999年（平成11年）3月に「県立高等学校改革計画第二次まとめ」（以下、「二次まとめ」という。）を策定し、すべての県立高等学校における男女共学化や学校規模の適正化、学校・学科の適正配置、新しいタイプの定時制単位制高等学校の配置などの取組を進めてきた。

「一次まとめ」及び「二次まとめ」が策定された後も、グローバル化や高度情報化が進展し、産業構造や就業構造の変化等が急速に進む中で、高等学校教育には、多様化する生徒の進路希望への対応、キャリア教育の充実、地域との連携の一層の推進などが求められてきた。

さらに、2011年（平成23年）3月11日に発生した東日本大震災及び原子力災害などにより、児童生徒数の減少が震災前の予測を大きく上回り、今後10年間で中学校卒業見込者は約5,300人減少することが見込まれており、教育を取り巻く様々な状況は、「二次まとめ」の策定時から大きく、急激に変化している。そこで、今後の急激な社会情勢の変化も考慮しながら長期的な改革の方向性を示し、計画的かつ着実に改革を推進する必要性が生じてきた。

このような中、県教育委員会は、福島県学校教育審議会に対して、2016年（平成28年）5月、「社会の変化に対応した今後の県立高等学校の在り方について」諮問を行い、部会を含めて10回にわたる審議の後、2017年（平成29年）6月に答申を受けた。この答申を踏まえ、県教育委員会では、県立高等学校改革を着実に推進するために、「一次まとめ」及び「二次まとめ」の取組・現状や成果・課題を土台として、今後10年間の県立高等学校改革の方向性を示す基本計画（長期計画）を2018年（平成30年）5月に策定し、併せて、再編整備の具体的な対象校名を含む前半5年間の実施計画（短期計画）を2019年（平成31年）2月に、後半5年間の実施計画（短期計画）を2022年（令和4年）1月に策定した。

(1) 県立高等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）

ア 基本理念

「本県の未来を切り拓くチャレンジ精神を持った人づくり」

イ 計画の概要

上記の理念をもとに、高等学校における学びを通じて、地域に軸足を置きながら多様な主体と関わり、自己のアイデンティティと郷土への誇りを育み、生徒一人一人の志を実現させることができるよう、教育の質を向上させることとし、そのために、各高等学校の新たな在り方を検討し、再編整備と特色化を図る中で、より良い教育環境を提供することによって、生徒一人一人の資質や能力を向上させることのできる魅力ある高等学校づくりを推進することを目標に、以下の4つの基本方針と17の取組に沿って高等学校教育の充実を図ることとした。

基本方針1 社会の変化に的確に対応できる生き抜く力

を育む高等学校教育の推進

- (1) 生き抜く力を支える確かな学力の向上に向けた取組の推進
- (2) 豊かなこころを育成する取組の推進
- (3) 体力の向上や健康増進に向けた取組の推進
- (4) 様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する取組の推進
- (5) 地域と連携し、地域の特色を生かした学校づくりの推進

基本方針2 多様な学習内容の確保及び教育の質の向上

- (6) 多様な学習機会の充実
- (7) 中高一貫教育の推進
- (8) 学びのセーフティネットの推進
- (9) 一人一人の夢を実現させる教育力の向上

基本方針3 学校の再編整備・特色化による教育活動の魅力化

- (10) 学ぶ意欲を引き出す望ましい学校規模
- (11) 望ましい学校規模への再編整備の推進
- (12) 進路希望に応じた特色ある高等学校の配置
- (13) 社会の変化に対応した学科の適切な配置
- (14) きめ細かな指導が可能となる教育環境の整備
- (15) 学校の特色化と情報発信

基本方針4 過疎・中山間地域の学習機会の確保と教育環境の向上

- (16) 過疎・中山間地域の学習機会の確保
- (17) 過疎・中山間地域における教育環境の向上

(2) 県立高等学校改革前期実施計画（2019年度～2023年度）

ア 県立高等学校改革前期実施計画策定の趣旨

本計画は、県立高等学校改革基本計画を実効的、計画的に推進し、計画の理念を具現化するために、より具体的な高等学校改革の方向性と再編整備の具体的な対象校を含む前期5年間の方向性を示したものである。

策定に当たっては、第6次福島県総合教育計画の後半4年間における取組を重点化した「頑張る学校応援プラン」との整合性を図るとともに、基本計画の4つの基本方針に沿って、本県の高等学校全体の在り方を示した上で、各地区の中学校卒業見込者数の今後の推移、近年の各高等学校の志願動向や中学3年生の進路希望等を考慮した。また、各高等学校が所在する地域の実状や本県で求められる人材育成の観点等も考慮し、すべての県立高等学校の今後5年間の方向性を示すこととした。

イ 計画の概要

○ 本県の高等学校教育の質的向上に向けた取組の推進

- (1) 学力の向上を目指した取組の推進
- (2) 様々な課題に果敢に取り組み、社会に貢献する自立した人材の育成
- (3) 他者を思いやり、豊かな心を育む取組の推進
- (4) 生涯にわたる健康の保持増進につながる健康教育

の推進

- (5) 地域とともにある学校づくりの推進
- (6) 安心して学ぶことのできる環境の支援
- (7) 教員の資質や学校の教育力の向上を目指した取組の推進
- (8) 高等学校における特別支援教育の推進
- (9) ICT機器を活用した教育の充実
- (10) きめ細かな指導が可能となる教職員の確保と配置

○ 社会の変化に対応した魅力ある教育環境づくり

- (1) 県立高等学校の再編整備案
以下の再編整備案を公表した。

【統合】25の対象校に係る12の統合案

梁川・保原、二本松工業・安達東、須賀川・長沼、白河実業・埴工業(併せて修明高校への農業科の集約)、喜多方・喜多方東、耶麻農業・会津農林、大沼・坂下、田島・南会津、湯本・遠野、小名浜・いわき海星、相馬東・新地、保原(定時制)・福島中央

【分校の募集停止】2校の募集停止案

安積高等学校御館校、修明高等学校鮫川校

- (2) 過疎・中山間地域の県立高等学校の例外的措置
川俣、湖南、猪苗代、西会津、川口、只見(湖南、西会津、川口は平成30年度に先行実施)
- (3) 生徒の学びのニーズや進路希望に応じた県立高等学校の特色化
様々な課題に果敢に取り組む主体性・協働性を育成する教育活動の推進や、多様な学習内容の確保及び教育の質の向上の観点から、すべての県立高校を「進学指導拠点校」「進学指導重点校」「キャリア指導推進校」「地域協働推進校」「職業教育推進校」「定時制・通信制高校」の6つの学校群のいずれかに位置づけ、生徒の学びのニーズや進路希望に応じた教育活動を展開できるよう、前期計画期間中の各校の改革の方向性を示した。

(3) 県立高等学校改革後期実施計画(令和6年度～10年度)

ア 県立高等学校改革後期実施計画策定の趣旨

本計画は、県立高等学校改革基本計画の理念を具現化するために、県立高等学校改革の内容や再編整備の具体的な対象校等について5年単位の実施計画(短期計画)を前期・後期に分けて策定することとしたうち、後期5年間(令和6～10年度)の具体的な取組を示したものである。策定に当たっては、令和3年12月に策定した第7次福島県総合教育計画を踏まえている。

イ 計画の概要

- 本県の高等学校教育の質的向上に向けた取組の推進
後期計画においても、前期計画と同様に、基本計画に示した4つの基本方針を具現化し、社会の在り方が劇的に変わるSociety5.0の時代に必要な資質・能力を身につけた人材の育成を目指して、「福島ならではの教育の充実を図ることとした。

- (1) 学力の向上を目指した取組の推進
- (2) 様々な課題に果敢に取り組み、社会に貢献する自立した人材の育成
- (3) 他者を思いやり、豊かな心を育む取組の推進
- (4) 生涯にわたる健康の保持増進につながる健康教育の推進
- (5) 地域とともにある学校づくりの推進
- (6) 安心して学ぶことのできる環境の支援
- (7) 教員の資質や学校の教育力の向上を目指した取組の推進
- (8) 高等学校における特別支援教育の推進
- (9) ICT機器を活用した教育の充実
- (10) きめ細かな指導が可能となる教職員の確保と配置

○ 社会の変化に対応した魅力ある教育環境づくり

- (1) 県立高等学校の再編整備案
以下の再編整備案を公表した。

【統合】8の対象校に係る4の統合案

福島西・福島北、船引・小野
平商業・四倉、いわき総合・好間

- (2) 過疎・中山間地域の県立高等学校の例外的措置
石川
- (3) 生徒の学びのニーズや進路希望に応じた県立高等学校の特色化

前期計画に引き続き後期計画においても、すべての県立高校を6つの学校群のいずれかに位置づけ、生徒の学びのニーズや進路希望に応じた教育活動が展開できるよう、後期計画期間中の各校の改革の方向性を示した。※特色化のため探究科などの特色ある学科の設置を推進する。

令和5年2月には、各高等学校における存在意義、期待される社会的役割、目指すべき学校像を明確にしたスクール・ミッションを策定した。

育成を目指す資質・能力に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の三つの方針(いわゆる「スクール・ポリシー」)については、スクール・ミッションを前提として、各学校が令和5年度に策定・公表した。

(4) 中高一貫教育後期実施計画

ア 中高一貫教育後期実施計画策定の趣旨

中高一貫教育は、中学校と高等学校を接続し、6年間の計画的、継続的な教育課程及び学習環境のもとで一貫した教育を行うことにより、生徒一人一人の能力・適性、幅広い年齢集団の中での様々な活動により社会性や豊かな人間性を育てていくとともに、学校選択の幅を拡大することを目指して、1999年(平成11年)4月に制度化された。

本県においては、福島県学校教育審議会答申(2001年(平成13年)12月)及び第5次福島県長期総合教育計画(2001年(平成13年)3月)に基づき、本県の教育目標を達成するための施策のひとつである「学びの環境づ

くり」の一環として、中高一貫教育の導入にかかる基本的な考え方や、中高一貫教育校の形態、配置計画等を示すものとして、2003年（平成15年）3月に「中高一貫教育実施計画」（以下、「前期実施計画」という。）を策定した。

「前期実施計画」に基づき、中高一貫教育校の配置については、広い県土を持つ本県において、児童、生徒、保護者が希望に応じて選択することができるよう配慮し、第5次福島県長期総合教育計画の目標年次である2010年度（平成22年度）までの期間を前期とし、併設型中高一貫教育校として会津学鳳高等学校に併設中学校を開設したほか、連携型中高一貫教育校を東白川郡塙町（塙工業高等学校）、南会津郡南会津町（田島高等学校）、相馬市（相馬東高等学校）に配置した。「前期実施計画」の期間後、東日本大震災・原子力災害等の影響により後期実施計画の策定は中断していたが、震災等の発生に伴う復興・再生に向けた取組を進めていく中、ふたば未来学園高等学校及び併設中学校を開設するとともに、県内4地区において連携型中高一貫教育を推進してきた。

このような中、県教育委員会は、「6年間を通した計画的・継続的な教育をより魅力的・効果的に展開する特色ある中高一貫教育に関する取組を充実するべきである」との、福島県学校教育審議会答申（2017年（平成29年）6月）を受け、2018年（平成30年）5月に策定した「県立高等学校改革基本計画」の基本方針及び2019年（平成31年）2月に策定した「県立高等学校改革前期実施計画」に基づき、これまでの本県の中高一貫教育の成果や今般の社会情勢を踏まえ、改めて本県における今後の併設型及び連携型中高一貫教育の在り方について方向性を示すものとして、「中高一貫教育後期実施計画」（以下「後期実施計画」という。）を2020年（令和2年）2月に策定した。

イ 中高一貫教育に関する基本的な考え方

- (ア) 「後期実施計画」の策定に当たっては、福島県学校教育審議会答申（2017年（平成29年）6月）を尊重し、「県立高等学校改革前期実施計画」（2019年（平成31年）2月）等との整合性を図る。
- (イ) これまでの中高一貫教育校での取組を踏まえ、進学面で高い志を持った生徒の進路実現に対応できる新たな中高一貫教育校を検討する。
- (ウ) 新たな中高一貫教育の実施形態の選択に当たっては、中高一貫教育校の教育理念や地域の実情等を考慮して柔軟に対応する。
- (エ) 連携型中高一貫教育校については、県立高等学校改革の動向等を踏まえながら、より良い在り方について引き続き検討する。
- (オ) 中高一貫教育については、本県の未来を担う人材育成の観点から、その在り方について引き続き検討していく。

ウ 計画期間

計画期間は、2018年（平成30年）に策定した「県立高

等学校改革基本計画（2019年度～2028年度）」に合わせて、2019年度（令和元年度）から2028年度（令和10年度）までとする。

エ 配置計画

(7) 新たな併設型中高一貫教育校の設置

新たな併設型中高一貫教育校を設置するに当たっては、進学面で高い志を持った生徒の進路実現に対応する必要がある、難関大学への進学実績が豊富である高等学校へ併設することが重要である。また、公共交通機関の利便性の良さにより児童生徒の志願がより広範囲から可能であることや、施設整備が可能となる敷地面積を有することなどの点を踏まえる。

さらに、これまで併設型中高一貫教育校を会津と浜通りに配置しており、地域のバランスを踏まえ、今後、全県的な中高一貫教育を展開するためには、中通りへの設置が必須である。以上のことを総合的に判断し、県立高等学校改革に取り組んでいる現状に鑑み、既設の安積高等学校に県立中学校を2025年度（令和7年度）（予定）に併設することとする。

併設中学校は、安積高等学校の同一敷地内に設置することとし、6年間を見通した教育課程に基づく教育活動などを適切に展開するために必要な施設、設備等を整備する。また、募集定員については、一定の人数を確保しつつ、周辺の市町村立中学校への影響を踏まえ、1学級30名の2学級編制とし、通学区域を県下一円とする。

接続する高等学校は、将来の多様な大学への進路希望に対応が可能となるよう、単位制による「普通科」とし、併設中学校と同様に通学区域を県下一円とする。

これらを踏まえ、以下のとおり設置することとした。

福島県立安積中学校・高等学校

- ・ 開校(予定) 2025年度（令和7年度）
- ・ 設置場所 福島県立安積高等学校（郡山市）
- ・ 生徒募集定員 中学校60名（2学級）
- ・ 通学区域 県下一円

(イ) 連携型中高一貫教育校

a 方針

これまで東白川郡塙町、南会津郡南会津町、相馬市及び双葉郡に配置していた連携型中高一貫教育校については、以下の点を踏まえるとともに、「県立高等学校改革前期実施計画」の再編整備の状況を踏まえ、連携の新たな仕組みづくりを進め、連携先の中学校の拡充を図ることとした。

- ・ 中学校及び高等学校の連携の柱となる特色ある教育活動を展開するために活用可能な地域の自然環境等の教育資源の状況。
- ・ 対象となる高等学校の教育課程や学科の特色。
- ・ 中学校・高等学校双方において生徒、教員の人的交流等による連携活動をより緊密に行うための中学校と高等学校の立地状況。

- ・ 各中学校から対象となる高等学校への入学者数の状況。
- ・ 地域バランス等。

b 実施校

次のように新たな連携の仕組みづくりを行った。

- ・ 相馬総合高等学校の連携を新地町立中学校へ拡充（令和4年度から）
- ・ 南会津高等学校の連携を南会津町立中学校2校、下郷町立中学校へ拡充（令和5年度から）
- ・ 修明高等学校と東白川郡内の中学校4校との連携を開始（令和5年度から）

第 2 章 教育行政

第 1 節 教育委員会

1 教育委員会

令和 6 年 10 月 19 日付けで平塚康晴氏、横田純子氏が成澤勝蔵委員、大村雅恵委員の後任として教育委員に任命された。

また、同日付けで教育長職務代理者に高橋理里子委員が指名された。

職 名	氏 名	就任年月日	職 業	備 考
教育長	大沼 博文	令和 4 年 4 月 1 日		福島市
委 員 教育長職務代理者 (R6. 10. 19～)	高橋 理里子	令和 5 年 4 月 1 日	会 社 役 員	福島市
委 員	正木 好男	平成 29 年 12 月 24 日 (2 期 目)	会 社 顧 問	いわき市
委 員	吉津 健三	令和元年 12 月 27 日 (2 期 目)	弁 護 士	郡山市
委 員	平塚 康晴	令和 6 年 10 月 19 日	会 社 役 員	郡山市
委 員	横田 純子	令和 6 年 10 月 19 日	団 体 役 員	会津若松市
委 員 教育長職務代理者 (R5. 12. 27～ R6. 10. 18)	大村 雅恵	令和 2 年 10 月 19 日 ※令和 6 年 10 月 18 日ま で	会 社 社 長	福島市
委 員	成澤 勝蔵	令和 2 年 10 月 19 日 ※令和 6 年 10 月 18 日ま で	自営業	会津若松市

2 審議事項

4 月定例会 (R6. 4. 19)

- 審議事項
 - (1) 教育長臨時代理による処理の承認について
 - (2) 教職員の懲戒処分について
 - (3) 教職員の懲戒処分について
 - (4) 令和 7 年度福島県公立学校教員採用予定者数について
 - (5) 退職手当の支給制限について
- 報告事項
 - (1) 令和 6 年度福島県立高等学校入学者選抜の結果について
 - (2) 令和 6 年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜の結果について
 - (3) 訓告処分等について

5 月定例会 (R6. 5. 20)

- 審議事項
 - (1) 福島県立図書館協議会委員の任免について
 - (2) 福島県立博物館運営協議会委員の任免について
 - (3) 教育長臨時代理による処理の承認について
 - (4) 教育職員免許状の取上げについて
 - (5) 福島県いじめ問題対策委員会委員の委嘱について
- 報告事項
 - (1) 令和 7 年度使用教科用図書の採択等に関する答申について
 - (2) 訓告処分等について

6 月定例会 (R6. 6. 14)

- 審議事項
 - (1) 教育長臨時代理による処理の承認について
 - (2) 令和 6 年度 6 月補正予算案（教育委員会関係部分）について
 - (3) 福島県社会教育委員の任免について
 - (4) 教育長臨時代理による処理の承認について
 - (5) 福島県市町村立学校職員の給与等に関する条例の一部を改正する条例案について
 - (6) 令和 7 年度使用教科用図書調査研究資料について
- 報告事項
 - (1) 訓告処分等について

7 月定例会 (R6. 7. 12)

- 審議事項
 - (1) 福島県立図書館協議会委員の任免について
 - (2) 教職員の懲戒処分について
 - (3) 教職員の懲戒処分について
- 報告事項

- (1) 訓告処分等について

8 月定例会 (R6. 8. 9)

○ 審議事項

- (1) 令和 6 年度福島県指定文化財の指定に係る諮問について
- (2) 令和 7 年度使用県立中学校の教科用図書の採択について
- (3) 令和 7 年度使用県立特別支援学校小学部・中学部の教科用図書の採択について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 教育長臨時代理による処理の承認について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

9 月定例会 (R6. 9. 13)

○ 審議事項

- (1) 令和 5 年度福島県教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価結果について
- (2) 令和 7 年度福島県立中学校入学者選抜について
- (3) 令和 7 年度福島県立高等学校入学者選抜について
- (4) 令和 7 年度福島県立特別支援学校高等部入学者選抜について
- (5) 教職員の懲戒処分について
- (6) 教職員の懲戒処分について
- (7) 教職員の懲戒処分について
- (8) 教職員の懲戒処分について
- (9) 教職員の懲戒処分について
- (10) 教育職員免許状の取上げについて
- (11) 令和 6 年度 9 月補正予算案（教育委員会関係部分）について
- (12) 工事請負契約案について
- (13) 工事請負契約の一部変更案について
- (14) 令和 6 年度教育・文化関係表彰について
- (15) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (16) 令和 7 年度福島県公立学校実習助手採用予定者数及び令和 7 年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用予定者数について
- (17) 退職手当の支給制限について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

10 月定例会 (R6. 10. 11)

○ 審議事項

- (1) 令和 7 年度福島県立学校生徒募集定員について
- (2) 福島県立美術館運営協議会委員の任命について
- (3) 令和 7 年度人事異動方針及び各人事異動実施要項について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 令和 7 年度福島県公立学校教員採用候補者選考試

験について

- (6) 教育職員免許状の取上げについて
- (7) 令和 6 年度教育・文化関係表彰について
- (8) 教育長臨時代理による処理の承認について

○ 報告事項

- (1) 福島県幼児教育振興指針の策定について
- (2) 令和 8 年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験の日程について
- (3) 訓告処分等について

11 月定例会 (R6. 11. 22)

○ 審議事項

- (1) 教職員の懲戒処分について
- (2) 教職員の懲戒処分について
- (3) 教職員の懲戒処分について
- (4) 教職員の懲戒処分について
- (5) 教職員の懲戒処分について
- (6) 教職員の懲戒処分について
- (7) 教職員の懲戒処分について
- (8) 教職員の懲戒処分について
- (9) 教職員の懲戒処分について
- (10) 令和 6 年度 12 月補正予算案（教育委員会関係部分）について
- (11) 工事請負契約案について
- (12) 工事請負契約の一部変更案について
- (13) 工事請負契約の一部変更案について
- (14) 工事請負契約の一部変更案について
- (15) 令和 6 年度中学生・高校生の国際理解・国際交流論文朝河貫一賞の受賞者について
- (16) 令和 6 年度中学生・高校生の科学・技術研究論文野口英世賞の受賞者について
- (17) 令和 6 年度福島県教職員研究論文の入賞者について
- (18) 令和 6 年度教育・文化関係表彰について
- (19) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (20) 退職手当の支給制限について
- (21) 退職手当の支給制限について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

12 月定例会 (R6. 12. 20)

○ 審議事項

- (1) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (2) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (3) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (4) 福島県立美術館運営協議会委員の任命について
- (5) 教育長臨時代理による処理の承認について
- (6) 教育長臨時代理による処理の承認について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について
- (2) 和解について

○ 協議事項

- (1) 令和8年4月開校の県立学校について

1月定例会(R7.1.17)

○ 審議事項

- (1) 第7次福島県総合教育計画の指標見直しについて
(2) 教育職員の免許状に関する規則の一部を改正する規則について
(3) 教職員の懲戒処分について
(4) 教職員の懲戒処分について
(5) 教職員の懲戒処分について
(6) 令和7年度福島県公立学校実習助手採用候補者選考試験の合格者について
(7) 令和7年度福島県公立学校寄宿舎指導員採用候補者選考試験の合格者について
(8) 令和6年度教育・文化関係表彰について

○ 報告事項

- (1) 令和7年度人事異動（教員系）について
(2) 訓告処分等について

2月定例会(R7.2.7)

○ 審議事項

- (1) 福島県教育財産管理規則の一部を改正する規則について
(2) 福島県教育職員免許状再授与審査会規則について
(3) 福島県立特別支援学校学則の一部を改正する規則について
(4) 令和7年度当初予算案（教育委員会関係部分）について
(5) 権利の放棄案について
(6) 福島県立美術館条例の一部を改正する条例案について
(7) 福島県立博物館条例の一部を改正する条例案について
(8) 福島県市町村立学校職員の給与等に関する条例等の一部を改正する条例案について
(9) 福島県立高等学校条例の一部を改正する条例案について
(10) 福島県立特別支援学校条例の一部を改正する条例案について
(11) 教育長臨時代理による処理の承認について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

○ 協議事項

- (1) 令和7年度人事異動（教員系）について

臨時会(R7.2.17)

○ 審議事項

- (1) 教職員の懲戒処分について
(2) 教職員の懲戒処分について

- (3) 教職員の懲戒処分について
(4) 退職手当の支給制限について
(5) 退職手当の支給制限について

○ 報告事項

- (1) 訓告処分等について

臨時会(R7.2.26)

○ 審議事項

- (1) 教育長臨時代理による処理の承認について
(2) 教育長臨時代理による処理の承認について
(3) 令和7年度教育庁職員（課室長以上・教育事務所長）及び教育機関の長（教員系）の人事について
(4) 令和7年度市町村公立学校校長の人事について
(5) 令和7年度県立学校校長の人事について

○ 報告事項

- (1) 令和7年度教育庁及び教育機関の主要職員（教員系）の人事について
(2) 令和7年度市町村公立学校副校長及び教頭の人事について
(3) 令和7年度県立学校副校長及び教頭の人事について
(4) 令和8年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験について

3月定例会(R7.3.24)

○ 審議事項

- (1) 令和7年度学びの変革推進プランについて
(2) 第五次福島県子ども読書活動推進計画の策定について
(3) 福島県指定重要文化財の指定について
(4) 福島県立美術館組織規則及び福島県立博物館組織規則の一部を改正する規則について
(5) 福島県教育委員会文書等管理規則の一部を改正する規則について
(6) 技能労務職員の給与及び勤務時間等に関する規則の一部を改正する規則について
(7) 福島県立学校の管理運営に関する規則の一部を改正する規則について
(8) 福島県立高等学校学則の一部を改正する規則について
(9) 福島県立中学校学則の一部を改正する規則について
(10) 福島県立高等学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について
(11) 教職員の懲戒処分について
(12) 教職員の懲戒処分について
(13) 福島県立博物館運営協議会委員の任命について
(14) 福島県文化財保護審議会委員の委嘱について
(15) 教科用図書選定審議会委員の任命について
(16) 令和7年度教育庁職員（課室長以上・教育事務所長）及び教育機関の長の人事について

- (17) 令和7年度市町村公立学校長の人事について
 (18) 令和7年度県立学校長の人事について
 (19) 令和6年度教育・文化関係表彰について

○ 報告事項

- (1) 令和7年度教育庁及び教育機関の職員の人事について
 (2) 令和7年度市町村公立学校教職員の人事について
 (3) 令和7年度県立学校教職員の人事について
 (4) 訓告処分等について

第2節 教育庁組織

理事兼政策監 伊藤 賢一
 教育次長（業務） 箱崎 兼一
 県立高校改革監 佐藤 隆広
 教育庁参事（人事・企画） 関場 智彦

課室名	職名	課長等名
教育総務課	課長 庁主幹兼副課長 庁企画主幹兼副課長	桍木 渉 佐藤 保良 星 弓彦
財務課	課長 主幹兼副課長	松山 政行 長谷部 哲晃
施設財産室	室長 主幹	小島 哲 小川 健
職員課	課長 主幹兼副課長 主幹	佐藤 敏行 渡辺 隆博 山岸 英貴
福利課	課長 主幹兼副課長	坂詰 康 武藤 淳
社会教育課	課長 主幹兼副課長 主幹	小林 雄 佐藤 浩幸 戸倉 深希子
文化財課	課長	後藤 雅樹
義務教育課	課長 主幹兼副課長 主幹 主幹	川井 孝寿 大橋 直利 原田 博司 芦沢 康
高校教育課	課長 主幹兼副課長 主幹 主幹	高橋 喜智 白井 定喜 矢崎 芳朗 柳橋 幸裕
県立高校改革室	室長 主幹	佐藤 克敏 大内 昭吾
特別支援教育課	課長 主幹兼副課長 主幹	根本 健一 和知 学 千葉 茂
健康教育課	課長 主幹兼副課長 主幹	木幡 健 山口 祥枝 酒井 祐一

教育事務所

教育事務所	所長・次長名	課長名
県北	所長 遠藤 裕一 次長(総) 尾関 伸久 次長(業) 佐藤 智晃	総務社会教育(兼) 尾関 伸久 学校教育(兼) 佐藤 智晃
県中	所長 齋藤 仁道 次長(総) 関 拓也 次長(業) 小林 雅	総務社会教育(兼) 関 拓也 学校教育(兼) 小林 雅
県南	所長 橋本美弥子 次長(総) 原嶋 正幸 次長(業) 齋藤 雅彦	総務社会教育(兼) 原嶋 正幸 学校教育(兼) 齋藤 雅彦
会津	所長 吉川 武彦 次長(総) 後藤 竜也 次長(業) 佐藤 秀一	総務社会教育(兼) 後藤 竜也 学校教育(兼) 佐藤 秀一
南会津	所長 平山 明裕 次長(総) 加藤 洋 次長(業) 芳賀 稔	総務社会教育(兼) 加藤 洋 学校教育(兼) 芳賀 稔
相双	所長 佐藤 公一 次長(総) 滝本 裕彦 次長(業) 山本 秀和	総務社会教育(兼) 滝本 裕彦 学校教育(兼) 山本 秀和
いわき	所長 大竹 孝喜 次長(総) 十文字高志 次長(業) 田中 淳一	総務社会教育(兼) 十文字高志 学校教育(兼) 田中 淳一

所管教育機関等

教育機関名	所長名	次長等名
福島県教育センター	佐藤 敏宏	次長 平野 達也 総務管理部長(兼) 平野 達也 研究・研修部長 藤東 喜史
福島県特別支援教育センター	五十嵐登美	事務長 船橋 絹枝 企画事業部長 橋本 勉
教育機関名	館長名	副所長等名
福島県立図書館	深谷 一夫	副館長 佐藤 等
福島県立美術館	高橋 英子	副館長心得 増淵 鏡子
福島県立博物館	川名 義則	副館長 高橋 充

第3節 企画調整

1 教職員現職教育計画の策定

(1) 福島県公立学校教職員現職教育計画

教職員現職教育担当者会議を開催し、令和7年度の教職員研修計画及び研究学校(地区)指定計画について、策定に関する協議や関係課・所間の調整を行い、「福島県公立学校教職員現職教育計画」を策定した。

(2) 策定計画

回	開催期日	会議の場所	議事及び協議の概要
第1回	6.6.4	正庁	○「令和7年度教職員現職教育計画」作成方針について ○「令和7年度教職員現職教育計画」作成に当たっての具体的計画案及び検討事項について ○「令和7年度教職員現職教育計画」作成関係日程について
第2回	6.9.5	教育委員室	○「令和7年度教職員現職教育計画」作成に当たっての具体的計画案及び検討事項について ○第1回会議からの継続協議事項について ○「令和7年度教職員現職教育計画」作成日程について

(3) 構成員

教育総務課

企画主幹兼副課長、主任主査、管理主事

社会教育課

主幹、主任社会教育主事、社会教育主事

義務教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

健康教育課

主幹、主任指導主事、指導主事

特別支援教育課

主幹兼副課長、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

高校教育課

課長、主幹、主任管理主事、主任指導主事、管理主事、指導主事

教育センター

研究・研修部長、主任指導主事、指導主事

特別支援教育センター

企画事業部長、主任指導主事

2 調整事務

(1) 教育庁内企画・調整事務

- ア 総合教育計画に関する連絡調整
- イ 県教委重点施策に関する連絡調整
- ウ 県教委点検・評価に関する連絡調整
- エ 県重点事業に関する連絡調整
- オ 県重点施策評価に関する連絡調整
- カ 政府予算対策に関する連絡調整
- キ 双葉地区教育構想に関する連絡調整

(2) 知事部局との調整事務

- ア 総務部
総合教育会議
- イ 危機管理部
安全で安心な県づくり推進会議、国土強靱化推進連絡会議
- ウ 企画調整部
県総合計画・復興計画関係、施策評価関係、県重点事業関係、政府予算対策活動関係、過疎・中山間地域振興会議、デジタル社会形成推進本部会議、政策調整会議、企画推進室員会議、新生ふくしま復興推進本部会議、福島イノベーション・コースト構想推進本部会議、地産地消推進会議、地域創生・人口減少対策本部会議、風評・風化対策プロジェクトチーム
- エ 生活環境部
ユニバーサルデザイン推進会議、環境影響評価庁内連絡会議、循環型社会形成庁内推進会議、環境・エネルギー施策推進庁内連絡会議、ふくしまカーボンニュートラル実現会議
- オ 保健福祉部
自立支援協議会障がい者差別解消支援部会、子育て支援推進本部会議
- カ 商工労働部
商業まちづくり推進調整会議、企業誘致・立地企業振興対策本部
- キ 農林水産部
ふくしま植樹祭実行委員会、ふくしま県産材利用推進会議
- ク 警察本部
福島県被害者等支援連絡協議会

第4節 広報・広聴

1 教育委員会だより

(1) 編集方針

教育庁の新陣容や教育行政の諸領域の中から広報を要する事項及び教職員に周知させる必要のあるものを掲載し、教育委員会施策の徹底を図る。

(2) 内容

県教育委員会重点施策、県教育委員会所管予算、県教育委員名簿・県教育庁新陣容、県教育庁の組織及び電話番号一覧

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 4ページ

イ 部数 3,600部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、県内公立学校、私立学校団体連合会、各

教育関係機関、北海道・東北各県教育委員会等

(5) 発行時期

4月に発行

2 教育年報

(1) 編集方針

令和5年度の県教育行政の成果を記録し、将来に残る公的記録として保存する。

(2) 内容

令和5年度の県教育行政の実績の記録

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 228ページ

イ 部数 140部

(4) 配布対象

市町村教育委員会、各教育関係機関

3 福島県の実績

(1) 編集方針

本県教育の実績と教育行政の要点を図式化して掲載し、教育庁への来訪者等に配布して、本県教育に対する理解を図る。

(2) 内容

本県教育の実情及び教育行政の要点

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 8ページ カラー

イ 部数 850部

(4) 配布対象

教育機関への来訪者、市町村教育委員会、県内公立学校、各教育関係機関、各都道府県教育委員会等

4 ふくしま教育ニュース

(1) 編集方針

県教育委員会の教育行政施策、実績等を県民、特に保

護者を対象として伝えることにより、本県教育に対する理解を図る。7月に発行した。

(2) 内容

第62号（7月発行）

ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業

グローバル人材育成事業とご寄附のお願い

県立安積中学校開校に向けて

令和7年4月いわき総合高校と好間高校が統合して新たにいわき総合高等学校となります。

富岡支援学校から「ふたば支援学校」へ

福島の高校生、震災の記憶と復興を県外そして海外へ情報発信中

教職員の働き方改革にご理解とご協力を！

ふくしまを十七字で奏でよう

ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト出場者募集！

ご存じですか？読書バリアフリー

福島県立美術館 開館40周年記念展「みんなの福島県立美術館 その歩みとこれから」

福島県立博物館「縄文DX－会津・法正尻遺跡と交流の千年紀－」

ふくしまっ子ごはんコンテスト

(3) 規格・部数

ア 規格 A4判 4ページ カラー

イ 部数 第62号 209,150部

(4) 配布対象

県内公立学校の全保護者、県外に避難している児童生徒の保護者、私立幼稚園及び小・中・高等学校、市町村教育委員会、各教育関係機関等

5 「第7次福島県総合教育計画」マンガ・動画

(1) 編集方針

第7次福島県総合教育計画の内容を広くわかりやすく伝えることを目的とする。

(2) 内容

福島県教育委員会の取り組む第7次福島県総合教育計画を具体例を示しながら解説する。

(3) 規格・部数

ア マンガ A4判 15ページ ウェブブック

イ 動画 各1分程度 6本作成

(4) 配布対象

市町村教育委員会、県内公立学校、各教育関係機関、各都道府県教育委員会等

(5) 発行時期

3月に発行

6 教育庁各課・所・館の広報誌・紙

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
教育総務課	福 島 県 の 教 育	本県教育の実情及び教育行政の要点を図式化して表示	1	A 4	8	850	教育機関への来訪者、教育関係機関等
	教育委員会だより	県教育長あいさつ、教育施策及び予算、県教育委員名簿、県教育庁新陣容、組織及び電話番号	1	A 4	4	3,600	県内公立学校、私学団体連合会、教育関係機関等
	教 育 年 報	前年度の県教育行政の実績	1	A 4	217	140	市町村教委、教育関係機関等
	ふ く し ま 教 育 ニ ュ ー ス	県教育委員会の教育行政施策、実績、事業のお知らせ等	2	A 4	4	第 62 号 209,150	県内公立学校の全保護者・教職員、教育関係機関等
	「県庁に みんなの声を届けよう！」チラシ	イベント内容の広報	1	A 4	1	デジタル 配付	市町村教育委員会、小学校 5・6 年生全員
	「第 7 次福島県総合教育計画マンガ」	第 7 次福島県総合教育計画をわかりやすく説明したマンガ	1	A 4	15	デジタル	
福利課	ふ く し ま 福 利 だ よ り	教職員の福利・厚生事業の紹介等	4	A 4	221・222 号 16 223・224 号 12	各 23,500	全教職員
義務教育課	夜間中学	夜間中学ニーズ調査用	1	A 4 A 2	1	15,000 500	
	夜間中学	県内夜間中学セミナー周知広報用	1	A 4	1	15,000	
	教員採用	教員採用を周知する広報用（web でも発信）	1	A 4	1	900	
高校教育課	さんフェア福島 2025 広報用ポスター	さんフェア福島 2025 の広報活動	各 1	B 2 カラー	1	2000	文科省・各都道府県教育委員会・県内各学校・県産業教育振興会 会員事務所
	さんフェア福島 2025 広報用チラシ			A 4 カラー 両面	1	21,000	
	さんフェア福島 2025 ロボット競技大会用ポスター			B 2 カラー	1	2,000	各都道府県教育委員会・県内各学校・全国工業科設置高校
	さんフェア福島 2025 広報用クリアファイル			A 4 カラー	1	5,000	さんフェア福島 2025 協賛依頼企業・さんフェア福島来場者
	さんフェア福島 2025 広報用不織布バッグ			マチ付き A 4	1	4,000	
	ふくしまの高校生海外留学応援事業	留学準備プログラムおよび留学学費支援事業の募集	1	A 4 カラー 両面	1	11,000	各学校
	福島県グローバル人材育成基金チラシ	福島県グローバル人材育成基金の発信	1	A 4 カラー 両面	1	4,000	

課・所 ・館名	広報誌・紙名	内 容	発行 回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
高校教育課	福島県グローバル人材育成基金地下鉄中吊りポスター	福島県グローバル人材育成基金の発信	1	B 3 カラー	1	3, 200	
	福島県グローバル人材育成基金地下鉄駅貼り用ポスター			B 1 カラー	1	15	
	ふくしまの未来を担うグローバル人材育成事業ポスター	派遣留学生募集について		A 2 カラー	1	200	各対象校
	ふくしまの未来を担うグローバル人材育成事業チラシ			A 4 カラー 両面	1	3, 000	各対象校
県立高校 改革室	令和7年度いわき総合高等学校開校ポスター	新生いわき総合高等学校の広報活動	1	B 2 カラー	1	300	いわき市内 59 カ所 県立学校関係機関等
特別支援教育課	第 12 回作業技能大会チラシ	作業大会の日時、会場、大会の種目や過去の大会の様子、参加校等の紹介	1	A 4	1	2, 000	
	第 12 回作業大会ポスター	作業大会の日時、会場、大会の種目や過去の大会の様子、参加校等の紹介	1	A 2	1	300	
	就労支援リーフレット	企業、事業主向けの理解啓発、特別支援学校の就労に向けた学習や作業実習、実際の就職先等の情報発信	1	A 4	4	1, 750	
健康教育課	「子どもが作る地場産物を活用した健康レシピ」チラシ	地場産物を活用した料理コンテストの入賞レシピ	1	A 4	2	144, 000	県民
	なわとびコンテストチラシ	なわとびコンテストの内容等の周知	1	A 4	1	8, 444	小学校・中学校
教育センター	研究紀要	研究及び教育調査の結果、教科指導、情報教育、教育相談の在り方についてのまとめ	1	A 4	90	100	教育機関
特別支援教育センター	要覧	本所の沿革、事業内容、研修講座名、職員分掌等（所内印刷）	1	A 4 カラー	15	60	特別支援学校、関係機関等
	リーフレット発行	本所の場所、事業内容、研修講座名等の理解啓発（所内印刷）	1	A 5 カラー 二つ折り	1	350	来所者、特別支援学校、関係機関等
	研究紀要第38号	令和6年度教育研究・プロジェクト研究のまとめ及び長期研究員研究報告（文書法務課印刷）	1	A 4	64	120	関係機関等

課・所・館名	広報誌・紙名	内 容	発行回数	判	ページ	発行部数	配 布 対 象
	所報「特別支援教育77号」発行	令和6年度の事業の取組や特別支援教育に関する動向等のまとめ（文書法務課印刷）	1	A4	28	200	関係機関等
図書館	館報あづま	県立図書館が取り組んでいる事業内容の報告	1	A4 カラー	10	紙媒体 100 HPに掲載	
	図書館だより	県立図書館の資料紹介や行事案内等	6	A4 カラー	2	紙媒体 100 HPに掲載	
	お役に立ちます県立図書館	県・市町村職員への図書館利用案内	1	A3	2	5,000	
美術館	美術館ニュース	企画展等の事業計画について2ヶ月ごとに取りまとめ。	6	A4 三つ折り	1	各 11,000	小・中・高校および公民館等
	ミュージアムカレンダー	令和7年度の事業計画を取りまとめ。	1	A4 四つ折り	1	30,000	学校、公民館、観光施設等
博物館	なじよな	季刊発行で博物館の情報をまとめた広報誌	5	A2 カラー 四つ折り	1	各 18,500	県内の学校・公民館・文化施設・図書館および県外文化施設等
	令和7年度年間展示案内	令和7年度開催の展覧会情報	1	220mm× 400mm 観音折り	1	48,000	県内の学校・公民館・文化施設・図書館および県外文化施設等
	企画展ポスター	企画展の内容を紹介するポスター	3	B2	1	8,000	県内の学校・公民館・文化施設・図書館および県外文化施設等
	企画展リーフレット	企画展の内容を紹介するリーフレット	3	A4	1	135,000	県内の学校・公民館・文化施設・図書館および県外文化施設等
文化財センター白河館	まほろん通信	資料紹介、催し物案内、活動状況等を取りまとめ。	4	A4	4	32,000	県内の学校や県内外の教育機関・文化施設等
自然の家	施設・企画事業案内	施設の特徴・概要、利用案内（費用等）、活動プログラム、施設案内・交通案内	22	A4	2	602,916	学校、公民館および関係各所等に配付
	パンフレット（郡山）	施設の特徴・概要、利用案内（費用等）、活動プログラム、施設案内・交通案内	1	A3 二つ折り（郡山）	4	2,500	学校、公民館および関係各所等
	イベントスケジュール兼ファミリー向け案内（いわき）	事業案内、利用案内（費用等）、活動プログラム、施設案内・交通案内	1	A4	2	11,000	小中学校・行政機関等
	しおね（いわき）	毎年度の利用状況や企画事業の予定・報告書	1	A4 カラー	6	1,900	小中学校・行政機関等

(2) Webによる広報活動

課所館	広報誌・紙名等	内 容	発行回数
教育総務課	ふくしま教育通信	福島県教育委員会の情報発信	12
職員課	職員課ホームページ	教職員働き方改革アクションプランの掲載、女性教職員活躍推進だより、優秀教職員・若手教職員実践事例集の紹介	随時
社会教育課	機関誌「社会教育」	社会教育に関する情報・活動状況等	1
義務教育課	福島県算数・数学ジュニア・参加募集（ちらし）オリンピック	事業の紹介及び申し込み方法について	1
高校教育課	さんフェア福島 2025 専用ホームページ	さんフェア福島 2025 の事業についての発信	
	福島県奨学資金貸与事業	・新規募集案内 ・転居届等各種届出について ・返還について	
県立高校改革室	改革室ホームページ	令和7年度再編整備対象校（いわき総合高等学校）の情報を掲載しているウェブサイト誘導	
特別支援教育課	特別支援学校・特別支援学級・通級による指導に関わる就学支援の手引き	・市町村教育委員会、学校関係者、保護者（本人）向けの理解啓発・就学支援について、法令に基づいた手続きの方法や進め方、研修にも活用できる資料の発信	
教育センター	所報ふくしま「窓」(187・188号)	教育関係者の提言や県内教員等の教育研究等についての紹介	2
	研究紀要	研究及び教育調査の結果、教科指導、情報教育、教育相談の在り方についてのまとめ	1
特別支援教育センター	ホームページ	研修講座案内及び報告、刊行物・図書の紹介（目標値年間10000view）	随時
図書館	福島県立図書館要覧	県立図書館の概要と前年度の実績等を掲載	1
	ホームページ	展示、イベント情報、調べ方案内等、図書館関連情報を随時更新	随時
美術館	ホームページ	企画展等の事業計画を取りまとめ、随時掲載	随時

博物館	ホームページ	展覧会・イベント情報、事業の実施報告等について	随時
会津自然の家	ホームページ	申請書・利用の手引き等企画事業の参加募集・実施結果・ボランティア募集・活動状況紹介、食堂メニューの紹介他	随時
いわき海浜自然の家	ホームページ	申請書・利用の手引き等企画事業の参加募集・実施結果・ボランティア募集・活動状況紹介、食堂メニュー紹介 他	随時

(3) その他SNSによる広報活動

課所館	SNSの種類	内 容
美術館	YouTube、X、Instagram	主催事業に関する情報等
博物館	Facebook、X	企画展、テーマ展、ポイント展、イベント等の開催告知等
	YouTube	展示解説、講座に関する動画
郡山自然の家	Facebook, Instagram, X、LINE、ふくしまマナビ i、県民カレッジ情報ボックス	企画事業の情報発信など
	YouTube	活動プログラムや利用上の注意
会津自然の家	Facebook, Instagram, X	主催事業の実施報告、日々の情報発信など
	YouTube	施設利用の説明動画、および企画事業内容プロモーション
いわき海浜自然の家	Facebook, Instagram, X	企画事業の情報発信など
	YouTube	利用方法・活動プログラム

7 記者発表及び資料提供(投げ込み)件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
記者会見	1	-				-	1	1	1		1		5
記者発表		1		1									2
資料提供	19	10	16	27	15	17	28	27	21	30	19	29	258

8 教育フォーラム

(1) タイトル

令和6年度教育フォーラム 体験しよう！「学びの変革」～演劇教育・哲学対話ワークショップ～

(2) 主催

福島県教育委員会

(3) 目的

「福島ならではの教育」の一つとして広がりつつある「哲学対話」「演劇教育」を県民が実際に体験することで、本県が取り組む「学びの変革」への理解を醸成する機会とする。

(4) 開催日時

令和6年12月20日（金）9:15～12:00

(5) 会場

福島県庁 本庁舎 正庁

(6) 開催形態

参集により実施

(7) 活動内容

ア コミュニケーション教育についての概略

イ ワークショップ：演劇教育「猪苗代高校との実践」

ウ 講話：「教育現場における哲学対話」

ワークショップ：哲学対話「どこからが友達？」

(8) 出席者

ア 参加希望者 20名

イ 講師 3名

教育総務課長 柗木 渉

PAVLIC わたなべ なおこ（演劇教育）

福島大学教授 小野原 雅夫（哲学対話）

ウ 福島県教育委員会 10名 他

大沼 博文（県教育委員会教育長）

高橋 理里子（県教育委員会委員）

吉津 健三（県教育委員会委員）

平塚 健三（県教育委員会委員）

横田 純子（県教育委員会委員）

伊藤 賢一（理事兼政策監）

箱崎 兼一（教育次長）

関場 智彦（教育庁参事）

柗木 渉（教育総務課長）

エ 実践協力校 猪苗代高等学校 15名（内引率教員1名）

9 「ふくしま教育の日」啓発推進事業

県民の教育に対する理解、関心を高め、学校教育、社会教育及び文化の充実、発展を期するため、平成15年3月にふくしま教育の日条例を制定し、ふくしま教育の日（11月1日）及びふくしま教育週間（11月1日～7日）を設けている。当該期間を含むその前後の期間において「教育の日」の趣旨にふさわしい取組が実施されるよう、市町村や関係機関に働きかけた。

10 「県庁に みんなの声を 届けよう！」プロジェクト

子どもたちの県政に対する理解と関心を深めるとともに、将来の復興の主体としての意識を喚起することを目的として実施し、子どもたちが福島の新しい仕事について考え、提案することで、将来自分たちがどんな仕事をしながら福島で暮らすかをシミュレーションし、福島の魅力について理解を深めるとともに、その成果を知事や教育長の前で発表することにより、県政に子どもが参画する機会とした。あわせて、危機管理センターを見学することで、災害から身を守り、安全・安心に暮らすことについて自分事として考える機会とした。

(1) テーマ

今ある仕事を未来につなぐ

～ ふくしまにあったらいいな、こんな仕事 ～

(2) 主催 福島県教育委員会

(3) 開催日時 令和6年7月25日（木）9:00～12:00

(4) 会場 福島県庁 北庁舎 危機管理センター

(5) 参加者

小学5・6年生や引率者など24名 他

(6) 内容

ア 意見交換（グループワーク）

イ 意見発表（知事・教育長等の前で発表、質疑応答）

ウ 知事講評

エ 県庁内の見学（危機管理センター）

オ 修了式

第5節 調査統計

令和6年度において実施した調査統計事業は、次のとおりである。

1 地方教育費調査（一般統計）

この調査は、令和5会計年度において、学校教育、社会教育、生涯学習関連における県及び市町村（教育事務組合を含む。）から支出された経費並びに授業料等の収入実態及び地方教育行政機関の組織等の状況を明らかにし、教育諸施策を検討・立案するための基礎資料を得ることを目的として文部科学省が実施したものである。

2 社会教育調査（基幹統計）

この調査は、県・市町村教育委員会及び公私立の社会教育施設の職員、施設、事業実施状況、施設の保有状況並びに利用状況等の実態を総合的に調査する。

3 進路状況等に関する調査

この調査は、中学校、義務教育学校及び高等学校生徒の進路希望及び卒業後の状況を調査し、進路指導及び高等学校の適正配置計画並びに課程・学科等の整備計画の基礎資料を得ることを目的とした県単独調査である。

第6節 教職員の給与

令和6年度の給与改定については、災害応急手当の新設に伴う給与条例の一部改正が、令和6年6月県議会定例会において提案され、議決・公布された。

また、令和6年10月2日の県人事委員会給与勧告に基づく給与月額及び諸手当の改定に伴う給与条例の一部改正が、令和6年12月議会及び令和7年2月議会において提案され、それぞれ議決・公布された。

その概要は次のとおりである。

1 給料関係

(1) 給料月額（令和6年4月1日適用）

全ての給料表において、若年層に特に重点を置いて給料月額が引き上げられた。

(2) 昇格時号給対応表（令和6年4月1日適用）

給料表の改定に伴い、昇格時号給対応表の一部が改められた。

(3) 降格時号給対応表（令和6年4月1日適用）

給料表の改定に伴い、降格時号給対応表の一部が改められた。

2 給料関係（給与制度のアップデート）

(1) 給料月額（令和7年4月1日適用）

給料月額の最低水準が引き上げられるとともに、部次長級、部長級については、職責重視の給与体系に見直された。

(2) 号給の切替表（令和7年4月1日適用）

給料表の改定に伴い措置された。

(3) 昇格時号給対応表（令和7年4月1日適用）

給料表の改定に伴い、昇格時号給対応表の一部が改められた。

(4) 降格時号給対応表（令和7年4月1日適用）

給料表の改定に伴い、降格時号給対応表の一部が改められた。

3 諸手当関係（給与制度のアップデートを含む）

(1) 寒冷地手当（令和6年4月1日適用）

支給月額 11.3%引き上げ

(2) 宿日直手当（令和6年4月1日適用）

手当額 100 円引き上げ

(3) 地域手当（令和7年4月1日適用）

- ・級地区分及び支給割合の見直し
- ・支給割合の引上げ・引下げは4年間で段階的に実施
- ・異動保障の期間を異動後3年間に延長

(4) 扶養手当（令和7年4月1日適用）

配偶者に係る手当を廃止し、子に係る手当を増額（2年間で段階的に実施）

扶養手当		令和7年度	令和8年度以降
配偶者	行政職給料表7級以下相当	3,000 円	廃止
	行政職給料表8級相当	廃止	
子（1人につき）		11,500 円	13,000 円

(5) 通勤手当（令和7年4月1日適用）

- ・交通機関等利用者に対する全額支給限度額の引上げ（64,000 円⇒150,000 円）
- ・新幹線等の利用に係る支給要件（通勤時間 30 分以上の短縮）の廃止

(6) 単身赴任手当（令和7年4月1日適用）

採用時から支給可能とするよう見直し

(7) 寒冷地手当（令和7年4月1日適用）

支給地域の改定及び指定公署に係る居住地要件の廃止

(8) 管理職員特別勤務手当（令和7年4月1日適用）

平日深夜に係る支給対象時間帯を午後10時から翌日午前5時まで拡大

(9) 定年前再任用短時間勤務職員等の諸手当（令和7年4月1日適用）

新たに特勤手当、特勤手当に準ずる手当、へき地手当、へき地手当に準ずる手当及び寒冷地手当を支給

(10) 期末・勤勉手当（令和6年12月1日適用）

支給割合が次のとおり改められた。

◎一般職員

	区分	6 月期	12 月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.225 ヶ月	1.225 ヶ月	2.45 ヶ月	計
	勤勉手当	1.000 ヶ月	1.000 ヶ月	2.00 ヶ月	4.45 ヶ月
改正後 (6年度)	期末手当	1.225 ヶ月	1.275 ヶ月	2.50 ヶ月	計
	勤勉手当	1.000 ヶ月	1.100 ヶ月	2.10 ヶ月	4.60 ヶ月
(7年度)	期末手当	1.250 ヶ月	1.250 ヶ月	2.50 ヶ月	計
	勤勉手当	1.050 ヶ月	1.050 ヶ月	2.10 ヶ月	4.60 ヶ月

◎特定幹部職員

	区分	6 月期	12 月期	年間支給割合	
改正前	期末手当	1.025 ヶ月	1.025 ヶ月	2.05 ヶ月	計
	勤勉手当	1.200 ヶ月	1.200 ヶ月	2.40 ヶ月	4.45 ヶ月
改正後 (6年度)	期末手当	1.025 ヶ月	1.075 ヶ月	2.10 ヶ月	計
	勤勉手当	1.200 ヶ月	1.300 ヶ月	2.50 ヶ月	4.60 ヶ月
(7年度)	期末手当	1.050 ヶ月	1.050 ヶ月	2.10 ヶ月	計
	勤勉手当	1.250 ヶ月	1.250 ヶ月	2.50 ヶ月	4.60 ヶ月

(11) 特殊勤務手当（令和6年1月1日適用）

大規模な災害が発生した際に、県外の被災地において、避難している児童生徒に対して、夜間生活指導、学習指導及び衛生確保の作業を行った場合に支給する災害応急作業等手当を新設。

第 7 節 附属機関等

1 福島県社会教育委員の会議

根拠法令

社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）第 15 条並びに福島県社会教育委員の委嘱の基準、定数及び任期に関する条例（昭和 24 年福島県条例第 56 条）

目的

社会教育に関する諸計画を立案するとともに教育委員会の諮問に応じ、意見を述べたり必要な研究調査を行ったりし、社会教育に関して教育長を経て教育委員会に助言する。

(1) 福島県社会教育委員		任期 令和 6 年 6 月 20 日～令和 8 年 6 月 19 日	
区 分	氏 名	役 職 名	備 考
学校教育関係者	菅家 篤	小学校長会（会津坂下町立坂下南小学校長）	
	渡部 学	中学校長会（南会津町立南会津中学校長）	
	加藤 香洋	高等学校長協会（福島県立川俣高等学校長）	
	植田 貴子	特別支援学校長会（福島県立相馬支援学校長）	
社会教育関係団体の関係者	松本 美紀	福島県公民館連絡協議会 会長（白河中央公民館長）	
	國分 球子	福島県市町村社会教育委員連絡協議会（郡山市社会教育委員）	
	鈴木 崇史	福島県 P T A 連合会 副会長	
	増子 恵二	福島県家庭教育インストラクター連絡協議会 会長	
	金野 博子	ガールスカウト福島県連盟 連盟長	
	佐藤 靖弘	福島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 幹事長	
家庭教育関係者	吉川 和夫	郡山市ふれあい科学館 特定事業専門員	副議長
学識関係者	木暮 照正	福島大学地域未来デザインセンター 教授	議長
	瀬谷真理子	郡山女子大学家政学部生活科学科 教授	
	本多 環	福島大学地域未来デザインセンター 客員教授	
公 募	千葉登美子	NPO法人ふくしま震災孤児・遺児をみまもる会 心と子育て相談員	
	須藤 基子	社会福祉士	

(2) 定例会の開催

ア 第 1 回定例会

(ア) 日時 令和 6 年 7 月 12 日(金)
自治会館 3 階 大会議室

(イ) 内容

- a 辞令交付
- b 報告事項
令和 6 年度社会教育に関する主要施策・事業及び進捗状況について
- c 審議事項
本県における社会教育推進の在り方について

イ 第 2 回定例会

(ア) 日時 令和 7 年 3 月 10 日(月)
本庁舎 5 階 正庁

(イ) 内容

- a 報告事項
令和 6 年度社会教育関係事業報告について
令和 7 年度社会教育関係主要施策・事業（案）について
- b 審議事項
本県における社会教育推進の在り方について

2 福島県文化財保護審議会

(1) 福島県文化財保護審議会委員

任期 令和5年4月1日～令和7年3月31日

氏 名	所 属 等	担 当 分 野	備 考
阿部 俊夫	(元)郡山女子大学短期大学部准教授・地方史研究協議会	古文書・歴史資料	副会長
荒木 志伸	山形大学基盤教育院教授・東北史学会・日本考古学協会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
歌川 史哲	いわき市アンモナイトセンター研究員・日本古生物学会 日本地質学会	天然記念物(地質鉱物・古生物)	
遠藤 ゆり子	淑徳大学教授・東北史学会・日本古文書学会 東国戦国史研究会・地方史研究協議会・歴史学研究会	古文書・書跡・典籍	
狩野 勝重	(元)日本大学教授・工学博士・日本建築学会・ 伝統建築文化推進協議会・文化財景観保全調査室(個人事務所)	建造物・伝統的建造物群	
佐藤 琴	山形大学学術研究院教授・美術史学会・国際浮世絵学会	絵画	
鈴木 俊行	一般社団法人日本樹木医会福島県支部理事兼事務局長 樹木医学会・日本桜学会	天然記念物(植物)	会 長
高橋 あけみ	(元)仙台市博物館副館長・美術史学会・漆工史学会 ・茶の湯文化学会	工芸品・染織	
竹原 明秀	岩手大学名誉教授・日本生態学会・植生学会・日本植物学会	天然記念物(植生)	
丹野 香須美	福島県立勿来高等学校・いわき市文化財保護審議会委員・ 南相馬市文化財保護審議会委員・広野町文化財保護審議会委員 ・日本民俗学会・女性民俗学会	有・無形民俗文化財	
辻 秀人	東北学院大学名誉教授・日本考古学協会・福島県考古学会・ 全日本博物館学会	考古資料・史跡・埋蔵文化財	
塘 忠顕	福島大学教授・日本動物学会・日本昆虫学会・日本発生物学会	天然記念物(動物)	
藤井 英二郎	千葉大学名誉教授・日本庭園学会・日本造園学会	史跡・名勝(庭園)	
守谷 早苗	東北史学会・国史談話会・福島県史学会	歴史資料	
若林 繁	(元)東京家政大学教授・美術史学会	彫刻	

(2) 会議

ア 第1回審議会

- (ア) 期日 令和6年9月2日(月)
- (イ) 場所 福島県庁西庁舎 教育委員室
- (ウ) 内容
 - a 福島県指定文化財候補諮問案件等の審議
 - b 報告事項

イ 第2回審議会

- (ア) 期日 令和7年2月5日(水)
- (イ) 場所 福島県自治会館 大会議室
- (ウ) 内容
 - a 福島県指定文化財候補諮問案件等の審議
 - b 令和7年度県指定文化財の候補について
 - c 報告事項

第 8 節 市町村教育委員会

1 概要

本県の市町村教育委員会数は、令和 6 年 5 月 1 日現在、13 市 46 町村 1 組合の計 60 である。

県教育委員会は、市町村教育委員会連絡協議会、都市教育長協議会、町村教育長協議会等との密接な連絡、連携のもとに、教育行政の適正な事務の執行と管理に努めている。

2 組織

令和 6 年 5 月 1 日現在、県内各市町村教育委員会の教育長及び教育長職務代理者は次のとおりである。

教育委員会名	教育長	職務代理者
県北(8)		
福島市	佐藤 秀美	渡邊慎太郎
伊達郡川俣町	佐久間裕晴	高橋 友憲
伊達市	渡部 光毅	関根 勝富
伊達郡桑折町	佐藤 浩哉	柴田 宣広
伊達郡国見町	菊地 弘美	高橋 幸子
二本松市	渡辺 惣吾	佐藤 英之
安達郡大玉村	渡辺 敏弘	齋藤雄一郎
本宮市	松井 義孝	谷 明子
県中(12)		
郡山市	小野 義明	藤田 浩志
須賀川市	森合 義衛	佐浦 雅明
岩瀬郡鏡石町	渡部 修一	添田 健男
岩瀬郡天栄村	長場 壮夫	小針 克彦
石川郡石川町	小玉 陽彦	福田 量次
石川郡玉川村	岡崎 寛人	石井 隆士
石川郡平田村	有賀 真道	三本松久美子
石川郡浅川町	真田 秀男	富永 善弘
石川郡古殿町	渡邊 宏文	矢内 忠徳
田村市	飯村 新市	船田 隆典
田村郡三春町	添田 直彦	太田 文枝
田村郡小野町	有賀 仁一	間野 泰博
県南(9)		
白河市	芳賀 祐司	高橋 顕
西白河郡西郷村	秋山 充司	勝又千賀子
西白河郡中島村	面川 三雄	高久 美央
西白河郡矢吹町	大杉 和規	後藤さとみ
西白河郡泉崎村	鈴木 一正	関谷 正文
東白川郡棚倉町	荒川 文雄	石井 義紀
東白川郡塙町	秦 公男	山本津也子
東白川郡矢祭町	菊池 篤志	佐川 幸信
東白川郡鮫川村	藤田 充	阿久津光市
会津(13)		
会津若松市	寺木 誠伸	秋山 理恵
耶麻郡磐梯町	高梨 哲夫	南部あゆみ
耶麻郡猪苗代町	宇南山忠明	涌井 靖
喜多方市	佐川 正人	高橋 明子
耶麻郡北塩原村	石本 浩一	五十嵐房子
耶麻郡西会津町	五十嵐正彦	高橋 誠
河沼郡会津坂下町	鈴木 茂雄	内海真喜子
河沼郡湯川村	佐原 健一	常法寺萬人
河沼郡柳津町	神田 順一	鈴木 礼
大沼郡会津美里町	歌川 哲由	小関れい子
大沼郡三島町	山口 浩	五十嵐豊子
大沼郡金山町	滝沢 敬樹	渡部 佳恵
大沼郡昭和村	栗村 良輔	五十嵐麻裕子
南会津(5)		
南会津郡南会津町	川島 敬章	河原田信弘
南会津郡下郷町	湯田 嘉朗	白石 光史
南会津郡檜枝岐村	平野 好道	平野 公樹
南会津郡只見町	渡部 公三	渡部 欣也
南会津地方広域市町村圏組合	川島 敬章	湯田 嘉朗
相双(12)		
相馬郡新地町	佐々木孝司	高崎 義典
相馬市	福地 憲司	宗形 明子
南相馬市	大和田博行	渡辺 金作
相馬郡飯舘村	遠藤 哲	高橋 祐一
双葉郡浪江町	笠井 淳一	大清水久雄
双葉郡葛尾村	松本 忠孝	渡辺 政廣
双葉郡双葉町	舘下 明夫	山本真理子
双葉郡大熊町	佐藤 由弘	松岡 保夫
双葉郡富岡町	岩崎 秀一	猪狩いづみ
双葉郡川内村	堀本晋一郎	渡邊 健二
双葉郡檜葉町	青木 洋	宇佐神正道
双葉郡広野町	根本 良政	渡邊 昇
いわき(1)		
いわき市	服部 樹理	根本紀太郎

3 令和6年度市町村教育委員会援助指導の概要

県教育委員会は、市町村教育委員会教育長会議、新任教育委員研修会を開催するとともに、教育行政関係の諸資料等を配布して県内市町村教育委員会への支援に努めた。

(1) 令和6年度福島県市町村教育委員会教育長会議

- ア 主催 福島県教育委員会
- イ 期日 令和6年4月11日(木)
- ウ 会場 本庁舎5階 正庁
- エ 出席者 市町村教育委員会教育長 59名
- オ 内容
令和6年度教育庁各課(室)・所の重点施策の説明

(2) 令和6年度福島県市町村教育委員会新任教育委員研修会

- ア 主催 福島県市町村教育委員会連絡協議会
福島県教育委員会
- イ 期日 令和6年11月27日(水)
- ウ 会場 本庁舎5階 正庁
- エ 参加者 令和5年11月27日以降に就任された委員及び、それ以前に就任し未参加の委員 23名
- オ 内容
 - 講話
 - ・演題 「教育委員に期待するもの」
 - ・講師 福島県教育委員会教育長 大沼 博文
 - 講話
 - ・演題 「教育委員に求められる構えと職責」
 - ・講師 元福島県市町村教育委員会連絡協議会副会長 藤田 克彦
 - 協議
 - ・協議題
「地域の教育課題及び教育委員にできること」
 - ・コーディネーター
福島県教育庁職員課管理主事 田中 知

第9節 職員団体との話し合い

令和6年度における「福島県教職員組合」「福島県高等学校教職員組合」「福島県立高等学校教職員組合」「福島県学校事務労働組合」との話し合いのうち、主なものは次のとおりである。

1 福島県教職員組合

(1) 令和6年4月25日

- ア 子育て・家族看護休暇制度の周知について
- イ 定年引上げ制度について
- ウ 高速道路利用7日ルールについて
- エ 少人数学級について
- オ 通級指導及び特別支援学級について
- カ スクールサポートスタッフの配置及び勤務について
- キ 時間外勤務について
- ク 部活動の地域移行について
- ケ 特別支援学級への非常勤講師配置について

(2) 令和6年11月7日

- ア 一時金の支給月額引き上げについて

- イ 教育予算の増額について
- ウ 高速道路利用7日ルールについて
- エ 教職員志願者を増やす方策について
- オ 休日の部活動の地域移行について
- カ 同一疾病における病気休暇の取得要件について

(3) 令和6年11月18日

- ア 採用試験の状況について
- イ 代替補充者について
- ウ 教職員多忙化解消アクションプランⅡの総括について
- エ 勤務時間の上限規制について
- オ 子育て・家族看護休暇制度について
- カ 学校事務職員の昇任について
- キ 暫定再任用職員の業務負担について
- ク スクールサポートスタッフの全校配置について
- ケ 会津地区、南会津地区における出張について

2 福島県高等学校教職員組合

(1) 令和6年4月26日

- ア 県立高等学校改革後期実施計画について
- イ 充実した教育環境の保障について
- ウ 普通教室以外の冷房装置の促進について
- エ PCのリース契約終了に伴う代替措置について
- オ 再任用教職員の月例給並びに期末勤勉手当について
- カ 高速自動車道の利用条件の緩和について
- キ 単身赴任手当の支給要件の緩和について
- ク 働き方改革アクションプランについて
- ケ ネットワーク回線切り替えについて
- コ 教頭の多忙化解消について

(2) 令和6年11月11日

- ア ICT支援員の配置について
- イ スクールサポートスタッフの職務について
- ウ 児童生徒の学習環境の充実について
- エ 冷房の設置について
- オ 校内ネットワーク環境の整備について
- カ 働き方改革に対する各校の温度差について

(3) 令和6年11月19日

- ア 県立高等学校改革後期実施計画について
- イ 35人学級の導入の検討について
- ウ 再任用教職員の月例給・期末勤勉手当について
- エ 時間外勤務時間について
- オ ネットワーク更新作業について
- カ 校務用端末の校外への持ち出しについて
- キ 高校における部活動の地域移行について
- ク 高体連専門委員長の校務負担の軽減について
- ケ 教職員働き方改革アクションプランの実践について
- コ 育児短時間勤務の要件緩和について
- サ 需用費等の上限の引上げについて

3 福島県立高等学校教職員組合

(1) 令和6年4月26日

- ア 人事異動に伴う移転料について
- イ 週休日に実施している業務について
- ウ 再任用職員の労働条件引上げについて
- エ 11時間勤務インターバル制度について
- オ 寄宿舎指導員と寄宿舎監督者について
- カ 標準時数超過時の業務削減の監督について
- キ 教職員公舎の状態について
- ク 会計年度任用職員の休暇制度について
- ケ 教職員働き方改革アクションプランについて
- コ 部活動の大会等の精選について

(2) 令和6年11月11日

- ア 宿日直手当について
- イ リフレッシュ休暇について
- ウ 勤務の割り振り変更について
- エ 時間講師の待遇改善について
- オ 持ち帰り仕事の把握について
- カ 自宅等でのグーグルドライブへのアクセスについて
- キ 在校等時間の記録について

(3) 令和6年11月19日

- ア 定年延長職員の待遇について
- イ 暫定再任用職員の待遇について
- ウ 11時間勤務インターバル制度について
- エ 新たな職階について
- オ 30単位時間を標準とする教育課程について
- カ 働き方改革推進委員会について
- キ 在校等時間の上限規制について
- ク 勤務の割り振り変更について
- ケ 部活動手当について
- コ 部活動の大会等の精選について

4 福島県学校事務労働組合

(1) 令和6年4月25日

- ア 主任主査の人数について
- イ 公務貢献について
- ウ 高齢者部分休業について
- エ 高速道路利用の「7日ルール」について
- オ 暫定再任用者の現任地任用について
- カ 事務処理の簡素化について
- キ 臨時的任用職員の特別休暇の運用について
- ク 学校徴収金について
- ケ 子育て・家族看護休暇制度の周知について

(2) 令和6年11月7日

- ア 主任主査の昇任拡大について
- イ 公務貢献について
- ウ 勤勉手当の支給率について
- エ 教職員働き方改革アクションプランについて
- オ 留守番電話の設置について
- カ 臨時的任用職員の特別休暇の運用について
- キ 国や他県から採用になった職員の年休の引き継ぎについて
- ク 育児休暇、子育て・家族看護休暇の「子」の範囲について

(3) 令和6年11月18日

- ア 公務貢献について
- イ 再任用職員の職場について
- ウ 再任用短時間勤務職員について
- エ 期限付職員の正規採用について
- オ 障がい者の雇用について
- カ 定数内欠員補充について
- キ 学校給食費の公会計化について
- ク 国や他県から採用になった職員の年休の引き継ぎについて

第10節 審査請求事件及び訴訟事件

1 審査請求事件

令和7年3月31日現在、審査請求事件として審理中のものは0件、令和6年度中に裁決があったものは1件であり、その概要は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
不利益処分取消請求事件	令4.6.10	令4.5.20付け懲戒処分についてその取消しを請求	公立学校 教員	令6.6.25 裁決 (請求棄却)

2 訴訟事件

令和7年3月31日現在、訴訟事件として係属中のものは1件、令和6年度中に和解があったものは1件であり、その概要及び進行状況等は下表のとおりである。

請求事件名	請求年月日	請求の内容	請求者	備考
損害賠償請求事件	令4.9.2	勤務校でのパワハラによる早期退職等の損害賠償を請求	元公立学校 教員	令6.12.17 和解
損害賠償請求事件	令6.8.8	勤務校でのパワハラの被害が認められなかったことによる損害賠償を請求	元公立学校 教員	係属中

第 11 節 公益法人等の指導等並びに公益信託の状況

1 公益法人等

令和 7 年 3 月 31 日現在、県教育委員会の所管に属する公益法人等は 45 法人である。

各法人から事業報告書・収支決算書、事業計画書、収支予算書等の提出を求めた。

法人ごとの内訳は下表のとおり。

法人種別	所管する 法 人 数	令和 6 年度に公益法人又は 一般法人に移行した法人数
公益財団法人	25	0
公益社団法人	2	0
一般財団法人	15	0
一般社団法人	2	0
特例民法法人	1	—
計	45	0

2 公益信託

令和 7 年 3 月 31 日現在、県教育委員会の所管に属する公益信託は 3 件である。

なお、令和 6 年度新たに引き受けを許可した公益信託はない。

第 12 節 表彰及び叙勲

令和 6 年度教育・文化関係表彰式は、令和 6 年 1 1 月 2 2 日(金)に杉妻会館、令和 7 年 2 月 3 日(月)に杉妻会館において行われた。

また、文部科学大臣による地方教育行政功労者表彰式は、令和 6 年 1 0 月 1 0 日(木)文部科学省講堂、また、教育者表彰式は令和 6 年 1 1 月 2 7 日(水)文部科学省講堂において行われた。

1 教育・文化関係表彰

(1) 地方教育行政功労者(5 名)

田村市教育委員会教育長	飯村 新市
西郷村教育委員会委員	佐藤 敏巳
(前)南会津町教育委員会教育長	星 英雄
(前)新地町教育委員会委員	高崎 義典
(前)南相馬市教育委員会委員	渡辺 金作

(2) 学校教育功労者(16 名)

福島市立福島第四小学校長	石幡 良子
福島市立福島第一中学校長	板橋 竜男
福島市立松陵中学校長	阿部 洋己
二本松市立二本松第一中学校長	佐藤 隆宏
白河市立白河第一小学校長	西牧 泰彦
白河市立白河第二中学校長	小野 聡
会津若松市立第三中学校長	長谷川浩文
相馬市立中村第一小学校長	横山 修
南相馬市立原町第一中学校長	塙 広治
いわき市立平第一小学校長	大内 克之
福島県立橘高等学校	菊池 直之
福島県立福島工業高等学校長	山内 義美
福島県立福島南高等学校長兼	
福島県立ふくしま新世高等学校長	味原 正美
福島県立葵高等学校長	尾形 幸男
福島県立聴覚支援学校長	西村 則昌
福島県立大笹生支援学校長	西牧 辰典

(3) 社会教育関係

ア 社会教育功労者(3 名)	
(元)福島県婦人団体連合会理事	松本トミ子
泉崎村社会教育委員長	古宇田榮増
湯川村社会教育委員委員長	菊地 正孝
イ 功績顕著な団体・施設(3 団体・1 施設)	
〈社会教育団体〉	
石川町立野木沢小学校 P T A	
いわき市立豊間小学校父母と先生の会	
只見町昔ばなしの会	
〈社会教育施設〉	
二本松市岩代公民館	

(4) 文化財保護関係

ア 文化財保護功労者(2 名)	
福島県文化財保護審議会委員	守谷 早苗
会津若松市文化財保護審議会委員	渡邊 明

(5) 学校体育・学校保健関係

ア 学校保健功労者(4 名)	
田村市立船引小学校 他 学校歯科医	佐藤賢次郎
田村市立船引南中学校 他 学校医	遠藤 正達
福島県立湖南高等学校 学校薬剤師	本田喜己江
福島県立会津工業高等学校 他 学校歯科医	大村 公士

(6) へき地教育関係

ア へき地教育功労者(1 名)	
南会津町立田島中学校長	室井 正之
イ 功績顕著な団体(2 団体)	
西会津町立西会津中学校	
只見町立明和小学校	

(7) 特別支援教育関係

ア 特別支援教育功労者(2 名)	
福島市立鎌田小学校長	熊谷 賀久

福島県立だて支援学校長

本田 知史

二本松市立二本松第一中学校長

佐藤 隆宏

福島県立聴覚支援学校長

西村 則昌

(8) 永年勤続関係

	小学校	中学校	県立学校	教育庁	計
校 長	18	12	4		34
教頭、副校長	34	18	9		61
教員等	135	112	136		383
教育庁				15	15
計	187	142	146	15	493

(9) 特別功績者

ア 児童・生徒(団体)の部(3団体)

- 郡山市立郡山第二中学校管弦楽部
- 福島県立ふたば未来学園中学校男子バドミントン部
- 福島県立ふたば未来学園中学校女子バドミントン部

イ 優秀教職員の部(19名)

福島市立三河台小学校	教 諭	野口 卓也
本宮市立岩根小学校	教 諭	菅野 健彦
三春町立岩江小学校	主 査	宗像 裕美
西郷村立熊倉小学校	養護教諭	荒井真紀子
中島村立滑津小学校	教 諭	渡辺美千代
南会津町立田島小学校	主 査	阿久津恵利子
いわき市立平第三小学校	主幹教諭	野辺田真実
福島市立松陵中学校	教 諭	早乙女まゆみ
二本松市立二本松第一中学校	主任主査	吉田 豊
天栄村立天栄中学校	教 諭	善方 昭博
棚倉町立棚倉中学校	教 諭	山澤 秀樹
会津若松市立第三中学校	養護教諭	渡部かおり
西会津町立西会津中学校	栄養教諭	山口 郁恵
相馬市立中村第一中学校	教 諭	渡部 兼介
福島県立福島南高等学校	教 諭	西田 直人
福島県立白河高等学校	教 諭	小野寺洋子
福島県立会津学鳳高等学校	教 諭	宮田 貴志
福島県立いわき総合高等学校	教 諭	伊藤沙緒里
福島県立須賀川支援学校	教 諭	日野 有里

ウ 若手教職員奨励の部(2名)

郡山市立金透小学校	教 諭	小島 望
福島市立吾妻中学校	教 諭	難波 元生

エ 優秀教職員(団体)の部

- 福島市立三河台小学校教職員
- 福島県立田村高等学校教職員

2 文部科学大臣表彰

(1) 地方教育行政功労者表彰(5名)

(元)桑折町教育委員会教育長	会田 智康
天栄村教育委員会教育委員	清水 栄一
西郷村教育委員会教育委員	勝又千賀子
猪苗代町教育委員会教育長	宇南山忠明
(元)飯舘村教育委員会委員	菅野 クニ

(2) 教育者表彰(3名)

福島市立福島第四小学校長	石幡 良子
--------------	-------

3 春・秋・高齢者叙勲、死亡叙位・叙勲

(1) 令和6年春の叙勲

ア 瑞宝小綬章

本間 稔(教育功労)	元福島県立福島高等学校長)
大竹 正志(教育功労)	元福島県立福島明成高等学校長)

イ 瑞宝双光章

滝田 文夫(教育功労)	元郡山市立郡山第一中学校長)
渡辺 博志(教育功労)	元伊達市立保原小学校長)
吉田 雄二(教育功労)	元相馬市立中村第一小学校長)
高屋 隆男(教育功労)	元福島県立聾学校長)
渡部 岩男(教育功労)	元南会津町立田島中学校長)
滝沢 玲子(教育功労)	元会津坂下町立坂下南小学校長)

(2) 令和6年秋の叙勲

ア 瑞宝小綬章

箱崎二三彦(教育功労)	元福島県立会津高等学校長)
齋藤 貢一(教育功労)	元福島県立郡山東高等学校長)

イ 瑞宝双光章

市川 正道(教育功労)	元郡山市立郡山第二中学校長)
佐久間光春(教育功労)	元田村市立船引小学校長)
安藤 俊典(教育功労)	元福島県立盲学校長)
川島 宏(教育功労)	元会津若松市立第四中学校長)
本田 樹(教育功労)	元会津若松市立謹教小学校長)
岡崎 忠昭(教育功労)	元伊達市立桃陵中学校長)

(3) 高齢者叙勲(令和6年4月1日～令和7年3月1日発令)

ア 瑞宝小綬章(教育功労)

長久保宏人(元福島県立保原高等学校長)
西間木俊夫(元福島県立船引高等学校長)
鈴木 圭介(元福島県立田島高等学校長)

イ 瑞宝双光章(教育功労)

齋藤 壽(元福島市立西信中学校長)
佐々木澄子(元いわき市立江名小学校長)
須田 昭次(元塩川町立堂島小学校長)
長階 大(元新地町立福田小学校長)
根本 正(元いわき市立草野小学校長)
伊東 博(元本宮町立本宮第二中学校長)
草野 博夫(元原町市立石神中学校長)
根本 忠義(元棚倉町立棚倉中学校長)
渡邊喜八郎(元郡山市立安積中学校長)
岩井 肇(元須賀川市立西袋中学校長)
木村 澄男(元塙町立塙中学校長)
千葉 昇(元二本松市立原瀬小学校長)
大槻 太(元国見町立藤田小学校長)
大平 健次(元いわき市立小名浜第二中学校長)
岸 眞(元双葉町立双葉中学校長)
松淵 四郎(元福島市立信夫中学校長)
若林 正一(元河東町立河東中学校長)

佐藤勝三郎（元矢吹町立三神小学校校長）
 高橋昭悟郎（元郡山市立宮城中学校校長）
 湯田 厚（元本郷町立本郷中学校校長）
 遠藤 忖（元郡山市立桑野小学校校長）
 金内啓四郎（元西郷村立米小学校校長）
 長谷川慶一郎（元会津坂下町立金上小学校校長）
 渡邊 貞雄（元東和町立下太田小学校校長）
 宇佐美忠良（元大熊町立大熊中学校校長）
 渡部 義久（元猪苗代町立吾妻中学校校長）
 大槻 高仁（元飯野町立飯野中学校校長）
 福田 睦之（元新鶴村立新鶴小学校校長）
 古川 將男（元郡山市立白岩小学校校長）
 諸橋 恒夫（元須賀川市立第一小学校校長）
 飯沼 保良（元保原町立松陽中学校校長）
 江尻 茂男（元いわき市立平第二中学校校長）
 佐々木 理（元福島市立蓬萊中学校校長）
 鈴木 剛之（元郡山市立安子島小学校校長）
 高木 啓子（元いわき市立豊間小学校校長）
 森田 慶一（元会津若松市立永和小学校校長）
 吉田 尊夫（元須賀川市立第三小学校校長）
 阿部 幸治（元郡山市立高瀬中学校校長）
 薄井 賢一（元須賀川市立西袋第一小学校校長）
 菊地 庄意（元喜多方市立上三宮小学校校長）
 朽木 耕作（元福島市立平野中学校校長）
 佐藤 達雄（元西会津町立新郷中学校校長）
 丹野 鐵生（相馬市立山上小学校校長）
 前田 権（福島県立遠野高等学校校長）

(4) 死亡叙位・叙勲

《令和6年度》

ア 従五位・瑞宝小綬章

遠藤 時夫（元福島県立相馬女子高等学校校長）
 廣瀬 敬彦（元福島県立会津高等学校校長）
 荒 盛一（元福島県立福島商業高等学校校長）

イ 従五位

中村 正直（元福島県立小野高等学校校長）
 小河 徹也（元伊達町立伊達中学校校長）
 村越 亮（元東村立釜子小学校校長）
 小野 哲司（元福島県立湯本高等学校校長）
 渡邊 一朗（元福島県立安積女子高等学校校長）

ウ 正六位・瑞宝双光章

伏見 幸子（元原町市立大甕小学校校長）
 坂内 明生（元伊達市立伊達小学校校長）
 安齋 牧夫（元会津若松市立一箕小学校校長）
 古関 良一（元福島市立平石小学校校長）
 水井 俊雄（元鹿島町立上真野小学校校長）
 大西 進（元猪苗代町立東中学校校長）
 上遠野清志（元いわき市立小名浜第三小学校校長）
 高木 仁（元いわき市立大浦小学校校長）
 三浦 仁（元塩川町立塩川小学校校長）

下重 秀俊（元白河市立白河第二中学校校長）
 吉井 明生（元郡山市立安積中学校校長）
 五十嵐 貢（元猪苗代町立猪苗代小学校校長）
 近藤作多子（元福島県矢祭町立内川小学校校長）
 石幡 清朗（元福島市立野田小学校校長）
 堀江 通（元福島県国見町立藤田小学校校長）
 高根 勇次（元福島県中島村立吉子川小学校校長）
 藤田 秀平（元いわき市立磐崎中学校校長）

エ 正六位

今野昭八郎（元鹿島町立上真野小学校校長）
 中山 智夫（元船引町立船引中学校校長）
 橋本 壽己（元郡山市立上伊豆島小学校校長）
 阿部 昌雄（元富岡町立富岡第一小学校校長）
 橋谷田光雄（元いわき市立草野中学校校長）
 大崎萬太郎（元湯川村立勝常小学校校長）
 箭内 幸男（元須賀川市立柏城小学校校長）
 舘 美文（元須賀川市立第一中学校校長）
 宗像 精（元会津若松市立第一中学校校長）
 行方多利十（元須賀川市立西袋中学校校長）
 木村 澄男（元塙町立塙中学校校長）
 善方 一夫（元須賀川市立第三中学校校長）
 五十嵐 實（元河東町立河東第三小学校校長）
 増子 衆雄（元長沼町立長沼中学校校長）
 堀川 利夫（元相馬市立中村第一中学校校長）
 田村賢一郎（元西郷村立熊倉小学校校長）
 堀金 軍治（元田島町立荒海小学校校長）
 大知里重政（元郡山市立芳山小学校校長）
 玉川 武（元会津坂下町立坂下小学校校長）
 中澤 千早（元須賀川市立西袋中学校校長）
 今村 隆光（元原町市立原町第三小学校校長）
 市川 善明（元いわき市立内郷第一中学校校長）

カ 従六位

横山 成雄（元福島市立野田小学校校長）
 三本松 隆（元北会津村立荒舘小学校校長）
 岩橋 紀男（元猪苗代町立猪苗代中学校校長）
 増淵 弘志（元表郷村立表郷小学校校長）
 草野 博夫（元原町市立石神中学校校長）
 山野邊喜勝（元福島県猪苗代町立猪苗代小学校校長）
 山内 徳次（元会津若松市立行仁小学校校長）
 阿部 郁夫（元いわき市立平第一中学校校長）

キ 正七位

三戸 邦一（元いわき市立平第三中学校校長）

第13節 奨学育英

1 福島県奨学資金

(1) 貸与金額

区 分	貸 与 月 額		
高等学校	国公立	自宅	18,000 円
		自宅外	23,000 円
	私 立	自宅	30,000 円
		自宅外	35,000 円
高等専門学校	18,000 円		
大 学	国公立	35,000 円	
	私 立	40,000 円	
入学一時金（H25 ～）	（一括貸与）		500,000 円

(2) 令和6年度の貸与状況

ア 募集期間

(ア) 在学採用

令和6年4月入学以降～6月30日

(イ) 震災特例採用

令和6年4月入学以降～6月30日

イ 奨学生決定

(ア) 在学採用

令和6年8月19日（高等学校）

令和6年8月19日（大学・高等専門学校）

(イ) 震災特例採用

令和6年8月19日

ウ 貸与状況

区 分	継続貸与	新規貸与		計
		応募者	貸与者	
高等学校 （うち震災特例）	78 人 (18 人)	51 人 (3 人)	51 人 (3 人)	129 人 (21 人)
大 学 高等専門学校	108 人	29 人	29 人	137 人
大学等 入学一時金	—	20 人	20 人	20 人
計	186 人	100 人	100 人	286 人

2 福島県高等学校定時制課程及び通信制課程 修学資金貸与制度

(1) 貸与月額

定時制課程

1～4 学年 14,000 円

通信制課程

1～4 学年 14,000 円

(2) 令和6年度の貸与状況

学 年 別	定時制	通信制	計
1 年 生	0 人	0 人	0 人
2 年 生	0 人	0 人	0 人
3 年 生	0 人	0 人	0 人
4 年 生	0 人	0 人	0 人
計	0 人	0 人	0 人

第 3 章 教育財政

第 1 節 令和 6 年度決算

1 歳入

(1) 一般会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
分 担 金 及 び 負 担 金		0	0.0
	負 担 金	0	0.0
使 用 料 及 び 手 数 料		3,848,016	7.0
	使 用 料	3,745,448	6.8
	手 数 料	97,239	0.2
国 庫 支 出 金		35,358,631	68.2
	国 庫 負 担 金	27,347,168	50.0
	国 庫 補 助 金	9,869,486	18.0
	委 託 金	136,520	0.2
	交 付 金	5,457	0.0
財 産 収 入		252,622	0.5
	財 産 運 用 収 入	28,936	0.1
	財 産 売 払 収 入	223,686	0.4
寄 附 金		15,870	0.0
	寄 附 金	15,870	0.0
繰 入 金		8,731,264	15.9
	特 別 会 計 繰 入 金	106,172	0.2
	基 金 繰 入 金	8,625,092	15.7
諸 収 入		361,509	0.7
	預 金 利 子	0	0.0
	貸 付 金 元 利 収 入	0	0.0
	受 託 事 業 収 入	117,923	0.2
	収 益 事 業 収 入	58,181	0.1
	雑 入	185,405	0.3
県 債		4,185,300	7.6
	県 債	4,185,300	7.6
計		54,753,212	100.00

(2) 福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

款	項	決算額	%
国庫支出金	国庫補助金	0	0.0
繰入金	繰入金	0	0.0
	一般会計繰入金	31,014	9.2
	基金繰入金	25,974	7.7
繰越金	繰越金	5,040	1.5
	繰越金	34,984	10.4
諸収入	預金利子	34,984	10.4
	貸付金元利収入	269,674	80.0
	雑収入	72	0.0
財産収入	貸付金元利収入	266,950	79.2
	雑収入	2,652	0.8
	財産運用収入	1,448	0.4
	財産運用収入	1,448	0.4
計		337,120	100.0

2 歳出

(1) 県予算に占める教育費

(単位：千円)

区 分	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
県 予 算	1,238,107,758	100.0	1,386,893,858	100.0	1,234,032,517	100.0
教 育 費	228,115,975	18.5	231,002,695	16.7	223,184,104	18.1
教 育 委 員 会 所 管 分	192,737,331	15.6	197,201,344	14.2	190,953,354	15.5
知 事 部 局 所 管 分	35,378,644	2.9	33,801,351	2.4	32,230,750	2.6
教 育 委 員 会 所 管 分 総 務 費	0	0.0	2,233	0.0	2,233	0.0
教 育 委 員 会 所 管 分 災 害 復 旧 費	337,266	0.0	387,647	0.0	263,576	0.0

(最終予算額及び決算額には繰越分を含む)

(2) 教育委員会所管目的別予算及び決算状況

(単位：千円)

区 分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
総 務 費	0	0.0	2,233	0.0	2,233	0.0
総 務 管 理 費	0	0.0	2,233	0.0	2,233	0.0
諸 費	0	0.0	2,233	0.0	2,233	0.0
教 育 費	192,737,331	99.9	197,201,344	99.8	190,953,354	99.9
教 育 総 務 費	27,030,024	14.1	30,774,184	15.6	29,683,246	15.5
教 育 委 員 会 費	10,167	0.0	10,167	0.0	8,957	0.0
事 務 局 費	5,319,106	2.8	5,268,068	2.7	5,169,071	2.7
財 務 管 理 費	2,256,508	1.2	2,258,497	1.1	1,756,109	0.9
義 務 教 育 指 導 費	909,376	0.5	4,143,626	2.1	4,089,461	2.0
教 職 員 福 利 厚 生 費	17,024,613	8.8	17,732,074	9.0	17,345,379	9.1
育 英 費	324,164	0.2	206,807	0.1	185,930	0.1

区 分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
恩 給 及 び 退 職 年 金 費	30,583	0.0	26,915	0.0	24,971	0.0
教 育 セ ン タ ー 費	1,140,781	0.6	1,114,041	0.6	1,090,149	0.6
特 別 支 援 教 育 セ ン タ ー 費	14,726	0.0	13,989	0.0	13,219	0.0
小 学 校 費	55,884,355	28.9	55,508,679	28.1	55,395,528	29.0
教 職 員 費	55,884,355	28.9	55,508,679	28.1	55,395,528	29.0
中 学 校 費	35,947,113	18.6	35,984,440	18.2	35,873,896	18.8
教 職 員 費	35,947,113	18.6	35,984,440	18.2	35,873,896	18.8
高 等 学 校 費	48,285,968	25.0	48,699,989	24.6	47,124,518	24.6
教 職 員 費	33,034,779	17.1	33,175,925	16.8	33,056,356	17.3
高 等 学 校 指 導 費	761,065	0.4	903,411	0.5	808,144	0.4
高 等 学 校 管 理 費	12,282,942	6.4	12,312,147	6.2	11,060,740	5.7
施 設 等 整 備 費	509,606	0.3	491,809	0.2	489,504	0.3
農 業 高 等 学 校 実 習 費	209,237	0.1	211,340	0.1	197,194	0.1
水 産 高 等 学 校 実 習 費	273,119	0.1	273,119	0.1	256,382	0.1
3～6 安積中高一貫校整備費	1,215,220	0.6	1,332,238	0.7	1,256,198	0.7
特 別 支 援 学 校 費	22,265,985	11.5	23,171,617	11.7	20,089,634	10.5
特 別 支 援 学 校 費	2,884,432	1.5	2,762,839	1.4	2,510,307	1.3
教 職 員 費	14,605,931	7.5	14,813,465	7.5	14,754,346	7.7
3～6 双葉地区特別支援学校整備費	2,342,180	1.2	2,853,401	1.4	2,379,742	1.2
5～7 安達地区特別支援学校整備費	2,433,442	1.3	2,741,912	1.4	445,239	0.2
社 会 教 育 費	2,483,070	1.3	2,347,874	1.2	2,151,383	1.1
社 会 教 育 総 務 費	352,349	0.2	297,802	0.2	237,745	0.1
図 書 館 費	71,856	0.0	86,046	0.0	75,322	0.0
自 然 の 家 費	433,454	0.2	439,382	0.2	410,674	0.2
文 化 振 興 費	1,000	0.0	1,000	0.0	1,000	0.0
文 化 財 保 護 費	506,076	0.3	413,377	0.2	375,123	0.2
美 術 館 費	387,864	0.2	372,869	0.2	354,009	0.2
博 物 館 費	427,388	0.2	438,839	0.2	386,414	0.2
文 化 財 セ ン タ ー 費	303,083	0.2	298,559	0.2	298,096	0.2
保 健 体 育 費	840,816	0.4	714,561	0.4	635,149	0.4
保 健 体 育 総 務 費	359,086	0.2	353,918	0.2	345,325	0.2
学 校 保 健 費	222,210	0.1	215,801	0.1	167,911	0.1
体 育 振 興 費	259,520	0.1	144,842	0.1	121,913	0.1
災 害 復 旧 費	337,266	0.2	387,647	0.2	263,576	0.1
文 教 施 設 災 害 復 旧 費	337,266	0.2	387,647	0.2	263,576	0.1
公 立 文 教 施 設 災 害 復 旧 費	337,266	0.2	387,647	0.2	263,576	0.1
計	193,074,597	100.0	197,591,224	100.0	191,219,163	100.0

(3) 福島県奨学資金貸付金特別会計

(単位：千円)

区 分 (款・項・目)	当初予算額	%	最終予算額	%	決算額	%
奨学資金貸付事業費	386,022	100.0	325,332	100.0	317,606	100.0
奨学資金貸付事業費	386,022	100.0	325,332	100.0	317,606	100.0
貸付金	329,112	85.3	199,307	61.3	192,605	60.7
償還金	200	0.1	200	0.1	66	0.0
事務費	20,102	5.2	19,652	6.0	18,763	5.9
一般会計繰出金	36,608	9.5	106,173	32.6	106,172	33.4
計	386,022	100.0	325,332	100.0	317,606	100.0

第2節 学校教育施設

1 県立学校

(1) 学校建設の概要

令和6年5月1日現在の県立学校の現況は、別表のとおりである。全体を構造的に見ると、鉄筋コンクリート造が74.6%、鉄骨その他造が23.6%と非木造建物が98.2%を占めており、木造建物が1.8%となった。

別表 県立学校建物の現況（R6.5.1） [確定値]

区 分		中学校		高等学校		特別支援学校		計	
		面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比
校 舎	R	m ² 7,586	% 100.0	m ² 636,128	% 85.9	m ² 96,210	% 93.2	m ² 739,924	% 86.9
	S	0	0.0	91,110	12.3	5,064	4.9	96,174	11.3
	W	0	0.0	13,565	1.8	2,001	1.9	15,566	1.8
	計	7,586	100.0	740,803	100.0	103,275	100.0	851,664	100.0
体 育 館	R	1,297	100.0	31,145	17.9	6,726	55.6	39,168	20.9
	S	0	0.0	141,576	81.5	5,369	44.4	146,945	78.6
	W	0	0.0	937	0.5	0	0.0	937	0.5
	計	1,297	100.0	173,658	100.0	12,095	100.0	187,050	100.0
寄 宿 舎	R	0	0.0	11,304	57.6	3,577	66.7	14,881	59.5
	S	0	0.0	7,628	38.8	62	1.2	7,690	30.8
	W	0	0.0	703	3.6	1,721	32.1	2,424	9.7
	計	0	0.0	19,635	100.0	5,360	100.0	24,995	100.0
計	R	8,883	100.0	678,577	72.6	106,513	88.2	793,973	74.6
	S	0	0.0	240,314	25.7	10,495	8.7	250,809	23.6
	W	0	0.0	15,205	1.6	3,722	3.1	18,927	1.8
	計	8,883	100.0	934,096	100.0	120,730	100.0	1,063,709	100.0

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては、除外している。

双葉、浪江、浪江津島校、富岡、双葉翔陽、須賀川支援（本校舎）

※構成比率は小数点第2位以下四捨五入

※特別支援学校には視覚・聴覚支援学校面積を含む。

(2) 令和6年度事業実績

ア 高等学校施設整備事業

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	県 費	その他
長寿命化事業	11	福島東、会津学鳳、岩瀬農業、光南、修明、猪苗代、平工業、白河、郡山東、会津西陵、喜多方	千円 721,496	千円 0	千円 569,100	千円 152,396
県立高等学校 再編整備事業	10	小名浜海星、二本松実業、白河実業、会津農林、南会津、伊達、いわき総合、船引、平商業、福島西	千円 2,432,754	千円 443,924	千円 1,557,500	千円 431,330
安積中高一貫校 整備事業	1	安積高校	千円 1,200,987	千円 288,675	千円 808,400	千円 103,912
合 計	22		4,355,237	732,599	2,935,000	687,638

イ 特別支援学校施設整備事業

事 項	校数	学 校 名	事 業 費 (決算額)	財 源 内 訳		
				国 庫	県 費	その他
長寿命化事業	1	聴覚支援平校	千円 5,622	千円 0	千円 0	千円 5,622
特別支援学校 整備事業	3	ふたば支援、あだち支援、南会津支援（仮称）	千円 6,121,287	千円 692,543	千円 2,710,400	千円 2,718,344
合 計	4		6,126,909	692,543	2,710,400	2,723,966

2 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校（市町村立分）

(1) 構造物保有面積

令和6年5月1日現在 [確定値]

区 分		小学校		中学校		小・中学校計		特別支援学校		幼稚園	
		面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比
校 舎	R	m ² 1,336,641	% 97	m ² 844,793	% 96	m ² 2,181,434	% 97	m ² 5,686	% 85	m ² 24,719	% 26
	S	28,972	2	21,351	2	50,323	2	0	0	35,056	37
	W	16,081	1	11,916	1	27,997	1	968	15	34,638	37
	計	1,381,694	100	878,060	100	2,259,754	100	6,654	100	94,413	100
屋 内 運 動 場	R	150,376	45	138,119	56	288,495	50	720	100	0	0
	S	178,872	54	105,688	43	284,560	49	0	0	0	0
	W	2,768	1	1,365	1	4,133	1	0	0	0	0
	計	332,016	100	245,172	100	577,188	100	720	100	0	0
寄 宿 舎	R	0	0	574	77	574	77	0	0	0	0
	S	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	W	0	0	172	23	172	23	0	0	0	0
	計	0	0	746	100	746	100	0	0	0	0
計	R	1,487,017	87	983,486	88	2,470,503	87	6,406	87	24,719	26
	S	207,844	12	127,039	11	334,883	12	0	0	35,056	37
	W	18,849	1	13,453	1	32,302	1	968	13	34,638	37
	計	1,713,710	100	1,123,978	100	2,837,688	100	7,374	100	94,413	100

R 鉄筋コンクリート造、 S 鉄骨その他造、 W 木造

※一部仮設校舎を使用している学校及び別敷地に仮設建物等を用いて学校を開設しているものについては、除外している。

双葉町

※構成比率は小数点以下四捨五入

※各町村立学校の面積等においては、施設台帳管理システムにて入力された内容を参照した。

※義務教育学校については、前期課程専用部分は小学校に、後期課程専用部分は中学校に、共用部分は各々按分して計上した。

(2) 公立学校施設整備事業（市町村分実績額）

令和6年度

区 分	単年度		国庫債務負担行為	
	学校数	負担金及び 交付金 (千円)	学校数	負担金及び 交付金 (千円)
校舎の 新增築	—	—	1	257,673
統合	1	257,673	—	—
不適格建物の 改築	—	—	—	—
大規模 改造	88	428,498	—	—
地震補強	—	—	—	—
危険改築	1	188,919	—	—
防災機能 強化	16	227,454	—	—
太陽光 発電等	1	15,209	—	—
長寿命化 改良	6	297,303	—	—
計	(延べ校数) 113	1,415,056	(延べ校数) 1	257,673

※対象学校種別：幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校等

第3節 産業教育設備整備事業

産業教育施設・設備の整備

高等学校産業教育施設・設備等整備

県立高等学校における産業教育のための設備促進を図った。
令和6年度における実施状況は次のとおりである。

設備

県単独事業

老朽設備の整備 162,709 千円

第4節 理科教育振興法補助事業

令和6年度の設備現有状況は次のとおりである。

1 理科設備

学校規模別設備現有状況 令和7年3月31日現在

区分 規模別	学校 数	基準金額	現有金額	現有 率
	校	円	円	%
高校	70	7,117,320,000	983,530,035	13.8
小 計	70	7,117,320,000	983,530,035	13.8
視覚支援学校	1	102,594,000	5,571,330	5.4
聴覚支援学校	4	155,914,000	9,858,192	6.3
特別支援学校	19	747,342,000	37,880,420	5.1
小 計	24	1,005,850,000	53,309,942	5.3

2 算数・数学設備

学校規模別設備現有状況 令和7年3月31日現在

区分 規模別	学校 数	基準金額	現有金額	現有 率
	校	円	円	%
高校	70	163,310,000	63,460,555	38.9
小 計	70	163,310,000	63,460,555	38.9
視覚支援学校	1	2,731,000	42,400	1.6
聴覚支援学校	4	5,863,000	616,445	10.5
特別支援学校	19	23,850,000	4,605,870	19.3
小 計	24	32,444,000	5,264,715	16.2

第5節 情報処理設備整備事業

令和6年度における事業実施状況は次のとおりである。

県単独事業

教育用コンピュータの整備

県立高校 68 校（リース・保守） 326,593 千円

第6節 体育施設

1 公立学校施設整備費補助（学校体育諸施設補助）

令和6年度における補助事業実施状況は次のとおりである。

(1) 水泳プール（屋外）

設置者名	施設名	面積（㎡）	交付金額（千円）
湯川村	笈川小学校	400	8,688
湯川村	勝常小学校	400	8,968

(2) 中学校武道場

設置者名	施設名	面積（㎡）	交付金額（千円）
該当なし			

2 社会体育施設整備費補助

令和6年度における補助事業実施状況は次のとおりである。

(1) 地域スポーツセンター

設置者名	施設名	面積（㎡）	交付金額（千円）
喜多方市	塩川体育館	1	4,764

第4章 教育の情報化

第1節 基盤整備

県立学校、図書館、美術館及び博物館等の教育関係機関が専用イントラネット及び電子メール等のインターネットサービスを利用できるよう、平成11年度から「うつくしま教育ネットワーク」、平成28年度から「ふくしま教育クラウドサービス」を運用し利便性の維持・向上を図っている。

令和6年度にはクラウド基盤を整備し、校務系・学習系ネットワークの統合を行うとともに、福島県GIGAスクール運営支援センター業務を立ち上げ、次世代校務DXの推進に注力した。「学びの変革」と「学校の在り方の変革」を支えるため支援メニューを充実させ、教育の質の向上を図った。

また、学びの変革に必要なICT環境として、各県立学校の教育情報ネットワークの充実や、県立高校の普通教室に大型提示装置の整備を行った。

Webシステムについては、情報発信の強化と作業の効率化を図るため、福島県のWebシステム及びConnect-CMSを活用したCMS（コンテンツ・マネジメント・システム）により運用し、県立学校を含む教育庁機関及び希望する市町村教育機関のWebサイトによる情報公開を支援した。

県立学校の教職員が校務に使用するパソコンについて、令和5年度から令和7年度にかけてWindows10のサポート期限到来に備え、校務用と指導用の端末の一本化及び特別支援学校の校務用端末の更新・配備を行っている。

県立学校では、令和2年度に整備した統合型校務支援システム及び勤怠管理システムの運用、維持管理を行った。また市町村立学校については、令和元年に「市町村立学校統合型校務支援システムの在り方検討協議会」において決定した県推奨システムを、市町村ごとに判断の上、整備している。

過去10年間の県立学校校務用パソコンの整備状況

年度	教職員PC配備実績
H27	0台
H28	228台 ※1
H29	2,517台 ※2
H30	1,767台 ※2
R1	1,608台 ※2
R2	0台
R3	0台
R4	0台
R5	20台 ※3
R6	779台 ※3

※1 Windows Vista サポート終了に伴う更新等

※2 Windows 7 サポート終了に伴う更新

※3 耐用年数超過及びWindows10 サポート終了に伴う更新

学校の基盤整備状況（小・中・高・特別支援学校）

項目	福島県	全国平均
児童生徒1人あたりの学習者用コンピュータ台数	1.1台	1.1台
無線LAN又は移动通信システム(LTE等)によりインターネット接続を行う普通教室の割合	99.8%	99.4%
インターネット接続状況(ベストエフォート型のうち接続回線速度(帯域)1Gbps以上)	91.3%	86.9%
インターネット接続状況(ギランティ型のうち接続回線速度(帯域)1Gbps以上)	16.7%	84.0%
普通教室の大型提示装置整備率	94.1%	91.0%
教員の校務用コンピュータ整備率	135.6%	131.2%
教員の指導用コンピュータ整備率	129.3%	137.3%
統合型校務支援システム整備率	93.8%	94.8%

文部科学省調べ（令和6年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（令和7年3月現在）（確定値））

第2節 人材の育成・活用

すべての教員のICT活用指導力の向上を目指して、研修の充実を図っている。令和5年度からは、「福島県版ICT活用ハンドブック2022」（B6判）を配布している。

また、整備されたICT環境を有効に活用し、各学校でICTを利活用した教育の進展を支援するために、県立学校にICT支援員を配置した。支援内容として、ICT機器の活用支援やメンテナンス支援を担った。配置拠点校13校には週4～5回程度の支援を行い、それ以外の県立学校には希望により訪問する形式とし、支援を行った。

人材の育成状況

項目	福島県	全国平均
教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	89.6%	90.7%
授業にICTを活用して指導する能力	79.0%	82.2%
児童生徒のICT活用を指導する能力	80.4%	83.1%
情報活用の基礎となる知識や態度について指導する能力	87.9%	89.2%
令和6年度中にICT活用指導力の状況の各項目に関する研修を受講した教員の割合	64.3%	71.9%

文部科学省調べ（令和6年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果（令和7年3月現在）（確定値））

第5章 義務教育

第1節 概要

今年度は、県内の小・中学校児童生徒の学力の向上を図るため、「一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業」を基軸とし、「理数教育優秀教員活用事業」や「ふくしまっ子の可能性を伸ばす支援事業」を推進した。また、少人数教育充実のために、30人程度学級又は少人数指導の教員を配置するなど、各市町村教育委員会への支援を通して、各小・中学校における日々の授業の工夫改善を図り、学力向上に努めた。

生徒指導関係では、小学校127校、中学校194校、義務教育学校9校に文部科学省事業による緊急スクールカウンセラーを配置し、いじめ問題や不登校等の学校不適應問題への指導援助の強化を図った。さらに、教育相談研修会や各種連絡協議会を開催し、教職員の資質の向上を図った。

第2節 学校管理

1 児童生徒数・学級数と教職員定数

(1) 小学校

年 度	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
本 校	468	458	452	444	436	428	417	401	388	381	370
分 室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分 校	5	5	5	5	7	7	6	6	4	4	3
計	473	463	457	449	443	435	423	407	392	385	373
前 差	△4	△10	△6	△8	△6	△8	△12	△16	△15	△7	△12

(2) 令和6年度の学級数別学校数（小学校） ※休校が3校（分校2校含む）あり、0学級になる（5/1時点）。

学級数別	0学級	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	1	60	161	94	47	7	370
分 室	—	—	—	—	—	—	—
分 校	2	1	—	—	—	—	3
計	3	61	161	94	47	7	373
構成比	0.8	16.3	43.2	25.2	12.6	1.9	100

(3) 中 学 校 ※平成19年度から県立中学校を含む。

年 度	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
本 校	229	224	223	221	219	219	216	211	205	203	196
分 室	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
分 校	—	—	—	—	2	2	2	2	—	—	1
計	229	224	223	221	221	221	218	213	205	203	197
前 差	△3	△5	△1	△2	0	0	△3	△5	△8	△2	△6

(4) 令和6年度の学級数別学校数（中学校） ※休校なし（5/1時点）。

学級数別	0学級	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	—	74	70	41	9	2	196
分 室	—	—	—	—	—	—	—
分 校	—	1	—	—	—	—	1
計	0	75	70	41	9	2	197
構成比	0	38.1	35.5	20.8	4.6	1	100

(5) 義務教育学校 ※令和6年度、義務教育学校は新設なし。

年 度	R元	R2	R3	R4	R5	R6
本 校	2	3	6	7	7	9
計	2	3	6	7	7	9
前 差	1	1	3	1	0	2

(6) 令和6年度の学級数別学校数（義務教育学校）

学級数別	1～5学級	6～11学級	12～18学級	19～24学級	25学級以上	合 計
本 校	—	5	3	1	—	9
計	—	5	3	1	—	9
構成比	0	55.6	33.3	11.1	0	100

(7) 公立幼稚園の設置状況

年 度	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
園 数	191	184	166	154	149	133	128	123	118	110	99
園児数	8,005	7,590	6,603	6,205	6,197	6,010	5,505	5,029	4,458	3,960	3506

(8) 小学校児童数・学級数の推移

年 度	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
児 童	96,776	94,686	92,449	90,657	88,781	86,521	85,862	85,017	84,412	83,082	81,728
学 級	4,721	4,668	4,600	4,552	4,510	4,458	4,032	4,059	4,068	4,097	4,130

年 度	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
単 式	4,103	4,019	3,883	3,814	3,716	3,615	3,172	3,190	3,167	3,161	3,135
複 式	215	209	225	201	199	207	201	179	178	169	172
特別支援	403	440	492	537	595	636	659	690	723	767	823

(9) 中学校生徒数・学級数の推移

年 度	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
生 徒	54,929	53,608	52,194	50,306	48,473	46,992	45,758	45,050	43,980	43,147	42,207
学 級	2,238	2,209	2,127	2,070	2,036	1,992	1,733	1,716	1,702	1,711	1,712

年 度	26	27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5	R6
単 式	1,997	1,953	1,861	1,792	1,729	1,670	1,409	1,399	1,366	1,347	1,319
複 式	8	8	12	11	12	14	14	11	8	8	7
特別支援	233	248	254	267	295	308	310	306	328	356	386

(10) 義務教育学校児童生徒数・学級数の推移

年 度	R2	R3	R4	R5	R6
児童・生徒	492	1,411	1,397	1,374	1,784
学 級	32	74	78	82	84

年 度	R2	R3	R4	R5	R6
単式	21	58	60	61	62
複式	3	3	4	5	6
特別支援	8	13	14	16	16

(11) 小・中・特別支援学校条例定数の推移

年 度		27	28	29	30	R元	R2	R3	R4	R5	R6	R7
小 学 校	教 員	6,944	6,850	6,812	6,752	6,707	6,634	6,587	6,532	6,508	6,613	6,434
	事 務 職 員	467	458	455	443	433	415	408	396	392	396	379
	充 指 導 主 事	26	27	29	29	28	29	30	29	27	27	27
	補 充 教 職 員	321	309	257	260	251	236	222	232	254	274	293
	県単独負担教員	141	155	153	162	153	167	156	158	134	112	107
	学 校 栄 養 職 員	123	121	121	122	118	119	124	122	120	119	115
中 学 校	教 員	4,337	4,241	4,240	4,127	4,075	4,040	3,977	3,905	3,864	3,925	3,831
	事 務 職 員	229	244	241	230	219	208	209	211	207	210	209
	充 指 導 主 事	35	40	40	39	40	39	39	39	41	41	41
	補 充 教 職 員	167	167	163	132	124	117	103	97	99	109	116
	県単独負担教員	151	143	144	134	136	118	110	108	122	144	139
	学 校 栄 養 職 員	69	70	74	72	67	66	65	65	66	65	66
市立特別支援学校	教 員	39	32	30	30	60	64	59	63	63	66	71
	事 務 職 員	2	2	2	2	4	4	4	4	4	4	4
	補 充 教 職 員	7	6	6	7	7	6	6	5	5	5	6
	県単独負担教員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	学 校 栄 養 職 員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

2 教職員人事・任用

令和6年度人事異動方針

教育に対する県民の期待と要望に応え、第7次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するとともに、東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故からの復興に向けた取組を進め、本県教育の一層の充実と向上発展を目指すためには、適正な人事配置により各学校の教職員組織及び教育庁職員組織を活性化し、教職員の志気の高揚を図らなければならない。

福島県教育委員会は、この実現のため、下記の方針に基づき人事異動を行うものである。

I 基本方針

- 1 全県的視野に立ち、適材を適所に配置し、教育効果及び行政効果の向上を図る。
- 2 教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と均衡に努めるとともに、第7次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る。
- 3 厳正かつ適正な人事を行い、各学校の教職員及び教育庁職員の志気の高揚を図る。
- 4 教育に対する県民の信頼と期待に応えるため、事の公平性・公正性・透明性の確保に一層努める。
- 5 東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故に伴う様々な課題に対して適切に対応するための教員配置等を継続し、復興に向けた取組を進める。

II 重点

- 1 市町村立学校関係
 - (1) 教育の充実を図るため、有能適格な教職員の採用に努めるとともに有為な人材を登用する。
教職員組織の充実と均衡を図るため、計画的な異動を推進する。
 - (2) 特別支援教育及びへき地教育の充実を図るため、適任者を配置するとともに適正な異動を行う。
 - (3) 管理監督の立場となる職への登用に当たっては、その職責の重要性に鑑み、適任者を厳選し、適所に配置する。
- 2 令和7年度公立小・中学校人事(令和7年3月末公表)
 - (1) 異動件数
異動件数 3,023 件(前年度 2,772 件) で 251 件の増加となった。
 - (2) 採用について
本年度は 495 名(小学校教諭 288 名、中学校教諭 167 名、養護教諭 22 名、事務職員 15 名、栄養職員 3 名)を新規に採用した。
 - (3) 異動について
各学校の均衡を図るため、免許状、年齢構成、性別等に考慮して、努めて広域にわたるとともに、各地域の実態に応じ、都市、へき地等相互間の計画的な異動を積極的に行うようにした。
 - (4) 昇任について
ア 管理職への昇任は校長 93 名(小学校 60 名、中学

校 33 名、義務教育学校 0 名、前年度比 43 名増)、教頭 96 名(小学校 56 名、中学校 30 名、義務教育学校 9 名、特別支援学校 9 名、前年度比 22 名増)、計 189 名で、前年度より 65 名増加した。

イ 副校長は小学校 2 名、中学校 2 名、義務教育学校 6 名の計 10 名を、主幹教諭は小学校 11 名、中学校 8 名(県立中 2 名を含む)、義務教育学校 1 名の計 20 名を登用した。

ウ 女性教員の管理職登用に意を用いた。小学校長 60 名、中学校長 9 名、義務教育学校 2 名、小学校教頭 77 名、中学校教頭 19 名、義務教育学校 3 名、特別支援学校 0 名に加え、主幹教諭 6 名を登用した。

エ 教頭の昇任は受考者 119 名に対し、96 名で昇任率は 80.7%となっている。

(5) 退職について

ア 定年引き上げにより、令和6年度末の退職者数は 638 名で前年度に比べ 358 名の増である。

イ 退職者の内訳は定年退職者 301 名、勸奨による退職者 0 名、普通退職者 337 名となっている。

ウ 退職者中、校長は 72 名(小学校 45 名、中学校等 27 名)、教頭は 9 名となっている。

3 教育職員免許状の授与状況

令和6年度中に本県で授与した教育職員免許状は、総数で 1,529 件あり前年度より 60 件増となっている。

普通免許状は、前年度より 41 件増で 1342 件、特別免許状は 1 件増で 1 件、臨時免許状は 18 件増で 186 件授与した。

普通免許状のうち令和6年度大学卒業者の占める割合は、77.6%で、1,041 件となっている。

免許状の種類別授与件数は、次のとおりである。

小学校教諭専修免許状	12件
同 一種免許状	121件
同 二種免許状	44件
中学校教諭専修免許状	25件
同 一種免許状	222件
同 二種免許状	14件
高等学校教諭専修免許状	32件
同 一種免許状	355件
幼稚園教諭専修免許状	3件
同 一種免許状	81件
同 二種免許状	290件
特別支援学校教諭専修免許状	1件
同 一種免許状	48件
同 二種免許状	67件
養護教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	5件
同 二種免許状	8件
栄養教諭専修免許状	0件
同 一種免許状	7件
同 二種免許状	7件

特別支援学校自立活動教諭一種免許状 ……	0件
高等学校教諭特別免許状 ……………	1件
小学校助教諭免許状 ……………	118件
中学校助教諭免許状 ……………	22件
高等学校助教諭免許状 ……………	32件
幼稚園助教諭免許状 ……………	3件
特別支援学校助教諭免許状 ……………	10件
特別支援学校自立教科助教諭免許状 ……	0件
養護助教諭免許状 ……………	1件

4 学校の設置及び統廃合

地域社会における過疎・過密化の進行に伴い地域の事情に応じた教育諸条件の整備充実が図られてきた。学校規模の適正化もその一つであり、地域にあった設置、廃止が計画的に進められている。

公立小・中・義務教育学校の設置・廃止

	廃止（令和7.3.31）	設置（令和7.4.1）
小学校	福島市立松川小学校 福島市立金谷川小学校 福島市立下川崎小学校	
	石川町立野木沢小学校	
	喜多方市立熱塩小学校 喜多方市立加納小学校	喜多方市立熱塩加納小学校
	金山町立金山小学校 金山町立横田小学校	金山町立かねやま小学校
中学校	福島市立松陵中学校	
義務教育学校		松陵義務教育学校

5 学校防火

学校火災は、公有財産を消失し、児童生徒に精神的な打撃を与え学校教育の質の低下を招くとともに、教育行政を停滞させるなど、社会に及ぼす物心両面の影響はきわめて大きい。

県教育委員会は、市町村教育委員会の協力のもと、次の観点から、各学校における防火体制を再点検し、その強化を図っているところである。

- ・ 学校防火計画及び防火診断の内容と方法の改善
- ・ 木造校舎を中心とする防火上の施設設備の充実と整備方法の改善
- ・ 児童生徒及び教育関係者の防火意識の高揚と防火訓練の強化

令和6年度の学校火災は、前年度に引き続き、市町村立小・中・義務教育学校・特別支援学校における発生が0件であった。今後とも学校火災の絶無を期するよう努める。

また、昭和50年度以降の県内の学校火災は原因別にみると、放火又は放火の疑い、火遊び、たばこの不始末など生徒指導上の問題と関連の深い火災が多く、防火の面からも生徒指導の一層の充実と強化を図る必要がある。なお、原因不明による火災が突出している。

次に、学校の警備状況を見ると、その多くが機械警備となっており、機械が探知した火災情報の確認から消火活動に至るまで、関係者の連携が一層迅速になるよう検討し、改善を図っていくことが重要である。

さらに、灯油、アルコール、シンナー等の燃えやすい物質や混合爆発、発火等の可能性の高い毒劇物・危険物等薬品の保管については、防火上のみならず、防犯上からも厳重な管理を徹底していくことが必要である。

令和6年度の学校防火診断の概要及び学校管理の状況は次のとおりである。

(1) 令和6年度公立小・中・義務教育学校・特別支援学校防火診断項目

- ア 防火体制について
- イ 警備員、代行員の勤務状況について
- ウ 火気関係設備及び取り扱い状況について
- エ 電気設備について
- オ 消防用設備及びその管理について
- カ その他
 - ・ 諸表簿の管理状況
 - ・ 毒劇物・危険物等薬品の保管状況

(2) 学校防火診断の実施と活用

ア 各学校における防火診断に係る報告を集約し、実施状況や課題を確認した。

イ 学校事故防止対策研究協議会は開催できなかったが、各教育事務所から、防火診断の結果や実際の学校火災事例等をもとに、防火対策上必要な措置を市町村教育委員会及び各小・中・義務教育学校・特別支援学校に指導した。
※ 平成21年度より県教育委員会による研修を目的とした学校防火診断は実施しないこととしたが、市町村教育委員会と連携を図りながら、各学校における防火診断の適正な実施を行っていく。

6 へき地対策

(1) へき地学校の状況

ア へき地学校

教育事務所		級地		4 級		3 級		2 級		1 級		準 1 級		特 地		教育事務所指定		計	
		本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校	本校	分校
小 学 校	県 北									2						10		12	0
	県 中						2		3	1		1		1		18		23	3
	県 南								1							7		8	0
	会 津							3		5						3		11	0
	南会津							7		1						6		14	0
	相 双							1		2				1		3		7	0
	いわき									2						6		8	0
	計	0	0	0	0	13	0	16	1	0	1	1	1	1	1	53	0	83	3
中 学 校	県 北									1						8		9	0
	県 中							1		3						9		13	0
	県 南									1						4		5	0
	会 津							1		5						4		10	0
	南会津							4								3		7	0
	相 双							1		2				1		1		5	0
	いわき									2						3		5	0
	計	0	0	0	0	7	0	14	0	0	0	1	0	1	0	32	0	54	0
総計		0	0	0	0	20	0	30	1	0	1	2	1	85	0	137	3		
		0	0	0	0	20	0	31	1	0	1	3	0	85	0	140			

イ 特別へき地学校数、学級数、児童生徒数、教員数(休校中も含む)

	小学校												中学校												合計											
	学校数			児童数			学級数			教職員数			学校数			生徒数			学級数			教職員数			学校数			児童生徒数			学級数			教職員数		
級地	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計	本校	分校	計			
4 級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
3 級	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
2 級	13	0	13	390	0	390	50	0	50	165	0	165	7	0	7	219	0	219	23	0	23	126	0	126	20	0	20	609	0	609	73	0	73	291	0	291
1 級	16	1	17	889	0	889	84	0	84	250	0	250	14	0	14	622	0	622	54	0	54	240	0	240	30	1	31	1511	0	1511	138	0	138	490	0	490
準 1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0		
特 地	1	1	2	26	7	33	3	2	5	16	4	20	1	0	1	8	0	8	2	0	2	16	0	16	2	1	3	34	7	41	5	2	7	32	4	36
教 育 事 務 所 指 定	53	0	53	4427	0	4427	333	0	333	888	0	888	32	0	32	2588	0	2588	154	0	154	692	0	692	85	0	85	7015	0	7015	487	0	487	1580	0	1580
合計	83	3	86	5732	7	5739	470	2	472	1319	4	1323	54	0	54	3437	0	3437	233	0	233	1074	0	1074	137	3	140	9169	7	9176	703	2	705	2393	4	2397

(2) へき地教育の振興策

へき地の学校は、概して小規模であり、また、複式学級も多い。したがって、教育条件の改善充実を図るとともに、へき地学校に優秀な教員を確保することが緊要である。

ア へき地教育の人事行政

「令和 6 年度人事異動方針」第 1 の 2 において、「教育の機会均等の理念に立脚し、各学校の教職員組織の充実と

均衡に努めるとともに、第 7 次福島県総合教育計画に沿った教育施策を推進するため、教育庁職員組織の充実を図る」ことを基本として掲げ、これを受けて令和 6 年度小・中・特別支援学校教職員人事異動実施要項第 2 の 2 の (1) において「異動のための区分を設定し、すべての教職員を在職期間中に都市、平地、へき地の勤務を公平に経験させる」とし、へき地と各地域との計画的な異動の推

進を図った。

(ア) へき地異動の地域区分

県内の地域区分を次のとおりとする。

○ A地域 市の中心部で比較的交通の便のよい地区及び桑折町、国見町、鏡石町、石川町、浅川町、三春町、小野町、棚倉町、埴町、会津坂下町、会津美里町、富岡町の中心部の学校

○ B地域 A及びC地域以外の学校

○ C地域 へき地の学校(人事委員会・教育事務所指定の学校)

(イ) 異動基準

a へき地学校勤務については次の基準による。

○ へき地学校勤務未了者については、へき地学校へ計画的に転出させる。へき地学校勤務満了者であっても、へき地学校に勤務すべき該当者が少ない場合においては、へき地学校へ計画的に転出させる。

○ へき地学校勤務については、別表1による期間勤務した場合は満了とする。ただし、会津ブロック外出身者の会津ブロックへき地学校勤務については、別表2による。

○ すでに、へき地学校勤務満了者が、再び相当期間へき地学校に勤務し、都市又は平地の学校に転出を希望する者については考慮する。相当期間とは、2年以上とする。

別表1 (教員のへき地校勤務年数)

級別	教育事務 所指定の へき地	人事委員会指定へき地				
		特・ 準1級地	1 級地	2 級地	3 級地	4 級地以上
勤続 年数	4年以上	3年以上		2年以上		

別表2 (教員のへき地校勤務年数)

会津ブロック外出身者の 会津ブロックへき地 勤務年数 (新採は含まない)	へき地級地別	
	教育事務所指定	特・準1級地、 1級地以上
	3年以上	2年以上

b 他管内へき地等への計画的異動

小学校・中学校等に勤務する教員のうち、学習指導等実績のある優秀な教員を選考して、他管内へき地等の学校に計画的に異動させ、その教育実践を通して、県内全域の教育の振興・充実を図ることとした。異動先での勤務期間は3年以上である。また、異動先での勤務期間を良好な成績で勤務した者については、教頭昇任選考筆頭試験の一部(指導関係)を免除する施策もあわせて実施した。

イ へき地学校教職員の経済的優遇策

人事委員会指定のへき地学校等に勤務する教職員に対し、次の手当が支給される。

○ へき地手当等の支給

勤務するへき地学校等の級別区分に応じて、次のと

おり支給される。

級地	手 当 額	支給割合
4 級 地	(給料の月額+教職調整額 +扶養手当)×支給割合	20/100
3 級 地		16/100
2 級 地		12/100
1 級 地		8/100
準1級地		4/100

(注) 給料の月額=給料月額+給料の調整額

○ へき地手当に準ずる手当

へき地学校等又は特別の地域に所在する学校等(人事委員会指定)へ、異動に伴い住居を移転した場合に支給される。

・異動日から5年間

(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×4%

・5年を経過した後の1年間

(異動等の日における給料の月額+教職調整額+扶養手当)×2%

ウ へき地学校教職員の配置に対する特別措置

へき地教育振興法第4条の2項に「都道府県は、へき地学校に勤務する教員及び職員の決定について特別の考慮を払わなければならない。」とあり、本県としてもへき地学校教職員及び養護教員、事務職員等の配置について特別措置を講じている。

(3) 今後の問題点

ア へき地学校の教職員配置の改善を図ること。

へき地学校の教職員の年齢構成からみて、中堅教員が少ない傾向にある。今後中堅教員を計画的にへき地に配置していく必要がある。

また、へき地に勤務する教職員の優遇策や地元の受け入れ態勢の整備充実にいっそう努力する必要がある。

イ 都市・平地とへき地との人事異動を推進すること。

へき地学校勤務未了者を解消するため、これまで計画的に平地、へき地の異動を推進してきた。今後一層計画的、広域的な異動を推進する必要がある。

第3節 学校教育

1 概要

(1) 指導行政の基本方針

令和3年12月に新たに策定された本県の教育施策を総合的・計画的に推進するための指針である「第7次福島県総合教育計画」では、福島の良さを大切にした「福島ならではの教育」、そして、一方通行の授業を、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく「学びの変革」が掲げられ、これらの実現に向け、以下の6つの施策が展開されることとなった。

施策1 「学びの変革」によって資質・能力を確実に育成する

施策2 「学校の在り方の変革」によって教員の力、学校の

力を最大化する

施策3 学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる

施策4 福島で学び、福島に誇りを持つことができる「福島を生きる」教育を推進する

施策5 人生 100 年時代を見通した多様な学びの場をつくる

施策6 安心して学べる環境を整備する

(2) 指導組織

各課長を中心に、主幹、主任指導主事、指導主事及び各教育事務所学校教育課長、指導主事、各市町村教育委員会指導主事等(下表)によって、幼稚園、小学校、中学校の指導に当たった。

	県北	県中	県南	会津	南会津	相双	いわき	計
指導主事数 (学校教育課長を含む)	11	12	9	12	7	11	6	68
市町村教育委員会 指導主事等数	24	35	9	14	4	15	22	123

(3) 学校教育指導の重点

学習指導要領の趣旨を踏まえ、資質・能力の育成を図るため、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、教育課程の改善・充実、学習指導と生徒指導の充実に努めた。

ア 教育内容・方法の改善充実に努めた。

(ア) 「学校教育指導の重点」などにより、具体的な実践例を紹介したり指導の重点を示したりし、授業の改善が図られるようにした。

(イ) 本県教育行政の推進を図るため、指導担当者の資質向上のための研修に努めた。

- 指導担当者研究協議会
- 主任指導主事等会議
- 学力向上担当指導主事会議
- 生徒指導担当指導主事会議
- 各教科等担当指導主事事前協議会
- ふくしま教育創造コンソーシアム

(ウ) 小・中学校教育課程研究協議会を開催し、学習指導要領の趣旨の徹底と教員の指導力向上を図った。

- 対象者 各校長・教頭及び教務主任、教科主任等のうちから各校1名参加

(エ) 福島県小・中学校教育研究会を共催し、教育課程実施上の諸問題を研究し、その改善・充実に努めた。

(オ) 各種研究学校(地区)を指定し、指導内容や指導方法の改善・充実に努めた。

- 文部科学省及び国立教育政策研究所の研究委託による研究指定校等
 - ・ 人権教育開発事業 ほか
- 県教育委員会による研究指定校
 - ・ ふくしまの学校キラリ学力向上プロジェクトほか

イ 教職員の資質と指導力の向上に努めた。

- (ア) 小学校、中学校初任者研修の実施
- (イ) 事務職員、教職経験者、校長研修会、新任校長、新任教頭、新任教務主任等の研修会の実施
- (ウ) 中央研修講座への派遣
- (エ) 長期研修生(内地留学)の派遣
- (オ) 教育研究団体に対する援助と指導
- (カ) 教職員研究論文の募集

ウ 免許外教科担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

- (ア) 中学校免許外教科担任教員研修会

エ 幼稚園教育担当教員の研修の充実と指導力の向上に努めた。

- (ア) 幼稚園等新規採用教員研修
- (イ) 幼稚園等中堅教諭等資質向上研修
- (ウ) 幼稚園教育理解発展推進事業中央協議会
- (エ) 幼児教育カリキュラム研修会(県内6地区開催)
- (オ) 幼児教育実践研修会・幼小連携研修会(県内3地区開催)

オ 生徒指導の充実に努めた。

- (ア) 各種研修会を実施し、生徒指導の充実・改善に努めた。

- 不登校・いじめ等対策域別研修会(県内7地区開催)

(イ) ピュアハートサポートプロジェクトを実施した。
いじめの問題の解消とその未然防止に努めるとともに、不登校等の学校不適応問題の解決に努めた。

- 教育相談体制の充実
 - ・ スクールカウンセラー等活用事業
 - ・ 緊急時カウンセラー派遣事業
 - ・ 学校教育相談員(教育センターに配置)
 - ・ スクールソーシャルワーカー派遣事業
 - ・ ふくしま24時間子どもSOS
 - ・ サポートティーチャー派遣事業
 - ・ ふくしま子どもLINE相談
- 道徳教育の充実
 - ・ 道徳教育総合支援事業
 - ・ 道徳教育推進校による実践研究(県内5地区)
- 教育相談専門研修及び関係機関との連携強化

カ 社会の変化に対応した教育の充実に努めた。

- (ア) 情報化社会への対応
 - 学校におけるコンピュータ等の整備(市町村教委)
- (イ) 国際化への対応
 - 語学指導等を行う外国青年招致事業の実施
 - 138名の外国J E T青年の受入れ(101名を市町村教育委員会が配置)

(4) 県立中学校入学者選抜

ア 基本方針

「令和7年度福島県立中学校入学者選抜における基本方針」

県立中学校(以下「中学校」という。)入学者選抜は、

志願者の意欲・能力・適性等を総合的にみる選抜（以下「一般選抜」という。）によって行う。ただし、ふたば未来学園中学校においては、スポーツ選抜を行うことができる。選抜に当たっては、適性検査等の結果及び小学校の校長から提出される調査書を資料として総合的に判定し、入学予定者を決定するものとする。

(7) 一般選抜

a 一般選抜は、各中学校の特色に配慮しつつ、各中学校の教育を受けるに足る意欲・能力・適性等を総合的に判断する選抜とし、すべての中学校で実施する。一般選抜には、その募集定員の中に各校の特色に応じて地域枠を設けることができる。なお、地域枠の選抜方法の内容は、一般選抜と同じとする。

b 選抜の資料は次のとおりとする。

(a) 適性検査

問題発見・解決能力、思考力、判断力、表現力等、小学校における教育において身に付けた総合的な力をみるために、次の内容で検査を行う。

- ・ 検査1
言語（外国語を含む。）に関する力をみる内容。
- ・ 検査2
数量や図形に関する力をみる内容。
- ・ 検査3
自然や社会に関する力をみる内容。

(b) 面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

(c) 調査書

調査書は、福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

調査書には、各教科の学習の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などの記載を求め、小学校での学習や生活の状況を見る。

(d) その他

志願者の目的意識や地域への思い等について確認するため、志願理由書を用いることを可能とする。

(イ) スポーツ選抜

a スポーツ選抜は、運動能力や、中学校が行おうとする教育への意欲や態度、適性等を総合的にみて判断する選抜とし、ふたば未来学園中学校において実施する。

b 選抜の資料は次のとおりとする。

(a) 実技検査

中学校が求める生徒像に応じて内容を定めて実施し、運動能力をみる。

(b) 作文

与えられた課題について考えたことや感じたことなどを定められた文字数でまとめ、表現する力をみる。

(c) 面接

志願者の目的意識、意欲や長所等をみる。

(d) 調査書

調査書は、福島県教育委員会教育長が定める様式及び調査書作成要領に基づき、志願者の在学している小学校の校長が作成する。

調査書には、各教科の学習の記録、総合的な学習の時間の記録、特別活動の記録、行動の記録などの記載を求め、小学校での学習や生活の状況を見る。

(e) 志願理由書

志願者の目的意識や小学校での各種大会の成績等をみる。

(9) 入学予定者の決定に当たっては、次の手順で行う。

a 一般選抜は、まず、適性検査の成績の合計及び調査書の成績のいずれもが定員内にある者で、かつ調査書の記載事項及び面接の結果に特に問題のない者を入学予定者とし、次にその他の者については、適性検査、調査書の記載事項及び面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

ただし、学校の特色に応じて、上記によらず適性検査の成績、調査書の記載事項、志願理由書及び面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定することを可能とする。

b スポーツ選抜は、志願理由書、実技検査、作文の成績、調査書の記載事項及び面接の結果を十分に精査して、総合的に判定し、入学予定者を決定する。

(イ) 選抜結果については、志願者に通知するものとする。

(ロ) 入学辞退その他の理由により入学予定者の定員に欠員が生じた場合は、入学予定者とならなかった者の中から速やかに新たな入学予定者を決定し、入学の意思を確認の上、補充するものとする。

イ 入学者選抜関係日程

6月11日	第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
7月11日	第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議
8月27日	県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出
9月30日～10月11日	入学者選抜実施要綱説明動画配信
10月19日	令和7年度入学者募集定員決定
12月4日～12月10日	出願書類受付
1月11日	一般選抜・スポーツ選抜
1月21日	選抜結果通知書の発送
1月22日～1月29日	入学確約書提出
1月29日～2月4日	欠員補充

2 現職教育

(1) 教職員等中央研修

ア 趣旨

各地域において中心的役割を担う校長、副校長・教頭、中堅教員に対し、学校の管理運営、学習指導などの諸問題について、それぞれの職務に必要な研修を行い、その識見を高め、指導力の向上を図る。

イ 主催 独立行政法人教職員支援機構

ウ 共催 文部科学省
エ 会場 独立行政法人教職員支援機構
各所属校（オンライン研修）
オ 期間及び参加者

◇校長研修

10月21日（月）～10月25日（金）
教育センター 藤東 喜史
11月25日（月）～11月29日（金）
大玉村立大山小学校 澤藤 晃治
郡山市立富田小学校 國分 洋
郡山市立守山中学校 相馬 慶二
南会津町立南会津中学校 渡部 学
いわき市立好間第二小学校 阿部 美紀

◇副校長・教頭等研修

6月24日（月）～6月28日（金）、12月5日（木）
鏡石町立鏡石中学校 武田 崇宏
8月26日（月）～8月30日（金）
教育センター 樋山 浩
1月27日（月）～1月31日（金）
会津若松市立謹教小学校 菅野 総一
いわき市総合教育センター 岩本 和典

◇中堅教員・次世代リーダー教員研修

8月19日（月）～8月23日（金）
伊達市立桃陵中学校 佐藤 孝文
福島市立矢野目小学校 横山 貴士
郡山市立芳山小学校 菅野 聡
会津若松市立第二中学校 猪俣羽衣子
川内村立川内小中学園 松本 哲幸
9月30日（月）～10月4日（金）
白河市立白河第二小学校 吉田 勇樹
11月18日（月）～11月22日（金）
玉川村立須釜小学校 永山 光司
白河市立白河第二中学校 伊藤 俊一
1月20日（月）～1月24日（金）
郡山市立安積第二中学校 神戸 道洋

(2) 各種研修会

ア 福島県公立学校長研修会地区別研修会（公立小・中・特別支援学校長、県立学校長）

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 管内・期日・会場・参加人数

○ 県北 6月7日（金）138名
【伊達市ふるさと会館】
○ 県中 6月26日（水）176名
【たまかわ文化体育館】
○ 県南 7月25日（木）57名
【矢吹町文化センター】
○ 会津 6月19日（水）99名
【新鶴生涯学習センター】
○ 南会津 6月19日（水）22名
【南会津町御蔵入交流館】

○ 相双 6月12日（水）59名
【万葉ふれあいホール】
○ いわき 6月24日（月）109名
【いわき合同庁舎】

イ 市町村立小・中・特別支援学校新任校長・副校長研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 各所属校（オンライン研修）
福島県教育センター

(ウ) 期日・参加人数

4月22日（月）、4月25日（木） 小学校39名
4月22日（月）、5月13日（月） 中学校18名

(エ) 講師 義務教育課課長 川井 孝寿 他

ウ 市町村立小・中・特別支援学校新任教頭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 各所属校（オンライン研修）
福島県教育センター

(ウ) 期日・参加人数

4月24日（水）、4月26日（金） 小学校43名
4月24日（水）、5月20日（月） 中学校26名

(エ) 講師 義務教育課主幹 原田 博司 他

エ 新任主幹教諭研修会

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 福島県教育センター

(ウ) 期日・参加人数

5月24日（金） 小学校13名 中学校11名

(エ) 講師 義務教育課主幹 原田 博司 他

オ 校長のためのマネジメント講座

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 各所属校（オンライン研修）
福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

6月13日（木）～6月14日（金）
小学校32名 中学校16名

(エ) 講師 義務教育課主任指導主事 羽染 聡 他

カ 教頭のためのマネジメント講座

(ア) 主催 福島県教育委員会

(イ) 会場 各所属校（オンライン研修）
福島県教育センター

(ウ) 期間・参加人数

9月2日（月）～9月3日（火）
小学校31名 中学校16名

(エ) 講師 義務教育課管理主事 渡部 佳規 他

キ 公立小・中学校5年経験者研修・中堅教諭等資質向上研修

(ア) 5年経験者研修

○ 主催 福島県教育委員会

○ 期日

(小) 1班：6月4日（火）
6月7日（金）、8月20日（火）
2班：6月4日（火）
6月10日（月）、8月21日（水）

- (中) 1班：9月 6日(金)、10月 2日(水)
10月 21日(月)
2班：9月 13日(金)、10月 18日(金)
10月 21日(月)
- 会場 福島県教育センター
各所属校(オンライン研修)
- 参加人数 小学校 128名 中学校 62名
- 講師 義務教育課管理主事 岩本 進也 他
- (イ) 中堅教諭等資質向上研修
- 主催 福島県教育委員会
- 期日
(小) 6月 18日(火)、6月 19日(水)
10月 3日(木)
(中) 6月 25日(火)
9月 26日(木)、9月 27日(金)
- 会場 福島県教育センター
- 参加人数 小学校 47名 中学校 31名
- 講師 教育センター依頼の外部講師・大学教授
教育センター指導主事等

ク 2年次教員フォローアップ研修

- (ア) 主催 福島県教育委員会
- (イ) 期日・会場
(小) 1班：6月 12日(水)
2班：6月 28日(金)
(中) 6月 27日(木)
福島県教育センター
- (ウ) 参加人数 小学校 122名 中学校 71名
- ケ 公立小・中学校初任者研修
- (ア) 校内における研修 120時間以上
各学校で年間を通じて計画し、実施する。
- (イ) 校外における研修 22日間

a 地区別研修A

- (7日間、各教育事務所の計画による)
- ・ 一般研修 1日間
 - ・ 授業研修 2日間
 - ・ へき地校研修 1日間
 - ・ カウンセリング研修 2日間
 - ・ 特別支援学校研修 1日間

b 地区別研修B

- (9日間、各市町村教育委員会の計画による)
- ・ 研究発表集会等研修 5日間
 - ・ 一般研修 1日間
 - ・ 社会奉仕体験活動研修 2日間
 - ・ 他校種園参観研修 1日間

c 1次研修

- ・ 各所属校(オンライン研修) 2日間
- ・ 磐梯青少年交流の家 1日間

d 2次研修

- ・ 各所属校(オンライン研修) 2日間
- ・ 福島県教育センター 1日間

- (ウ) 参加人数 小学校 166名 中学校 109名
- コ 公立小・中・特別支援学校事務職員研修
- (ア) 新規採用職員研修
- ・ 対象 令和6年度新規採用者
 - ・ 日数 前期3日間、後期4日間
 - ・ 参加人数 15名(小学校 14名、中学校 1名)
- (イ) 基礎力アップ研修
- ・ 対象 採用後4年目
 - ・ 日数 2日間
 - ・ 参加人数 17名(小学校 12名、中学校 5名)
- (ウ) 応用力アップ研修
- ・ 対象 採用後8年目
 - ・ 日数 2日間
 - ・ 参加人数 13名(小学校 9名、中学校 4名)
- (エ) 実行力アップ研修
- ・ 対象 採用後12年目
 - ・ 日数 2日間
 - ・ 参加人数 6名(小学校 3名、中学校 3名)
- (オ) 新任係長研修会
- ・ 対象 新任の主任主査
 - ・ 日数 2日間
 - ・ 参加人数 11名(小学校 6名、中学校 5名)

サ 事務職員研修(小・中学校)

- 主催 独立行政法人教職員支援機構
- 期間 第2回：9月 9日(月)～9月 13日(金)
第4回：11月 25日(月)～11月 29日(金)
- 参加人数 3名(小学校 2名、中学校 1名)
- 実施方法 対面・オンライン

(3) 教員長期研修

(研修機関、研修期間、研修生)

ア 上越教育大学

- (ア) 令和6年4月1日～令和8年3月31日
国見町立県北中学校教諭 野地 由佳

イ 福島大学

- (ア) 令和6年4月1日～令和8年3月31日
福島市立杉妻小学校教諭 久能 彩香
郡山市立行健小学校教諭 中村 道子
白河市立白河第一小学校教諭 木村 千尋
棚倉町立棚倉小学校教諭 吉田 亘

(4) 令和6年度産業・情報技術等指導者養成研修(中学校)

- ア 期 間 7月 22日(月)～7月 25日(木)
- イ 参加者 下郷町立下郷中学校 高久 遼介
- ウ 実施方法 オンライン
- エ 教 科 技術・家庭分野(技術)

(5) 教育研究奨励

- ア 名称 福島県教職員研究論文
- イ 主催 福島県教育委員会
- ウ 応募資格 福島県公立幼稚園・小・中(義務教育学校を含む。)・高・特別支援学校等教職員等
- エ 審査委員

福島大学人間発達文化学類准教授 鳴川 哲也
 福島県公立学校退職校長会代表 福士 寛樹
 福島県公立学校退職校長会代表 中村 利幸

オ 応募数 32 点
 カ 入賞
 (7) 特選

受賞団体・受賞者	所 属
三島町立三島小学校 三島町立三島中学校	
福島市立飯野小学校	
教諭 久保木壮平	いわき市立中央台東小学校
教頭 鈴木 雅博	郡山市立桜小学校

(イ) 入選

受賞団体・受賞者	所 属
西郷村立羽太小学校	
天栄村立天栄中学校	
下郷町立下郷中学校	
郡山支援学校	
教諭 岩谷 友太	昭和村立昭和小学校
教諭 村松こずえ	葵 高 等 学 校

(ウ) 奨励賞

受賞団体・受賞者	所 属
伊達市立保原小学校	
教諭 大河原 旭	矢吹町立三神小学校
主幹教諭 佐藤 拓也	相馬市立向陽中学校
教諭 目黒由美子	たむら支援学校

3 教育課程

令和6年度福島県小・中学校教育課程研究協議会

(1) 令和6年度福島県小学校教育課程研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
 イ 実施期間
 県北域内 9月4日(水)
 県中域内 9月12日(木) 小中合同
 県南域内 9月4日(水)
 会津域内 9月24日(火)
 南会津域内 9月27日(金) 小中合同
 相双域内 9月20日(金)
 いわき域内 9月4日(水)
 ウ 実施教科等
 総則、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育、外国語、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動
 エ 参加者数 390名

(2) 令和6年度福島県中学校教育課程研究協議会

- ア 主催 福島県教育委員会
 イ 実施期間
 県北域内 8月28日(水)
 県中域内 9月12日(木) 小中合同
 県南域内 8月27日(火)
 会津域内 9月26日(木)
 南会津域内 9月27日(金) 小中合同
 相双域内 9月13日(金)
 いわき域内 9月11日(水)
 ウ 実施教科等
 総則、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語、道徳、総合的な学習の時間、特別活動
 エ 参加者数 239名

4 学力向上等

(1) 一人一人を伸ばすふくしま学力向上推進事業

- ア ふくしま学力調査
 イ ふくしま学力調査研究委員会
 ウ 埼玉県教委とのワーキンググループ、連携協議会

(2) 未来へはばたけ！イノベーション人材育成事業

- ア イノベーション人材育成推進教員活用事業
 イ ふくしまスーパーサイエンススクール事業
 ウ 理数コンテスト事業
 エ 先端技術体験事業

(3) 少人数教育推進事業

- 学力向上や人間性・社会性の育成を総合的・効果的に推進するための「個に応じた指導」の徹底を図るため、ティーム・ティーチングや習熟度別等指導、及び30人学級編制等の少人数教育を進め、教員等の目が子ども一人一人に行き届き、きめ細かな指導や評価ができる体制を作る。
 ○ 30人程度学級
 ○ 30人学級編制(小1、小2、中1)

(4) ふくしま英語力向上事業

- ア 小中高連携推進事業
 イ 英語担当教員エンパワーメント研修
 ウ ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業

(5) ふくしまっ子の可能性を伸ばす支援事業

- ア ふくしまっ子算数・数学アドバンス支援事業
 イ 「オールふくしまで応援」連携推進事業

5 道徳教育

(1) 道徳教育

- ア 道徳教育を学校の円滑な運営において基盤となる領域と位置付け、道徳教育を担当する教職員や指導主事等に対し、1) 道徳教育に関する諸課題の改善に向けて専門的知見を習得し、校長のリーダーシップの下、組織的な取組を推進する力、2) 学校や当該地域の教職員の専門性向上を推進する力、を育むことを目的とした研修

(ア) 主催 独立行政法人教職員支援機構

(イ) 期日

令和6年11月6日～8日

氏 名	勤 務 先	職 名
鈴木 健二	いわき市立中央台東小学校	教 頭
松本 聡二	福島県教育庁県南教育事務所	指導主事
佐藤 真一	郡山市教育委員会学校教育推進課	指導主事
菊地和加子	福島市立飯野中学校	教 頭
笹川 純子	いわき市教育委員会	指導主事

イ 小学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

「自他との対話を通して、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめて、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育む授業の充実」

(イ) 主催 福島県小学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

矢吹町文化センター

令和6年10月17日

ウ 中学校教育研究会道徳部会

(ア) 研究主題

自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうすればよいか。

(イ) 主催 福島県中学校教育研究会

(ウ) 会場・期日

須賀川市立義務教育学校稲田学園

須賀川市立大東中学校

令和6年10月4日

(2) 道徳教育総合支援事業

ア 趣旨

学習指導要領の趣旨並びに児童生徒、学校等の実態を踏まえ、創意工夫を生かした道徳教育を推進するための実践研究を行い、その成果を普及することにより道徳教育の充実を図る。

イ 福島県道徳教育推進協議会

年2回開催（6月4日、2月4日）

ウ 道徳教育地区別推進協議会

各事務所で設定、1回開催

エ 道徳教育推進校

小学校2校、中学校2校、高等学校1校

オ 道徳教育リーフレット等の作成

「道徳のとびら」（保護者、地域住民及び教職員向け）、

「道徳のかけ橋」「道徳の礎」（教職員向け）

(3) 人権教育

ア 人権教育研究開発事業

(ア) 趣旨

人権意識を培うための学校教育の在り方について幅広い観点から実践的な研究を行い、人権教育に関する指導方法等の改善及び充実を図る。

(イ) 推進地域

矢祭町（矢祭町教育委員会）

子ども園・小学校・中学校（1園2校）

(ウ) 研究テーマ

自他を愛し、共に幸福を求めること（Well-being）ができる子どもの育成

～認め合い、伝え合い、学び合う活動を通して～

(エ) 研究期間 令和6・7年度

イ 人権教育推進研修（NITSオンライン研修）

(ア) 主 催 独立行政法人教職員支援機構

(イ) 期 日 令和6年5月29日～31日

(ウ) 実施方法 Web会議サービスを用いた同時双方向通信によるオンライン研修

(エ) 参 加 者 矢祭町教育委員会指導主事 本多栄敏

(4) 「モラル・エッセイ」コンテスト

ア 趣旨

モラルやマナー、いのち、家族、人との絆など、心温まるちょっといいお話、今伝えたいメッセージ等を募集し、学校と家庭・地域が一体となって、子どもたちの道徳の実践力を養うとともに、県民一丸となって「生きる力」を身に付ける機会とする。

イ 応募期間 令和6年7月8日～8月30日

ウ 応募数

中学校 1235 点

高等学校 11 点

一般 76 点

エ 受賞者

【中学校】

最優秀賞 いわき市立小名浜第二中学校 1年 滝澤 応維

優秀賞 須賀川市立仁井田中学校 3年 吉田 心埜

南会津町立田島中学校 3年 渡部まひる

【高等学校】

最優秀賞 好間高等学校 3年 松本 美咲

優秀賞 好間高等学校 3年 星宮 唯

好間高等学校 3年 阿部 香菜

【一般】

最優秀賞 会津若松市在住 小坂ひろみ

優秀賞 福島市在住 小山 雄剛

福島市在住 馬峰 咲穂

6 特別活動

(1) 県小学校教育研究会特別活動部会

ア 主催 県小学校教育研究会

イ 研究主題

様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する特別活動の指導の在り方

ウ 県研究協議会

○ 会場 下郷町立旭田小学校

下郷町ふれあいセンター

○ 期日 令和6年10月18日

(2) 県中学校教育研究会特別活動部会

ア 主催 県中学校教育研究会

イ 研究主題

様々な集団活動に自主的・協働的に取り組み、集団や個人の課題を解決し、よりよい社会を目指す生徒を育むためにはどうすればよいか。

ウ 県研究協議会

○ 会場 いわき市立湯本第一中学校

○ 期日 令和6年10月4日

7 生徒指導・進路指導

(1) 生徒指導

ア 生徒指導研究推進協議会（オンライン開催）

国立教育政策研究所主催

○ 期日 令和6年7月19日

○ 参加者 24名

イ 生徒指導基幹研修

○ 期日 令和6年7月8日～7月12日

○ 参加者 4名

ウ 教育相談基幹研修

○ 期日 令和6年6月5日～6月7日

○ 方法 対面研修

○ 参加者

棚倉町立棚倉小学校 教諭 佐藤 真理

西郷村立西郷第一中学校 教諭 相山 陽祐

郡山市立富田東小学校 主幹教諭 齋藤 由美

(1) 進路指導・キャリア教育

ア キャリア教育指導者養成研修

○ 期日 令和6年6月11日～6月14日

○ 参加者

郡山市教育委員会 指導主事 松田 吉弘

いわき市総合教育センター 指導主事 松尾 修吾

西会津町立西会津中学校 教諭 内海 淳

福島県立本宮高等学校 教諭 室井 恵里

8 幼稚園教育

令和6年度公立幼稚園数は、99園で、学級数は253学級であった。幼児数減少により、少人数保育になっているところもある。県全体の公立幼稚園における、1学級あたりの平均園児数は、13.9人である。

幼稚園教育の一層の充実を図るため、私学・法人課及び子育て支援課と連携し、次の事業を実施した。

(1) 幼児教育カリキュラム研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 県北域内 9月20日(金)

県中域内 9月26日(木)

県南域内 9月25日(水)

会津・南会津域内 9月27日(金)

相双域内 9月24日(火)

いわき域内

9月18日(水)

ウ 内容

○ 講義・協議「学びの連続性を踏まえた長期の指導計画等の見直しと改善」

○ 講義・協議「資質・能力を確実に育むための短期の指導計画の作成と改善」

エ 参加者 243名(6地区合計)

(2) 幼児教育実践研修会・幼小連携研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 会津地方 7月29日(月)

中通り 7月30日(火)

浜通り 7月31日(水)

ウ 内容

○ 講義・演習「子どもの運動遊び」

○ 講義・演習「特別な配慮を必要とする子どもへの指導」

○ 講義・演習「幼保小の学びのつながりの理解、架け橋プログラムへの理解」

エ 参加者 357名(3地区合計)

(3) 福島県幼稚園等新規採用教員研修

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 年間

ウ 内容・日数・会場

○ 園内研修…10日(勤務園)

・内容…①基礎的素養 ②学級経営 ③教育課程・指導計画 ④幼児理解・評価 ⑤連携

○ 園外研修…10日

・地区別研修…3日(各教育事務所)

・参観研修…3日

研究実践幼稚園参観(1日)

保育所、認定こども園(保育部)参観(1日)

小学校参観(1日)

・集合研修…3日(県教育センター)

・選択研修…1日

福島大学附属幼稚園研究公開、福島県幼児教育実践研修会・幼小連携研修会等への参加

エ 参加者 研修対象者 公立29名 私立20名 計49名

(4) 幼稚園等中堅教諭等資質向上研修

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 年間

ウ 日数・内容・会場

○ 園内研修…7日以上

・保育力の向上に関する研修(3日以上)

・教育課題の解決に向けた実践に関する研修(2日以上)

・パイオニア研修(2日以上)

○ 園外研修…5日以上

・悉皆研修…4日

共通研修(1日)(各教育事務所)

マネジメント研修(2日)(教育センター)

社会体験研修(1日)(社会体験を行う各施設等)

・選択研修…1日以上

大学附属幼稚園の研究公開、特別支援教育センターにおける専門研修等への参加

エ 参加者 研修対象者 公立25名 私立0名 計25名

(5) 幼児教育専門研修

ア 主催 独立行政法人教職員支援機構

イ 期日 令和6年9月10日(火)～9月12日(木)
(Web会議サービスを用いた同時双方向通信によるリアルタイム・オンライン研修)

ウ 参加者

いわき市こどもみらい部	藤田 裕子
子育て支援課	篠木美佐子
義務教育課	佐藤紅美子

(6) 幼児教育指導担当者研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 令和6年6月27日(木)

ウ 会場 環境創造センター(コミュタンふくしま)

エ 内容

- (ア) 講義「幼児教育の重要性と課題」
- (イ) 講義・協議「幼児教育施設間、幼児教育施設と小学校間における相互理解の促進」
- (ウ) 講義・演習「架け橋期のカリキュラムの作成と実施」

オ 参加者 市町村における幼児教育担当者等 36名

(7) 架け橋期の学びをつなぐ推進モデル地区 公開保育

ア 主催 福島県教育委員会・モデル市

イ 期日 田村市 7月9日(火)及び10月24日(木)
喜多方市 7月25日(木)及び11月12日(火)
南相馬市 10月24日(木)及び11月14日(木)

ウ 内容 保育参観及び研究協議等

エ 参加者 433名(3地区合計)

9 へき地教育

本県におけるへき地学校は、県全体の小・中学校別の総数に対して、小学校86校で23.0%、中学校54校で27.4%を占め、小・中学校総数に対して26%の割合となっている。

このへき地、山村、過疎地域の教育の振興を図るため、下記の事業を実施した。

(1) 複式学級担当教員研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 令和6年5月28日(火)

ウ 会場 福島県教育センター

エ 講師 小学校教諭 他

オ 参加者数 32名

(2) 中学校免許外教科担当教員研修会

ア 主催 福島県教育委員会

イ 期日 令和6年5月14日(火)、15日(水)、16日(木)
21日(火)、22日(水)、23日(木)
24日(金)、27日(月)

ウ 会場 福島県教育センター

エ 講師 中学校教諭 他

イ 教科書展示会

オ 参加者 78名

(2) 全国へき地教育研究大会

第73回全国へき地教育研究大会岡山大会

ア 主催 文部科学省、全国へき地教育研究連盟
岡山県教育委員会 他

イ 期日 令和6年10月10日(木)～10月11日(金)

ウ 会場 全体会・分散会 岡山県総合教育センター
分科会 岡山県内4小学校1学園会場

エ 研究主題

「主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成」

～児童生徒一人一人が他者となつがり、地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の深化・充実にめざして～

10 教科用図書

(1) 令和7年度使用教科用図書の採択

公立小・中学校教科用図書の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、小学校用教科用図書、中学校用教科用図書、学校教育法附則第9条図書を採択した。

ア 教科用図書選定審議会

(ア) 委員 16名

(イ) 任期 令和6年4月1日～令和6年8月31日

(ウ) 開催期日 第1回 令和6年4月16日
第2回 令和6年5月29日

(エ) 会場 第1回 杉妻会館
第2回 杉妻会館

令和6年6月13日から14日間、県内21の会場で開催した。会場及び来会者は次の表のとおりである。

教科書センター (展示会場)	採択地区名	展示教科書 (該当に○印)			展示会場設置場所 (該当に○印)			来会者 総数
		小・中・高	小・中	高	教科書センター	分館	その他	
福島教科書センター(福島市立図書館)	福島地区	○			○			10
伊達教科書センター(伊達市立図書館)	川俣・伊達・安達地区		○		○			11
二本松教科書センター(二本松市文化センター)	〃		○		○			8
郡山教科書センター(郡山市中央図書館)	郡山地区	○			○			20
須賀川教科書センター(文化の森てんえい)	岩瀬地区		○			○		21
〃 (須賀川市中央図書館)	〃		○		○			41
石川教科書センター(石川町立図書館)	石川地区		○		○			4
三春教科書センター(常葉公民館)	田村地区		○		○			14
〃 (三春小学校)	〃		○		○			18
〃 (小野町ふるさと文化の館)	〃		○		○			6
西白河教科書センター(白河市立図書館)	西白河・東白川地区	○			○			48
東白川教科書センター(棚倉町立図書館)	〃	○			○			28
会津若松教科書センター(会津若松市歴史資料センター)	会津地区	○			○			11
喜多方教科書センター(喜多方第一小学校)	〃	○			○			6
会津坂下教科書センター(坂下南小学校)	〃	○			○			8
南会津教科書センター(南会津町役場)	〃		○		○			11
南会津教科書センター(南会津中学校)	〃		○			○		16
相馬教科書センター(南相馬市立中央図書館)	相馬地区	○			○			67
双葉教科書センター(大熊町立学び舎ゆめの森)	双葉地区		○		○			21
いわき教科書センター(いわき市総合教育センター)	いわき地区	○			○			43
県立図書館			○				○	
合 計 (展示会場21箇所) (採択地区11地区)		9	12		18	2	1	412

ウ 令和7年度使用小学校教科書採択一覧(採択2年目)

種目	国語	書写	社会	地図	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	保健	英語	道徳
採択地区													
福島	東書	東書	東書	帝国	東書	啓林館	啓林館	教芸	日 文	開隆堂	東書	東書	学研
川俣・伊達・安達	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	開隆堂	開隆堂	東書	東書	東書
郡山	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	啓林館	教芸	日 文	開隆堂	光文	東書	学研
田村	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	開隆堂	開隆堂	東書	三省堂	東書
岩瀬	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日 文	開隆堂	東書	三省堂	東書
石川	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日 文	開隆堂	東書	三省堂	東書
西白河・東白川	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日 文	開隆堂	東書	東書	光文
会津	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日 文	東書	東書	東書	学研
相馬	光村	光村	東書	帝国	教出	東書	東書	教芸	日 文	東書	東書	開隆堂	東書
双葉	光村	光村	東書	帝国	東書	東書	東書	教芸	日 文	東書	東書	東書	光文
いわき	光村	東書	東書	帝国	東書	東書	東書	教出	日 文	東書	東書	東書	東書

エ 令和7年度使用中学校教科書採択一覧（採択1年目）

採択地区	種目	国語	書写	社会 (地理的 分野)	社会 (歴史的 分野)	社会 (公民的 分野)	地図	数学	理科	音楽 (一般)	音楽 (器楽 合奏)	美術	保健 体育	技術 ・家庭 (技術)	技術 ・家庭 (家庭)	英語	道徳
福島		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	開隆堂	東書	東書	東書	東書	光村
川俣・伊達・安達		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	開隆堂	大修館	東書	東書	東書	東書
郡山		光村	光村	帝国	帝国	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	大修館	東書	開隆堂	東書	あか図
田村		光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	大修館	東書	東書	東書	東書
岩瀬		光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	大修館	東書	東書	東書	東書
石川		光村	東書	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	東書	東書	東書
西白河・東白川		光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	日文	東書	東書	開隆堂	東書	日文
会津		光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教出	教出	光村	学研	東書	東書	東書	日文
相馬		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	日文	東書	教芸	教芸	日文	東書	開隆堂	開隆堂	東書	あか図
双葉		光村	光村	東書	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	東書	東書
いわき		光村	光村	帝国	東書	東書	帝国	東書	東書	教芸	教芸	日文	東書	東書	東書	三省 堂	教出

(2) 教科用図書無償給与

令和6年度も義務教育諸学校の全児童生徒に教科書の無償給与が行われた。また、令和7年度使用教科用図書無償給与事務説明会を市町村教育委員会及び県立特別支援学校・私立学校等の教科書事務担当者を対象に下表のとおり開催し、適正かつ円滑な事務処理が図られるようにした。

期 日	会 場	参集範囲
令和7年2月13,14日	福島県庁	県 北
令和7年2月10,12日	郡山合同庁舎	県 中
令和7年2月17日	白河合同庁舎	県 南
令和7年2月6日	道の駅あいづ 湯川・会津坂下	会 津
令和7年2月7日	南会津合同庁舎	南会津
令和7年2月5日	南相馬合同庁舎	相 双
令和7年2月18日	いわき合同庁舎	いわき

1 1 教育研究団体

(1) 福島県国公立幼稚園・こども園協議会

ア 研究主題（令和6年度）

協議主題	幼児教育と小学校教育の円滑な接続の推進について
協議の 視点①	幼児教育施設間、幼児教育施設と小学校間における相互理解の促進
協議の 視点②	架け橋期のカリキュラムの開発・実施

イ 組織及び財政の状況

- 会 長 川田 潤（福島大学附属幼稚園長）
- 会員数 572 名
- 令和6年度予算額 2,152,572 円
- 上記のうち補助金 なし

ウ 主な事業

(ア) 福島県国公立幼稚園・こども園協議会第1回委員

- a 期日 令和6年4月17日(水)
- b 会場 福島市吾妻学習センター

(イ) 研究主題研修会

- a 期日 令和6年5月29日(水)
- b 会場 福島市吾妻学習センター
- c 講師 県教育庁義務教育課指導主事

(2) 福島県小学校教育研究会

ア 基本主題（令和4年度～令和6年度）

「児童自らあらゆる他者と豊かにかかわり、未来社会の創り手として必要な力をはぐくむ授業の充実」

イ 各研究部研究主題

研 究 部	研 究 主 題
国 語	言葉による見方・考え方を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら、自分の思いや考えを広げ深める指導はどうあればよいか。
社 会	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究・解決する活動を通して、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する社会科の授業はどうあればよいか。
算 数	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、算数を学ぶ楽しさやよさを実感し、生活や学習に主体的にかかわる子どもの育成
理 科	自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、資質・能力を育成する授業の充実
生 活・総 合	人々・社会・自然に進んでかかわり、自らの考えを生かして学び合い、深い学びを実感できる子どもの育成
音 楽	多様な音楽活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽に親

研 究 部	研 究 主 題
	しむ子どもの育成
図 画 工 作	児童一人一人が造形的な見方・考え方を働かせ、資質・能力を発揮して、表現や鑑賞の活動を行い、つくりだす喜びを味わうことのできる図画工作科の指導
家 庭	家族の一員として日常生活の課題を解決する力を養い、家族や地域とかかわりながら、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度をはぐくむ授業の充実
体 育	体育や保健の見方・考え方を働かせる学びを通して、心と体の高まりを実感できる子どもの育成
外 国 語	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、聞くこと・読むこと・話すこと・書くことなどの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成する指導はどうあればよいか。
道 徳	自他との対話を通して、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめて、自己の生き方についての考えを深め、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度をはぐくむ授業の充実
特 別 活 動	様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、資質・能力を育成する特別活動の指導の在り方

ウ 組織及び財政の状況

(ア) 会長 斑目 功 (郡山市立熱海小学校)

(イ) 会員数 4,725名

(ウ) 令和6年度決算額 3,393,706円

エ 主な事業

○ 研究協議会

(ア) 主催 福島県小学校教育研究会

(イ) 共催 福島県教育委員会・開催地区関係市町村教育委員会

(ウ) 期日・会場

a 地区研究協議会 各地区
各地区の計画による

b 県研究協議会 10月2日(水)～10月22日(火)
県内12会場

(エ) 指導助言者 指導主事等

(3) 福島県中学校教育研究会

ア 研究主題

基本主題

「主体的・対話的で深い学びを通して社会を生き抜く資質・能力を身に付け、ふくしまの未来を創造する生徒の育成」

イ 各部研究主題

研 究 部	研究主題・研究副主題
国 語	言葉を用いて社会を見つめ、自ら関わろうとする姿勢を育み、思いや考えを伝え合う力を育成する指導はどうすればよいか。 ～国語における学びに向かう力の評価の工夫～
社 会	持続可能な社会を実現するために必要な資質・能力を育む社会科の指導はどうすればよいか。 ～協働的な学びを通して、新たな価値を創造する力を高める授業の工夫～
数 学	数学的に考える資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 ～知識及び技能の習得を図る指導の工夫～
理 科	科学的に探究する学習活動を通して、未来を創造するための資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 ～日常生活や社会との関連から見いだした課題を探究し、学んだことを自己や地域に生かそうとする学習活動の工夫～
音 楽	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する指導はどうすればよいか。 ～音楽に対する感性を豊かにする指導と評価の工夫～
美 術	多様な見方や感じ方を深め、心豊かに創造する力を育む造形活動はどうすればよいか。 ～美術の広がりとして自己実現～
保 健 体 育	体育や保健の見方・考え方を働かせ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む指導はどうすればよいか。 ～自他の健康課題に気づき、知識を活用して正しく判断し、意思決定と行動選択ができる指導計画や学習過程の工夫（保健分野）～
技術・家庭	生活の営みや技術に係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するための指導はどうすればよいか。 ～よりよい生活の実現のため、生活を工夫し創造する資質・能力を育成するためのふり返りの工夫～
英 語	社会や世界と向き合い、他者との関わりを大切にしながら目的や場面、状況等に応じて、情報や考えなどを伝え合うコミュニケーション能力を育む指導はどうすればよいか。 ～言語活動（指導）と評価の一体化のための工夫～

研 究 部	研究主題・研究副主題
道 徳	自己を見つめ、他者と共によりよい生き方を探求する道徳の学びはどうすればよいか。 ～自己の学びと自らの変容を実感することができる評価の工夫～
特 別 活 動	様々な集団活動に自主的・協働的に取り組み、集団や個人の課題を解決し、よりよい社会を目指す生徒を育むためにはどうすればよいか。 ～集団や社会の一員として、将来や自分らしい生き方を創造する力の育成～

ウ 組織及び財政の状況

(ア) 会 長 嶋原 俊洋（福島市立福島第二中学校）

(イ) 会員数 2,557名

(ウ) 令和6年度決算額 6,358,809 円

エ 主な事業

○ 研究協議会

(ア) 主催 福島県中学校教育研究会

(イ) 共催 福島県教育委員会

(ウ) 期日・会場

a 支部研究協議会 各支部
各支部の計画による

b 県研究協議会 10月4日（金）
各地区会場

(エ) 指導助言者 指導主事等

(4) 福島県小学校長会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会 長 石幡 良子（福島市立福島第四小学校）

(イ) 会員数 378 名

(ウ) 令和6年度決算額 13,254,075 円

イ 主な事業

○ 第53回福島県小学校長会研究協議会支会研究大会

(ア) 開催期日 令和6年7月12日（金）～

令和7年1月9日（木）

(イ) 会 場 各支会の計画による

(5) 福島県中学校長会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会 長 板橋 竜男（福島市立福島第一中学校）

(イ) 会員数 207 名

(ウ) 令和6年度決算額 7,885,090 円

イ 主な事業

○ 第52回福島県中学校長会研究協議会

(ア) 開催期日 令和6年5月～12月各支会の計画による

(イ) 会 場 各支会の計画による

(6) 福島県公立小・中学校教頭会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会 長 大竹 英明（福島市立蓬萊東小学校）

(イ) 会員数 584 名

(ウ) 令和6年度決算額 9,956,078 円

イ 主な事業

○ 令和6年度福島県公立小・中学校教頭会総会及び研修会

(ア) 開催期日 5月10日（金）

(イ) 書面による開催

(7) 福島県学校図書館協議会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会 長 織田島 浩孝（郡山市立柴宮小学校）

(イ) 加盟校 576 校

(ウ) 令和6年度決算額 881,406 円

イ 主な事業

(ア) 第70回福島県学校図書館研究大会

(イ) 研究主題「未来を拓く 学びをひろげ、豊かな心を育む 学校図書館」

(ウ) 開催期日 令和6年11月13日（水）

(エ) 会 場 平田村立ひらた清風中学校
平田村立蓬田小学校

(オ) 参加人数 90 人

(8) 福島県公立小中学校事務研究会

ア 組織及び財政の状況

(ア) 会 長 尾又 芳行

(イ) 会員数 485 名

(ウ) 令和6年度決算額 2,890,889 円

イ 主な事業

○ 学校事務研修会

令和6年5月28日（火）郡山ユラックス熱海

第4節 国際化・科学技術の進展等への対応

1 中学生・高校生の科学・技術研究論文

野口英世賞募集

(1) 募集の趣旨

郷土が生んだ世界的な医学者、「医聖 野口」とうたわれた野口英世博士の名を冠した賞を制定し、県内の中学校・高等学校生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、科学及び技術の発展に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

令和6年9月2日（月）～9月9日（月）

(3) 応募数

中学校 20点（2校）

高等学校 35点（7校）

(4) 審査会

令和6年10月17日（木） 自治会館 特別会議室
（審査員長）

福島大学教授 柴崎直明
（審査員）

福島大学准教授 高安徹

福島大学准教授 兼子伸吾

郡山女子大学准教授 影山志保

県中学校教育研究会理科部長 阿部洋己

福島成蹊中学校・高等学校校長 本田哲朗

県高等学校教育研究会理科部会長 猪俣豊

(5) 受賞者

【中学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
最優秀賞	該当なし		
優秀賞	長南 陽向	福島大学附属中学校	パラシュートの研究7年目 「安全な半球かさパラシュート part2（穴とひもの太さ）」
	守谷 知佳	福島大学附属中学校	ヒメシジミの翅は時間とともにどう変化するのだろうか？
入選	菅野 璃久	福島大学附属中学校	光の秘密 PartⅣ -紫外線の性質と植物の関係-
	横川 眞子	福島大学附属中学校	「あさがおのつるの研究 8年目」つるの巻きつきにおける植物ホルモンジベレリンの役割を解明する

・共同研究の部

賞	団体名	論文の題名
最優秀賞	該当なし	
優秀賞	該当なし	
入選	福島大学附属中学校	福島大学附属中学校のビオトープ空間における降水量・雨水の蒸発量・土への水の浸透量の測定と気象条件による変動の考察

【高等学校】

・個人研究の部

賞	氏名	学校名	論文の題名
最優秀賞	該当なし		
優秀賞	竹村 悠汰	安積高等学校	ばねののび方による運動の違い
	齋藤 佑磨	ふたば未来学園高等学校	ホテル保護のためのカワニナの生態調査Ⅱ
入選	風間 祥	会津学鳳高等学校	フィボナッチ数列の性質の図形を用いた証明

・共同研究の部

賞	団 体 名	論 文 の 題 名
最優秀賞	安積高等学校 生物部	めざせ！カンゾウ（甘草）の国内自給～挿し穂の水耕発根実験、グリチルリチン酸含量分析、及び適環境条件の推定～
優秀賞	安積高等学校 物理部	なぜスマートフォンは画面を下にして落ちるのか
	安積高等学校 科学部	バイオ燃料電池に用いる酵母の固定化
入選	福島高等学校 SS 部放射線班	軽石を用いたポルサイト合成の検証とリークテストによる安全性の証明

2 中学生・高校生の国際理解・国際交流論文

朝河貫一賞募集

(1) 募集の趣旨

国際化の進展に対応し、世界のさまざまな文化や価値観を尊重するとともに、国際社会の平和と発展を担っていくことのできる青少年の育成を図る観点から、郷土が生んだ国際的な歴史学者「朝河貫一 博士」の名を冠した賞を制定し、県内の中学校（義務教育学校後期課程を含む。）・高等学校の生徒を対象に論文の募集、表彰を行い、国際化に対応した人材の育成に努める。

(2) 応募期間

令和6年9月2日（月）～9月9日（月）

(3) 応募数

中学校 33点（14校）

高等学校 30点（5校）

(4) 審査会

令和6年10月10日（木） 自治会館 特別会議室

（審査員長）

福島大学准教授

真歩仁 しょうん

（審査員）

福島県青少年育成県民会義青少年育成専門指導員

夏目 利江子

郡山ザベリオ学園小学校英語助教諭

ラングシア・アンドリュウ

福島民報社論説委員長

五十嵐 稔

福島民友新聞社編集局次長・出版部長

中田 和宏

福島県中学校教育研究会国語部長

吉川 信夫

福島県高等学校長協会普通部会副会長

渡邊 学

(5) 受賞者

【中学校の部】

賞	氏 名	学 校 名	学年	論文の題名
最優秀賞	湊 砂奈	二本松市立小浜中学校	3	亡き祖母から学んだ「多文化共生」
優秀賞	二瓶 柚香	福島大学附属中学校	2	ランドセルの寄付を通して実感したグローバル
	大原 詩子	福島大学附属中学校	3	知ってほしい、私のふるさと ～沖縄戦を共に考える～
	野澤 葵	猪苗代町立猪苗代中学校	2	グローバルな視点でSDG sを
	五十嵐愛佳	柳津町立会津柳津学園中学校	3	私は「ダブル」で「ユニーク」に
	山本 大地	いわき市立平第一中学校	2	互いに抱える貧困問題
入選	田部夏菜子	福島市立清水中学校	3	「平和な世界」で生きる
	木村 美結	郡山ザベリオ学園中学校	3	世界平和に必要なこと

【高等学校の部】

賞	氏 名	学 校 名	学年	論文の題名
最優秀賞	荒 蒼依	福島県立原町高等学校	2	はじめの一步
優秀賞	小口 杏里	福島県立あさか開成高等学校	1	私が考える宗教
	小椋 陸	福島県立南会津高等学校	2	日本が成長するために～偏見を通して考える～
	湯田 ほの美	福島県立南会津高等学校	2	児童虐待から学んだ国際的視点
	山田 琴美	福島県立相馬高等学校	1	差別のない世界のために
	高橋 美祐希	福島県立相馬高等学校	2	伝統を守る —相馬野馬追への外国人出陣から考える—
入選	柳沼 百香	福島県立あさか開成高等学校	2	同じ「人間」として
	吉田 笙	いわき秀英高等学校	3	フリーダ・カーロの人生、 作品から見るこれからの日本のあるべき姿

第6章 高等学校教育

第1節 概要

今年度は、高等学校において、主体的・対話的で深い学びの視点も取り入れて生徒の学力向上を図り、将来への展望を抱かせるとともに、地域に貢献できる人材や社会においてリーダーシップを発揮できる人材を育成し、教員研修及び生徒指導等に取り組んだ。

(1) 「ふくしまを創る若者のプラットフォーム構築事業」

ア 地域ネットワーク推進委員の配置

県北地区の伊達高等学校、県南地区の白河旭高等学校、会津地区の喜多方高等学校、いわき地区の磐城桜が丘高校を拠点校に指定し、地域コーディネーターを1人ずつ配置した上で、県中地区の郡山東高校、南会津地区の南会津高校、相双地区の相馬総合高校を訪問校に指定して、学校と地域の協働を推進するとともに、「人材ネットワークバンク」を作成した。

イ 「若手人材」「地域人材」を活用した地域課題探究活動を支援する取組

「若手人材」「地域人材」を活用した地域課題探究活動を推進するために、県立高校に予算配分等の支援を実施した。

対象校 全県立高校

ウ 社会貢献活動コンテストの開催

復興に貢献する人材育成を目的に開催。県内の高校生が地域課題の解決に向けた取組について発表した。

エ 教員研修会の開催

地域課題探究活動を充実させ、生徒自らが正解のない問いに対して主体的に取り組む姿勢を確立するために、探究活動のプログラム作成について各校代表の教員に対して研修及び情報交換の機会を設けた。

(2) 「ふくしま高校生学びの変革支援事業」

ア 未来を担う高校生の資質・能力育成事業

(ア) 対象 県立高等学校1・2年生

(イ) 実施内容

1年生対象：県内出身の大学生との対話型のワークショップ等を実施した。

2年生対象：予備校講師等による難関大合格に向けた学習セミナー（国語・数学・英語）を実施した。

イ 進路実現のための資質・能力育成事業

(ア) 対象校 21校

(イ) 各校の取組内容

- a 思考力・判断力・表現力等の養成講座
- b 教員による、難関大学等の入学試験問題の研究と発展的内容に係る指導
- c 生徒の実態に応じた各校独自作成による校内模擬試験等の実施

- d 社会人としての在り方についての理解を深める講話
- e 大学教授等による最先端研究や理論に関する講義や演習

f 大学等と連携した最先端研究実習体験や課題研究指導（選択）

g 卒業生（大学生等）による講話

h 保護者を交えた進学勉強会

i 進路便りや年間進路指導計画表の作成・配布

(ウ) 研究会等の開催

a 学力向上のための教科指導力向上研究会

主体的・対話的で深い学びの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための研究

b 学力向上連絡協議会

主体的・対話的で深い学びの視点から生徒の主体性を生かす授業改善を進めるための協議

ウ 科学の甲子園福島県大会

生徒の理数に関する興味・関心を高めるとともに、意欲ある生徒の再生可能エネルギーの研究開発や放射線医学などを担う能力の育成を図ることを目的に開催。科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合った。

- (3) 教職員現職教育計画に基づいて、各種研修会や講習会を開催し、教職員の職責にふさわしい資質・能力の向上に努めるとともに、社会の変化や時代の進展に対応した実践的指導力を習得させるため、各種の研修等を実施した。

- (4) 多様化した生徒の心の問題の解決のために、ピアサポートプロジェクトとしてカウンセリング等の各種研修会を開催し、教員の資質向上に努めた。さらに、教育相談専門研修及び関係機関との連携強化のために各種連絡協議会を開催し、教員の実践的指導力の向上を図った。

(5) 「震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業」

ア 震災関連学習・語り部活動の人材育成

指定された各県立高校が、生徒に対して、伝承館等での研修や、各校で行う外部講師による震災関連授業等を実施し、語り部の人材育成につなげた。学習の成果は、各学校の創意工夫により、多様な方法で発信した。

なお、実践的な取組を行う「実践校」には、18校を指定した。

イ 県内の学校間での交流

語り部人材育成を強化する取組として、実践校の代表生徒による交流の場を設け、学習成果の情報共有を行った。

ウ 県外・海外の学校等との交流

実践校の生徒が県外・海外の高校生等と交流を行い、語り部活動を行った。

エ 震災学習のためのリーフレット（小冊子）の作成・配布

震災学習の成果をまとめたリーフレットを学校が作成

し、交流活動の中で配布し、活用した。
 オ 伝承館を利用した教員研修
 県立高校の教員及び公立小中学校の教員が、震災当時

の状況やその後の復興の歩み等を理解し、今後の本県の
 在り方や本県の教育について考えを深めた。

第2節 学校管理

1 生徒数と教職員数

(1) 県立高等学校の推移

年度 区分		27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
全日制	本校	84	84	79	79	79	79	77	73	68	68
	分校	5	5	3	2	2	0	0	0	0	0
定時制	独立	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	併置	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1
	計	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6
	分校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(注)募集基準として学校数を算定(課程の変更、募集停止を実施した場合、2年以上の生徒が在籍しても学校数に含めない)。

(2) 中学校卒業者の進学状況

年度 区分	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
卒業生(A)	19,427	19,782	18,929	18,824	18,482	17,622	17,276	16,594	15,899	15,884	15,556	15,225
進学希望者数(B)	18,873	19,150	18,215	18,232	17,817	16,990	16,638	15,872	15,029	15,004	14,393	14,111
進学者数(C)	19,072	19,388	18,548	18,487	18,130	17,314	17,019	16,295	15,583	15,597	15,212	14,881
進学志願率(B/A)	97.1%	96.8%	96.2%	96.9%	96.4%	96.4%	96.3%	95.6%	94.5%	94.5%	92.5%	92.7%
進学率(C/A)	98.2%	98.0%	98.0%	98.2%	98.1%	98.3%	98.5%	98.2%	98.0%	98.2%	97.8%	97.7%
入学率(C/B)	101.1%	101.2%	101.8%	101.4%	101.8%	101.9%	102.3%	102.7%	103.7%	104.0%	105.7%	105.5%

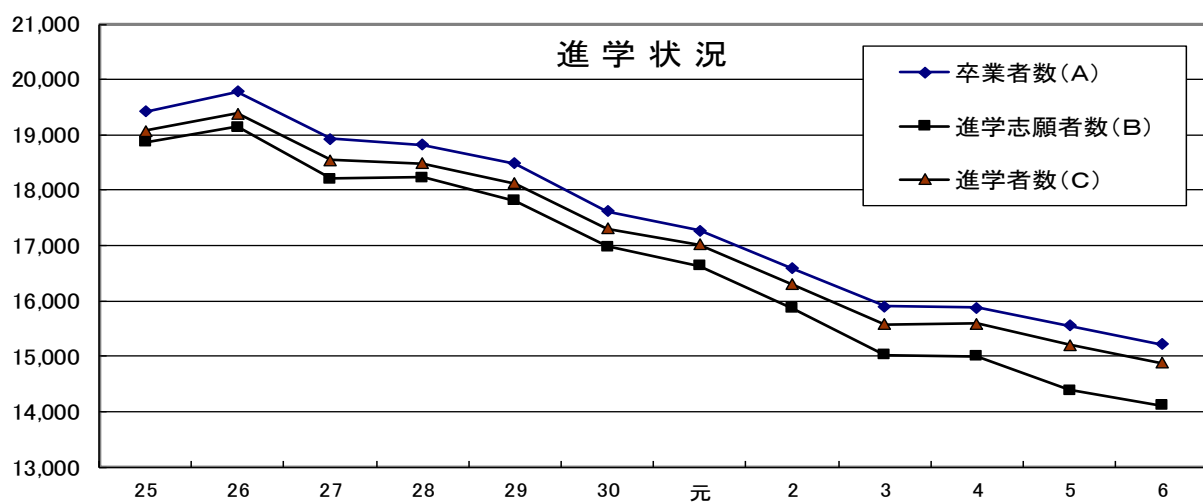
(注)進学とは中学校卒業者のうち県内外を問わず、高校の全日制、定時制、通信制、別科、高専及び特別支援学校高等部へ進学したことをいう(就職者を含む)。進学志願者数には高校の通信制課程志願者は含まれない。

中学校卒業者数は前年度より331名減少し、進学率は前年度より0.1ポイント下降、入学率は0.2ポイント下降した。

令和6年度の進学者の内訳は次のとおりである。

高等学校全日制	13,428名(90.2%)
高等学校定時制	250名(1.7%)
高等学校通信制	844名(5.7%)
高等学校別科	0名(0.0%)
高等専門学校	218名(1.5%)
特別支援学校高等部	141名(0.9%)

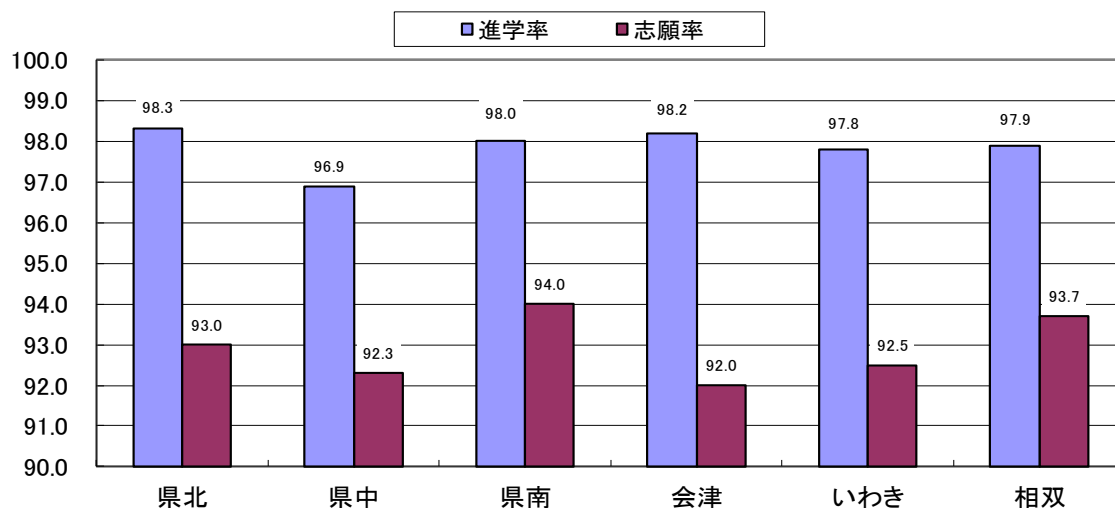
ア 中学校卒業者の進学状況の推移、進学率の推移



○高校進学率 (%)

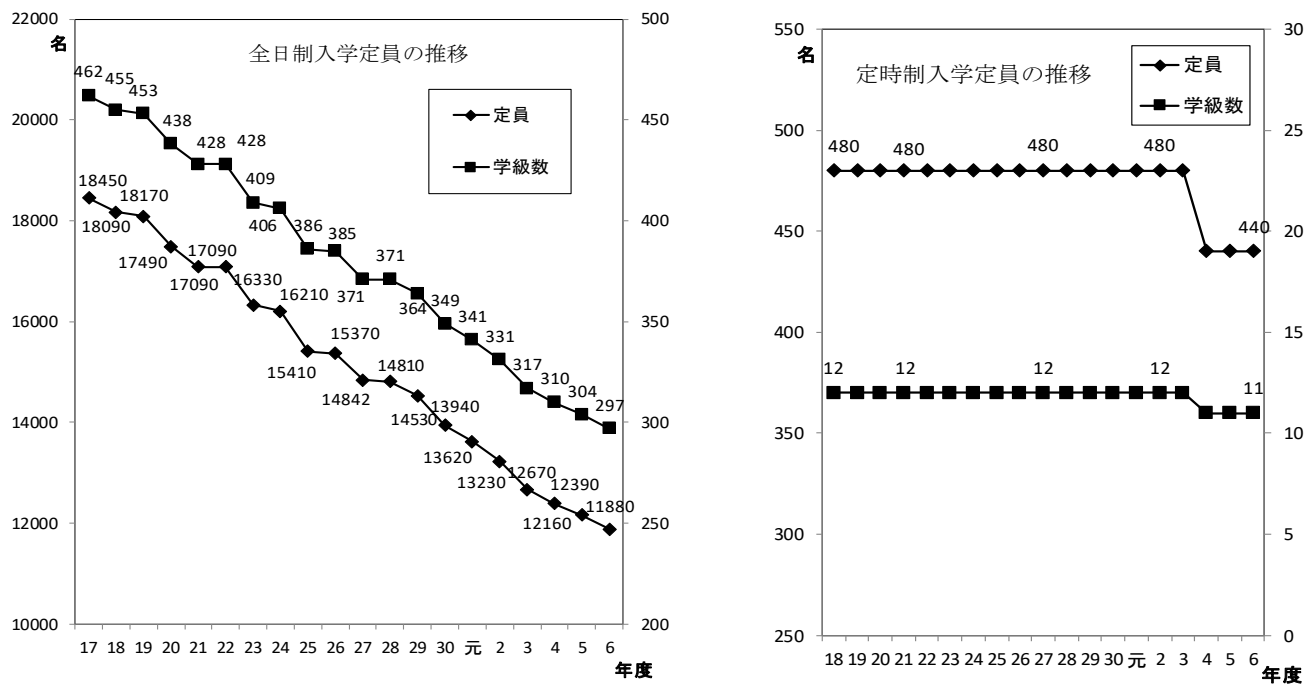
年度	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
全国	97.6	97.7	97.7	97.8	97.9	98.0	98.2	98.3	98.4	98.4	98.5	98.7	98.8	98.8	98.8	98.8	98.9	98.8	98.7	98.6
本県	97.4	97.8	97.7	97.9	98.0	98.2	98.0	98.1	98.2	98.0	98.0	98.2	98.1	98.3	98.5	98.2	98.0	98.2	97.8	97.7

イ 地域別高校志願率・進学率



(3) 県立高等学校入学定員の推移

ア 全日制入学定員並びに定時制入学定員の推移



イ 学級編成基準

学科の区分	全日制	定時制	学科の区分	全日制	定時制
普通科	35, 40	40	国際文化に関する学科	40	－
農業に関する学科	40	－	英語に関する学科	40	－
工業に関する学科	40	40	体育に関する学科	40	－
商業に関する学科	40	－	美術に関する学科	40	－
家庭に関する学科	40	－	国際科学に関する学科	40	－
水産に関する学科	40	－	総合学科	40	－
理数に関する学科	40	－	国際・スポーツに関する学科	40	－
文理に関する学科	40	－			

(4) 県立高等学校全日制課程入学状況の推移

年度	中学校卒業生数	入学定員		志願者数		志願倍率	入学者数	
	A	B 定員	B / A (%)	C 志願者数	C / A (%)	C / B (%)	D 入学者数	D / C (%)
27	18,929	14,842	78.4	15,716	83.0	106	13,961	88.8
28	18,824	14,810	78.7	15,598	82.9	105	13,945	89.4
29	18,482	14,530	78.6	15,213	82.3	105	13,478	88.6
30	17,622	13,940	79.1	14,439	81.9	104	12,839	88.9
元	17,276	13,620	78.8	13,855	80.2	102	12,426	89.7
2	16,594	13,230	79.7	12,986	78.3	98.2	11,771	90.6
3	15,899	12,670	79.7	12,248	77.0	96.7	11,008	89.9
4	15,884	12,390	78.0	12,138	76.4	98.0	10,762	88.7
5	15,556	12,160	78.2	11,842	76.1	97.4	10,671	90.1
6	15,225	11,880	78.0	11,619	76.3	97.8	10,590	91.1

(5) 県立高等学校生徒数（令和6.5.1現在）

課程 学科の区分		全日制	定時制			専攻科	合計	通信制
			学年制	単位制	計			
普通科	男	7,414	47	243	290		7,704	502
	女	7,979	45	317	362		8,341	546
	計	15,393	92	560	652		16,045	1,048
農業に関する学科	男	1,150					1,150	
	女	1,177					1,177	
	計	2,327					2,327	
工業に関する学科	男	4,115	22		22		4,137	
	女	416	4		4		420	
	計	4,531	26		26		4,557	
商業に関する学科	男	1,238					1,238	
	女	2,015					2,015	
	計	3,253					3,253	
家庭に関する学科	男	20					20	
	女	65					65	
	計	85					85	
水産に関する学科	男	260				33	293	
	女	66				4	70	
	計	326				37	363	
理数に関する学科	男	147					147	
	女	167					167	
	計	314					314	
文理に関する学科	男	331					331	
	女	529					529	
	計	860					860	
国際文化に関する学科	男	25					25	
	女	93					93	
	計	118					118	
国際・スポーツに関する学科	男	0					0	
	女	0					0	
	計	0					0	
国際科学に関する学科	男	76					76	
	女	391					391	
	計	467					467	
英語に関する学科	男	37					37	
	女	76					76	
	計	113					113	
体育に関する学科	男	100					100	
	女	10					10	
	計	110					110	
美術に関する学科	男	15					15	
	女	88					88	
	計	103					103	
総合学科	男	1,356					1,356	
	女	1,898					1,898	
	計	3,254					3,254	
合計	男	16,284	69	243	312	33	16,629	502
	女	14,970	49	317	366	4	15,340	546
	計	31,254	118	560	678	37	31,969	1,048

(6) 県立高等学校通信制課程入学者、卒業者の推移

区分	年度		25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
	学校													
入学者	郡山萌世高校		152	133	124	99	87	71	86	84	71	106	107	113
	計		152	133	124	99	87	71	86	84	71	106	107	113

区分	年度		24	25	26	27	28	29	30	元	2	3	4	5
	学校													
卒業者	郡山萌世高校		231	192	155	158	122	121	120	110	112	109	133	106
	計		231	192	155	158	122	121	120	110	112	109	133	106

(7) 県立高等学校教職員定数の推移

区分	種別	高 等 学 校																			
	課程	全日制・定時制										通信制									
	職種／年度	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6	27	28	29	30	元	2	3	4	5	6
教員	校長	86	86	81	81	81	81	79	75	70	70										
	教諭等	3223	3218	3167	3116	3047	2987	2928	2893	2861	2800	36	36	34	33	28	25	25	25	25	25
	養護教員	106	105	102	100	98	96	91	86	81	80										
	補充教員	153	145	137	131	127	124	120	124	123	125										
	充指導主事	23	23	23	23	22	22	22	23	23	23										
	寄宿舎指導員	5	6	7	8	10	10	10	10	10	10										
	実習助手	323	322	320	314	314	308	301	292	283	279										
	計	3919	3905	3837	3773	3699	3628	3551	3503	3451	3387	36	36	34	33	28	25	25	25	25	25
事務職員		245	247	240	232	228	223	217	213	207	204	6	6	6	6	6	6	4	4	4	4
その他の職員	技能員																				
	学校司書	53	53	53	52	52	52	51	52	53	53										
	用務員	45	41	40	39	42	32	29	23	20	18										
	ボイラー技師	7	6	6	5	6	3	1	2	2	2										
	栄養士	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4										
	調理給食員	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1										
	計	112	107	106	103	107	92	86	82	80	78										
練習船	技能職員	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9										
	その他の職員	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13										
	計	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22										
合 計		4298	4281	4205	4130	4056	3965	3876	3820	3760	3691	42	42	40	39	34	29	29	29	29	29

2 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

令和6年度の高等学校教職員定数（補充教員は含まない）は、前年度比71人減の3,595人となった。このうち、教諭等は、前年度比61人減の2,825人である。

また、特別支援学校については、前年度比9人減の1,715人となった。このうち教諭等は前年度比10人減の1,463人となった。

ア 新採用（教諭）について

令和6年度は49名（国語5名・地歴公民6名・数学4名・理科3名・保健体育3名・音楽1名・美術1名・英語4名・家庭2名・情報3名・農業5名・工業5名・商業4名・水産1名・福祉1名・特別選考Ⅲスポーツ1名）の新採用教員を県立高等学校に配置した。

令和6年度に実施した令和7年度福島県公立学校教員採用候補者選考試験は、採用予定者数50名程度に対して、高等学校志願者は前年比14人減の418名であった。

一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は64名（前年度比15名増）となり、新採用教員として配置されることになる。

イ 校長への昇任

県立学校の校長への昇任は、その職責の重要性にかんがみ、資格・人物・指導力等を十分考慮のうえ、教頭から6名、教育庁関係から現場復帰による10名の登用をみた。これらの管理職は、できる限り自分の専門性をいかせるよう適材を適所に配置し、適正な学校管理運営をするよう努めた。

ウ 異動について

本年度も昨年度同様の方針にのっとり、同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含めて339名の教諭等の異動が実現した。

経験豊かな教員の転出が促進されたこととともに、定時制・通信制・及び特別支援学校と全日制高校との交流が進んだことは、教育組織の強化充実に資するところであり、全県的に教育水準及び教育効果の向上に役立つものと期待される。

(2) 令和6年度県立学校教員異動基準

I 一般基準

- (ア) 過員解消のための異動は、全県的視野から優先的に取り扱う。
- (イ) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡化を図り主免許教科を担当させるように努める。
- (ウ) 優秀な人材の定時制（夜間）・通信制・分校及びへき地校への転入を図るとともに、その者が相当年数（3年以上）勤務した場合の転出については、特に考慮する。
- (エ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。
- (オ) 2親等以内の者（姻族を含む。）は、原則として、同一校勤務を避ける。
- (カ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

II 異動基準

ア 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- (ア) 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）

- (イ) 異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）

ただし、(ア)、(イ)いずれの場合も、原則として3年以上5年以内で異動させるものとする。

（「若年者」については平成21年度以降の採用者から適用する。）

- (ウ) 同一校に8年以上勤務した者

（以下「永年者」という。）

ただし、中通り地域の4校（湖南・塙工業・修明・修明鮫川）、会津地域の4校（川口・田島・南会津・只見）及び浜通り地域の2校（浪江津島・相馬農業飯舘）に3年以上勤務した場合は、永年とみなすことができる。

イ 地域、地区及び学校群による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内を中通り、会津、浜通りの3地域に分け、各地域に所在する学校を学校規模及び交通の利便性等を考慮して、別表①に定めるⅠ・Ⅱ群に分類し、以下により異動を促進する。

- (ア) 原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

- (イ) 農業、工業、商業、看護、福祉等を除く教科の教員については、Ⅱ群の学校に勤務している者が同一地区内で異動するときは、原則としてⅠ群の学校に勤務するものとする。

ただし、Ⅱ群普通系からⅡ群専門系への異動、Ⅱ群専門系勤務者のうち直近の勤務がⅠ群校の者のⅡ群普通系への異動は可とする。

なお、相双地区においてはⅡ群普通系内の異動も可とする。

- (ウ) 農業、工業、商業、看護、福祉等の教科の教員については、全県的視野から地域間で相互に異動させるものとする。

ウ 平成20年度以前の採用者について

平成30年度までは次の基準（以下「旧基準」という。）

を準用し、下記の(イ) a を満たす者は、上記イ(ア)の規定を満たすものとする。

- (ア) 勤続年数による基準

次に該当する者は、異動の対象とする。

- a 初任者 b 永年者

- (イ) 地区及び学校群による基準

教員組織の均衡化を図るため、県内を県北・県南・会津・いわき・相双の5地区に分け、地区ごとに所在する学校の地理的特殊性等を考慮して、別表②に定めるA・B・C3群に分類し、以下により異動を促進する。

- a 原則として次の条件を満たすよう勤務するものとする。
- (a) 採用後 15 年以内に 2 地区以上の学校に勤務する。
- (b) A・B 2 群の学校に勤務する。ただし、A 群については、採用後 15 年以内とする。
- b 県南地区の 4 校（湖南・埴工業・修明・修明鮫川）、会津地区の 4 校（川口・田島・南会津・只見）及び相双地区の 3 校（浪江津島・富岡川内・相馬農業飯館）は、それぞれ 1 地区とみなす。
- c 本宮は平成 16 年度より県北地区とし、平成 16 年度以降の転入・在籍者から適用する。
- d 群の取扱いの変更は、別表③の適用年度以降に当該校へ転入・在籍した者について適用する。
- e 同一学校群内の異動については、次の諸点に留意する。
- (a) A 群については、原則として、へき地校間、分校間の異動は行わない。
- (b) B 群については、原則として、同一市内間の異動は行わない。ただし、いわき市及び南相馬市は除く。
- (c) C 群については同一市内間の異動は行わない。
- f 職業に関する学科の教員で、永年者については、全県的視野から地区間で相互に異動することができるものとする。

また、異動後同一校に 3 年以上勤務した場合は、直近の勤務地区内へ異動することができる。

エ 寄宿舎指導員

原則として 2 に準ずるが、採用後 20 年以内に 2 地域の学校に勤務するものとする。

オ 交流

(ア) 学校種別間の交流

高等学校、特別支援学校及び中学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校、市町村公立中学校との交流を促進する。

- a 県立特別支援学校との交流は教諭、養護教諭、実習助手、寄宿舎指導員を対象とする。

その期間は、教諭及び実習助手については原則として 3 年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については原則として 3 年から 8 年とする。

- b 市町村公立中学校との交流は教諭を対象とし、その期間は原則として 2 年とする。

(イ) 他県との交流

他県との交流については、別に定める。

別表① 地域・地区・群学校分類表

群		I	II	
地域・地区				
中通り	県北	福島明成 福島工業（定） 福島北 福島南 川俣 伊達 安達 二本松実業 本宮 ふくしま新世	普通系	福島 橘 福島西 福島東
			専門系	福島商業 福島工業
	県中	湖南 須賀川創英館 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 石川 田村 船引 小野 郡山萌世	普通系	安積 安積黎明 郡山東 郡山 あさか開成
			専門系	郡山商業 郡山北工業
	県南	光南 修明 白河二	普通系	白河 白河旭
			専門系	白河実業
会津		喜多方 喜多方桐桜 猪苗代 西会津 会津西陵 川口 会津農林 南会津 只見 会津二	普通系	会津 葵 会津学鳳
			専門系	若松商業 会津工業
		会津学鳳中学校		
浜通り	いわき	いわき総合 いわき光洋 いわき湯本 小名浜海星 磐城農業 勿来 勿来工業 好間 四倉 いわき翠の杜	普通系	磐城 磐城桜が丘
			専門系	平工業 平商業
	相双	浪江 浪江（津島） 富岡 双葉翔陽 ふたば未来学園 相馬農業 小高産業技術	普通系	双葉 相馬 原町
			専門系	相馬総合

は、平成 29 年 4 月 1 日から休校になった学校。

別表② 地区・群別学校分類表

群 地区	A	B	C	特別支援学校 (A群校扱い)
県 北	福島工業(定) 川俣 ふくしま新世	福島商業 福島明成 福島北 伊達 安達 二本松実業 本宮	福島 橘 福島工業 福島西 福島東 福島南	視覚支援 聴覚支援(福島) 大笹生支援 だて支援 須賀川支援(医大)
県 南	石川 船引 小野 郡山萌世 白河第二	須賀川創英館 須賀川桐陽 清陵情報 岩瀬農業 光南 白河実業 田村	安積 安積黎明 郡山東 郡山商業 郡山北工業 郡山 あさか開成 白河 白河旭	聴覚支援 郡山支援 あぶくま支援 須賀川支援 須賀川支援(郡山) たむら支援
	湖南 修明			西郷支援 石川支援 石川支援(たまかわ)
会 津	猪苗代 西会津 会津第二	喜多方 喜多方桐桜 会津西陵 会津農林	会津 葵 会津学鳳 若松商業 会津工業	聴覚支援(会津) 会津支援 会津支援(竹田) 猪苗代支援
	川口 南会津 只見			
	会津学鳳中学校			
いわき	小名浜海星 磐城農業 勿来 勿来工業 いわき翠の杜	いわき総合 いわき光洋 いわき湯本 好間 四倉	磐城 磐城桜が丘 平工業 平商業	聴覚支援(平) 平支援 いわき支援 いわき支援(くぼた)
相 双	双葉翔陽	双葉 浪江 富岡 相馬農業 小高産業技術	相馬 相馬総合 原町	富岡支援 ふたば支援
	浪江(津島)			

~~~~~は、平成 29 年 4 月 1 日から休校になった学校。

別表③

| 高校名   | 群 | 適用年度  | 高校名   | 群 | 適用年度  | 高校名   | 群 | 適用年度  |
|-------|---|-------|-------|---|-------|-------|---|-------|
| 小野    | A | 昭和 52 | 白河実業  | B | 昭和 61 | 棚倉    | A | 平成 10 |
| 福島明成  | B | 昭和 56 | 川俣    | A | 平成 2  | 東白川農商 | A | 〃     |
| 福島北   | B | 〃     | 福島商業  | B | 〃     | あさか開成 | C | 平成 11 |
| いわき海星 | A | 〃     | 梁川    | A | 平成 8  | 光南    | B | 〃     |
| 磐城農業  | A | 〃     | 船引    | A | 〃     | 石川    | A | 〃     |
| 勿来工業  | A | 〃     | いわき光洋 | C | 〃     | いわき光洋 | B | 平成 16 |
| 双葉翔陽  | A | 〃     | 勿来    | A | 〃     |       |   |       |
| 猪苗代   | A | 昭和 58 | 相馬農業  | B | 〃     |       |   |       |

(3) 教頭複数制実施校(令和6年度実績)

|         |       |        |       |
|---------|-------|--------|-------|
| 福島      | 橘     | 福島商業   | 福島明成  |
| 福島工業    | 福島西   | 福島東    | 伊達    |
| 二本松実業   | 安積    | 安積黎明   | 郡山東   |
| 郡山北工    | 郡山    | 須賀川創英館 | 清陵情報  |
| 岩瀬農業    | 光南    | 白河     | 白河実業  |
| 修明      | 田村    | 会津     | 会津学鳳  |
| 喜多方     | 会津西陵  | 磐城     | 磐城桜が丘 |
| 平工業     | いわき総合 | いわき湯本  | 小名浜海星 |
| ふたば未来学園 | 相馬総合  | 小高産業技術 | 郡山萌世  |
| ふくしま新世  | 視覚支援  | 聴覚支援   | 大笹生支援 |
| だて支援    | 郡山支援  | あぶくま支援 | 須賀川支援 |
| 西郷支援    | 石川支援  | たむら支援  | 会津支援  |
| 平支援     | いわき支援 | 相馬支援   |       |

3 学校の設置及び統廃合

－ 公立高等学校の設置・廃止等(令和7年度)－

(1) 学校の新設・廃止等

ア 統合に伴う学校廃止 全日制2校

| 課程  | 学校名   | 内 容     |
|-----|-------|---------|
| 全日制 | いわき総合 | 総合学科5学級 |
|     | 好間    | 普通科2学級  |

イ 統合に伴う学校新設 全日制1校

| 課程  | 学校名   | 内 容     |
|-----|-------|---------|
| 全日制 | いわき総合 | 総合学科6学級 |

ウ 休校 全日制5校

双葉高等学校、浪江高等学校、浪江高等学校津島校、  
富岡高等学校、双葉翔陽高等学校

(2) 学級増

なし

(3) 学級減

全日制6校6学級

| 課程  | 学校名    | 内 容     |
|-----|--------|---------|
| 全日制 | 伊達     | 普通科1学級  |
|     | 須賀川創英館 | 普通科1学級  |
|     | 白河     | 普通科1学級  |
|     | 会津西陵   | 普通科1学級  |
|     | 南会津    | 総合学科1学級 |
|     | 相馬総合   | 総合学科1学級 |

(4) 募集停止

なし

(5) 学科転換・学科改編・学科新設

|    |          |     |
|----|----------|-----|
| 郡山 | 普通科      | 5学級 |
|    | 英語科      | 1学級 |
|    | 計        | 6学級 |
| →  | 普通科(単位制) | 4学級 |
|    | 探究科(単位制) | 2学級 |
|    | 計        | 6学級 |

(6) 学科名変更

なし

(7) 校名変更

なし

(8) 35人学級編制

|       |           |     |
|-------|-----------|-----|
| 喜多方桐桜 | 機械科       | 1学級 |
|       | 電気・電子科    | 1学級 |
|       | 建設科       | 1学級 |
|       | 経営マネジメント科 | 1学級 |
|       | 計         | 4学級 |

(9) 連携型中高一貫教育校

| 課程  | 学校名                              | 連携中学校                                                                                                |
|-----|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 全日制 | 修明<br>南会津<br>ふたば未来学園<br><br>相馬総合 | 棚倉、塙、矢祭、鮫川<br>田島、荒海、舘岩、南会津、下郷<br>なみえ創成、葛尾、双葉<br>学び舎ゆめの森、富岡<br>川内小中学園、檜葉、広野<br>中村第一、中村第二、<br>向陽、磯部、尚英 |

(10) 併設型中高一貫教育校

安積高等学校(県立安積中学校)  
会津学鳳高等学校(会津学鳳中学校)  
ふたば未来学園高等学校(ふたば未来学園中学校)

(11) 通信制

変更なし

(12) 専攻科

変更なし

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

生徒の能力・適性、進路・関心等を十分考慮し、地域や学校の実態に応じた教育指導の充実を図りながら、人間性豊かな生徒の育成を目指して、学校教育活動が活発に展開されるよう次の重点目標を設定し、その達成に努めた。

ア 生徒の実態等を踏まえ、各学校が主体性をもって、多様な教育課程を編成し、特色ある学校づくりができるよう指導・援助する。

イ 指導内容の精選と構造化に努め、言語活動の充実と生徒のよい点を積極的に評価するなどの評価の改善を進めることにより、生徒一人一人の個性を生かす指導方法の工夫・改善を図られるよう指導・援助する。

ウ 生徒指導の組織・体制を点検するとともに、教職員の共通理解を基盤として、中学校や家庭との連携を深めながら、生徒理解に基づいた指導が展開されるよう、指導・援助する。

エ 生徒の学校生活への適応を促し、中途退学者の減少及び問題行動・生徒事故の未然防止が図られるよう指導・援助する。

オ 教職員の資質と指導力の向上に努める。

カ 勤労観・職業観の育成にかかわる体験的な学習及び産業教育、情報教育の推進を図る。

#### (2) 指導組織

高校教育課長を中心に、主幹、主任指導主事及び指導主事が一体となって、それぞれの分掌に従い、企画・運営・指導助言に当たった。

また、学校教育指導委員については、県立高校教諭13名を指名し、各教科等の指導活動の充実・強化を図った。

#### (3) 学校教育指導の重点

前記の基本方針に基づき、指導の重点を次のように設定し、指導の充実を図った。

ア 教育課程の適切な運営と指導法の改善を図る。

(ア) 教育課程の適正な実施について、校長会、教頭会において周知徹底を図った。

(イ) 福島県高等学校教育課程講習会において、高等学校学習指導要領の趣旨の徹底を図るため、参加者に対して講義及び協議を実施し、教育課程実施に伴う諸問題について理解を深めた。

イ 学力向上を図る。

「ふくしま高校生学びの变革支援事業」として、生徒の進路希望実現を目指した各学校の学力向上やキャリア教育に関する取組の支援、授業改善や進学指導力向上のための研究会などを実施した。また、将来社会においてリーダーシップを発揮できる人材の育成を目指し、難関大学進学への意識、意欲の高い生徒を対象とした学習セミナーを実施した。さらに、対象校の進路指導担当者を出席者とする情報交換会を実施した。

ウ 生徒指導の充実を図る。

(ア) 各種研修会、学校訪問等の指導を通して、校内における指導体制の確立を図るとともに、教職員の共通理解を図り、同一歩調による生徒指導の充実に努めた。

(イ) 生徒指導担当者研修会を開催し、生徒の多様化に即した生徒指導の在り方、開かれた生徒指導の在り方について研究協議を行った。

(ウ) 学校における教育相談体制の確立と教育相談活動の改善・充実を図った。

(エ) スクールカウンセラー活用事業として、生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識・経験を有するスクールカウンセラーを配置し、いじめや不登校等生徒の問題行動の解決に当たった。

エ 進路指導の充実を図る。

各種の研修会や講座を通して、下記事項の徹底に努めた。

(ア) キャリア教育の観点より低学年からの計画的・組織的な進路指導を通し進路意識の高揚に努めること。

(イ) ホームルーム活動における進路指導の充実に努めること。

(ウ) 面談や諸調査・諸検査を通して、生徒の能力・適性・進路の希望等を的確に把握すること。

(エ) 生徒の自己理解の促進に努めること。

(オ) 進路指導室の整備及び進路に関する情報や資料の収集に努めるとともに、その効果的な活用を図ること。

(カ) 組織的・計画的な進路相談の充実に努めること。

(キ) きめ細かな就職指導の充実・徹底に努めること。

オ 産業教育の充実を図る。

産業教育の改善・充実を図るため、施設・設備の充実及び情報教育の推進に努めた。

(ア) 体験入学の内容の質的改善・充実に努めた。

(イ) 情報教育の充実のため、教員の研修に努めた。

(ウ) 産業教育関係機関との連携により、産業教育の振興に努めた。

#### (4) 教職員の資質の向上と学校管理運営の充実

ア 現職教育の充実

(ア) 校内における研修体制の改善・充実を図った。

(イ) 研修会、講習会等への積極的な参加を促進し、指導力の向上を図った。

(ウ) 自己研修の充実により、教職員の能力が効果的に発揮されるように努めた。

イ 学校管理運営の適正化

(ア) 学校経営・運営ビジョンを定め、その達成度を客観的に評価し、その結果を公表するように努めた。

(イ) 管理者が学校管理運営について積極的に指導助言を行うよう努めた。

(ウ) 諸表簿の整理と保管、設備・備品の管理と活用については、適正に行われるように努めた。

(エ) 学校事務の責任分担を明確にし、正確、敏速、円滑に処理するよう努めた。

(オ) 各種調査報告について、厳正、的確に作成し、期限の厳守に努めた。

#### ウ 勤務体制の確立

教職員の勤務内容を明確にし、その実績について客観的に評価できるようにした。

#### エ 使命感の高揚

(ア) 教育公務員としての使命感に徹し、規律と責任ある体制を整え、教育能率の向上に努めた。

(イ) 教育公務員としての立場を自覚するとともに、服務倫理委員会を活用して事故防止に努め、社会的信用を失墜させることのないようにした。

(ウ) 絶えず自己研修に努め、豊かな知性を養い、指導力を高め、職責を十分果たせるようにした。

### (5) 教育環境の整備充実

#### ア 学習環境の整備充実

(ア) 環境整備については、計画的に充実を図った。

(イ) 学習環境を整備し、学習意欲の高揚を図った。

(ウ) 施設・設備の管理と運営の適正化を図った。

#### イ 学校事故防止の徹底

(ア) 安全教育の計画的実施と、事故防止を配慮した環境の整備改善に努めた。

(イ) 学校事故、教職員事故の防止については、適切な対策を講じ、事故の絶無を期した。

(ウ) 指導・管理の充実を図るため、関係機関、団体等との連携を密にして協力体制の確立に努めた。

### (6) 県立高等学校入学者選抜

#### ア 基本方針

令和7年度福島県立高等学校入学者選抜における基本方針

##### (ア) 特色選抜

特色選抜は、各高等学校が自校の特色に応じてどのような受験生に志願してほしいかを選抜方法と併せて明示し、受験生は、それに応じて自分の志願したい高等学校を主体的に選択し出願できる選抜とする。選抜に当たっては、受験生の個性や学ぶ意欲を重視するとともに、自校の特色に応じた選抜となるよう選抜資料を活用し、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、特色選抜の性格をより明確にするため、各高等学校の「志願してほしい生徒像」については、より具体的な記載を可能とする。

a 選抜に当たっては、志願理由書の記載内容、調査書の審査結果、学力検査の成績及び特色選抜に係る面接（以下「特色面接」という。）の結果を資料とする。なお、各高等学校の判断により、学校の特色や学科の特性に応じて、小論文（又は作文）、実技等（以下「特色検査」という。）の結果を選抜資料に加えることができるものとする。

b 特色選抜においては、各高等学校が自校の教育目標にふさわしい入学者を選抜するため、受験生を多面的・多角的に評価するための資料の一つとして特色面接の

結果及び特色検査を実施した場合にはその結果を積極的に活用するものとする。

c 特色選抜の定員枠については、県教育委員会が定める範囲の中で、各高等学校が、その特色や学科の特性に応じて設定するものとする。

d 可否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、特色面接の結果及び特色検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

##### (イ) 一般選抜

一般選抜は、中学校における学習活動の成果を総合的にみる選抜とする。選抜に当たっては、学力検査の成績、調査書の審査結果を資料とし、さらに一般選抜に係る面接（以下「一般面接」という。）を実施する高等学校においては一般面接の結果を併せて資料とし、各学校の特色、学科の特性等に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

a 特定の教科の学力検査の配点の比重を変える傾斜配点については、各学校の特色・学科の特性を考慮し、各高等学校の判断により実施することができるものとする。

また、志願者の自己申告による傾斜配点についても、各高等学校の判断により実施できるものとする。

b 一般選抜の可否判定に当たっては、学力検査と調査書の成績の比重を原則として同等とする。

ただし、各高等学校が自校の特色化を図るために必要と判断する場合には、学力検査と調査書の成績の比重を変えることができるものとする。

c 一般面接については、各高等学校の判断により実施できるものとする。

##### (ウ) 後期選抜

後期選抜は、前期選抜及び連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（以下「連携型選抜」という。）により定員（併設型中高一貫教育校における高等学校においては、当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校から当該高等学校への入学を志願する者の数を除いた数とする。）を充足しない高等学校において実施するものとし、前期選抜及び連携型選抜の受験の有無にかかわらず出願できる選抜とする。

選抜に当たっては、調査書の審査結果、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を資料として、各高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

なお、前期選抜又は連携型選抜に合格した者は出願できないものとする。

a 選抜に当たっては、調査書の成績とともに、面接の結果及び小論文（又は作文）の結果を十分に精査する。

b 前期選抜に係る学力検査の成績は、後期選抜の資料

とはしないものとする。

- c 後期選抜における面接は、受験生の学ぶ意欲をみる内容とともに、中学校における学習活動の成果を問う内容を含むことができるものとする。

なお、併設型中高一貫教育校における中学校から当該中学校に係る併設型中高一貫教育校における高等学校への入学を志願する者については、各選抜に出願することはできないものとする。

イ アドミッション・ポリシーの策定に伴う対応

- (ア) 令和5年度に各校においてスクール・ポリシーを策定したことを受け、各校が自校のアドミッション・ポリシーに基づいて生徒を募集し、各選抜を実施するものとする。

- (イ) 各校の選抜方法の調査票及び募集要項にアドミッション・ポリシーを掲載することとする。

a 連携型選抜

連携型中高一貫教育を実施する高等学校（以下「連携型高等学校」という。）において、連携型中高一貫教育を実施する中学校（以下「連携型中学校」という。）から目的意識や意欲のある生徒の入学を促進し、6年間を通して生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を図るため、連携型選抜を実施する。

- (a) 実施高等学校及び対象中学校・義務教育学校は、以下のとおりである。

- (1) 県立白河実業高等学校及び埴町立埴中学校
- (2) 県立南会津高等学校及び南会津町立田島中学校・荒海中学校
- (3) 県立相馬総合高等学校及び相馬市立中村第一中学校・中村第二中学校・向陽中学校・磯部中学校、新地町立尚英中学校
- (4) 県立ふたば未来学園高等学校及び浪江町立なみえ創成中学校、葛尾村立葛尾中学校、双葉町立双葉中学校、大熊町立学び舎ゆめの森、富岡町立富岡中学校、川内村立川内小中学園、檜葉町立檜葉中学校、広野町立広野中学校

- (b) 募集定員枠については、別に公告する募集定員の30%を下限とし、各連携型高等学校が学校・学科の特色や地域の特性に応じて設定する。

ただし、定員枠については、当該高等学校長はあらかじめ県教育委員会と協議するものとする。

また、特色選抜の募集定員枠は、これとは別に設定するものとし、併設型中高一貫教育校における高等学校においては、これらの割合について、別に公告する募集定員から当該高等学校に係る併設型中高一貫教育校における中学校の第3学年に在学する者（11月1日現在）の数を除いた数に対する割合とする。

なお、可否の判定に当たっては、志願者の動向や各学校・学科の実態に応じて、弾力的に対応することができる。

- (c) 連携型高等学校の連携型選抜に出願することがで

きる者は、当該高等学校と連携している中学校を卒業する見込みの者とする。

なお、連携型中学校を卒業する見込みの者は、当該中学校と連携している高等学校の特色選抜へ出願することはできない。

- (d) 受験生の個性や学ぶ意欲をみるとともに、連携している内容に応じた選抜となるよう配慮し、各連携型高等学校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定して選抜するものとする。

- (e) 志願者全員に学力検査を課す。学力検査を実施する教科は、国語、社会、数学、理科、外国語（英語）の5教科とし、学力検査の問題作成や配点については、前期選抜と同様とする。

- (f) 選抜に当たっては、中学校長から提出された調査書の審査結果、学力検査の成績及び連携型選抜に係る面接（以下「連携型面接」という。）の結果を資料とする。

なお、各連携型高等学校長の判断により、各連携型高等学校が連携している教育課程に基づいた内容に応じた選抜方法に加え、学校の特色や学科の特性等に関する内容に応じた選抜方法（以下これらを「連携型検査」という。）を選択して実施した場合には、それらの結果を併せて資料として選抜を行うことができるものとする。

- (g) 可否の判定に当たっては、調査書の審査結果、学力検査の成績、連携型面接の結果及び連携型検査を実施した場合にはその結果の比重を、県教育委員会が定めた範囲内で各高等学校がその特色や学科の特性に応じて定めるものとする。

- (h) 連携型選抜の志願者は、出願した高等学校において一般選抜にも出願できるものとするが、その場合、各連携型高等学校は、連携型選抜、一般選抜の順に可否判定を行う。

- (i) 連携型選抜に出願する者は、特色選抜との併願はできない。

ウ 入学者選抜関係日程

- (ア) 入学者選抜に係る会議等の日程

6月11日 第1回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

7月11日 第2回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月27日 第3回県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議

8月27日 県立中学校・高等学校入学者選抜方法の改善等に関する調査研究報告書提出

10月9日～10月10日

オンライン方式で入学者選抜実施要綱説明会実施

10月11日 令和7年度入学者募集定員決定

- (イ) 前期選抜関係日程

2月4日～2月7日 出願書類受付

2月10日～2月13日 出願先変更  
2月14日～2月17日 調査書提出  
3月5日 学力検査  
3月5日～3月7日 面接等  
3月11日～3月12日 追検査等  
3月14日 合格者発表

(ウ) 後期選抜関係日程

3月17日～3月18日 出願書類受付  
3月19日 出願先変更  
3月24日 面接等  
3月25日 合格者発表

(エ) 連携型選抜関係日程

2月4日～2月7日 出願書類受付  
2月10日～2月13日 出願先変更  
2月14日～2月17日 調査書提出  
3月5日 学力検査  
3月5日～3月7日 面接等  
3月11日～3月12日 追検査等  
3月14日 合格者発表

(オ) 通信制の課程選抜日程

2月4日～3月28日 出願書類受付  
4月4日 合格者発表(個人宛通知)

エ ふたば未来学園高等学校の入学者選抜

平成27年度入学者選抜において、双葉高等学校(普通科)、浪江高等学校(普通科)、浪江高等学校津島校(普通科)、富岡高等学校(国際・スポーツ科)、双葉翔陽高等学校(総合学科)を募集停止とし、平成27年4月にふたば未来学園高等学校を開校した。令和7年度連携型選抜においては、次の(ア)～(ウ)に該当する者を出願資格を有する者とした。

(ア) 出願時にJ F Aアカデミー福島又は双葉地区未来創造型リーダー育成構想(新双葉地区教育構想)ビクトリープログラムに参加している者

(イ) 次の双葉郡の中学校に在籍している者

双葉郡浪江町立なみえ創成中学校  
双葉郡葛尾村立葛尾中学校  
双葉郡双葉町立双葉中学校  
双葉郡大熊町立学び舎ゆめの森  
双葉郡富岡町立富岡中学校  
双葉郡川内村立川内小中学園  
双葉郡檜葉町立檜葉中学校  
双葉郡広野町立広野中学校

(ウ) ふたば未来学園高等学校との連携型中高一貫教育を実施している中学校に在籍している者以外で、東日本大震災が発生した時に、双葉郡内に居住していた者又は双葉郡内に保護者が居住していた者で、中学校若しくはこれに準ずる学校若しくは義務教育学校若しくは中等教育学校の前期課程を令和7年3月に卒業見込又は修了見込の者

オ 志願者数・合格者数

(ア) 各選抜ごとの集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、文理探究科、国際文化科、スポーツ科、デザイン科学科、国際科学科、探究科が含まれる。

a 特色選抜

《全日制》

| 学科   | 募集定員   | 特色選抜<br>定員 | 志願者数  | 志願<br>倍率 | 合格者数  |
|------|--------|------------|-------|----------|-------|
| 普通科等 | 6,200  | 1,009      | 926   | 0.92     | 753   |
| 農 業  | 1,000  | 194        | 84    | 0.43     | 59    |
| 工 業  | 1,785  | 495        | 323   | 0.65     | 298   |
| 商 業  | 1,195  | 459        | 390   | 0.85     | 331   |
| 水 産  | 120    | 48         | 9     | 0.19     | 9     |
| 家 庭  | 40     | 4          | 4     | 1.00     | 4     |
| 総 合  | 1,240  | 367        | 330   | 0.90     | 252   |
| 計    | 11,580 | 2,576      | 2,066 | 0.80     | 1,706 |

《定時制》

| 学科  | 募集定員 | 特色選抜<br>定員 | 志願者数 | 志願<br>倍率 | 合格者数 |
|-----|------|------------|------|----------|------|
| 普 通 | 400  | 48         | 10   | 0.21     | 4    |
| 工 業 | 40   | 8          | 0    | 0.00     | 0    |
| 計   | 440  | 56         | 10   | 0.18     | 4    |

b 連携型中高一貫教育に係る入学者選抜（連携型選抜）

| 学科  | 連携型選抜<br>定員 | 志願者数 | 志願<br>倍率 | 合格者数 |
|-----|-------------|------|----------|------|
| 工 業 | 36          | 1    | 0.03     | 1    |
| 総 合 | 110         | 83   | 0.75     | 72   |
| 計   | 146         | 84   | 0.58     | 73   |

c 前期選抜、連携型選抜

《全日制》

| 学科   | 募集定員   | 志願者数   | 志願<br>倍率 | 合格者数  |
|------|--------|--------|----------|-------|
| 普通科等 | 6,200  | 6,080  | 0.98     | 5,513 |
| 農 業  | 1,000  | 780    | 0.78     | 743   |
| 工 業  | 1,785  | 1,505  | 0.84     | 1,448 |
| 商 業  | 1,195  | 1,106  | 0.93     | 1,026 |
| 水 産  | 120    | 105    | 0.88     | 101   |
| 家 庭  | 40     | 31     | 0.78     | 30    |
| 総 合  | 1,240  | 1,060  | 0.96     | 979   |
| 計    | 11,580 | 10,667 | 0.93     | 9,840 |

※ 「総合」及び「計」の志願倍率は、会津学鳳中学校から会津学鳳高等学校への入学予定者 84 名と、ふたば未来学園中学校からふたば未来学園高等学校への入学予定者 53 名を、入学定員から減じて算出した値である。

《定時制》

| 学科  | 募集定員 | 志願者数 | 志願<br>倍率 | 合格者数 |
|-----|------|------|----------|------|
| 普 通 | 400  | 284  | 0.71     | 238  |
| 工 業 | 40   | 8    | 0.20     | 8    |
| 計   | 440  | 292  | 0.66     | 246  |

d 外国人生徒等に係る特別枠選抜

| 募集定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|------|------|------|
| 若干名  | 13   | 9    |

e 後期選抜

《全日制》

| 学科   | 募集定員  | 志願者数 | 合格者数 |
|------|-------|------|------|
| 普通科等 | 687   | 86   | 79   |
| 農 業  | 257   | 34   | 27   |
| 工 業  | 337   | 22   | 22   |
| 商 業  | 169   | 19   | 19   |
| 水 産  | 19    | 2    | 2    |
| 家 庭  | 10    | 1    | 1    |
| 総 合  | 124   | 11   | 11   |
| 計    | 1,603 | 175  | 161  |

《定時制》

| 学科  | 募集定員 | 志願者数 | 合格者数 |
|-----|------|------|------|
| 普 通 | 162  | 11   | 7    |
| 工 業 | 32   | 1    | 1    |
| 計   | 194  | 12   | 8    |

(4) 後期選抜実施後の最終集計

※「普通科等」には、普通科、理数科、数理科学科、文理科、文理探究科、国際文化科、スポーツ科、デザイン科学科、国際科学科、探究科が含まれる。

《全日制》

| 学科   | 募集定員   | 特色選抜<br>合格者数 | 連携型選抜<br>合格者数 | 前期選抜<br>連携型選抜<br>合格者数 | 後 期 選 抜<br>合 格 者 数 | 合格者数   |
|------|--------|--------------|---------------|-----------------------|--------------------|--------|
| 普通科等 | 6,200  | 753          |               | 5,513                 | 79                 | 5,592  |
| 農 業  | 1,000  | 59           |               | 743                   | 27                 | 770    |
| 工 業  | 1,785  | 298          | 1             | 1,448                 | 22                 | 1,470  |
| 商 業  | 1,195  | 331          |               | 1,026                 | 19                 | 1,045  |
| 水 産  | 120    | 9            |               | 101                   | 2                  | 103    |
| 家 庭  | 40     | 4            |               | 30                    | 1                  | 31     |
| 総 合  | 1,240  | 252          | 72            | 979                   | 11                 | 990    |
| 計    | 11,580 | 1,706        | 73            | 9,840                 | 161                | 10,001 |

《定時制》

| 学科  | 募集定員 | 特色選抜<br>合格者数 | 連携型選抜<br>合格者数 | 前 期 選 抜<br>合 格 者 数 | 後 期 選 抜<br>合 格 者 数 | 合格者数 |
|-----|------|--------------|---------------|--------------------|--------------------|------|
| 普 通 | 400  | 4            |               | 238                | 7                  | 245  |
| 工 業 | 40   | 0            |               | 8                  | 1                  | 9    |
| 計   | 440  | 4            |               | 246                | 8                  | 254  |

## 2 現職教育

### (1) 各種研修並びに講習会

| 名 称                         | 期日                                                | 期間   | 会 場           | 参加者                           |
|-----------------------------|---------------------------------------------------|------|---------------|-------------------------------|
| 県立学校新任校長・副校長研修会             | 5月7日～8日                                           | 2日   | 教育センター        |                               |
| 県立学校新任教頭研修会                 | 5月9日～10日                                          | 2日   | 教育センター        |                               |
| 中核教諭研修                      | 10月23日～25日                                        | 3日   | 教育センター        | 県立学校中核教諭 50名                  |
| 初任者研修（基本研修）                 | 4月3日、10日                                          | 2日   | 教育センター, オンライン | 高等学校初任者研修<br><br>対象教員 38名     |
| 〃（一次研修）                     | 4月24日～25日、5月1日                                    | 3日   | 教育センター, オンライン |                               |
| 〃（二次研修）                     | 1月29日、2月5日～6日                                     | 3日   | 教育センター, オンライン |                               |
| 〃 地区別（教科別）                  | 1班 8月28日～30日                                      | 3日   |               |                               |
|                             | 2班 9月9日～11日                                       | 3日   |               |                               |
| 〃 地区別（一般Ⅰ）                  | 4月17日                                             | 1日   | 各所属校          |                               |
| 〃 地区別（一般Ⅱ）                  | 10月2日                                             | 1日   | 各地区施設、学校等     |                               |
| 〃 地区別（カウンセリング）              | 7月22日～8月22日                                       | 2日   |               |                               |
| 〃 地区別（特別活動等）                | 9月4日                                              | 1日   |               |                               |
| 〃 地区別（社会奉仕等体験）              | 5月29日～11月27日                                      | 1日   |               |                               |
| 〃 地区別（安全教育）                 | 5月15日                                             | 1日   |               |                               |
| 2年次教員フォローアップ研修<br>（教科等指導研修） | 7月1日                                              | 1日   | 教育センター        | 高等学校初任者研修<br>修了教員 38名         |
| 〃（企業体験研修）                   | 7月23日～8月22日                                       | 2日   | 各企業等          |                               |
| 〃（所属校における研修）                | 4月～3月                                             | 30時間 | 各所属校          |                               |
| 5年経験者研修（校外研修）               | 1班<br>9月6日、10月2日、21日<br>2班<br>9月13日、10月18日、10月21日 | 3日   | 教育センター        | 県立学校教職経験<br><br>5年を経過した者 40名  |
| 〃（所属校における研修）                | 5月～12月                                            | 5日   | 各所属校          |                               |
| 中堅教諭等資質向上研修                 | 4月16日                                             | 1日   | 教育センター        | 県立学校教職経験<br><br>10年を経過した者 63名 |
| 〃（生徒指導研修）                   | 7月4日                                              | 1日   | 教育センター        |                               |
| 〃（教科指導研修Ⅰ）                  | 7月8日                                              | 1日   | 教育センター        |                               |
| 〃（教科指導研修Ⅱ）                  | 2月3日                                              | 1日   | 教育センター        |                               |
| 〃（マネジメント）                   | 6月13日                                             | 1日   | 教育センター        |                               |
| 〃（特別活動 選択）                  | 9月4日                                              | 1日   | 各所、施設等        |                               |

### (2) 教員体験研修（2か月）

実施せず

### (3) 職階別中央研修

ア 趣旨

各地域において、中心的な役割を担う校長、副校長・教頭等、中堅教員・次世代リーダー教員及び事務職員を対象として、学校が直面する課題に組織として対応し、特色ある教育活動を自律的に展開したり、当該地域の教職員や学校の学びを高めたりするための学校経営等に資する課題解決力の育成を目指す。

イ 主催 独立行政法人教職員支援機構

ウ 共催 文部科学省

エ 会場 独立行政法人教職員支援機構つくば本部

オ 期間及び参加者

(ア) 校長研修（11月25日～11月29日）

県立相馬農業高等学校長 志賀 勲

(イ) 副校長・教頭等研修（8月26日～8月30日）

県立福島高等学校教頭 細谷 弘樹

(ウ) 中堅教員・次世代リーダー教員研修

（11月18日～11月22日）

県立福島明成高等学校教諭 佐藤 由紀

### (4) 探究型中央研修

ア 趣旨

「自ら問いを立て、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ねながら、実践を展開することで、自他の価値を捉え直し、新たな問いや実践に向かう」持続的なプロセスを提供し、このプロセスを通して、課題を探究する力や探究的な学びをデザインし、マネジメントする力といった、教師にとって中核的（コア）に求められている力を高めることを目的とする。

- イ 主催 独立行政法人教職員支援機構
- ウ 共催 文部科学省
- エ 会場 独立行政法人教職員支援機構つくば本部、オンライン
- オ 期間及び参加者  
 ◇令和6・7年度探究型中央研修コア研修（2年コース）  
 （令和6年7月2日、7月31日～8月2日、令和7年2月12日、令和7年7月～8月、11月～12月、令和8年2月（予定））  
 県立磐城桜が丘高等学教頭 新方 浩二  
 県立磐城桜が丘高等学教諭 宮内 忠志

(5) 学校組織マネジメント指導者養成研修

- ア 趣旨  
 各学校や当該地域において指導的な役割を果たすべく、学校ビジョンの構築、学校教育目標の具現化をマネジメントする専門的知見を活用し、組織的な取組を推進する力、各学校や当該地域において、教職員の専門性向上を推進する力を育成することを目的とする。
- イ 主催 独立行政法人教職員支援機構
- ウ 共催 文部科学省
- エ 会場 リアルタイム・オンライン研修
- オ 期間及び参加者（9月24日～9月26日）  
 県立喜多方高等学校教頭 小野 拓也

3 教育課程

(1) 高等学校各教科等担当指導主事連絡協議会

- ア 目的  
 高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施上の諸問題に関する説明、協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。
- イ 主催 文部科学省
- ウ 共催 国立教育政策研究所
- エ 期日 6月24日（月）～28日（金）、7月1日（月）～4日（木）
- オ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
 （ハイブリッド形式による開催）

カ 参加者

| 部 会     | 氏 名   | 所 属       |
|---------|-------|-----------|
| 総 則     | 梅野 克也 | 高 校 教 育 課 |
| 国 語     | 梶川 光生 | 高 校 教 育 課 |
| 地 理 歴 史 | 佐々木理恵 | 高 校 教 育 課 |
| 公 民     | 近内 正幸 | 高 校 教 育 課 |
| 数 学     | 宗形 聡  | 高 校 教 育 課 |
| 理 科     | 高橋 昌弘 | 高 校 教 育 課 |
| 保 健 体 育 | 渡邊優一郎 | 健 康 教 育 課 |
| 音 楽     | 深田 裕子 | 高 校 教 育 課 |

| 部 会         | 氏 名   | 所 属             |
|-------------|-------|-----------------|
| 美 術 ・ 工 芸   | 茂木 拓  | 教 育 セ ン タ ー     |
| 書 道         | 佐藤 真紀 | 白 河 高 等 学 校     |
| 外 国 語       | 小澤 恵子 | 高 校 教 育 課       |
| 家 庭 （ 共 通 ） | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課       |
| 情 報 （ 共 通 ） | 齋藤 亮  | 高 校 教 育 課       |
| 理 数         | 高橋 昌弘 | 高 校 教 育 課       |
| 農 業         | 江川 篤  | 高 校 教 育 課       |
| 工 業         | 佐藤 貴之 | 高 校 教 育 課       |
| 商 業         | 猪狩 晃一 | 高 校 教 育 課       |
| 水 産         | 江川 篤  | 高 校 教 育 課       |
| 家 庭 （ 専 門 ） | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課       |
| 看 護         | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課       |
| 情 報 （ 専 門 ） | 齋藤 亮  | 高 校 教 育 課       |
| 福 祉         | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課       |
| 総合的な探究の時間   | 持舘 智  | 相 双 教 育 事 務 所   |
| 特 別 活 動     | 志賀 光博 | い わ き 教 育 事 務 所 |

(2) 高等学校各教科等教育課程研究協議会

- ア 目的  
 高等学校学習指導要領の趣旨の実現を目指し、教育課程の編成及び実施上の諸問題に関する研究協議、情報交換等を行い、もって高等学校における教育課程の適切な実施を図ることを目的とする。
- イ 主催 文部科学省
- ウ 共催 国立教育政策研究所
- エ 期日 11月18日（月）～20日（水）、22日（金）、11月25日（月）～29日（金）
- オ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター  
 （ハイブリッド形式による開催）

カ 参加者

| 部 会         | 氏 名   | 所 属         |
|-------------|-------|-------------|
| 総 則         | 梅野 克也 | 高 校 教 育 課   |
| 国 語         | 梶川 光生 | 高 校 教 育 課   |
| 地 理 歴 史     | 佐々木理恵 | 高 校 教 育 課   |
| 公 民         | 近内 正幸 | 高 校 教 育 課   |
| 数 学         | 宗形 聡  | 高 校 教 育 課   |
| 理 科         | 高橋 昌弘 | 高 校 教 育 課   |
| 保 健 体 育     | 渡邊優一郎 | 健 康 教 育 課   |
| 音 楽         | 深田 裕子 | 高 校 教 育 課   |
| 美 術 ・ 工 芸   | 茂木 拓  | 教 育 セ ン タ ー |
| 書 道         | 佐藤 真紀 | 白 河 高 等 学 校 |
| 外 国 語       | 小澤 恵子 | 高 校 教 育 課   |
| 家 庭 （ 共 通 ） | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課   |
| 情 報 （ 共 通 ） | 齋藤 亮  | 高 校 教 育 課   |

| 部 会       | 氏 名   | 所 属           |
|-----------|-------|---------------|
| 理 数       | 高橋 昌弘 | 高 校 教 育 課     |
| 農 業       | 江川 篤  | 高 校 教 育 課     |
| 工 業       | 佐藤 貴之 | 高 校 教 育 課     |
| 商 業       | 猪狩 晃一 | 高 校 教 育 課     |
| 水 産       | 江川 篤  | 高 校 教 育 課     |
| 家 庭（専 門）  | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課     |
| 看 護       | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課     |
| 情 報（専 門）  | 齋藤 亮  | 高 校 教 育 課     |
| 福 祉       | 高橋今日子 | 高 校 教 育 課     |
| 総合的な探究の時間 | 持舘 智  | 相 双 教 育 事 務 所 |
| 特 別 活 動   | 志賀 光博 | いわき教育事務所      |

### (3) 福島県高等学校教育課程講習会

#### ア 目的

新高等学校学習指導要領について、その趣旨や内容を説明することにより、各学校において円滑に実施できるようにし、特に観点別学習状況評価について丁寧に説明するとともに、教育課程実施に伴う諸問題について研究協議等を実施することにより、高等学校教育の改善及び充実を図る。

イ 主催 文部科学省及び福島県教育委員会

ウ 期日・会場・各地区参加者数

| 地 区    | 期日   | 会 場       | 参加者数 |
|--------|------|-----------|------|
| 会津・南会津 | 8月1日 | 会津学鳳高等学校  | 96   |
| いわき    | 8月2日 | いわき光洋高等学校 | 226  |
| 県中・県南  | 8月5日 | 清陵情報高等学校  | 99   |
| 県北・相双  | 8月6日 | 福島南高等学校   | 152  |
| 合 計    |      |           | 573  |

#### エ 部会の参加者

設置部会及び参加者数は次の通りである。

| 部 会     | 参加者数 | 部 会   | 参加者数 |
|---------|------|-------|------|
| 総 則     | 31   | 書 道   | 実施せず |
| 国 語     | 61   | 外 国 語 | 66   |
| 地 理 歴 史 | 49   | 家 庭   | 23   |
| 公 民     | 実施せず | 情 報   | 実施せず |
| 数 学     | 65   | 農 業   | 31   |
| 理 科     | 57   | 工 業   | 79   |
| 保 健 体 育 | 64   | 商 業   | 47   |
| 音 楽     | 実施せず | 水 産   | 実施せず |
| 美術・工芸   | 実施せず | 看護・福祉 | 実施せず |
| 合 計     |      |       | 573  |

### (4) 情報教育の充実

#### ア 情報教育研修

(ア) 専門研修 高等学校教育の産業教育及び教育センターの情報処理教育講座の欄参照

(イ) 一般研修 各種研修において情報処理に関する演習等を実施

#### イ 情報処理関係学科の設置状況

|    |        |                      |
|----|--------|----------------------|
| 農業 | 生産情報   | 福島明成                 |
| 工業 | 情報技術   | 郡山北工業                |
|    | 電気情報   | 会津工業                 |
|    | 情報電子   | 福島工業、清陵情報            |
|    | 情報システム | 二本松実業                |
|    | 情報工学   | 平工業                  |
| 商業 | 情報処理   | 郡山商業、清陵情報            |
|    | 情報会計   | 福島南、本宮、清陵情報          |
|    | 情報ビジネス | 福島商業、白河実業、修明<br>若松商業 |
|    | オフィス情報 | 須賀川創英館               |
|    | 情報システム | 平商業                  |
|    | 産業革新   | 小高産業技術               |
| 水産 | 情報通信   | 小名浜海星                |

### (5) 国際理解教育の充実

語学指導等を行う外国青年招致事業

国際化に対応できる人材の育成及び外国語教育の充実

#### ア 招致人数 35 名

#### イ 配 置

(ア) 県内 23 の高校に各 1 名を配置、配置校における指導及び訪問指導

(イ) 県内 9 つの高校に各 1 名、県立中学校に各 2 名配置、専任校における指導

## 4 学力向上対策等

### (1) 令和6年度文部科学省指定各種研究校

| 研究種別                 | 学校名  | 指定年度           | 研究主題                                                                                                                                       |
|----------------------|------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スーパーサイエンスハイスクール（SSH） | 会津学鳳 | R3<br>～<br>R7  | 新たな社会である Society 5.0 の実現と新たな情報化の時代の創造、及びSDGsの達成に代表される持続可能な社会の形成に貢献する科学者を会津から育成するため、会津大学や会津の企業等の会津の地域資源を活用し、人材育成のための効果的な教育プログラムの研究開発を行う。    |
|                      | 福島   | R4<br>～<br>R8  | 地域発のサイエンスリーダーとして高い探究心を持ち、社会課題を解決できる科学技術人材に必要な5つの資質・能力（探究力・研究力、傾聴力・発信力、完遂力、情報分析力、往還力）を育成するため、4つの研究テーマを設定し、学校設定科目「SS探究」を中心とした研究実践による研究開発を行う。 |
|                      | 安積   | R6<br>～<br>R10 | 3年間を通じて対話型論証を基盤とする探究活動を展開し、国際的な取組に関する教育プログラムや、卒業生の人材活用プログラムの開発を通して「チーム安積モデル」を確立し、生徒の「国際共創力」を育むための研究開発を行う。                                  |

### (2) 「ふくしま高校生学びの变革支援事業」

- ア 未来を担う高校生の資質・能力育成事業  
予備校講師によるレベルの高い授業や難関大学に進学した県内出身の大学生との交流をオンラインで実施し、学力の向上を図るとともに、進路意識の高揚を図り、将来リーダーシップを発揮し社会に貢献できる人材としての礎を築いた。
- (ア) 対象 難関大学進学への意識・意欲の高い県立高等学校1年生及び2年生。
- (イ) 期日  
a 1年生  
令和7年3月21日に開催。  
b 2年生  
令和6年12月14日に開催。
- イ 進路実現のための資質・能力育成事業  
アクティブ・ラーニングの視点も取り入れて、生徒の大学進学へ向けた早期の意識改革と学力向上を図った。

さらには、教員の教科指導力や進学指導力の向上を図るとともに、各学校における指導内容や指導法等について情報共有や連携を進めて、3年間を見通した計画的な指導体制の充実を図った。

対象校 県立高等学校21校

福島、橘、福島西、福島東、安積、安積黎明、郡山東、郡山、須賀川桐陽、白河、白河旭、会津、葵、会津学鳳、喜多方、磐城、磐城桜が丘、いわき光洋、ふたば未来学園、相馬、原町

### ウ 科学の甲子園福島県大会

生徒の理数に関する興味・関心を高めるとともに、意欲ある生徒の再生可能エネルギーの研究開発や放射線医学などを担う能力の育成を図ることを目的に開催した。科学技術・理科・数学等における複数分野の知識・技能を競い合った。

実施日 令和6年11月10日

### (3) 震災と復興を未来へつむぐ高校生語り部事業

#### ア 震災関連学習・語り部活動の人材育成

実践校 県立高等学校18校

福島、安積、安積黎明、あさか開成、岩瀬農業、白河、船引、小野、会津学鳳、会津西陵、南会津、只見、磐城、いわき総合、いわき湯本、ふたば未来学園、相馬、相馬総合

#### イ 県内の学校間での交流

(ア) 対象 実践校18校

(イ) 期日 令和7年1月20日

(ウ) 内容 県伝承館の見学、各実践校の語り部事業の発表、ワークショップ等

#### ウ 県外・海外の学校等との交流

実践校5校が、県外・海外の高校等と交流を行った。

#### エ 震災学習のためのリーフレットの作成・配布

語り部活動の成果をまとめ、交流先へ配布した。

#### オ 伝承館を利用した教員研修

(イ) 県立高等学校の教員を対象とした研修会

a 対象 県立高等学校初任者研修対象教員

b 期日 令和6年11月20日

c 内容 館内見学、フィールドワーク、語り部講話の受講

(イ) 公立小・中学校の教員を対象とした研修会

a 対象 若手教員または校内研修担当教員等

b 実施日 令和6年8月9日、11月25日

c 内容 館内見学、フィールドワークなど

### (4) WWLコンソーシアム構築支援事業

原子力災害からの復興を果たし、持続可能な社会を創造していくグローバル・リーダーの資質・能力の育成に取り組むふたば未来学園中学校・高等学校を拠点校に指定し、探究と海外研修を軸とし、また、大学と連携したグローバル人材育成のカリキュラムの開発・実践、その体制整備を支援した。

ア 事業拠点校 1校

ふたば未来学園中学校・高等学校

イ 事業連携校（県内） 5校

福島、安積、会津、会津学鳳、磐城

ウ 事業連携校（県外） 2校

宮城県仙台二華中学校・高等学校

山形県立東桜学館中学校・高等学校

## (5) グローバル人材育成事業

ア UCLプログラム派遣事業

世界トップクラスの講師陣による講義を体験したり、様々な活動とイベントを通して文化交流したりすることで、挑戦するマインドを構築し、グローバルな視点で、世界や地域の課題解決を図り、「ふくしま」の復興プロセスと未来像を自分の言葉で世界に発信できるグローバル・リーダーを育成することを目的として、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）が実施する「UCL-Japan Youth Challenge 2024」へ本県の高校生3名（福島、安積、会津学鳳）を派遣した。

イ トビタテ！留学 JAPAN 拠点形成支援事業

「トビタテ！留学 JAPAN 新・日本代表プログラム」の一環である「拠点形成支援事業」に、地域課題を自分ごととして捉え、海外留学を通じてその解決を探究する人材を育成することを目的とする「ふくしまの未来を担うグローバル人材育成事業」が採択された。地域の産学官が連携し、海外留学と探究型の事前・事後オリエンテーションを組み合わせたプログラムを設計・実施する。これにより、必要な体制と資金を確保し、持続可能な事業の構築を目指す。

令和6年度寄附総額 15,265,000円

## 5 生徒指導・進路指導

### (1) 教育事務所指導主事の活動

県内7地区の教育事務所の指導主事の活動によって生徒指導の充実を図った。

主な活動は次のとおりである。

ア 地区内の高等学校の訪問指導（計画・随時）

イ 地区内の高等学校生活指導協議会の指導・援助

ウ 関係諸機関、諸団体との連携

エ 生徒指導関係の情報と資料の収集

オ 生徒指導関係の諸研修会における指導

### (2) スクールカウンセラーの配置

生徒の問題行動の多様化や深刻化、東日本大震災に伴う心のケアに対応するため、全ての県立高等学校（73校）にスクールカウンセラーを配置した。

## 6 学校行事

### (1) 卒業式

ア 県立高等学校卒業生数

| 性別  | 男     | 女     | 計      |
|-----|-------|-------|--------|
| 課程  |       |       |        |
| 全日制 | 5,251 | 4,919 | 10,170 |
| 定時制 | 68    | 72    | 140    |
| 通信制 | 47    | 88    | 135    |
| 計   | 5,366 | 5,079 | 10,445 |

イ 卒業式実施期日

| 種別   | 全日制 | 定時制 | 通信制 | 計  |
|------|-----|-----|-----|----|
| 日付   |     |     |     |    |
| 3月1日 | 68  | 5   | 0   | 73 |
| 3月9日 | 0   | 0   | 1   | 1  |
| 計    | 68  | 5   | 1   | 74 |

ウ 県知事、県議会議長、県教育長臨席校

県知事臨席校 3月1日 須賀川桐陽高等学校  
岩瀬農業高等学校

県議会議長臨席校 福島東高等学校

県議会副議長臨席校 安積高等学校

県教育長臨席校 葵高等学校

南会津高等学校（南郷校舎）

### (2) 修学旅行（県立高等学校）（ ）は前年度

ア 参加生徒総数 10,181人（10,325人）

イ 参加率 97.8%（94.4%）

ウ 行先

| 行先            | 校数      |
|---------------|---------|
| 県内            | 0 (0)   |
| 北海道           | 0 (2)   |
| 北海道・東北        | 0 (0)   |
| 東北            | 0 (0)   |
| 東北・関東         | 0 (0)   |
| 東北・北陸         | 0 (0)   |
| 北陸            | 2 (0)   |
| 北陸・近畿         | 0 (1)   |
| 関東            | 0 (1)   |
| 関東・中部         | 0 (0)   |
| 東海            | 0 (0)   |
| 近畿（奈良・京都・大坂等） | 41 (53) |
| 中国・近畿         | 20 (11) |
| 近畿・四国         | 0 (4)   |
| 近畿・四国・中国      | 0 (0)   |
| 九州            | 1 (4)   |
| 沖縄            | 4 (2)   |
| 四国            | 0 (0)   |
| 中部・東海         | 0 (0)   |
| 海外            | 2 (0)   |

|      |             |          |            |
|------|-------------|----------|------------|
| エ    | 航空機利用       | 19校      | (23校)      |
| (内訳) | 北海道方面       | 0校       | (2校)       |
|      | 大阪方面        | 12校      | (10校)      |
|      | 九州方面        | 1校       | (4校)       |
|      | 沖縄方面        | 4校       | (2校)       |
|      | 広島          | 0校       | (1校)       |
|      | 兵庫          | 0校       | (4校)       |
|      | 海外          | 2校       | (0校)       |
| オ    | 泊日数         |          |            |
|      | 1泊2日        | 0校       | (0校)       |
|      | 2泊3日        | 2校       | (1校)       |
|      | 3泊4日        | 65校      | (75校)      |
|      | 4泊5日        | 3校       | (2校)       |
| カ    | 必要経費        |          |            |
|      | 生徒一人当たりの最高額 | 189,900円 | (145,000円) |
|      | 最低額         | 82,878円  | (43,060円)  |
|      | 平均額         | 110,325円 | (105,311円) |
| キ    | 引率責任者       |          |            |
|      | 校長          | 29校      | (27校)      |
|      | 副校長         | 2校       | (1校)       |
|      | 教頭          | 39校      | (50校)      |
|      | 教諭          | 0校       | (0校)       |

## 7 産業教育

### (1) 県産業教育フェア

令和6年度は実施せず。

### (2) 第35回全国産業教育フェア

|   |         |                  |                         |
|---|---------|------------------|-------------------------|
| ア | 実行委員会   |                  |                         |
|   | 第1回     | 5月27日(月)         | 杉妻会館                    |
|   | 第2回     | 2月12日(水)         | 杉妻会館                    |
| イ | 生徒実行委員会 |                  |                         |
|   | 第1回     | 6月19日(水)         | ビッグパレットふくしま             |
|   | 第2回     | 7月24日(水)         | 福島商業高校                  |
|   | 第3回     | 8月21日(水)         | 福島商業高校                  |
|   | 第4回     | 9月27日(金)         | オンライン                   |
|   | 第5回     | 12月13日(金)        | ビッグパレットふくしま             |
| ウ | ブレ大会    |                  |                         |
|   | 商業      | 10月19日(土)        | ふくしま県高校生観光ビジネスアイデアコンクール |
|   | 家庭      | 11月9日(土)～10日(日)  | 福島県高校生クッキングコンテスト        |
|   | 工業      | 11月18日(月)～19日(火) | 全国高等学校ロボット競技大会福島大会      |
|   | 農業      | 12月10日(火)        | フラワーアレンジメントコンテスト        |

### (3) 文部科学省主催の研修講座と内容

|    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| ア  | 令和6年度産業・情報技術等指導者養成研修                |
| 家庭 | 8月20日(火)～22日(木)<br>全国高等学校長協会家庭部会事務局 |
| 情報 | 8月5日(月)～7日(水)                       |

|    |                                                                                                                                                           |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | 大阪公立大学                                                                                                                                                    |
| 工業 | 8月20日(火)～23日(金)<br>金沢工業大学                                                                                                                                 |
| イ  | 令和6年度産業教育実習助手研修                                                                                                                                           |
| 水産 | 7月29日(月)～8月2日(金)<br>北海道大学函館キャンパス                                                                                                                          |
| ウ  | 令和6年度学校農業・家庭クラブ連盟指導者養成講座<br>第64回全国高等学校家庭クラブ指導者養成講座<br>8月3日(木)～4日(金)<br>国立オリンピック記念青少年総合センター<br>令和6年度学校農業クラブ指導者養成講座<br>8月6日(火)～8日(木)<br>国立オリンピック記念青少年総合センター |

## 8 学校訪問

### (1) 目的

指導主事等が県立学校を訪問し、関係者とともに授業研究や教科の指導に関する研究協議を行うことにより、学習指導等の充実を図る。

### (2) 訪問校

5年経験者研修、又は中堅教諭等資質向上研修の該当者の勤務する学校から数校を選定する。

### (3) 訪問学校一覧

|            |      |
|------------|------|
| 福島商業高等学校   | 商業   |
| 福島明成高等学校   | 農業   |
| 福島南高等学校    | 外国語  |
| 二本松実業高等学校  | 理科   |
| 郡山北工業高等学校  | 工業   |
| 清陵情報高等学校   | 工業   |
| 白河実業高等学校   | 農業   |
| 会津高等学校     | 保健体育 |
| 会津西陵高等学校   | 保健体育 |
| 会津農林高等学校   | 家庭   |
| 平工業高等学校    | 数学   |
| いわき湯本高等学校  | 国語   |
| ふくしま新世高等学校 | 定通   |

## 9 県立学校学校教育指導委員

| 教科名   | 氏名    | 職名 | 学校名         |
|-------|-------|----|-------------|
| 国語    | 宮内 忠  | 教諭 | 磐城桜が丘高等学校   |
| 数学    | 景山 健太 | 教諭 | 福島西高等学校     |
| 理科    | 高橋 里美 | 教諭 | 橘高等学校       |
| 保健体育  | 星 謙一  | 教諭 | 郡山商業高等学校    |
|       | 武藤小夜子 | 教諭 | 川口高等学校      |
| 外国語   | 塩田 陸  | 教諭 | ふたば未来学園高等学校 |
| 家庭    | 青木 教子 | 教諭 | 郡山北工業高等学校   |
| 農業・水産 | 伊藤 正樹 | 教諭 | 修明高等学校      |
|       | 藤原 忍  | 教諭 | 相馬農業高等学校    |
| 工業    | 半澤 幸祐 | 教諭 | 二本松実業高等学校   |
|       | 鈴木 康雅 | 教諭 | 白河実業高等学校    |

| 教科名 | 氏 名   | 職名 | 学 校 名    |
|-----|-------|----|----------|
| 商業  | 中里 充  | 教諭 | 南会津高等学校  |
| 定通  | 宮田 真弥 | 教諭 | 白河第二高等学校 |

(13 名)

## 10 教育研究団体

### (1) 福島県高等学校長協会

組織

令和6年度福島県高等学校長協会役員名簿

| 役職名  | 氏 名          |
|------|--------------|
| 会 長  | 丹 野 純 一 (福島) |
| 副会長  | 森 下 陽一郎 (安積) |
| 副会長  | 遠 藤 利 晴 (会津) |
| 副会長  | 平 澤 洋 介 (磐城) |
| 副会長  | 中 野 茂 (原町)   |
| 監 査  | 佐々木 理 夫 (福西) |
| 監 査  | 味 原 正 美 (福南) |
| 事務局長 | 小 林 寿 宣 (福東) |

| 支部  |            |             |
|-----|------------|-------------|
| 支部  | 支部長        | 副支部長        |
| 県 北 | 丹野 純一 (福島) | 菊池 直之 ( 橘 ) |
|     |            | 山内 義美 (福工)  |
| 県 南 | 森下陽一郎 (安積) | 黒川 佳子 (黎明)  |
|     |            | 増子 文隆 (白河)  |
| 会 津 | 遠藤 利晴 (会津) | 尾形 幸男 ( 葵 ) |
|     |            | 近東 昇 (喜桐)   |
| いわき | 平澤 洋介 (磐城) | 渡邊 学 (桜丘)   |
|     |            | 赤坂 剛 (い支)   |
| 相 双 | 中野 茂 (原町)  | 郡司 完 (ふ未)   |
|     |            | 佐藤 秀美 (相馬)  |

| 理事会 |            |             |
|-----|------------|-------------|
|     | 氏 名        |             |
| 理事会 | 丹野 純一 (福島) | 菊池 直之 ( 橘 ) |
|     | 森下陽一郎 (安積) | 酒井 祐治 (福商)  |
|     | 遠藤 利晴 (会津) | 鈴木 憲治 (明成)  |
|     | 平澤 洋介 (磐城) | 山内 義美 (福工)  |
|     | 中野 茂 (原町)  | 田母神賢一 (萌世)  |
|     | 小林 寿宣 (福東) | 西村 則昌 (聴支)  |
|     |            | 渡邊 亮 (田村)   |

| 専門委員会 (◎印 委員長 ○印 副委員長) |  |  |
|------------------------|--|--|
|------------------------|--|--|

| 専門委員会             | 氏 名         |             |
|-------------------|-------------|-------------|
| 管 理<br>運 営<br>委員会 | ◎中村 充幸 (福北) | ○太田 隆明 (い総) |
|                   | 丹野 純一 (福島)  | 小林 寿宣 (福東)  |
|                   | 高野 敦史 (郡山)  | 近東 昇 (喜桐)   |
|                   | 高橋 敏幸 (南会)  | 星 輝光 (小海)   |
|                   | 中村 康伸 (相総)  | 大橋 隆史 (須支)  |
| 教 育<br>課 題<br>委員会 | ◎軽部 英敏 (あ開) | ○伊藤 勝宏 (安達) |
|                   | 渋川 卓也 (須創)  | 五十嵐健博 (川口)  |
|                   | 伊藤 靖隆 (只見)  | 平澤 洋介 (磐城)  |
|                   | 荒川 俊一 (勿工)  | 田母神賢一 (萌世)  |
|                   | 佐藤 清悦 (視支)  | 西村 則昌 (聴支)  |
|                   | 本田 知史 (だ支)  | 杉本 雅昭 (た支)  |
|                   | 渡部 孝男 (平支)  | 千葉 秀樹 (ふ支)  |

| 専門委員会                    | 氏 名         |             |
|--------------------------|-------------|-------------|
| 生 徒<br>指 導<br>委員会        | ◎志賀 勲 (相農)  | ○野口 智行 (湖南) |
|                          | 川島 孝夫 (松実)  | 阿部 拓広 (修明)  |
|                          | 國分 孝男 (会農)  | 長南 国彦 (平工)  |
|                          | 渡邊 浩志 (平商)  | 西牧 辰典 (大支)  |
|                          | 鈴木 龍也 (あ支)  | 田中久美子 (石支)  |
| 教 育<br>課 程<br>委員会        | 猪俣 康彦 (会支)  |             |
|                          | ◎高橋 文彦 (白旭) | ○伊藤 光司 (会西) |
|                          | 味原 正美 (福南)  | 金成 智子 (伊達)  |
|                          | 渡邊 亮 (田村)   | 遠藤 利晴 (会津)  |
|                          | 滝田 勝彦 (猪代)  | 佐藤 秀雄 (好間)  |
| 高 校<br>入 試<br>検 討<br>委員会 | 渡邊 武彦 (い翠)  |             |
|                          | ◎亀田 光弘 (船引) | ○郡司 完 (ふ未)  |
|                          | 鈴木 憲治 (明成)  | 加藤 香洋 (川俣)  |
|                          | 小針 幸雄 (光南)  | 浅野 猛 (白実)   |
|                          | 小川 和英 (石川)  | 猪俣 豊 (喜方)   |
| 大 学<br>入 試<br>対 策<br>委員会 | 名嶋 明宏 (西会)  | 阿部 学 (い湯)   |
|                          | 櫻田 渉 (勿来)   | 中野 茂 (原町)   |
|                          | ◎佐々木理夫 (福西) | ○齋藤 靖 (郡東)  |
|                          | 菊池 直之 ( 橘 ) | 森下陽一郎 (安積)  |
|                          | 黒川 佳子 (黎明)  | 櫻井 克彦 (須桐)  |
| 就 職<br>指 導<br>対 策<br>委員会 | 増子 文隆 (白河)  | 尾形 幸男 ( 葵 ) |
|                          | 吉田 洋子 (学鳳)  | 渡邊 学 (桜丘)   |
|                          | 猪股 一教 (い光)  | 佐藤 秀美 (相馬)  |
|                          | ◎鈴木 哲 (郡北)  | ○山内 浩 (郡商)  |
|                          | 酒井 祐治 (福商)  | 山内 義美 (福工)  |
| 人 権<br>教 育<br>委員会        | 永山 広克 (清陵)  | 高橋 豊治 (岩農)  |
|                          | 中野 正人 (若商)  | 佐藤 正道 (会工)  |
|                          | 岡部 富洋 (磐農)  | 津田 直子 (四倉)  |
|                          | 佐竹 建城 (小産)  | 齋藤 成子 (郡支)  |
|                          | ◎和田 直也 (本宮) | ○植田 貴子 (相支) |
| 部会長                      | 原田 大輔 (小野)  | 小川 令子 (西支)  |
|                          | 渡邊 幹男 (猪支)  | 赤坂 剛 (い支)   |
|                          |             |             |

| 部会長     |              |
|---------|--------------|
| 部 会     | 氏 名          |
| 普 通 部 会 | 菊池 直之 ( 橘 )  |
| 商 業 部 会 | 酒井 祐治 (福島商業) |
| 農 業 部 会 | 鈴木 憲治 (福島明成) |
| 工 業 部 会 | 山内 義美 (福島工業) |
| 水 産 部 会 | 星 輝光 (小名浜海星) |
| 家 庭 部 会 | 金成 智子 (伊達)   |
| 定 通 部 会 | 田母神賢一 (郡山萌世) |
| 特別支援部会  | 西村 則昌 (聴覚支援) |
| 理 数 部 会 | 増子 文隆 (白河)   |
| 英語国際部会  | 味原 正美 (福島南)  |
| 体 育 部 会 | 渡邊 亮 (田村)    |
| 総合学科部会  | 中村 充幸 (福島北)  |

| 全国校長会 |             |
|-------|-------------|
| 部 会   | 氏 名         |
| 理 事   | 丹野 純一（福島）   |
| 理 事   | 遠藤 利晴（会津）   |
| 理 事   | 平澤 洋介（磐城）   |
| 管理運営  | 中村 充幸（福島北）  |
| 教育課題  | 軽部 英敏（あ開）   |
| 生徒指導  | 志賀 勲（相馬農業）  |
| 教育課程  | 高橋 文彦（白河旭）  |
| 大学入試  | 佐々木理夫（福島西）  |
| 就職対策  | 鈴木 哲（郡山北工業） |
| 人権教育  | 和田 直也（本宮）   |

## (2) 福島県高等学校教育研究会

ア 財政及び組織の状況

(ア) 本部

令和6年度福島県高等学校教育研究会

| 役職名 | 氏 名    | 所属校・職名     |
|-----|--------|------------|
| 会 長 | 味原 正美  | 福島南高等学校長   |
| 副会長 | 高橋 文彦  | 白河旭高等学校長   |
| 副会長 | 猪俣 豊   | 喜多方高等学校長   |
| 監 査 | 鈴木 憲治  | 福島明成高等学校長  |
| 監 査 | 酒井 祐治  | 福島商業高等学校長  |
| 委 員 | 渡邊 学   | 磐城桜が丘高等学校長 |
| 委 員 | 軽部 英敏  | 光南高等学校長    |
| 委 員 | 森下 陽一郎 | 安積高等学校長    |

|     |        |            |
|-----|--------|------------|
| 委 員 | 山内 義美  | 福島工業高等学校長  |
| 委 員 | 酒井 祐治  | 福島商業高等学校長  |
| 委 員 | 櫻井 克彦  | 須賀川桐陽高等学校長 |
| 委 員 | 中村 康伸  | 相馬総合高等学校長  |
| 委 員 | 和田 直也  | 本宮高等学校長    |
| 委員  | 森下 陽一郎 | 安積高等学校     |
| 幹 事 | 斎藤 慶   | 福島南高等学校教頭  |

(イ) 部会

| 部会名  | 部会長氏名 | 所属校・職名     | 会員数 |
|------|-------|------------|-----|
| 養護教諭 | 渡邊 学  | 磐城桜が丘高等学校長 | 110 |
| 保健体育 | 軽部 英敏 | あさか開成      | 435 |
| 理 科  | 猪俣 豊  | 喜多方高等学校長   | 386 |
| 音 楽  | 森下陽一郎 | 安積高等学校長    | 74  |
| 農 業  | 鈴木 憲治 | 福島明成高等学校長  | 219 |
| 工 業  | 山内 義美 | 福島工業高等学校長  | 631 |
| 商 業  | 酒井 祐治 | 福島商業高等学校長  | 266 |
| 定 通  | 佐藤 正道 | 会津第二高等学校長  | 151 |
| 英 語  | 櫻井 克彦 | 須賀川桐陽高等学校長 | 447 |
| 数 学  | 高橋 文彦 | 白河旭高等学校長   | 426 |
| 家 庭  | 中村 康伸 | 相馬総合高等学校長  | 116 |
| 情報   | 森下陽一郎 | 安積高等学校長    | 48  |
| 美術工芸 | 和田 直也 | 本宮高等学校長    | 82  |

○令和6年度予算 136,603 円

## 第4節 文化活動の振興

高校生の芸術文化活動の充実向上を図るため、福島県高等学校文化連盟に対する助成を行った。

けんしん郡山文化センターにて、福島県高等学校総合文化祭活動優秀校公演を開催した。

### (1) 芸術文化活動発表機会の充実

ア 福島県高等学校文化連盟への助成

福島県高等学校総合文化祭の開催に対する補助を行った。（補助対象事業費計：8,498 千円、補助金額計：1,000 千円）

(ア) 令和6年度福島県高等学校文化連盟

役員

| 役 職 名    | 氏 名   | 職   | 所 属 校      |
|----------|-------|-----|------------|
| 会 長      | 黒川 佳子 | 校 長 | 安積黎明高等学校   |
| 副会長(私 立) | 森 涼   | 校 長 | 学法石川高等学校   |
| 副会長(県 北) | 金成 智子 | 校 長 | 伊達高等学校     |
| 副会長(県 南) | 高橋 豊治 | 校 長 | 岩瀬農業高等学校   |
| 副会長(会 津) | 吉田 洋子 | 校 長 | 会津学鳳高等学校   |
| 副会長(いわき) | 渡邊 浩志 | 校 長 | 平商業高等学校    |
| 副会長(相 双) | 佐竹 建城 | 校 長 | 小高産業技術高等学校 |
| 理 事 長    | 三條 敦  | 教 諭 | 安積黎明高等学校   |
| 事務局長     | 藤井 克憲 | 教 諭 | 安積黎明高等学校   |

| 役職名 | 氏 名   | 職    | 所 属 校      |
|-----|-------|------|------------|
| 監 事 | 和田 直也 | 校 長  | 本宮高等学校     |
| 監 事 | 飯豊 利子 | 教 諭  | 郡山高等学校     |
| 幹 事 | 原 義治  | 教 諭  | 会津学鳳高等学校   |
| 幹 事 | 川前 拓也 | 教 諭  | 小高産業技術高等学校 |
| 幹 事 | 櫛田みゆき | 教 頭  | 安積黎明高等学校   |
| 幹 事 | 難波 幸生 | 教 諭  | 安積黎明高等学校   |
| 幹 事 | 清野 志保 | 教 諭  | 安積黎明高等学校   |
| 幹 事 | 本田 亜希 | 教 諭  | 安積黎明高等学校   |
| 幹 事 | 馬場 浩身 | 実習教諭 | 安積黎明高等学校   |
| 顧 問 | 高橋 喜智 | 課 長  | 高校教育課      |

専門部会長・専門部委員長

| 専 門 部       | 部会長   | 職   | 所属校    | 部委員長  | 職   | 所属校           |
|-------------|-------|-----|--------|-------|-----|---------------|
| 演 劇         | 平澤 洋介 | 校 長 | 磐城     | 小林 俊一 | 教 諭 | 磐城            |
| 高音連         | 阿部 学  | 校 長 | いわき湯本  | 小山田 浩 | 教 諭 | いわき湯本         |
| 合 唱         | 黒川 佳子 | 校 長 | 安積黎明   | 星 英一  | 教 諭 | 安積黎明          |
| 吹奏楽         | 中村 康伸 | 校 長 | 相馬総合   | 今野 貴文 | 教 諭 | 相馬総合          |
| 器楽管弦楽       | 山内 浩  | 校 長 | 郡山商業   | 鈴木 敦  | 教 諭 | 郡山商業          |
| 日本音楽        | 星 輝光  | 校 長 | 小名浜海星  | 深谷 恵子 | 教 諭 | 小名浜海星         |
| 吟詠剣詩舞       | 千葉 義夫 | 校 長 | 昌 平    | 大橋 未緒 | 教 頭 | 昌 平           |
| 郷土芸能        | 志賀 勲  | 校 長 | 相馬農業   | 佐藤 規慶 | 教 諭 | 相馬農業          |
| マーチングB・バトンT | 小針 幸雄 | 校 長 | 光 南    | 横田 日夏 | 教 諭 | 光 南           |
| 美術・工芸       | 和田 直也 | 校 長 | 本 宮    | 中原 勝  | 教 諭 | 福 島           |
| 書 道         | 中村 康伸 | 校 長 | 相馬総合   | 阿部祐太郎 | 教 諭 | 相馬総合          |
| 写 真         | 吉田 洋子 | 校 長 | 会津学鳳   | 永峯 秀明 | 教 諭 | 会津学鳳          |
| 放 送         | 太田 隆明 | 校 長 | いわき総合  | 西塔 佳正 | 教 諭 | いわき総合         |
| 囲 碁         | 菊池 直之 | 校 長 | 橘      | 佐原 輝明 | 教 諭 | ふくしま新世 (保原校舎) |
| 将 棋         | 丹野 純一 | 校 長 | 福 島    | 渡辺 洋生 | 教 諭 | 福 島           |
| 弁 論         | 遠藤 利晴 | 校 長 | 会 津    | 猪俣小百合 | 教 諭 | 会 津           |
| 小倉百人一首かるた   | 黒川 佳子 | 校 長 | 安積黎明   | 本間 奏恵 | 教 諭 | 安積黎明          |
| 新 聞         | 森下陽一郎 | 校 長 | 安 積    | 石山 智恵 | 教 諭 | 安 積           |
| 文 芸         | 高野 敦史 | 校 長 | 郡 山    | 近内富美子 | 教 諭 | 郡山東           |
| 自然科学        | 猪俣 豊  | 校 長 | 喜多方    | 今野 直樹 | 教 諭 | 相 馬           |
| 農 業         | 高橋 豊治 | 校 長 | 岩瀬農業   | 二瓶恵梨香 | 教 諭 | 岩瀬農業          |
| 工 業         | 鈴木 哲  | 校 長 | 郡山北工業  | 阿部 真紀 | 教 諭 | 郡山北工業         |
| 商 業         | 酒井 祐治 | 校 長 | 福島商業   | 渡邊 貴  | 教 諭 | 福島商業          |
| 家 庭         | 中村 充幸 | 校 長 | 福島北    | 渡邊ひとみ | 教 諭 | 福島北           |
| 定 通         | 渡邊 武彦 | 校 長 | いわき翠の杜 | 野口 修  | 教 諭 | いわき翠の杜        |
| 特別支援学校      | 本田 知史 | 校 長 | だて支援   | 羽根真美子 | 教 諭 | だて支援          |
| J R C       | 高野 敦史 | 校 長 | 郡 山    | 吾妻 久  | 教 諭 | 郡 山           |

イ 第43回福島県高等学校総合文化祭

県内高校生の文化活動の成果発表と相互の交流を目的として、全県内において、令和6年5月から令和6年12月まで、専門部の行事を開催した。

ウ 第48回全国高等学校総合文化祭東京大会への参加

本県からは、17部門に141名の生徒が参加した。

〔参加部門〕

吹奏楽、日本音楽、吟詠剣詩舞、郷土芸能、美術・工芸、書道、写真、放送、囲碁、将棋、弁論、小倉百人一首かるた、新聞、文芸、自然科学、郷土研究

エ 令和6年度福島県高文連専門部全国大会入賞状況

(ア) 団体

| 専 門 部                 | 大 会 名                                    | 成 績                                                   | 学 校 名 |
|-----------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------|-------|
| 郷土芸能                  | 太鼓祭 第6回七人制和太鼓選手権大会                       | 女子の部準優勝、一般の部準優勝                                       | 帝京安積  |
| マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2024                    | KICK 部門 3 位、PROP 部門 3 位、DRILL POM<br>部門 Medium 編成 2 位 | 郡山商業  |
|                       | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2024                    | KICK 部門 2 位、MILITARY 部門 2 位                           | 郡 山   |
|                       | 全国高等学校ダンスドリル選手大会 2024                    | DRILL POM 部門 Small 編成 3 位                             | 学法石川  |
| 自然科学                  | 第 48 回全国高等学校総合文化祭                        | 自然科学部門物理分野研究発表 文化庁長官賞                                 | 安 積   |
|                       | 第 48 回全国高等学校総合文化祭                        | 自然科学部門ポスター発表研究発表 文化庁長官賞                               | 会津学鳳  |
| 吹奏楽                   | 第 72 回全日本吹奏楽コンクール                        | 銅賞                                                    | 磐 城   |
| 合唱                    | 全日本合唱コンクール 2024                          | 金賞 (B グループ)                                           | 会 津   |
|                       | 第 91 回NHK全国学校音楽コンクール                     | 銀賞                                                    | 会 津   |
|                       | 全日本合唱コンクール 2024                          | 銀賞 (B グループ)                                           | 郡 山   |
|                       | 全日本合唱コンクール 2024                          | 銀賞 (A グループ)                                           | 安積黎明  |
| 器楽・管弦楽                | 第 13 回日本学校合奏コンクール 2024 グランド<br>コンテスト全国大会 | 最優秀賞                                                  | 郡山商業  |
| 新聞                    | 第 48 回全国高等学校総合文化祭                        | 新聞部門優良賞                                               | 相 馬   |
| 文芸                    | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                      | 文芸部誌部門優秀賞 一ツ橋文芸教<br>育振興会賞                             | 磐 城   |
|                       | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                      | 文芸部誌部門優秀賞                                             | 磐城桜が丘 |

(イ) 個人

| 専 門 部  | 大 会 名                                     | 成 績                   | 学 校 名 | 氏 名   |
|--------|-------------------------------------------|-----------------------|-------|-------|
| 書道     | 第 48 回全国高等学校総合文化祭                         | 書道部門奨励賞               | 橘     | 齋藤きあり |
|        | 第 48 回全国高等学校総合文化祭                         | 書道部門特別賞・菅公賞           | 白河    | 鈴石 沙耶 |
| 器楽・管弦楽 | 第 13 回日本学校合奏コンクール 2024 ソロ&アンサン<br>ブルコンテスト | 優秀賞                   | 安積黎明  | 村上 陽彩 |
| 文芸     | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                       | 小説部門 優秀賞              | 橘     | 田村 美結 |
|        | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                       | 詩部門 優良賞               | 磐城    | 佐藤 昊世 |
|        | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール                       | 短歌部門 優良賞              | 昌平    | 渡邊 紗月 |
| 特別支援学校 | 令和 6 年度第 31 回全国特別支援学校文化祭                  | 全国特別支援学校病弱<br>教育校長会長賞 | 須賀川支援 | 大瀧 愛  |

オ 令和6年度福島県高等学校文化連盟表彰

(ア) 優秀団体

| No. | 団 体 名      | 所属校名  | 専 門 部                 | 全国大会での成績                                                                     |
|-----|------------|-------|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | チアリーディング部  | 郡山商業  | マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2024<br>KICK 部門 3 位、PROP 部門 3 位、DRILL POM 部門 Medium 編成 2 位 |
| 2   | チアダンス部     | 郡山    | マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2024<br>KICK 部門 2 位、MILITARY 部門 2 位                        |
| 3   | チアリーディング部  | 学法石川  | マーチングバンド・<br>バトントワリング | 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 2024<br>DRILL POM 部門 Small 編成 3 位                          |
| 4   | 物理部        | 安積    | 自然科学                  | 第 48 回全国高等学校総合文化祭自然科学部門物理分野研究発表 文<br>化庁長官賞                                   |
| 5   | SSH 探求部化学班 | 会津学鳳  | 自然科学                  | 第 48 回全国高等学校総合文化祭自然科学部門物理分野研究発表 文<br>化庁長官賞                                   |
| 6   | 合唱部        | 会津    | 合唱                    | 全日本合唱コンクール 2024 (B グループ) 金賞<br>第 91 回 NHK 全国学校音楽コンクール 銀賞                     |
| 7   | 和太鼓部       | 帝京安積  | 郷土芸能                  | 太鼓祭 第 6 回七人制和太鼓選手権大会 女子の部準優勝、一般の部<br>準優勝                                     |
| 8   | 文学部        | 磐城    | 文芸                    | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門 優秀賞、一ツ橋<br>文芸教育振興会賞                               |
| 9   | 文芸部        | 磐城桜が丘 | 文芸                    | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門 優秀賞                                               |

(イ) 優秀個人

| No. | 氏 名   | 所属校名  | 専 門 部 | 全国大会での成績                                       |
|-----|-------|-------|-------|------------------------------------------------|
| 1   | 田村 美結 | 橘     | 文芸    | 第 39 回全国高等学校文芸コンクール 小説部門 優秀賞                   |
| 2   | 大瀧 愛  | 須賀川支援 | 美術    | 令和 6 年度第 31 回全国特別支援学校文化祭 全国特別支援学校病弱教<br>育校長会長賞 |

(ウ) 優秀指導者

| No. | 氏 名   | 所属校名 | 専 門 部 | 全国大会での成績                                                                                                  |
|-----|-------|------|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 木村 哲也 | 会津西陵 | 定通    | 会津第二高等学校にて、生徒生活体験発表大会指導歴 10 年。第 71 回<br>(令和 5 年度)全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会全国<br>大会にてNHK会長賞 (全国第 3 位) 受賞に導いた。 |

## 第 7 章 特別支援教育

### 第 1 節 概要

県教育委員会では、福島県学校教育審議会に本県における今後の特別支援教育の在り方について諮問し、平成 21 年 9 月に「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進を基本理念とする答申を受けた。本答申を具体的な施策に反映させるため、第 7 次福島県総合教育計画の施策 3、学びのセーフティネットと個性を伸ばす教育によって多様性を力に変える土壌をつくる、においては、「インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、多様な学びの場や交流及び共同学習の充実と整備」、「個別的教育支援計画及び個別の指導計画の活用や引継ぎ」、「質の高い授業と合理的配慮の提供」、「医療的ケアを必要とする児童生徒の学びの場の環境整備」、「高等学校における通級による指導の充実と交流及び共同学習の推進」、「特別支援教育に関する教員の専門性の向上」等を本県の目指すべき特別支援教育の方向性として示した。

また、「夢に向かってテクノチャレンジ事業」として、県内の高等部設置特別支援学校全校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。日々の学習の成果を発表し合うとともに、作業技能検定等において外部専門家から客観的な評価を受けることを通して、生徒の自立や社会参加につながる学力や技能、意欲の向上を図った。また、「特別支援学校における就労推進支援事業」を実施し、特別支援学校高等部生徒の就職率と職場定着率の向上に向けて、労働や福祉の関係機関と連携体制の構築と、企業への理解啓発並びに企業で働き続けることのできる人材の育成を図った。

「ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業」で

は、市町村教育委員会と連携協力の下、医療、福祉、保健、労働との関係機関と連携を図りながら、県内全ての特別な支援を必要とする幼児児童生徒が地域において一貫した支援を受けることができる相談支援体制の整備、病気療養中の児童生徒に対する学習支援体制の構築を進めた。また、特別支援教育に係る教員に対する研修の充実と専門性の向上を図るとともに、特別支援学校の地域支援センターを中心に、センター的機能による、保育所・幼稚園及び認定こども園、小・中・高等学校への相談支援や研修支援を充実させ、地域における支援の充実を図った。さらに、教育事務所を中心として特別支援教育センター、特別支援学校がそれぞれの役割や機能を果たすとともに、地域支援チームとして連携・協力して市町村や学校等のニーズに応じ、支援体制整備に向けた取組を行った。

「特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を開催し、本県における医療的ケアの在り方について協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（15 校）に常勤講師及び特別非常勤講師として看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

### 第 2 節 学校管理

#### 1 児童生徒数と教職員定数

##### (1) 児童生徒数の推移

| 種別              | 部/年度 | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     | 4     | 5     | 6     |
|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 視覚障がい<br>特別支援学校 | 幼稚部  |       |       |       |       |       |       |       |       | 2     | 0     |
|                 | 小学部  | 3     | 5     | 5     | 3     | 1     | 3     | 5     | 4     | 4     | 9     |
|                 | 中学部  | 5     | 3     | 4     | 5     | 8     | 7     | 6     | 3     | 4     | 2     |
|                 | 高等部  | 24    | 22    | 19    | 17    | 12    | 14    | 17    | 20    | 14    | 12    |
|                 | 計    | 32    | 30    | 28    | 25    | 21    | 24    | 28    | 27    | 24    | 23    |
| 聴覚障がい<br>特別支援学校 | 幼稚部  | 12    | 10    | 14    | 17    | 17    | 18    | 19    | 23    | 20    | 21    |
|                 | 小学部  | 44    | 44    | 38    | 32    | 23    | 34    | 32    | 29    | 29    | 32    |
|                 | 中学部  | 25    | 26    | 28    | 26    | 29    | 20    | 18    | 16    | 19    | 14    |
|                 | 高等部  | 22    | 23    | 28    | 28    | 28    | 29    | 30    | 33    | 20    | 14    |
|                 | 計    | 103   | 103   | 108   | 103   | 97    | 101   | 99    | 101   | 88    | 81    |
| 知的障がい<br>特別支援学校 | 小学部  | 529   | 543   | 551   | 600   | 623   | 632   | 664   | 681   | 712   | 719   |
|                 | 中学部  | 371   | 370   | 376   | 384   | 389   | 389   | 398   | 394   | 400   | 424   |
|                 | 高等部  | 751   | 803   | 819   | 812   | 820   | 821   | 811   | 849   | 865   | 862   |
|                 | 計    | 1,651 | 1,716 | 1,746 | 1,796 | 1,832 | 1,842 | 1,873 | 1,924 | 1,977 | 2,005 |

| 種別              | 部/年度 | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     | 4     | 5     | 6     |
|-----------------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 肢体不自由<br>特別支援学校 | 小学部  | 139   | 136   | 130   | 126   | 127   | 113   | 103   | 98    | 89    | 90    |
|                 | 中学部  | 70    | 66    | 71    | 70    | 71    | 78    | 84    | 81    | 68    | 56    |
|                 | 高等部  | 79    | 82    | 82    | 73    | 62    | 67    | 69    | 77    | 92    | 89    |
|                 | 計    | 288   | 284   | 283   | 269   | 260   | 258   | 256   | 256   | 249   | 235   |
| 病弱<br>特別支援学校    | 小学部  | 27    | 33    | 30    | 29    | 26    | 26    | 32    | 24    | 25    | 22    |
|                 | 中学部  | 32    | 23    | 40    | 35    | 42    | 31    | 31    | 42    | 36    | 35    |
|                 | 高等部  | 37    | 35    | 36    | 46    | 52    | 57    | 47    | 50    | 48    | 40    |
|                 | 計    | 96    | 91    | 106   | 110   | 120   | 114   | 110   | 116   | 109   | 97    |
| 合 計             |      | 2,170 | 2,224 | 2,271 | 2,303 | 2,330 | 2,339 | 2,366 | 2,424 | 2,447 | 2,441 |

※ 1 知的障がい特別支援学校は市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

※ 2 視覚障がい特別支援学校高等部は専攻科を含む。

## (2) 令和6年度児童生徒数

(R6.5.1 学校基本調査、訪問学級を含む)

| 部・学 年<br>種 別 性別 |   | 幼稚園部 | 小学部 |     |     |     |     |     |     | 中学部 |     |     |     | 高等部 |     |     |     |   |    |      | 専攻科 | 合計 | 総計 |
|-----------------|---|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|---|----|------|-----|----|----|
|                 |   |      | 1   | 2   | 3   | 4   | 5   | 6   | 計   | 1   | 2   | 3   | 計   | 1   | 2   | 3   | 計   |   |    |      |     |    |    |
| 視覚障がい<br>特別支援学校 | 男 | 0    | 3   | 0   | 0   | 2   | 2   | 0   | 7   | 0   | 1   | 1   | 2   | 1   | 2   | 2   | 5   | 4 | 9  | 18   |     |    |    |
|                 | 女 | 0    | 2   | 0   | 0   | 0   | 0   | 0   | 2   | 0   | 0   | 0   | 0   | 1   | 0   | 2   | 3   | 0 | 3  | 5    |     |    |    |
|                 | 計 | 0    | 5   | 0   | 0   | 2   | 2   | 0   | 9   | 0   | 1   | 1   | 2   | 2   | 2   | 4   | 8   | 4 | 12 | 23   |     |    |    |
| 聴覚障がい<br>特別支援学校 | 男 | 6    | 2   | 3   | 2   | 4   | 4   | 4   | 19  | 1   | 1   | 3   | 5   | 4   | 2   | 3   | 9   |   |    | 39   |     |    |    |
|                 | 女 | 15   | 3   | 3   | 3   | 0   | 4   | 0   | 13  | 0   | 5   | 4   | 9   | 1   | 0   | 4   | 5   |   |    | 42   |     |    |    |
|                 | 計 | 21   | 5   | 6   | 5   | 4   | 8   | 4   | 32  | 1   | 6   | 7   | 14  | 5   | 2   | 7   | 14  |   |    | 81   |     |    |    |
| 知的障がい<br>特別支援学校 | 男 |      | 81  | 94  | 74  | 84  | 93  | 79  | 505 | 112 | 96  | 95  | 303 | 179 | 189 | 185 | 553 |   |    | 1361 |     |    |    |
|                 | 女 |      | 42  | 38  | 30  | 44  | 18  | 42  | 214 | 42  | 40  | 39  | 121 | 87  | 104 | 118 | 309 |   |    | 644  |     |    |    |
|                 | 計 |      | 123 | 132 | 104 | 128 | 111 | 121 | 719 | 154 | 136 | 134 | 424 | 266 | 293 | 303 | 862 |   |    | 2005 |     |    |    |
| 肢体不自由<br>特別支援学校 | 男 |      | 3   | 7   | 7   | 7   | 11  | 9   | 44  | 7   | 11  | 13  | 31  | 15  | 22  | 14  | 51  |   |    | 126  |     |    |    |
|                 | 女 |      | 10  | 5   | 7   | 6   | 5   | 13  | 46  | 7   | 10  | 8   | 25  | 10  | 14  | 14  | 38  |   |    | 109  |     |    |    |
|                 | 計 |      | 13  | 12  | 14  | 13  | 16  | 22  | 90  | 14  | 21  | 21  | 56  | 25  | 36  | 28  | 89  |   |    | 235  |     |    |    |
| 病弱<br>特別支援学校    | 男 |      | 1   | 4   | 1   | 4   | 3   | 3   | 16  | 2   | 7   | 11  | 20  | 7   | 10  | 10  | 27  |   |    | 63   |     |    |    |
|                 | 女 |      | 1   | 2   | 0   | 1   | 1   | 1   | 6   | 7   | 4   | 4   | 15  | 4   | 5   | 4   | 13  |   |    | 34   |     |    |    |
|                 | 計 |      | 2   | 6   | 1   | 5   | 4   | 4   | 22  | 9   | 11  | 15  | 35  | 11  | 15  | 14  | 40  |   |    | 97   |     |    |    |

※ 市立特別支援学校、福島大学附属特別支援学校を含む。

## (3) 県立特別支援学校教職員定数の推移

| 種別<br>年度 |           | 視覚支援学校・聴覚支援学校 |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 特別支援学校 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----------|-----------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          |           | 27            | 28  | 29  | 30  | 元   | 2   | 3   | 4   | 5   | 6   | 27     | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     | 4     | 5     | 6     |
| 教 員      | 校 長       | 2             | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 12     | 12    | 13    | 13    | 13    | 13    | 13    | 14    | 14    | 14    |
|          | 教 頭 ・ 教 諭 | 131           | 129 | 133 | 131 | 124 | 126 | 127 | 126 | 128 | 128 | 1,145  | 1,157 | 1,209 | 1,242 | 1,250 | 1,250 | 1,252 | 1,266 | 1,271 | 1,277 |
|          | 養 護 教 諭   | 4             | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 4   | 24     | 24    | 26    | 26    | 26    | 27    | 27    | 29    | 29    | 29    |
|          | 兼 任 主 事   |               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 補 充 教 員   | 14            | 8   | 13  | 12  | 10  | 15  | 6   | 7   | 10  | 13  | 160    | 150   | 170   | 189   | 173   | 154   | 133   | 155   | 149   | 150   |

| 種別<br>年度 |        | 視覚支援学校・聴覚支援学校 |     |     |     |     |     |     |     |     |     | 特別支援学校 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----------|--------|---------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          |        | 27            | 28  | 29  | 30  | 元   | 2   | 3   | 4   | 5   | 6   | 27     | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     | 4     | 5     | 6     |
| 教員       | 講師     |               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 寄宿舎指導員 | 25            | 27  | 28  | 28  | 28  | 28  | 29  | 30  | 29  | 28  | 34     | 32    | 31    | 30    | 28    | 27    | 27    | 27    | 29    | 30    |
|          | 実習助手   | 8             | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 8   | 24     | 25    | 27    | 27    | 27    | 27    | 27    | 29    | 29    | 29    |
|          | 計      | 184           | 178 | 188 | 185 | 176 | 183 | 176 | 177 | 181 | 183 | 1,399  | 1,400 | 1,476 | 1,527 | 1,517 | 1,498 | 1,479 | 1,520 | 1,521 | 1,529 |
| 事務職員     |        | 11            | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 11  | 51     | 50    | 51    | 53    | 53    | 54    | 53    | 53    | 57    | 57    |
| その他の職員   | 技能労務員  |               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 学校司書   |               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 用務員    | 2             | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 1   | 6      | 7     | 6     | 6     | 5     | 5     | 4     | 4     | 3     | 3     |
|          | ボイラー技師 | 2             | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 1   | 0   | 0   | 1      | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 1     | 0     |
|          | 栄養職員   | 2             | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 2   | 9      | 9     | 10    | 10    | 10    | 10    | 10    | 10    | 10    | 11    |
|          | 調理給食員  |               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 技能訓練士  |               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | マッサージ師 |               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 運転手    |               |     |     |     |     |     |     |     |     |     |        |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 計      | 6             | 5   | 5   | 5   | 5   | 5   | 5   | 5   | 4   | 3   | 16     | 17    | 17    | 17    | 16    | 16    | 15    | 15    | 14    | 14    |
| 合計       |        | 201           | 194 | 204 | 201 | 192 | 199 | 192 | 193 | 196 | 197 | 1,465  | 1,468 | 1,546 | 1,597 | 1,587 | 1,567 | 1,547 | 1,592 | 1,592 | 1,600 |

| 種別<br>年度 |        | 計     |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|----------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|          |        | 27    | 28    | 29    | 30    | 元     | 2     | 3     | 4     | 5     | 6     |
| 教員       | 校長     | 14    | 14    | 15    | 15    | 15    | 15    | 15    | 16    | 16    | 16    |
|          | 教頭・教諭  | 1,276 | 1,286 | 1,342 | 1,373 | 1,374 | 1,376 | 1,379 | 1,392 | 1,399 | 1,405 |
|          | 養護教諭   | 28    | 28    | 30    | 30    | 30    | 31    | 31    | 33    | 33    | 33    |
|          | 兼任主事   |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 補充教員   | 174   | 158   | 183   | 201   | 183   | 169   | 139   | 162   | 159   | 163   |
|          | 講師     |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 寄宿舎指導員 | 59    | 59    | 59    | 58    | 56    | 55    | 56    | 57    | 58    | 58    |
|          | 実習助手   | 32    | 33    | 35    | 35    | 35    | 35    | 35    | 37    | 37    | 37    |
|          | 計      | 1,583 | 1,578 | 1,664 | 1,712 | 1,693 | 1,681 | 1,655 | 1,697 | 1,702 | 1,712 |
| 事務職員     |        | 61    | 62    | 64    | 64    | 65    | 64    | 64    | 68    | 68    | 68    |
| その他の職員   | 技能労務員  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 学校司書   |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 用務員    | 8     | 9     | 8     | 8     | 7     | 7     | 6     | 6     | 5     | 4     |
|          | ボイラー技師 | 3     | 2     | 2     | 2     | 2     | 2     | 2     | 2     | 1     | 0     |
|          | 栄養職員   | 11    | 11    | 12    | 12    | 12    | 12    | 12    | 12    | 12    | 13    |
|          | 調理給食員  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 技能訓練士  |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | マッサージ師 |       |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|          | 運転手    | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     | 0     |
|          | 計      | 22    | 22    | 22    | 22    | 21    | 21    | 20    | 20    | 18    | 17    |
| 合計       |        | 1,666 | 1,662 | 1,750 | 1,798 | 1,779 | 1,766 | 1,739 | 1,785 | 1,788 | 1,797 |

## 2 特別支援学校及び特別支援学級の実態

### (1) 特別支援学校（学部別学級・児童生徒数）

| 障がい種別   | 種 別           | 幼稚園      |     | 小学部 |     | 中学部 |     | 高等部 |      |     |     | 計   |      |
|---------|---------------|----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|-----|-----|------|
|         |               | 学級数      | 幼児数 | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 生徒数 | 本科  |      | 専攻科 |     |     |      |
|         | 校 名           |          |     |     |     |     |     | 学級数 | 幼児数  | 学級数 | 児童数 | 学級数 | 生徒数  |
| 視 覚     | 県立視覚支援学校      | 1        | 0   | 5   | 9   | 2   | 2   | 5   | 8    | 2   | 4   | 15  | 23   |
|         | 小 計           | 1        | 0   | 5   | 9   | 2   | 2   | 5   | 8    | 2   | 4   | 15  | 23   |
| 聴 覚     | 県立聴覚支援学校      | 2        | 4   | 7   | 12  | 5   | 14  | 8   | 14   |     |     | 22  | 44   |
|         | 県立聴覚支援学校福島校   | 4        | 9   | 5   | 10  |     |     |     |      |     |     | 9   | 19   |
|         | 県立聴覚支援学校会津校   | 2        | 4   | 3   | 5   |     |     |     |      |     |     | 5   | 9    |
|         | 県立聴覚支援学校平校    | 2        | 4   | 3   | 5   |     |     |     |      |     |     | 5   | 9    |
|         | 小 計           | 10       | 21  | 18  | 32  | 5   | 14  | 8   | 14   |     |     | 41  | 81   |
| 知的障がい   | 県立大笹生支援学校     |          |     | 28  | 78  | 12  | 38  | 24  | 102  |     |     | 64  | 218  |
|         | 県立だて支援学校      |          |     | 17  | 44  | 8   | 30  | 9   | 37   |     |     | 34  | 111  |
|         | 県立あぶくま支援学校    |          |     | 26  | 83  | 17  | 60  | 34  | 199  |     |     | 77  | 342  |
|         | 県立西郷支援学校      |          |     | 19  | 59  | 6   | 22  | 12  | 52   |     |     | 37  | 133  |
|         | 県立石川支援学校      |          |     | 9   | 31  | 8   | 28  | 16  | 80   |     |     | 33  | 139  |
|         | 県立石川支援学校たまかわ校 |          |     | 13  | 38  | 7   | 20  |     |      |     |     | 20  | 58   |
|         | 県立たむら支援学校     |          |     | 14  | 52  | 6   | 21  | 8   | 39   |     |     | 28  | 112  |
|         | 県立会津支援学校      |          |     | 28  | 86  | 16  | 51  | 17  | 89   |     |     | 61  | 226  |
|         | 県立猪苗代支援学校     |          |     | 6   | 9   | 4   | 11  | 5   | 20   |     |     | 15  | 40   |
|         | 県立いわき支援学校     |          |     | 33  | 117 | 18  | 66  | 18  | 91   |     |     | 69  | 274  |
|         | 県立いわき支援学校くぼた校 |          |     |     |     |     |     | 7   | 38   |     |     | 7   | 38   |
|         | 県立ふたば支援学校     |          |     | 5   | 9   | 2   | 7   | 4   | 13   |     |     | 11  | 29   |
|         | 県立相馬支援学校      |          |     | 12  | 42  | 5   | 24  | 7   | 40   |     |     | 24  | 106  |
|         | 福島市立ふくしま支援学校  |          |     | 13  | 54  | 8   | 32  | 7   | 39   |     |     | 28  | 125  |
|         | 福島大学附属特別支援学校  |          |     | 3   | 17  | 3   | 14  | 3   | 23   |     |     | 9   | 54   |
|         | 小 計           |          |     | 226 | 719 | 120 | 424 | 171 | 862  |     |     | 517 | 2005 |
|         | 肢体不自由         | 県立郡山支援学校 |     |     | 25  | 67  | 13  | 29  | 19   | 61  |     |     | 57   |
| 県立平支援学校 |               |          |     | 10  | 23  | 11  | 27  | 11  | 28   |     |     | 32  | 78   |
| 小 計     |               |          |     | 35  | 90  | 24  | 56  | 30  | 89   |     |     | 89  | 235  |
| 病 弱     | 県立須賀川支援学校     |          |     | 6   | 12  | 7   | 22  | 11  | 40   |     |     | 24  | 74   |
|         | 県立須賀川支援学校医大校  |          |     | 3   | 6   | 2   | 3   |     |      |     |     | 5   | 9    |
|         | 県立須賀川支援学校郡山校  |          |     | 3   | 4   | 4   | 8   |     |      |     |     | 7   | 12   |
|         | 県立会津支援学校竹田校   |          |     | 1   | 0   | 2   | 2   |     |      |     |     | 3   | 2    |
|         | 小 計           |          |     | 13  | 22  | 15  | 35  | 11  | 40   |     |     | 39  | 97   |
| 合 計     |               | 11       | 21  | 297 | 872 | 166 | 531 | 225 | 1013 | 2   | 4   | 701 | 2441 |

(2) 特別支援学級（障がい別・児童生徒数）

| 管内  | 学校別      | 小学校 |    |      |             |           |    |            |      | 中学校 |    |     |             |           |    |            |      | 計    |
|-----|----------|-----|----|------|-------------|-----------|----|------------|------|-----|----|-----|-------------|-----------|----|------------|------|------|
|     | 種別<br>内容 | 弱視  | 難聴 | 知的   | 病弱・<br>身体虚弱 | 肢体<br>不自由 | 言語 | 自閉症・<br>情緒 | 小計   | 弱視  | 難聴 | 知的  | 病弱・<br>身体虚弱 | 肢体<br>不自由 | 言語 | 自閉症・<br>情緒 | 小計   |      |
| 県北  | 学校数      | 0   | 1  | 64   | 1           | 1         | 0  | 56         | 123  | 0   | 0  | 33  | 1           | 1         | 0  | 31         | 66   | 189  |
|     | 学級数      | 0   | 1  | 100  | 1           | 1         | 0  | 91         | 194  | 0   | 0  | 44  | 1           | 1         | 0  | 42         | 88   | 282  |
|     | 児童生徒数    | 0   | 1  | 517  | 3           | 2         | 0  | 494        | 1017 | 0   | 0  | 228 | 2           | 2         | 0  | 189        | 421  | 1438 |
| 県中  | 学校数      | 0   | 1  | 77   | 0           | 1         | 0  | 62         | 141  | 0   | 1  | 40  | 0           | 0         | 0  | 39         | 80   | 221  |
|     | 学級数      | 0   | 1  | 122  | 0           | 1         | 0  | 104        | 228  | 0   | 1  | 58  | 0           | 0         | 0  | 62         | 121  | 349  |
|     | 児童生徒数    | 0   | 1  | 677  | 0           | 1         | 0  | 563        | 1242 | 0   | 1  | 282 | 0           | 0         | 0  | 318        | 601  | 1843 |
| 県南  | 学校数      | 1   | 2  | 27   | 0           | 2         | 0  | 20         | 52   | 1   | 1  | 13  | 0           | 1         | 0  | 12         | 28   | 80   |
|     | 学級数      | 1   | 2  | 34   | 0           | 2         | 0  | 26         | 65   | 1   | 1  | 18  | 0           | 1         | 0  | 15         | 36   | 101  |
|     | 児童生徒数    | 1   | 2  | 181  | 0           | 2         | 0  | 139        | 325  | 1   | 1  | 86  | 0           | 1         | 0  | 69         | 158  | 483  |
| 会津  | 学校数      | 0   | 0  | 42   | 1           | 3         | 0  | 33         | 79   | 0   | 0  | 20  | 1           | 1         | 0  | 17         | 39   | 118  |
|     | 学級数      | 0   | 0  | 56   | 1           | 3         | 0  | 42         | 102  | 0   | 0  | 27  | 1           | 1         | 0  | 18         | 47   | 149  |
|     | 児童生徒数    | 0   | 0  | 282  | 1           | 5         | 0  | 200        | 488  | 0   | 0  | 138 | 1           | 1         | 0  | 66         | 206  | 694  |
| 南会津 | 学校数      | 0   | 0  | 6    | 0           | 0         | 0  | 7          | 13   | 0   | 0  | 3   | 1           | 0         | 0  | 4          | 8    | 21   |
|     | 学級数      | 0   | 0  | 6    | 0           | 0         | 0  | 9          | 15   | 0   | 0  | 3   | 1           | 0         | 0  | 4          | 8    | 23   |
|     | 児童生徒数    | 0   | 0  | 13   | 0           | 0         | 0  | 46         | 59   | 0   | 0  | 6   | 1           | 0         | 0  | 12         | 19   | 78   |
| 相双  | 学校数      | 0   | 2  | 23   | 1           | 2         | 0  | 20         | 48   | 0   | 0  | 13  | 0           | 0         | 0  | 12         | 25   | 73   |
|     | 学級数      | 0   | 2  | 31   | 1           | 2         | 0  | 26         | 62   | 0   | 0  | 15  | 0           | 0         | 0  | 12         | 27   | 89   |
|     | 児童生徒数    | 0   | 2  | 154  | 2           | 2         | 0  | 113        | 273  | 0   | 0  | 59  | 0           | 0         | 0  | 31         | 90   | 363  |
| いわき | 学校数      | 2   | 1  | 44   | 2           | 2         | 0  | 41         | 92   | 0   | 0  | 21  | 0           | 0         | 0  | 21         | 42   | 134  |
|     | 学級数      | 2   | 1  | 66   | 2           | 2         | 0  | 84         | 157  | 0   | 0  | 32  | 0           | 0         | 0  | 27         | 59   | 216  |
|     | 児童生徒数    | 2   | 2  | 380  | 2           | 5         | 0  | 507        | 898  | 0   | 0  | 167 | 0           | 0         | 0  | 123        | 290  | 1188 |
| 計   | 学校数      | 3   | 7  | 283  | 5           | 11        | 0  | 239        | 548  | 1   | 2  | 143 | 3           | 3         | 0  | 136        | 288  | 836  |
|     | 学級数      | 3   | 7  | 415  | 5           | 11        | 0  | 382        | 823  | 1   | 2  | 197 | 3           | 3         | 0  | 180        | 386  | 1209 |
|     | 児童生徒数    | 3   | 8  | 2204 | 8           | 17        | 0  | 2062       | 4302 | 1   | 2  | 966 | 4           | 4         | 0  | 808        | 1785 | 6087 |

(3) 通級による指導（障がい別・児童生徒数）※巡回型については、本務校１（学校数１、学級数１）で計上

| 管内  | 学校別      | 小学校 |    |           |     |           |     |      |      | 中学校 |    |           |     |           |     |      |     | 計    |
|-----|----------|-----|----|-----------|-----|-----------|-----|------|------|-----|----|-----------|-----|-----------|-----|------|-----|------|
|     | 種別<br>内容 | 弱視  | 難聴 | 言語<br>障がい | 自閉症 | 情緒<br>障がい | L D | ADHD | 小計   | 弱視  | 難聴 | 言語<br>障がい | 自閉症 | 情緒<br>障がい | L D | ADHD | 小計  |      |
| 県北  | 学校数      | 0   | 0  | 4         | 6   | 0         | 4   | 6    | 20   | 0   | 0  | 0         | 1   | 0         | 1   | 2    | 4   | 24   |
|     | 学級数      | 0   | 0  | 10        | 9   | 0         | 8   | 9    | 36   | 0   | 0  | 0         | 2   | 0         | 2   | 4    | 8   | 44   |
|     | 児童生徒数    | 0   | 0  | 168       | 159 | 0         | 119 | 123  | 569  | 0   | 0  | 0         | 27  | 0         | 29  | 56   | 112 | 681  |
| 県中  | 学校数      | 0   | 1  | 2         | 6   | 2         | 2   | 13   | 26   | 0   | 0  | 1         | 1   | 0         | 0   | 3    | 5   | 31   |
|     | 学級数      | 0   | 1  | 2         | 6   | 2         | 2   | 14   | 27   | 0   | 0  | 1         | 1   | 0         | 0   | 3    | 5   | 32   |
|     | 児童生徒数    | 0   | 11 | 62        | 134 | 40        | 35  | 364  | 646  | 0   | 0  | 12        | 25  | 0         | 0   | 41   | 78  | 724  |
| 県南  | 学校数      | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 5    | 5    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0    | 0   | 5    |
|     | 学級数      | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 5    | 5    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0    | 0   | 5    |
|     | 児童生徒数    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 53   | 53   | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0    | 0   | 53   |
| 会津  | 学校数      | 0   | 0  | 1         | 1   | 0         | 2   | 2    | 6    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 1   | 2    | 3   | 9    |
|     | 学級数      | 0   | 0  | 1         | 1   | 0         | 2   | 2    | 6    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 1   | 2    | 3   | 9    |
|     | 児童生徒数    | 0   | 0  | 5         | 13  | 0         | 33  | 19   | 70   | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 18  | 28   | 46  | 116  |
| 南会津 | 学校数      | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 4    | 4    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0    | 0   | 4    |
|     | 学級数      | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 4    | 4    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0    | 0   | 4    |
|     | 児童生徒数    | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 65   | 65   | 0   | 0  | 0         | 0   | 0         | 0   | 0    | 0   | 65   |
| 相双  | 学校数      | 0   | 0  | 2         | 0   | 1         | 0   | 3    | 6    | 0   | 0  | 0         | 0   | 1         | 0   | 1    | 2   | 8    |
|     | 学級数      | 0   | 0  | 5         | 0   | 2         | 0   | 5    | 12   | 0   | 0  | 0         | 0   | 1         | 0   | 1    | 2   | 14   |
|     | 児童生徒数    | 0   | 0  | 120       | 0   | 34        | 0   | 95   | 249  | 0   | 0  | 0         | 0   | 17        | 0   | 4    | 21  | 270  |
| いわき | 学校数      | 0   | 0  | 2         | 1   | 1         | 1   | 2    | 7    | 0   | 0  | 0         | 1   | 0         | 2   | 0    | 3   | 10   |
|     | 学級数      | 0   | 0  | 4         | 1   | 1         | 1   | 2    | 9    | 0   | 0  | 0         | 1   | 0         | 2   | 0    | 3   | 12   |
|     | 児童生徒数    | 0   | 0  | 68        | 12  | 11        | 14  | 26   | 131  | 0   | 0  | 0         | 16  | 0         | 22  | 0    | 38  | 169  |
| 計   | 学校数      | 0   | 1  | 11        | 14  | 4         | 9   | 35   | 74   | 0   | 0  | 1         | 3   | 1         | 4   | 8    | 17  | 91   |
|     | 学級数      | 0   | 1  | 22        | 17  | 5         | 13  | 41   | 99   | 0   | 0  | 1         | 4   | 1         | 5   | 10   | 21  | 120  |
|     | 児童生徒数    | 0   | 11 | 423       | 318 | 85        | 201 | 745  | 1783 | 0   | 0  | 12        | 68  | 17        | 69  | 129  | 295 | 2078 |

(4) 訪問教育対象児童生徒数及び担当教員数

| 年 度       | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  |
|-----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 対象児童生徒数   | 80 | 69 | 58 | 55 | 54 | 49 | 50 | 43 | 42 | 39 | 43 | 38 | 33 | 34 | 36 | 36 | 32 | 30 | 29 | 29 | 31 | 24 | 24 | 28 |
| 担 当 教 員 数 | 36 | 41 | 33 | 33 | 35 | 27 | 27 | 27 | 27 | 30 | 29 | 24 | 19 | 27 | 32 | 18 | 18 | 18 | 18 | 18 | 20 | 16 | 18 | 24 |

(5) 障がいによる就学義務の猶予・免除者の推移

| 年 度     | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 元 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|---|---|
| 猶 予 者 数 | 1  | 1  | 1  | 1  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 1  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 免 除 者 数 | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0  | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3 教職員人事・任用

(1) 人事異動の概要

令和6年度の県立特別支援学校教職員の定数（補充教員は含まない）は、前年比5人増の1,634人となった。このうち、教諭等は、前年比6人増の1,405人である。

ア 新採用について

令和7年度福島県公立学校教員採用試験での特別支援学校の志願者数は、令和6年度に比べ、前年比16人減の133人であった。一次及び二次選考試験の結果、名簿登載者数は46人であり、46人が教諭として採用された。

イ 交流について

令和6年度人事異動は、例年通り4月1日付け実施となった。同一校永年勤務者、採用後引き続き同一校に3年以上勤務する者等を含め174人の教諭の交流が実現した。

また、小・中学校・市立特別支援学校及び福島大学附属特別支援学校との交流（転入）は10人で、高等学校との交流（転入）は13人であった。特別支援教育の更なる充実が期待される。

(2) 令和6年度県立特別支援学校教員異動・交流基準

ア 一般基準

- (ア) 教育課程の適正な運営を期するため、教員組織の均衡を図るように努める。
- (イ) 同一校には、原則として、最低3年は勤務するものとする。
- (ウ) 2親等以内の者（姻族を含む）は、原則として、同一校勤務を避ける。
- (エ) 教員人事公募選考制度については、別に定める。

イ 異動基準

- (ア) 勤続年数による基準  
次に該当する者は、異動の対象とする。
  - 採用後引き続き同一校に3年以上勤務した者（以下「初任者」という。）
  - 平成21年度以降採用の者で異動2校目において3年以上勤務した者（以下「若年者」という。）
  - 同一校に8年以上勤務した者（以下「永年者」という。）

(イ) 地域による基準

教員の適材適所への配置及び教員組織の均衡化を図るため、県内各学校を別表1のとおり中通り、会津、浜通りの3地域に分け、異動を促進する。

原則として、採用後20年以内に3地域の学校に勤務するものとする。

ただし、平成20年度以前の採用者については、平成30年度までは旧基準（別表2）を準用し、15年以内に2地区及び2障がい以上の学校に勤務した者は、この規定を満たす者とみなす。

ウ 交流

特別支援学校、小学校、中学校及び高等学校における教育を充実させるため、県立特別支援学校と市立特別支援学校、市町村公立小・中学校及び県立高等学校との交流を促進する。その期間は、教諭及び実習助手については、原則として3年とし、養護教諭及び寄宿舎指導員については、原則として3年から8年とする。

別表1 県立特別支援学校地域別学校分類表

| 地域          | 地 区 | 学 校                                          |
|-------------|-----|----------------------------------------------|
| 中<br>通<br>り | 県 北 | 視覚支援 聴覚支援（福島）<br>大笹生支援 須賀川支援（医大）<br>だて支援     |
|             |     | 聴覚支援 郡山支援<br>あぶくま支援 須賀川支援<br>須賀川支援（郡山） たむら支援 |
|             | 県 南 | 西郷支援 石川支援<br>石川支援（たまかわ）                      |
| 会<br>津      | 会 津 | 聴覚支援（会津） 会津支援<br>会津支援（竹田） 猪苗代支援              |
| 浜<br>通<br>り | いわき | 聴覚支援（平） 平支援<br>いわき支援 いわき支援（くぼた）              |
|             | 相 双 | 富岡支援 相馬支援                                    |

別表2 県立特別支援学校地区別・障がい別・群別学校分類表

| 群分類       | I 群                                                   | II 群                   |                        |                        |                                |
|-----------|-------------------------------------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|--------------------------------|
| 障がい<br>地区 | 知的障がい<br>教育を主と<br>する学校                                | 視覚障がい<br>教育を主と<br>する学校 | 聴覚障がい<br>教育を主と<br>する学校 | 肢体不自<br>由教育を主と<br>する学校 | 病弱教育<br>を主とする<br>学校            |
| 県 北       | 大笹生支援<br>だて支援                                         | 視覚支援                   | 聴覚支援<br>(福島)           |                        | 須賀川<br>支援<br>(医大)              |
| 県 南       | あぶくま<br>支援<br>石川支援<br>石川支援<br>(たまかわ)<br>たむら支援<br>西郷支援 |                        | 聴覚支援                   | 郡山支援                   | 須賀川<br>支援<br>須賀川<br>支援<br>(郡山) |
| 会 津       | 会津支援<br>猪苗代支援                                         |                        | 聴覚支援<br>(会津)           |                        | 会津支援<br>(竹田)                   |
| いわき       | いわき支援<br>いわき支援<br>(くぼた)                               |                        | 聴覚支援<br>(平)            | 平支援                    |                                |
| 相 双       | 富岡支援<br>相馬支援                                          |                        |                        |                        |                                |

注：平成20年度までの採用教員について

- (1) II群内の学校のみの経験者は、I群の学校に勤務することを必須とする。
- (2) I群の学校に勤務している者又は勤務した者は、2障がいの経験を有していない者は、II群内の学校での勤務をするものとする。
- (3) ただし、平成7年度までに2地区及び2障がいの勤務経験を終了している者はこの限りではない。

## 第3節 学校教育

### 1 概要

#### (1) 指導行政の基本方針

第7次総合教育計画で、特別支援教育の推進に向けた取組を行った。

本県では、「共に学ぶ」理念のもと、障がいのある子どもと障がいのない子どもが共に学ぶ環境づくりを推進し、障がいのある子どもが地域の小・中学校等で、障がいのない子どもと共に学ぶことができる教育環境の整備を進めた。第7次総合教育計画では、次の基本的な方針のもとに、具体的な取組を示し、その充実に努めた。

#### ○ 基本的方向性

- ・ 障がいのある子どもが、就学前、在学中、さらには卒業後において、一貫した支援を受けることができるよう、医療、福祉、保健、教育、労働等の関係機関の連携を深めることにより、地域で「共に生きる」ことができる体制の整備を進める。
- ・ 障がいのある子どもが、一人一人のニーズに応じて、地域の幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校において学ぶことができるよう、教員の専門性の向上、校内支援体制の整備・充実、すべての保護者に対する特別支援教育への理解の促進などにより、各学校における「共に学ぶ」環境づくりを進める。

#### ○ 具体的な取組

- ・ インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、多様な学びの場や交流及び共同学習の充実と整備
- ・ 個別的教育支援計画及び個別の指導計画の活用や引継ぎ
- ・ 質の高い授業と合理的配慮の提供
- ・ 医療的ケアを必要とする児童生徒の学びの場の環境整備
- ・ 高等学校における通級による指導の充実と交流及び共同学習の推進
- ・ 特別支援教育に関する教員の専門性の向上

#### (2) 指導組織

課長、主幹兼副課長1名、主幹1名、主任管理主事1名、管理主事4名、主任指導主事1名、指導主事5名、各教育事務所特別支援教育担当指導主事7名、教育委員会委嘱特別支援教育担当学校教育指導委員8名をもって指導に当たった。

#### (3) 学校教育指導の重点

特別支援学校においては、特に以下の点に重点をおいて指導に努めた。

##### ① 一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実

児童生徒一人一人の実態と教育的ニーズの的確な把握に努め、家庭や医療、福祉、労働等の関係機関と連携した「個別的教育支援計画」の作成と活用について、教育支援協議会や体制促進協議会等の各種会議で周知に努めた。

##### ② 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善

学習指導要領を踏まえた各教科等の指導を通して、資

質・能力の3つの柱の育成がバランスよく実現できるように、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点を取り入れた授業の実施や改善を行った。

③ 言語環境の整備と言語活動の充実

移動図書館車での巡回貸し出しや幼児児童生徒に本に親しむ機会を設け、読書の楽しみを感じてもらう活動を実施した。また高等部生徒を中心に各種弁論大会等への参加など、教科学習と関連づけながら言語活動の充実に取り組んだ。

④ 自立活動の充実

児童生徒の障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質・能力を養うために、個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、自立活動の内容項目を踏まえた指導目標と指導内容を設定して「個別の指導計画」を作成している。個々の課題や指導目標を担当者間で共有し、計画的・組織的な自立活動の指導を行った。

⑤ 職業教育の充実

「夢に向かってテクノチャレンジ事業」では、高等部を設置する県内全ての特別支援学校による「特別支援学校作業技能大会」を開催した。また、「特別支援学校における就労推進事業」では、生徒の就職率とその定着率の向上を目指し、高等部を設置する特別支援学校の進路指導担当者による進路支援チーム会議を開催し、教員の進路指導に関する専門性の向上と、労働、福祉の各関係機関と連携した支援体制の構築を図った。

⑥ 生徒指導の充実

幼児児童生徒の障がいの状態や特性について、教職員の共通理解を図り、幼・小・中・高等部の一貫した指導に努めるとともに、家庭や関係機関との連携に努めた。また、県立特別支援学校の生徒指導担当者による連絡協議会を年2回（5月と11月）開催し、本県の生徒事故の現状や課題の共有を図り、事故の未然防止に向けた取組の充実に努めた。

⑦ 交流及び共同学習の推進

近隣の幼稚園や小・中学校、高等学校との交流及び共同学習や、児童生徒の居住地における学校との交流及び共同学習を通し、幼児児童生徒の経験を広め、社会性を養うとともに、障がいのあるなしにかかわらず、お互いを理解し尊重する心を育むことに努めた。

⑧ 特別支援学校のセンター的機能の発揮

各地区の特別支援学校地域支援センターのセンター的機能を活かし、県内16箇所で開催を実施し、適切な支援を行うことができるよう専門性の向上を図るとともに、地域の学校等との連携体制の構築に努めた。

(4) 教員の資質と指導力の向上

ア 「ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業」事業担当者会議の開催

事業を推進する指導主事が参集し、各事業実施状況等の報告及び課題についての協議を行った。また、各教育

事務所域内の支援体制の整備や特別支援教育に関する指導の重点等についても研究協議を行い、各教育事務所域内の特別支援教育の充実に向けた指導業務の円滑な推進を図った。

イ 学校教育指導委員連絡協議会の開催

特別支援教育に関する指導の重点や事業概要及び学校教育指導委員の任務についての研修を行い、学校教育指導委員の資質の向上を図った。

ウ 特別支援学校初任者研修、二年次教員フォローアップ研修、経験者研修の実施

特別支援学校の初任者に対し、校内・校外における研修を通して、実践的指導力と使命感を養った。

また、教職経験に応じた経験者研修を実施し、校内におけるリーダーとしての力量の向上に努めた。経験者研修において、教科等指導研修や社会体験研修等を行った。

エ 特別支援教育担当教員専門研修

特別支援教育に関し、指導的立場に立つ教員の育成に対し、専門的知識及び技術を習得させ、資質の向上と指導力の向上を図るため、教員5名を国立特別支援教育総合研究所の専門研修へ派遣した。

(5) 就学相談の推進

学校教育法施行令の一部改正による就学先決定の仕組み等の周知を図るため、市町村教育委員会就学事務担当者と公立中学校管理職を対象に教育支援協議会を県内7か所で開催した。また、市町村の就学先決定における相談の充実については、各教育事務所で支援し、障がい児の早期からの一貫した支援の充実に努めた。

(6) 特別支援教育の推進

ア 特別支援学校における医療的ケア実施事業

「令和6年度特別支援学校における医療的ケア実施事業」を実施し、教育・医療・福祉等関係者からなる「医療的ケア実施運営協議会」を設置し、本県における医療的ケアの在り方について研究・協議を行った。また、常時、医療的ケアを必要とする児童生徒（訪問教育や病院入院生徒は除く）が在籍している学校（16校）に、看護師を配置した。さらに、医療的ケアの実施を指導する「指導医の委嘱」、地域の保健・医療・福祉機関のバックアップ体制の確立のための「医療的ケアサポート会議の設置」、医療的ケアの実施に必要な「医療機器等の整備」を行った。

※看護師配置校

視覚支援学校、聴覚支援学校、聴覚支援学校会津校、大笹生支援学校、だて支援学校、郡山支援学校、あぶくま支援学校、須賀川支援学校郡山校、西郷支援学校、石川支援学校、会津支援学校、会津支援学校竹田校、平支援学校、いわき支援学校、ふたば支援学校、相馬支援学校

【令和6年度医療的ケア実施運営協議会委員】

| 氏 名    | 委嘱時の職名                                           |
|--------|--------------------------------------------------|
| ◎森田 浩之 | 県総合療育センター・所長                                     |
| ○生井 良幸 | 太田西ノ内病院・小児科部長                                    |
| 古橋 知子  | 福島医科大学看護学部・准教授                                   |
| 八島 裕貴  | 保健福祉部障がい福祉課・副主査                                  |
| 後藤 撰   | こども未来局児童家庭課・主任主査                                 |
| 五十嵐 登美 | 県特別支援教育センター・所長                                   |
| 荒川 和裕  | 社会福祉法人南東北事業団<br>障がい者支援施設南東北さくら館<br>所属長兼サービス管理責任者 |
| 上野 優子  | 郡山支援学校・保護者                                       |
| 松永 日止志 | 視覚支援学校・教頭                                        |
| 齋藤 隆康  | 聴覚支援学校・教頭                                        |
| 初山 貴央  | 聴覚支援学校会津校・教頭                                     |
| 佐藤 智   | 大笹生支援学校・教頭                                       |
| 小野 純子  | だて支援学校・教頭                                        |
| 小河 仁   | 郡山支援学校・教頭                                        |
| 持館 康成  | あぶくま支援学校・教頭                                      |
| 石井 あかね | 須賀川支援郡山校・分校長                                     |
| 小山田 幸江 | 西郷支援学校・教頭                                        |
| 佐々木 孝幸 | 石川支援学校・教頭                                        |
| 村岡 有加里 | 会津支援学校・教頭                                        |
| 江見 浩二  | 会津支援学校竹田校・分校長                                    |
| 加藤 賢一  | 平支援学校・教頭                                         |
| 菅野 亨   | いわき支援学校・教頭                                       |
| 伊藤 秀之  | ふたば支援学校・教頭                                       |
| 石垣 真樹子 | 相馬支援学校・教頭                                        |
| 赤間 達也  | 福島高等学校・教頭                                        |
| 井出 しのぶ | 平支援学校・看護師                                        |
| 齋藤 しのぶ | 郡山支援学校・看護師                                       |

(◎委員長 ○副委員長)

【医療的ケア実施運営協議会の開催】

- 第1回 令和6年 6月20日
- 第2回 令和6年11月20日

【会議における検討事項】

- 緊急時の対応について
- 医療的ケアサポート会議について

【看護師研修会の開催】

- 年1回の医療的ケア実施校看護師研修会を郡山支援学校においてオンラインで実施した。12～1月にオンライン情報交換会を実施した。

- イ 「ふくしまの誰一人取り残さない教育体制整備事業」による市町村における支援体制整備の促進  
県内7地区において「特別支援教育体制促進協議会」

を年2回開催し、市町村における支援体制の整備・機能充実に向けた支援や各園・学校等における特別支援教育の充実のための具体的方策について協議するとともに、相談体制の整備や相談支援ファイルの活用促進に取り組んだ。

ウ 地域支援体制の充実

県立特別支援学校が、地域における特別支援教育のセンター的機能の役割を発揮し、小・中学校等や市町村教育委員会のニーズに応じた相談や研修等の支援を実施した。

相談・研修件数は3,082件であった。

また、県内の各教育事務所が地域支援のコーディネーターとなり、相談支援チームを編制し、市町村や小・中学校等への支援の在り方や具体的な方策について協議するとともに、地域の小・中学校等における特別支援教育の充実に向けた支援を実施した。

エ 「高等学校学習支援推進事業」による後期中等教育における発達障がい等のある生徒の支援の充実

平成17年度から平成23年度まで、文部科学省「研究開発学校」制度や、県重点事業「LD等の中高連携型生徒支援事業」、「特別支援教育総合推進事業」において進めてきた学習支援員を活用した生徒支援のノウハウを活かし、令和6年度は県立高等学校13校に学習支援員を配置し、高等学校における支援を必要とする生徒への支援の充実を図った。

オ 障がいのある幼児児童生徒の就学相談の充実

市町村教育委員会、公立中学校管理職を対象に、「教育支援協議会」において、就学先決定の流れや特別な支援を必要とする生徒の支援等について説明をし、障がい児の一貫した支援に努めた。また、本協議会を通して各市町村における早期からの相談支援体制の整備と各学校における教育相談の充実を図った。

## 2 現職教育

### (1) 教員の研修

研修会については、下表のとおり実施し、教員の資質向上に努めた。

| 名 称                     | 期 日                             | 期間 | 会 場                | 人数  | 対 象                      |
|-------------------------|---------------------------------|----|--------------------|-----|--------------------------|
| 特別支援学校教育課程運営改善講座        | 8月20日                           | 1日 | 特別支援教育センター         | 26  | 特別支援学校教員                 |
| 特別支援学級等新任担当教員研修会【共通研修】  | 4月17日<br>4月23日                  | 1日 | 環境創造センター           | 159 | 特別支援学級担当教員<br>通級指導教室担当教員 |
| 【地区別研修】                 | 10月15日<br>～<br>10月25日           |    | 各地区                | 114 | 特別支援学級担当教員               |
| 通級指導教室担当教員研修会           | 7月9日                            | 1日 | 環境創造センター           | 38  | 通級指導教室担当教員               |
| 名 称                     | 期 日                             | 期間 | 会 場                | 人数  | 対 象                      |
| 特別支援学校5年経験者研修           | 6月7日<br>10～11日<br>6月12日<br>～14日 | 3日 | 特別支援教育センター         | 52  | 特別支援学校教員                 |
| 特別支援学校中堅教諭等資質向上研修【共通研修】 | 6月26日<br>～28日                   | 3日 | 各所属校<br>特別支援教育センター | 26  | 特別支援学校教員                 |
| 【教科等指導研修】               | 1月14日<br>～15日                   | 2日 | 特別支援教育センター         | 26  | 特別支援学校教員                 |

#### 特別支援学校初任者研修

| 名 称       |             | 期 日           | 期間 | 会 場                |
|-----------|-------------|---------------|----|--------------------|
| 宿泊研修      | 一次研修        | 7月23日～25日     | 3日 | 各所属校<br>特別支援教育センター |
|           | 二次研修        | 2月4日<br>～2月6日 | 3日 | 各所属校<br>特別支援教育センター |
| 一般研修      |             | 4月10日、11日     | 2日 | 各所属校               |
| カウンセリング研修 |             | 6月5日、6日       | 2日 | 環境創造センター           |
| 地区別研修     | 講習会研修会等参加研修 | 各校で実施         | 1日 | 各地区内の該当学校等         |
|           | 他校参観研修      | 各校で実施         | 5日 | 各地区内の該当学校等         |
|           | 企業等体験研修     | 各校で実施         | 4日 | 各地区内の該当学校等         |
| 教育課程別研修   |             | 9月4日          | 1日 | 初任者配置校             |
| 学部別研修     |             | 11月6日         | 1日 | 初任者配置校             |
|           |             | 年間150時間以上     |    | 各所属校               |

### (2) 特別支援教育教員専門研修

国立特別支援教育総合研究所（専門研修2か月）

令和6年度は、Web会議システム（Zoom）を用いた同時双方向通信によるオンラインと宿泊を組み合わせる研修を実施し、教員としての資質向上を図った。

| 氏 名    | 職名 | 学校名     | コース等      | 期 間              |
|--------|----|---------|-----------|------------------|
| 小檜山 泰典 | 教諭 | 大笹生支援学校 | 知的障害教育専修  | 9月10日<br>～11月15日 |
| 今井 葵加里 | 教諭 | 会津支援学校  | 知的障害教育専修  | 9月10日<br>～11月15日 |
| 小松田 隆介 | 教諭 | 視覚支援学校  | 視覚障害教育専修  | 1月8日<br>～3月14日   |
| 菅野 菜由子 | 教諭 | 聴覚支援学校  | 聴覚障害教育専修  | 1月8日<br>～3月14日   |
| 金田 亮一  | 教諭 | 郡山支援学校  | 肢体不自由教育専修 | 1月8日<br>～3月14日   |

### (3) 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会

小・中学校（義務教育学校を含む。）の特別支援教育コーディネーターに対し、合理的配慮や校内支援体制についての研修を通して、インクルーシブ教育システムの理解を深め、特別支援教育に関わるコーディネーターとしての実践力の向上を図った。

### (4) 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会

高等学校の特別支援教育コーディネーターに対し、合理的配慮や校内支援体制についての研修を通して、インクルーシブ教育システムの理解を深め、特別支援教育に関わるコーディネーターとしての実践力の向上を図った。

### (5) 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会

特別支援学校の特別支援教育コーディネーターの役割や地域のニーズ、有効なコーディネーターの在り方等について学び合う研修を通して、特別支援教育コーディネーターとしての実践力の向上を図った。

## 3 教育課程

### (特別支援学校教育課程運営改善講座)

特別支援学校における教育課程実施上の諸問題に関する専門的な研修を実施することにより、指導的立場にある教員の指導力の向上を図るとともに、学校の実態や児童生徒の障がいの種類と程度に応じた教育課程の編成と適切な実施及び管理に努め、特別支援教育の改善・充実に資する。

| 地区 | 期日    | 会場         | 人数 | 参加対象         |
|----|-------|------------|----|--------------|
| 県内 | 8月20日 | 特別支援教育センター | 26 | 特別支援学校の教務主任等 |

## 4 訪問教育

通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して行う訪問教育を週3回程実施し、登校可能な児童生徒に対して、定期的に他の子どもたちと交流したり、集団学習を行ったりすることができるように、1回はスクーリング(登校学習)を実施した。

さらに、大笹生支援学校では、高等部の訪問教育を実施している。

実施状況は次のとおりである。

| 校 名<br>学級数<br>児童生徒数 | 学級数 |      |     |      |     |      |     |       | 児童生徒数 |      |     |      |     |      |     | スクーリング児童生徒数 |     |     |     |    |
|---------------------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|-------|-------|------|-----|------|-----|------|-----|-------------|-----|-----|-----|----|
|                     | 小学部 | 病院訪問 | 中学部 | 病院訪問 | 高等部 | 病院訪問 | 学部計 | 病院訪問計 | 小学部   | 病院訪問 | 中学部 | 病院訪問 | 高等部 | 病院訪問 | 学部計 | 病院訪問計       | 小学部 | 中学部 | 高等部 | 計  |
| 大 笹 生 支 援 学 校       | 1   |      |     |      | 1   | 1    | 2   | 1     | 2     |      |     |      | 1   | 1    | 3   | 1           | 2   |     | 1   | 3  |
| だ て 支 援 学 校         | 1   |      | 1   |      | 1   |      | 3   |       | 1     |      | 2   |      | 1   |      | 4   |             | 1   | 2   | 1   | 4  |
| 郡 山 支 援 学 校         | 2   |      | 1   |      | 1   |      | 4   |       | 3     |      | 1   |      | 1   |      | 5   |             | 3   | 1   | 1   | 5  |
| 須賀川支援学校郡山校          |     | 1    |     | 1    |     |      |     | 2     |       |      |     |      |     |      |     |             |     |     |     |    |
| 会 津 支 援 学 校         | 1   |      | 1   |      |     |      | 2   |       | 2     |      | 1   |      |     |      | 3   |             | 2   | 1   |     | 3  |
| 平 支 援 学 校           | 1   |      | 1   | 1    | 1   | 1    | 3   | 2     | 3     |      | 3   | 1    | 1   | 1    | 7   | 2           | 3   | 4   | 2   | 9  |
| 相 馬 支 援 学 校         | 2   |      |     |      |     |      | 2   |       | 3     |      |     |      |     |      | 3   |             | 3   |     |     | 3  |
| 合 計                 | 8   | 1    | 4   | 2    | 4   | 2    | 16  | 5     | 14    |      | 7   | 1    | 4   | 2    | 25  | 3           | 14  | 8   | 5   | 27 |

## 5 生徒指導・進路指導

### (1) 生徒指導

障がいのある児童生徒一人一人の意思や個性を生かしながら、障がいの状態や発達の段階・特性等に応じた指導が十分に行えるように、校内の生徒指導体制の確立に努めた。

特に、児童生徒一人一人の課題を的確に把握し、児童生徒の立場に立った行動理解を行い、児童生徒の自己実現を図るべく、生徒指導の機能を生かした指導支援に努めた。

### (2) 進路指導

ア 夢に向かってテクノチャレンジ事業

#### (ア) 事業の趣旨

特別支援学校高等部生徒の自立と社会参加を促すため、特別支援学校作業技能大会を開催し、日頃の進路に関する学習の成果を発表するとともに、外部専門家から客観的な評価を受ける機会とする。

#### (イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 17 校  
福島大学附属特別支援学校  
福島市立ふくしま支援学校 計 19 校

#### (ウ) 実施状況

- a 特別支援学校作業技能大会の開催
  - ・期日 7月31日(水)
  - ・場所 ビッグパレットふくしま
- b 実施部門
  - ・作業技能検定部門  
ビルクリーニング、喫茶接遇サービス、パソコンデータ入力、店舗販売(品出し)
  - ・作業製品品評部門
  - ・あん摩・鍼施術評価部門

#### c 外部評価の活用

- ・各作業技能検定部門に関する助言
- ・作業技能検定部門の審査

### イ 特別支援学校における就労推進事業

#### (ア) 事業の趣旨

高等部を設置する特別支援学校を対象として、労働、福祉等の各関係機関と連携した支援体制整備を基盤とし、企業への理解啓発と、企業で働き続けることのできる人材育成を充実させることにより、卒業生に占める就職率と定着率の向上を図る。

#### (イ) 実施校

高等部設置県立特別支援学校 17 校  
福島大学附属特別支援学校  
福島市立ふくしま支援学校 計 19 校

#### (ウ) 実施状況

- a 進路支援チーム会議の実施
  - ・ 特別支援学校進路指導担当による就労促進及び支援の充実に関する協議
  - ・ 障がい者就業・生活支援センターとの連携強化
- b 移行支援機能の充実
  - ・ 関係機関と連携した、早期からの移行支援会議の実施
  - ・ 在学中から卒業後までの長いスパンでの支援
- c 企業の求める人材育成
  - ・ 作業学習の内容や手法の見直し
  - ・ ジョブコーチや企業等からの指導助言
  - ・ 「障がい者就職面接会」への参加
  - ・ 「特別支援学校早期訓練コース」の活用

d 外部評価の活用

- ・「特別支援学校作業技能大会」における作業技能検定の活用
- ・「障がい者技能競技大会」への参加

## 6 特別活動

### (1) 卒業式

ア 県立特別支援学校卒業生数

| 学部<br>障がい | 幼稚園 | 小学部 | 中学部 | 高等部 | 合 計 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 視覚障がい     |     |     | 1   | 4   | 5   |
| 聴覚障がい     | 10  | 4   | 7   | 7   | 28  |
| 知的障がい     |     | 109 | 121 | 279 | 509 |
| 肢体不自由     |     | 22  | 21  | 26  | 69  |
| 病 弱       |     | 6   | 15  | 13  | 34  |
| 計         | 10  | 141 | 165 | 329 | 645 |

イ 県立特別支援学校卒業式学部別開催日(校数)

| 学部<br>開催日 | 3月1日 | 3月3日 | 3月7日 | 3月10日 | 3月11日 | 3月12日 | 3月13日 | 3月17日 | 3月18日 | 3月19日 |
|-----------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 幼稚園       |      |      |      |       |       | 1     | 1     |       |       | 1     |
| 小学部       |      |      |      |       |       | 1     | 3     | 3     | 9     | 3     |
| 中学部       |      |      |      | 1     |       | 2     | 2     | 3     | 8     | 3     |
| 高等部       | 1    | 4    | 4    | 1     | 3     | 1     |       |       | 1     | 2     |

### (2) 修学旅行

| 学部<br>行き先<br>日数 | 行 き 先 |    |    |    |     | 日 数 |      |      |      | 人<br>数 |
|-----------------|-------|----|----|----|-----|-----|------|------|------|--------|
|                 | 県内    | 東北 | 関東 | 関西 | 北海道 | 日帰り | 一泊二日 | 二泊三日 | 三泊四日 |        |
| 小学部             | 7     | 6  | 4  | 0  | 0   | 15  | 3    | 0    | 0    | 138    |
| 中学部             | 0     | 2  | 14 | 0  | 0   | 0   | 10   | 7    | 0    | 144    |
| 高等部             | 0     | 0  | 9  | 8  | 1   | 0   | 0    | 16   | 2    | 318    |

## 7 学校訪問

### 県立特別支援学校

5年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修の研究授業日に学校訪問を実施した。

| No. | 訪 問 日  | 学 校 名   |
|-----|--------|---------|
| 1   | 9月17日  | 平支援学校   |
| 2   | 10月 3日 | 大笹生支援学校 |
| 3   | 10月15日 | だて支援学校  |

## 8 県立学校学校教育指導委員

| 氏 名    | 職 名 | 所 属 校     |
|--------|-----|-----------|
| 矢 吹 淳  | 教諭  | 視覚支援学校    |
| 浅 田 初恵 | 教諭  | 聴覚支援学校    |
| 武 田 良  | 教諭  | 大笹生支援学校   |
| 鈴木 亜沙雄 | 教諭  | だて支援学校    |
| 渡 邊 幸治 | 教諭  | 郡山支援学校    |
| 大竹 舞香  | 教諭  | 会津支援学校竹田校 |
| 長岡 麻衣  | 教諭  | 平支援学校     |
| 目黒 由美子 | 教諭  | たむら支援学校   |

## 9 就学相談・支援

### (1) 福島県特別支援教育推進会議

福島県特別支援教育推進会議委員

| 委 員   | 職 名                |
|-------|--------------------|
| 学識見識者 | 大学教授               |
| 関係機関  | 福祉関係代表             |
| 関係機関  | 県総合療育センター所長        |
| 関係機関  | 県保健福祉部障がい福祉課長      |
| 関係機関  | 県保健福祉部こども未来局児童家庭課長 |
| 関係機関  | 県商工労働部雇用労政課長       |
| 教育関係  | 小学校長会代表            |
| 教育関係  | 中学校長会代表            |
| 教育関係  | 高等学校長会代表           |
| 教育関係  | 特別支援学校長会代表         |
| 教育関係  | 県特別支援教育センター所長      |
| 教育関係  | 県教育庁特別支援教育課長       |

### (2) 教育支援協議会

ア 期日及び会場

| 地 区 | 期 日   | 会 場        | 参加者数 |
|-----|-------|------------|------|
| 県 北 | 6月11日 | パルセいいざか    | 48   |
| 県 中 | 5月27日 | 郡山合同庁舎     | 38   |
| 県 南 | 5月29日 | 白河合同庁舎     | 27   |
| 会 津 | 6月 5日 | 塩川公民館      | 46   |
| 南会津 | 5月30日 | 御蔵入交流館     | 11   |
| 相 双 | 6月27日 | 万葉ふれあいセンター | 32   |
| いわき | 6月18日 | いわき合同庁舎    | 39   |

イ 参 加 者

公立中学校管理職 各市町村教育委員会

ウ 説明及び協議

(7) 説明

「特別な支援が必要な児童への支援のあり方について」

(4) 説明及び協議

「自校における特別な支援が必要な児童への支援の取組について」

## 10 教科用図書

### (1) 教科用図書事務説明会

ア 開催日時・場所

令和6年6月6日・オンライン

イ 参加者

各教育事務所 各市町村教育委員会

特別支援学校教科書担当者

### (2) 学校教育法附則第9条に規定する一般図書の展示期及び会場

|             |              |
|-------------|--------------|
| 6月3日～6月5日   | 相馬支援学校       |
| 6月7日～6月11日  | 福島大学附属特別支援学校 |
| 6月12日～6月14日 | だて支援学校       |
| 6月18日～6月20日 | あぶくま支援学校     |
| 6月24日～6月25日 | 西郷支援学校       |
| 6月27日～6月28日 | 石川支援学校       |
| 7月2日～7月4日   | 平支援学校        |
| 7月9日～7月11日  | 会津支援学校       |
| 7月17日～7月19日 | 南会津町役場       |
| 7月23日～7月25日 | 特別支援教育センター   |

## 11 教育研究団体

### (1) 令和6年度福島県特別支援学校長会役員

| 役職名 | 氏名    | 所属校          |
|-----|-------|--------------|
| 会長  | 西村 則昌 | 聴覚支援学校       |
| 副会長 | 西牧 辰典 | 大笹生支援学校      |
| 副会長 | 永峯 秀桐 | 福島市立ふくしま支援学校 |

### (2) 令和6年度福島県特別支援学校教頭会役員

| 役職名 | 氏名     | 所属校         |
|-----|--------|-------------|
| 会長  | 齋藤 顕   | 須賀川支援学校     |
| 副会長 | 金澤 広司  | 石川支援学校たまかわ校 |
| 副会長 | 佐々木 孝幸 | 石川支援学校      |

### (3) 福島県特別支援教育研究会

ア 組織

| 役職名 | 氏名    | 所属校          |
|-----|-------|--------------|
| 会長  | 永峯 秀桐 | 福島市立ふくしま支援学校 |
| 副会長 | 西村 則昌 | 聴覚支援学校       |
| 副会長 | 大内 利典 | 郡山市立朝日が丘小学校  |

イ 事業の概要

| 事業名 | 期日    | 会場          | 概要            |
|-----|-------|-------------|---------------|
| 役員会 | 5月17日 | 郡山支援学校      | 事業報告、事業計画について |
|     | 2月7日  | 県特別支援教育センター | 行事等の確認        |

### (4) 福島県特別支援教育振興会

ア 役員

| 役職名 | 氏名     | 所属             |
|-----|--------|----------------|
| 会長  | 小檜山 宗浩 | 福島大学特任教授       |
| 副会長 | 齋藤 義人  | 元福島商業高等学校長     |
| 副会長 | 杉山 裕恵  | 元福島県立聴覚支援学校長   |
| 理事  | 小野 寛   | 県北支部長          |
| 理事  | 道下 和幸  | 県中支部長          |
| 理事  | 小河原 健一 | 県南支部長          |
| 理事  | 齋藤 秀美  | 会津支部長          |
| 理事  | 只野 裕一  | 相双支部長          |
| 理事  | 大谷 明   | いわき支部長         |
| 理事  | 西村 則昌  | 本部事務局長         |
| 監事  | 高屋 隆男  | 元福島県立聾学校長      |
| 監事  | 五十嵐 登美 | 県特別支援教育センター所長  |
| 顧問  | 柳沼 穹壹  | 元福島県立あぶくま養護学校長 |

イ 事務局

(7) 本部事務担当

聴覚支援学校 校長 西村 則昌

聴覚支援学校 教頭 齋藤 隆康

聴覚支援学校 教頭 田中 聡一郎

聴覚支援学校 事務長 宍戸 佐壽

(4) 支部

| 支部 | 事務局校    | 支部  | 事務局校   |
|----|---------|-----|--------|
| 県北 | 大笹生支援学校 | 会津  | 会津支援学校 |
| 県中 | 郡山支援学校  | 相双  | 相馬支援学校 |
| 県南 | 西郷支援学校  | いわき | 平支援学校  |

## 第 8 章 体育・健康

### 第 1 節 概要

東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所の事故により、甚大な被害を受けたが、「健康」や「体力」の必要性・重要性について、再認識されたところであり、震災後の深刻な健康課題の解決に向けて平成 27 年度に「ふくしまっ子体力向上総合プロジェクト」を策定した。令和 3 年度からはこのプロジェクトのレガシーを引き継ぎ「ふくしまっ子健康マネジメントプラン」事業を立ち上げた。これは、望ましい運動習慣や食習慣を形成するために作成した「自分手帳」の効果的・継続的な活用を通して、健康課題を解決する自己マネジメント能力の育成、学校等における個別・集団指導への外部専門家の派遣、ウェブサイトを活用した「みんなで跳ぼうなわとびコンテスト」の実施と体力向上表彰の実施、PDCA サイクルによる事業の検証などを展開し、体力の向上及び肥満の解消を図るものである。

今年度は、健康課題を解決する自己マネジメント能力のさらなる育成を目指し、「自分手帳（オンライン版）」の令和 8 年度からの本格稼働に向けたアプリケーションの開発を行った。

学校体育の充実については、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することを重視し、運動を楽しみながら体力の向上を目指す授業の普及に努めた。

また、体育の授業のさらなる充実を図るため、「ふくしまっ子健康マネジメントプラン」により、「運動身体づくりプログラム」の普及・実践、「ふくしまっ子児童期運動指針」の普及・実践に努めた。

さらに、部活動の適正化や教職員の働き方改革につながる取組を進めるため、中学校・高等学校に部活動指導員を配置した。

健康教育の充実・普及については、平成 19 年度より「学校すこやかプラン」を展開し、県教育委員会、学校、専門家、関係機関との連携により多様化、複雑化する健康課題に対応し、解決に努めた。その中で、保健教育の充実を図り、児童生徒が自ら健康的な生活を営む実践力を育むための指導の在り方について研究を深めた。また、健康相談、個別指導の充実を図り、個別の健康課題解決を支援し、豊かな心を持ち、健やかにたくましく生きる児童生徒の育成に取り組んだ。食生活を取り巻く社会環境等の変化に伴い、偏った栄養摂取、肥満等の生活習慣病の増加及び若年化など、食に起因する新たな健康問題が増加している。こうした状況の下、生涯を通じた健康づくりの観点から、食に関する指導を一層充実するとともに、各種研修会・講習会の開催を通して、衛生管理指導の徹底を図り、豊かで安全な学校給食の実現に努めた。

#### 1 学校体育の充実

学校における体育・スポーツ活動のより一層の充実を図るため「ふくしまっ子児童期運動指針」の活用を奨励し、児童の運動習慣づくりに努めた。

また、県内 6 地区で小・中・高等学校体育担当者連絡協議会及び体育・保健体育指導力向上研修会を開催し、新学習指導要領の趣旨について研修を行うとともに、「自分手帳」の活用に関する講義も行った。さらに、部活動指導員配置促進事業を通して部活動を通じた運動・文化に親しむ生徒の育成に努めた。

#### 2 学校保健・学校安全の充実

学校における健康教育の充実を図るため、ヘルスプロモーションの理念に基づく各種事業を推進している。「学校すこやかプラン」においては、多様化・複雑化する児童生徒の健康課題に対応するため、現代的な健康課題に関する理解と学校における対応の在り方について健康教育推進者研修会を実施した。令和 6 年度は、福島県の健康課題とその対応について、子宮頸がんの基本的な理解と予防について、「性に関する指導の手引」の活用についての研修を実施し、健康教育推進の要となる養護教諭の資質向上を目指し、健康教育の充実を図った。

顕彰事業関係では、県教育委員会が行う「福島県学校歯科保健優良校表彰」のほかに、県学校保健会の「学校保健優良学校表彰」を行った。ここでは、自校の健康教育に関わる課題を的確に捉え、地域と連携し、組織的・計画的に課題解決に向けた取組を行うとともに、児童生徒の主体的な活動が行われた学校を表彰した。

学校安全に関しては、危機管理マニュアル等の評価・見直しを促すとともに、その確実な実践を図るため福島県学校安全指導者養成研修会を実施し、生活安全・交通安全・災害安全について担当者間での情報交換や各校の危機管理マニュアルの見直しをするなど、安全管理の推進・充実を図った。

また、「福島県熱中症ガイドライン」の策定、「学校災害対応マニュアル例」への災害時の児童生徒の引き渡しへの追記を行った。

#### 3 食育の推進

学校における食育の方向を示す「ふくしまっ子食育指針」に基づき、食べる力、感謝の心、郷土愛を育み、望ましい食習慣を形成することを目指し、給食の時間や特別活動、各教科等教育活動全体で食に関する指導の充実を図った。また、平成 26 年度より東日本大震災後の新たな課題に対応するため、「ふくしまからはじめよう。元気なふくしまっ子食環境整備事業」を三部（保健福祉部、農林水産部、教育庁）連携事業として実施し、学校における食に関する指導体制の整備

に努めた（令和4年度から「元気なふくしまっ子食環境整備事業」へ事業名変更）。その一環で行っている「ふくしまっ子はんコンテスト」では、応募総数が、17,401点となり、家庭における食育への意識の向上につながった。

4 学校給食の充実

学校給食の充実を図るため、給食関係者を対象とした各種研修会をはじめ、学校栄養職員の専門的指導力を高めるため、新規採用学校栄養職員研修（県立学校を含む）、学校栄養職員中堅教諭等資質向上研修及び栄養教諭中堅教諭等資質向上研修を実施した。なお、学校栄養職員5年経験者研修及び栄養教諭5年経験者研修、中核学校栄養職員研修については隔年実施のため、令和6年度は実施しなかった。

さらに、食中毒防止等衛生管理の徹底を図るためには、平成21年4月1日に施行された「学校給食衛生管理基準」（文部科学省告示第64号）の遵守が必要であることから、その実施状況の確認及び指導・助言のため、学校給食施設訪問実施状況点検を健康教育課担当者が県立学校27校及び単独調理場等3校、各教育事務所の指導主事が単独調理場等42校で実施した。

また、令和2年度より、文部科学省支出委任事業「学校給食の衛生管理等に関する調査研究」における訪問指導を市町村立学校給食施設10施設で実施した。

第2節 表彰

1 体育関係

(1) 公益財団法人日本学校体育研究連合会表彰

- ア 最優秀校 該当なし
- イ 優良校 該当なし
- ウ 功労者

| 職名 | 氏名    | 勤務校           |
|----|-------|---------------|
| 校長 | 高橋 伸明 | 会津若松市立第六中学校   |
| 校長 | 芦野 孝彦 | いわき市立内郷第一中学校長 |

(2) 福島県学校体育研究連合会表彰

- ア 優良校

| 学校名        | 校長名   |
|------------|-------|
| いわき市立玉川中学校 | 丹野 英雄 |

- イ 功労者

| 職名  | 氏名    | 勤務校          |
|-----|-------|--------------|
| 前校長 | 舘脇 一弘 | 郡山市立赤木小学校    |
| 前校長 | 大内 剛  | 福島市立吉井田小学校   |
| 校長  | 上遠野 博 | いわき市立江名中学校   |
| 教諭  | 尾張 慧  | 福島県立相馬農業高等学校 |

2 学校保健・学校安全関係

(1) 福島県教育委員会表彰

- ア 学校保健功労者

| 区分    | 氏名    | 勤務校           |
|-------|-------|---------------|
| 学校医   | 遠藤 正達 | 田村市立船引南中学校他   |
| 学校薬剤師 | 本田喜己江 | 福島県立湖南高等学校他   |
| 学校歯科医 | 佐藤賢次郎 | 田村市立瀬川小学校他    |
| 学校歯科医 | 大村 公士 | 福島県立会津工業高等学校他 |

- イ 功績顕著な団体 該当なし

(2) 文部科学大臣表彰

- ア 学校保健・学校安全表彰

| 区分    | 氏名    | 勤務校          |
|-------|-------|--------------|
| 元学校医  | 織内 素生 | いわき市立湯本第一中学校 |
| 学校医   | 米山 高仁 | 会津若松市立城南小学校  |
| 学校歯科医 | 物江 暁  | 喜多方市立第三中学校   |

- イ 学校保健・学校安全表彰（学校・団体） 該当なし

- ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞 該当なし

(3) 令和6年度歯科衛生図画・ポスター・書写・標語コンクール表彰

- ア 図画の部

| 学年     | 学校名             | 氏名    |
|--------|-----------------|-------|
| 幼稚園    | 認定こども園たまかわクックの森 | 眞弓 暁  |
| 小学校1年  | 天栄村立牧本小学校       | 添田 航暉 |
| 小学校2年  | 会津坂下町立坂下東小学校    | 大竹 一樺 |
| 小学校3年  | 会津若松ザペリオ学園小学校   | 夏井さくら |
| 特別支援学校 | 応募なし            |       |

- イ ポスターの部

◎小学校

| 学年    | 学校名          | 氏名    |
|-------|--------------|-------|
| 小学校4年 | 石川町立石川小学校    | 金澤 澄怜 |
| 小学校5年 | いわき市立中央台東小学校 | 高橋 杏和 |
| 小学校6年 | 須賀川市立白江小学校   | 田村 昊  |

◎中学校

| 学年    | 学校名        | 氏名     |
|-------|------------|--------|
| 中学校1年 | 須賀川市立第一中学校 | 小山 綸千花 |
| 中学校2年 | 浅川町立浅川中学校  | 小野 愛海  |
| 中学校3年 | 矢吹町立矢吹中学校  | 太田 花歩  |

◎特別支援学校

| 学年    | 学校名         | 氏名    |
|-------|-------------|-------|
| 中学部3年 | 福島県立ふたば支援学校 | 小野 晋也 |

- ウ 書写の部

| 学年    | 学校名          | 氏名    |
|-------|--------------|-------|
| 小学校1年 | 小野町立小野小学校    | 岩塚 葵咲 |
| 小学校2年 | いわき市立湯本第一小学校 | 三嶋 葵生 |
| 小学校3年 | 白河市立白河第二小学校  | 室井 柊伍 |

|         |               |       |
|---------|---------------|-------|
| 小学校 4 年 | 川俣町立川俣小学校     | 齋藤まえむ |
| 小学校 5 年 | 南会津町立舘岩小学校    | 松坂 藍子 |
| 小学校 6 年 | いわき市立泉北小学校    | 青木 舞  |
| 中学校全学年  | 白河市立表郷中学校     | 薄井 悠  |
| 特別支援学校  | 福島県立聴覚支援学校福島校 | 高橋 清翔 |

エ 標語の部

| 学 年    | 学 校 名      | 氏 名   |
|--------|------------|-------|
| 小・中学校  | 南会津町立舘岩中学校 | 湯田 一颯 |
| 特別支援学校 | 福島県立視覚支援学校 | 会田 光汰 |

(4) 令和 6 年度福島県学校歯科保健優良校表彰

ア 特別表彰 1 校

| No. | 域 内 | 学 校 名    |
|-----|-----|----------|
| 1   | 県 南 | 西郷村立米小学校 |

イ 栄誉賞 該当なし

ウ 最優秀賞 1 校

| No. | 域 内 | 学 校 名     |
|-----|-----|-----------|
| 1   | 県 南 | 西郷村立羽太小学校 |

エ 優秀賞 19 校

◎小学校（11 学級以下） 15 校

| No. | 域 内 | 学 校 名       |
|-----|-----|-------------|
| 1   | 県 北 | 福島市立水保小学校   |
| 2   | 県 中 | 郡山市立白岩小学校   |
| 3   | 県 中 | 三春町立中妻小学校   |
| 4   | 県 中 | 三春町立中郷小学校   |
| 5   | 会 津 | 喜多方市立上三宮小学校 |
| 6   | 会 津 | 喜多方市立第三小学校  |
| 7   | 会 津 | 喜多方市立駒形小学校  |
| 8   | 会 津 | 北塩原村立裏磐梯小学校 |
| 9   | 会 津 | 湯川村立笈川小学校   |
| 10  | 南会津 | 南会津町立舘岩小学校  |
| 11  | 南会津 | 下郷町立旭田小学校   |
| 12  | 南会津 | 下郷町立江川小学校   |
| 13  | 南会津 | 只見町立只見小学校   |
| 14  | 南会津 | 只見町立朝日小学校   |
| 15  | 相 双 | 南相馬市立小高小学校  |

◎小学校（12 学級以上） 2 校

| No. | 域 内 | 学 校 名      |
|-----|-----|------------|
| 16  | 会 津 | 喜多方市立第一小学校 |
| 17  | 会 津 | 会津若松市立河東学園 |

◎中学校（11 学級以下） 1 校

| No. | 域 内 | 学 校 名     |
|-----|-----|-----------|
| 18  | 南会津 | 下郷町立下郷中学校 |

◎特別支援学校 1 校

| No. | 域 内 | 学 校 名           |
|-----|-----|-----------------|
| 19  | 特 支 | 福島県立視覚支援学校（中学部） |

オ 努力賞 24 校

| No. | 域 内 | 学 校 名             |
|-----|-----|-------------------|
| 1   | 県 北 | 桑折町立伊達崎小学校        |
| 2   | 県 中 | 須賀川市立長沼東小学校       |
| 3   | 県 中 | 須賀川市立長沼中学校        |
| 4   | 県 中 | 鏡石町立鏡石中学校         |
| 5   | 県 中 | 田村市立常葉中学校         |
| 6   | 特 支 | 福島県立あぶくま支援学校（中学部） |
| 7   | 県 南 | 白河市立白河第一小学校       |
| 8   | 県 南 | 白河市立釜子小学校         |
| 9   | 県 南 | 中島村立滑津小学校         |
| 10  | 県 南 | 白河市立東中学校          |
| 11  | 県 南 | 中島村立中島中学校         |
| 12  | 県 南 | 棚倉町立棚倉中学校         |
| 13  | 会 津 | 磐梯町立磐梯第二小学校       |
| 14  | 会 津 | 喜多方市立松山小学校        |
| 15  | 会 津 | 湯川村立勝常小学校         |
| 16  | 会 津 | 会津美里町立新鶴小学校       |
| 17  | 南会津 | 下郷町立檜原小学校         |
| 18  | 南会津 | 檜枝岐町立檜枝岐小学校       |
| 19  | 南会津 | 只見町立明和小学校         |
| 20  | 南会津 | 檜枝岐村立檜枝岐中学校       |
| 21  | 南会津 | 只見町立只見中学校         |
| 22  | 相 双 | 相馬市立中村第一小学校       |
| 23  | 相 双 | 南相馬市立大甕小学校        |
| 24  | いわき | いわき市立好間第四小学校      |

カ 優秀活動奨励賞 1 校

| No. | 域 内 | 学 校 名         |
|-----|-----|---------------|
| 1   | いわき | いわき市立小名浜第一小学校 |

(5) 福島県学校保健会表彰

ア 健康づくり推進学校 該当なし

イ 学校保健功労者（35 名）

| No. | 職 名 | 氏 名   | 勤 務 校           |
|-----|-----|-------|-----------------|
| 1   | 学校医 | 味原 隆  | 福島県立石川支援学校たまかわ校 |
| 2   | 学校医 | 天田 康  | 福島県立郡山商業高等学校    |
| 3   | 学校医 | 石井 一  | 伊達市立伊達小学校       |
| 4   | 学校医 | 猪本雄一郎 | 福島市立北信中学校       |
| 5   | 学校医 | 遠藤 到  | 福島県立いわき光洋高等学校   |
| 6   | 学校医 | 大石 明  | 相馬市立飯豊小学校       |
| 7   | 学校医 | 大木 晴夫 | 棚倉町立棚倉小学校       |
| 8   | 学校医 | 大槻 好正 | 郡山市立喜久田小学校      |
| 9   | 学校医 | 小松 典男 | いわき市立遠野小学校      |
| 10  | 学校医 | 小松 正文 | いわき市立草野小学校      |
| 11  | 学校医 | 近藤 佳夫 | 西郷村立米小学校        |
| 12  | 学校医 | 鈴木 滋  | いわき市立渡辺小学校      |
| 13  | 学校医 | 中山 和久 | いわき市立江名小学校      |
| 14  | 学校医 | 橋本 長吉 | 小野町立小野中学校       |

| No. | 職 名   | 氏 名    | 勤 務 校         |
|-----|-------|--------|---------------|
| 15  | 学校医   | 務川 靖   | 郡山市立行健第二小学校   |
| 16  | 学校医   | 屋島 治光  | 磐梯町立磐梯中学校     |
| 17  | 学校医   | 山野 智敬  | いわき市立中央台南小学校  |
| 18  | 学校歯科医 | 今泉 貞雄  | 福島県立会津支援学校竹田校 |
| 19  | 学校歯科医 | 海野 茂雄  | 西郷村立羽太小学校     |
| 20  | 学校歯科医 | 岡田玄四郎  | 福島県立郡山支援学校    |
| 21  | 学校歯科医 | 菅野 和幸  | 田村市立船引南中学校    |
| 22  | 学校歯科医 | 小林 享二  | いわき市立平第三中学校   |
| 23  | 学校歯科医 | 近内 令一  | 石川町立野木沢小学校    |
| 24  | 学校歯科医 | 阪本 健一  | 須賀川市立大東中学校    |
| 25  | 学校歯科医 | 佐藤 光   | 福島県立会津学鳳高等学校  |
| 26  | 学校歯科医 | 角田 隆   | 白河市立白河第四小学校   |
| 27  | 学校薬剤師 | 今井源佐武郎 | 白河市立白河第二中学校   |
| 28  | 学校薬剤師 | 杉原知恵子  | 福島県立白河第二高等学校  |
| 29  | 学校薬剤師 | 廣島 弘美  | いわき市立田人小学校    |
| 30  | 学校薬剤師 | 藤田 佳子  | 白河市立小田川小学校    |
| 31  | 学校薬剤師 | 山田善之進  | 郡山市立三和小学校     |
| 32  | 養護教諭  | 石田 康子  | 郡山市立郡山第五中学校   |
| 33  | 養護教諭  | 大竹いづみ  | 西郷村立西郷第一中学校   |
| 34  | 養護教諭  | 川元 亜弓  | 郡山市立小泉小学校     |
| 35  | 養護教諭  | 南條 純子  | 石川町立石川小学校     |

ウ 学校安全ボランティア活動奨励賞 該当なし  
エ 学校保健会感謝状（8名）

| No. | 職 名      | 氏 名   | 勤 務 校           |
|-----|----------|-------|-----------------|
| 1   | (前)学校医   | 大野 悦人 | 石川町立沢田小学校       |
| 2   | (前)学校医   | 小野 和男 | 福島市立飯坂小学校       |
| 3   | (前)学校歯科医 | 鈴木 明  | 西郷村立米小学校        |
| 4   | (前)学校薬剤師 | 畑 伸一  | 福島県立郡山支援学校      |
| 5   | (前)学校薬剤師 | 嶺岸 邦昭 | 福島市立渡利中学校       |
| 6   | (前)養護教諭  | 小川 悦子 | 福島県立いわき翠の杜高等学校  |
| 7   | (前)養護教諭  | 笹川 聡子 | 福島県立いわき支援学校くぼた校 |
| 8   | (前)養護教諭  | 宮崎理恵子 | 福島県磐城第一高等学校     |

### 3 学校給食関係

#### (1) 文部科学大臣表彰

ア 学校給食優良学校等 該当なし

#### (2) 公益財団法人福島県学校給食会会長・福島県学校給食研究会会長表彰

ア 学校給食優良団体

| 団体名         | 校長・施設長 |
|-------------|--------|
| 会津若松市立城南中学校 | 金田 浩充  |

| イ 学校給食功労者 |        |           |
|-----------|--------|-----------|
| 職 名       | 氏 名    | 所 名       |
| 主任栄養技師    | 永久保小百合 | 郡山市立開成小学校 |
| 栄養教諭      | 福田 和子  | 鏡石町立第一小学校 |

| 職 名                      | 氏 名   | 所 名         |
|--------------------------|-------|-------------|
| 栄養教諭                     | 渡部由布香 | 喜多方市立山都小学校  |
| 主任栄養技師                   | 佐藤千恵子 | 会津美里町立高田小学校 |
| 主任栄養技師                   | 澤村 美和 | いわき市立三和小学校  |
| 主任栄養技師                   | 五十嵐好恵 | 福島県立聴覚支援学校  |
| ウ 福島県教育委員会教育長賞（県産食材活用部門） |       |             |
| 団体名                      |       | 校長・施設長      |
| 西会津町給食センター               |       | 薄 清久        |

## 第3節 学校体育

### 1 学校体育関係各種研修

#### (1) 小・中・高等学校体育担当者連絡協議会

|        |                                          |  |
|--------|------------------------------------------|--|
| 県 北    | 令和6年4月23日（火）<br>とうほう・みんなの文化センター          |  |
| 県 中    | 令和6年5月 9日（木）<br>田村市文化センター                |  |
| 県 南    | 令和6年4月25日（木）<br>矢吹町文化センター                |  |
| 会津・南会津 | 令和6年4月19日（金）<br>下郷町ふれあいセンター              |  |
| 相 双    | 令和6年4月22日（月）<br>万葉ふれあいセンター（鹿島農村環境改善センター） |  |
| いわき    | 令和6年5月 8日（水）<br>いわき合同庁舎 4階大会議室           |  |

#### (2) 体育・保健体育指導力向上研修

|          |                               |        |
|----------|-------------------------------|--------|
| 県中央研修    | 令和6年6月27日（木）<br>あづま総合運動公園     | 36名参加  |
| 地区別研修    |                               |        |
| 県北地区     | 令和6年8月1日（木）<br>桑折町民体育館他       | 75名参加  |
| 県中地区     | 令和6年8月19日（月）<br>小野町町民体育館      | 64名参加  |
| 県南地区     | 令和6年8月2日（金）<br>矢吹町立矢吹中学校      | 60名参加  |
| 会津・南会津地区 | 令和6年8月2日（金）<br>あいづ総合体育館他      | 129名参加 |
| 相双地区     | 令和6年7月31日（水）<br>南相馬市立石神中学校    | 60名参加  |
| いわき地区    | 令和6年7月30日（火）<br>いわき市立好間第一小学校他 | 59名参加  |

## 2 福島県高等学校体育連盟

### (1) 令和6年度福島県高等学校体育連盟役員

|                          |        |                                                |  |                          |  |                     |  |                 |  |
|--------------------------|--------|------------------------------------------------|--|--------------------------|--|---------------------|--|-----------------|--|
| 顧 問<br>(歴代会長)            |        | 折 笠 常 弘(15代)      早 川 俊 一(16代)                 |  |                          |  |                     |  |                 |  |
|                          |        | 杉 原 陸 夫(20代)                                   |  | 高 城 俊 春(21代)             |  | 斎 藤 和 也(22代)        |  | 古 市 孝 雄(23代)    |  |
|                          |        | 富 田 孝 志(24代)                                   |  | 星      本 文(25代)          |  | 新井田    大(26代)       |  | 富 田 昭 夫(27代)    |  |
|                          |        | 本 間      稔(28代)                                |  | 長 岐      博(29代)          |  | 廣 瀬 敬 彦(30代)        |  | 遠藤      均(31代)  |  |
|                          |        | 尾形    幸男(32代)                                  |  |                          |  |                     |  |                 |  |
|                          |        | 木幡    健    (県教育庁健康教育課長)                        |  |                          |  | 穂本 哲哉(県スポーツ協会専務理事)  |  |                 |  |
| 参 与<br>(歴代理事長)           |        | 高 橋 充 雄(9代)                                    |  | 浅 尾 晃 左(11代)             |  | 菅 野 一 治(12代)        |  | 渡 辺 正 昭(13代)    |  |
|                          |        | 赤 沼 健 一(14代)                                   |  | 渡 邊 正 仁(15代)             |  | 穂 本 哲 哉(16代)        |  | 飯 塚      悟(18代) |  |
| 会      長                 |        | 渡 邊      亮 ( 田村高校長 )                           |  |                          |  |                     |  |                 |  |
| 副    会    長<br>(地 区 会 長) |        | 佐々木    理夫 (福島西高校長)                             |  | 小針    幸雄 (光南高校長)         |  | 滝田    勝彦 (猪苗代高校長)   |  |                 |  |
|                          |        | 長南    国彦    (平工業高校長)                           |  | 佐藤    秀美 (相馬高校長)         |  |                     |  |                 |  |
| 理    事    長              |        | 中 村 俊 之 ( 田村高教頭 )                              |  |                          |  |                     |  |                 |  |
| 事 務 局 長                  |        | 齊 藤 祐 介 ( 田      村 )                           |  |                          |  |                     |  |                 |  |
| 常 任 理 事                  |        | 齋 藤    靖 (健康教育課)                               |  | 片 寄    宏美 (県スポーツ協会)      |  | 佐々木    資哲 (安積)      |  |                 |  |
|                          |        | 宗像    孝幸 (田村)                                  |  | 木村    あさ子 (郡山萌世 (通信制 ) ) |  |                     |  |                 |  |
| 常 任 理 事・理 事              | 県    北 | ☆◎花田    巖 (福島西)                                |  | ○岩倉    徹 (福島東)           |  | 斉藤    修 (福島明成)      |  |                 |  |
|                          |        | 鈴木    敦 (伊達)                                   |  | △齋藤    未紀 (福島北)          |  |                     |  |                 |  |
|                          | 県    南 | ☆◎安藤    英貴    (あさか開成)                          |  | ☆○影山    高見 (安積)          |  | ☆熊田    万理絵 (尚志)     |  |                 |  |
|                          |        | ☆遠藤    浩太郎 (修明)                                |  | ☆小針    竜之 (学法石川)         |  | △橋本    優依    (田村)   |  |                 |  |
|                          | 会    津 | ☆◎馬場    正丈    (会津工業)                           |  | ○星    貴司    (若松商業)       |  | 足立    美香    (会津学鳳)  |  |                 |  |
|                          |        | △伊藤    奏愛    (仁愛)                              |  |                          |  |                     |  |                 |  |
|                          | いわき    | ☆◎澤田    匡史    (平工業)                            |  | ○河村    美穂 (平商業)          |  | 糸井    亮平    (いわき総合) |  |                 |  |
|                          |        | △大和田    蓮    (平工業)                             |  |                          |  |                     |  |                 |  |
|                          | 相    双 | ☆◎安達    大晃    (相馬)                             |  | ○安斎    和之 (ふたば未来学園)      |  | 馬場    藍      (相馬)   |  |                 |  |
|                          |        | △三浦    捺希    (相馬)                              |  |                          |  |                     |  |                 |  |
| 監            事           |        | 大内    博美 (石川)      鈴木    繁生 (東日本大附属昌平)         |  |                          |  |                     |  |                 |  |
| 会 長 指 名 理 事              |        | 齋 藤    靖 (健康教育課)    片 寄    宏美 (県スポーツ協会)        |  |                          |  |                     |  |                 |  |
| 幹            事           |        | 渡邊    当 (本宮)    藤井    智之(岩瀬農業)    渋谷    武史(田村) |  |                          |  |                     |  |                 |  |
| (公財)福体協理事                |        | 渡 邊      亮 ( 田村高校長 )                           |  |                          |  |                     |  |                 |  |
| 同 評 議 員                  |        | 齊 藤 祐 介 ( 田      村 )                           |  |                          |  |                     |  |                 |  |
| 東北高体連副会長                 |        | 渡 邊      亮 ( 田村高校長 )                           |  |                          |  |                     |  |                 |  |
| 同 常 任 理 事                |        | 中 村 俊 之 ( 田村高教頭 )                              |  |                          |  |                     |  |                 |  |
| 同    理    事              |        | 齊 藤 祐 介 ( 田      村 )                           |  |                          |  |                     |  |                 |  |

☆常任理事、◎地区理事長、○地区副理事長、△地区生徒理事

(2) 第70回福島県高等学校体育大会日程・会場

| 開催地区 | No. | 種目名        |       | 日程                                  | 会場                                        | 参加人数  |
|------|-----|------------|-------|-------------------------------------|-------------------------------------------|-------|
| 県北   | 1   | 陸上競技       |       | 5月24日(金)～27日(月)                     | とうほう・みんなのスタジアム                            | 1,078 |
|      | 2   | サッカー       | 男子    | 5月25日(土)～27日(月)                     | 十六沼公園サッカー場                                | 603   |
|      | 3   | テニス        |       | 5月31日(金)～6月2日(日)                    | インテックテニスガーデン他                             | 284   |
|      | 4   | 相撲         |       | 6月1日(土)～2日(日)                       | 福島市営相撲場                                   | 17    |
|      | 5   | 剣道         |       | 6月1日(土)～3日(月)                       | トヨタクラウンアリーナ                               | 402   |
|      | 6   | 柔道         |       | 5月28日(火)～30日(木)                     | N C V ふくしまアリーナ                            | 218   |
|      | 7   | 体操         | 体操競技  | 5月25日(土)～26日(日)                     | 県営あづま総合体育館                                | 41    |
|      |     |            | 新体操   | 5月25日(土)～26日(日)                     | 県営あづま総合体育館                                | 13    |
|      | 8   | 登山         |       | 5月29日(水)～6月1日(土)                    | 安達太良連峰                                    | 154   |
|      | 9   | 自転車        | ロード   | 5月21日(火)                            | エビスサーキット西コース                              | 33    |
|      | 10  | ウエイトリフティング |       | 6月1日(土)～2日(日)                       | 福島明成高等学校第一体育館                             | 30    |
|      | 11  | フェンシング     |       | 6月1日(土)～2日(日)                       | 福島商業高等学校第二体育館                             | 20    |
|      | 12  | カヌー        |       | 6月2日(日)                             | 二本松市阿武隈漕艇場                                | 11    |
|      | 13  | ライフル射撃     |       | 6月2日(日)                             | 二本松市総合射撃場                                 | 13    |
| 県南   | 14  | バレーボール     |       | 6月1日(土)～3日(月)                       | 西部体育館(郡山市) 西部第二体育館                        | 1,046 |
|      | 15  | サッカー       | 男子    | 5月25日(土)～27日(月)                     | 学法石川高校フットボール場<br>帝京安積高校 I V Y F I E L D 他 | 603   |
|      | 16  | ハンドボール     |       | 6月1日(土)～3日(月)                       | 石川町総合体育館 学法石川高校体育館                        | 528   |
|      | 17  | ソフトテニス     |       | 6月1日(土)～3日(月)                       | 郡山庭球場                                     | 669   |
|      | 18  | バドミントン     |       | 6月1日(土)～3日(月)                       | 白河市中央体育館 国体祈念体育館                          | 470   |
|      | 19  | 水泳         | 競泳    | 6月21日(金)～23日(日)                     | 郡山しんきん開成山プール                              | 309   |
|      | 20  | 水泳         | 飛込    | 7月3日(水)                             | 郡山カルチャーパーク飛込プール                           | 3     |
|      | 21  | 自転車        | トラック  | 5月18日(土)～19日(日)                     | 泉崎国際サイクルスタジアム                             | 36    |
|      | 22  | ホッケー       |       | 中止                                  | ルネサンス棚倉多目的広場                              | 実施なし  |
|      | 23  | スケート       | スピード  | 12月13日(金)                           | 磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場                        | 3     |
|      |     |            | フィギュア | 12月1日(日)                            | 磐梯熱海アイスアリーナ                               | 1     |
|      | 24  | アーチェリー     |       | 6月1日(土)                             | 貝山多目的運動広場(三春町)                            | 27    |
| 会津   | 25  | サッカー       | 男子    | 5月25日(土)～27日(月)                     | 会津総合運動公園サッカー場                             | 603   |
|      | 26  | ソフトボール     |       | 6月1日(土)～3日(月)                       | 会津総合運動公園 押切川公園スポーツ広場                      | 277   |
|      | 27  | 弓道         |       | 6月1日(土)～3日(月)                       | あいづ総合運動公園弓道場                              | 479   |
|      | 28  | ローイング      |       | 5月25日(土)～26日(日)                     | 福島県営荻野漕艇場                                 | 60    |
|      | 31  | ボクシング      |       | 5月24日(金)～26日(日)                     | 会津工業高校ボクシング場                              | 14    |
|      | 32  | レスリング      |       | 5月25日(土)～26日(日)                     | 南会津高等学校体育館                                | 24    |
|      | 33  | スキー        | アルペン  | 令和7年1月9日(木)<br>～11日(土)              | アルペン：あいづ高原だいくらスキー場                        | 17    |
|      |     |            | クロカン  |                                     | クロカン：檜枝岐村七入クロスカントリー                       | 2     |
|      | 34  | なぎなた       |       | 6月2日(日)                             | 河東総合体育館                                   | 21    |
|      | 35  | 駅伝競走       |       | 10月24日(木)                           | 猪苗代町駅伝コース                                 | 337   |
| いわき  | 36  | バスケットボール   |       | 5月25日(土)～27日(月)                     | いわき総合体育館 いわき市内高校体育館                       | 1,024 |
|      | 37  | ラグビーフットボール |       | 10月20日(日)・26日(土)・<br>11月3日(日)・9日(土) | ハワイアンズスタジアムいわき                            | 174   |
|      | 38  | 卓球         |       | 6月1日(土)～3日(月)                       | いわき総合体育館                                  | 501   |
|      | 39  | 空手道        |       | 5月31日(金)～6月2日(日)                    | 勿来工業高校                                    | 106   |
|      | 40  | ヨット        |       | 6月1日(土)                             | いわき市小名浜港釜の前                               | 3     |
| 相双   | 41  | サッカー       | 男子    | 6月1日(土)～2日(日)                       | Jヴィレッジスタジアム                               | 603   |
|      |     |            | 女子    | 5月31日(金)～6月2日(日)                    | ふたば未来学園高等学校サッカー場                          | 66    |
|      | 42  | 馬術         |       | 5月4日(土)～5日(日)                       | 南相馬市馬事公苑                                  | 35    |

### 3 福島県中学校体育連盟

#### (1) 令和6年度福島県中学校体育連盟役員

| 役職名 | 氏 名   | 所属名           | 地区名 |
|-----|-------|---------------|-----|
| 会長  | 青柳 茂宏 | 信 陵 中         | 県 北 |
| 副会長 | 佐藤 力夫 | 信 夫 中         | 県 北 |
|     | 大竹 学  | 郡 山 七 中       | 県 中 |
|     | 土屋 好二 | 西 郷 一 中       | 県 南 |
|     | 高橋 祐一 | 若 松 四 中       | 会 津 |
|     | 芦野 孝彦 | 内 郷 一 中       | いわき |
|     | 柳沼 敏文 | 広 野 中         | 相 双 |
| 理事長 | 田中 信次 | 福 島 三 中       | 県 北 |
| 理事  | 武藤 利教 | 県教育庁健康教育課指導主事 |     |
|     | 青木 祐輔 | 梁 川 中         | 県 北 |

| 役職名  | 氏 名   | 所属名     | 地区名   |
|------|-------|---------|-------|
| 理事   | 平野 誠一 | 郡 山 一 中 | 県 中   |
|      | 吉田 絢也 | 白 河 二 中 | 県 南   |
|      | 穴澤 正人 | 一 箕 中   | 会 津   |
|      | 大竹 隆幸 | 久 之 浜 中 | いわき   |
|      | 関 康徳  | 小 高 中   | 相 双   |
| 監事   | 佐久間 徹 | 蓬 萊 中   | 県 北   |
|      | 川上 一美 | 棚 倉 中   | 県 南   |
|      | 本多 康夫 | 塩 川 中   | 会 津   |
| 顧問   | 佐藤 信行 | 馬場 廣明   | 前 会 長 |
| 事務局長 | 八巻 裕介 | 福 島 三 中 | 県 北   |

#### (2) 第67回福島県中学校体育大会日程・会場

◎ 総合競技 標準実施日 7月20日(土)～25日(木) △：開始式 ○：競技

| 競技種目     |     | 競 技 会 場                  | 期日：○印は競技日 |        |        | 開催地            |
|----------|-----|--------------------------|-----------|--------|--------|----------------|
|          |     |                          | 22日(月)    | 23日(火) | 24日(水) |                |
| 水泳       | 競 泳 | 郡山しんさん開成山プール             | △○        | ○      | ○      | 郡山市            |
| 競技       | 飛込み | AGCエレクトロニクス郡山カルチャーパークプール | 7月3日(水)   |        |        | 郡山市            |
| 軟式野球     |     | ヨークいわきスタジアム              | △○        | ○      | ○      | いわき市           |
|          |     | 南部スタジアム                  | ○         | ○      |        |                |
|          |     | 平球場                      | ○         |        |        |                |
|          |     | 小名浜球場                    | ○         |        |        |                |
| ソフトボール   |     | 白河市東風の台運動公園              | △         | ○      | ○      | 白河市            |
| バレーボール   |     | まるさん・あったまるアリーナ           | △○        | ○      | ○      | 南相馬市           |
|          |     | 大熊町立学び舎ゆめの森              | ○         | ○      |        | 大熊町            |
| ソフトテニス   |     | 須賀川市牡丹台庭球場               |           | ○      | ○      | 須賀川市           |
|          |     | 福島空港公園テニスコート             | △         | ○      | ○      |                |
| バドミントン   |     | いわき市総合体育館                | △○        | ○      | ○      | いわき市           |
| サッカー     |     | Jヴィレッジ                   | △○        | ○      | ○      | 檜葉町・広野町<br>富岡町 |
|          |     | 富岡町総合スポーツセンター            | ○         |        |        |                |
| ハンドボール   |     | 石川町総合体育館                 | △○        | ○      | ○      | 石川町            |
| 柔 道      |     | いわき南部アリーナ                | △○        | △      | ○      | いわき市           |
| 卓 球      |     | 円谷幸吉メモリアルアリーナ            | △○        | ○      | ○      | 須賀川市           |
| 剣 道      |     | 福島トヨタクラウンアリーナ            |           | △○     | ○      | 福島市            |
| 相 撲      |     | あいづ相撲場                   |           | △○     | ○      | 会津若松市          |
|          |     |                          | 1日(月)     | 2日(火)  | 3日(水)  | (7月)           |
| 陸上競技     |     | とうほう・みんなのスタジアム           | △○        | ○      | ○      | 福島市            |
|          |     |                          | 20日(土)    |        | 21日(日) | (7月)           |
| 新体操      |     | 福島トヨタクラウンアリーナ            | △○        |        | ○      | 福島市            |
| 体操競技     |     | あづま総合体育館                 | △         |        | ○      | 福島市            |
|          |     |                          | 23日(火)    | 24日(水) | 25日(木) | (7月)           |
| バスケットボール |     | あづま総合体育館                 | △○        | ○      | ○      | 福島市            |
|          |     | NCV ふくしまアリーナ             | ○         |        |        |                |

◎ 駅伝競走・スケート・スキー競技

| 競技種目 | 競 技 会 場            |                         | 開催地  |
|------|--------------------|-------------------------|------|
| 駅伝競走 | いわき市21世紀の森公園内      | 10月8日(火) △<br>9日(水) ○   | いわき市 |
| スケート | 磐梯熱海スポーツパーク郡山スケート場 | 12月13日(金) (高校と同日開催)     | 郡山市  |
| スキー  | 猪苗代スキー場            | 令和7年1月14日(火)<br>～16日(木) | 猪苗代町 |
|      | 猪苗代町クロスカントリースキーコース |                         |      |

## 第4節 学校保健・学校安全

### 1 学校保健・学校安全研修会等

#### (1) 学校保健

##### 健康教育推進者研修会

- ア 相 双 地 区 令和6年7月29日(月)  
会 場 鹿島農村環境改善センター  
参 加 者 68名
- イ 県 北 地 区 令和6年7月31日(水)  
会 場 伊達市ふるさと会館  
参 加 者 153名
- ウ いわき地区 令和6年8月20日(火)  
会 場 いわき市文化センター  
参 加 者 122名

#### (2) 学校安全

##### 学校安全指導者養成研修会

- ア 相 双 地 区 令和6年10月3日(木)  
会 場 万葉ふれあいセンター  
参 加 者 61名
- イ 県 北 地 区 令和6年10月8日(火)  
会 場 観月台文化センター  
参 加 者 152名
- ウ 県 南 地 区 令和6年10月10日(木)  
会 場 西郷村文化センター  
参 加 者 59名

### 2 児童・生徒の健康管理費補助

#### (1) 要保護児童生徒援助費補助金(医療費)

学校安全保健法第25条の規定に基づく補助金の交付状況は次のとおりである。

ア 県立学校

| 対象児童生徒数(人) |        | 設置者が援助<br>した額(円) | 補 助 金<br>確 定 額(円) |
|------------|--------|------------------|-------------------|
| 区 分        | 特別支援学校 |                  |                   |
| 要保護        | 0      | 0                | 0                 |

イ 市町村立学校

| 対象児童生徒数(人) |     |     |        | 設置者が援助<br>した額(円) | 補助金<br>確定額(円) |
|------------|-----|-----|--------|------------------|---------------|
| 区 分        | 小学校 | 中学校 | 特別支援学校 |                  |               |
| 要保護        | 31  | 7   | 0      | 1,189,384        | 496,630       |

### 3 福島県学校保健会

#### (1) 会員

- ア 県内小・中学校及び高等学校の児童生徒  
イ 学校医、学校歯科医、学校薬剤師及び学校保健関係者

#### (2) 財政

令和6年度予算額 7,250,398円

#### (3) 事業概要

- ア 学校保健講習会の開催(県内20支部単位)  
イ 健康づくり推進学校表彰・学校保健功労者表彰・学校  
安全ボランティア奨励賞・感謝状贈呈

ウ 各種研究大会、講習会等への派遣

エ 刊行物の発行

学校保健会報 第55号

### 4 独立行政法人日本スポーツ振興センター

#### (1) 災害共済給付契約加入状況

県立学校の令和6年度の加入幼児児童生徒数は35,190人で、前年度に比べ427人減少した。

#### (2) 災害共済給付状況

県立学校において、令和6年度「学校管理下」で発生した児童生徒等の災害は、給付件数では3,240件(令和5年度3,344件)、給付金額では30,193,278円(令和5年度29,867,398円)である。

給付件数では104件減少、給付金額で325,880円増加した。

#### (3) 学校安全支援業務

各種研修会等への講師派遣

(4) 令和6年度県立学校災害共済給付状況

| 区 分     | 医 療 費                   |            | 障害見舞金      |            | 死亡見舞金      |            | 供 花 料      |            | 合 計              |            |
|---------|-------------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------------|------------|
|         | (発生件数)<br>給付件数          | 給 付 額      | 給付<br>件数   | 給 付 額      | 給付<br>件数   | 給 付 額      | 給付<br>件数   | 給 付 額      | (発生件数)<br>給付件数   | 給 付 額      |
| 幼 稚 園   | 件<br>(0)<br>0           | 円<br><br>0 | 件<br><br>0 | 円<br><br>0 | 件<br><br>0 | 円<br><br>0 | 件<br><br>0 | 円<br><br>0 | (0)<br>0         | 円<br><br>0 |
| 小 学 校   | (4)<br>11               | 66,486     | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | (4)<br>11        | 66,486     |
| 中 学 校   | (30)<br>60              | 383,121    | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | (30)<br>60       | 383,121    |
| 高 等 学 校 | 全日制<br>(1,156)<br>3,147 | 23,176,191 | 1          | 6,350,000  | 0          | 0          | 0          | 0          | (1,156)<br>3,148 | 29,526,191 |
|         | 定時制<br>(9)<br>21        | 217,480    | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | (9)<br>21        | 217,480    |
|         | 通信制<br>(0)<br>0         | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | 0          | (0)<br>0         | 0          |
| 合 計     | (1,199)<br>3,239        | 23,843,278 | 1          | 6,350,000  | 0          | 0          | 0          | 0          | (1,199)<br>3,240 | 30,193,278 |

第5節 学校給食

1 学校給食用パン品質調査

学校給食用パン品質を良化して、学校給食の食事内容の充実向上に役立たせるため実施した。

| 教 育 事 務 所 | 調 査 件 数 |
|-----------|---------|
| 県 北       | 4 件     |
| 県 中       | 16 件    |
| 県 南       | 5 件     |
| 会 津       | 3 件     |
| 南 会 津     | 0 件     |
| 相 双       | 2 件     |
| い わ き     | 5 件     |
| 県 立 学 校   | 1 件     |
| 合 計       | 36 件    |

2 食育等に関する研修会等

(1) 食習慣・肥満等の健康課題に対応する食育指導者研修会  
及び福島県学校給食担当者会議

- 日 時 令和6年5月23日（木）
- 場 所 田村市文化センター
- 参加者 130名

3 学校給食関係の国庫助成実績

平成23年4月1日付け23文科施第3号文部科学大臣裁定「学校施設環境改善交付金要綱」に基づく交付金の状況は、次のとおりである。

令和6年度「学校施設環境改善交付金」（学校給食施設）

| 設置者<br>名 | 交付額<br>(千円) | 学校または共同調理場名           | 事業名        | 児童生徒数<br>(人) | 構造<br>(区分)    | 対象面積<br>(㎡) |
|----------|-------------|-----------------------|------------|--------------|---------------|-------------|
| 福島県      | 0 (R7へ全額繰越) | 安達地区特別支援学校(小中) (Ⅱ期工事) | 単独調理場(新增築) | 75(定員)       | 鉄筋コンクリート造(RC) | 94          |
| 広野<br>町  | 18,776      | 広野町学校給食共同調理場          | 共同調理場(新增築) | 284          | 鉄骨造(S)        | 52          |
|          | 31,114      |                       | 共同調理場(改築)  |              |               | 232         |

(2) ふくしまっ子の健康課題に対応する食環境を考える会

- 県 中 令和6年8月1日（木）  
田村市文化センター 169名参加
- 県 南 令和6年8月7日（水）  
矢吹町複合施設 KOKOTTO 77名参加
- 会津・南会津  
令和6年8月28日（水）～9月30日（月）  
悪天候のためオンデマンド配信 142名参加

(3) ふくしまっ子栄養教室食育研修会

- 日 時 令和6年5月23日（木）
- 会 場 田村市文化センター
- 参加者 64名

(4) 栄養教諭食育推進研修会

- 県北 令和6年11月8日（金）  
福島市立杉妻小学校 15名参加
- 相双 令和6年12月3日（火）  
南相馬立原町第一小学校 13名参加
- いわき 令和6年12月11日（水）  
いわき市立小名浜第一小学校 6名参加

## 第9章 社会教育

### 第1節 概要

#### 1 社会教育一般

県社会教育委員の会議では、本県における社会教育推進や地域の教育力向上を目指した施策の成果及び課題を整理するとともに、様々な課題が多様化、複雑化、専門化した現代において「人づくり」「地域づくり」に取り組む社会教育の役割の重要性を鑑み、震災後14年を迎える今、数々の現代的課題を乗り越える社会教育の在り方について考え、議論した。このことを社会教育委員の立場から、進捗状況を検証してきた。（第2章 第7節に記載）

#### 2 地域コミュニティの再生

震災からの復興のために、地域コミュニティを再生していくことが重要である。そのために、地域の実情に即して、学校・家庭・地域住民の連携・協力を進めるとともに、それぞれが主体的かつ確実にその役割を果たしながら、互いの役割分担を明確に認識し、対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す「地域学校協働本部事業」を実施した。地域住民による学校支援を「学校を核とした地域づくり」に深化させていくために、地域には地域コーディネーターを、学校には地域との連携の窓口となる地域連携担当教職員を置き、地域と学校が双方向で連携・協働する活動の充実を図った。特に、震災後の子どもたちを取り巻く環境の変化に対応するための支援を行い、教育環境の復興に努めた。

また、災害記録の保存と県民への情報提供に活用する資料の収集を行い、移動図書館や協力車の巡回を実施して読書普及を通じた支援を行った。

#### 3 家庭教育

家庭教育は、子どもが基本的な生活習慣、生活能力、豊かな情操、他人に対する思いやりや善悪の判断などの基本的倫理観、自立心や自制心、社会的なマナーを身につける上で重要な役割を担っている。しかしながら、少子高齢化、高度情報化等、社会環境が激しく変化する現在、子育てに関する課題等も多様化している。そこで、PTAや企業との連携や支援の届かない家庭へのアウトリーチ型支援等、地域ぐるみで子どもたちを育む仕組みの構築に努め、「地域でつながる家庭教育応援事業」等を実施した。

#### 4 青少年教育

青少年の豊かな人間性や社会性を育むためには、異年齢の子ども同士や地域の大人等の関わりのもと、自然体験、ボランティア活動、職業体験、交流体験、スポーツ・文化活動等の様々な体験の機会の充実や社会環境づくりが促進されることが必要である。そのため、「福島県地域学校協働本部」を設置し、学校・家庭・地域の連携・協力の充実を図りながら、

地域ぐるみで青少年を育成する環境づくりを推進した。また、子どもと大人が、共通の体験をとおして感動したことや共感したこと、震災からさらなる復興を願った「ふくしま」への想いや震災の記憶の継承などを日本古来の五・七・五の十七音で表現した作品を募集、表彰、広報する、ふくしま絆ふれあい支援事業「ふくしまを十七字で奏でよう」を実施した。

#### 5 成人教育

地域における大人の持つ知識や技能、公民館等において学習した成果などを、地域社会に還元する活動の重要性が高まっていることから、地域の教育力の向上への取組と関連させながら、成人の学習活動の充実や社会参加活動の促進に努めた。

#### 6 子どもの読書活動推進

第四次「福島県子ども読書活動推進計画」に基づき、関係機関と連携して、地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等もできる人材の養成に努めるとともに、福島県子ども読書活動推進会議を開催し、読書活動推進に向けた協議を行った。また、読書の楽しさや自ら進んで読書に親しむきっかけとする中高生によるビブリオバトル福島県大会を開催した。

さらに、これまでの成果と課題を踏まえ、第五次「福島県子ども読書活動推進計画」を策定した。

#### 7 ユネスコ活動

ユネスコ憲章の精神に基づく教育・科学・文化活動についての理解を県民一般に広めるよう努めた。

#### 8 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

##### (1) 事業1 ふくしまキッズパワーアップ事業

自然体験活動に加え福島ならではの多様な体験活動等とおして、心身の健康の維持向上を図るとともに、社会に貢献する意識を高め、主体的にふくしまの未来を切り拓く、たくましい子どもたちを育成するために「ふくしまキッズパワーアップ事業」を実施した。充実した自然体験活動や震災を学ぶ体験活動等への取組を支援し、心身ともに健康な子どもの育成を図る団体に対し、補助金を交付した。

##### (2) 事業2 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

子どもたちが主体的に復興の発信や震災の教訓の継承等に寄与する社会体験活動を県内外で広く体験することで、子どもたちの「志」を育み、復興・地域創生の担い手を育成するため、「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業を実施し、市町村や青少年育成団体等が実施する事業に対し、補助金を交付した。

##### (3) 事業3 心のケアが必要な子ども（不登校等）を対象とした自然体験事業

不登校等で不安を抱えている子どもたちを支援するために、自然の家を活用した自然体験活動や交流活動等を継続的に提供した。

## 第2節 社会教育一般

### 1 社会教育推進体制の充実

#### (1) 社会教育行政の推進

社会教育担当者会議

第1回 日 時 令和6年4月5日(金)

場 所 県庁西庁舎 西313会議室

第2回 日 時 令和7年2月14日(金)

場 所 県庁西庁舎 西313会議室

#### (2) 社会教育主事の設置

社会教育活動の充実を図るため、自然の家へ社会教育主事の配置を求めるなど設置促進に努めた。

#### (3) 社会教育関係職員の研修

ア 市町村の社会教育主事や公民館職員、図書館職員、社会教育指導員などの社会教育関係職員を対象とした研修機会の充実を図り、その資質向上に努めた。

イ 国立教育政策研究所等で実施する専門的な研修講座への計画的な派遣に努めた。

#### (4) 各種社会教育関係団体等との連携

地域の教育力向上を図る観点から、各種社会教育関係団体等の果たす役割や学校・家庭・地域住民の連携を促進するための活動が重要であるため、各種社会教育関係団体等との連携に努めた。

### 2 社会教育施設の整備充実

#### (1) 県立社会教育施設の整備充実

ア 県立図書館の整備充実

県民への図書館サービスの向上を図るため、図書館資料や設備・備品等の整備充実に努めるとともに、「県立図書館情報ネットワークシステム」を活用して公立図書館や公民館図書室、学校図書館等との連携の強化に努めた。

イ 福島県自然の家の整備充実

自然の中での集団宿泊体験を通して青少年の健全育成を図る場や機会を拡充するため、自然の家の整備充実に努めた。

#### (2) 市町村立社会教育施設の整備促進

公民館の整備促進

地域住民のための学習の拠点となる社会教育施設として、多様化した学習ニーズに的確に対応し、充実した公民館活動が行われるよう、市町村に対し、長期的な展望に立った施設・設備の在り方について助言した。

### 3 社会教育関係職員の研修

#### (1) 公民館職員研修会

ア 期日 令和6年5月29日(水)、6月5日(水)

イ 会場 オンライン研修、参集研修(男女共生センター)

ウ 参加対象 市町村公民館職員でおおむね3年未満の者

及び社会教育関係者

エ 参加者数 29日83名、5日85名

オ 講師

網走市オホーツク・文化交流センター館長 湯浅 崇

君津市教育委員会生涯学習文化課副課長 布施 利之

一般社団法人とちぎ市民協働研究会理事 土戸 英理佳

#### (2) 福島県市町村社会教育担当者研修会

ア 期日 令和6年8月1日(木)、2日(金)

イ 会場 オンライン研修、参集研修(男女共生センター)

ウ 参加対象 市町村教育委員会生涯学習・社会教育担当者、社会教育主事、公民館主事、社会教育委員、社会教育指導員、公民館運営審議会委員、ボランティア実践者、地域コーディネーター等の社会教育に関心のある県民、過去に社会教育主事講習を受講した方等

エ 参加者数 1日31名、2日23名

オ 講師

弘前圏域移住交流デザイナー

野口 拓郎

和歌山大学名誉教授

村田 和子

宇都宮大学地域デザイン科学部教授

石井 大一郎

### 4 社会教育研究集会

#### (1) 主催 福島県市町村社会教育委員連絡協議会

一般社団法人全国社会教育委員連合

#### (2) 期日 令和6年9月27日(金)

#### (3) 開催地 須賀川市 須賀川市民交流センターtetteほか

#### (4) 内容 令和6年度福島県社会教育研究集会

ア 表彰式

イ 基調講演

講師 福島大学人間発達文化学類特任教授 天野 和彦

ウ 分科会(4分科会)

### 5 社会教育指導員の設置

#### (1) 設置数 (単位:人)

|          | 県<br>北 | 県<br>中 | 県<br>南 | 会<br>津 | 南<br>会<br>津 | 相<br>双 | い<br>わ<br>き | 計   |
|----------|--------|--------|--------|--------|-------------|--------|-------------|-----|
| 社会教育指導員数 | 36     | 9      | 12     | 57     | 8           | 12     | 6           | 140 |

#### (2) 福島県市町村社会教育指導員研修会(年2回)

ア 第1回

(ア) 期日 令和6年5月16日(木)

(イ) 会場 郡山市立中央公民館

(ウ) 参加者数 88名

イ 第2回

(ア) 期日 令和6年9月27日(金)

(イ) 会場 サンライフ南相馬

(ウ) 参加者数 87名

### 6 社会教育主事の市町村派遣

※ 平成22年度より派遣していない。

## 7 社会教育研修会

### (1) 内容

社会教育推進上の諸問題についての協議等を通してその方策を明らかにし、市町村における社会教育の振興・充実に資する。

市町村職員及び社会教育委員等を対象として希望市町村の計画に基づき実施する。

### (2) 対象

公民館職員、公民館運営審議会委員、社会教育委員、社会教育関係者

### (3) 期日・会場

| 域 内 | 期 日    | 実施市町村等 | 参加者  |
|-----|--------|--------|------|
| 県 北 | 10月1日  | 大玉村    | 34名  |
|     | 10月29日 | 国見町    | 8名   |
| 県 中 | 10月23日 | 古殿町    | 4名   |
| 県 南 | 5月27日  | 中島村    | 13名  |
|     | 6月18日  | 泉崎村    | 16名  |
|     | 7月8日   | 矢吹町    | 12名  |
| 会 津 | 7月9日   | 金山町    | 5名   |
|     | 7月18日  | 柳津町    | 7名   |
|     | 1月22日  | 猪苗代町   | 9名   |
| 南会津 | 10月23日 | 下郷町    | 14名  |
| 相 双 | 8月7日   | 広野町    | 7名   |
|     | 11月26日 | 大熊町    | 11名  |
|     | 11月29日 | 飯館村    | 30名  |
| いわき | 5月22日  | いわき市   | 129名 |
|     | 5月28日  | いわき市   |      |
|     | 5月29日  | いわき市   |      |
|     | 1月28日  | いわき市   | 91名  |

合計 17か所 参加者 390名

## 8 福島県公民館研究集会

(1) 期 日 令和6年10月9日(水)

(2) 参加対象 公民館職員等

(3) 会 場 郡山市立中央公民館

## 9 社会教育職員研修派遣

### (1) 東北大学社会教育主事講習

ア 主催 東北大学教育学部

イ 期日 令和6年6月14日(金)～8月6日(火)

ウ 受講者数 13名

### (2) 国立教育政策研究所主催講習

ア 社会教育主事講習

(ア) 会場 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

(イ) 期日

a A講習 令和6年7月12日(金)～8月29日(木)

b B講習 令和7年1月14日(火)～2月20日(木)

(ウ) 受講者数

a A講習 0名

b B講習 4名

イ 専門講座等

| 講 座 名     | 期 間            | 受講者数 |
|-----------|----------------|------|
| 公民館職員専門講座 | 10月3日(木)～8日(火) | 1    |

## 10 出版資料

| 資 料 名       | 部 門  | 規格 | 頁数 | 広報手段   |
|-------------|------|----|----|--------|
| 社会教育 No.345 | 社会教育 | A4 | 14 | We b掲載 |

## 第3節 地域コミュニティの再生

### 1 地域学校協働本部事業

#### (1) 目的

未来を担う子どもたちを健やかに育むために、学校と地域が相互に連携・協力を進めるとともに、互いの役割を明確に認識し対等な協働関係を築くことにより、社会総がかりでの教育の実現を目指す。

#### (2) 県事業

ア 評価・検証委員会の設置

第1回 令和6年7月26日(金)

第2回 令和6年11月29日(金)

第3回 令和7年2月28日(金)

イ 推進委員会の開催

第1回 令和6年7月10日(水)

第2回 令和6年10月2日(水)

ウ 地域学校協働活動事業推進フォーラムの実施

(ア) 期日：令和7年2月4日(火)

(イ) 会場：ビッグパレットふくしま

(ウ) 参加者数：137名

(エ) 内容

a 実践発表

南会津町放課後子ども教室コーディネーター 中山 美華

檜葉町地域学校協働センター長 猿渡 智衛

b 情報提供

日本漢字能力検定協会自治体担当リーダー 三原 和敏

c 情報交換会

(a) ファシリテーター

郡山ふれあい科学館 特定事業専門員 吉川 和夫

(b) 登壇者

檜葉町地域学校協働センター長 猿渡 智衛

南会津町放課後子ども教室コーディネーター 中山 美華

エ 地域学校協働研修会の実施 参加者計 239名

【県北】令和6年6月7日(金) 47名

【県中】令和6年8月1日(木) 28名

【県南】令和6年5月10日(金) 35名

【会津】令和6年8月5日(月) 36名

【南会津】令和6年10月22日(火) 57名

【相双】令和6年11月22日(金) 36名

(3) 市町村等事業

41 の市町村（川俣町、国見町、二本松市、大玉村、本宮市、須賀川市、鏡石町、天栄村、石川町、田村市、三春町、小野町、白河市、西郷村、矢吹町、棚倉町、埴町、矢祭町、鮫川村、会津若松市、猪苗代町、喜多方市、西会津町、会津坂下町、湯川村、柳津町、会津美里町、三島町、金山町、南会津町、下郷町、只見町、相馬市、南相馬市、浪江町、葛尾村、双葉町、富岡町、川内村、楡葉町、広野町）と 1 NPO に 58 の地域学校協働本部が設置され実施した。

2 東日本大震災福島県復興ライブラリー整備事業

(1) 目的

災害記録の保存と県民への情報提供のため、関連資料の収集を行う。資料は館内での提供と貸出に加え、出張展示にも活用する。また、避難自治体の教育委員会と連携し学校等への移動図書館（あづま号）の巡回を実施し、資料の貸出による支援を行う。

(2) 内容

- ア 震災及び原発事故関連資料収集  
資料収集体数 16,058 件（累計）
- イ 被災地図書館支援事業  
移動図書館（あづま号）による資料貸出  
稼働 19 回 貸出 4,673 冊  
（実施場所 楡葉町、大熊町ほか 計 32 か所）

第 4 節 家庭教育

地域でつながる家庭教育応援事業

1 目的

本県の家庭教育推進上の大きな課題である「親の学び」を支援するために、PTA、企業と連携し、親自身が学ぶ機会の充実を図る。また、各地域で活躍する家庭教育支援者の養成・育成をする研修会を実施するとともに、子育てに不安や悩みを抱える家庭に対し個別かつ継続的に支援を行う「家庭教育支援チーム」の登録・研修を行い、地域や関係機関と連携した家庭教育の支援体制の構築を図る。

2 家庭教育応援プロジェクト

(1) 福島県地域家庭教育推進協議会

- 第 1 回 令和 6 年 7 月 22 日（月）
- 第 2 回 令和 7 年 2 月 12 日（水）

(2) 地域家庭教育推進各地区ブロック会議

各教育事務所域内（7 地区）

(3) 親子の学び応援講座

【県北地区】

- ・川俣町 P T A 連絡協議会 235 名  
令和 6 年 11 月 14 日（木）

【県中地区】

- ・天栄村立天栄中学校 P T A 175 名  
令和 6 年 12 月 11 日（水）

【県南地区】

- ・泉崎村立泉崎第二小学校 P T A 108 名  
令和 6 年 9 月 11 日（水）

【会津地区】

- ・新鶴こども園保護者会 69 名  
令和 6 年 7 月 4 日（木）
- ・喜多方市立山都小中連合 P T A 75 名  
令和 6 年 7 月 17 日（水）

【南会津地区】

- ・只見町立只見中学校 P T A 120 名  
令和 6 年 7 月 12 日（金）
- ・南会津町立南郷小学校 P T A 67 名  
令和 6 年 11 月 22 日（金）

【相双地区】

- ・相馬市立学校 P T A 連絡協議会 43 名  
令和 6 年 11 月 30 日（土）

【いわき地区】

- ・いわき市立豊間小学校 P T A 178 名  
令和 6 年 6 月 24 日（月）
- ・いわき市立中央台南中学校 P T A 332 名  
令和 6 年 11 月 22 日（金）
- ・いわき市立赤井小学校 P T A 151 名  
令和 6 年 12 月 3 日（火）

(4) 家庭教育応援企業推進活動

連携企業数

| （単位：社） | 前年度累計 | 新規 | 取り下げ | 今年度累計 |
|--------|-------|----|------|-------|
| 県北地区   | 196   | 2  | 1    | 197   |
| 県中地区   | 255   | 6  | 1    | 260   |
| 県南地区   | 73    | 0  |      | 73    |
| 会津地区   | 159   | 2  |      | 161   |
| 南会津地区  | 66    | 0  |      | 66    |
| 相双地区   | 10    | 2  |      | 12    |
| いわき地区  | 317   | 0  |      | 317   |
| 計      | 1,076 | 12 | 2    | 1,086 |

3 家庭教育応援リーダー育成事業

(1) 家庭教育支援チームスキルアップ研修会

- 第 1 回 令和 6 年 12 月 18 日（水） 42 名

(2) 家庭教育支援者地区別研修

7 地区 247 名

- 【県北】 令和 6 年 11 月 28 日（木） 44 名
- 【県中】 令和 6 年 11 月 30 日（土） 32 名
- 【県南】 令和 6 年 7 月 10 日（水） 23 名
- 【会津】 令和 6 年 7 月 31 日（水） 32 名
- 【南会津】 令和 6 年 8 月 3 日（土） 59 名

|                    |     |
|--------------------|-----|
| 【相双】令和6年11月8日(金)   | 23名 |
| 【いわき】令和6年10月25日(金) | 34名 |

## 第5節 青少年教育

### 1 福島県地域学校協働本部

#### (1) 目的

青少年及びその保護者の教育活動等を支援するボランティア制度を整備し、学校・家庭・地域における体験活動やボランティア活動の充実を図るとともに、学校と地域が連携したすべての教育活動を一層効果的・効率的に展開することにより、青少年の社会性や思いやりの心など豊かな人間性を育むことを目的とする。

#### (2) 内容

##### ア 県本部の設置

##### (ア) 構成

- ・本部長（政策監）
- ・副本部長（教育総務課長）
- ・事務局長（社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

##### (イ) 内容

- ・「学習支援等ボランティア人材バンク」の管理と学習支援等ボランティア等(以下「ボランティア」という。)の登録促進に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・実践事例などの情報収集や情報提供、実施状況調査に関する事
- ・地域本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事

##### イ 地域本部の設置

##### (ア) 構成

- ・本部長（教育事務所長）
- ・副本部長（次長兼総務社会教育課長）
- ・コーディネーター（社会教育主事、指導主事）

##### (イ) 内容

- ・公民館及び学校の訪問指導に関する事
- ・ボランティア人材の発掘と「学習支援等ボランティア人材バンク」の活用に関する事
- ・ボランティアの活動を推進する研修に関する事
- ・市町村本部との連絡調整、相談やコーディネートに関する事
- ・各学校（地域学校協働推進委員会等）との連絡調整に関する事
- ・地方振興局（復興支援・地域連携室を含む）との連絡調整に関する事

##### ウ 市町村本部の設置

##### (ア) 構成

- ・各市町村内においては、自主的に地域学校協働本部・市町村本部を設置する。
- ・各市町村本部の人数は各本部の計画による。

##### (イ) 内容

- ・ボランティア活動を推進するための、情報提供・相談及びコーディネートに関する事
- ・各種ボランティアの登録や活用の推進及び活用状況の把握に関する事
- ・域内各学校との連携に関する事

##### エ 「地域学校協働推進委員会」の設置

##### (ア) 構成

- ・各学校内に地域学校協働推進委員会を設置する。
- ・地域学校協働推進委員会の組織は各学校の計画による。

##### (イ) 内容

- ・学校と地域が連携した取組の調整に関する事
- ・学校と地域が連携した取組の連絡や情報収集に関する事
- ・学校と地域が連携した取組の充実に関する事
- ・福島県地域学校協働本部事業における地域学校協働推進委員会に関する事

##### オ 「学習支援ボランティア人材バンク」の管理

学校や地域における青少年の学習活動や体験活動、児童生徒が行うボランティア活動を支援する団体及び人材の登録を行う。

## 2 ふくしま絆ふれあい支援事業

#### (1) 目的

「ふくしまを十七字で奏でよう」においては、日常生活や自然・社会体験活動などの共通体験を通して感じた思いや願い、震災を乗り越えてきた体験や、ふくしまへの想いなどについて、子どもと大人あるいは子ども同士のペアで、十七音で綴った作品を県内外から募集し、広く発信することで、子どもの豊かな心を育成するとともに、人と人との絆を深め、家庭や地域の教育力の向上を目指す。

語り部から聞く震災「ふるさととの今と未来」においては、震災当時のことを語り部から伝え聞き、震災の記憶を継承する。また、参加した児童生徒は「ふくしまを十七字で奏でよう」での作品創作を通して、豊かな心を醸成する。

#### (2) ふくしまを十七字で奏でよう

|           |                                                               |
|-----------|---------------------------------------------------------------|
| ア 応募期間    | 令和6年6月10日(月)～9月6日(金)                                          |
| イ 応募総数    | 38,069組                                                       |
| ウ 第一次審査   | 令和6年9月13日(金)～27日(金)                                           |
| エ 第二次審査   | 令和6年10月21日(月)あづま荘                                             |
| オ 最終審査    | 令和6年11月8日(金)福島県庁西庁舎                                           |
| カ 表彰式     | 令和6年12月7日(土)<br>公立学校共済組合飯坂保養所「あづま荘」                           |
| キ 入賞数     | 絆部門・ふるさと部門<br>最優秀賞各5組、優秀賞各5組、<br>佳作各10組                       |
| ク 広報・普及活動 | 募集・応募<br>県内各保育所、認定こども園、幼稚園、小・中学校、<br>高等学校、義務教育学校、特別支援学校、社会教育施 |

設、教育事務所等にチラシ・応募用紙を配布した。また、社会教育課のホームページ、社会教育課noteに掲載した。

・ 事後の広報

優秀作品を社会教育課のホームページに掲載したほか、作品集の作成、全応募者、後援団体等への作品集配布や社会教育課note、YouTube、X、Instagram、県庁パネル展示等により紹介した。各教育事務所においては、域内の作品集を作成し、事業の普及に努めた。

### (3) 語り部から聞く震災「ふるさとの今と未来」

希望する学校に講師（語り部）を派遣し実施

|                        |      |      |
|------------------------|------|------|
|                        | 8校   | 755名 |
| ・ 白河市立白河第二小学校 5年生      | 104名 |      |
| 令和6年6月21日(金)           |      |      |
| ・ 喜多方市立松山小学校 6年生       | 23名  |      |
| 令和6年6月27日(木)           |      |      |
| ・ 南会津町立田島第二小学校 5・6年生   | 55名  |      |
| 令和6年6月28日(金)           |      |      |
| ・ 二本松市立二本松北小学校 1～6年生   | 335名 |      |
| 令和6年6月28日(金)           |      |      |
| ・ 福島県立会津支援学校竹田校中学部 3年生 | 4名   |      |
| 令和6年7月4日(木)            |      |      |
| ・ 玉川村立須釜小学校 4年生        | 20名  |      |
| 令和6年7月10日(水)           |      |      |
| ・ 白河市立白河第二中学校 1年生      | 175名 |      |
| 令和6年7月12日(金)           |      |      |
| ・ 下郷町立檜原小学校 4～6年生      | 39名  |      |
| 令和6年7月16日(火)           |      |      |

## 第6節 成人教育

主に各関係団体の諸活動や研修会における指導助言や人的補助を行う。

## 第7節 子どもの読書活動推進

### 1 ふくしまの未来をひらく読書の力 プロジェクト

#### (1) 目的

学校や図書館等で活躍できる読書ボランティア等の人材育成や資質向上を図るとともに、学校・家庭・地域が連携して子どもの読書活動を推進し、子どもたちの豊かな心や生きる力の育成を図る。また、乳幼児期から思春期に至る切れ目のない読書活動の推進により、生涯にわたる望ましい読書習慣の形成を目指す。

#### (2) 読書活動推進事業

福島県子ども読書活動推進会議  
第1回 令和6年6月27日(木)  
第2回 令和7年2月6日(木)

#### (3) 読書活動支援者育成事業

|                   |     |      |
|-------------------|-----|------|
| 読書活動支援者育成事業地区別研修  | 7地区 | 290名 |
| 【県北】令和6年7月7日(日)   | 54名 |      |
| 【県中】令和6年6月18日(火)  | 47名 |      |
| 【県南】令和6年10月17日(木) | 16名 |      |
| 【会津】令和6年7月22日(月)  | 50名 |      |
| 【南会津】令和6年8月22日(木) | 24名 |      |
| 【相双】令和6年7月25日(木)  | 20名 |      |
| 【いわき】令和6年6月10日(月) | 48名 |      |
| 令和6年11月30日(土)     | 31名 |      |

### (4) 情報発信プロジェクト「ビブリオバトル福島県大会」

ア 地区予選会

発表者 中学生 38名 高校生 36名 観戦者 757名

【県北】令和6年9月1日(日)

発表者 中学生 6名 高校生 5名 観戦者 107名

【県中】令和6年8月31日(土)

発表者 中学生 7名 高校生 10名 観戦者 133名

【県南】令和6年8月31日(土)

発表者 中学生 6名 高校生 2名 観戦者 120名

【会津】令和6年8月31日(土)

発表者 中学生 5名 高校生 5名 観戦者 107名

【南会津】令和6年9月28日(土)

発表者 中学生 5名 高校生 4名 観戦者 108名

【相双】令和6年9月7日(土)

発表者 中学生 4名 高校生 3名 観戦者 63名

【いわき】令和6年9月28日(土)

発表者 中学生 5名 高校生 7名 観戦者 119名

イ 県大会

期日 令和6年10月12日(土)

場所 福島県立図書館（福島市）

参加者 発表者 14名（中学生 7名、高校生 7名）

観戦者 161名

【中学生の部】

チャンプ本 「アリアドネの声」

西会津町立西会津中学校 山口 紗弥

準チャンプ本 「私はチクワに殺されます」

南会津町立田島中学校 細井 みず保

【高校生の部】

チャンプ本 「あと十五秒で死ぬ」

福島県立葵高等学校 細井 淳一朗

準チャンプ本 「恋とそれとあと全部」

福島県立福島東高等学校 長澤 真志

## 2 第五次 福島県こども読書活動推進計画作成事業

### (1) 目的

子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（令和5年3月）及びこれまでの取組や成果と課題を踏まえ、福島県における子どもの読書活動の推進に関する施策の方向性や具体的な取組を示し、子どもたちの豊かな心や生きる力の育成を図る。

## (2) 子ども読書活動推進計画作成事業

第五次「福島県子ども読書活動推進計画」作成委員会会議

第1回 令和6年6月27日(木)

第2回 令和6年9月12日(木)

第3回 令和6年11月14日(木)

第4回 令和7年2月6日(木)

令和7年3月 第五次計画策定

## 第8節 ユネスコ活動

### 1 ユネスコ協会事務局一覧

| 協会名          | 会長名     | 事務局                             | 事務局長  | 設立年月日       |
|--------------|---------|---------------------------------|-------|-------------|
| 須賀川地方ユネスコ協会  | 八木沼 智恵子 | 須賀川市市民協働推進課内<br>須賀川市中町4-1       | 鈴木 行宏 | S46. 9. 13  |
| いわきユネスコ協会    | 横山 貞夫   | いわき市教委生涯学習課内<br>いわき市堂根町4-8      | 渡邊 隆  | S51. 10. 23 |
| 郡山ユネスコ協会     | 倉又 晴男   | 学校法人尚志学園本部内<br>郡山市大槻町字坦ノ腰2      | 橋本 裕  | S53. 1. 24  |
| 白河ユネスコ協会     | 小野 利廣   | 白河市教育委員会生涯学習課内<br>白河市八幡小路7-1    | 松本 美紀 | S53. 11. 19 |
| 福島ユネスコ協会     | 佐藤 一好   | 福島市教育委員会生涯学習課内<br>福島市五老内町3-1    | 羽田 利秋 | S55. 7. 19  |
| 会津ユネスコ協会     | 星 憲隆    | 会津若松市教委生涯学習センター内<br>会津若松市栄町3-50 | 石田 明夫 | S55. 11. 16 |
| 郡山次世代ユネスコ協会  | 鈴木 淳弥   | 株式会社鈴弥洋行内<br>郡山市備前館2-6          | 鈴木 康弘 | H28. 1. 16  |
| 福島県ユネスコ連絡協議会 | 小野 利廣   | 福島市方木田字辻 51-12<br>矢吹 稔宅         | 矢吹 稔  | S56. 12. 5  |

### 2 福島県ユネスコ活動研修会

令和6年11月12日(火) 会津若松市ピカリンホール(会津若松市) 参加者 40名

## 第9節 チャレンジ！子どもがふみだす体験活動応援事業

### 1 目的

東日本大震災の経験を踏まえ、子どもたちが充実した自然体験活動等を行う機会を通して心身ともに健康で、豊かな人間性の育成を図るとともに、社会体験活動を通して、主体的に復興に寄与する、新生ふくしまを担うたくましい子どもたちの育成を図る。

### 2 ふくしまキッズパワーアップ事業

#### (1) 対象

ア 対象者

福島県内の小中学校及び特別支援学校小学部・中学部、福島県内の小中学生が所属する社会教育団体

イ 対象期間

令和6年4月1日(月)から令和7年2月28日(金)

#### (2) 実績

ア 小・中学生を対象とした自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動への支援

件数 169件 参加者 9,399名(内子ども8,524名)

イ 長期宿泊型(3泊4日以上)自然体験活動及び震災を学ぶ活動等多様な体験活動を行う団体への支援

件数 0件 参加者 0名(内子ども0名)

### 3 「ふくしまの未来」へつなぐ体験応援事業

#### (1) 内容

ア 元気を届ける交流・体験事業

被災地や復興住宅等を訪問し、被災者や避難者と交流することを通して、元気を創出する活動への支援

イ 今を知り思いを伝える事業

被災地や震災関連施設等を訪問し、被災者や避難者との交流・協働等することを通して、地域の復興について主体的に考え、発信する活動への支援

#### (2) 実績

採択 24団体(事業1 1団体、事業2 23団体)

#### (3) 成果発表会

日時 令和7年1月25日(土) 参加者 183名

場所 郡山市労働福祉会館(郡山市)

### 4 心のケアが必要な子どもを対象とした自然体験事業

#### (1) 内容

県内3自然の家(会津・郡山・いわき)を会場に、不登校等で不安を抱えている子どもたちを対象に、自然

体験活動や交流体験活動等を実施する。

ウ いわき 5回実施 参加者 56 名（内子ども 28 名）

(2) 実績 計 23 回実施 参加者 372 名（内子ども 211 名）

※主な活動：磯遊び、野外炊飯、スポーツ活動等

ア 会津 13 回実施 参加者 251 名（内子ども 149 名）

※主な活動：アスレチック、室内オリエンテーリング、自然散策等

イ 郡山 5 回実施 参加者 65 名（内子ども 34 名）

※主な活動：フィールドワーク、ナイトハイク、クラフト活動等

## 第 10 節 公民館等社会教育施設

### 1 公民館を除く主な社会教育施設

※震災により休館中の施設を含む

#### (1) 図書館の設置状況

ア 県立

| 名 称     | 所 在 地       | 電話番号         | 設置者 |
|---------|-------------|--------------|-----|
| 福島県立図書館 | 福島市森合字西養山 1 | 024-535-3218 | 福島県 |

イ 市町村立

| 名 称             | 所 在 地              | 電話番号         | 設置者  |
|-----------------|--------------------|--------------|------|
| 福島市立図書館         | 福島市松木町 1－1         | 024-531-6551 | 福島市  |
| 福島市西口ライブラリー     | 福島市三河南町 1－20       | 024-525-4023 | 福島市  |
| 福島市子どもライブラリー    | 福島市早稲町 1－1（こむこむ内）  | 024-526-4200 | 福島市  |
| 伊達市立図書館         | 伊達市箱崎字川端 7         | 024-551-2132 | 伊達市  |
| 国見町図書館          | 国見町藤田字観月台 15       | 024-585-2676 | 国見町  |
| 二本松市立二本松図書館     | 二本松市本町 1 丁目 102 番地 | 0243-23-5082 | 二本松市 |
| 二本松市立岩代図書館      | 二本松市小浜字藤町 242 番地   | 0243-55-3255 | 二本松市 |
| 本宮市立しらさわ夢図書館    | 本宮市白岩字堤崎 500       | 0243-44-2112 | 本宮市  |
| 郡山市中央図書館        | 郡山市麓山一丁目 5－25      | 024-923-6601 | 郡山市  |
| 郡山市希望ヶ丘図書館      | 郡山市希望ヶ丘 1－5        | 024-961-1600 | 郡山市  |
| 郡山市安積図書館        | 郡山市安積一丁目 38        | 024-946-8850 | 郡山市  |
| 郡山市富久山図書館       | 郡山市富久山町福原字泉崎 181－1 | 024-921-0030 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 田村分館   | 郡山市田村町岩作字穂多礼 40－3  | 024-955-3842 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 喜久田分館  | 郡山市喜久田堀之内字下河原 1    | 024-959-2205 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 緑ヶ丘分館  | 郡山市緑ヶ丘東三丁目 1－21    | 024-944-0001 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 日和田分館  | 郡山市日和田町字小堰 23－4    | 024-958-2352 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 三穂田分館  | 郡山市三穂田町八幡字東屋敷 6    | 024-953-2820 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 中田分館   | 郡山市中田町下枝字大平 358    | 024-973-2951 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 西田分館   | 郡山市西田町三町目桜内 259    | 024-972-2807 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 大槻分館   | 郡山市大槻町字中前田 56－1    | 024-951-1512 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 熱海分館   | 郡山市熱海町熱海二丁目 15－1   | 024-984-2679 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 湖南分館   | 郡山市湖南町福良字家老 9390－4 | 024-983-2543 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 富田分館   | 郡山市東三丁目 84 番地      | 024-951-0260 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 逢瀬分館   | 郡山市逢瀬町多田野字南原 3 番地  | 024-957-2417 | 郡山市  |
| 郡山市中央図書館 片平分館   | 郡山市片平町字南 7－2       | 024-957-5730 | 郡山市  |
| 須賀川市中央図書館       | 須賀川市中町 4－1         | 0248-75-3309 | 須賀川市 |
| 須賀川市長沼図書館       | 須賀川市長沼字金町 85       | 0248-67-2138 | 須賀川市 |
| 須賀川市岩瀬図書館       | 須賀川市柱田字中地前 22      | 0248-65-3549 | 須賀川市 |
| 鏡石町図書館          | 鏡石町旭町 440－6        | 0248-62-1288 | 鏡石町  |
| 天栄村生涯学習センター内図書室 | 天栄村大字下松本字原畑 66     | 0248-82-2504 | 天栄村  |
| 石川町立図書館         | 石川町字関根 165         | 0247-26-9136 | 石川町  |
| 浅川町立あさかわ図書館     | 浅川町大字簗輪字山敷田 75     | 0247-36-2900 | 浅川町  |

| 名 称               | 所 在 地                     | 電話番号         | 設置者   |
|-------------------|---------------------------|--------------|-------|
| 古殿町図書館            | 古殿町大字松川字横川 235            | 0247-53-2305 | 古殿町   |
| 三春町民図書館           | 三春町字大町 12-1               | 0247-62-3375 | 三春町   |
| 小野町ふるさと文化の館       | 小野町大字小野新町字中通 2            | 0247-72-2120 | 小野町   |
| 田村市図書館本館          | 田村市船引町船引字扇田 19            | 0247-82-1001 | 田村市   |
| 田村市図書館滝根分館        | 田村市滝根町神俣字町 48-1           | 0247-78-2001 | 田村市   |
| 田村市図書館大越分館        | 田村市大越町上大越字水神宮 62-1 大越行政局内 | 0247-79-2161 | 田村市   |
| 田村市図書館常葉分館        | 田村市常葉町常葉字町裏 1             | 0247-77-2013 | 田村市   |
| 田村市図書館都路分館        | 田村市都路町古道字本町 33-4          | 0247-75-2063 | 田村市   |
| 白河市立図書館           | 白河市道場小路 96-5              | 0248-23-3250 | 白河市   |
| 白河市立表郷図書館         | 白河市表郷金山字長者久保 2            | 0248-32-4784 | 白河市   |
| 白河市立東図書館          | 白河市東釜子字狐内 47              | 0248-34-1130 | 白河市   |
| 白河市立大信図書館         | 白河市大信町屋字沢田 25             | 0248-46-3614 | 白河市   |
| 矢吹町図書館            | 矢吹町本町 165                 | 0248-44-3595 | 矢吹町   |
| 泉崎図書館             | 泉崎村大字泉崎字館 24-9            | 0248-53-4779 | 泉崎村   |
| 棚倉町立図書館           | 棚倉町大字棚倉字新町 21-1           | 0247-33-4342 | 棚倉町   |
| 塙町立図書館            | 塙町大字塙字栄町 68-6             | 0247-43-0808 | 塙町    |
| 矢祭もったいない図書館       | 矢祭町大字東館字石田 25             | 0247-46-4646 | 矢祭町   |
| 鮫川村図書館            | 鮫川村大字赤坂中野字新宿 64-1         | 0247-29-1150 | 鮫川村   |
| 会津図書館             | 会津若松市栄町 3-50              | 0242-22-4711 | 会津若松市 |
| 猪苗代町図書館歴史情報館 和みいな | 猪苗代町字古城町 132-7            | 0242-23-7855 | 猪苗代町  |
| 喜多方市立図書館          | 喜多方市字柳原 7503-1            | 0241-22-1855 | 喜多方市  |
| 柳津中央公民館図書館        | 郡柳津町大字柳津字下平乙 242-2        | 0241-42-3511 | 柳津町   |
| 会津美里町図書館          | 会津美里町字新布才地 1              | 0242-54-2911 | 会津美里町 |
| 南会津町図書館           | 南会津町田島字宮本東 22             | 0241-62-5522 | 南会津町  |
| 新地町図書館            | 新地町谷地小屋字樋掛田 40-1          | 0244-62-5031 | 新地町   |
| 相馬市図書館            | 相馬市中村字塚ノ町 65-16           | 0244-37-2630 | 相馬市   |
| 南相馬市立中央図書館        | 南相馬市原町区朝日町二丁目 7-1         | 0244-23-7789 | 南相馬市  |
| 南相馬市立鹿島図書館        | 南相馬市鹿島区寺内字迎田 22-1         | 0244-46-5116 | 南相馬市  |
| 南相馬市立小高図書館        | 南相馬市小高区本町二丁目 89-1         | 0244-44-3049 | 南相馬市  |
| 飯館村交流センター         | 飯館村草野字大師堂 17              | 0244-42-0072 | 飯館村   |
| 浪江町図書館            | 浪江町権現堂字矢沢町 40-1           | 0240-23-5613 | 浪江町   |
| 葛尾村村民会館図書室        | 葛尾村大字落合字落合 16             | 0240-29-2008 | 葛尾村   |
| 大熊町図書館（休館中）       | 大熊町大川原南平 1717             | 0240-23-7532 | 大熊町   |
| 富岡町図書館            | 富岡町大字本岡字玉塚 622-1          | 0240-21-3665 | 富岡町   |
| 広野町図書室            | 広野町大字下北迫字苗代替 35           | 0240-27-3211 | 広野町   |
| いわき市立いわき総合図書館     | いわき市平字田町 120              | 0246-22-5552 | いわき市  |
| いわき市立内郷図書館        | いわき市内郷綴町榎下 40-1           | 0246-45-1030 | いわき市  |
| いわき市立小名浜図書館       | いわき市小名浜愛宕上 7-2            | 0246-54-9257 | いわき市  |
| いわき市立常磐図書館        | いわき市常磐関船町作田 1-1           | 0246-44-6218 | いわき市  |
| いわき市立勿来図書館        | いわき市植田町南町一丁目 2-2          | 0246-62-7431 | いわき市  |
| いわき市立四倉図書館        | いわき市四倉町字東一丁目 50           | 0246-32-5980 | いわき市  |

ウ 法人

| 名 称        | 所 在 地            | 電話番号         | 設置者        |
|------------|------------------|--------------|------------|
| クローバー子供図書館 | 郡山市開成 6 丁目 346-1 | 024-932-2118 | 公益財団法人金森心会 |

## (2) 博物館の設置状況

ア 登録博物館（※改正博物館法が、令和5年4月1日に施行され、経過措置期間中に改めて登録申請が必要とされる。）

| 名 称           | 所 在 地                | 電話番号         | 設置者         | 種別    | 登録年月日       |
|---------------|----------------------|--------------|-------------|-------|-------------|
| 福島県立美術館       | 福島市森合字西養山 1          | 024-531-5511 | 福島県         | 美術博物館 | R6. 6. 18   |
| 福島県立博物館       | 会津若松市城東町 1-25        | 0242-28-6000 | 福島県         | 総合博物館 | R6. 6. 18   |
| 須賀川市立博物館      | 須賀川市池上町 6            | 0248-75-3239 | 須賀川市        | 歴史博物館 | S46. 7. 10  |
| いわき市立美術館      | いわき市平字堂根町 4-4        | 0246-25-1111 | いわき市        | 美術博物館 | S59. 9. 3   |
| 郡山市立美術館       | 郡山市安原町字太谷地 130-2     | 024-956-2200 | 郡山市         | 美術博物館 | H5. 1. 20   |
| 南相馬市博物館       | 南相馬市原町区牛来字出口 194     | 0244-23-6421 | 南相馬市        | 総合博物館 | H8. 5. 9    |
| 野口英世記念館       | 猪苗代町大字三ツ和字前田 81      | 0242-85-7867 | (公財)野口英世記念会 | 歴史博物館 | S29. 10. 21 |
| 会津民俗館         | 猪苗代町大字三ツ和字前田 33-1    | 0242-65-2600 | 会津民俗館       | 歴史博物館 | S55. 10. 3  |
| 奥会津博物館        | 南会津町糸沢字西沢山 3692-20   | 0241-66-3077 | 南会津町        | 歴史博物館 | R7. 1. 9    |
| 諸橋近代美術館       | 北塩原村大字桧原字剣ヶ峰 1093-23 | 0241-37-1088 | (公財)諸橋近代美術館 | 美術博物館 | H11. 8. 17  |
| 藤田記念博物館       | 白河市二番町 46-1          | 0248-24-1780 | (公財)藤田教育振興会 | 美術博物館 | S54. 9. 1   |
| 郡山開成学園生活文化博物館 | 郡山市開成 3-25-2         | 024-932-4848 | (学)郡山開成学園   | 歴史博物館 | R5. 10. 4   |
| ふくしま海洋科学館     | いわき市小名浜字辰巳町 50       | 0246-73-2528 | 福島県         | 水族館   | R6. 4. 1    |

## イ 博物館相当施設

| 名 称           | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者          | 種別    | 指定年月日       |
|---------------|-----------------------|--------------|--------------|-------|-------------|
| 安積歴史博物館(休館中)  | 郡山市開成 5-25-63         | 024-938-0778 | (公財)安積歴史博物館  | 歴史博物館 | S61. 3. 17  |
| 会津武家屋敷会津歴史資料館 | 会津若松市東山町大字石山字院内 1     | 0242-28-2525 | (株)会津武家屋敷    | 歴史博物館 | S56. 11. 25 |
| 龍が城美術館(休館中)   | いわき市平字旧城跡 27-1        | 0246-22-1601 | (一財)白龍会      | 美術博物館 | S30. 2. 10  |
| やないづ町立齋藤清美術館  | 柳津町柳津字下平乙 187         | 0241-42-3630 | 柳津町          | 美術博物館 | H11. 9. 28  |
| 磐梯山噴火記念館      | 北塩原村桧原字剣ヶ峰 1093-36    | 0241-32-2888 | (株)ゴールドハウス目黒 | 科学博物館 | H5. 7. 1    |
| 會津藩校日新館       | 会津若松市河東町南高野字高塚山 10 番地 | 0242-75-2525 | (株)会津武家屋敷    | 歴史博物館 | H12. 11. 28 |
| はじまりの美術館      | 猪苗代町新町 4873           | 0242-62-3454 | (福)安積愛育園     | 美術博物館 | H28. 12. 6  |
| 喜多方市美術館       | 喜多方市字押切 2-2           | 0241-23-0404 | 喜多方市         | 美術博物館 | R7. 3. 31   |

## ウ 類似施設

| 名 称                  | 所 在 地                      | 電話番号         | 設置者  |
|----------------------|----------------------------|--------------|------|
| 福島県文化財センター白河館        | 白河市白坂一里段 86                | 0248-21-0700 | 福島県  |
| 福島県歴史資料館             | 福島市春日町 5-54                | 024-534-9195 | 福島県  |
| 福島市郷土資料室             | 福島市松山町 39-1                | 024-563-7858 | 福島市  |
| 福島市民家園               | 福島市上名倉字大石前地内               | 024-593-5249 | 福島市  |
| 福島市古関裕而記念館           | 福島市入江町 1-1                 | 024-531-3012 | 福島市  |
| 福島市写真美術館             | 福島市森合町 11-36               | 024-523-1201 | 福島市  |
| 宮城遺跡史跡公園体験学習施設       | 福島市岡島字宮田 78                | 024-573-0015 | 福島市  |
| 羽山の森美術館              | 川俣町大字西福沢字山柁内 20            | 024-566-3367 | 川俣町  |
| 伊達市梁川美術館             | 伊達市梁川町字中町 10               | 024-527-2656 | 伊達市  |
| 伊達市保原歴史文化資料館         | 伊達市保原町大泉字宮脇 265            | 024-575-1615 | 伊達市  |
| 霊山こどもの村 遊びと学びのミュージアム | 伊達市霊山町石田字宝司沢 9-1           | 024-589-2211 | 伊達市  |
| 二本松市歴史資料館            | 二本松市本町 1-102               | 0243-23-3910 | 二本松市 |
| 二本松市智恵子記念館           | 二本松市油井字漆原町 36              | 0243-22-6151 | 二本松市 |
| 二本松市大山忠作美術館          | 二本松市本町 2-3-1               | 0243-24-1217 | 二本松市 |
| あだたらふるさとホール          | 大玉村玉井字西庵 183               | 0243-48-2569 | 大玉村  |
| 本宮市立歴史民俗資料館          | 本宮市字南町裡 130                | 0243-33-2546 | 本宮市  |
| 本宮市白沢ふれあい文化ホール       | 本宮市白岩字堤崎 494-44            | 0243-44-3185 | 本宮市  |
| 郡山市開成館               | 郡山市開成 3-3-7                | 024-923-2157 | 郡山市  |
| 郡山市歴史資料館             | 郡山市麓山 1-8-3                | 024-932-5306 | 郡山市  |
| 郡山市こおりやま文学の森資料館      | 郡山市豊田町 3-5                 | 024-991-7610 | 郡山市  |
| 郡山市ふれあい科学館           | 郡山市駅前 2-11-1 ビッグアイ 20F~24F | 024-936-0201 | 郡山市  |

| 名 称                | 所 在 地                | 電話番号         | 設置者    |
|--------------------|----------------------|--------------|--------|
| 大安場史跡公園            | 郡山市田村町大善寺大安場 160     | 024-965-1088 | 郡山市    |
| ふくしまの森の科学体験センター    | 須賀川市虹の台 100          | 0248-89-1120 | 須賀川市   |
| 鏡石町歴史民俗資料館         | 鏡石町成田 343            | 0248-62-4323 | 鏡石町    |
| 天栄村ふるさと文化伝承館       | 天栄村大字大里字八石 1－2       | 0248-81-1030 | 天栄村    |
| 石川町立歴史民俗資料館        | 石川町字高田 200－2         | 0247-26-3768 | 石川町    |
| 吉田富三記念館            | 浅川町大字袖山字森下 287       | 0247-36-4129 | 一般財団法人 |
| 浅川町歴史民俗資料館         | 浅川町大字浅川字背戸谷地 144－6   | 0247-36-2134 | 浅川町    |
| 三春町歴史民俗資料館         | 三春町字桜谷 5             | 0247-62-5263 | 三春町    |
| 三春郷土人形館            | 三春町字大町 30            | 0247-62-7053 | 三春町    |
| 小野町ふるさと文化の館・郷土資料館  | 小野町大字小野新町字中通 2       | 0247-72-2120 | 小野町    |
| 田村市歴史民俗資料館         | 田村市船引町船引字四城内前 196 番地 | 0247-81-1215 | 田村市    |
| 白河市歴史民俗資料館         | 白河市中田 7－1            | 0248-27-2310 | 白河市    |
| 小峰城歴史館（旧 白河集古苑）    | 白河市郭内 1－73           | 0248-24-5050 | 白河市    |
| 中山義秀記念文学館（義秀展示館）   | 白河市大信町屋字沢田 25        | 0248-46-3614 | 白河市    |
| 白河市大信ふるさと文化伝承館     | 白河市大信町屋字沢田 25        | 0248-46-3614 | 白河市    |
| 西郷村歴史民俗資料館         | 西郷村大字小田倉字上野原 463     | 0248-25-0959 | 西郷村    |
| 泉崎資料館              | 泉崎村大字泉崎字館 24－9       | 0248-53-4777 | 泉崎村    |
| 塙町立あぶくま高原美術館       | 塙町大字那倉字吉元 86－2       | 0247-42-2510 | 塙町     |
| 矢祭町歴史民俗資料館         | 矢祭町大字東館字石田 25        | 0247-46-4646 | 矢祭町    |
| 鮫川村歴史民俗資料館         | 鮫川村大字赤坂中野字巡ヶ作 128－4  | 0247-49-3106 | 鮫川村    |
| 国指定名勝会津松平氏庭園       | 会津若松市花春町 8－1         | 0242-27-2472 | 会津若松市  |
| 若松城天守閣郷土博物館        | 会津若松市追手町 1－1         | 0242-27-4005 | 会津若松市  |
| 会津町方伝承館            | 会津若松市大町 2－8－8        | 0242-22-8686 | 会津若松市  |
| 茶室麟閣               | 会津若松市追手町 1－1         | 0242-27-4005 | 会津若松市  |
| 会津若松市歴史資料センター      | 会津若松市城東町 2－3         | 0242-27-2705 | 会津若松市  |
| アクアマリンいなわしろカワセミ水族館 | 猪苗代町大字長田字東中丸 3447－4  | 0242-72-1135 | 猪苗代町   |
| 喜多方市カイギュランドたかさと    | 喜多方市高郷町西羽賀字和尚堂 3163  | 0241-44-2024 | 喜多方市   |
| 会津坂下町五浪美術記念館       | 会津坂下町字台ノ下 842        | 0242-84-1233 | 会津坂下町  |
| ほっと i n やないづ縄文館    | 柳津町大字柳津字下平乙 151－1    | 0241-41-1077 | 柳津町    |
| からむし工芸博物館          | 昭和村大字佐倉字上ノ原 1        | 0241-58-1677 | 昭和村    |
| 旧南会津郡役所            | 南会津町田島字丸山甲 4681      | 0241-62-3848 | 南会津町   |
| 奥会津博物館南郷館          | 南会津町界字川久保 552        | 0241-73-2829 | 南会津町   |
| 奥会津博物館伊南館          | 南会津町青柳字久川 24         | 0241-76-2071 | 南会津町   |
| 奥会津博物館館岩館          | 南会津町松戸原 55           | 0241-78-2110 | 南会津町   |
| 檜枝岐村歴史民俗資料館        | 檜枝岐村字下ノ原 887－1       | 0241-75-2342 | 檜枝岐村   |
| ただみ・モノとくらしのミュージアム  | 只見町大倉字窪田 30          | 0241-86-2175 | 只見町    |
| 埴谷・島尾記念文学資料館       | 南相馬市小高区本町 2 丁目 89－1  | 0244-66-1011 | 南相馬市   |
| 葛尾村郷土文化保存伝習館       | 葛尾村落合字落合 16          | 0240-29-2008 | 葛尾村    |
| 大熊町民俗伝承館（休館中）      | 大熊町大字下野上字大野 669－3    | 0240-32-3011 | 大熊町    |
| とみおかアーカイブ・ミュージアム   | 富岡町大字本岡字王塚 760－1     | 0240-25-8644 | 富岡町    |
| 檜葉町歴史資料館           | 檜葉町大字北田字鐘突堂 5－4      | 0240-25-2492 | 檜葉町    |
| いわき市石炭・化石館         | いわき市常磐湯本町向田 3－1      | 0246-42-3155 | いわき市   |
| いわき市勿来関文学歴史館       | いわき市勿来町関田長沢 6－1      | 0246-65-6166 | いわき市   |
| いわき市アンモナイトセンター     | いわき市大久町大久字鶴房 147－2   | 0246-82-4561 | いわき市   |
| いわき市考古資料館          | いわき市常磐藤原町手這 50－1     | 0246-43-0391 | いわき市   |
| いわき市立草野心平記念文学館     | いわき市小川町高萩字下夕道 1－39   | 0246-83-0005 | いわき市   |
| いわき市草野心平生家         | いわき市小川町上小川字植ノ内 6－1   | 0246-83-2901 | いわき市   |
| いわき市暮らしの伝承郷        | いわき市鹿島町下矢田字散野 14－16  | 0246-29-2230 | いわき市   |
| 喜多方蔵品美術館           | 喜多方市梅竹 7294－4        | 0241-24-3576 | 私人     |

| 名 称          | 所 在 地          | 電話番号         | 設置者    |
|--------------|----------------|--------------|--------|
| 大和川酒造北方風土館   | 喜多方市字寺町 4761   | 0241-22-2233 | 私人     |
| 原郷のこけし群西田記念館 | 福島市荒井字横塚 3-183 | 024-593-0639 | 公益財団法人 |

### (3) 青少年教育関係施設の設置状況

#### ア 県設置

| 名 称          | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者 |
|--------------|-----------------------|--------------|-----|
| 福島県郡山自然の家    | 郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46      | 024-957-2111 | 福島県 |
| 福島県会津自然の家    | 会津坂下町大字八日沢字西東山 4495-1 | 0242-83-2480 | 福島県 |
| 福島県いわき海浜自然の家 | いわき市久之浜町田之網字向山 53     | 0246-32-7700 | 福島県 |

#### イ 教育施設

| 名 称           | 所 在 地           | 電話番号         | 設置者    |
|---------------|-----------------|--------------|--------|
| 国立那須甲子青少年自然の家 | 西郷村大字真船字村火 6-1  | 0248-36-2331 | 独立行政法人 |
| 国立磐梯青少年交流の家   | 猪苗代町字五輪原 7136-1 | 0242-62-2530 | 独立行政法人 |
| 市町村（条例）設置     | ※12 施設（別掲）      |              |        |
| 他県設置等         | ※2 施設（別掲）       |              |        |

#### 《市町村（条例）設置 12 施設》

| 名 称                | 所 在 地           | 電話番号         | 設置者    |
|--------------------|-----------------|--------------|--------|
| 福島県青少年会館           | 福島市黒岩字田部屋 53-5  | 024-546-8311 | 公益財団法人 |
| 福島市社会教育会館「立子山自然の家」 | 福島市立子山字金井作 1    | 024-597-2951 | 福島市    |
| 福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館 | 福島市早稲町 1-1      | 024-524-3131 | 福島市    |
| 郡山市青少年会館           | 郡山市大槻町字漆棒 82    | 024-961-8282 | 郡山市    |
| 郡山市少年湖畔の村          | 郡山市湖南町横沢字村西 112 | 024-982-2115 | 郡山市    |
| 石川町勤労青少年ホーム        | 石川町字当町 418-1    | 0247-26-2566 | 石川町    |
| 矢祭山友情の森            | 矢祭町大字山下字下河原 1-1 | 0247-46-2162 | 矢祭町    |
| 会津若松市少年の家          | 会津若松市城東町 15-62  | 0242-39-1304 | 会津若松市  |
| 会津若松市勤労青少年ホーム      | 会津若松市城東町 14-52  | 0242-26-6662 | 会津若松市  |
| 喜多方市勤労青少年ホーム       | 喜多方市舞台田 3119-1  | 0241-22-1403 | 喜多方市   |
| 喜多方市勤労青少年体育センター    | 喜多方市舞台田 3119-1  | 0241-22-1403 | 喜多方市   |
| びわ沢原森林公園（休館中）      | 猪苗代町字琵琶沢原 7095  | 0242-62-3291 | 猪苗代町   |

#### 《他県設置等 2 施設》

| 名 称            | 所 在 地                 | 電話番号         | 設置者    |
|----------------|-----------------------|--------------|--------|
| さいたま市立館岩少年自然の家 | 南会津町宮里字向山 2847-1      | 0241-78-2311 | さいたま市  |
| SYD ばんだいふれあいびあ | 北塩原村桧原字南黄連沢山 1157-336 | 0241-33-2567 | 公益財団法人 |

## 2 文化施設の整備充実

文化財への理解を深める施設として機能の充実に努めた。

### (1) 県立美術館の整備充実

常設展・企画展等の充実を図り、美術作品の収集と作品・作家等に関する調査研究を計画的に推進したほか、教育普及活動に努め、本県美術振興の中心的施設として機能の充実に努めた。

### (2) 県立博物館の整備充実

展示資料の収集・整備に努め、調査研究を計画的に推進し、常設展・企画展等の充実を図るとともに教育普及のための各種事業を行い、県内博物館の中心的施設として機能の充実に努めた。

### (3) 県文化財センター白河館（まほろん）

文化財の収蔵と被災した地域の文化財等の公開・活用及び埋蔵文化財担当職員等の研修を図り、文化財に親しみ、

# 第 11 節 福島県立図書館

## 1 概要

福島県立図書館は、県民の生涯にわたる多様な学習活動に  
応えるため、資料及び情報の計画的な収集を図るとともに市  
町村立図書館等との連携のもとに効果的な図書館活動の展開  
に努め、県民文化の向上に寄与することを目的とした事業を  
行っている。

また、令和 7 年 3 月に『福島県立図書館アクションプラン  
(第 5 次)』(令和 7 年度～令和 12 年度)を策定し、第 4 次ま  
での基本理念と「4 つの目標」を継承した上で、新たに AI や  
デジタル技術発展への対応を念頭に置き DX の視点も取り入  
れた「福島県立図書館デジタルビジョン“図書館 DX”」を  
示すとともに、市町村立図書館・公民館図書室等を支える役  
割の重要性を踏まえつつ「いつでも・どこにいても・だれに  
でも福島の“知の拠点”として役立つ」図書館を目指すこと  
とした。併せて、令和 7 年 3 月に策定された「第五次福島県子  
ども読書活動推進計画」(令和 7 年度から概ね 5 年間)に基づ  
き、計画実現のための事業推進にも努めることとしている。

### (1) 図書館協議会

#### ア 第 1 回

開催日 令和 6 年 9 月 4 日(水) 於：福島県立図書館  
議題等

- ・令和 5 年度図書館利用実績について
- ・「福島県立図書館アクションプラン(第 4 次)」の取組状況について
- ・「福島県立図書館アクションプラン(第 5 次)」の策定(案)について

#### イ 第 2 回

開催日 令和 7 年 2 月 19 日(水) 於：福島県立図書館  
議題等

- ・「福島県立図書館アクションプラン(第 5 次)」の策定について

図書館協議会委員名 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

[任期：令和 5 年 10 月 21 日～令和 7 年 10 月 20 日]

| 区分                         | 氏 名    | 所属団体等(主な役職名等)                               |
|----------------------------|--------|---------------------------------------------|
| 学<br>識<br>経<br>験<br>者      | ◎佐藤 佐敏 | 福島大学(人間発達文化学類教授)                            |
|                            | 三瓶 千香子 | 桜の聖母短期大学(キャリア教養学科教授<br>生涯学習センター長・地域連携センター長) |
|                            | 神野 誠   | 株式会社福島民報社<br>(編集局文化部長)                      |
|                            | 菅野 隆一  | 福島民友新聞株式会社<br>(論説委員会委員長)                    |
|                            | 林 文子   | 公募                                          |
|                            | 高橋 正人  | 公募                                          |
| 家<br>庭<br>教<br>育           | 佐藤 房枝  | 福島県家庭教育インストラクター連絡<br>協議会(会津さざなみの会)          |
| 社<br>会<br>教<br>育           | 佐藤 美千代 | 福島県公共図書館協会<br>(新地町図書館副主幹兼管理係長兼司書)           |
| 学<br>校<br>教<br>育<br>関<br>係 | ○中村 充幸 | 福島県高等学校長協会<br>(福島県立福島北高等学校長)                |
|                            | 星野 亜紀  | 福島県中学校長会<br>(郡山市立逢瀬中学校長)                    |

◎会長 ○副会長

## (2) 「福島県立図書館アクションプラン(第 5 次)」

令和 7 年度～令和 12 年度

### ア 基本理念

「ふくしまの未来をひらくため、『知の拠点』として県  
内図書館ネットワークを支え、県民一人ひとりの夢と  
学びを応援します。」

### イ 福島県立図書館が目指す 4 つの目標

#### (7) 民のための図書館

福島県立図書館は、資料・情報を収集し、保存し、提供  
することで、県民の役に立つ図書館を目指すとともに、年  
齢、障がいの有無などにかかわらず、あらゆる県民が等し  
く利用できる図書館を目指します。

#### (4) 子どもたちの今と未来のための図書館

ふくしまの未来を担う子どもたちのために、資料を収  
集し、保存し、伝え、子どもたちの読書活動や主体的・対  
話的で深い学びを支えることができる図書館を目指しま  
す。

#### (9) 市町村(図書館・公民館等)を支える図書館

県民がどこにいても図書に親しみ、また、生活、学習、  
事業などに必要な資料を利用できるように、県内の図書  
館・公民館・学校を支え、ネットワーク体制を強化し、  
全県的な図書館活動の振興を目指します。

#### (エ) ふくしまを知ることができる図書館

「ふくしま」の資料・情報を収集し、保存し、発信す  
ることで、将来にわたり、いつでも、どこにいても「ふ  
くしま」を知ることができる図書館を目指します。

### ウ 福島県立図書館デジタルビジョン“図書館 DX”

#### (7) デジタル化の推進(デジタル資源をつくる)

- ・ふくしまを伝える資料のデジタル化
- ・デジタル化に伴う著作権処理体制の整備

#### (4) デジタル資源の収集・提供(デジタル資源につなげ る)

- ・ふくしまに関するオープンデジタル資料の収集・提供
- ・県内自治体が発信している情報へのリンクの提供
- ・調べものに役立つ情報へのリンクの提供
- ・他機関がデジタル化したふくしま関連資料へのナビ  
ゲーション

#### (9) デジタルを活かす情報ガイド(デジタル資源をいか す)

- ・利便性を高める情報環境の整備
- ・AI を活用した図書館情報資源へのナビゲーション
- ・デジタルを活用した広報

## 2 資料の収集・整理

「福島県立図書館資料収集基本要綱」及び「福島県立図書  
館アクションプラン(第 4 次)」を踏まえ、県民からの資料  
要求に対応するために、各分野の基本資料を収集し迅速な整  
理に努めた。また、平成 24 年度に開設した「東日本大震災福  
島県復興ライブラリー」の整備充実を継続して行った。

## (1) 図書館資料の収集

### ア 一般資料の収集

新刊・既刊を問わず、資料的価値や利用的価値の高い資料の収集を行った。官公庁刊行物は主要なものを収集、年鑑白書や叢書等の継続資料については厳選し計画的な収集に努めた。文学作品は、受賞作品・候補作品や書評等で評価の高い作品を収集した。重点収集として、東日本大震災に関する資料をはじめ、調査相談に対応するために必要な各種参考図書、大活字本等のユニバーサルデザインに対応した資料の収集・整理に努めた。

### イ 地域資料の収集

福島県に関する資料については新刊書及び古書を購入した。県人著作については新刊書及び旧刊図書の遡及購入により、充実を図った。非売品の資料については出版した個人・団体・機関等への寄贈依頼や、寄贈を呼びかけるチラシを常時館内掲示し県立図書館ホームページにも「図書寄贈のお願い」をトップに表示するなど広報に努めた。

行政資料は各部局へ寄贈依頼を通知したほか、庁内 Web で周知を行った。県内公共図書館、公民館にも行政資料の寄贈について協力を呼びかけた。また、「福島県立図書館『福島県行政資料コーナー』のご紹介」のチラシを改訂し、館内配布した。

震災関連資料及び東京電力福島第一原子力発電所事故に関する資料についても、新聞等での出版情報収集に努めた。

### ウ 地域視聴覚資料の収集

県内で撮影されたものや震災関連の映像資料を収集した。また、保存価値の高い地元新聞の CD-ROM 等の資料を継続して収集した。

### エ 児童資料・研究資料の収集

#### (ア) 児童資料

市町村のモデルとして運営している「こどものへや」用児童資料として、子どもの読書活動推進に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

重点収集として、探究型学習に対応するもの、ユニバーサルデザインや多文化に対応する資料の収集に努めた。また、中学生・高校生向け資料についても収集した。

#### (イ) 研究資料

「児童図書研究室」用研究資料として、児童図書に関する調査研究及び子どもの読書活動支援に資する資料を、新刊書を中心に厳選して収集した。

また、読み聞かせ活動支援のための大型絵本や研究用児童資料としての主要な児童図書賞受賞作品も収集した。ほかに子どもの読書や読書環境に関する資料の収集にも努めた。

### オ 逐次刊行物の収集と整備

雑誌は、資料価値を重視し、専門的な調査相談や県内図書館の求めに対応できる資料を幅広く継続収集した。

また、当館ホームページを改善し、購読している雑誌を探しやすくした。

新聞、雑誌の震災・原発事故関連記事についても収集に努めた。

福島県内の明治～平成の地方紙の保存と利用の両立を図るため、平成 23 年度に構築した「新聞記事閲覧システム」を更改し、複数の利用者・職員が同時に使用できるシステムとした。

### カ 市町村支援用資料の収集

図書館未設置の自治体や、県立図書館の利用環境が十分ではない過疎・中山間地域、また、東日本大震災に伴う被災地域の読書活動に役立たせるため、新刊書を中心に、子どもたちの多様な好奇心に応えることができる児童書や話題性の高い文芸書、生活に密着した情報が掲載された実用書・時事関係資料等を収集した。

#### 逐次刊行物受入状況

(単位：種)

| 区 分   | 購 入 | 寄贈・他 | 計    |
|-------|-----|------|------|
| 新 聞   | 25  | 47   | ※71  |
| 雑 誌   | 222 | 656  | 878  |
| 官 報 等 | 3   | 0    | 3    |
| 合 計   | 250 | 703  | ※952 |

※年度途中で寄贈から購入とした新聞があったため、購入新聞と寄贈・他新聞の和が合計とならない。

#### 資料受入状況

(単位：冊)

| 区 分           | 購 入   | 寄贈・他  | 計      |
|---------------|-------|-------|--------|
| 一 般 資 料       | 4,226 | 1,984 | 6,210  |
| 地 域 ・ 行 政 資 料 | 805   | 3,153 | 3,958  |
| 児 童 資 料       | 1,851 | 541   | 2,392  |
| 児童図書研究資料      | 343   | 84    | 427    |
| 市町村支援資料       | 1,170 | 1,170 | 2,340  |
| 合 計           | 8,395 | 6,932 | 15,327 |

#### 資料受入状況・推移

(単位：冊)

| 令和4年度  | 令和5年度  | 令和6年度  |
|--------|--------|--------|
| 15,480 | 15,136 | 15,327 |

### キ 県民のくらし応援文庫

県民が抱える課題の解決に役立つ図書を整備することを目的に、平成 28 年度に創設した寄贈制度。令和 6 年度は、5 団体（企業）から合計 709 冊の寄贈を受けた。

| 蔵書統計（資料別・分類別） |           |           |        | （単位：冊） |      |           |
|---------------|-----------|-----------|--------|--------|------|-----------|
| 分 類           | 区 分       | 5 年度累計    | 6 年度増加 | 6 年度除籍 | 利用替え | 6 年度累計    |
| 一般資料          | 0 総 記     | 32,738    | 301    | 2      | 7    | 33,044    |
|               | 1 哲 学     | 27,879    | 249    | 1      | 13   | 28,140    |
|               | 2 歴 史     | 69,282    | 731    | 3      | 43   | 70,053    |
|               | 3 社 会 科 学 | 116,406   | 1,638  | 12     | 125  | 118,157   |
|               | 4 自 然 科 学 | 40,990    | 659    | 9      | 37   | 41,677    |
|               | 5 工 学・工 業 | 39,494    | 590    | 8      | 46   | 40,122    |
|               | 6 産 業     | 31,405    | 392    | 0      | 29   | 31,826    |
|               | 7 芸 術     | 45,556    | 630    | 6      | 17   | 46,197    |
|               | 8 語 学     | 10,255    | 97     | 0      | 0    | 10,352    |
|               | 9 文 学     | 98,599    | 923    | 14     | 91   | 99,599    |
|               | 計         | 512,604   | 6,210  | 55     | 408  | 519,167   |
| 地域資料          | 0 総 記     | 20,310    | 246    | 1      | 0    | 20,555    |
|               | 1 哲 学     | 3,047     | 34     | 0      | 0    | 3,081     |
|               | 2 歴 史     | 42,651    | 696    | 2      | 21   | 43,366    |
|               | 3 社 会 科 学 | 74,282    | 1,335  | 0      | 2    | 75,619    |
|               | 4 自 然 科 学 | 11,446    | 216    | 0      | 1    | 11,663    |
|               | 5 工 学・工 業 | 17,109    | 331    | 0      | 7    | 17,447    |
|               | 6 産 業     | 24,811    | 313    | 0      | 0    | 25,124    |
|               | 7 芸 術     | 19,445    | 368    | 3      | 0    | 19,810    |
|               | 8 語 学     | 1,011     | 8      | 0      | 0    | 1,019     |
|               | 9 文 学     | 31,082    | 411    | 6      | 3    | 31,490    |
|               | 計         | 245,194   | 3,958  | 12     | 34   | 249,174   |
| 児童資料          | 研 究 資 料   | 40,085    | 427    | 78     | -47  | 40,387    |
|               | 児 童 図 書   | 130,643   | 2,392  | 188    | 73   | 132,920   |
|               | 計         | 170,728   | 2,819  | 266    | 26   | 173,307   |
| 逐次刊行物         | 雑 誌       | 193,610   | 4,128  | 112    | -16  | 197,610   |
|               | 新 聞 合 本   | 16,350    | 191    | 0      | 0    | 16,541    |
|               | 新聞記事ファイル  | 3,839     | 0      | 0      | 0    | 3,839     |
|               | 計         | 213,799   | 4,319  | 112    | -16  | 217,990   |
| 特 殊 文 庫       |           | 70,280    | 0      | 0      | 0    | 70,280    |
| 館 内 用 計       |           | 1,212,605 | 17,306 | 445    | 452  | 1,229,918 |
| 市 町 村 支 援 計   |           | 52,173    | 2,340  | 9,331  | -452 | 44,730    |
| 合 計           |           | 1,264,778 | 19,646 | 9,776  | 0    | 1,274,648 |

### 3 館内サービス

開館日は284日、入館者は157,367人、1日平均554人の利用があった。前年度比において、ほぼ横ばいであるが、コロナ禍前に比べ9割程度まで回復した。

#### 入館者数

|        |           |
|--------|-----------|
| 開館日数   | 284 日     |
| 入館者数   | 157,367 人 |
| （1日平均） | 554 人     |

#### 入館者数・推移（単位：人）

| 令和4年度   | 令和5年度   | 令和6年度   |
|---------|---------|---------|
| 115,329 | 152,307 | 157,367 |

#### (1) 調査相談（レファレンス）

県内外から、日常生活の中での質問、仕事上の調査研究等、多種多様な調査相談を受け、所蔵資料及び関係機関の協力を得て回答した。問い合わせは、口頭、電話、文書、

FAX、電子メールにて受け付けた。また、当館のホームページについては、「蔵書検索」へのアクセスが大きく伸びた。

#### 調査相談件数（単位：件）

|       | 一般・地域・逐刊資料 | 児童資料  | 小 計   |
|-------|------------|-------|-------|
| 口 頭   | 6,265      | 990   | 7,255 |
| 電 話   | 1,222      | 39    | 1,261 |
| 文 書   | 26         | 0     | 26    |
| F A X | 11         | 0     | 11    |
| 電子メール | 276        | 3     | 279   |
| 合 計   | 7,800      | 1,032 | 8,832 |

#### 調査相談件数・推移（単位：件）

| 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------|-------|-------|
| 8,197 | 8,813 | 8,832 |

| ホームページアクセス件数 (単位：件) |         |         |         |
|---------------------|---------|---------|---------|
| 区 分                 | 令和4年度   | 令和5年度   | 令和6年度   |
| トップページ              | 144,742 | 146,625 | 154,432 |
| 蔵書検索                | 848,379 | 875,627 | 962,430 |
| 横断検索                | 25,768  | 32,350  | 38,503  |
| デジタルライブラリー          | 2,372   | 2,320   | 2,190   |
| こどものへや              | 2,012   | 1,506   | 1,466   |
| 利用案内                | 9,391   | 9,046   | 8,735   |

## (2) 利用者サービス

「福島県立図書館アクションプラン（第4次）」の活動指針に則り、図書館資料の提供や各種事業の実施を通じ、地域の復興及び暮らしに役立つ情報の提供に努めた。

さらに、広域な県土を有する本県の実情を踏まえ、予約資料の受取館指定サービス等、Web環境を活用した利用の充実を図った。

## (3) 個人貸出

貸出冊数は173,169冊、貸出者数は延べ44,046人で前年度から増加した。登録者数は13,399人であった。

直接自宅へ資料搬送する資料宅配サービス（有料）の利用は、4件、20冊であった。

### 館外個人貸出状況

| 分 類       | 冊数（冊）   | 構成比（％） |
|-----------|---------|--------|
| 総 記       | 2,370   | 1.4    |
| 哲 学 ・ 宗 教 | 4,604   | 2.7    |
| 歴 史 ・ 地 理 | 7,012   | 4.0    |
| 社 会 科 学   | 11,961  | 6.9    |
| 自 然 科 学   | 8,247   | 4.8    |
| 工 学 ・ 工 業 | 8,014   | 4.6    |
| 産 業       | 4,127   | 2.4    |
| 芸 術       | 7,672   | 4.4    |
| 語 学       | 1,194   | 0.7    |
| 文 学       | 23,579  | 13.6   |
| 地 域 資 料   | 7,042   | 4.1    |
| 新 聞 雑 誌   | 7,976   | 4.6    |
| 小 計       | 93,798  | 54.2   |
| 児 童       | 79,371  | 45.8   |
| 合 計       | 173,169 | 100.0  |

### 館外個人貸出・状況・推移

| 区 分     | 令和4年度   | 令和5年度   | 令和6年度   |
|---------|---------|---------|---------|
| 冊 数（冊）  | 147,545 | 172,763 | 173,169 |
| のべ人数（人） | 35,814  | 43,158  | 44,046  |

### 館外個人貸出登録者数（登録有効期間3年）（単位：人）

| 区 分 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 合 計    |
|-----|-------|-------|-------|--------|
| 新 規 | 3,047 | 3,051 | 2,976 | 9,074  |
| 更新者 | 1,374 | 1,458 | 1,493 | 4,325  |
| 合 計 | 4,421 | 4,509 | 4,469 | 13,399 |

| 館外個人貸出登録者数・推移 (単位：人) |        |        |
|----------------------|--------|--------|
| 令和4年度                | 令和5年度  | 令和6年度  |
| 12,732               | 13,535 | 13,399 |

## (4) 特別貸出

特別貸出とは、類縁機関での展示等のための貸出を行う制度で、資料・冊数・期間などの面で配慮している。

### 特別貸出状況

| 貸 出 先       | 件数（件） | 冊数（冊） |
|-------------|-------|-------|
| 官 公 庁 関 係   | 2     | 39    |
| 図 書 館 そ の 他 | 43    | 80    |
| 会 社 ・ 事 業 所 | 14    | 256   |
| 報 道 関 係     | 9     | 184   |
| 学 校         | 39    | 66    |
| 計           | 107   | 625   |

### 特別貸出状況・推移 (単位：冊)

| 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------|-------|-------|
| 292   | 341   | 625   |

## (5) 一般資料

県民が必要とする多種多様な情報を迅速に提供するように資料整理等に努めた。

また、時事や季節、話題性のあるテーマで展示を行い資料の紹介に努めた。時事展示のコーナーでは「花と緑に囲まれて」、「子どもたちの教科書を見てみよう!」、「秋を感じる本」、「出版文化をたどる」、「災害について知る・備える・考える」を実施した。ほかに、ビジネス関連資料、認知症、感染症に関する展示を行っている。

さらに、パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「身近な木や植物を調べる」、「出版について深める」を新規で作成した。「人権を考える」、「企業を調べる」、「よりよい消費生活をおくるために」、「山への誘い」、「防災教育～子どもを守る子どもと学ぶ～」を改訂し、効率かつ有効的な情報の提供に努めた。

令和6年4月27日(土)には「福島県立図書館見学探検ツアー」を実施し、県立図書館の役割や機能について紹介した（参加者6名）。また令和6年11月2日(土)には「福島県立図書館秋の見学探検ツアー」（参加者9名）と「長田弘文庫見学会」を実施した（参加者4名）。

令和6年7月27日(土)には「森合移転40周年記念図書館見学ツアー&大人のためのおはなし会」（参加者14名）を開催し、関連企画として7月27日(土)～28日(日)に「ごろすけと一緒にクイズに挑戦! 福島県立図書館クイズラリー」を実施した。

## (6) 地域資料

企画展示は「『館報あづま』で振り返る 福島県立図書館森合移転40周年」展を開催した。当館発行物である『館報あづま』の過去の号を中心に展示し、移転後の当館の歩みなどを紹介した。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「地域の

出版文化を支える「福島民報出版文化賞」を改訂し、受賞作発表にあわせて直近 10 年の受賞作を展示した。ほかに「福島の文学」を改訂し、「福島の学校史」を新規に作成した。また劣化により原資料での利用が難しいものを中心に貴重資料をデジタル化し、閲覧・貸出の利用を容易に行えるようにした。

地域資料については、県内外の個人・団体の様々な調査相談に応えるため、レファレンスサービスを実施したほか、ホームページから目的の資料を検索しやすいよう、図書や雑誌の目次入力を継続的に実施した。

## (7) 逐次刊行物

『福島県公立図書館 現行購入雑誌保存年限および保存指定館、現行受入新聞一覧』（令和 6 年度版）については、大熊町以外から回答を得て発行した。

令和 6 年 11 月 30 日(土)に、「図書館バックヤードツアー 福島版の昔の新聞をみてみよう」を開催し、7 名が参加した。当館職員が案内役となり、図書館で保管している明治・大正・昭和の新聞の見学を実施した。当時の紙面に触れる機会とするとともに、マイクロフィルム、データベースなど当時の新聞を現代に引き継ぐ方法について紹介した。

軽読書コーナー及び雑誌展示コーナーにて「言葉を味わう夏」、「物語の旅に出よう。」、「どう生きる？ AI 時代」、及び「雑誌から読む・知る図書館」など、社会情勢や利用者の興味関心に配慮したテーマの展示を行った。

パスファインダー「本の森への道しるべ」では、「便利な新聞・雑誌記事のデータベース」、「官報・議会資料（国会）の調べ方」の改訂を行った。

## (8) 児童サービス

子どもの読書活動推進のために各種の事業を行った。

### ア こどものへや・児童図書研究室の運営

資料の貸出や調査相談をはじめ、「絵本コーナー」や「新着図書コーナー」などで推奨する資料の展示を行ったほか、ロビー展示コーナーを活用して 10 代の子どもたちに向けた展示を行った。また、児童図書の調査・研究用の資料や学校図書館支援用の図書を収集し、子どもの読書活動に関わる方に対して資料提供を行った。

### イ おはなしかいの開催

乳幼児と保護者を対象とした「ちいさなおはなしかい」（毎月第 2 木曜日）や児童を対象に以下の「おはなしかい」、「子ども向け見学会」を開催した。

(ア) 「ちいさなおはなしかい」（4 月、5 月、6 月、7 月、9 月、10 月、11 月、12 月、1 月、3 月）

計 10 回 参加者合計 34 名

(イ) 県立美術館との連携おはなしかい

「アートなおはなしかい」（令和 6 年 11 月 23 日(土)）を実施した。

参加者 16 名

(ウ) 県立美術館との連携おはなしかい

「かがくいひろしの世界展ちいさなおはなしかい」（令和 7 年 1 月 29 日(水)、2 月 5 日(水)）を実施した。

計 2 回 参加者合計 199 名

(エ) 「春のミステリーツアー」（令和 6 年 4 月 27 日(土)）を実施した。

参加者 14 名

(オ) 「子どものための図書館見学（森合移転 40 周年事業）」（令和 6 年 7 月 25 日(木)）を実施した。

参加者 22 名

(カ) 「冬のミステリーツアー」（令和 6 年 12 月 26 日(木)）を実施した。

参加者 11 名

### ウ 図書館見学の受け入れ

学校等の要望に応え、施設見学や利用案内、読み聞かせ等を行い、図書館や本に親しむ機会の提供に努めた。

参加者合計 427 名

### エ 情報誌の発行

思春期の子どものための読書案内誌「LITTLE BIG」や児童サービス関連情報誌「児童図書研究ニュース」を発行し読書普及のための情報提供に努めた。

### オ 「子育て支援コーナー」の運営

子育て世代のための育児関連図書のコーナーでは、子育てに役立つ図書や雑誌の展示と親子で楽しむ絵本の展示を行った。

### カ 講師の派遣

児童サービスに関する講座に講師を派遣した。

(ア) 「絵本の読み聞かせ講座」

令和 6 年 5 月 11 日(土) 桑折町

(イ) 「絵本読み聞かせ講座 ～基礎・基本編～」

令和 6 年 7 月 22 日(月) 会津教育事務所

## (9) 東日本大震災福島県復興ライブラリー

平成 24 年度から「東日本大震災福島県復興ライブラリー」を開設。常設コーナーとして、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の関連資料を中心に、地震、津波、体験記、放射線、除染、復興、防災、エネルギー問題等の資料を配架し利用に供している。所蔵数は令和 7 年 3 月 31 日現在で 16,058 タイトルとなっており、「震災復興ライブラリー増加資料一覧」（令和 7 年 3 月 31 日現在）を作成し、ホームページで公開した。

さらに、福島民報及び福島民友に掲載された「震災」「原発」「復興」関連の記事の見出しを地区ごとにまとめ一覧にした『地元新聞にみる原発関連見出し一覧』を令和 6 年 3 月 31 日現在で更新し、同年 7 月 30 日(火)にホームページへ掲載した。

そのほか「巡回する福島県復興ライブラリー」として、資料やパネル等を出張展示用セットとして編成し、活用を図っている。

## (10) 複写サービス

コイン式コピー機は 1 台、レーザープリンター 1 台、カラープリンター 1 台、マイクロプリンター 2 台での対応となっている。保存のために資料の媒体を変えていることから、形態にあわせてそれぞれのプリンターで対応している。

## 複写利用状況

| 区 分    | 件数 (件) | 枚数 (枚) |
|--------|--------|--------|
| 自・他館処理 | 2,883  | 37,980 |

## 複写利用状況・推移

(単位: 枚)

| 令和4年度  | 令和5年度  | 令和6年度  |
|--------|--------|--------|
| 38,783 | 40,860 | 37,980 |

## (11) 障がい者サービス

障がい者サービスの案内を作成し、関連施設等に配布した。また、「福島県立図書館所蔵 大活字コーナー資料リスト」を改訂した。令和6年1月より特定録音物等郵便受施設指定となった。

## (12) 来館者用インターネットコーナー

来館者が利用できるインターネット端末を、一般用に6台設置し、情報提供の便宜を図った。

## インターネット利用状況 (単位: 人)

| 区 分 | 一 般   | 児 童 | 合 計   |
|-----|-------|-----|-------|
| 人 数 | 3,107 | 0   | 3,107 |

## インターネット利用状況・推移

(単位: 人)

| 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------|-------|-------|
| 1,160 | 2,603 | 3,107 |

## (13) 展示

### ア 展示コーナー企画展示

当館入り口の展示コーナーにおいて、テーマに沿った資料の展示を行った。

#### (ア) 『芸術としての本づくり 武井武雄と豆本の世界』

(令和6年4月5日(金)～6月5日(水))

童画家であり童話作家であった武井武雄の刊本作品を中心に、芸術作品ともいえる、美しい本の数々を紹介した。

#### (イ) 『まほろん移動展示「U (アンダー) 15の考古学—古墳時代編—」』

(令和6年6月7日(金)～7月3日(水))

福島県文化財センター白河館・まほろんの収蔵品を展示し、若い世代に向けて福島県域における古墳時代の特徴などをわかりやすく紹介した。

#### (ウ) 『『館報あづま』で振り返る 福島県立図書館森合移転40周年』

(令和6年7月5日(金)～9月4日(水))

令和6年7月に森合移転40周年を迎えたことをうけて当館発行物である『館報あづま』の過去の号を中心に展示し、移転後の当館の歩みなどを紹介した。

#### (エ) 『福島県歴史資料館移動展「江戸・明治の総論」』

(令和6年9月6日(金)～10月2日(水))

江戸時代から明治時代にかけての争いごとや裁判に関する史料を紹介した。

#### (オ) 『新聞に見る 福島県立図書館森合移転40周年』

(令和6年10月4日(金)～12月4日(水))

福島県立図書館の昭和59年7月の森合移転開館から40周年を迎えたことにちなみ、当館所蔵の新聞から移転計画段階から会館当日の様子を報じた紙面を紹介した。

#### (カ) 『『福島県立博物館移動展「ふくしまの酒造り—酒を醸し和を醸す—」』

(令和6年12月6日(金)～令和6年12月27日(金))

福島県立博物館の収蔵品を展示し、福島県内各地の酒造りの文化・歴史を紹介した。

#### (キ) 『物語が「しかけ」と出会うとき しかけ絵本の世界』

(令和7年1月7日(火)～4月2日(水))

当館が所蔵するしかけ絵本から、ポップアップ絵本を中心に展示・紹介した。

### イ ロビー展示

情報発信の一環としてロビー通路壁面を利用し、県立図書館の資料展示と団体等のパネル展示を行った。

#### (ア) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)

令和6年4月2日(火)～9月4日(水)

#### (イ) 「流域治水関連の取組紹介」 (福島県土木部土木企画課)

令和6年9月6日(金)～9月18日(水)

#### (ウ) 「震災の教訓や記憶の伝承について」 (福島県土木部土木企画課)

令和6年9月19日(木)～10月2日(水)

#### (エ) 「働くあなたの力になりたい！まずは聞かせてあなたの悩み」 (福島県労働委員会)

令和6年10月4日(金)～11月6日(水)

#### (オ) 「YA (ヤングアダルト) の本」 (県立図書館)

令和6年11月8日(金)～令和7年3月16日(日)

#### (カ) 「令和7年2月の大雪対応について」 (福島県土木部土木企画課)

令和7年3月18日(火)～令和7年4月2日(水)

## (14) 普及事業

県内公共図書館及び公民館図書室等、図書館関係施設職員の資質の向上を図るため、講演会や講座を実施することで、幅広い知識の習得を目指し、また、一般県民に対しても開放し、図書館としての情報発信を行い、地域文化の進展に寄与した。

### ア 福島を生きる講座 (令和6年度は福島県立図書館森合移転40周年記念事業と併催)

世界的歴史学者・朝河貫一博士をはじめとしたふくしまの偉人や、魅力ある福島の今と未来の発信等、福島に関わる研究者等による、図書館資料を活用した講座やワークショップを実施している。

#### (ア) 第1回 「藤田浩子さんの語りの世界」

開催日 令和6年5月25日(土) 福島県立図書館

講師 幼児教育専門家 藤田 浩子

参加者 100名

#### (イ) 第2回 「ふくしまの建築の昭和—福島県立図書館が生まれたころ—」

開催日 令和6年7月27日(土) 福島県立図書館  
講師 日本大学工学部 建築学科 教授 速水 清孝  
参加者 65名

- (ウ) 第3回 「300年にわたる土地争い―大沼郡桑原村と宮下村の入会争論―」

開催日 令和6年9月21日(土) 福島県立図書館  
講師 公益財団法人福島県文化振興財団  
歴史資料課 主幹 山田 英明

参加者 38名

#### イ 県民講座

福島県立医科大学、法テラス福島など各関係機関との連携による講演会を実施している。

「親子に関する法律の最近の改正について」

開催日 令和6年10月19日(土)

講師 日本司法支援センター 法テラス福島法律事務所 弁護士 圓谷 徹

参加者 11名

#### ウ 衛生学予防医学講演会

福島県立医科大学衛生学・予防医学講座講演会

開催日 令和6年9月15日(日)

- (ア) 「質量分析ってなあに?～基本原理や医療分野での応用について」

講師 福島県立医科大学 医学部

衛生学・予防医学講座 学内講師 増石 有佑

- (イ) 「『アサーション』とは?―アサーティブ・コミュニケーションの基本―」

講師 福島学院大学福祉学部

福祉心理学科 小島 有里子

参加者 32名

#### エ イベント

- (ア) 「福島県立図書館見学探検ツアー」

開催日 令和6年4月27日(土)

参加者 6名

- (イ) 「森合移転40周年記念図書館見学ツアー&大人のためのミニおはなし会」

開催日 令和6年7月27日(土)

参加者 14名

- (ウ) 「ごろすけと一緒にクイズに挑戦! 福島県立図書館クイズラリー」

開催日 令和6年7月27日(土)～28(日)

参加者 114名

- (エ) 「福島県立図書館秋の見学探検ツアー(裏道さんぽVer.)」

開催日 令和6年11月2日(土)

参加者 9名

- (オ) 「長田弘文庫見学会」

開催日 令和6年11月2日(土)

参加者 4名

## 4 館外サービス

### (1) 移動図書館「あづま号」

移動図書館「あづま号」では、以下の目的により巡回事業を実施し、連携協力を図るとともに、合計23自治体及び8校に対して合計23,777冊の資料を貸出した。

#### ア 図書館未設置町村支援

図書館未設置町村における図書館活動の促進を図ることを目的に、資料の貸出しと公民館図書室等の運営相談を行った。また23自治体に巡回し、延べ22,273冊の資料を貸出した。

#### イ 避難自治体支援事業

東日本大震災等の影響により避難を余儀なくされ、図書館等の運営が困難な8自治体に対し、読書環境を改善することを目的に巡回し資料の貸出しと希望自治体へのおはなし会を行った。

公民館、認定こども園、小学校、中学校、デイサービスセンターに対して4,673冊を貸出した。

#### ウ 特別支援学校読書活動支援事業

日常的に図書館や読書施設、書店等の利用が困難な子どもたちの読書環境の向上を目的に、福島大学附属特別支援学校・石川支援学校・西郷支援学校・猪苗代支援・聴覚支援学校平校・郡山支援・ふたば支援・だて支援の8校を巡回し、延べ1,504冊の資料を貸出した。また、希望校へのおはなし会を開催した。

#### 移動図書館「あづま号」貸出状況・推移 (単位: 冊)

| 令和4年度  | 令和5年度  | 令和6年度  |
|--------|--------|--------|
| 22,234 | 22,768 | 23,777 |

### (2) 市町村援助のための支援貸出

大規模な図書館事業を行う市町村に対して、長期にわたり一括大量に資料の貸出しを行い、図書館・公民館図書室の読書・学習環境を支援した。

令和6年度の利用状況は次のとおりである。

|            |        |
|------------|--------|
| 川俣町教育委員会   | 370冊   |
| 桑折町教育委員会   | 1冊     |
| 会津美里町教育委員会 | 639冊   |
| 合 計        | 1,010冊 |

### (3) 福島県立図書館資料の譲与

再活用が十分見込まれる資料を、県内市町村教育委員会及び高等学校等に対し譲与し、図書館施設の蔵書の充実を支援した。令和6年度の利用状況は次のとおりである。

|            |      |
|------------|------|
| 広野町教育委員会   | 139冊 |
| 檜葉町教育委員会   | 30冊  |
| 玉川村教育委員会   | 552冊 |
| 猪苗代町教育委員会  | 133冊 |
| 西会津町教育委員会  | 313冊 |
| 会津美里町教育委員会 | 297冊 |
| 桑折町教育委員会   | 228冊 |
| 伊達市教育委員会   | 753冊 |
| 福島市教育委員会   | 74冊  |

|           |         |
|-----------|---------|
| 浅川町教育委員会  | 62 冊    |
| 喜多方市教育委員会 | 414 冊   |
| 北塩原村教育委員会 | 268 冊   |
| 磐梯町教育委員会  | 244 冊   |
| 白河市教育委員会  | 70 冊    |
| あさか開成高等学校 | 19 冊    |
| 西郷支援学校    | 18 冊    |
| 合 計       | 3,614 冊 |

#### (4) 只見線駅文庫

除籍資料を活用して、待ち時間や車内で自由に利用できる「只見線駅文庫」を令和元年10月からJR只見線の一部に設置している。

#### (5) 学校図書館活動支援貸出

県内高等学校及び県立特別支援学校の図書館活動の充実を図るために、長期にわたり一括大量に図書の貸出しを行い、学校図書館読書・学習環境の支援を行う。令和6年度は貸出の申込みはなかった。

#### (6) 広報資料の発行

ア 館報「あづま」

第73巻（通巻277）移転40周年記念号として令和6年の森合移転開館記念日にあたる7月22日に発行した。主たる掲載事項としては、「巻頭言 森合に移転して40年に」、「福島県立図書館移転後40年の歩み 年表で見る移転40年」、「移転40年 職員の声 福島県立図書館の在りよう—40年前といま—」等、当館ホームページへも掲載し情報を発信した。

イ 令和6年度版福島県公共図書館・公民館図書室実態調査報告書（データ版）

図書館活動の振興に資するため、県内公共図書館等の年間観覧日数や専任職員数、蔵書数、来館者数、登録者数、個人貸出数、電子書籍導入の有無などについて実態調査を実施し、報告書としてまとめ、当館ホームページへ掲載した。

ウ 福島県郷土資料情報

第65号を発行。特集として「福島県立図書館移転40周年記念事業」実施報告を掲載した。ほかに「福島を生きる講座」の実施報告、連載の「貴重郷土資料探照25」「福島県関係書誌の紹介2024」を掲載した。80部発行し、当館ホームページへも掲載する等、郷土の情報を発信した。

## 5 図書館協力

### (1) 相互協力と遠隔地返却、受取館指定サービス

協力貸出（市町村図書館への資料の貸出）、相互貸借（県内外の他館との資料の貸出・借受）、遠隔地返却（当館から借受け資料を他館に返却する。）サービスを行っている。

また、予約した資料を県内の図書館で受け取ることができる受取館指定サービスの利用は増加傾向になっており、市町村図書館を窓口とした遠隔地の県民へのサービス体制は強化されている。

### 相互貸借状況（単位：件/冊）

| 区 分 | 県 内   |       | 県 外 |     | 合 計   |       |
|-----|-------|-------|-----|-----|-------|-------|
|     | 件数    | 冊数    | 件数  | 冊数  | 件数    | 冊数    |
| 貸 出 | 1,017 | 3,503 | 325 | 474 | 1,342 | 3,977 |
| 借 用 | 214   | 344   | 73  | 106 | 287   | 450   |
| 小 計 | 1,231 | 3,847 | 398 | 580 | 1,629 | 4,427 |

### 相互貸借状況・推移（単位：冊）

| 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------|-------|-------|
| 4,315 | 4,894 | 4,427 |

遠隔地返却冊数・推移（利用者が来館し借受けた資料を県内の公立図書館に返却した冊数）（単位：冊）

| 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------|-------|-------|
| 6,242 | 6,681 | 7,614 |

### 受取館指定サービス状況・推移

|       | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 |
|-------|-------|-------|-------|
| 冊数（冊） | 1,799 | 1,710 | 2,617 |
| 件数（件） | 505   | 551   | 777   |

### (2) 学校図書館サポートセット貸出

県内の小・中学校における学校図書館活動を支援するため、授業の過程において利用することを目的に、希望するテーマに合わせて資料を選びセットにして貸出を行った。令和6年度の利用状況は、5校12セット（268冊）。

### (3) 図書館協力車事業

県内市町村図書館などの運営を支援するため、各館を定期的に巡回し、情報の収集と提供、運営に関する相談を行った。

また、協力貸出（資料の貸借）などの資料の搬送支援を行った。令和6年度は、18コースを編成し、35自治体と2高等教育機関、福島県議会図書室に対し巡回した。

### (4) 県内図書館職員研修会

県内図書館職員の資質向上と専門的知識の涵養を図るため、毎年行っている。

ア 福島県図書館・公民館図書室職員等初任者研修会

(ア) テーマ

- 講義 ①「図書館の基礎」（動画研修）  
 ②「学校図書館の目指すもの～その役割を考える～」  
 ③「子どもと絵本を結ぶ～その意義と役割～」  
 （動画研修）  
 ④「図書館業務の実際」（動画研修）

(イ) 期 日 令和6年5月31日（金）（講義①③④は6月28日（金）までオンデマンド）

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員等 61名

(オ) 講 師 ②：義務教育課指導主事 松山 秀和  
 ①、②、③：福島県立図書館職員

イ 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会

※福島県図書館研究集会（福島県公共図書館協会事業）  
と併催（ハイブリット・講師はオンライン）

- (ア) 期 日 令和6年10月25日(金)  
(イ) 会 場 福島県立図書館  
(ウ) 参加者 県内図書館・公民館図書室職員等 51名  
(エ) 内 容

**第1部 福島県図書館・公民館図書室職員等専門研修会**  
講 演 「図書館が『まちづくり』へ貢献するために必要なものとは何か」

講 師 田原市図書館 館長 是住 久美子

## 第2部 福島県図書館研究集会

- a 県内図書館・公民館図書室実践報告  
(a) 須賀川市中央図書館 館長 岩崎 弘幸  
(b) 会津美里町図書館 司書 矢留 麻須美  
(c) 新地町図書館 副主幹兼管理係長兼司書  
佐藤 美千代

- b パネルディスカッション  
「福島県の図書館とまちづくり」  
コーディネーター  
白河市立図書館 館長 中沢 孝之  
パネリスト

須賀川市中央図書館 館長 岩崎 弘幸  
会津美里町図書館 司書 矢留 麻須美  
新地町図書館 副主幹兼管理係長兼司書  
佐藤 美千代

## ・グループディスカッション

### ウ 福島県図書館初任者職員実務研修会（集合）

- (ア) 期 日 令和6年6月12日(水)～13日(木)  
(イ) 会 場 福島県立図書館  
(ウ) 参加者 8名  
(エ) 講 師 福島県立図書館職員

### エ 福島県内児童書担当職員研修会（集合）

- (ア) テーマ 「ステップアップ・よみきかせのきほん～乳  
幼児から小学3・4年～」  
(イ) 期 日 令和6年9月26日(木)  
(ウ) 会 場 福島県立図書館  
(エ) 参加者 県内図書館・学校図書館・公民館図書室職員  
等 44名  
(オ) 講 師 公益財団法人東京子ども図書館  
代表理事 小関 知子

## (5) 県内大学図書館間との連携

県内の大学図書館及び公共図書館間における、「図書館資料の相互貸借」「複写」「参考業務」及び「一般社会人への共通利用証発行」等の協力体制を推進するため、“福島県内大学図書館連絡協議会”の公共図書館唯一の加盟館として、「福島県内大学図書館間相互利用制度」の維持に努めた。

同協議会には、県立図書館のほか、県内20の自治体の図書館が参加館として参加している。

さらに、福島大学附属図書館及び福島県立医科大学附属学術情報センター図書館とは、相互協力のための「ふくふ

くネット」を締結しており、それに基づき活動を行った。

また、福島県立図書館が幹事館として第31回福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会をオンライン開催した。

- (ア) 講演 「地域を支える図書館の役割 館種を超えた連携に向けて」

(イ) 期 日 令和6年12月19日(木)

(ウ) 会 場 福島県立図書館

(エ) 参加者 36名

(オ) 講 師 愛荘町立愛知川図書館長・  
秦荘図書館長 三浦 寛二

## 第12節 福島県立美術館

### 1 概要

昭和59年に開館した福島県立美術館は、さまざまなテーマに基づく展覧会、創作や芸術鑑賞のための各種講座等の事業を実施している。また、文化財としての美術作品の収集保存、美術や地域の芸術運動に関する調査研究を継続的に実施している。これらの活動を基盤に、美術の情報センターとしての機能を担っている。

令和6年度の美術館活動の概要は次のとおりである。

### (1) 美術館運営協議会

#### ア 委員

|       |                                                        |
|-------|--------------------------------------------------------|
| 大槻 佐恵 | 福島県中学校教育研究会美術専門部所属<br>(令和5年1月1日～)                      |
| 伊藤沙緒里 | 福島県高等学校教育研究会美術工芸部会所属<br>(令和7年1月1日～)                    |
| 鈴木 淳一 | 公益財団法人福島県文化振興財団理事長兼<br>福島県文化センター館長<br>(令和4年4月23日～) ※会長 |
| 佐藤 育子 | 福島県家庭教育インストラクター<br>(令和5年1月1日～)                         |
| 齋藤 勝正 | 福島県美術家連盟顧問<br>(平成29年1月1日～)                             |
| 塩塚 圭輔 | 日本放送協会福島放送局長<br>(令和6年10月12日～)                          |
| 岡部 兼芳 | はじまりの美術館長<br>(令和3年1月1日～)                               |
| 笠原美智子 | 長野県立美術館長<br>(令和3年1月1日～)                                |
| 田村奈保子 | 福島大学行政政策学類教授<br>(令和7年1月1日～) ※副会長                       |
| 舟木 藤弘 | 福島県立美術館友の会副会長<br>(平成29年1月1日～)                          |

#### イ 協議会の開催

- (ア) 期日 令和7年2月27日(木)  
(イ) 内容 ・令和6年度事業の概要  
・令和7年度事業計画案の概要

## (2) 他館等との連携

県内外の博物館施設及び全国組織等との連携を図り、運営・事業等に関する情報交換や研修等を実施した。

- 加盟団体 ・ 全国美術館会議 (会員)  
・ 日本博物館協会 (会員)  
・ 日本博物館協会東北支部 (会員)  
・ 東北地区博物館協会 (会員)  
・ 福島県博物館連絡協議会 (理事)

## 2 美術品の収集・保存

優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、文化財を保存継承するために、コレクション（収蔵作品）の収集活動を継続的にを行っている（ただし平成 22 年度以降、作品購入実績はない）。

### (1) 収蔵作品点数（令和 7 年 3 月 31 日現在）

|       |         |
|-------|---------|
| 海外作品  | 450 点   |
| 日本画   | 396 点   |
| 洋 画   | 964 点   |
| 版 画   | 1,781 点 |
| 立 体   | 167 点   |
| 工 芸   | 201 点   |
| 書     | 39 点    |
| 素描・下絵 | 226 点   |
| 写真    | 411 点   |
| 作品合計  | 4,635 点 |
| 美術資料  | 78 件    |

### (2) 収集評価委員会

#### ア 委員

|       |                                     |
|-------|-------------------------------------|
| 中山 恵理 | 郡山市立美術館主査<br>(令和元年 12 月 1 日～)       |
| 松下 由里 | 群馬県立近代美術館学芸担当課長<br>(令和元年 12 月 1 日～) |
| 水沢 勉  | 神奈川県立近代美術館館長<br>(令和元年 12 月 1 日～)    |
| 濱崎 礼二 | 宮城県美術館副館長<br>(令和 3 年 12 月 1 日～)     |
| 西山 純子 | 千葉市美術館学芸課長<br>(令和 3 年 12 月 1 日～)    |

#### イ 委員会の開催

- (ア) 期日 令和 6 年 12 月 20 日(金)  
(イ) 内容 ・ 令和 5 年度収集作品の報告  
・ 令和 6 年度収集候補作品

### (3) 図書資料の収集

収蔵図書数 66,811 冊

### (4) 保存管理

美術品の状態を維持回復し、美術品の保管・展示の環境を良好に保つために、計画的に美術品の修復や館内の保存環境調査を実施している。

- ア 保存環境調査の実施(虫菌害モニタリングと環境測定)  
時期 令和 6 年 6 月 3 日(月)～17 日(月)

8 月 9 日(金)～21 日(水)

内容 展示室、収蔵庫、搬入口及びその他の館内外の虫菌害調査、酸アルカリ濃度測定等

#### イ 美術品の修復

今井玉芳《[猫之図]》、小林古径《羅浮仙》、土橋 醇《[無題]》2 点、同《Conpostion》、班目秀雄《つばきの森》、同《洞門 朝 足摺》を修復した。また、内田あぐり《ロマノフの海》の修復、朝倉撰《瓜子姫とあまんじゃく》の額交換を行った。

#### ウ 敷地内の放射線測定

- (ア) 時期 年 3 回測定  
(イ) 場所 美術館内及び敷地内 計 8 か所

## 3 展示事業

### (1) 常設展

収蔵及び寄託の美術作品を展示している。美術の多様な領域や数多くの作家を紹介するとともに、作品の状態の保全に配慮して、年 4 回（版画は年 7 回）展示替えを行っている。

#### ア 第Ⅰ期コレクション展

令和 6 年 3 月 23 日(土)～7 月 22 日(月)

- (ア) プレイバック！福島の美術家たち  
米倉兌、橋本堅太郎、田口安男、滝田項一ほか  
(イ) 関根正二と大正期の洋画  
安井曾太郎、岸田劉生、木村莊八、関根正二ほか  
(ウ) 海外作品の名品  
クロード・モネ、パブロ・ピカソ、アンドリュウ・ワイエスほか  
(エ) 斎藤清の木版画  
斎藤清《舞妓、京都 (M)》ほか  
(オ) 掌の版画  
昭和初期の版画雑誌『版芸術』ほか

#### イ 第Ⅱ期コレクション展

令和 6 年 8 月 3 日(土)～9 月 16 日(月・祝)

- (ア) シェアしよう！関根正二と近代の美術  
高橋由一、今村紫紅、三木宗策ほか  
(イ) 石田智子、佐藤多持、小泉智英  
石田智子《松老雲閑》ほか  
(ウ) 海外の版画  
マルク・シャガール 版画集《死せる魂》ほか  
(エ) 40 年前の美術—1980 年代の形象  
橋本章、龔嘔、李禹煥ほか  
(オ) 生誕 90 年・秀島由己男  
秀島由己男《靈歌〈ベトナム〉》ほか

#### ウ 第Ⅲ期コレクション展

令和 6 年 10 月 12 日(土)～12 月 15 日(日)

- (ア) 県美の近代美術  
関根正二、松本竣介、勝田蕉琴、佐藤玄々、ベン・シャーン、カミーユ・ピサロほか

- (イ) 佐藤潤四郎のガラス  
佐藤潤四郎《玻璃花器》ほか
- (ウ) 生誕 100 年 伊砂利彦・志村ふくみ  
《水の戯れ》、《磯なれ松》ほか
- (エ) 没後 10 年 辰野登恵子  
辰野登恵子《May-7-91》ほか
- (オ) 特集  
横尾忠則、ヤノベケンジ、小沢剛：横尾忠則《聖シャンバラ》ほか
- (カ) 西洋の名作版画  
ジョルジュ・ルオー《版画集『流れる星のサーカス』》ほか

## エ 第Ⅳ期コレクション展

令和 7 年 1 月 7 日(火)～3 月 9 日(日)

- (ア) 県美の近代美術  
松林雪貞《菊図》、吉井忠ほか
- (イ) 絵本を描いた芸術家  
佐藤忠良、朝倉摂、元永定正ほか
- (ウ) 新収蔵作品紹介金咲淑  
金咲淑《交差する点》ほか
- (エ) フランス印象派の絵画  
ルノワール《帽子を被る女》ほか
- (オ) ベン・シャーンとアメリカ美術  
ベン・シャーン《ラッキードラゴン》ほか

## オ 常設トーク

- (ア) 6 月 16 日(日)11 時～11 時 40 分  
担当 宮武弘(主任学芸員)  
参加者数 18 名
- (イ) 8 月 18 日(日)11 時～11 時 40 分  
担当 伊澤文彦(学芸員)  
参加者数 17 名
- (ウ) 11 月 17 日(日)11 時～11 時 40 分  
担当 紺野朋子(主任学芸員)  
参加者数 14 名
- (エ) 2 月 16 日(日)11 時～11 時 40 分  
担当 山口菜月(学芸員)  
参加者数 15 名

## カ ゲストトーク

- (ア) 9 月 8 日(日)14 時～14 時 30 分  
林範親氏(造形作家・当館収蔵作品作家)  
参加者数 15 名
- (イ) 10 月 20 日(日)15 時～15 時 30 分  
石田智子氏(美術家・当館収蔵作家)  
参加者数 42 名
- (ウ) 2 月 8 日(土)14 時～14 時 40 分  
金咲淑氏(美術家・当館収蔵作家)  
参加者数 20 名
- (エ) 3 月 8 日(土)14 時～14 時 40 分  
安藤榮作氏(彫刻家・当館収蔵作家)  
参加者数 20 名

## (2) 企画展

令和 6 年度は 6 回の企画展を開催し、国内外の様々な芸術文化を紹介した。

## ア 美人画の雪月花 培広庵コレクション展

(ア) 会期 令和 6 年 3 月 23 日(土)～5 月 12 日(日)

開催日数 44 日(R6 年度は 36 日)

- (イ) 分野 日本画
- (ウ) 展示数 167 点
- (エ) 主催 福島県立美術館
- (オ) 観覧料 一般・大学生 1,000(800)円  
高校生 600(500)円  
小・中学生 400(300)円  
※( )内は 20 名以上の団体料金
- (カ) 観覧者数 5,524 名(R6 年度は 4,538 名)
- (キ) 概要

本展は、長い年月と情熱をかけて「美人画」を蒐集してきた培広庵氏のコレクションから、上村松園や北野恒富、島成園、土田麦僊、菊池契月ら京都大阪の画家や、浮世絵の流れをくむ鐙木清方や門下の伊東深水、山川秀峰ら、東西美人画の名品 167 点を特別公開する。大正から昭和初期の、「夢二美人」に代表されるどこか憂いを含んだ女性像や、モダンなライフスタイルを反映した「新しい女」たちの様子が垣間見られ、展覧会をとおして時代と世相、女性美の変化を楽しめる内容であった。

## (ク) 関連事業

### a 特別ゲストトーク

講師 培広庵氏(本展出品作品コレクター)

日時 4 月 14 日(日)13 時 30 分～15 時

場所 福島県立美術館企画展示室

参加者数 53 名

### b 特別講演会「美人画と装い」

講師 田野葉月(尼崎市文化振興財団 チーフキュレーター)

日時 4 月 27 日(土)13 時 30 分～15 時

場所 福島県立美術館講堂

参加者数 47 名

### c ギャラリートーク

5 月 3 日(金・祝)13 時 30 分～14 時 30 分

担当 月本寿彦(副主任学芸員)

参加者数 41 名

## イ 福島県立美術館開館 40 周年記念展 福島的美術家たち 2024

(ア) 会期 令和 6 年 5 月 25 日(土)～7 月 22 日(月)

開催日数 51 日間

- (イ) 分野 日本画、洋画、版画、立体、工芸
- (ウ) 展示数 作品 147 点
- (エ) 主催 福島県立美術館
- (オ) 観覧料 一般・大学生 800(600)円

高校生 400 (200) 円

小・中学生 200 (100) 円

※( )内は 20 名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 4,962 名

(キ) 概要

県立美術館では「福島の美術家たち」展を 1987 年、1989 年、1991 年と 3 回にわたって開催し、本県出身・ゆかりの美術家を紹介してきた。その後も個展やグループ展形式による県作家紹介を続けてきたが、前回展から 30 年以上が経過し、作家の世代交代も進んでいることから、開館 40 周年を機に改めて現代の県作家を展示紹介した。日本画・洋画・版画・立体・工芸の各ジャンルから計 40 名を選出、同時代に活動する優れた県作家の作品を展覧した。

(ク) 関連事業

- ・記念鼎談「福島の美術家たち～これまでとこれから」  
出演 齋藤勝正氏（日本画家）、酒井昌之氏（洋画家）、  
早川博明氏（当館元館長）

司会 増渕鏡子（副館長心得）

日時 5 月 25 日（土）14 時～15 時 30 分

場所 福島県立美術館講堂

参加者数 62 名

## ウ 福島県立美術館開館 40 周年記念展 みんなの福島県立美術館その歩みとこれから

(ア) 会期 令和 6 年 8 月 3 日（土）～9 月 16 日（月・祝）  
開催日数 39 日間

(イ) 分野 海外作品、日本画、洋画、版画、立体、工芸  
ほか

(ウ) 展示数 作品 131 点、資料 48 点

(エ) 主催 福島県立美術館

(オ) 観覧料 一般・大学生 600 (480) 円  
高校生 300 (200) 円  
小・中学生 200 (100) 円

※( )内は 20 名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 3,913 名

(キ) 概要

1984 年 7 月に開館した福島県立美術館は 40 周年を迎えた。当初 600 点にも満たなかったコレクションは、その後の活動の中で数を増やしていき、現在は 4,000 点以上に上る。本展では、美術館のこれまでの歩みをコレクションや当時の資料とともに振り返り、また、美術館の活動や仕事についても紹介を行い、美術館のこれからについて来館者とともに考える機会とした。

(ク) 関連事業

- a 講演会「絵のこと、生きること—私の『美術館』論—」

講師 窪島誠一郎氏（戦没画学生慰霊美術館「無言館」館主）

日時 8 月 10 日（土）14 時～15 時 30 分

場所 福島県立美術館講堂

参加者数 70 名

- b 講演会「福島県立美術館—コレクション事始め」  
講師 早川博明氏（当館元館長）

日時 9 月 1 日（日）14 時～15 時 30 分

場所 福島県立美術館講堂

参加者数 60 名

- c ギャラリートーク

9 月 7 日（土）14 時～15 時

担当 紺野朋子（主任学芸員） 齋藤恵（主任学芸員）

参加者数 24 名

## エ ポップ・アート 時代を変えた 4 人

(ア) 会期 令和 6 年 10 月 26 日（土）～12 月 15 日（日）  
開催日数 44 日

(イ) 分野 版画、グラフィックデザイン、服飾、写真

(ウ) 展示数 138 点

(エ) 主催 「ポップ・アート」福島展実行委員会

[構成：福島県立美術館、福島テレビ、福島民報社]

後援 米国大使館、スペイン大使館、福島県、福島県教育委員会、福島市、福島市教育委員会、福島リビング新聞社

特別協賛 福島トヨタ自動車

協力 日本航空、福島交通、仙台放送、さくらんぼテレビ  
企画協力 ブレーントラスト

(オ) 観覧料 一般 1,500 (1,300) 円

大学生 1,000 (800) 円

小・中・高校生 600 (500) 円

※( )内は 20 名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 11,753 名

(キ) 概要

ポップ・アートは、報道写真、商業広告、量販品のパッケージ、著名人のポートレートなど、日常生活にありふれたモチーフやイメージを美術の中に取り入れ、1960 年代のアメリカのアートシーンを席卷した美術運動である。ロイ・リキテンスタイン（1923-1997）、アンディ・ウォーホル（1928-1987）、ロバート・ラウシェンバーグ（1925-2008）、ジャスパー・ジョーンズ（1930-）はポップ・アートを牽引したアメリカを代表する作家たちである。本展はスペイン出身のコレクター、ホセリス・ルベレス氏のコレクションから 138 点の版画、ポスター、服飾品を本邦初公開した。同じ 1960 年代に脚光を浴びたザ・ビートルズの愛称になぞらえて、本展で「ザ・ファビュラス・フォー（素晴らしき 4 人）」と呼ぶリキテンスタイン、ウォーホル、ラウシェンバーグ、ジョーンズの作品を中心に、ポップ・アートの軌跡を紹介した。

（巡回先：北九州市立美術館、山梨県立美術館、富山県美術館、三重県立美術館）

(ク) 関連事業

- a 講演会「ラウシェンバーグからポップ・アートへ—戦後アメリカ美術の光と影—」

講師 池上裕子氏（大阪大学教授）

日時 12月1日(日)13時～14時30分

場所 福島県立美術館講堂

参加者数 60名

b ギャラリートーク

(a) 日時 11月30日(土)14時～15時

担当 濱田洋亮(学芸員)

参加者数 65名

日時 12月7日(土)14時～15時

担当 山口菜月(学芸員)

参加者数 60名

(b) 日時 12月15日(日)10時30分～11時30分

担当 濱田洋亮(学芸員)

参加者数 60名

c 「思い出を写して物語をつくろう」

講師 齋藤恵(主任学芸員) 白木ゆう美(主任学芸員)

濱田洋亮(学芸員) 山口菜月(学芸員)

日時 11月24日(日)10時～12時30分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 18名

d THE COFFEE' S Chapter3～風韻～

(a) 概要

福島県の魅力の発信をコンセプトに、県内外の自家焙煎コーヒー店や飲食店、雑貨店が集まるコーヒーフェスティバルを美術館庭園広場で行った。本展の中心となる4名の作家をそれぞれイメージしたコーヒーを販売したほか、本展観覧券によるコーヒーの割引を行った。

(b) 共催 THE COFFEE' S 実行委員会

(c) 日時 11月16日(土)、17日(日)2日間

(d) 参加人数 1日目2,400名 2日目2,600名

e ナイトミュージアム

(a) 日時 11月2日(土)～3日(日)

参加者数 73名

(b) 日時 12月7日(土)～8日(日)

参加者数 48名

オ 日本中の子どもたちを笑顔にした絵本作家 かがくいひろしの世界展

(ア) 会期 令和7年1月25日(土)～3月9日(日)

開催日数 37日

(イ) 分野 絵画、立体、資料

(ウ) 展示数 絵本原画239点、資料613点

(エ) 主催 福島県立美術館

特別協力：加岳井久美子、渡辺直子、加岳井武志、プロンズ新社、沖本敦子、山崎敬三

協力：講談社、PHP 研究所、佼成出版社、教育画劇、偕成社、玄光社、白泉社、特種東海製紙、絵本ナビ、人形劇団プーク、ロバの音楽座、福島大学、福島学院大学、福島県立図書館

(カ) 観覧料 一般・大学生600(500)円

中・高校生：300(200)円

小学生以下：無料

※( )内は20名以上の団体料金

(カ) 観覧者数 41,149名

(キ) 概要

絵本「だるまさん」シリーズは、刊行からわずか16年で、累計発行部数1,000万部を越えている。作者・かがくいひろしは50歳にして遅咲きの絵本作家デビューを果たした後、54歳で急逝するまでの4年間で16作品を次々と描きあげた。かがくいは特別支援学校のベテラン教員であり、『だるまさんが』をはじめとする絵本は、障がい児教育の現場経験から生み出されたものであることはあまり知られていない。没後初めて彼の軌跡をふりかえる本展では、絵本原画やアイデアノートとともに、教員時代に手がけた教材や人形劇の貴重な記録をひもとき、日本中の子ども達を笑顔にし続けているかがくい絵本のルーツを紹介した。

(巡回先：イルフ童話館、花巻市博物館、香美市立やなせたかし記念館、八王子市夢美術館、みやざきアートセンター、四日市市立博物館、秋田県立近代美術館、北海道立旭川美術館、静岡市美術館)

(ク) 関連事業

a 講演会「かがくいひろしー『マイ・フェイバリット』から見えてくるものー」

講師 水島尚喜氏(聖心女子大学教授、本展監修者)

日時 1月25日(土)14時～15時30分

場所 福島県立美術館講堂

参加人数 110名

b 講演会「かがくいひろしの絵本づくりのひみつ」

講師 沖本敦子氏(子どもの本の編集者、かがくいひろし担当編集者)

日時 2月9日(日)14時～15時30分

場所 福島県立美術館講堂

参加人数 129名

c ちいさなはなしかい

日時 ①1月29日(水)10時～10時30分

②2月5日(水)10時～10時30分

対象 0才～3才ごろの子どもと、その保護者

協力 福島県立図書館

参加人数 ①129名 ②70名

d 創作プログラム「親子でだるまさんをえがこう」

日時 2月2日(日)①10時～12時

②14時～16時

対象 5才～小学生とその保護者

①②それぞれ8組まで

参加人数 ①16名 ②14名

e 大学生による人形劇上演会

協力 人形劇団プーク、国立大学法人福島大学、福島学院大学

日時 2月22日(土)、2月23日(日)

※各日3公演

- ① 11 時～11 時 30 分
- ② 13 時 30 分～14 時
- ③ 15 時～15 時 30 分

参加者数 2 月 22 日 ① 150 名② 150 名③ 150 名  
2 月 23 日 ① 200 名② 200 名③ 200 名

指導 人形劇団ブーク 栗原弘昌、川尻麻美夏

出演学生 12 名

制作協力 渡邊晃一（福島大学 人間発達文化学類芸術・表現コース 教授）

鈴木美樹（福島学院大学福祉学部こども学科 准教授）

堀川佳子（「かがくいひろしの世界展」企画制作）

特別協力 水島尚喜（聖心女子大学教授、「かがくいひろしの世界展」監修者）

f エントランスホール展示「アートだるま～「風月の芸術祭 in 白河 2024」より～」

出品作家 吾子 可苗、荒井 経、飯野 和好、伊藤 有  
壺、大竹 京、岡村 桂三郎、黒沼 令、鴻  
崎 正武、小松 美羽、五味 太郎、柴崎恭  
秀、鈴木 美樹、福井 利佐、船井 美佐、  
渡邊晃一

会期 2 月 1 日（土）～28 日（金）

協力 福島大学 芸術による地域創造研究所、風月の  
芸術祭実行委員会、白河だるま総本舗渡辺だ  
るま店、おしだアート工房

## カ THE 新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦

(ア) 会期 令和 7 年 3 月 22 日（土）～5 月 25 日（日）  
開催日数 令和 6 年度 8 日 令和 7 年度 48 日

(イ) 分野 版画、資料

(ウ) 展示数 版画 183 点、資料 4 点

(エ) 主催 福島県立美術館

特別協力 渡邊木版美術画舗

企画協力 株式会社アートワン

(オ) 観覧料 一般・大学生 1,000（800）円  
高校・大学生 600（500）円  
小・中学生 400（300）円  
※（ ）内は 20 名以上の団体料金

(カ) 概要

渡邊庄三郎（1885-1962）は、17 歳で横浜の浮世絵商の輸出の出店に勤め、そこで出会った浮世絵の、とりわけパレンで摺る木版画特有の美しさに魅了された。自ら版元となって独立し、浮世絵研究と販売を行うかたわら、来日した外国人画家の作品を版画化するなど新たな試みを行った。そうした経験をもとに、伊東深水や川瀬巴水など鐫木清方門下の新進気鋭の画家たちとともに、江戸時代に確立された絵師、彫師、摺師の協業体制を踏襲しつつも、高品質な材料を用いて、幾度も摺りを重ね、「ざら摺り」という手摺りならではの技法を取り入れた、それまでに無い「新版画」を創始して世に送った。新版画は昭和の初めごろまで国内外で高い人気を誇

り、近年再注目を集めている。

本展覧会では、渡邊木版美術画舗の全面的な協力のもと、残存数が少ない貴重な初摺の渡邊版約 180 点を通して、渡邊庄三郎の挑戦の軌跡をたどりながら、今なおモダンで瑞々しい新版画の魅力を紹介した。

（これまでの開催館：ひろしま美術館、茅ヶ崎市美術館、高知県立美術館、美術館「えき」KYOTO、弘前市立博物館、島根県立美術館、水野美術館、秋田県立近代美術館、うらわ美術館）

(キ) 関連事業

a ギャラリートーク

講師 月本 寿彦（副主任学芸員）

日時 3 月 29 日（土）

13 時 30 分～14 時 30 分

参加者数 27 人

b 新版画×プラネタリウム

星空ナビゲーター 杉中 慎

日時 3 月 23 日（日）①13 時～②14 時～③15 時～

場所 エントランスホール

協賛 あぶくまロマンチック街道構想推進協議会

参加者数 ①27 人 ②24 人 ③21 人

c 創作プログラム 木版画摺師とともに多色摺り体験

講師 渡邊章一郎氏（渡邊木版美術画舗代表取締役）、

林 勇介氏（渡邊版画店専属摺師）

日時 3 月 30 日（日）13 時～15 時 30 分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 17 人

## (3) 動画配信等による情報発信

展覧会や教育普及事業など、美術館の事業を幅広い世代へ即時効果的に発信するため、広報印刷物の発行のほか、ホームページ、ブログ、教育委員会公式 note、ふくしまポータルをはじめ、X（旧 Twitter）、YouTube、Instagram など、SNS を活用した情報発信を行った。

広報印刷物：ミュージアムカレンダー、「美術館 NEWS」年 6 回、美術館年報、企画展ポスター・チラシ等

SNS 発信：ブログ投稿 3 回（教育普及事業の紹介）、YouTube 動画 13 本（企画展の紹介等）、X（旧 Twitter）フォロワー 2,256 人、Instagram フォロワー 2,351 人

## 4 調査研究事業

調査研究は美術館活動の基礎をなし、また広く県民に対して美術の情報センター機能を果たすためにデータ集積が欠かせない。県内外の美術家や作品の調査、教育普及、保存、展示等の調査を継続的に実施した。

令和 6 年度は県内の美術品調査と、県内出身作家やゆかりの作家、收藏作家の調査を重点的に行った。

また、学芸員による研究の成果をまとめた研究紀要第 8 号を発行した。

## 5 教育普及事業

美術をより深く知る喜びを得る機会を提供する事業として、さまざまな講座を開催した。また、つくる楽しみを経験する契機として、各種の実技講座や、学校と連携しての出張講座等を行った。

### (1) 館内解説

学校や公民館その他の団体での鑑賞者のために、鑑賞前に学芸員が美術館の概要、鑑賞マナー、代表的な収蔵作品の解説、常設展示や企画展示の概要等のガイダンスを行った。

令和6年度の受入団体総数は106団体3,033人で、そのうち解説を行ったのは53団体1,710人であった。

### (2) 鑑賞講座

#### ア トークフリーデー

「トークフリーデー」とは、展示室内での声の大きさを気にせず鑑賞を楽しんでもらえる日として設定した。小さな子どもや高齢者の方、障がいのある方など、どんな方にも美術館を楽しんでもらえるよう声の大きさを気にしない日として常設展・企画展ともに実施した。家族や友人と一緒にぜひ作品の感想を話しながらお気軽に鑑賞を楽しんでもらえるように、会話の糸口になるワークシートや「おみくじキューブ」のくじなどを展示室入り口に設置した。

日時 5月5日(日)、9月16日(月・祝)、11月3日(日)

#### イ こどもミュージアムツアー

親子や未就学児等向けに、館内や展示室を紹介するツアーを実施した。ツアーの最後に参加記念の缶バッジを作成した。

講師 白木ゆう美(主任学芸員)、齋藤恵(主任学芸員)

日時 5月5日(日)10時～10時40分

参加者数 15名

#### ウ アートキューブでにぎやか鑑賞会

「アートキューブ」の中の「おみくじキューブ」や「素材キューブ」、「感覚キューブ」などを用い、展示室内で対話しながら鑑賞を楽しむ会を実施した。

講師 齋藤恵(主任学芸員)、白木ゆう美(主任学芸員)

日時 ①8月24日(土) ②8月25日(日)

③9月16日(月・祝) ④11月3日(日)

場所 ①～③福島県立美術館企画展示室、④同館常設展示室

参加者数 ①4名 ②3名 ③6名 ④9名

### (3) 創作プログラム

実技教室は、広く県民各層の美術に関する関心をふまえ、美術の創作と鑑賞の一助とする目的で、子どもから大人まで幅広い対象に応じたプログラムを実施した。

ア 「日本画でお部屋を彩るミニ屏風づくり」(「美人画の雪月花展」関連)

講師 末永敏明氏(日本画家・東北芸術工科大学教授)

日時 4月20日(土)10時～15時30分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 16名

イ 「色であそぼうオリジナルバッジづくり」

講師 齋藤恵(主任学芸員)、白木ゆう美(主任学芸員)

日時 5月5日(日)15時～16時

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 19名

ウ 「40周年記念 エアドームで信夫山を作ろう」(美術館協力会関連)

講師 塩川 岳氏(アートコミュニケーター)

日時 6月2日(日)10時～14時

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 14名

6月2日(日)～6月16日(日)

8月3日(土)～9月16日(月・祝)の期間、美術館協力会と連携して鑑賞環境を整備し、エントランスホールに創作したエアドームを展示した。

エ 「美しきタペストリー ～積み重なるストーリー～」

講師 橋本圭也氏(東京藝術大学美術学部工芸科染織研究室 教授)

日時 7月13日(土)10時～16時

7月14日(日)10時～13時 ※2日連続

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 11名

オ 「夏休み! 藍染め体験!!」

講師 白木ゆう美(主任学芸員)、齋藤恵(主任学芸員)

日時 8月17日(土)10時～11時30分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 18名

カ 「コレクションマグネットをつくろう」

講師 齋藤恵(主任学芸員) 白木ゆう美(主任学芸員)

日時 ①8月24日(土)14時～16時

②8月25日(日)11時～12時

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 ①18名 ②15名

キ 「ピカピカ! 埋もれ木体験」

講師 林範親氏(造形作家・当館収蔵作家)

日時 9月8日(日)10時～12時

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 16名

ク 「紙々の横顔」

講師 石田智子氏(美術家・当館収蔵作家)

日時 10月20日(日)10時～14時30分

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 15名

ケ 「思い出を写して物語をつくろう」※再掲(ポップアート展関連事業)

講師 齋藤恵(主任学芸員) 白木ゆう美(主任学芸員)  
濱田洋亮(学芸員) 山口菜月(学芸員)

日時 11月24日(日)10時～12時30分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 18名

コ 「マーブリングでとびだすカードづくり」

講師 齋藤恵(主任学芸員) 白木ゆう美(主任学芸員)

日時 12月8日(日)10時～12時

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 17名

サ 「年賀状づくりコーナー（特設ワークショップ）」

日時 11月30日(土)～12月15日(日)

期間中9時30分～17時

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 延べ216名

シ 「親子でだるまさんをえがこう」※再掲（かがくいひろし展関連事業）

講師 齋藤恵（主任学芸員）白木ゆう美（主任学芸員）

日時 2月2日(日)①10時～12時

②14時～16時

場所 福島県立美術館実習室、エントランスホール

参加者数 ①16名 ②14名

ス 「木版画摺師(すりし)とともに多色摺り体験」（新版画展関連事業）

講師 渡邊章一郎氏（渡邊木版美術画舗代表取締役）、林 勇介氏（木版画摺師）

日時 3月30日(日)13時～15時30分

場所 福島県立美術館実習室

参加者数 小学生の親子8組17名

#### (4) 美術館への年賀状展

県内の小・中・高校生から寄せられた手作り年賀状をすべてエントランスホールに展示した。

- ・会期 令和7年1月12日(日)～1月31日(金)
- ・応募総数 132通
- ・観覧者数 2,266名

#### (5) 美術館・学校教育連携事業

ア 学校連携共同ワークショップ

学校からの要望をもとに平成15年度より実施している連携事業。子どもたちが作家と触れ合う生の機会として、作家・学校・美術館の共同による創作活動を中心にした「出張ワークショップ」を開催した。この事業により相互の協力関係を密にし、新鮮な体験を通して子どもたちの美術や美術館への関心を高めるとともに、通常は美術館を利用しにくい地域へも文化活動を通じて地域社会への貢献を図った。

令和6年度は、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・適応指導教室・生涯学習センター合わせて10校（参加者延べ405名）で開催した。ワークショップで制作した作品は、令和7年1月7日(火)～1月19日(日)の期間、当館企画展示室Bにおいて、活動中のスナップ写真とあわせて展示した。

- (ア) a 講師 小原風子氏（画家・絵本作家）
- b プログラム：イマジネーション遊び ～じーっと覗いてみてみよう～
- c 内容：葉っぱや石ころ、野菜、光と影、などの身近なものをきっかけに想像力をふくらませて表現する活動。学校の実態に応じて、学校ごとに内容

が異なる活動となった。

d 開催校・人数

- (a) 小野町立小野小学校（3年生）  
10月17日(木)52名
- (b) 北塩原村立さくら幼稚園（年少・年中・年長）  
10月22日(火)23名
- (c) 矢吹町立矢吹中学校（美術部）  
10月26日(土)16名
- (d) 郡山市立行徳小学校（3年生）  
10月29日(火)54名
- (e) 福島市教育委員会教育研修課（ふれあい教室）  
10月31日(木)9名  
11月1日(金)10名  
11月7日(木)10名

(イ) a 講師 佐藤忠博氏（彫刻家）

b プログラム：木で自分の好きなものを表現しよう

c 内容：小さな木っ端をグルーガンでくっつけて作品を作る活動を行った。小学校では個人での作品作り、中学校ではグループでモビールにした。特別支援学校では木の球体に造形したものを貼り付ける「惑星」を制作した。

d 開催校・人数

- (a) 二本松市立安達中学校（1年生）  
9月2日(月)31名  
9月3日(火)27名  
9月4日(水)27名
- (b) いわき市立磐崎小学校（3年生）  
9月10日(火)94名
- (c) 福島県立会津支援学校竹田校  
9月24日(火)2名
- (e) 郡山市立御館中学校（1～3年生）  
11月11日(月)35名
- (f) 会津若松市立第二中学校（美術部）  
11月16日(土)15名

イ 先生と考える美術館ミーティング

小学校図画工作、中学校・高等学校美術の鑑賞指導について、講座を開催する福島県教育センターと連携しながら、学校における美術館の活用方法を考えた。

令和6年度は、下記のとおり講座を開催した。

日時 11月8日(金)9時50分～16時

場所 福島県立美術館

講義・演習「学校と美術館の連携活動について」

演習・協議「感性を働かせるプログラム」

講義・演習「鑑賞教育のこれから」

講師 茂木拓氏（教育センター指導主事）、齋藤恵（主任学芸員）桑原和美氏（芸術資源開発機構）

参加者 小学校教諭4名、中学校教諭2名、高等学校教諭1名、特別支援学校教諭5名 合計12名

## (6) 博物館実習

学芸員資格取得のため当館での実習を希望する大学生を受け入れ、カリキュラムを組んで指導を行った。

日時 8月20日(火)～8月25日(日)

受講者数 6名

## (7) 「中学生ドリームアップ事業」職場体験活動

望ましい勤労観・職業観を育てるとともに、「夢」「志」を育むことを目指し、福島市内全中学2年生で実施しており、当館でも体験活動を行った。

日時 6月25日(火)～6月28日(金)

北信中学校 2年生 2名

大島中学校 2年生 1名

信夫中学校 2年生 1名

吾妻中学校 2年生 2名 合計6名

## (8) 県立図書館との連携事業

ア 「アートなおはなしかい」

幼稚園児・小学生とその保護者を対象にした、図書館の「よみきかせ」と美術館の「鑑賞と工作のワークショップ」を連携させた「アートなおはなしかい」を、平成18年度から継続実施した。

日時 11月23日(土・祝) 14時～15時30分

場所 福島県立図書館、福島県立美術館

参加者数 16名

イ 「福島県立図書館・美術館見学会」

小学校の先生や司書の方向けの図書館見学のデモンストレーションや、美術館の団体観覧、ポケットアートの利用方法について説明した。

日時 7月31日(水)14時～15時30分

場所 福島県立図書館第一研修室

参加者数 12名

## 6 館外連携

県内外の関係機関等と連携・協力して、芸術文化活動の質の向上、県民の美術に対する知識及び教養の向上、地域の活性化に取り組んだ。

令和6年度においても、関係団体との連携事業を実施するとともに、他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等として学芸員を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行った。

### (1) 友の会、協力会との連携事業

令和6年度に友の会や協力会と実施した連携事業は次のとおりである。

ア 友の会美術鑑賞講座

日時 ①6月22日(土)、②9月16日(月・祝)

各14時～15時

場所 福島県立美術館企画展示室、講義室

講師 ①宮武弘(主任学芸員)

②齋藤恵(主任学芸員)

参加者数 ①20名②22名

イ 友の会実技講座

日時 9月6日(金) 13時30分～15時

「藍染めにチャレンジ」

場所 福島県立美術館実習室

講師 齋藤恵(主任学芸員)

参加者数 5名

ウ 友の会研修旅行

日時 11月8日(金) 8時30分～17時

場所 茨城県天心記念五浦美術館、茨城大学五浦文化研究所

内容 企画展「猫を愛でたい」展の見学、五浦六角堂の見学等

参加者数 27名

エ アートチャリティーバザー

＜福島県立美術館友の会の主催＞

友の会会員や美術館関係者が美術工芸品、美術図書、図録、ミュージアムグッズなどを持ち寄り、バザーを実施した。

日時 12月8日(日) 9時30分～12時

場所 福島県立美術館エントランスホール

参加者数 450名

オ ミュージアム・コンサート

＜NPO法人福島県立美術館協会、福島県立美術館友の会との共催＞

日時 3月2日(日) 14時～

場所 福島県立美術館講堂

参加者 220名

出演 伊藤利英子(チェロ)、増田みどり(ピアノ)

カ 触って、話して、見て楽しむ美術鑑賞ワークショップ

＜NPO法人福島県立美術館協会との共催＞

日時 3月9日(日) ①10時30分～12時

②14時～15時30分

場所 福島県立美術館常設展示室

講師 安藤榮作氏(彫刻家・当館収蔵作家)

濱田洋亮(学芸員) 白木ゆう美(主任学芸員)

齋藤恵(主任学芸員)

参加者数 13名

キ アートカード『ぼけっとアート』貸出

平成29年4月から、当館所蔵作品80点をカード形式にした鑑賞補助教材『ぼけっとアート』の貸出を継続して行っている。令和6年度の貸出総数は、小学校、中学校、高校、その他教育関係機関を含め、190カ所、935セットであった。

ク 美術館40周年記念映像上映

美術館協力会と連携して、美術館40年の歩みを映像で紹介した。

### (2) 文化財保護(レスキュー)活動

災害時においては、県内の美術作品を中心として文化財

の被災情報を収集し、関係機関と連携しながら、作品保全のための活動を行うこととしている。

能登地震の被害状況についても全国美術館会議を通じて情報収集しており、可能な範囲で協力した。

令和6年度は国立文化財防災センターと全国美術館会議を通じて、能登半島地震被災文化財等救援委員会に参加した。令和6年度から増渕副館長心得が全国美術館会議災害対策委員会となり、毎週石川県庁で行われる会議にオンラインで出席した。また、同委員会において以下の通り学芸員を派遣、被災文化財のレスキュー作業を行った。

5月13日(月)～17日(金) 齋藤恵主任学芸員派遣  
(能登町、輪島市、珠洲市、七尾市)

7月1日(月)～5日(金) 月本寿彦副主任学芸員派遣  
(能登町、輪島市)

9月24日(火)～27日(金) 坂本篤史主任学芸員派遣  
(輪島市)

### (3) 他機関への協力

他機関からの要請に応じて委員会委員や講師等として学芸員を派遣し、専門的事項に関する助言・協力を行った。

#### ア 委員等

- ・福島ユニセフ協会評議員 高橋 英子 館長
- ・福島市文化振興審議会委員 高橋 英子 館長
- ・文化スポーツ局指定管理者選定検討会委員 高橋 英子 館長
- ・斎藤清画伯顕彰協議会特別幹事 高橋 英子 館長
- ・増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・福島県総合美術展覧会運営委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・郡山市立美術館協議会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・第78回福島県総合美術展覧会大賞選考委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・県外在住功労者知事表彰選考委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・宇都宮美術館美術作品等収集評価委員会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・新潟市美術館・新津美術館美術資料選定委員会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・いわき市美術品選定評価委員会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・喜多方市美術品収集委員会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・全国美術館会議災害対策委員会委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・全国美術館会議地域美術研究部会幹事 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・倫雅美術奨励賞選考委員 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・可月亭庭園美術館評議員

増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長

- ・第22回猪苗代湖・裏磐梯湖沼フォトコンテスト審査会委員 坂本 篤史 主任学芸員
- ・福島市写真美術館運営委員会委員 白木 ゆう美 主任学芸員
- ・第19回西会津国際芸術村公募展審査員 坂本 篤史 主任学芸員
- ・福島県建築文化賞審査員 堀 宜雄 専門員
- ・県教育センター主催「創造性を育む図面工作・美術の鑑賞指導法講座」齋藤 恵 主任学芸員
- ・「新しいAIZUの美術展」選考委員 白木 ゆう美 主任学芸員

#### イ 講師派遣、寄稿、発表、受賞等

- ・西会津国際芸術村指定管理者BOOT「所蔵美術品の管理方法」開催日 令和6年4月18日(木)  
講 師 坂本 篤史 主任学芸員
- ・福島県立医科大学保健科学部「福島県を知る」開催日 令和6年5月1日(水)  
講 師：宮武 弘 主任学芸員  
月本 寿彦 副主任学芸員
- ・福島大学人間発達学類「現代美術アートマネージメント」開催日 令和6年6月11日(火)  
講 師 増渕 鏡子 副館長心得兼学芸課長
- ・令和6年度福島県高等学校教育研究会美術・工芸部会第69回研究大会並びに総会開催日 令和6年6月20日(木)～21日(金)  
講 師 齋藤 恵 主任学芸員
- ・渡利学習センター講座「福島県立美術館開館40周年記念展 みんなの福島県立美術館その歩みとこれから 展覧会紹介」開催日 令和6年7月17日(水)  
講 師 高橋 英子 館長、紺野 朋子 主任学芸員
- ・安城市歴史博物館特別展「ごろごろまるまるネコづくし」記念講演会「ネコはどうして描かれたか」開催日 令和6年7月20日(土)  
講 師 月本 寿彦 副主任学芸員
- ・令和6年度福島県小学校教育研究会福島地区図画工作科研究部夏季研究協議会及び夏季選択研修会図画工作研究部会開催日 令和6年7月23日(火)  
講 師 齋藤 恵 主任学芸員、伊澤 文彦 学芸員
- ・福島県小学校教育研究会伊達地区会図画工作研究部夏季研究協議会「福島県立美術館アートカード『ぽけっとアート』の活用」開催日 令和6年7月25日(木)  
講 師 白木 ゆう美 主任学芸員

- ・須賀川市文化団体連絡協議会主催第 35 回須賀川市文化フォーラム講演会  
「水彩画家・五十嵐二郎とめぐる風景画の旅-福島からヨーロッパへ」  
開催日 令和 6 年 9 月 7 日(土)  
講 師 坂本 篤史 主任学芸員
- ・第 75 回美学会全国大会若手研究者フォーラム発表  
「1970 年代における山口勝弘の創作実践とその解釈について」  
ービデオによる「コミュニケーション」の実現」  
開催日 令和 6 年 10 月 13 日(日)  
発 表 伊澤 文彦 学芸員
- ・福島市アクティブシニアセンター・アオウゼ主催  
講座「楽しみ！大ゴッホ展」  
開催日 令和 6 年 11 月 6 日(水)  
講 師 坂本 篤史 主任学芸員
- ・県教育センター主催「創造性を育む図面工作・美術の鑑賞指導法講座」  
開催日 令和 6 年 11 月 8 日(金)  
講 師 齋藤 恵 主任学芸員
- ・伊達市学力向上推進事業研究会「主体的に学ぶ子どもの育成」  
開催日 令和 6 年 11 月 15 日(金)  
講 師 白木 ゆう美 主任学芸員
- ・さいたま市民大学美術 I コース「THE 新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦」展特別講演会  
「THE 新版画 展覧会の魅力」  
開催日 令和 6 年 11 月 30 日(土)  
講 師 月本 寿彦 副主任学芸員
- ・郡山市立美術館主催学術シンポジウム  
「近世ヨーロッパの版画の諸相」  
開催日 令和 6 年 12 月 7 日(土)  
司 会 坂本 篤史 主任学芸員
- ・筑波大学芸術学美術史学会 24 年度秋季研究発表会  
「ジョージ・ナカシマとベン・シャーンー「第 1 回ジョージ・ナカシマ展」におけるインテリアとしてのアートー」  
開催日 令和 6 年 12 月 8 日(日)  
発 表 濱田 洋亮 学芸員
- ・筑波大学芸術学系芸術学研究室『藝叢』第 40 号  
「ジョージ・ナカシマとベン・シャーンー「第 1 回ジョージ・ナカシマ展」におけるインテリアとしてのアートー」  
発 表 濱田 洋亮 学芸員
- ・尚絅学院大学人文社会学類「博物館論」  
開催日 令和 6 年 12 月 11 日(水)  
講 師 坂本 篤史 主任学芸員
- ・福島市まちなか交流施設ふくふる「絵本作家かがくいひろしの世界展」「福島県立美術館 40 周年」紹介展示

開催日 令和 7 年 1 月 15 日(水)～30 日(木)  
2 月 1 日(土)～14 日(金)

白木 ゆう美 主任学芸員

紺野 朋子 主任学芸員、伊澤 文彦 学芸員

- ・国立大学岡山大学教育推進機構「日本画家勝田蕉琴未スケッチ帳の調査・撮影」

開催日 令和 7 年 2 月 17 日(月)

派 遣 堀 宜雄 専門員

- ・『第 75 回美学会全国大会 若手研究者フォーラム発表報告集』181-190 頁

「1970 年代における山口勝弘の創作実践とその解釈についてービデオによる「コミュニケーション」の実現」令和 7 年 3 月刊行 伊澤 文彦 学芸員

ウ 編集・制作

一般社団法人全国美術館会議が発行した「福島県立美術館東日本大震災報告書」の編集・制作にたずさわった。

発行日 2024 年 4 月 26 日

## 第 13 節 福島県立博物館

### 1 概要

福島県立博物館は、資料収集・展示・調査研究・教育普及事業を中心に、内容の充実を図っている。

令和 6 年度の博物館活動の概要は次のとおりである。

#### (1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者 10 名に委嘱している。平成 13 年 1 月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

#### 福島県立博物館運営協議会 委員名簿

| 氏 名   | 役 職                             | 備 考         |
|-------|---------------------------------|-------------|
| 冠木 利香 | 会津若松市立大戸小学校長                    | 学校教育        |
| 本田 知史 | 福島県立だて支援学校校長                    | 学校教育        |
| 長野 隆人 | いわき芸術文化交流館副館長<br>(支配人)          | 会長<br>社会教育  |
| 佐藤 公  | 磐梯山噴火記念館館長                      | 副会長<br>社会教育 |
| 長沼 千恵 | 福島県家庭教育インストラクター<br>ー連絡協議会理事     | 家庭教育        |
| 川口 立喜 | 公立大学法人会津大学企画推進本部国際戦略室長・上級准教授    | 学識経験者       |
| 四家 久央 | いわき市文化財保護審議会委(合<br>名会社四家酒店代表社員) | 学識経験者       |
| 大越 章子 | 日々の新聞社記者                        | 学識経験者       |
| 岩崎 和美 | 書道家                             | 学識経験者       |
| 町田 久次 | 公募委員                            | 公 募         |

イ 会議

第1回 令和6年6月20日(木)

議題

- ①令和5年度事業実績について
- ②第3期中期目標の総括について
- ③第4期中期目標について
- ④令和6年度事業案について
- ⑤令和6年度当初予算について
- ⑥常設展総合展示室再開の見込みについて

第2回 令和7年2月19日(水)

議題

- ①令和6年度事業報告について
- ②令和7年度事業計画(案)について
- ③文化観光拠点施設機能強化事業(三の丸からプロジェクト)の成果と今後の展望について
- ④第4期中期目標の実績について
- ⑤今後の取組みについて
- ⑥観覧料の改定について

2 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

| 氏 名    | 役 職 名                         | 備 考  |
|--------|-------------------------------|------|
| 村川 友彦  | 福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長          | 委員長  |
| 岡田 清一  | 東北福祉大学名誉教授                    | 副委員長 |
| 青野 友哉  | 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科准教授         |      |
| 大石 雅之  | 岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員 |      |
| 奥村 弘   | 神戸大学理事・副学長                    |      |
| 加藤 幸治  | 武蔵野美術大学教養文化・学芸員課程教授           |      |
| 北野 博司  | 東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授          |      |
| 角屋 由美子 | 米沢市上杉博物館上杉文化研究室室長             |      |
| 玉川 一郎  | 前 福島県考古学会会長                   |      |
| 原田 一敏  | ふくやま美術館長                      |      |
| 三上 喜孝  | 国立歴史民俗博物館教授                   |      |
| 柳沢 秀行  | 公益財団法人大原美術館学芸統括               |      |

イ 会議

令和6年度は前年度に引き続き、対面開催・オンライン開催を組み合わせた開催方法とした。

開催日 令和6年7月24日(水)

議題

- ①今後3年間の展示計画について
- ②令和7年度・令和8年度開催予定企画展等について
- ③購入予定資料について
- ④美術品等取得基金の現状と購入希望資料について

(2) 受贈・受託

ア 歴史資料

- (ア) 受贈 写真ほか 計47件
- (イ) 受託 海軍大尉鹿岡圓平「日記」ほか 計7件

イ 美術資料

- (ア) 受贈 勝田蕉琴筆「農村新年図」ほか 計41件
- (イ) 受託 永峰伊水「牡丹孔雀図」ほか 計50件

ウ 民俗資料

- (ア) 受贈 再現製作根子町人形「鯛乗り恵比寿」ほか 計117件

エ 考古資料

- (ア) 受贈 土器一括 1件

オ 自然資料

- (ア) 受贈 川俣町水晶山産鉱物ほか 計7件

(3) 購入

ア 自然資料

- 恐竜レプリカほか 計5件

イ 図書資料

- (ア) 一般図書 31冊
- (イ) 定期刊行物 30種

(4) 移 管

ア 歴史資料

- 野口英世千円札(記番号HM299999A) 1件

イ 災害資料

- 新型コロナウイルス感染症関連ファイル 1件

(5) 制 作

民俗資料

- 食品サンプル 計3件

3 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料は1件と数える。

収蔵資料数(令和7年3月31日現在)

| 分野   | 件数      | 備 考                |
|------|---------|--------------------|
| 考古   | 21,071  | 土器・石器・金属器ほか        |
| 民俗   | 14,391  | 生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか |
| 歴史   | 22,772  | 書籍・文書資料ほか          |
| 美術   | 7,666   | 絵画・彫刻・工芸資料ほか       |
| 自然   | 44,586  | 化石・岩石・鉱物ほか         |
| 震災遺産 | 638     | 被災遺物、文書資料、写真ほか     |
| 合計   | 111,124 |                    |

令和6年度収蔵指定文化財 国指定: 9件  
福島県指定: 46件

イ 図書及び映像

(ア) 収蔵図書数 (令和7年3月31日現在)

- 考古分野 31,172冊 民俗分野 5,191冊
- 歴史分野 11,306冊 美術分野 5,064冊

自然分野 18,046 冊 保存分野 1,977 冊  
 震災遺産 224 冊 そ の 他 66,712 冊  
 合計 139,692 冊

(イ) 収蔵映像資料数 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

収蔵映像資料総数 1,932 点

## (2) 登録・整理

ア 資料管理システムの運用

イ 資料の登録・資料情報の外部公開

登録資料数・資料情報の外部公開数

(令和 7 年 3 月 31 日現在)

| 資料類別   | 登録資料<br>(令和 6 年度) | 登録資料<br>(累計) | 資料情報の外部公開<br>(令和 6 年度) | 資料情報の外部公開<br>(累計) |
|--------|-------------------|--------------|------------------------|-------------------|
| 考古資料類  | 1,274             | 14,103       | 1,274                  | 5,800             |
| 民俗資料類  | 2,494             | 27,224       | 2,494                  | 16,803            |
| 歴史資料類  | 0                 | 47,036       | 0                      | 20,801            |
| 美術工芸品類 | 0                 | 7,586        | 0                      | 194               |
| 自然標本類  | 5                 | 29,882       | 2                      | 19,148            |
| 合計     | 3,773             | 125,831      | 3,770                  | 62,746            |

ウ ボランティア

博物館資料の整理のため、次のとおり資料整理ボランティアを受け入れ、学芸員との協働により資料整理作業を進めている。

(ア) 自然資料整理

相馬中村層群資料の整理作業など

登録人数 2 名 活動日数 延べ 58 日

(イ) 古文書整理

歴史資料の整理作業 (表題・年代・法量などのデー

タ採取) 登録人数 11 名 活動日数 延べ 67 日

(ウ) 民俗資料整理

写真資料の整理

登録人数 1 名 活動日数 6 日

(エ) 考古資料整理

寄贈資料の整理・撮影

登録人数 2 名 活動日数 延べ 46 日

(オ) 美術資料整理

会津工業高校旧蔵資料整理作業

登録人数 1 名 活動

## (3) 貸 出

ア 博物館資料

貸出資料一覧

| 資 料 名                                      | 貸 出 先                 | 貸出期間                                 | 展 覧 会 名                            |
|--------------------------------------------|-----------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
| 郡山市熱海町出土ナウマンゾウ臼歯 (レプリカ) 1 点                | 大安場史跡公園               | 令和 6 年 4 月 1 日～<br>令和 7 年 3 月 31 日   | 常設展                                |
| 跡見塚古墳出土土玉類 318 点                           | 須賀川市立博物館              | 令和 6 年 4 月 1 日～<br>令和 7 年 3 月 31 日   | 常設展                                |
| 桜井遺跡出土土器ならびに石器 21 点                        | 南相馬市博物館               | 令和 6 年 4 月 1 日～<br>令和 7 年 3 月 31 日   | 常設展                                |
| 十二天図 (慧日寺旧蔵) 旧軸木 慶長 6 年銘 1 点               | 磐梯町磐梯山                | 令和 6 年 4 月 5 日～                      | 常設展                                |
| 十二天図 (慧日寺旧蔵) 旧軸木 延宝政 3 年銘 1 点              | 慧日寺資料館                | 12 月 2 日                             |                                    |
| ぜんまい綿のワンピース                                | ミュージアムパーク<br>茨城県自然博物館 | 令和 6 年 6 月 21 日～<br>10 月 18 日        | 企画展「羊歯 (シダ) —花はな<br>いけど華はある—」      |
| 蚕当計                                        | アクアマリンいわしろ<br>カワセミ水族館 | 令和 6 年 7 月 4 日～<br>11 月 30 日         | 企画展「蠶 (カイコ) 展～あな<br>たの知らないカイコの世界～」 |
| 雪村周継筆「瀟湘八景図帖」<br>雪村周継筆「竹に鳩図」<br>雪村周継筆「蔬果図」 | 茨城県立歴史館               | 令和 6 年 10 月 16 日～<br>令和 7 年 5 月 31 日 | 展覧会「雪村」                            |
| 木造建築継ぎ手一式                                  | 昭和村松山区                | 令和 6 年 8 月 8 日～<br>8 月 15 日          | 昭和村松山集落主催学習会「地<br>域に伝わる伝統的な手仕事」    |
| 白河城下絵図 (当館寄託) 1 点                          | 小峰城歴史館                | 令和 6 年 8 月～11 月                      | 企画展「南湖公園物語—白河に<br>うけつがれた共楽の園地—」    |

| 資 料 名                                                                     | 貸 出 先              | 貸出期間                                | 展 覧 会 名                   |
|---------------------------------------------------------------------------|--------------------|-------------------------------------|---------------------------|
| 平成 17 年制作「只見川の雛流し」映像 DVD（ショート版） 1 点<br>平成 17 年制作「只見川の雛流し」映像 DVD（ロング版） 1 点 | 福島県文化財センター白河館      | 令和 7 年 1 月 17 日～<br>3 月 12 日        | 体験活動メニュー「ふくしまのおひなさまをつくろう」 |
| 石英安山岩質溶結凝灰岩ほか 計 8 点                                                       | 会津美里町郷土資料館         | 令和 7 年 3 月 11 日～<br>令和 8 年 3 月 10 日 | 常設展                       |
| 刺繍阿弥陀名号（当館寄託） 1 幅                                                         | 東京国立博物館<br>京都国立博物館 | 令和 6 年 3 月 22 日～<br>12 月 末 日        | 特別展「法然と極楽浄土」              |

#### イ 写真資料

総数 : 111 件 189 点

考古 : 17 件 35 点      民俗 : 6 件 18 点

歴史 : 53 件 93 点      美術 : 35 件 43 点

#### (4) 保 存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫及び展示室など主要箇所の保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

##### ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第 1～第 6 収蔵庫）など主要なスペースの保存環境を 6 月と 10 月の年 2 回調査した。

##### イ 生物被害防除

7 月と 9 月に新収蔵資料などを対象にエキヒューム S を用いた文化財燻蒸を実施した。

##### ウ 収蔵庫問題

収蔵庫のひっ迫問題への対応として、運営協議会委員有志メンバーとオンラインミーティングを 3 回行った。2 つの収蔵庫の収蔵率を算出した。

## 4 展示事業

### (1) 常設展示

総合展示と分野別展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の 6 つのテーマで構成される。ただし、令和 6 年度は消防設備の不具合から総合展示室を閉室した。分野別の展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

#### ア テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として全 7 回開催した。

(ア) 「よみがえる会津大塚山古墳」

(イ) 「けんぱくの宝一会津の絵画」

(ウ) 「三島町荒屋敷遺跡を考える」

(エ) 「祈りのふくしま 8 一個性豊かなほとけたち」

(オ) 「美しき刃たち」

(カ) 「蒲生氏郷と会津の茶陶」

(キ) 「酒をとりまく美術」

#### イ ポイント展

常設展示室内及びエントランスホールにおいて、特

定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として全 9 回開催した。

(ア) 「イノセ学芸員のイノセラムス研究」

(イ) 「ヴェーゲナーの見た夢」

(ウ) 「ありがとう！野口英世千円札」

(エ) 「触って観ようー障がい者をめぐるあそび・まなびー」

(オ) 「恐竜を発掘するには」

(カ) 「みんなの震災遺産」

(キ) 「友の会化石鉱物探検隊ミニ成果展」

(ク) 「会津木綿の世界」

(ケ) 「新鉱物発見！ 宮脇石」

#### ウ 総合展示室 F 「自然と人間」の展示更新

開館以来更新がなかった第二次世界大戦後の福島県の姿について、総合展示室 F 「自然と人間」を現代史の視点で展示更新し、東日本大震災を伝える資料である「震災遺産」を常設展示した。

### (2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然・災害の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、会期を設定して開催している。令和 6 年度は、3 本の企画展示と令和 7 年度春の企画展のプレイベントを実施した。

#### ア 春の企画展

「幕末明治の浮世絵百年―大江戸の賑わい―」

(ア) 会期 令和 6 年 4 月 27 日(土)～6 月 16 日(日)

開館日数 45 日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 入館者数 6,821 人

(エ) 担当学芸員 歴史分野：栗原 祐斗、渡邊 歩

(オ) 趣旨

庶民文化で賑わう江戸末期から文明開化で華やぐ明治までの約 100 年。浮世絵は多色摺木版画の登場によって世に広まり、庶民に親しまれた。浮世絵の文化が花開くと、北斎、広重、英泉、豊国、国貞、国芳、芳年といった天才・奇才の絵師が次々と登場し、数々の作品を生み出した。今回の展覧会では、複数の絵師による多様なテーマの作品を集め、観覧者に浮世絵の世界の幅広さや面白さに触れていただくことを目指した。

#### (カ) 展示構成

a 風景画 旅すがた人模様

- b 美人画 四季の装いと化粧
- c 幽霊と妖怪絵
- d 江戸の三大ペット 猫、犬、金魚
- e 相撲絵
- f 英雄、ヒーローたちの物語
- g 劇画 江戸っ子の遊び心
- h 開花絵 異国への憧れ
- i 明治という時代
- j 明治の美人画 欧化ファッション

#### (k) 関連事業

- a 講演会「浮世絵の楽しみ方—絵師や主題に注目して—」  
5月12日(日)  
講師 藤澤 茜(神奈川大学准教授、国際浮世絵学会常任理事)
- b ワークショップ「うきよえをぬってみよう in こどもミニミニはくぶつかん」  
5月3日(金・祝)
- c 歴史講座「浮世絵のくずし字を読んでみよう」  
6月9日(日)  
講師 栗原 祐斗(当館学芸員)
- d 展示解説会  
4月28日(日)、5月26日(日)、6月9日(日)  
講師 栗原 祐斗、渡邊 歩(当館学芸員)

#### イ 夏の企画展

「縄文DX—会津・法正尻遺跡と交流の千年紀—」

(ア) 会期 令和6年7月6日(土)～9月1日(日)

開館日数 50日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 入館者数 7,761人

(オ) 担当学芸員 考古分野：高橋 満

(カ) 趣旨

平成21年(2009)7月10日に国重要文化財に指定された「法正尻遺跡出土品」の指定15周年を記念し、保管する県文化財センター「まほろん」から会津への「里帰り展」として国重文の優品(一部指定品外を含む)を展示公開した。「法正尻遺跡出土品」のまとまった数量を会津地域で公開する初めての展覧会である。

当該資料は、法正尻遺跡(磐梯町・猪苗代町)から出土した縄文時代中期の出土品の一括である。

磐越自動車道建設に伴い発掘調査行われ、堅穴住居跡129軒、土坑759基、埋甕26基、焼土遺構108基などが発見され、26万点におよぶ遺物が出土した。遺跡の広がりや遺構の数、そして出土品の量から福島県域のみならず東北地方南部を代表する拠点的な大規模集落であることが分かる。

また遺跡の存続年代がおよそ一千年間に及ぶ長期継続集落であることも特徴的で、遺跡形成期は会津盆地一円に大きな影響を与えた沼沢火山の噴火とほぼ一致することが注目され、会津地域の環境変動と縄文

社会の再編成を検討しうる遺跡としても重要である。出土遺物のうち遺跡を特徴づけるのは縄文時代中期をほぼ網羅する縄文土器である。会津地域は、東北南部の大木式土器(Daigishiki)の分布圏にある。地理的に関東地方や北陸地方に近接することから大木式土器圏の中でも他地域との交渉が盛んなエリアで、例えば新潟方面の馬高式土器の影響による「会津タイプ」とよばれる大木式に他地域の要素を掛け合わせた独自の土器類型も生み出されている。また土偶(Dogu)にも着目し、県内出土関連資料や他県の出土資料も紹介しながら会津との地域間交流とそれを支えるネットワーク(X)から縄文文化の十字路(X)として会津地域の特徴を浮かび上がらせる。

#### (k) 展示構成

- a DXな土器たちと大木式土器
- b 法正尻遺跡の出現
- c DoGuの世紀
- d デコデココレクション とっても3Dな土器たち
- e ようこそふくしまへ あちらの土器そちらの形
- f 行き交うモノとネットワーク
- g DX—土器とヒト形のハイブリッド
- h 土器の変化と繋がる文様
- i 複式炉の時代
- j Next DX

#### (k) 関連事業

- a 講演会「土器に宿る—縄文中期・ふくしまの人体文」  
7月13日(土)  
講師 高橋 満(当館学芸員)
- b 講演会「ヒスイの道を探る」  
8月3日(土)  
講師 栗島 義明(明治大学非常勤講師)
- c 展示解説会「『縄文土器』をよみきかせ」  
8月10日(土)、8月21日(水)、8月31日(土)  
講師 高橋 満(当館学芸員)

#### ウ 秋の企画展

「ふくしまの酒造り—酒を醸し 和を醸す—」

(ア) 会期 令和6年9月21日(土)～12月1日(日)

開館日数 62日間

(イ) 会場 企画展示室

(ウ) 主催 福島県立博物館

(エ) 後援 会津若松市教育委員会ほか18団体

(オ) 入館者数 6,615人

(カ) 担当学芸員 主担当 民俗分野：大里 正樹  
副担当 民俗分野：山口 拡、西尾 祥子  
美術分野：小林 めぐみ  
歴史分野：栗原 祐斗

(キ) 趣旨

会津地方は創業年として寛永年間にも遡る歴史ある酒造家が多く、また近世後期には会津藩家老・田中玄宰による藩財政再建策の一環として、藩直営の酒造

蔵にて銘酒「清美川」が醸造されるなど、酒は重要な産品の一つでもあった。近世会津の名物の番付である『若松緑高名五幅対』には、「酒座」「酒造」「名酒」の項目も見られる。そうした老舗蔵元のいくつかは地域の神社の神酒を醸造する酒蔵でもあり、元来、酒は神に供える重要な神饌でもあった。福島県域は神社の例大祭などの際に神饌としてどぶろくを醸して供え、参拝客へふるまうなどいわゆる「どぶろく祭り」の多い地であることが特筆される。酒造免許を有する神社は東北6県で唯一、福島県にのみ10社と多数を数える。

また、酒造家はそれぞれの土地を象徴する存在でもあり、酒造家を中心とした文化的サロンが形成されるなど新たな文化を創造し、地域の文化を向上させる役割も果たしてきた。ひるがえって現代では、福島県は全国新酒鑑評会金賞受賞数9年連続日本一の酒どころとなり、日本酒の名産地として国内のみならず世界的にも高い知名度を誇っている。本展ではそうした福島の「酒」をテーマに、様々な切り口から酒どころ・福島県の歴史や文化を紐解いた。

(ク) 展示構成

- a 酒と信仰
- b 酒造りの技術と道具
- c 酒どころ・ふくしまの歩み
- d 酒造と地域

(ケ) 関連事業

- a 会津酒蔵めぐり 酒蔵スタンプラリー  
10月1日(火)～12月1日(日)
- b 講演会 「酒の日本文化」  
9月28日(土)  
講師 神崎 宣武 (民俗学者)
- c ワークショップ「酒林(杉玉)をつくろう」  
10月27日(日)  
講師 渡部 裕高 (会津酒造専務)
- d 令和6年能登半島地震復興支援チャリティー上映会「一献の系譜」  
11月4日(月・祝)
- e 学芸員によるギャラリートーク  
9月21日(土)、9月23日(月・祝)、10月1日(火)、10月12日(土)、10月13日(日)、10月14日(月・祝)、10月19日(土)、11月3日(日・祝)、11月9日(土)、11月30日(土)、12月1日(日)

エ 令和7年度春の企画展プレイベント

「ボーダーなき世界を―福島県立博物館と Well-being―」

(ア) 助成 一般財団法人 地域創造 令和6年度地域の文化・芸術活動助成事業

(イ) 担当学芸員 美術分野：小林 めぐみ、川延 安直

(ウ) 趣旨

性、年齢、障害の有無による差、経済格差、都市と地方の地域格差、被災地と非被災地。私たちが生きる

社会にはさまざまなボーダーがあり、その克服が課題である。

本展では、7つの問いを起点にこれまで福島県立博物館がアーティストと取り組んできた活動などをご紹介し、ミュージアムとアートが介在することで生まれる well-being から、みなさんと目指すべきボーダーなき世界を考える。

(エ) 事業内容

a ワークショップ「食に学ぶ海幸山幸」

12月15日(日)、令和7年2月22日(土)

講師 一ノ瀬 幸代、新井田 恵子 (柳津町の料理継承者)、小池アミゴ (イラストレーター)

協力 柳津町中央公民館

b ワークショップ「魅力の予感」

令和7年1月20日(月)、2月14日(金)、2月15日(土)、3月7日(金)、3月8日(土)

講師 きむらとしろうじんじん (美術家、陶芸家)

協力 会津若松市教育委員会、適応指導教室「ひまわり」

c 会津型で何つくろう？

令和7年3月3日(月)、3月15日(土)、3月25日(火)

アドバイス さとうてつや (デザイナー)

協力 西会津町授産所、特定非営利活動法人夢あるき・夢の樹

(3) 指定文化財の公開

令和6年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った(館蔵・寄託品などは除く)。

ア 国指定

a 国宝

- (a) 土偶 1点 茅野市 (長野県)
- (b) 土偶／山形県西ノ前遺跡出土 1点 山形県  
(以上2件は、企画展「縄文DX」にて展示公開)

b 重要文化財

- (a) 磐城檜葉天神原遺跡出土品のうち2点 檜葉町教育委員会 (福島県)  
(総合展示室：原始にて展示公開)
- (b) 法正尻遺跡出土品のうち 土器83点、石器102点、土製品3点、石製品20点 福島県
- (c) 長野県藤内遺跡出土品のうち 神像筒型土器 1点 富士見町 (長野県)
- (d) 山梨県鋳物師屋遺跡出土品のうち 人形文様付有孔鍔付土器1点、サル形土製品1点 南アルプス市  
(以上3件は、企画展「縄文DX」にて展示公開)

イ 県指定 (福島県指定)

a 重要文化財

- (a) 関和久官衙遺跡出土品のうち 墨書土器 4点 福島県

- (b) 根岸官衙遺跡出土品のうち 軒丸瓦 1 点  
いわき市
- (c) 夏井廃寺跡出土品のうち 軒丸瓦 2 点 いわき市  
(以上 3 件は、総合展示室：古代にて展示公開)
- (d) 石生前遺跡出土品 7 点 柳津町
- (e) 和台遺跡出土 人体文土器及び狩猟文土器 2 箇  
福島市  
(以上 2 件は、企画展「縄文 D X」にて展示公開)

#### (4) 展示解説

##### ア 展示解説員

令和 6 年度の展示解説員の人数は 13 名で前年度と変わらなかった。

12 月からの休館中には、研修など多く取り入れ、スキルアップに努め、また館内整理や資料整理などの学芸員の業務をサポートした。

### 5 調査研究事業

#### (1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向け、令和 6 年度は以下の 7 テーマの調査を実施した。

##### ア 考古資料による原始・古代の画期の再検討

###### (ア) 分野 考古分野

###### (イ) 調査概要

名古屋大学博物館が所蔵する本県桑折町出身の考古学者故角田文衛氏(昭和 61 年第 17 回県外在住功労者知事表彰受賞)が本県で発掘調査した桑折町南薩摩遺跡等の縄文時代の遺跡出土品の内容確認調査を実施した。昭和初期に行われた発掘調査であり、発掘調査に手法や一部をのぞく未公表資料は本県考古学史を振り返る上で重要である。

##### イ 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

###### (ア) 分野 民俗・考古・歴史・自然・災害分野

###### (イ) 調査概要

震災遺産の常設展での展示に向けて、学芸員との意見交換を通じて、来館者に求められる内容の検討や、今後展示に必要な資料等の確認を行った。他施設の学芸員とも現代史の捉え方や関連資料に関して意見交換を行った。第二次世界大戦後から県土の開発や産業の変遷などを軸とした現代史の展示として東日本大震災までを展示した。資料調査を進めた成果として、エネルギーや産業を伝える資料を展示することができた。また震災遺産を用いた教育普及活動を通じて、問いを活用した講座やワークショップを実施し、災害伝承の持続可能性の獲得についても検討を行った。仙台で行われたフォーラムにおいて、出展やワークショップを実施し、研究成果を発表した。特に高校における授業を教員と共に実施することができた。またその成果の一部を研究紀要に掲載した。

##### ウ 福島県の恐竜化石産地の研究

###### (ア) 分野 自然分野

###### (イ) 調査概要

恐竜化石産地の現地調査を行い、新たに中生代大型化石を採取した。いわき市、広野町、南相馬市での調査研究を中心に調査をすすめた。

##### エ 近世・近代絵地図の研究

###### (ア) 分野 歴史分野

###### (イ) 調査概要

令和 6 年度は、主に会津若松市立会津図書館、新潟県立歴史博物館、長岡市歴史文書館等の資料を調査した。

##### オ 福島県内の食文化の伝承に関する研究

###### (ア) 分野 民俗分野

###### (イ) 調査概要

令和 6 年度は、令和 4 年度以来の酒造業を中心とする調査研究の成果を、秋の企画展「ふくしまの酒造り一酒を醸し 和を醸す」にて公開し、あわせてその記録として企画展図録を発行した。

また、県内の伝統的な保存食・郷土食である「棒たら」「えごぐさ」「いかにんじん」の食品サンプルを製作し、展示資料の充実に資した。

##### カ 国宝・白水阿弥陀堂の維持修理に関する基礎研究

###### (ア) 分野 保存科学分野

###### (イ) 調査概要

白水阿弥陀堂について、行政による公刊の報告書に記載の修理記録について整理した。

木造阿弥陀如来坐像及両脇侍、木造持国天立像、木造多聞天立像の仏像修理記録について所在調査を行った。この結果として、①奈良国立博物館所蔵「日本美術院彫刻等修理記録データベース」によると、木造阿弥陀如来坐像及両脇侍については明治 37 年の修繕関係書類(紙資料)が現存し、木造持国天立像、木造多聞天立像については昭和 3 年の宝物調書(紙資料及びガラス乾板)が現存すること、②東京文化財研究所所蔵「松島健旧蔵資料データベース」によると、木造阿弥陀如来坐像及両脇侍、木造持国天立像、木造多聞天立像について昭和 56 年度の修理記録が現存することを確認した。③他に『美術院紀要第 5 号』により、木造阿弥陀如来坐像及両脇侍、木造持国天立像、木造多聞天立像について昭和 33 年に仏像修理(燻蒸を含む)が行われているとの記載を確認した。

##### キ 会津地方の仏像・仏画の調査研究

###### (ア) 分野 美術分野

###### (イ) 調査概要

令和 5 年、6 年度の調査に基づき喜多方市の文化財指定を受けた、喜多方市万勝寺・弁財天像、喜多方市浄教寺・聖徳太子像をテーマ展「祈りのふくしま 8 個性豊かなほとけたち」において展示公開し、地域の文化財を広く知っていただく機会とした。

また、西会津町鳥追い観音如法寺と早稲田大学會津八一記念博物館に分蔵されている三十三応現身像の

調査を、如法寺・早稲田大学との合同で実施し、今後の展示公開に向けて意見交換を行った。

## (2) その他の調査研究事業

### ア 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・分量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

令和6年度は、村山隆之家、渡部昇司家、満田信也家、宇野祐子家、坂内利子家の資料整理を行った。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「松崎達夫家寄贈資料」の撮影を行った。

## (3) 職員の研究活動

### ア 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

#### (ア) 印刷物

##### a 猪瀬 弘瑛、利光 誠一、鈴木 千里

「福島県いわき市に分布する上部白亜系双葉層群足沢層産イノセラムス科二枚貝とその地質学的意義：特にチューロニアン/コニアシアン階境界付近について」『地質学雑誌』第130巻。

##### b Aiba, H. and Inose, H.

「A New False Fairy Wasp ( : Mymarommatoidea : Mymaromatidae ) in Late Cretaceous Iwaki Amber from Futaba Group of Iwaki City, Fukushima Prefecture, Japan」『Paleontological Research』vol. 28.

##### c Shigeta, Y., Endo, Y. and Inose, H.

「Spathian (Late Olenekian, Early Triassic) Ammonoids from the Osawa Formation, South Kitakami Belt, Northeast Japan」『Paleontological Research』vol. 28 supplement 1.

##### d 猪瀬 弘瑛

「博物館・ジオパークで地球を学ぼう！(34) 福島県立博物館 バラエティー豊かな福島県の地質」『日本地質学会 News』vol. 27, No. 10.

##### e 平山 廉、猪瀬 弘瑛、土屋 祐貴、藤田 英留、鶴野 光、仲谷 英夫、久保 泰、大石 裕二郎、鷲野 結衣、清川 顕

「福島県塙町の中新統久保田層から産出したイシガメ科のカメ類：予報」『日本古生物学会第174回例会講演予稿集』

##### f Inose, H. and Watanabe, N.

「Ontogeny and variation of four species of Upper Cretaceous barroisiceratine ammonoids *Yabeiceras* and *Forresteria* by means of X-ray

microcomputed tomography」『Paleontological Research』vol. 29

##### g Aiba, H., Souma, J. and Inose, H.

「A new genus and species of Microphysidae (Hemiptera: Heteroptera) with long Labium in Late Cretaceous Iwaki amber from Futaba Group of Iwaki, City, Fukushima Prefecture, Japan」『Paleontological Research』vol. 29.

##### h 猪瀬 弘瑛

「福島県いわき市と広野町に分布する上部白亜系双葉層群より産したアンモノイド *Pseudo-barroisiceras compressum* について」『福島県立博物館紀要』第39号。

##### i 大里 正樹

『ふくしまの酒造り—酒を醸し 和を醸す—』福島県立博物館

##### j 杉崎 佐保恵

「国指定史跡荒神谷遺跡及び国宝島根県荒神谷遺跡出土品の長期維持管理に関する事例報告」『日本文化財科学会第41回大会研究発表要旨集』, pp. 308-309.

##### k 杉崎 佐保恵

「明治時代の文化財保護行政に関する研究—鑑査制度及び文化財保存修理の制度創出について—」『福島県立博物館紀要』第39号, pp. 27-33

##### l 高橋 充

「豊臣秀吉の会津仕置」江田郁夫編『秀吉の天下統一 奥羽再仕置』勉誠社 29-48 頁

##### m 高橋 充

「九戸城攻め」『第40回全国城館研究者セミナー テーマ城攻めの実像』予稿集 中世城郭研究会 K1-14 頁

##### n 高橋 充

「蘆名氏と黒川の城・町」『至徳元年黒川城築城640周年 いかにして黒川城はなったか』パンフレット 14 頁

##### o 高橋 充

「向羽黒山城へ垣楯を供出した村—会津盆地南縁の中世から近世へ—」『南奥中世史との対話』福島県中世史研究会 68-77 頁

##### p 高橋 充

「研究ノート 三の丸の変遷からみた若松城」『福島県立博物館紀要』第39号 57-76 頁

##### q 高橋 満 編著

『縄文DX —会津・法正尻遺跡と交流の千年紀』福島県立博物館企画展図録

##### r 阿部 芳郎、高橋 満、米田 穰、宮内 慶介、小久保 拓也

「東北地方北半における縄文時代土器製塩の研究—八戸市中居遺跡出土の製塩土器と階上町寺

下遺跡の製塩痕跡～』『八戸市埋蔵文化財センター  
一是川縄文館研究紀要』第14号. pp21-35

s 小峰 朱理菜、筑波 匡介

「実践報告「震災遺産と問いづくり」の授業から  
考える震災伝承について」『福島県立博物館紀要』  
第39号

t 関谷 央子、筑波 匡介

「博物館での防災教育実践の意義—防災講座で  
育まれる力学習指導要領・キャリア教育との関連  
性—」『福島県立博物館紀要』第39号

u 土屋 祐貴、猪瀬 弘瑛

「実践報告『地質時代の地球儀の制作とその時代  
について』」『福島県立博物館紀要』第39号.

v 土屋 祐貴、猪瀬 弘瑛

「実践報告『白雲母を用いた万華鏡づくり講座』」  
『福島県立博物館紀要』第39号.

w 菊地 芳朗、佐々木 由香、山本 華、青山 博  
樹、大栗 行貴、平澤 慎

「東北南部における弥生—古墳移行期の穀類圧  
痕とその意義—福島県和泉遺跡・落合遺跡の土器  
圧痕調査をもとに—」『日本考古学協会 第90  
回総会研究発表要旨』

x 岸田 徹、山口 欧志、三井 猛、梅田 由子、  
平澤 慎

「若松城三の丸堀跡地中レーダー探査の調査成  
果報告」『福島県立博物館紀要』第39号

y Yoshida, J., Kobayashi, Y., Norell, M. A.  
The first discovery of dinosaur larynx  
provides insights for their bird-like  
vocalization. *Abstract book of the 11th  
Annual Meeting of the Society for  
Bioacoustics.*

z Van Niekerk, J., Tucker, R.T., Delgerzaya,  
P., Freimuth, W. J., Chinzorig, T., Tsogtbaatar,  
K., Yoshida, J., Zanno, L.E.  
Geological reassessment of syn-rift  
extensional sequences in the Shine Usny  
Tolgod and Dzun Shakhai fossil localities,  
Eastern Gobi Basin, Mongolia. *Sedimentology.*

(イ) 学会発表

a 平山 廉、猪瀬 弘瑛、土屋 祐貴、藤田 英  
留、鶴野 光、仲谷 英夫、久保 泰、大石 裕  
二郎、鷺野 結衣、清川 顕

「福島県塙町の中新統久保田層から産出したイ  
シガメ科のカメ類:予報」『日本古生物学会第174  
回例会』オンライン

b 大里 正樹

令和6年度伝承郷講座第1回「ふくしま 酒の民  
俗」 於:いわき市暮らしの伝承郷

c 杉崎 佐保恵

「国指定史跡荒神谷遺跡及び国宝島根県荒神谷  
遺跡出土品の長期維持管理に関する事例報告」

日本文化財科学会第41回大会 於:青山学院大学

d 高橋 充

「九戸城攻め」第40回全国城郭研究者セミナー  
テーマ城攻めの実像 於:駒澤大学 中世城郭研  
究会主催

e 高橋 充

「『田村家文書』の蘆名氏関係書状について」科  
研報告会「戦国時代の南東北地方—史料から考え  
る—」 於:淑徳大学(東京キャンパス)

f 高橋 満

「土器に宿る—縄文中期・ふくしまの人体文」企  
画展『縄文DX』関連講演会1 於福島県立博物  
館

g 小峰 朱理菜、筑波 匡介

「実践報告「震災遺産と問いづくり」の授業から  
考える震災伝承について」『東日本大震災・原子  
力災害第3回学術研究集会』 於:コラッセ福島

h 関谷 央子、筑波 匡介

「博物館での防災教育実践の意義—防災講座で  
育まれる力と学習指導要領・キャリア教育との関  
連性」『東日本大震災・原子力災害第3回学術研  
究集会』 於:コラッセ福島

i 菊地 芳朗、佐々木 由香、山本 華、青山 博  
樹、大栗 行貴、平澤 慎

「東北南部における弥生—古墳移行期の穀類圧  
痕とその意義—福島県和泉遺跡・落合遺跡の土器  
圧痕調査をもとに—」日本考古学協会第90回総  
会研究発表 於:千葉大学

j Yoshida, J., Kobayashi, Y., Norell, M. A.  
The first discovery of dinosaur larynx  
provides insights for their bird-like  
vocalization. The 11th Annual Meeting of the  
Society for Bioacoustics at The University  
of Tokyo.

イ 他団体による委嘱等

猪瀬 弘瑛 ふくしまサイエンスぷらっとフォー  
ム 連携コーディネーター

大里 正樹 須賀川市文化財保護審議会委員ほか3件

川延 安直 福島芸術計画運営委員会委員ほか8件

栗原 祐斗 郡山市文化財保護審議会委員ほか1件

小林 めぐみ 福島芸術計画運営委員会委員ほか13件

高橋 充 二本松城跡整備検討委員会委員ほか16件

塚本 麻衣子 喜多方市文化財保護審議委員

筑波 匡介 磐梯山ジオパーク協議会運営委員ほか4件

山口 拡 会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員

吉田 純輝 北海道大学総合博物館資料部研究員ほか3件

## 6 教育普及事業

### (1) 講座・講演会

館長と学芸員による各種講座のほか、外部講師による  
さまざまな講座・講演会等を実施している。令和6年度の  
各講座開催数は92、総参加者数は9,357人であった。

令和6年度講座・講演会等行事一覧

#### ア 特別講座

| テーマ                          | 講師・所属等                                          | 期日             | 参加人数 |
|------------------------------|-------------------------------------------------|----------------|------|
| 「詩人のいる博物館 詩作ワークショップ 夏、山によせて」 | 和合 亮一（詩人）、蓮岡 真（磐梯山ジオパーク協議会専門員）、会津磐梯山盆踊り保存会のみなさん | 令和6年8月11日（日・祝） | 2    |

#### イ 考古学講座

| テーマ         | 講師・所属等           | 期日                        | 参加人数 |
|-------------|------------------|---------------------------|------|
| 縄文土器をつくろう   | 高橋 満、五十嵐 岳樹（学芸員） | 令和6年7月27日（土）<br>～7月28日（日） | 19   |
| 縄文土器の野焼き    | 当館考古分野学芸員        | 令和6年10月6日（日）              | 19   |
| 会津大塚山古墳を歩こう | 平澤 慎（学芸員）        | 令和6年11月23日（土・祝）           | 14   |

#### ウ 歴史講座

| テーマ             | 講師・所属等     | 期日          | 参加人数 |
|-----------------|------------|-------------|------|
| 浮世絵のくずし字を読んでみよう | 栗原 祐斗（学芸員） | 令和6年6月9日（日） | 50   |

#### エ 自然史講座

| テーマ            | 講師・所属等     | 期日            | 参加人数 |
|----------------|------------|---------------|------|
| 講演会「恐竜を発掘するには」 | 吉田 純輝（学芸員） | 令和6年9月14日（土）  | 11   |
| 野外講座「恐竜をさがそう」  | 当館自然分野学芸員  | 令和6年10月20日（日） | 11   |

#### オ 美術講座

| テーマ               | 講師・所属等                   | 期日            | 参加人数 |
|-------------------|--------------------------|---------------|------|
| 美術放談1「主のために」      | 小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員） | 令和6年4月13日（土）  | 30   |
| 美術放談2「私だってすごいんです」 | 小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員） | 令和6年6月15日（土）  | 34   |
| 会津の個性豊かなほとけたち     | 塚本 麻衣子（学芸員）              | 令和6年7月20日（土）  | 21   |
| 美術放談3「おしゃれ心あれこれ」  | 小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員） | 令和6年8月24日（土）  | 38   |
| 美術放談4「美味しい美術」     | 小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員） | 令和6年10月19日（土） | 23   |
| 美術放談5「共創の美術」      | 小林 めぐみ、塚本 麻衣子、川延 安直（学芸員） | 令和6年11月30日（土） | 33   |

#### カ 災害分野講座

| テーマ                  | 講師・所属等           | 期日          | 参加人数 |
|----------------------|------------------|-------------|------|
| 楽しいそなえ               | 筑波 匡介、鈴木 弥生（学芸員） | 令和6年9月1日（日） | 12   |
| 楽しいそなえ～マイ避難シートをつくろう～ | 福島県危機管理課のみなさん    | 令和6年9月1日（日） | 9    |

#### キ 企画展・特集展関連行事

| テーマ                                   | 講師・所属等                     | 期日            | 参加人数 |
|---------------------------------------|----------------------------|---------------|------|
| 企画展「幕末明治の浮世絵百年」内覧会（友の会・報道向け）          |                            | 令和6年4月26日（金）  | 18   |
| 企画展「幕末明治の浮世絵百年」展示解説会                  | 栗原 祐斗（学芸員）                 | 令和6年4月28日（日）  | 25   |
|                                       |                            | 令和6年6月9日（日）   | 25   |
|                                       | 渡邊 歩（学芸員）                  | 令和6年5月26日（日）  | 23   |
| ワークショップ「うきよえをぬってみよう in こどもミニミニはくぶつかん」 |                            | 令和6年5月3日（金・祝） | 80   |
| 講演会「浮世絵の楽しみ方―絵師や主題に注目して」              | 藤澤 茜（神奈川大学准教授、国際浮世絵学会常任理事） | 令和6年5月12日（日）  | 40   |
| 企画展「縄文DX」内覧会（友の会・報道向け）                |                            | 令和6年7月5日（金）   | 41   |
| 講演会「土器に宿る―縄文中期・ふくしまの人体文」              | 高橋 満（学芸員）                  | 令和6年7月13日（土）  | 95   |
| 講演会「ヒスイの道を探る」                         | 栗島 義明（明治大学非常勤講師）           | 令和6年8月3日（土）   | 79   |

| テーマ                         | 講師・所属等        | 期日                | 参加人数 |
|-----------------------------|---------------|-------------------|------|
| 展示解説会『縄文土器』をよみきかせ           | 高橋 満（学芸員）     | 令和6年8月10日（土）      | 45   |
|                             |               | 令和6年8月21日（水）      | 40   |
|                             |               | 令和6年8月31日（土）      | 48   |
| 企画展「ふくしまの酒造り」内覧会（友の会・報道向け）  |               | 令和6年9月20日（金）      | 16   |
| 学芸員によるギャラリートーク              | 大里 正樹（学芸員）    | 令和6年9月21日（土）      | 16   |
|                             |               | 令和6年9月23日（月・祝）    | 23   |
|                             | 大里 正樹ほか（学芸員）  | 令和6年10月1日（火）      | 14   |
|                             |               | 令和6年10月12日（土）     | 18   |
|                             |               | 令和6年10月13日（日）午前   | 22   |
|                             |               | 令和6年10月13日（日）午後   | 19   |
|                             |               | 令和6年10月14日（月・祝）午後 | 15   |
|                             |               | 令和6年10月14日（月・祝）午後 | 25   |
|                             |               | 令和6年10月19日（土）     | 19   |
|                             |               | 令和6年11月3日（日・祝）    | 18   |
|                             |               | 令和6年11月30日（土）     | 20   |
|                             |               | 令和6年12月1日（日）      | 35   |
| 講演会「酒の日本文化」                 | 神崎 宣武（民俗学者）   | 令和6年9月28日（土）      | 60   |
| ワークショップ「酒林（杉玉）をつくろう」        | 渡部 裕高（会津酒造専務） | 令和6年10月27日（日）     | 7    |
| 映画上映会「一献の系譜」                |               | 令和6年11月4日（月・祝）    | 19   |
| 学芸員によるギャラリートーク（手話通訳付き特別解説会） | 大里 正樹ほか（学芸員）  | 令和6年11月9日（土）      | 28   |

#### ク 博物館講座

| テーマ                                | 講師・所属等                      | 期日            | 参加人数 |
|------------------------------------|-----------------------------|---------------|------|
| 三の丸から講座「空から読む若松の歴史―地形・戊辰戦争・三十三観音―」 | 高橋 満、栗原 祐斗、大里 正樹（学芸員）       | 令和6年4月20日（土）  | 40   |
| 会津の三十三観音を知る                        | 高橋 充（副館長）、塚本 麻衣子、大里 正樹（学芸員） | 令和6年10月26日（土） | 83   |
| 親子で探検！博物館のウラ側                      |                             | 令和6年11月10日（日） | 9    |

#### ケ みんなでつくるイベント

| テーマ                         | 講師・所属等                                                 | 期日                          | 参加人数 |
|-----------------------------|--------------------------------------------------------|-----------------------------|------|
| 博物館でもよみきかせ                  | 博物館職員                                                  | 令和6年4月13日（土）                | 22   |
|                             | 読み語り たんぽぽの会                                            | 令和6年5月11日（土）                | 18   |
|                             | 心に虹のおはなし会                                              | 令和6年6月8日（土）                 | 8    |
|                             | ボランティアサークルハーモニー                                        | 令和6年7月13日（土）                | 13   |
|                             | 会津大学短期大学部のみなさん                                         | 令和6年8月10日（土）                | 29   |
|                             | 読み聞かせの会マザーグース                                          | 令和6年9月14日（土）                | 7    |
|                             | 坂下読み聞かせの会                                              | 令和6年10月12日（土）               | 23   |
|                             | おはなしの会ゆがわ                                              | 令和6年11月9日（土）                | 8    |
| こどもミニミニはくぶつかん               | 会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科のみなさん                                | 令和6年5月3日（金・祝）<br>～5月5日（日・祝） | 460  |
| 会津短大生とあそぼう                  | 会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科 あそびサークルのみなさん                        | 令和6年5月26日（日）                | 40   |
|                             | 会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科のみなさん                                | 令和6年9月22日（日・祝）              | 44   |
|                             | 会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科のみなさん                                | 令和6年11月24日（日）               | 43   |
| 民謡を知る 民謡を唄う―玄如節と各地の民謡―      | 玄如節顕彰会のみなさん                                            | 令和6年6月8日（土）                 | 75   |
| 博物館でもよみきかせ<br>こどもミニミニはくぶつかん | 会津大学短期大学部幼児教育・福祉学科葉山ゼミ・会津大学短期大学部あそびサークルの皆さん・会津民話会のみなさん | 令和6年8月10日（土）<br>～8月11日（日・祝） | 164  |
| 市民会津磐梯山盆踊り                  | 会津磐梯山盆踊り保存会のみなさん                                       | 令和6年8月15日（木）                | 265  |

コ 実技講座

| テーマ                         | 講師・所属等                    | 期日           | 参加人数 |
|-----------------------------|---------------------------|--------------|------|
| 藁に親しむワークショップ～楽しく学ぼう<br>わら細工 | 山口 拓、大里 正樹、西尾 祥子<br>(学芸員) | 令和6年12月1日(日) | 16   |

サ 三の丸からプロジェクト

| テーマ                           | 講師・所属等            | 期日                                                                        | 参加人数                       |
|-------------------------------|-------------------|---------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 武士が愛したかそけき音色・七絃琴に触れる          | 飛田 立史 (琴士)        | 令和6年5月12日(日)<br>令和6年6月9日(日)<br>令和6年7月7日(日)<br>令和6年8月25日(日)<br>令和6年9月8日(日) | 24<br>11<br>20<br>21<br>22 |
| 雪国ものづくりマルシェ 2024 春            |                   | 令和6年5月18日(土)<br>～5月19日(日)                                                 | 2,185                      |
| 抹茶を飲んでみませんか                   | 宮崎 宗伊 (会津茶道会主宰)   | 令和6年6月16日(日)                                                              | 16                         |
| 見て触れて、能を体験してみよう               | 会津能楽会のみなさん        | 令和6年7月14日(日)<br>令和6年11月3日(日・祝)                                            | 25<br>9                    |
| 刀剣取扱い講座                       | 藤安 将平 (将平鍛刀場 刀匠)  | 令和6年8月18日(日)                                                              | 12                         |
| 奥会津の恵みでつくるタペストリー              | 齊藤 加津代 (畑から育てた布)  | 令和6年10月6日(日)                                                              | 6                          |
| 雪国ものづくりマルシェ 2024 秋            |                   | 令和6年10月12日(土)<br>～10月13日(日)                                               | 3,197                      |
| またたび細工職人の技を見てみませんか?           | 菅家 豊 (またたび細工職人)   | 令和6年10月25日(金)                                                             | 80                         |
| またたび細工～六つ目ザルをつくろう             | 菅家 豊 (またたび細工職人)   | 令和6年10月26日(土)                                                             | 11                         |
| 錫粉蒔絵に挑戦!～ミニトレーまたは盃の<br>絵付け体験～ | 八木 由紀子・佐藤 淳 (蒔絵師) | 令和6年11月2日(土)                                                              | 9                          |
| 会津木綿でじんわりほかほか小豆カイロを<br>つくろう   | 田崎 薫 (株式会社はらっぱ)   | 令和6年11月10日(日)                                                             | 8                          |
| 松平家の茶道を見る、飲む、楽しむ              | 茶道石州流宗家会津支部のみなさん  | 令和6年11月17日(日)                                                             | 62                         |
| 会津本郷焼の器をつくろう                  | 宗像 利訓 (宗像窯9代目)    | 令和6年11月24日(日)                                                             | 12                         |

シ 共催事業

| テーマ                                     | 主催              | 期日            | 参加人数 |
|-----------------------------------------|-----------------|---------------|------|
| 徳一菩薩に学ぶ会主催・講演会「徳一と最澄<br>分断を越える対話」       | 師 茂樹 (花園大学教授)   | 令和6年8月25日(日)  | 150  |
| 会津史学会歴史文化講演会「高寺伝承と発掘<br>された会津盆地西部古代の様相」 | 吉田 博行 (日本考古学協会) | 令和6年11月17日(日) | 91   |
| こどもミニミニ博物館 I N会津短大                      | 会津大学短期大学部       | 令和7年1月26日(日)  | 122  |

ス 後援事業

| テーマ                            | 主催                       | 期日            | 参加人数 |
|--------------------------------|--------------------------|---------------|------|
| 会津の怪を語る会                       | 煙鳥・吉田 悠軌・斉木 京 (『会津怪談』著者) | 令和6年4月6日(土)   | 91   |
| 福島県民俗学会総会・研究発表会                |                          | 令和6年6月2日(日)   | 17   |
| 全会津公立小中学校事務職員研究協議会研<br>修会並びに総会 |                          | 令和6年6月14日(金)  | 81   |
| 夏季特別支援教育セミナー                   |                          | 令和6年8月22日(木)  | 36   |
| 会津塾 (会津地域文化芸術フォーラム主催)          |                          | 令和6年11月16日(土) | 205  |

セ 友の会事業

| テーマ                          | 講師・所属等                           | 期日           | 参加人数 |
|------------------------------|----------------------------------|--------------|------|
| 博物館友の会総会・講演会「ふくしまの古墳<br>を知る」 | 平澤 慎 (学芸員)                       | 令和6年4月14日(日) | 71   |
| 矢じりをつくろう!                    | 博物館友の会化石鉱物探検隊のみなさん               | 令和6年8月17日(土) | 5    |
| 博物館友の会講演会「古代の人々が見上げた<br>星空」  | 渡部 潤一 (国立天文台上席教授、国際天文学連<br>合副会長) | 令和6年9月8日(日)  | 132  |

## (2) 博物館の新しい風景創造事業

誰もが安心して利用できる博物館を目指し、多くの方との協働により事業を実施した。

### ア みんなでつくるイベント

「民謡を知る、民謡を唄うー玄如節と各地の民謡ー」「会津磐梯山市民盆踊り」の2件を開催した。例年開催していた本瀧澤獅子保存会による「会津の彼岸獅子」は記録的な大雪の影響により開催を中止した。

会津各地の読み聞かせ団体との協働により「博物館でもよみきかせ」（全8回）を、会津大学短期大学部幼児教育福祉学科との協働により「こどもミニミニはくぶつかん」「会津短大生と遊ぼう」を実施した。

### イ 未就学児団体連携事業

前年度までの取組の振り返りをもとに「会津慈光こども園」「会津慈光第二こども園」とは通年で学習プログラムを実施した。「認定こども園こどもの森」とは「大好きなかおーミニお面をつくろうー」をテーマに遠隔観覧プログラムの試行とゲストティーチャーを組み合わせた連携事業を実施した。

### ウ 障がい者支援団体連携事業

福島県立会津支援学校（竹田校を含む）と連携し、ゲストティーチャー、来館時の学習プログラムの提供、職場体験、テレプレゼンスロボットによる遠隔観覧などを実施した。会津支援学校本校とは17回、竹田校とは1回実施した。

## (3) 学校・文化施設との連携

県内外の学校団体や文化施設主催団体との連携をはかり、次の事業を実施している。

### ア 展示室での自主学習（しおり・ワークシート）

常設展示室を各自のペースで目的をもって見学できるワークシートを当館ホームページで公開、ダウンロードしていただけるようにしている。また、令和3年度に作成した「動物さがし」をテーマにしたワークシートを常設展入口と雪国ものづくり広場なんだべやに設置した。しかし、2つのワークシートは、常設展総合展示室の資料を中心としたワークシートのため、令和6年度は総合展示室の閉室に伴いワークシートの活用はほぼ見られなかった。

### イ 学習プログラム

修学旅行等の学校団体に対しては、訪問する場所の歴史や文化に触れる展示解説や地域の歴史にちなんだ講座等を多数実施した。また、総合展示室閉室のため観覧いただけない部分を補うためにエントランスで行った「さわれる・けんぱく」の展示資料を来館者に触っていただきながら学芸員が資料を解説する独自のプログラムも実施した。公民館等の地域団体には、「企画展見どころ解説」や「会津大塚山古墳とは」のプログラムを多くご利用いただいた。支援学校や未就学児の教育・保育施設の団体に対しては、さわれる資料の提示や関連するワークショップを行うなど、楽しみながら学びにつながる独自

のプログラムを提案、実施した。

### ウ 指導者向け研修

「博物館を活用した教育プログラム研修会」と題し、令和6年8月6日（火）に4名の参加者を得て開催した。当館が学校や公民館等の団体向けに提供してきたプログラムを紹介したほか、実際に授業で当館のプログラムを利用した2名の教員の方をお招きし、博物館を利用するに至った意図やその効果について報告をいただいた。

### エ 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・民俗・自然の各分野で貸出用の学習用具・教材等を準備している。今年度の貸出はなかった。

### オ ゲストティーチャー

学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。令和6年度の実施回数は52回で、参加者は2,780人であった。

### カ 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。令和6年度は4校からの要請があり、受け入れを実施した。

#### ○職場体験受け入れ実績（生徒のみ）

- ・福島県立会津支援学校（高等部11名）1日間
- ・会津若松市立第二中学校（2年生3名）2日間
- ・福島県立若松商業高等学校（2年生4名）3日間
- ・福島県立会津学鳳高等学校（1年生4名）1日間

### キ 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。令和6年度は県内出身学生と当館の使命に共感し当館での実習を強く希望する学生の計7名を受け入れた。

実習期間 令和6年8月27日（火）～9月1日（日）

## (4) 生涯学習・研究支援

### ア 図書コーナー

エントランスホール内に配置されており、展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物及び博物館資料に関連した図書を配架している。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。

### イ 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

#### 分野別特別観覧件数

考古：6件124点 歴史：15件195点 民俗：2件10点  
美術：1件1点 計24件330点

### ウ 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。令和6年度の派遣回数は33回で、参加者は1,302人であった。

講師派遣一覧

| 月 日           | 講 師            | 分野 | 演 題 ・ 内 容 等                          | 主 催                     |
|---------------|----------------|----|--------------------------------------|-------------------------|
| 令和6年6月2日(日)   | 筑波 匡介          | 災害 | つながろう猪苗代 (防災減災講座)                    | 猪苗代町社会福祉協議会             |
| 令和6年6月6日(木)   | 筑波 匡介          | 災害 | 防災・減災についての基礎・基本                      | 国立磐梯青少年交流の家             |
| 令和6年6月8日(土)   | 小林 めぐみ         | 美術 | コア・アクティブ科目講義                         | 福島大学                    |
| 令和6年6月12日(水)  | 吉田 純輝          | 自然 | 恐竜最新研究                               | 福島県高等学校教育研究会理科部会相双支部    |
| 令和6年6月14日(金)  | 小林 めぐみ         | 美術 | 地域連携とネットワークの拠点として～博物館の役割～            | 全会津公立小中学校事務職員研究協議会      |
| 令和6年6月19日(水)  | 小林 めぐみ         | 美術 | 会津の刀鍛冶について                           | 会津若松市中央公民館              |
| 令和6年6月22日(土)  | 山口 拡           | 民俗 | コア・アクティブ科目講座                         | 福島大学                    |
| 令和6年6月23日(日)  | 高橋 充           | 歴史 | 根城おもしろ講座「蒲生氏郷と奥羽再仕置」                 | 一般財団法人 VISIT はちのへ       |
| 令和6年6月30日(日)  | 筑波 匡介          | 災害 | つながろう猪苗代                             | 猪苗代町社会福祉協議会             |
| 令和6年7月6日(土)   | 筑波 匡介          | 災害 | コア・アクティブ科目講座                         | 福島大学                    |
| 令和6年7月12日(金)  | 高橋 充           | 歴史 | 村ができた！街道が通った！―「新編会津風土記」にみる江戸時代の大戸地区― | 会津若松市大戸公民館              |
| 令和6年7月22日(月)  | 筑波 匡介<br>鈴木 弥生 | 災害 | 「生きる力を育むための防災教育」                     | ムシテックワールド               |
| 令和6年7月22日(月)  | 筑波 匡介          | 災害 | 「防災を学ぼう」                             | 南会津中央公民館                |
| 令和6年8月3日(土)   | 吉田 純輝          | 自然 | 恐竜は鳴く？恐竜研究最前線                        | 仙台市科学館                  |
| 令和6年8月6日(火)   | 筑波 匡介          | 災害 | 防災に関する工作 ・ クイズ                       | 会津坂下町中央公民館              |
| 令和6年8月20日(火)  | 塚本 麻衣子         | 美術 | 会津三十三観音について                          | 会津美里町教育委員会              |
| 令和6年8月22日(木)  | 筑波 匡介          | 災害 | 震災遺産について                             | 会津坂下町教育委員会              |
| 令和6年9月5日(木)   | 塚本 麻衣子         | 美術 | 日本遺産 会津の三十三観音めぐり                     | ゆめ寺子屋（事務局：若松市高齢福祉課）     |
| 令和6年9月7日(土)   | 筑波 匡介          | 災害 | 防災を学ぼう                               | 南会津町中央公民館（たじま kids クラブ） |
| 令和6年9月13日(金)  | 高橋 充           | 歴史 | モノをつくる！神仏に祈る1―蘆名氏の時代の大戸地区―           | 会津若松市大戸公民館              |
| 令和6年9月14日(土)  | 筑波 匡介          | 災害 | 防災教育コーディネーターについて                     | 防災教育コーディネーター養成塾         |
| 令和6年10月8日(火)  | 猪瀬 弘瑛          | 自然 | 理科実技研修                               | 両沼地区小学校教育研究会            |
| 令和6年10月12日(土) | 筑波 匡介          | 災害 | 復興とは何か                               | 長岡市立歴史文書館               |
| 令和6年11月8日(金)  | 筑波 匡介          | 災害 | 防災について考えよう～クロスロードゲームを用いた防災入門編～       | 猪苗代婦人消防連絡協議会            |
| 令和6年11月21日(木) | 猪瀬 弘瑛          | 自然 | 博物館資料論                               | 福島大学                    |
| 令和6年11月29日(金) | 筑波 匡介          | 災害 | 振り返りと次年度に向けて                         | 猪苗代町社会福祉協議会             |
| 令和6年12月7日(土)  | 高橋 充           | 歴史 | 古文書講座（中級編）                           | 会津図書館                   |
| 令和6年12月14日(土) | 高橋 充           | 歴史 | 古文書講座（中級編）                           | 会津図書館                   |
| 令和7年1月18日(土)  | 高橋 充           | 歴史 | 古文書講座（中級編）                           | 会津図書館                   |
| 令和7年1月25日(土)  | 筑波 匡介          | 災害 | 学習発表会アドバイザー                          | 福島県立猪苗代高等学校             |
| 令和7年1月30日(木)  | 筑波 匡介          | 災害 | 令和7年度「つながろう猪苗代」検討会                   | 猪苗代町社会福祉協議会             |
| 令和7年2月15日(土)  | 高橋 充           | 歴史 | 古文書講座（中級編）                           | 会津図書館                   |
| 令和7年3月25日(火)  | 筑波 匡介          | 災害 | 震災を学ぶ講座 避難所ワークショップ                   | 下郷町民生児童委員協議会            |

エ 動画の制作と配信

イベントや事業を紹介する動画の制作と配信を行った。令和6年度は7本の動画を公開した。

(5) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して当館開催事業の周知、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア 友の会の概要

(ア) 発足 平成元年3月10日

(イ) 設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(ウ) 総会の開催

会計年度の期間が変更されたことにより、令和5年度の事業・会計決算報告と令和6年度の事業・予算案を審議する総会は、令和6年4月14日(日)に開催されることとなった。

(エ) 令和6年度会員数

個人会員 111 名 家族会員 33 名 高校生会員 2 名  
賛助会員 2 名 合計 148 名

イ 令和6年度事業概要

(ア) 講演会の開催

2 回の講演会を開催した。内容と日時は「6-(1)-<sup>(カ)</sup>友の会事業」を参照。

(イ) 研修旅行

令和6年度実施せず。

(ウ) 会報の発行

友の会会報第 132 号・第 133 号を発行し会員に配布した。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

ウ サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会、考古学倶楽部、仏像に親しむ会の 4 サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成 11 年に設立。会員数 54 名。令和 6 年度は全 6 回の野外活動（化石・鉱物の観察活動）のほか、実技講座「矢じりをつくろう！」といったイベントを博物館で開催した。

(イ) 古文書愛好会

平成 14 年度に発足した古文書愛好会は随時 11 名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは 4 つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。通常月 1 回の活動計画で、令和 6 年度は前年度から引き続き「大町に関する書上」の解説を行った。

(ウ) 考古学倶楽部

考古学に興味をもつ友の会会員が集うサークルで、令和 3 年 4 月に発足した。研修会や考古学関連の展覧会の見学を行った。

(エ) 仏像に親しむ会

県内の仏教文化、特に仏像に関心をもつ会員によって、令和 3 年度から活動を開始。令和 5 年度に名称を「仏像を研究し旅する会」から「仏像に親しむ会」に変更した。会員は 12 名。本年度は会津地域を中心に寺院を訪れての仏像見学を全 5 回、座学を全 6 回行った。併せて、博物館での展示見学や関連する美術講座への参加、会員各自の興味関心や学習成果を発表する勉強会を組み合わせる形で活動を行った。

## 7 文化財・自然資料レスキュー

### (1) 東日本大震災に伴う被災文化財・自然資料レスキュー

東日本大震災の発生以来、福島県立博物館では、被災文化財・自然資料レスキューを実施してきた。令和 6 年度は、当館が新規に関わった被災地域の資料の調査や受け入れはなかった。また平成 23 年度から様々な事情によって当館で受け入れた資料のうち、所蔵先の避難状況の変化によって返還できるようになった場合は、順次対応するようにしているが、令和 6 年度は 3 件の返却があった。

### (2) 令和6年能登半島地震被災文化財等救援活動

令和 6 年 1 月 1 日に起きた令和 6 年能登半島地震により被災した文化財等の救援活動として、独立行政法人国立文化財機構文化財防災センターが実施する文化庁受託事業「令和 6 年被災文化財救援等事業（文化財ドクター派遣事業・文化財レスキュー事業）」が行われている。

当館は上記の事業へ公益財団法人日本博物館協会の加盟館の一員として参加している。令和 6 年度は 11 月と令和 7 年 3 月の 2 回、それぞれ当館学芸課の職員 2 名を派遣した。

### (3) その他の災害発生時対応に伴う活動

令和元年度に福島県文化財保存活用大綱が策定され、災害発生時に文化財・自然資料レスキューを実施するしくみが整えられた。令和 7 年 1 月 29 日に「文化財に係る災害時の応援活動支援に関する協定」連絡会議が行われた。また 2 月 25 日に「文化財に係る災害時の相互応援に関する協定」連絡会議が大熊町で開催された。

## 8 ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成 26 年度から 28 年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成 29 年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

### (1) 震災遺産保全チームの組織

令和 6 年度は民俗 1 名、歴史 1 名、美術 1 名、災害 2 名の計 5 名の学芸員が業務を担当した。震災遺産に主体的に関わる災害分野担当学芸員を中心に、所蔵する資料の研究・調査を取りまとめ、教育普及活動、ポイント展の実施を行った。

### (2) 震災遺産の調査・保全

震災遺産の未整資料の整理を進めている。また課題である収蔵場所として第 5 収蔵庫や第 2 収蔵庫の整理を引き続き進めている。令和 2 年度末より引き続き、コロナ関連資料の収集を継続している。震災遺産の常設展示に向けて、内容の検討を進めてきた。

### (3) 他団体・他機関との連携・協力

社会教育研究全国集会福島大会に実行委員として運営に参加した。仙台防災未来フォーラムへ大熊町、南国Rスタジオと協働して震災遺産の活用について共同研究の内容についてブース出展を行った。磐梯山ジオパーク運営協議会とも防災教育の普及活動を展開し学校行事へ防災学習の提案を行った。会津自然の家や磐梯山青少年交流の家との連携も定例化し、猪苗代町社会福祉協議会とも連携して地域づくりへの参画を始めた。

### (4) 普及事業

今年度は申込みが多く、ゲストティーチャー、講師派遣、特別プログラムなどの今年度は対応をお断りすることが複数あった。震災遺産をテーマとした高校での授業実践について東日本大震災・原子力災害学術研究集会にて報告した。

### (5) 震災遺産の常設展化

休館中に総合展示室「自然と人間」の展示更新を行い、アジア・太平洋戦争後について、高度経済成長、エネルギーの変遷、産業の転換、磐梯山噴火とその後、東日本大震災として項目を立て、震災遺産を展示に加えた。

## 9 ポリフォニックミュージアム

### (1) 事業趣旨

これまで福島県立博物館が築いてきたネットワークを基盤に、創作活動（芸）や農業（農）、福祉（福）の専門的な知識や情報、経験を有するNPO等の団体と博物館とが協働し、それぞれの専門性や博物館資源を活かしたこどもの居場所づくりに取り組んだ。本事業を通して、家庭と園・学校以外に、こどもたちが地域社会や様々なコト・モノ・ヒトに出会える居場所をつくることで、不登校児など社会的に困難を抱えたこどもたちの課題解決に向き合い、こどもたちの可能性や創造性を育むことを目指した。

### (2) 実施期間

令和6年4月1日(月)～令和7年3月31日(月)

### (3) 助成

こども家庭庁 令和6年度こどもの居場所づくり支援体制強化事業費国庫補助金（NPO等と連携したこどもの居場所づくり支援モデル事業）

### (4) 事業内容

「大人が学ぶワークショップ」2回、「大人ミーティング」2回、「こどもを対象としたワークショップ」10回を実施。成果を記録集（800部）にまとめるとともに、第2回「大人が学ぶワークショップ 博物館×アーティストから生まれる場」は記録映像を編集し、YouTube当館公式チャンネルで公開した。

## 10 三の丸からプロジェクト

### (1) 事業趣旨

令和2年5月1日に施行された文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光の推進に関する法律に基づ

き、当館では、共同申請者と共に「福島県立博物館を活用した会津文化観光拠点計画」を策定、申請し、令和2年11月18日に認定を受けた。同計画の実現のため、令和2年度から5ケ年にわたって「福島県立博物館文化観光拠点施設機能強化事業『三の丸からプロジェクト』」を実施することとなった。

### (2) 組織

ア 申請者 福島県（福島県立博物館）

イ 共同申請者

会津若松市、一般財団法人会津若松観光ビューロー、公益財団法人福島県観光物産交流協会（地域連携DMO）、会津若松商工会議所、只見川電源流域振興協議会

### (3) 助成

令和6年度文化芸術振興費補助金（文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業）

### (4) 事業内容

ア 展示強化事業

令和5年度に行ったレーダー探査結果をもとに、令和6年度は堀跡を再現する植栽を整備した。整備箇所は一般駐車場から博物館入り口に向かう動線部分である。堀跡の説明に関しては、サイン看板に表記することとした。

三の丸堀跡は、春には、コヒガンザクラが咲き多くの人が訪れる場所でもあるため、市民参加のワークショップを実施し、整備の在り方を議論した。また、サイン計画とも関わることが多いため、関連する行政担当部署との情報共有など実施するための会議を行った。

イ 体験型プログラム提供事業

武家文化を観賞・体験する5つのプログラム（七絃琴、茶道2プログラム、刀剣取り扱い、能楽）、会津のものづくりを体験する6つのプログラム（会津木綿、会津本郷焼、蒔絵、からむし織、またたび細工2種）を実施した。体験学習用の部屋に暖簾やスクリーンを設置した。また、事業終了後の令和7年度からの自走化に向けた意見交換会を実施した。

ウ 多言語化事業

3エリア周遊に関連する既存映像コンテンツの多言語化（英語、中国語（簡体字・繁体字）字幕テロップ挿入映像の制作）を行った。

エ 「会津のSAMURAI文化エリア」周遊のためのサイン強化事業

博物館から鶴ヶ城までの双方向の周遊をはかるために、外構展示と合わせて市民ワークショップを実施し、雑多なサインについては、撤去していくことを方針として掲げた。コーチングからもサインの設置に関して、専門的な意見をいただきながら、掲示する内容やデザイン、設置場所などの検討を進めた。また、サイン計画を進めるにあたってのデザインマニュアルを作成した。

オ 来館者利便性向上事業

一般的なWebブラウザで閲覧できる情報ビューワー「VRナビゲーションけんぱくん」を前年度の常設展総

合展示室に引き続き、常設分野別展示室にまで拡大・整備した。また、令和4年度、5年度に作成した視覚支援カード「さわって観ようてんじカード」を補強するハンズオン資料（勝常寺薬師如来像3分の1縮小模型）を作成した。来館が困難な層の観覧や海外・県外からの観光への導入、学習旅行の事前・事後学習を目的に、テレブレゼンスロボットによる遠隔観覧を実施し、令和7年度からの博物館学習プログラムでの運用方法についてまとめた。視聴覚障がいへの理解を深める研修を実施した。

#### カ 周遊促進情報発信事業

前年度までに作成した各エリアの文化観光に役立つ外国語テキストをまとめ、Webパンフレットを製作した。製作物を今年度新たに整備した三の丸からプロジェクトのランディングページにて公開し、PDF形式とデジタルブック形式で閲覧できるようにした。ランディングページ用の多言語（英語・中国繁体字・簡体字）テキストも併せて作成した。

## 第14節 福島県自然の家

### 1 概要

#### (1) 沿革

昭和47年県内初の県立少年自然の家として、また、東北でも3番目の宿泊研修用の先導的施設として「福島県少年自然の家」（以下「自然の家」という。）を開設。

昭和50年海浜型の青少年社会教育施設として「福島県海浜青年の家」（以下「青年の家」という。）を開設。同年発足した「財団法人福島県海浜青年の家」が管理運営を行うこととなる。

昭和56年県立少年自然の家2施設目となる「福島県会津少年自然の家」を開設。これに伴い、「自然の家」の名称を「福島県郡山少年自然の家」に改める。

平成8年「福島県いわき海浜自然の家」を開設。これに伴い、「青年の家」の名称を「福島県相馬海浜自然の家」に改める。運営財団の名称を「財団法人福島県海浜自然の家」に変更し、海浜型2施設の管理運営を行うこととなる。

平成10年福島県教育庁の直営であった「福島県郡山少年自然の家」及び「福島県会津少年自然の家」の名称を「福島県郡山自然の家」及び「福島県会津自然の家」と改める。これにより財団の名称を「財団法人福島県自然の家」に変更し、県内4施設の管理運営を行うこととなる。

平成18年度から指定管理者制度を導入し、平成20年度までの3年間「財団法人福島県自然の家」が指定管理者となり4施設の管理運営を行うこととなる。

指定管理者であった財団が平成20年度末をもって解散したため、平成21年度から4施設とも県の直営による管理運営となる。

平成22年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理者候補団体に「財団法人いわき市教育文化事業団」が選定される（指定管理者の指定は議会の議決を経て決定するが、本書ではその記載は省略

する。）。なお、他3施設については検討会の条件を満たす団体がいないため直営による運営が継続されることとなる。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、「福島県会津自然の家」は同年7月2日まで「福島県郡山自然の家」は同年8月28日まで避難所として運営を行う。また「福島県いわき海浜自然の家」の指定管理は震災の影響により平成23年11月1日からの開始となる。なお「福島県相馬海浜自然の家」は地震・津波の甚大な被害を受け平成24年3月31日をもって公所廃止となる。

平成25年度に開催した指定管理者選定検討会において「福島県いわき海浜自然の家」の平成26年度から平成30年度までの指定管理者候補団体に「財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年度より公益財団法人に移行）」が選定される。

平成30年度に開催した指定管理者選定検討会において令和元年度から令和5年度までの「福島県郡山自然の家」の指定管理者候補団体に「学校法人国際総合学園」が、「福島県いわき海浜自然の家」について、「公益財団法人いわき市教育文化事業団」がそれぞれ選定される。

令和2年度に開催した指定管理者選定検討会において令和3年度から令和5年度までの「福島県会津自然の家」の指定管理者候補団体に「アメニティグループ」が選定される。

令和5年度に開催した指定管理者選定検討会において令和6年度から令和10年度までの指定管理者候補団体に「福島県郡山自然の家」については「学校法人国際総合学園」が、「福島県会津自然の家」については「アメニティグループ」が、「福島県いわき海浜自然の家」については「公益財団法人いわき市教育文化事業団」が、それぞれ選定される。

#### (2) 所在地

##### ア 福島県郡山自然の家

福島県郡山市逢瀬町多田野字中丸山46

〒963-0213 TEL 024-957-2111

FAX 024-957-2112

URL <https://koriyama-nc.fcs.ed.jp/>

##### イ 福島県会津自然の家

福島県河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山4495-1

〒969-6504 TEL 0242-83-2480

FAX 0242-83-2481

URL <https://www.aizu-shizen.jp/>

##### ウ 福島県いわき海浜自然の家

福島県いわき市久之浜町田之網字向山53

〒979-0335 TEL 0246-32-7700

FAX 0246-32-7730

URL <http://www.iwakikaihin.jp/>

## 2 教育目標及び基本的視点

### (1) 教育目標

恵まれた自然環境の中で、野外学習や集団宿泊活動など様々な活動を通して主体的に対応できる人々の育成を目指す生涯学習の推進のため、次の目標を設定する。

ア 自然の恩恵にふれ、自然に親しむ心や敬虔の念を育て

- る。
- イ 集団宿泊活動を通して規律・協同・友愛及び奉仕の精神を養う。
- ウ 自然体験活動を通して自ら実践し、創造する態度を育てる。

## (2) 基本的視点

豊かな自然体験を楽しめる施設として、その機能を十分に発揮するために、施設・設備の整備や運営方法の確立・改善に努め、利用者が充実した活動を展開できるよう、次の基本的視点に基づきそれぞれの施設の運営にあたる。

- ア 所員の英知と創意を結集し、施設の充実・整備を図り活気と魅力ある施設の運営に努める。
- イ 利用者の多様なニーズや利用目的に応じた柔軟な運営を行うよう努める。
- ウ 立地条件を生かした特色ある企画事業を展開するとともに、学校や地域に生きる活動種目やその指導方法の研究開発に努める。
- エ 民間の指導者の協力や高校生・大学生等にボランティアとして参加していただけるように努める。
- オ 現代的課題の解決に対応する事業を推進し、その情報の発信に努める。

## 3 新型コロナウイルスの影響

自然の家の令和6年度の受け入れは、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、5類感染症に移行した令和5年度の移行期間を経て、拡大防止のため行われていた利用定数、利用団体数、利用日数（宿泊日数）などの利用制限がすべて解除されての運営となった。

これにより利用状況はさらに回復し、全体的には、コロナ禍前の平成30年度と比較すると、利用者数で7割強、利用団体数で9割となった。なお、学校教育団体の利用者数の回復が、社会教育団体等の回復よりも早い状況となっている。

# 第15節 福島県郡山自然の家

## 1 概要

### (1) 沿革

郡山自然の家は、昭和47年に「福島県少年自然の家」という名称で設立され、令和5年度には延べ利用者数が180万人に達した。

本施設は、郡山駅より西へ約11km、郡山中央スマートインターから車で約6分、郡山南インターより約8分という交通の便に恵まれ、豊かな自然環境に囲まれた都市近郊型の自然の家として、「みどり・であい・感動」をキャッチフレーズに、野外活動や集団宿泊活動を通して、「自然に親しむ心や畏敬の念」「規律・協同・友愛・奉仕の精神」「自ら実践し、創造する態度」の育成を目指し、活動を展開している。また、生涯学習の拠点として県民に親しまれる施設を目指し、随時、施設の改築・改修を進め、園児から高齢者まで幅広い年齢層の方々やジェンダーを問わず利用しやすい施設

とすべく、多種多様な企画事業を展開し特色あるプログラムの開発に努めている。

平成31年4月1日より学校法人国際総合学園が指定管理者となり管理運営を行っている。

東日本大震災以降は、放射線量が比較的高い場所の除染を実施し放射線量の低減に取り組むとともに、毎月エリア内の放射線量を測定してホームページに掲載するなど情報提供に努めてきた。

年間の利用実績は、利用団体数412団体（前年比104.6%）、延べ利用者数20,917名（前年比120.2%）であった。内訳は学校教育団体の利用が7,753名、社会教育団体（ファミリーを含む）が6,006名、企画事業参加者が7,158名という状況で、5千人まで落ち込んだ利用者数も2万人を超えるまでに回復してきた。

## (2) 職員組織

| 職 名   | 人員 |
|-------|----|
| 所長    | 1  |
| 次長    | 1  |
| 事務局長  | 1  |
| 指導部主任 | 1  |
| 指導員   | 4  |
| 事務員   | 1  |
| 運転手   | 1  |
| 計     | 10 |

## (3) 令和6年度重点目標と成果

「SDGsを念頭に社会教育施設として質の高い活動を提供するとともに、LGBTQなど性の多様性と互いの価値観を尊重し人に優しい自然の家。」を目標に取り組んだ。

ア 利用団体への効果的な支援の充実

(ア) 団体が主体的に活動できるよう、学校利用団体・社会教育団体の担当者と緊密な連携に努めた。特に学校利用団体については、4月と7月に学校利用指導者研修会を実施した。熱中症対策及び感染症予防に努めるとともに、安全安心に利用して頂けるよう対応について情報共有を図った。

(イ) 社会教育団体の利用については、各団体代表者との連絡を密にしながら、事前の施設見学を実施するとともに活動計画作成を支援した。

(ウ) 利用団体の指導者及び利用者から寄せられたアンケート等を集約・分析し、より良いプログラムの提供が図られるよう努めた。

イ 魅力ある企画事業の運営

(ア) 自然の家らしい季節感を生かした魅力ある事業を企画立案するとともに、今までの事業を見直し利用者のニーズに合った事業展開を図るとともに、地域や関係機関との連携に努めた。

(イ) 前年度の反省や評価を踏まえ、事業内容や方法等に工夫・改善を加え、利用者の満足度向上に努めた。

## ウ 広報の充実と利用促進

(ア) ホームページやInstagramなど様々な広報機会を利用し、本所における事業実施に関する情報提供に努めた。特に、園や学校を通して園児や児童・生徒に直接チラシを配布することにより、各家庭に様々な企画事業についての情報提供を行った。

また、サザッピー会員については、各事業に関する案内を電子メールにより直接情報提供を行った。

(イ) 企画事業案の普及や事業の実施状況等をホームページに随時掲載するなど、タイムリーな情報提供に努めた。また、毎月エリア内5か所の放射線量をホームページに掲載し、利用者が安心して利用できるよう情報提供を行った。

(ウ) 県内の自然の家が広報機会を共有するという目的の下、各所で作成するチラシ等に他所の情報を掲載出来るよう準備したが、実際の運用には至らなかった。

(エ) 利用促進を図るため、平成25年度から家族を対象とした会員登録制度を立ち上げ、名称を本所のマスコットキャラクターにちなみ「サザッピークラブ」とした。新規会員獲得に努めた結果、年度末には会員数が400名を超えた。

## エ 安全管理と保健安全指導の徹底

(ア) 「事故はどこでもいつでも起こり得る」という前提のもと、所員の安全意識の徹底を図り、施設設備の日常点検及び定期点検の実施はもちろんのこと、利用者に対しても施設の安全な利用について支援を行った。また、暑さ対策として熱中症計を準備し利用団体に貸し出すとともに、研修室をクールダウンできる場所として準備した。

- ・各団体の利用前のコースや遊具点検を徹底した。
- ・熱中症予防のため、水分の適切な摂取や体調不良時の対応について利用団体との情報共有に努めた。
- ・食物アレルギー対応のため、利用団体との情報共有及び給食業務委託業者との連携を進めた。
- ・スズメバチ等害虫対策として、捕虫装置の設置と点検を実施した。
- ・松食い虫被害による倒木防止のため、郡山市森林組合及び郡山市公園緑地課との連携により計画的な伐採と日常の安全点検を実施した。

(イ) 防災に関しては、国際医療看護福祉大学校及び郡山消防署の協力・連携・指導のもと、給食・警備・清掃等の委託業務担当者の参加協力を得て、消火訓練や避難訓練・救急救命訓練を実施した。毎年定期的に実施することにより、関係者のスキルアップが図られ、実効性のある訓練を実施することができた。実際に消火設備を用いて各種訓練を実施することにより、運用上の課題が明確となり対策を講じることができた。さらに、安全・安心な施設は、そこに勤務する職員の意識に負う所が大きいことから、相互の信頼関係を日々醸成するべく情報の共有伝達に努めた。

## オ 施設・設備の整備

(ア) 常に利用者目線での施設の整備に努めた。具体的にはフィールドワーク活動の際など、小学生の目線でコース整備を行い目の高さにある樹木を除伐するほか、杭やコースロープを設置し、安全・安心に利用できるよう対応に努めた。また、総合活動館やアスレチックなどの遊具全般の点検に際しては、「目視、触診、打音、振動、負荷、作動」により器具の状態を確認し、随時、必要な整備・補修に努めた。

(イ) 多言語に関心を持つという観点から、館内標記を日本語と英語の併記とした。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

郡山市逢瀬町多田野字中丸山 46 番地

### (2) 宿泊定員

ア 本館 172 名 (15 部屋)

イ ロッジ 126 名 (9 棟)

ウ テント 120 名 (20 張)

### (3) 敷地面積

237,587.59 m<sup>2</sup>

### (4) 建物面積

延床面積 3,792.12 m<sup>2</sup>

- ・本館 (管理棟・宿泊室・研修室・浴室)
- ・体育館、総合活動館、野外活動センター、東西炊飯場、ロッジ等

### (5) 設備備品等

ア 野外活動設備

みどりの広場アスレチック、フィールドアドベンチャーコース、アーチェリー場 24 的、ナイトハイクコース、スコアオリエンテーリングポスト、フィールドワークコース、スタンプラリー、営火場 4 か所

イ その他

野外炊飯用具、インラインスケート、フリスビーゴルフ、フロッカー、キンボール、ペタンク、マウンテンバイク、グランドゴルフ、スナップゴルフ、スラックライン、ボッチャ、モルック、そり、各種クラフト用具、伝承遊びセット、ピアノ、双眼鏡、液晶プロジェクター、テレビほか

## 3 利用状況

### 令和6年度利用者数

延べ利用者数 20,917 人

|    |        |        |         |
|----|--------|--------|---------|
| 内訳 | 学校教育団体 | 173 団体 | 7,753 人 |
|    | 社会教育団体 | 170 団体 | 5,968 人 |
|    | ファミリー  | 4 団体   | 38 人    |
|    | 企画事業   | 65 事業  | 7,158 人 |

## 4 企画事業

### (1) 研修会事業

#### ア 学校利用指導者研修会

##### (ア) 目的

本所での主体的な利用促進のため、活動計画の立案や活動の実際について研修し、指導者としての資質を高める。

##### (イ) 期日及び参加者数

- a 令和6年4月25日(木) 21校21名
- b 令和6年7月25日(木) 35校40名

##### (ウ) 研修内容

施設紹介と活動プログラム立案、本所利用ルールの説明や活動プログラム実技研修を実施した。

#### イ ボランティア実践研修

##### (ア) 目的

本所のプログラム活動体験や宿泊体験を通してボランティア活動についての理解を深め人材の育成を図る。

##### (イ) 期日 令和6年7月20日(土)～21日(日)

##### (ウ) 対象及び参加者数

高校生以上 10名

##### (エ) 研修内容

1泊2日でボランティア活動の意義や安全・救急救命講習、活動プログラム実技研修などを実施した。

#### ウ ボランティア育成講座

##### (ア) 目的

本所のプログラム活動体験を通してボランティア活動についての理解を深め人材の育成を図る。

##### (イ) 期日 令和7年3月23日(日)

##### (ウ) 対象及び参加者数

高校生以上 6名

##### (エ) 研修内容

ボランティア活動の意義や安全・救急救命講習、防災炊飯実技研修などを実施した。

#### エ セカンドスクール

##### (ア) 目的

小学校における教科等に関連付けた活動プログラムを実施することにより、「主体的・対話的で深い学び」につなげ、集団宿泊活動の教育的効果向上を図る。

##### (イ) 期日 令和6年11月12日(火)～15日(金)

##### (ウ) 参加校及び参加者数

郡山市立穂積小学校・三和小学校 14名

##### (エ) 研修内容

3泊4日を通して2校の児童が、本所の活動プログラムや震災を学ぶ活動、職業体験学習、大安場史跡公園見学学習、国語算数合同授業などを実施した。

### (2) 利用拡大事業

#### ア サクラ・カタクリ月間

##### (ア) 目的

カタクリの群生、桜を鑑賞し、春の自然を満喫する。

##### (イ) 期日、対象及び参加者数

- a 令和6年4月2日(火)～30日(火) 一般 629名

- b 令和7年3月1日(土)～30日(日) 一般 3名

##### (ウ) 活動内容

本所の一部を開放し、春の植物を鑑賞した。

#### イ さくらウオーク

##### (ア) 目的

春の三穂田路の野山や田園地帯を歩きながら自然に親しみ、健康増進を図る。

##### (イ) 期日 令和6年4月7日(日)

##### (ウ) 対象及び参加者数

一般 111名 (ほかボランティア2名)

##### (エ) 活動内容

本所を出発し笹原川千本桜まで約5km・10kmに分かれて散策をした。

#### ウ オープニングセレモニー

##### (ア) 目的

令和6年度のオープンに合わせ、アスレチックと総合活動館を地元小学生に開放し、使い始めを行う。

##### (イ) 期日 令和6年4月17日(水)

##### (ウ) 参加校及び参加者数

郡山市立多田野小学校(堀口分校含)  
4、5年生と教員 37名

##### (エ) 活動内容

児童代表あいさつや葛を用いたテープカットなどのセレモニーを行った後、アスレチックを楽しんだ。

#### エ 家族でチャレンジ!

##### (ア) 目的

家族や親子で野外活動に挑戦し、体力の増進を図るとともに、参加者の絆を深める。

##### (イ) 期日 令和6年5月19日(日)

##### (ウ) 対象及び参加者数

小学生とその家族 67名 (ほかボランティア2名)

##### (エ) 活動内容

午前・午後の定員制とし、3種目をローテーションで体験した。

#### オ みどりのオープンデー

##### (ア) 目的

本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。

##### (イ) 期日 令和6年6月2日(日)

##### (ウ) 対象及び参加者数

小学生とその家族 568名

##### (エ) 活動内容

本所プログラムや警察・消防車両乗車体験、職業体験等を実施した。

#### カ 夢冒険キャンプ

##### (ア) 目的

キャンプ生活を通して、自然との共存を図りながら様々な困難にチャレンジして打ち勝つことのできる子どもを育成する。

##### (イ) 期日 令和6年8月5日(月)～7日(水)

- (ウ) 対象及び参加者数  
小学4年生～6年生 36名（ほかボランティア2名）
- (エ) 活動内容  
2泊3日で野外炊飯、キャンプファイヤー、ロッジ泊、ムシテックワールドでの体験などを実施した。
- キ 家族で自然散策&防災キャンプ泊  
※台風接近により中止
- ク 第22回郡山自然の家オープンデー
- (ア) 目的  
本所の様々な活動プログラムを体験する機会を提供し、本所について理解を深め利用拡大を図る。
- (イ) 期日 令和6年9月15日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数  
小学生とその家族 841名
- (エ) 活動内容  
本所プログラムや警察車両乗車体験、ムシテックワールドの移動昆虫館、職業体験等を実施した。
- ケ 家族で登山を楽しもう in那須茶臼岳
- (ア) 目的  
登山についての知識を学び、トレッキングしながら茶臼岳登山に挑戦。
- (イ) 期日 令和6年9月28日(土)
- (ウ) 対象及び参加者数  
一般（中級～上級者） 23名
- (エ) 活動内容  
茶臼岳登山に挑戦。自然に親しみながら無理なく登山を体験した。
- コ 温故知新～郡山の歴史・近郊をめぐる旅～
- (ア) 目的  
一般シニア等を対象とした郡山の歴史や産業に触れ、郡山を再発見し知識を深める機会とする。
- (イ) 期日 令和6年10月5日(土)～6日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数  
一般（シニア層向け） 6名
- (エ) 活動内容  
1泊2日で郡山の歴史や産業に触れ、体験等を通じて郡山の魅力を楽しんだ。
- サ 家族でアーチェリー&秋カレーを作ろう！
- (ア) 目的  
自然の中で体を動かし、野外炊飯を体験して家族の交流を深める。
- (イ) 期日 令和6年10月13日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数  
小学生とその家族 55名
- (エ) 活動内容  
複数の家族で班を編成し野外炊飯でカレーを作った。
- シ 家族で自然散策といも煮会
- (ア) 目的  
秋の自然散策と野外炊飯・いも煮を通して食についての意識を高め、家族やグループとの交流を深める。
- (イ) 期日 令和6年10月27日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数  
小学生とその家族 71名
- (エ) 活動内容  
複数の家族で班を編成し野外炊飯で豚汁を作った。
- ス 五色沼ハイキング
- (ア) 目的  
家族や親子で秋の裏磐梯をトレッキングし、身近な自然に親しみ、家族間の交流を図る。
- (イ) 期日 令和6年11月17日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数  
小学生とその家族 31名（ほかガイド2名）
- (エ) 活動内容  
ボランティアガイドによる説明を聞きながら、裏磐梯の自然を満喫するとともに家族間の親睦を深めた。
- セ ハッピークリスマス&ハッピーニューイヤー
- (ア) 目的  
ミニ門松やクリスマスリース作りをとおして、文化を見直し家族や友達との交流を深める。
- (イ) 期日 令和6年12月8日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数  
幼児から小学生とその家族 56名（ほか講師3名）
- (エ) 活動内容  
ミニ門松とクリスマスリースを作り親睦を深めた。
- ソ 名人から学ぶけん玉教室&検定チャレンジ
- (ア) 目的  
家族でけん玉検定にチャレンジし、交流を深める。
- (イ) 期日 令和6年12月22日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数  
幼児から小学生とその家族 47名（ほか講師5名）
- (エ) 活動内容  
公益社団法人日本けん玉協会講師のもと、けん玉の基礎から上級技までコツを学びながら、家族で楽しんだ。
- タ 家族スケート教室
- (ア) 目的  
スケートについて、安全に滑る知識と技能を身につけ、家族や親子で楽しく活動する。
- (イ) 期日 令和7年1月19日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数  
幼児から小学生を含む家族 44名（ほか講師1名）
- (エ) 活動内容  
郡山スケート協会講師からスケートの基本的な動きの指導を受けながら家族で楽しく活動した。
- チ 家族でハッピーバレンタイン
- (ア) 目的  
お菓子作りをとおして、作る楽しさを学ぶとともに家族や友達との交流を深める。
- (イ) 期日 令和7年2月2日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数

幼児から小学生を含む家族 62名  
(ほか講師3名、ボランティア5名)

(エ) 活動内容

プロのパティシエによる、家族でおいしく本格的なチョコレート菓子づくりの教室を実施した。

ツ わくわく！ファミリー冬のつどい

(ア) 目的

スキーや雪遊びを体験し冬のスポーツを楽しむとともに、家族間の交流を深める。

(イ) 期日 令和7年2月15日(土)～16日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

小学生を含む家族 30名 (ほか講師2名)

(エ) 活動内容

裏磐梯スキー場にてスキー教室を実施した。

テ 冬のクラフトまつり

(ア) 目的

家族でクラフト制作をすることにより、ものづくりの楽しさを体験し、家族間の交流と親睦を図る。

(イ) 期日 令和7年3月2日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

小学生を含む家族 77名 (ほかボランティア3名)

(エ) 活動内容

6種類のクラフト制作を自由に選択し、各制作コーナーを巡り制作活動を実施した。

ト スコアオリエンテーリング記録にチャレンジ

※降雪によるコース不良のため中止

ナ サザンピーククラブDAY

(ア) 目的

本所サザンピーククラブ限定の企画を開催することでクラブ会員同士の親睦を深める。

(イ) 期日 令和7年3月16日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

サザンピーククラブ会員 37名

(エ) 活動内容

家族対抗競技を実施し親睦が図られた。

(3) 協力事業

ア いわき海浜自然の家 春のオープンデー

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年5月26日(日) 392名

(ウ) 活動内容 缶バッジ制作。

イ すかがわサイエンスフェスタ

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を提供し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年8月18日(日) 400名

(ウ) 活動内容 缶バッジ制作。

ウ FSGカレッジリーグ学園祭

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年8月25日(日) 192名

(ウ) 活動内容 缶バッジ制作。

エ 会津自然の家 あったかふれあいまつり

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年10月6日(日) 200名

(ウ) 活動内容 缶バッジの制作。

オ 第48回須賀川子どもの祭典

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年10月13日(日) 200名

(ウ) 活動内容 缶バッジの制作。

カ 第35回浄土松公園まつり

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年10月13日(日) 210名

(ウ) 活動内容 缶バッジの制作。

キ 浄土松公園 家族でBBQ&自然体験

(ア) 目的

本所の自然体験活動を提供し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年10月20日(日) 48名

(ウ) 活動内容

隣接する浄土松公園でのBBQと本所でのアーチェリーを組み合わせた連携事業を実施。

ク 待池公園 親子で宝探し

(ア) 目的

待池公園との連携により地域の利用促進を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年11月4日(月) 35名

(ウ) 活動内容

公園内の宝探しゲームで本所所員が活動支援を実施。

ケ サンタのクリーンナップ大作戦2024

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数 令和6年12月22日(日) 82名

(ウ) 活動内容 缶バッジの制作。

コ 福島ファイヤーボンズホームゲーム出店

(ア) 目的

本所のクラフト活動体験を実施し、利用拡大を図る。

(イ) 期日及び参加者数

a 令和6年12月21日(土) 359名

b 令和6年12月22日(日) 222名

c 令和7年2月8日(土) 165名

d 令和7年2月9日(日) 226名

(ウ) 活動内容 缶バッジの制作。

(4) 年間継続事業

ア 無料開放DAY

(ア) 目的

屋内施設とみどりの広場アスレチックを開放し、思い切り体を動かす機会を提供するとともに、体力の増進を図る。

(イ) 対象者、期日及び参加者数

a 中通り地区の特別支援学校・学級の幼児及び小学生とその家族

- (a) 令和6年4月20日(土) 10名
- (b) 令和6年4月27日(土) 12名
- (c) 令和6年5月11日(土) 26名
- (d) 令和6年11月9日(土) 27名
- (e) 令和6年11月30日(土) 40名
- (f) 令和6年12月14日(土) 27名
- (g) 令和7年1月11日(土) 8名
- (h) 令和7年1月25日(土) 8名
- (i) 令和7年2月8日(土) 15名

b 中通り地区の幼児及び小学生とその家族

- (a) 令和6年4月21日(日) 66名
- (b) 令和6年4月28日(日) 68名
- (c) 令和6年5月12日(日) 52名
- (d) 令和6年11月10日(日) 141名
- (e) 令和6年12月1日(日) 95名
- (f) 令和6年12月15日(日) 53名
- (g) 令和7年1月12日(日) 84名
- (h) 令和7年1月26日(日) 59名
- (i) 令和7年2月9日(日) 68名

(ウ) 活動内容

施設を開放し家族で体を動かす機会を提供した。

イ 未来キッズ生き生き事業

(ア) 目的

家族や親子に体を動かす機会を提供するとともに、自然の家のプログラム体験をとおして、心身の健康や体力向上を図る。

(イ) 期日、対象及び参加者数

- a 令和6年6月16日(日)  
県北地区の小学生を含む家族 145名
- b 令和6年6月23日(日)  
県中・県南地区の小学生を含む家族 142名
- c 令和6年6月30日(日)  
相双地区の小学生を含む家族 90名

(ウ) 活動内容

本所の様々なプログラムを家族で楽しんだ。

ウ 特別企画 自然の家でからだを動かそう

(ア) 目的

本所を利用し、子どもたちの健康の維持増進と体力の向上を図る。

(イ) 期日

令和6年12月3日(火)～令和7年2月28日(金)

(ウ) 対象及び参加者数

県中地区内の幼稚園・保育園 20団体604名

(エ) 活動内容

みどりの広場や活動館のアスレチックと体育館などを使って体を動かす機会を提供した。

エ こころのケアが必要なこどもを対象とした事業

(ア) 目的

様々な不安を抱え登校等が困難な児童生徒を対象に豊かな自然の中での活動を通して自己肯定感を高める。

(イ) 対象者、期日及び参加者数

集団活動や登校が困難な児童生徒期日

- a 令和6年6月8日(土)～9日(日) 13名
- b 令和6年10月11日(金) 18名
- c 令和6年10月26日(土) 20名
- d 令和6年12月8日(日) 9名
- e 令和7年2月2日(日) 16名

(ウ) 活動内容

保護者や教員、家庭教育支援員と連携し、児童生徒の状況や負担に配慮しながら自然体験活動や交流活動を実施した。

## 第16節 福島県会津自然の家

### 1 概要

福島県会津自然の家は、恵まれた自然環境の中で、自然に親しむ活動や集団宿泊生活、野外活動を体験することにより心豊かで心身ともに健全な県民を育成することを目的とした生涯学習施設である。

昭和56年4月に開所し、令和6年度末で44年になり、開所以来多くの方々にご利用いただいているところである。

令和6年度の利用者数は、26,422人で、前年度を3,252人上回った。これは、感染症拡大予防のためコロナ禍以降縮小してきた企画事業の募集人数を増やしたこと、InstagramなどのSNSの発信により会津自然の家がファミリーや高齢者などでも気軽に利用できると周知され、利用者拡大につながったことも一因と考えられる。

また、4つの重点目標を掲げ、その達成のため、誰もが利用しやすい魅力的な施設を目指して運営の改善を図り、時代や利用者のニーズに対応した生涯学習施設の役割に積極的に取り組んできた。

#### (1) 職員組織

| 職 名      | 人員  |
|----------|-----|
| 所長       | 1   |
| 副所長      | 2   |
| 総務長      | (1) |
| 総務事務員    | 2   |
| 指導員(常勤)  | 4   |
| 指導員(非常勤) | 3   |
| 嘱託運転手    | 2   |
| 計        | 14  |

#### (2) 令和6年度重点目標と成果

利用者の満足度90%以上の成果目標を達成するために、次の点に力を入れて取り組んできた。

ア 利用者が満足感を持つことのできる活動を提供する。

(ア) 利用者のニーズに応じた「研修プログラム」の提供  
活動プログラム集を作成し、学校団体から社会教育団

体まで幅広い団体のニーズに応じたプログラムを提供することができた。

- (イ) 施設開放等、地域参加型の「企画事業」の開催  
里山開放デーなどの自然体験活動や家族がふれあえる企画事業の立案に努めた。
- (ウ) 幅広い年齢層に対応した出前講座の推進  
学校、公民館など教育施設への出前講座を行い、子どもから高齢者まで楽しめる講座を提供することができた。
- (エ) 魅力的な「企画事業」や「研修プログラム」の開発  
前年踏襲にとらわれず、企画事業において子どもだけでなく大人も対象とした様々なプログラムを提供するとともに、利用者のニーズに応えられるよう創造的な事業の企画立案に努めた。
- イ 生涯学習施設の拠点としてプログラムの提供や情報発信を行う。
  - (ア) 各関係機関との連携強化（事業のタイアップ）  
市町村教育委員会や学校、公民館等、様々な関係機関と連携しながら、新聞やラジオ、フリーペーパー等を利用し、事業の広報活動に努めた。
  - (イ) ホームページやLINE・Instagram・フェイスブックを活用しての効果的な情報の発信  
タイムリーな話題を、時期を逃さずSNSにアップできるように、担当が中心となり更新に努めた。新たな利用者層にアプローチするために、Instagramやフェイスブックを活用し、活動の様子や企画事業の案内に努めた。Instagramのフォロワー数は2,000人を突破した。
  - (ウ) 地域や各団体への新規プログラムの提供  
研修委員会を中心に新たなプログラム開発を行い、各団体のニーズに合った活動ができるようにした。
  - (エ) ボランティアを育成する研修の開催と活動機会の提供  
ボランティアのつどいを実施し、ボランティアの確保とともに、参加者のスキルアップに努めた。
- ウ 安全・安心で好感度の高い活動や環境を提供する。
  - (ア) 笑顔と元気なあいさつ、親切・丁寧な接遇  
団体対応はもとより、来客や電話対応など、相手の立場に立った対応に努め、好感度の高い施設を目指すことができた。
  - (イ) 熱中症対策  
エアコンがない施設のため、夏場は冷水機を設置したり、宿泊棟の廊下や活動場所などに大型の扇風機を設置したりするなど、利用者が熱中症などにならないような工夫を施した。
  - (ウ) 日常（事前、事中、事後）及び定期的安全・確認の徹底  
労務員も含めた全所員による定期安全点検と日常点検を徹底し、事故防止に努めることができた。
  - (エ) 施設内の「ごみゼロ」と迅速な施設の整備・修繕  
所員だけでなく、委託業者とも連携し、清潔な所内の

環境づくりに努めることができた。

- エ 施設・財産を守る。
  - (ア) 適切な会計処理とチェック体制の充実  
会計事務にかかる研修や、服務倫理委員会を定期的に開催し、会計事務の適正化を図った。
  - (イ) 事業等の整備と保管
    - a 研修プログラムや企画事業の電子データ化と指導手順のマニュアル化  
研修プログラム、企画事業の電子データ化を行い、写真や動画ですぐに確認できるように整備した。
    - b 活動や施設設備等のデータの累積とその有効活用  
活動プログラムの説明や注意事項、放送設備等の使用方法などをデータに保存し、活用できた。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

河沼郡会津坂下町大字八日沢字西東山 4495 番 1

### (2) 宿泊定員

- ア 本館 25 室 292 名（うち 1 室障がい者用）
- イ ロッジ 10 棟 120 名
- ウ テント 6 名×10 張、2 名×10 張 80 名

### (3) 敷地面積

249,848.98 m<sup>2</sup>

### (4) 建物面積

- 延床面積 5,864.83 m<sup>2</sup>
- ア 管理研修棟（鉄筋造 2 階建）
- イ 宿泊棟（鉄筋造 2 階建）
- ウ プレイホール（鉄筋造）
- エ アセンブリホール（鉄筋造）
- オ 機械棟（鉄筋造 3 階建）
- カ ロッジ（木造平屋建）
- キ 野外活動管理センター（鉄筋造）
- ク 薪置場（コンクリートブロック造）
- ケ 車庫（鉄筋造）
- コ 野外便所（鉄筋造）

### (5) 運動広場面積

8,500 m<sup>2</sup>

### (6) 設備備品等

- ア フィールドアスレチック
- イ 野外活動用具、野外炊飯用具、運動用具
- ウ 双眼鏡、天体望遠鏡、テレビ、VTR
- エ 液晶プロジェクター、CDカセットプレーヤー
- オ ピアノ、オルガン
- カ 伝承遊びセット
- キ クラフト用具
- ク 各種オリエンテーリング用具
- ケ アルペンスキー
- コ 歩くスキー（クロスカン트리スキー）
- サ そり、スノーチューブ
- シ スノーシュー

- ス 営火場（４か所）
- セ 諸活動コース
- ソ その他

### 3 利用状況

#### 令和６年度の利用団体数

延べ利用者数 26,422 人

|    |        |        |          |
|----|--------|--------|----------|
| 内訳 | 学校教育団体 | 259 団体 | 14,584 人 |
|    | 社会教育団体 | 131 団体 | 7,468 人  |
|    | ファミリー  | 22 団体  | 155 人    |
|    | 企画事業   | 57 企画  | 4,215 人  |

### 4 企画事業

#### (1) 研修会事業

##### ア 学校団体指導者事前研修会

###### (ア) 目的

- ①自然の家設立の趣旨・教育目標・方針・利用のねらい及び運営方法の理解を図る。
- ②児童・生徒が安全に生活し充実した活動が行えるよう、屋内外の施設環境を確認するとともに、各種プログラムのねらいや配慮事項を理解し、効果的な活動計画が作成できるようにする。
- ③集団宿泊活動等が円滑かつ効果的に進められるよう、同じ時期に宿泊する他の学校団体との活動及び役割分担等について調整を図る。

###### (イ) 対象者、期日及び参加者数

幼稚園、保育所及び小中学校の教員

- a 第１回 令和６年４月２３日（火） 32 名
- b 第２回 令和６年４月２４日（水） 29 名
- c 第３回 令和６年４月２５日（木） 28 名

###### (ウ) 研修内容

午前中、オリエンテーションやプログラム体験会を行い、午後から利用日のプログラム調整をする。

##### イ ボランティアのつどい

###### (ア) 目的

- ① ボランティアに関する講話や実践例などを聞く機会とし、ボランティアの意識高揚を図る。
- ② ボランティアメンバーの交流の場を設け、情報交換などを通してボランティアとしての意欲を高める。
- ③ プログラム体験の機会を設け、各種主催事業等に協力する際に必要な体験活動に関わるスキルを身につけることができるようにする。

###### (イ) 対象者、期日及び参加者数

高校生、一般

- a 第１回 令和６年５月１２日（日） 30名参加
- b 第２回 令和７年２月２２日（土） 10名参加

###### (ウ) 研修内容

ボランティア講座及び本所プログラム

#### (2) 教育研究事業

##### ア 通学キャンプ

###### (ア) 目的

- ①自然の家での集団生活や様々な体験活動を通して、子どもたちの自律的な生活態度やよりよい人間関係を形成するための社会性を育成する。
- ②中学校進学前に、同じ中学校へ進学予定の他校の児童との交流を図ることにより、中学進学の不安を少しでも解消できるようにする。

###### (イ) 期日 令和６年１１月７日（木）～１１月９日（土）

###### (ウ) 対象及び参加者数

会津坂下町立坂下南小学校・坂下東小学校の５～６年 児童 45 名

###### (エ) 活動内容

- ① 室内ゲーム、ニュースポーツ
- ② 学習会
- ③ クラフト体験

##### イ お正月飾りを作ろう

###### (ア) 目的

正月飾りをつくることで、日本の伝統文化を知る。

###### (イ) 期日 令和６年１２月２１日（土）、２２日（日）

###### (ウ) 対象及び参加者数

お正月飾り作りに興味のある方とその家族 189 名

###### (エ) 活動内容 お正月飾り作り

#### (3) 利用促進事業

##### ア 第 20 回高寺山山開き（会津坂下町との共催）

###### (ア) 目的

参加者同士が共に汗を流し登山することにより、健康づくりと温かい心の交流の機会を提供する。

###### (イ) 期日 令和６年４月２０日（土）

###### (ウ) 対象及び参加者数 希望者 250 名

###### (エ) 活動内容 高寺山・見明山登山

##### イ 里山開放デー（未来キッズ生き生き事業との併催）

###### (ア) 目的

自然の家の野外プログラムを活用して、心身の健康増進や自然の中で家族のコミュニケーションを図る。

###### (イ) 期日 令和６年７月１４日（日）

###### (ウ) 対象及び参加者数 希望者 666 名

###### (エ) 活動内容

- a 協力外部団体  
ツリーイング、里山アドベンチャー、水辺の生き物観察、森のスライダー
- b 本所プログラム  
カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこＯＬ、ムシムシランド、ニュースポーツ

##### ウ 夏の川遊びを楽しもう！

###### (ア) 目的

- ①暑い夏に川遊びを行い、自然に親しむとともに、地域の自然についての理解を深める。
- ②夏の暑さのもとでの様々な水辺の活動を通して、大自然の恵みや季節感を楽しむ豊かな心を育むと共に、水への安全な関わり方について身に付けさせる。

- (イ) 期日 令和6年7月27日(土) 178名参加
- (ウ) 対象及び参加者数  
県内の幼児、小・中学生とその家族 178名
- (エ) 活動内容  
①カヌー体験・川流れ体験 ②水辺の生き物探し ③河原で水遊び
- エ あったかふれあいまつり  
(未来キッズ生き生き事業との併催)
- (ア) 目的  
①野外活動プログラムや各種体験などの自然や人とのふれあいを通して、心身のリフレッシュや体力増進を図る。  
②県民に施設及び周辺の環境を開放し、活動プログラムを体験することができる場を提供することにより、自然体験機能及び生涯学習機能を兼ね備えた本所への理解を深め、今後の集客につなげる。  
③各団体と連携を図ることにより、体験活動の充実を図る。
- (イ) 期日 令和6年10月6日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数  
県内の幼児、小・中学生とその家族 597名
- (エ) 活動内容  
a 協力外部団体  
ツリーイング、秘密基地づくり、水辺の生き物観察  
b 本所プログラム  
薪割り・火起こし体験、森遊び、カヌー、アスレチック、段ボール迷路、どこどこOL、昆虫OL

#### オ 東松ウォーキング大会 2024

- (ア) 目的  
東松峠ウォーキング大会に地区外からの参加を集うことにより、交流・地域の活性化を図る。
- (イ) 期日 令和6年10月19日(土)
- (ウ) 対象及び参加者数 一般 120名
- カ 三たてを味わう 新そばにチャレンジ
- (ア) 目的  
会津の代表的な郷土料理であるそばを打ち、新そばの豊かな味わいを堪能するとともに、郷土の食文化のすばらしさを知る。

- (イ) 対象者、期日及び参加者数  
家族またはグループ  
a 第1回 令和6年11月16日(土) 39名  
b 第2回 令和6年11月17日(日) 36名
- (ウ) 活動内容  
そば打ち体験と試食

#### キ 手作り森のクリスマス

- (ア) 目的  
①クリスマス用のクラフト作りや食事を味わうことを通して、家族間の交流を図る。  
②手作りの良さや自然素材の温かみを味わってもらう

とともに、本所プログラムや施設についての理解を図り、今後の利用促進につなげる。

- (イ) 対象者、期日及び参加者  
県内の小・中学生とその家族  
a 第1回 令和6年12月7日(土) 51名  
b 第2回 令和6年12月8日(日) 52名
- (ウ) 活動内容  
クリスマスケーキデコレーション、クリスマスハンドベル演奏体験

#### ク ウィンターフェスティバル

- (ア) 目的  
雪国ならではのスノーボード体験やそり・チューブ遊び、雪と親しむ活動等に触れることを通して、会津の冬の楽しさを感じさせる。

- (イ) 期日  
令和7年1月18日(土)～19日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数  
県内の小学4年生～6年生 39名

- (エ) 活動内容  
①スノーシュー体験、スノーチューブ体験 ②スノーボード教室、そり遊び

#### ケ クラフトキッズフェア

- (ア) 目的  
①親子で工夫し、楽しみながらクラフト製作を行うことにより、子どもの発想力や創造力を高めたり、親子の絆を深めたりする。  
②クラフト製作の場を提供することにより、本所のプログラムについての理解を深める機会と利用機会の拡大を図るきっかけを作る。

- (イ) 期日  
令和7年3月2日(日)
- (ウ) 対象及び参加者数  
県内の幼児、小・中学生とその家族 167名参加

- (エ) 活動内容  
①牛乳パッククラフト ②ペットボトルけん玉作り  
③缶バッチ作り ④木の実のフォトフレーム作り  
⑤卵のひな人形づくり ⑥バードコール作り体験  
⑦割りばし鉄砲作り ⑧キャンドル・木レンジャー作り

### (4) その他の企画事業

#### ア 未来キッズ生き生き事業

- (ア) 目的、対象  
県内の子どもたちとその家族を自然の家へ招待し、ブレイリーダーの協力も得ながら、一日を通して、自然の家でのプログラムに基づき、心身の健康や運動不足解消や体力増進となる取組を実施する。  
会津地方の12歳以下の子どもたちとその家族を対象とする。

- (イ) 名称、期日、参加者数、活動内容  
a 芋ほり大作戦!  
(a) 期日 通年

- (b) 参加者数 延べ599名
- (c) 活動内容  
さつまいもの苗植え、観察、収穫、収穫祭
- b はじめてキャンプ
- (a) 期日 令和6年6月1日(土)～2日(日)
- (b) 参加者数 32名
- (c) 活動内容  
テント設営体験、野外炊飯、たき火、ナイトハイク
- c 会津自然の山里山開放デー（前述）
- (a) 期日 令和6年7月14日(日)
- (b) 参加者数 666名
- (c) 活動内容  
カヌー、アスレチック、森遊び、森のスライダー等
- d 夏の川遊びを楽しもう！
- (a) 期日 令和6年7月27日(土)
- (b) 参加者数 178名
- (c) 活動内容  
カヌー、川流れ体験、水遊び、水辺の生き物探し
- e あったかふれあいまつり（前述）
- (a) 期日 令和6年10月6日(日)
- (b) 参加者数 597名
- (c) 活動内容  
カヌー、アスレチック、森遊び、森のスライダー等
- f 秋だ！ちびっこ大集合！
- (a) 期日 令和6年10月20日(日)
- (b) 参加者数 135名
- (c) 活動内容  
さつまいもほり体験、薪割り体験、たき火（焼き芋）
- g そりすべり団体開放
- (a) 期日 令和7年1月9日(木)～2月15日(土)
- (b) 参加者数 1,168名
- (c) 活動内容  
そり・チューブすべり
- h 雪遊びファミリーデー
- (a) 期日 令和7年2月2日(日)
- (b) 参加者数 208名
- (c) 活動内容  
そり・チューブ滑り、色水遊び、スキー体験など
- イ 心のケア事業「もっくんリフレッシュデー」
- (ア) 目的  
心のケアが必要な児童生徒に対して、会津自然の家の豊かな環境を活かしたプログラムを提供し、自然体験活動や交流活動を通して、心身ともに健やかな人間性を育むとともに、自ら主体的に考え行動できるようなたくましい子どもたちの育成のための支援を図ることを目的とする。
- (イ) 活動内容、期日、参加者数  
保護者、児童、施設と連携し、児童生徒の状況に配慮しながら自然体験活動や手作りの活動を実施した。
- a 笹団子作り、シイタケ植菌体験  
6月23日(日) 15名
- b 野外クッキング、カヌー体験  
7月28日(日) 29名
- c 野外クッキング体験、ヒシの実収穫体験、ツリーイング  
8月31日(土)～9月1日(日) 23名
- d 室内オリエンテーリング、ミニパフェ作り、自然散策  
9月17日(火) 3名
- e 野外炊飯(ポークカレー)、室内遊び  
9月21日(土) 22名
- f カヌー体験、焼き板体験  
10月11日(金) 20名
- g 森の案内人さんと自然体験、炭焼きと芋版作り体験  
10月13日(日) 17名
- h そば打ち体験、動物とのふれあい体験  
11月2日(土) 30名
- i リース作り、ミニパフェ作り体験  
12月15日(日) 26名
- j リース作り、薪割り・たき火体験、ニュースポーツ  
12月18日(水) 7名
- k 雪遊び・そり滑り体験、ニュースポーツ体験  
2月14日(金) 8名
- l 雪遊び体験、ドレミパイプ演奏会  
2月16日(日) 27名
- m スノーシュー体験、雪遊び・そり滑り、ランタン作り  
2月21日(金) 24名

## 第17節 福島県いわき海浜自然の家

### 1 概要

福島県いわき海浜自然の家は、海と山の豊かな自然環境の中で様々な活動や集団宿泊体験を通して、心身ともに健全な青少年を育成することを目的とした社会教育施設として平成8年7月に開所した。

開所以来、学校教育団体の利用はもとより、スポーツ少年団、子ども会などの社会教育団体や家族などのあらゆる年齢層に利用されてきた。しかし、平成23年3月11日の東日本大震災により休所を余儀なくされ、同年11月1日から財団法人いわき市教育文化事業団（平成26年4月1日に「公益財団法人いわき市教育文化事業団」と改称）を指定管理者として一部再開した。

以降、利用者が安心して利用できる環境を創出するため、平成23年度から同26年度にかけて、本館周辺及び野外施設の放射線量低減措置を実施し、順次供用を再開した。山林部については、放射線量の自然低減が確認されたため、令和4年度・令和5年度に「冒険の森第3コース」の整備を実施し、令和6年度より供用を再開した。「冒険の森第2コース」については、令和6年度に整備を実施し、令和7年度より供用可能な状態となった。

海浜活動については、沿岸部の復旧状況に合わせて平成25

年度から順次再開し、平成30年度に四倉漁港でいかだ乗り、カヤック乗り、ボディボードを再開したことで、全てのプログラムを再開することができた。海浜に隣接した施設としての特性を生かした海浜活動のプログラムは、会津及び中通り地方の学校教育団体だけでなく、相双地区やいわき地区の利用団体からも好評を得ている。

令和5年度11月より新型コロナウイルス感染症に係る利用制限をすべて撤廃しており、令和6年度の利用については、宿泊利用定数・日数等の制限なく受け入れ、年間の利用状況については595団体(前年比82団体増)、延べ利用者数45,258名(前年比8,856名増)となった。

施設管理に関しては、日常的に保守点検や環境美化に努めるとともに、利用者が少ない時期には、設備の細部点検や修繕等を集中して実施し、利用環境の整備・向上を図った。また、引き続き「庁舎等管理規程」「危機管理マニュアル」等に基づき、利用者が安全・安心に利用できるよう努めた。

## (1) 職員組織

| 職 名      | 人員 |
|----------|----|
| 所 長      | 1  |
| 次長兼専門指導員 | 1  |
| 主 査      | 1  |
| 副主任指導員   | 2  |
| 指導員      | 2  |
| 事務主任     | 1  |
| 教育指導専門員  | 1  |
| 体験活動指導員  | 4  |
| 運転手      | 2  |
| 環境整備員    | 1  |
| 事務補助員    | 2  |
| 計        | 18 |

## (2) 令和6年度重点目標と成果

震災の影響で未だに一部の自然体験活動が制限されている中、少しでも多くの利用者が、新たな発見や感動、満足感・充実感を味わうことにより、本来の活動目的が達成されるよう、引き続き次の目標に取り組んだ。

ア 当所の設置目的の明確化とその周知及び利用促進を図る。

(ア) 青少年教育施設としての位置づけを明確にし、利用者への理解徹底を図るため、健全な青少年の育成を目的とした利用のあり方を検討しながら受け入れを実施した。学校教育団体へは、所報「しおね」や企画事業チラシ・ポスター等を配付するなど、当所の取り組みや事業について情報提供し、周知と利用促進に努めた。また、生涯学習施設としての役割に鑑み、いわき市内の教育文化施設及び社会教育施設と連携し、公民館への出前講座等で体験活動を提供するなど、社会教育団体への利用促進を図った。

(イ) 利用団体の指導者への啓発的支援を通して、青少年の自主的自律的な心身の育成を図るため、学校教育団体及び社会教育団体の指導者向けに活動計画立案や活動プ

ログラム体験などを取り入れた研修会を実施した。研修会では、研修目的に沿った活動の提案や、宿泊活動が円滑に行えるよう調整を行った。

(ウ) 利用団体へのオリエンテーション等を通して宿泊活動における生活指導を行い、共同生活の場における社会的集団的なルールの理解と定着を図った。

(エ) 企画事業の充実を図るため、提供プログラムの教育的効果や自然体験を多く取り入れたプログラムの開発について、所員が意見を出し合いながら事業を進めた。令和6年度は、春・秋のオープンデーなどの企画では、紙媒体と複数のSNSを組み合わせた広報活動の結果、多くの参加者があった。夏休み・冬休み期間中の広報活動についても、指定管理者が管理受託する他の施設と連携し、効率的な広報に努めた。

イ 利用者のニーズに対応した施設運営に努める。

(ア) 利用者の研修目的達成のため、団体の特性に合わせた活動プログラムの開発に取り組んだ。特に学校教育団体については、プログラムの教育的効果を検証し、野外活動・海浜活動の内容について検討を行った。

(イ) あらゆる年齢層に対応するため、幼児から高齢者まで、多様なニーズに対応した幅の広いプログラムの開発と内容の充実に努めた。

(ウ) 利用者アンケート調査を実施し、利用者ニーズについての調査・研究を行った。プログラムについては自然の家に求められている体験活動について、既存の内容の見直しを随時行った。また、団体の自主性・主体性を尊重しながら、研修目的を達成できるよう、適切な支援方法について、所員研修を行いながら改善を進めた。

(エ) 誰もが安心して楽しく利用できる施設を目指し、活動前の施設の安全点検だけでなく、活動プログラムについても定期的に安全面での検証を行い、支援に取り入れた。特に海浜活動については、毎年シーズン前に所員研修を実施し、安全な支援方法の確認を行っている。

(オ) 平日の昼間に自然体験活動を希望する大人向けに、閑散期の利用促進対策も兼ねて、四季折々の企画「里山さんぽ」を実施し、利用者から好評を博した。

(カ) 閑散期の土日に施設の一部を開放する「自然の家であそんじゃお！（ミニ開放デー）」を開催した。SNSのみの広報であったが、想定を上回る参加者があった。

(キ) 国立高等専門学校機構福島高等工業専門学校「磐陽テックガレージ」と連携し、企画事業「クラフトのつどい」で海洋生物模型の製作実演及び造形物の彩色体験を実施した。また、参加者からのアンケートを通じ、所員の研究課題の一つである「STEAM教育と体験活動」に関する情報収集を行った。

ウ 事故の未然防止、危機管理体制の充実に努める。

(ア) 当所内外の安全点検を定期的に行い、事故の未然防止を徹底した。特にトリムランドは利用日当日に所員が点検を行うとともに、公園施設製品安全管理士による点検を年1回実施し、安全管理に努めた。用具についても、

利用前に不具合の有無についての確認を徹底した。

- (イ) 学校教育団体及び社会教育団体への事前研修会を実施し、安全で適切な施設の活用について周知徹底を図った。令和6年度は、学校団体指導者研修会・活動プログラム研修会ともに、対面方式で開催してきめ細かい調整を行い、受付やオリエンテーション、活動支援等についても適切な助言や指導を行った。
  - (ウ) 自然災害及び事故発生時の緊急事態等に対応するため、危機管理マニュアルを作成し、緊急時の対応及び連絡体制を明確にすることで、情報共有の徹底と危機管理体制の充実に努めた。マニュアルは毎年見直しを行い、令和6年度は医療機関に関する内容を見直した。
  - (エ) 当所の危機管理体制と安全対策を周知するため、海浜活動時等の自然災害等での避難方法についてマニュアル化し、利用者に配付するとともに、受付時にも説明を行った。また、放射線量について、施設全体と活動エリアである海岸、さらに現在使用休止中の山林部についても、定期的に測定を実施し、データをホームページで公表した。
  - (オ) 利用者がより良い環境の中で安全に安心して活動できるよう、地域の消防署、警察署とも連携して安全対策を徹底した。また、所外での活動に備えて2台のAEDを準備し、年1回の救急救命訓練を実施するなど、安全対策の充実に努めた。
  - (カ) 火災予防については、消防法に定められた防火設備の点検を実施するとともに、消防計画の作成、消防訓練の実施など、常に防火管理に努めた。
- エ 定期的な業務内容の点検と改善に努める。
- (ア) 利用者アンケート結果を参考に、プログラム内容や支援への意見・要望などを分析しながら業務遂行の在り方を検討し、利用者の目線に立った支援及び管理運営に努めた。
  - (イ) 指定管理者である公益財団法人いわき市教育文化事業団の理事会及び評議員会や、法人が管理受託している施設全体の施設長会議などにおいて、計画的かつ定期的な評価を受け、改善点の明確化を図り、満足度の高い施設運営に努めた。
  - (ウ) 自然体験活動にふさわしい環境整備を心がけ、利用団体の活動に支障がないよう施設の維持保全に努めた。食事提供業務、施設等維持保全関連業務等の再委託については、可能な限り指名競争入札により経費の削減を図りながら、受託業者と連携して利用者へのサービス向上に努めた。
  - (エ) 業務改善推進会議を設置して業務の効率化による経費節減について検討し、可能なものから随時実施した。
- オ 地域との連携を深め、生涯学習実践の場として機能する施設運営に努める。
- (ア) ボランティア養成講座を年4回開催し、ボランティアの意義について理解を深めるための講座及びグループワーク、自然体験活動支援に必要な知識と技術を習得す

る実技研修を実施した。ボランティア養成講座には、社会人だけでなく、高校生及び大学生が参加しており、社会教育や生涯学習につながる体験の場を提供することができた。規定の講座修了後には事業支援ボランティアとして企画事業の活動補助を行うなど、ボランティア活動の場の充実に努めた。

また、環境ボランティアによる所内美化活動や、海浜活動を実施する舟戸海岸・四倉漁港の清掃活動を計8回行い、地域に根ざした施設づくりに努めた。

- (イ) 地域の公民館及び教育文化施設等と社会教育に関する情報を共有し、スポーツ団体や漁業関係者との連携、協力を得て、企画事業等で様々なプログラムを提供した。また、地域のまちづくり活動へ協力することで、各種団体との連携強化に努めた。

## 2 施設・設備の概要

### (1) 所在地

いわき市久之浜町田之網字向山 53

### (2) 宿泊定員

|         |                 |
|---------|-----------------|
| ア 本館定員  | 300 名 (和室 28 室) |
| イ ロッジ定員 | 160 名 (10 棟)    |
| ウ テント定員 | 100 名 (25 張)    |

### (3) 敷地面積

350,171 ㎡

### (4) 建物面積

延床面積 6,696.97 ㎡

ア 中心施設

本館 (宿泊室、オリエンテーションホール、研修室、野外学習室、事務室、食堂、浴室等)

体育館

イ 野外施設

管理棟、ロッジ、便所等

### (5) 野外活動施設面積

|          |         |
|----------|---------|
| ア つどいの広場 | 7,000 ㎡ |
| イ 多目的広場  | 8,890 ㎡ |
| ウ 自然観察園  | 4,050 ㎡ |
| エ みんなの広場 | 4,700 ㎡ |

### (6) 設備備品等

ア 体育館

バレーボールコート2面、バスケットボールコート1面 (バスケットボールリング、ミニバスケットボールリング)、バドミントンコート2面、卓球台3台、ピアノ1台、キンボール ほか

イ 野営場

野外炊飯場、キャンプ用品一式、冷蔵庫 ほか

ウ 野外活動設備

フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、トリムランド、営火場5か所 (うち1か所は利用休止中)、各種オリエンテーリングコース、ナイトハイキングコース、ウォークラリーコース、ロープコース、マウン

テンバイクコース ほか。なお、次の施設は平成 23 年度から利用制限中（フィールドアスレチックコース、冒険の森遊歩道、ロープコース）

エ 多目的広場  
ソフトボール、マウンテンバイクコース、サッカーゴール ほか

オ その他  
視聴覚機器、無線機、天体望遠鏡、双眼鏡、七宝焼窯、マウンテンバイク、足けりバイク、釣り用具一式、海浜用具一式、マイクロバス ほか

### 3 利用状況

#### 令和 6 年度利用者数

|        |        |                 |
|--------|--------|-----------------|
| 延べ利用者数 | 595 団体 | 45,258 名        |
| 内訳     | 学校教育団体 | 285 団体 25,199 名 |
|        | 社会教育団体 | 243 団体 11,627 名 |
|        | ファミリー  | 16 団体 202 名     |
|        | 企画事業   | 51 団体 8,230 名   |

### 4 企画事業

#### (1) 研修会事業

ア 学校団体指導者事前研修会

(ア) 目的

令和 6 年度利用の学校教育団体の指導者が、活動計画の立て方や当所の利用方法について理解を深めるとともに、同日に利用する学校間での活動プログラムの調整を図る。

(イ) 期日及び参加校数

- a 令和 6 年 4 月 18 日(木) 参加 50 校
- b 令和 6 年 4 月 25 日(木) 参加 66 校
- c 令和 6 年 5 月 9 日(木) 参加 56 校
- d 令和 6 年 8 月 6 日(火) 参加 41 校

(ウ) 内容

宿泊活動で利用する学校団体の指導者向けに、活動計画の立案や活動方法についての事前研修会と団体間の活動プログラム内容の調整

イ 社会教育団体指導者事前研修会（活動プログラム研修会）

(ア) 目的

令和 6 年度利用の社会教育団体の指導者が、見学会や実技研修等をととして、活動の進め方や活動計画作成に理解を深めることができるよう提案する。

(イ) 期日及び参加者数

令和 6 年 5 月 17 日(金) 14 団体 25 名

(ウ) 内容

- ①活動プログラムを体験
- ②参加者の目標とする計画の立案二体する助言や他団体との調整。

ウ ボランティア養成講座

(ア) 目的

自然体験活動を支援する上で、必要な知識と技術を習得するとともに、当所のボランティアとしての活動方法を学ぶ。

(イ) 対象 高校生以上

(ウ) 期日、参加者数

- a 令和 6 年 4 月 28 日(日) 23 名
- b 令和 6 年 7 月 14 日(日) 18 名
- c 令和 6 年 9 月 29 日(日) 5 名
- d 令和 6 年 12 月 1 日(日) 7 名

(エ) 内容

実施予定の自然体験活動・企画事業支援についての研修を行った。

#### (2) 利用促進事業

ア 自然の家であそんじゃお！（ミニ開放デー）

(ア) 目的

閑散期の土日を利用し、体育館やトリムランドを開放し、他者との交流の場を提供するとともに、当所の魅力を発信し、施設の周知を図る。

(イ) 対象及び参加者数

一般 459 名

(ウ) 実施日 計 8 回

令和 6 年 4 月 14 日(日)、21 日(日)、令和 7 年 1 月 11 日(土)、19 日(日)、25 日(土)、2 月 15 日(土)、22 日(土)、3 月 8 日(土)

(エ) 内容

- ①ニュースポーツ
- ②オリエンテーリング
- ③冬の星空観察会

イ 遊ぼう！初夏の海で

(ア) 目的

初夏の舟戸海岸で、魚釣りや磯遊びを楽しみながら、家族のふれ合いを深める。

(イ) 期日 令和 6 年 5 月 12 日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

小学校に通う児童とその家族 49 名

(エ) 内容

- ①魚釣り②磯遊び

ウ 新緑の里山さんぽ

(ア) 目的

中高年を対象に、新緑の冒険の森 3 コース等を楽しんでもらい、当所の魅力の発信と周知を図る。

(イ) 期日 令和 6 年 5 月 15 日(水)

(ウ) 対象及び参加者数 一般（大人） 14 名

(エ) 内容

ネイチャーガイド付き冒険の森散策

エ 春のオープンデー（第 1 回未来キッズ生き生き事業）

(ア) 目的

施設を県民へ広く開放し、様々な体験活動を通して、

当所への理解を深めるとともに、子どもたちの豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

(イ) 期日 令和6年5月26日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 一般 3,451名

(エ) 内容

- ①冒険の森散策②野外炊飯③マウンテンバイク
- ④足けりバイク⑤海浜オリエンテーリング
- ⑥エアトランポリン⑦昔遊び⑧ニュースポーツ
- ⑨アスレチック⑩キーホルダー⑪缶バッジ
- ⑫海浜レストラン⑬キッチンカー⑭消防車両展示
- ⑮宿泊部屋見学⑯大浴場開放

オ ミニ企画事業「親子でじゃがいも収穫体験！」

(ア) 目的

環境支援ボランティアの協力のもと、じゃがいもの収穫体験や簡単な料理を楽しむことで、食への関心を高め、当所の魅力の発信と周知をはかる。

(イ) 期日 令和6年6月15日(土)

(ウ) 対象及び参加者数

未就学児・小学生と保護者 4家族14名

(エ) 内容

- ①じゃがいも収穫②料理体験

カ ふれあいサマーキャンプ

(ア) 目的

自然体験活動を通して自然や人とふれあう喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養う。

(イ) 期日 令和6年7月27日(土)～7月28日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 小学生(4～6年生) 36名

(エ) 内容

- ①交流ゲーム②海浜オリエンテーリング③野菜収穫
- ④野外炊飯⑤花火⑥いかだ乗り・ボディボード

キ スポーツフェスティバル(第4回未来キッズ生き生き事業)

(ア) 目的

子どもから大人まで、一緒に様々なスポーツ及びニュースポーツを楽しみ、健康への意識向上を図る。

(イ) 期日 令和6年10月6日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 一般 1,103名

(エ) 内容

- ①サッカーナイン②アーチェリー③陸上④卓球
- ⑤マウンテンバイク⑥足けりバイク⑦ファミリーゴルフ⑧ポッチャ⑨フリースロー⑩アスレチック
- ⑪スタンプラリー⑫海浜レストラン⑬キッチンカー

ク 秋のオープンデー(第5回未来キッズ生き生き事業)

(ア) 目的

施設を県民へ広く開放し、様々な体験活動を通して、当所への理解を深めるとともに、子どもたちの豊かな人間性や生きる力の育成を図る。

(イ) 期日 令和6年10月27日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 一般 670名

(エ) 内容

- ①スコアオリエンテーリング②野外炊飯③マウンテンバイク④足けりバイク⑤福島ファイヤーボンズによるバスケクリニック⑥段ボール迷路⑦ニュースポーツ⑧アスレチック⑨キーホルダー⑩海浜レストラン⑪キッチンカー⑫消防車両展示⑬警察車両展示

ケ ふれあいオータムキャンプ

(ア) 目的

自然体験活動を通して自然や人とふれ合う喜びを体得するとともに、協調性・社会性や自立心を養う。

(イ) 期日 令和6年11月9日(土)～10日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

小学生(4～6年生) 21名

(エ) 内容

- ①交流ゲーム②テント設営③さつまいも収穫体験
- ④野外炊飯⑤星空観察会⑥テント泊⑦背戸峨廊ハイキング⑧記念品作り

コ ミニ企画事業「親子でさつまいも収穫体験！」

(ア) 目的

さつまいもの収穫体験や簡単な料理を楽しむことで、食への関心を高め、当所の魅力の発信と周知をはかる。

(イ) 期日 令和6年11月16日(土)

(ウ) 対象及び参加者数

未就学児・小学生と保護者10家族34名

(エ) 内容

- ①じゃがいも収穫②料理体験

サ 紅葉の里山さんぽ

(ア) 目的

中高年を対象に、紅葉の冒険の森3コースを楽しんでもらい、当所の魅力の発信と周知を図る。

(イ) 期日 令和6年11月20日(水)

(ウ) 対象及び参加者数 一般(大人) 15名

(エ) 内容

ネイチャーガイド付き冒険の森散策

シ 親子のつどい

(ア) 目的

自然の素材を用いて季節にふさわしい創作活動、共同作業を通して、家族の親睦を深める。

(イ) 期日 令和6年12月15日(日)

(ウ) 対象及び参加者数

未就学児・小学生とその家族 26家族 88名

(エ) 内容

- ①クリスマスウォールツリーまたはお正月熊手作り
- ②家族交流ゲーム

ス 冬を楽しもう！～スキー教室～

(ア) 目的

普段、雪で遊ぶことが少ない浜通り地方の子どもたちを対象として会津地区でスキー教室を実施し、福島県の風土の豊かさを感じるとともに、自然体験活動の楽しさを知る。

(イ) 期日 令和7年1月12日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 小学生とその家族 34名

(エ) 内容

スキー教室

#### セ 海浜ワークショップ

(ア) 目的

閑散期の平日に、大人を対象として開催し、新たな利用者層を掘り起こすとともに、他者との交流の場を提供し、当所への理解を深めてもらう。

(イ) 期日 令和7年1月30日(木)

(ウ) 対象及び参加者数 一般(大人) 23名

(エ) 内容

草木染めのマクラメキーホルダー、または、ドライフラワーアレンジメント作り

#### ソ クラフトのつどい

(ア) 目的

子どもから大人まで楽しめる様々なクラフトをとおり、参加者が当所についての理解を深めることを目的とする。

(イ) 期日 令和7年2月8日(土)

(ウ) 対象及び参加者数 一般 475名

(エ) 内容

- ①3Dプリンター海洋生物造形実演(福島高等工業専門学校「磐陽テックガレージ」)・造形物彩色
- ②海辺のモザイクコースター③海浜組紐
- ④ステンドグラスしおり⑤バスボム
- ⑥森のブックカバー⑦プラ板キーホルダー
- ⑧アスレチック⑨海浜レストラン

#### タ 森の音楽会

(ア) 目的

地元ゆかりの演奏家によるコンサートを聴き、音楽に親しむ心や、当所の魅力の発信と周知を図る。

(イ) 期日 令和7年3月9日(日)

(ウ) 対象及び参加者数 一般 125名

(エ) 内容

- ①伊達LOW Strings(仙台フィルハーモニー管弦楽団)の演奏②食堂ランチバイキング

#### チ 早春の里山さんぽ

(ア) 目的

利用の少ない年齢層を対象として、早春の自然(冒険の森3コース)を楽しんでもらい、当所の魅力の発信と周知を図る。

(イ) 期日 令和7年3月26日(水)

(ウ) 対象及び参加者数 一般(大人) 21名

(エ) 内容

ネイチャーガイド付き冒険の森散策

### (3) その他の企画事業

#### ア 未来キッズ生き活き事業

(ア) 目的

子どもたちに海活動やレクリエーション・スポーツなどを通して、身体を動かす機会を提供し、体力・運動能

力の向上、心身のリフレッシュ及び健康増進を促す。

(イ) 期日及び参加者数

a 第1回 令和6年5月26日(日) 3,451名  
(4(2)エ 春のオープンデーに記載)

b 第2回

(a) 期日 令和6年8月18日(日)午後  
(悪天候により、令和6年8月10日(日)午後より延期)

(b) 参加者 46名

(c) 内容 ①ボディボード②砂遊び

c 第3回

(a) 期日 令和6年8月18日(日)午前  
(悪天候により、令和6年8月17日(日)午前より延期)

(b) 参加者 51名

(c) 内容 ①ボディボード②砂遊び

d 第4回 令和6年10月6日(日) 1,103名

(4(2)キ スポーツフェスティバル)

e 第5回 令和6年10月27日(日) 670名

(4(2)ク 秋のオープンデー)

f 第6回

(a) 期日 令和6年12月8日(日)

(b) 参加者 804名

(c) 内容

- ①プロ野球選手野球教室②ティーボール
- ③プレゼント抽選会
- ④いわきスポーツアスレチックアカデミー体づくり運動
- ⑤屋外スポーツ(グラウンドゴルフ、マウンテンバイク)
- ⑥屋内スポーツ(ストラックアウト、輪投げ、縄跳び、足けりバイク)
- ⑦キーホルダー作り⑧段ボール迷路
- ⑨海浜オリエンタリング⑩アスレチック
- ⑪海浜レストラン⑫キッチンカー

イ 心のケアが必要な子ども(不登校等)を対象とした自然体験事業「わくわく自然体験」

(ア) 目的

県内の不登校傾向にある児童生徒を対象に、自然体験活動や交流体験の機会を提供する事業。第1回・第3回・第5回については、いわき市総合教育センターと連携しながら事業を進めた。

(イ) 対象 小学生とその家族

(ウ) 期日及び参加者数

a 第1回

(a) 期日 令和6年5月24日(金)

(b) 参加者 16名

(c) 内容 ①磯遊び・魚釣り②草木染め

b 第2回

(a) 期日 令和6年9月15日(日)

- (b) 参加者 2名
- (c) 内容
  - ①貝殻・シーグラス集め②貝の壁飾り
  - ③ドッジボール・ドッジビー・鬼ごっこ
  - ④ストラックアウト

c 第3回

- (a) 期日 令和6年10月30日(水)
- (b) 参加者 13名
- (c) 内容 ①野外炊飯②貝の絵ろうそく

d 第4回

- (a) 期日 令和6年11月16日(土)
- (b) 参加者 3名
- (c) 内容
  - ①冒険の森散策②交流ゲーム
  - ③アスレチック

e 第5回 令和7年2月5日(水) 22名

- (a) 期日 令和6年5月24日(金)
- (b) 参加者 16名
- (c) 内容
  - ①七宝焼き②キンボール・ペンギンホバーゲーム・卓球・バドミントン

- (イ) 目的
  - 自然の家の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

- (ウ) 期日 令和6年6月2日(日)

- (エ) 対象及び参加者数 一般 200名

- (オ) 内容 貝殻ストラップづくり

オ 出前講座(全2件)

- (ア) 場所 いわき市立中央公民館

- (イ) 目的
  - いわき市内の公民館や児童クラブ等が主催する児童向けの事業において、自然体験活動やクラフト等のプログラムを提供し、当所の活動について理解を深めてもらう。

- (ウ) 期日及び参加者数

- a 令和6年6月2日(日) 参加者数22名

- b 令和6年6月30日(日) 参加者数25名

- (エ) 内容
  - クラフト(貝飾り、万華鏡など)

#### (4) 連携事業

ア キッズミュージアムin伝承郷

主催 いわき市暮らしの伝承郷

- (ア) 目的

自然の家の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

- (イ) 期日 令和6年11月3日(日)

- (ウ) 対象及び参加者数 小学生とその保護者 142名

- (エ) 内容 輪ゴム鉄砲射的・輪投げなど昔あそび体験

イ 親子ものづくり講座③

主催：いわき市生涯学習プラザ

- (ア) 目的

施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

- (イ) 期日 令和6年12月21日(土)

- (ウ) 対象及び参加者数 小学生とその保護者 14名

- (エ) 内容

クリスマスリースづくり

ウ 第20回生涯学習フェスティバル

- (ア) 主催 いわき市生涯学習プラザ

- (イ) 目的

当所の利用促進のため、施設及び事業紹介を兼ねて、体験活動のプログラムを提供する。

- (ウ) 期日 令和7年2月15日(土)

- (エ) 対象及び参加者数 一般 106名

- (オ) 内容

貝の組紐づくり

エ 企画事業「みどりのオープンデー」

- (ア) 主催 郡山自然の家

## 第 10 章 文化財

### 第 1 節 文化財保護体制の充実

#### 1 指定文化財保護体制の充実 (文化財パトロール)

例年、文化財保護体制の充実を図るため、民間の有識者を文化財保護指導委員に委嘱し、パトロール計画に基づいて、定期的に国・県指定重要文化財や重要遺跡の巡視を行い、その現況把握に努めてきた。令和 6 年度は県内 15 地区 179 件の文化財を巡視した。

#### 2 文化財保護指導者研修会

##### (1) 趣旨

文化財に関する知識の普及と愛護精神の高揚を図るため、公益財団法人福島県文化振興財団と県教育委員会の共催により実施した。文化財の保護について指導的立場にある関係者に対し、文化財に関する専門的事項について講習を行い、市町村における文化財保護行政の進展に役立てることを目的とする。

##### (2) 期日及び場所

令和 6 年 10 月 3 日(木)～4 日(金)

檜葉町コミュニティセンター

##### (3) 内容

ア 講義内容及び講師

(ア) 「福島県指定文化財の指定について」

櫻井宗成 (福島県教育庁文化財課)

(イ) 「檜葉天神原遺跡とその時代」

石川日出志 (福島県文化財センター白河館長)

(ウ) 「震災復興と文化財保護—檜葉町の取組—」

坂本和也 (檜葉町教育委員会)

イ 現地研修

檜葉町×東京大学総合研究博物館連携ミュージアム

展示・バックヤード視察 (案内：檜葉町教育委員会)

#### 3 市町村文化財保護担当者会議

##### (1) 趣旨

県内各市町村の文化財行政担当者が職務を遂行するうえでの必要な知識の習得を図り、また、実務上の疑問点や問題点等について質疑・意見交換することによって、より円滑に文化財行政を推進させることを目的とする。

##### (2) 期日及び場所

第 1 回 5 月 2 日 (木) 自治会館 (福島市)

第 2 回 5 月 27 日 (月) Zoom によるオンライン

第 3 回 6 月 14 日 (金) Zoom によるオンライン

第 4 回 11 月 29 日 (金) Zoom によるオンライン

##### (3) 内容

ア 県文化財課所管事業及び文化財行政の動向について

イ 令和 6 年度事業概要について

ウ 各指定文化財への対応について

エ 「近現代建造物緊急調査事業」の成果発表 等

### 第 2 節 埋蔵文化財保護の充実

#### 1 埋蔵文化財保護体制

開発事業によりやむを得ず消滅する埋蔵文化財については、発掘調査による着実な記録保存を行ってきた。埋蔵文化財保護に係る調整、予備調査等については開発事業の推移に応じた埋蔵文化財保護体制を整えてきた。

また、県の委託により発掘調査を行っている公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部においては、財団職員 21 名で調査にあたった。

##### 公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部職員数

| 年度 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 人員 | 39  | 37  | 32  | 30  | 32  | 26 | 22 | 25 | 22 | 21 | 21 |

#### 2 開発事業地内の保護対策

開発事業地内の遺跡の保護は、遺跡の所在・範囲・内容等を明らかにする「分布調査」「試掘・確認調査」の結果により、事業者と遺跡を保護するための「保存協議」を行い、現状保存ができない場合は、発掘調査により「記録保存」し、その成果を調査報告書としてまとめることで対応している。

##### (1) 分布調査、試掘・確認調査

分布調査、試掘・確認調査は、遺跡を保護するための情報を収集することを目的としている。

令和 6 年度は、会津縦貫北道路整備事業 85,500 m<sup>2</sup>、阿武隈川上流大規模災害関連事業(遊水地事業) 75,000 m<sup>2</sup>、国道 4 号事故対策事業 570 m<sup>2</sup>、只見川河川整備事業 2,600 m<sup>2</sup>、(仮称)大滝山風力発電事業 2,130 m<sup>2</sup>、計 5 事業 165,800 m<sup>2</sup>の試掘・確認調査を実施した。

なお、復興事業に係る埋蔵文化財調査については別記した。

##### (2) 保存協議

昨年度からの継続協議を含め、関係機関と保存協議を実施した。

関係機関：国土交通省、県土木部、民間企業等。

##### (3) 発掘調査

県教育委員会では、開発に伴う発掘調査(記録保存目的の本発掘調査)を公益財団法人福島県文化振興財団に委託し、以下の遺跡について実施した。

・会津縦貫北道路遺跡発掘調査 600 m<sup>2</sup>

・国道 4 号事故対策事業遺跡発掘調査 900 m<sup>2</sup>

・農山村地域復興基盤総合整備事業関連遺跡発掘調査 6,600 m<sup>2</sup> 計 8,100 m<sup>2</sup>

なお、県内市町村においても開発に伴う発掘調査を各市町村文化財保護担当部局が実施しているが、遺跡の重要性や調査体制の実情に応じ、適時助言及び支援を行っている。

### 3 令和6年度の復興事業に係る埋蔵文化財調査状況

東日本大震災及び原子力災害に係る復旧・復興事業計画区域内において、埋蔵文化財の分布調査、試掘・確認調査を迅速に実施し、復興事業計画に遅れが出ないよう対応した。

さらに、被災市町村に対して埋蔵文化財調査に係る技術協力を実施し、復興事業の迅速化に寄与してきた。

〈令和6年度〉復興調査体制

(南相馬市駐在)

課長 — 副課長 — 県専門職員  
(6名)

調査対応した開発事業は以下のとおりである。

#### (1) 分布調査

農山村地域復興基盤整備、県道整備、環境再生事業、発電・送電施設整備事業

4,527,064 m<sup>2</sup>

#### (2) 試掘・確認調査

農山村地域復興基盤整備、県道整備、環境再生事業  
373,475 m<sup>2</sup>

#### (3) 復興・再生事業等に係る市町村技術協力

- ・新地町、相馬市、飯舘村、南相馬市、浪江町、双葉町、楢葉町への技術協力
- ・第23回 東日本大震災の復旧・復興に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する連絡会 11月19日開催(浪江町)
- ・各市町村訪問

### 4 埋蔵文化財保護体制充実のための研修

#### (1) 福島県文化財センター白河館文化財研修

公益財団法人福島県文化振興財団が指定管理を行っている福島県文化財センター白河館において、埋蔵文化財の調査を担当する自治体・団体職員などを対象とした研修会を実施し、265名が受講した。

#### (2) 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所埋蔵文化財担当者専門研修

令和6年度に受講した者は以下のとおり。

| 研修名称            | 期 日               | 受 講 者       |
|-----------------|-------------------|-------------|
| 文化財石垣保存整備(講義)課程 | 令和6年6月12日～6月14日   | 白河市文化財課 1名  |
| 遺跡調査技術課程        | 令和6年9月30日～10月4日   | 白河市文化財課 1名  |
| 保存科学(木製遺物)課程    | 令和6年10月21日～10月29日 | 郡山市文化振興課 1名 |

### 5 埋蔵文化財保護普及活動

令和6年度に刊行した埋蔵文化財調査報告書は以下のとおり。

- ・東日本大震災復興関連遺跡調査報告 11
- ・福島県内遺跡分布調査報告 31
- ・県道浪江鹿島線整備事業遺跡発掘調査報告 2
- ・会津縦貫南道路遺跡発掘調査報告 3
- ・会津縦貫北道路遺跡発掘調査報告 17
- ・国道4号事故対策事業遺跡発掘調査報告 1
- ・只見川流域築堤工事遺跡発掘調査報告 2
- ・主要地方道原町川俣線(下高平工区)整備事業遺跡発掘調査報告 1
- ・阿武隈川上流大規模災害関連事業遺跡発掘調査報告 1

### 6 市町村埋蔵文化財調査技術協力事業

この事業は、県内の市町村教育委員会が実施する埋蔵文化財発掘調査等について、市町村教育委員会からの要請により県教育委員会が埋蔵文化財の調査等に必要な技術を協力・支援する事業である。

調査等に必要な技術の協力・支援を行う職員は、県教育委員会の依頼により公益財団法人福島県文化振興財団が選任した財団職員で、分布調査、試掘・確認調査、小規模な発掘調査及び出土遺物の整理や報告書作成に関する技術の協力・支援を行う。

令和6年度の技術協力の実績は、下記のとおり。

| 市町村  | 遺 跡 名         | 協力内容    |
|------|---------------|---------|
| 湯川村  | 浜崎城跡          | 試掘・確認調査 |
| 大玉村  | 下高野遺跡         | 試掘・確認調査 |
| 古殿町  | 田口城跡          | 試掘・確認調査 |
| 双葉町  | 深谷古墳群、深谷A遺跡ほか | 試掘・確認調査 |
| 泉崎村  | 踏瀬長峯地区        | 試掘・確認調査 |
| 鏡石町  | 久来石下地区        | 試掘・確認調査 |
| 檜枝岐村 | 滝沢遺跡          | 分布調査    |

## 7 開発事業に伴う試掘・確認・発掘調査件数

### (1) 令和6年度 試掘・確認調査件数

| No  | 調査原因             | 県北 | 県中  | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計   |
|-----|------------------|----|-----|----|----|-----|----|-----|-----|
| 1   | 道路               | 1  | 1   | 3  | 3  |     | 4  | 1   | 13  |
| 2   | 河川               |    |     | 1  | 1  |     |    |     | 2   |
| 3   | 住宅               | 4  | 13  | 1  |    |     |    | 2   | 20  |
| 4   | 個人住宅             | 17 | 138 |    | 2  |     | 5  | 1   | 163 |
| 5   | 工場               |    | 1   |    |    |     |    |     | 1   |
| 6   | 店舗               | 1  | 2   |    |    |     |    | 1   | 4   |
| 7   | その他建物            | 2  | 9   |    | 1  |     | 3  | 2   | 17  |
| 8   | 宅地造成             | 6  | 5   | 1  | 1  |     |    | 2   | 15  |
| 9   | 土地区画整理           |    | 6   |    |    |     |    |     | 6   |
| 10  | 公園造成             |    |     |    |    |     |    | 1   | 1   |
| 11  | 電気・ガス・水道等        |    | 6   |    |    |     |    | 2   | 8   |
| 12  | 農業基盤整備事業（農道等を含む） |    | 1   | 1  | 1  |     | 10 | 2   | 15  |
| 13  | その他の農業関係事業       |    |     |    |    |     |    |     | 0   |
| 14  | その他開発            | 6  | 19  |    |    |     | 16 | 3   | 44  |
| 合 計 |                  | 37 | 201 | 7  | 9  | 0   | 38 | 17  | 309 |

### (2) 令和6年度 発掘調査件数

| No  | 調査原因             | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計  |
|-----|------------------|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 1   | 道路               | 2  |    | 1  | 3  |     | 1  | 3   | 10 |
| 2   | 河川               |    |    |    |    |     |    |     | 0  |
| 3   | 個人住宅             |    | 1  |    |    |     | 1  |     | 2  |
| 4   | その他建物            |    | 1  |    | 2  |     |    | 1   | 4  |
| 5   | 宅地造成             |    |    |    | 1  |     |    |     | 1  |
| 6   | 土地区画整理           |    |    | 1  |    |     |    |     | 1  |
| 7   | 公園造成             |    |    |    |    |     |    | 1   | 1  |
| 8   | ガス・電気・水道等        |    |    |    |    |     |    |     | 0  |
| 9   | 農業基盤整備事業（農道等を含む） |    |    |    |    |     | 1  |     | 1  |
| 10  | その他開発            |    |    |    | 2  |     | 2  |     | 4  |
| 合 計 |                  | 2  | 2  | 2  | 8  | 0   | 5  | 5   | 24 |

## 8 範囲内容確認調査・史跡整備に係る調査・学術調査

| No  | 調査原因      | 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 計  |
|-----|-----------|----|----|----|----|-----|----|-----|----|
| 1   | 範囲内容確認調査  | 2  |    |    | 3  |     |    | 1   | 6  |
| 2   | 史跡整備に係る調査 |    |    | 1  |    | 1   | 1  |     | 3  |
| 3   | 学術研究      |    |    |    | 3  |     |    |     | 3  |
| 合 計 |           | 2  |    | 1  | 6  | 1   | 1  | 1   | 12 |

## 9 令和6年度 試掘・確認調査

| No | 遺 跡 名           | 所 在 地                              | 調査主体者 | 調査実施期間                                                                     | 調査面積<br>(㎡) | 時 代                    | 種 別         | 調査原因 |
|----|-----------------|------------------------------------|-------|----------------------------------------------------------------------------|-------------|------------------------|-------------|------|
| 1  | 鶴沼A遺跡ほか6箇所      | 会津若松市高野町大字中沼<br>字鶴沼・大字柳川字下高野<br>ほか | 県教委   | 4月22日～5月31日<br>11月12日～12月4日                                                | 84,500      | 奈良、平安                  | 散布地         | 道路   |
| 2  | KI-YS. B1ほか5箇所  | 岩瀬郡鏡石町諏訪町ほか                        | 県教委   | 6月24日～8月7日<br>2月18日～3月4日                                                   | 75,000      | -                      | -           | 河川   |
| 3  | YB-KD4J. B1     | 西白河郡矢吹町北浦                          | 県教委   | 8月28日                                                                      | 570         | -                      | -           | 道路   |
| 4  | びわ首沢遺跡ほか4箇所     | 郡山市熱海町中山平石                         | 県教委   | 9月9日～9月13日<br>11月5日～11月6日                                                  | 2,130       | -                      | -           | 電気   |
| 5  | KY-B 2          | 大沼郡金山町大字本名                         | 県教委   | 10月15日～10月18日                                                              | 2,600       | -                      | -           | 河川   |
| 6  | TM-HO. B10ほか3箇所 | 双葉郡富岡町大字小浜                         | 県教委   | 4月25日～4月26日<br>5月8日～5月15日                                                  | 213         | -                      | -           | 道路   |
| 7  | 角部内南台遺跡         | 南相馬市小高区角部内                         | 県教委   | 1月31日                                                                      | 8           | -                      | -           | 道路   |
| 8  | IT-ND. B1       | 相馬郡飯館村大字長泥字長<br>泥                  | 県教委   | 10月15日～10月18日                                                              | 62          | -                      | -           | 環境再生 |
| 9  | 一杯清水遺跡          | 南相馬市鹿島区大字檜原字<br>東畑                 | 県教委   | 6月4日<br>2月26日～3月4日                                                         | 151         | 縄文、平安<br>～中世           | 散布地         | 農地整備 |
| 10 | MSC-YMS. B1     | 南相馬市鹿島区大字山下字<br>北山下                | 県教委   | 4月23日<br>6月25日～6月28日<br>8月5日                                               | 337         | -                      | -           | 農地整備 |
| 11 | 後谷地A遺跡ほか1箇所     | 双葉郡川内村大字上川内字<br>続々滝                | 県教委   | 11月13日～11月14日                                                              | 120         | 縄文                     | 散布地         | 農地整備 |
| 12 | NE-KYH. B1      | 双葉郡浪江町大字幾世橋字<br>作内ほか               | 県教委   | 5月21日～5月30日                                                                | 538         | -                      | -           | 農地整備 |
| 13 | 東前畑遺跡ほか12箇所     | 双葉郡浪江町大字末森字東<br>前畑ほか               | 県教委   | 6月5日～6月21日<br>7月1日～8月2日<br>8月6日～8月8日<br>8月20日～10月11日<br>10月21日～10月22日      | 4,213       | 縄文、弥生、<br>古墳、奈良、<br>平安 | 窯跡、<br>散布地  | 農地整備 |
| 14 | 塚越遺跡ほか9箇所       | 双葉郡浪江町大字高瀬字塚<br>越ほか                | 県教委   | 10月23日～11月12日<br>11月18日～11月29日<br>12月10日～12月16日<br>1月7日～1月28日<br>2月3日～2月7日 | 2,429       | 古墳                     | 散布地、<br>集落跡 | 農地整備 |
| 15 | 下加倉C遺跡          | 双葉郡浪江町大字加倉字下<br>加倉                 | 県教委   | 2月12日～2月14日                                                                | 62          | 縄文                     | 散布地         | 農地整備 |
| 16 | FB-IN. B2       | 双葉郡双葉町大字上羽鳥字<br>榎内                 | 県教委   | 8月19日                                                                      | 2           | -                      | -           | 道路   |
| 17 | 宮田遺跡ほか1箇所       | 双葉郡檜葉町大字上小塙字<br>宮田ほか               | 県教委   | 12月2日～12月6日                                                                | 320         | 奈良、平安                  | 散布地         | 農地整備 |

## 10 令和6年度 発掘調査

| No | 遺 跡 名   | 所 在 地                  | 調査主体者 | 調査実施期間        | 調査面積<br>(㎡) | 時 代             | 種 別 | 調査原因 |
|----|---------|------------------------|-------|---------------|-------------|-----------------|-----|------|
| 1  | 踏瀬熊ノ森遺跡 | 西白河郡泉崎村大字踏瀬字<br>踏瀬・熊ノ森 | 県教委   | 4月15日～6月26日   | 900         | 縄文、古墳           | 散布地 | 道路   |
| 2  | 上吉田C遺跡  | 会津若松市高野町大字上高<br>野字村西   | 県教委   | 10月15日～11月15日 | 600         | 中世、近世           | 散布地 | 道路   |
| 3  | 根田遺跡    | 南相馬市小高区小屋木字根<br>田地内    | 県教委   | 4月15日～12月5日   | 6,600       | 縄文、弥生、<br>古墳、平安 | 散布地 | 農業基盤 |

## 第3節 文化財保存助成の充実

### 1 令和6年度 文化財保存助成事業

国指定文化財の防災設備保守点検等の管理に必要な経費について、助成を行った。

| 事業区分     | 補助事業者 | 名称                   | 種別  | 事業内容    | 金額（単位：円）  |           |           |           |
|----------|-------|----------------------|-----|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|          |       |                      |     |         | 事業費       | 国庫補助      | 県費補助      | その他       |
| 国指定文化財管理 | 延命寺   | 延命寺地蔵堂               | 建造物 | 防災保守点検等 | 261,000   | 66,000    | 65,000    | 130,000   |
| 国指定文化財管理 | 八葉寺   | 八葉寺阿弥陀堂              | 建造物 | 防災保守点検等 | 231,400   | 58,000    | 57,000    | 116,400   |
| 国指定文化財管理 | 横山操   | 旧滝沢本陣<br>横山家住宅       | 建造物 | 防災保守点検等 | 320,300   | 80,000    | 79,000    | 161,300   |
| 国指定文化財管理 | 飯盛正徳  | 旧正宗寺三匠堂              | 建造物 | 防災保守点検等 | 920,467   | 230,000   | 230,000   | 460,467   |
| 国指定文化財管理 | 勝福寺   | 勝福寺観音堂               | 建造物 | 防災保守点検等 | 431,750   | 108,000   | 107,000   | 216,750   |
| 国指定文化財管理 | 熊野神社  | 熊野神社長床               | 建造物 | 防災保守点検等 | 1,145,600 | 286,000   | 286,000   | 573,600   |
| 国指定文化財管理 | 円満寺   | 円満寺観音堂               | 建造物 | 防災保守点検等 | 726,220   | 181,000   | 182,000   | 363,220   |
| 国指定文化財管理 | 恵隆寺   | 恵隆寺観音堂               | 建造物 | 雪降し、除雪等 | 157,111   | 39,000    | 39,000    | 79,111    |
| 国指定文化財管理 | 法用寺   | 法用寺本堂内<br>厨子及び仏壇     | 建造物 | 防災保守点検  | 40,060    | 10,000    | 10,000    | 20,060    |
| 国指定文化財管理 | 常福院   | 常福院薬師堂               | 建造物 | 防災保守点検  | 47,250    | 11,000    | 12,000    | 24,250    |
| 国指定文化財管理 | 福生寺   | 福生寺観音堂               | 建造物 | 防災保守点検  | 52,700    | 13,000    | 13,000    | 26,700    |
| 国指定文化財管理 | 八幡神社  | 八幡神社本殿、幣<br>殿、拝殿ほか3棟 | 建造物 | 防災保守点検等 | 284,080   | 71,000    | 71,000    | 142,080   |
| 国指定文化財管理 | 飯野八幡宮 | 飯野八幡宮<br>本殿ほか6棟      | 建造物 | 防災保守点検等 | 759,412   | 189,000   | 190,000   | 380,412   |
| 国指定文化財管理 | 専称寺   | 専称寺                  | 建造物 | 防災保守点検  | 291,700   | 72,000    | 73,000    | 146,700   |
| 計        | 14 件  |                      |     |         | 5,669,050 | 1,414,000 | 1,414,000 | 2,841,050 |

### 2 令和6年度 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業を除く）

文化財の修理・防災・整備・調査・管理、埋蔵文化財保存調査等の事業（保存事業）とそれらの文化財を活用した事業（活用事業）を一体的に行った事業（保存活用事業）に必要な経費について、助成を行った。

#### (1) 国指定文化財等

| 事業区分    | 補助事業者 | 名称                   | 種別  | 事業内容  | 金額（単位：円）    |             |           |            |
|---------|-------|----------------------|-----|-------|-------------|-------------|-----------|------------|
|         |       |                      |     |       | 事業費         | 国庫補助        | 県費補助      | その他        |
| 建造物保存修理 | 八幡神社  | 八幡神社本殿、幣<br>殿、拝殿ほか3棟 | 建造物 | 建造物修理 | 100,660,000 | 80,000,000  | 2,500,000 | 18,160,000 |
| 建造物保存修理 | 喜多方市  | 旧甲斐家住宅店蔵<br>ほか9棟     | 建造物 | 建造物修理 | 65,752,060  | 42,412,000  | 2,500,000 | 20,840,060 |
| 計       | 2 件   |                      |     |       | 166,412,060 | 122,412,000 | 5,000,000 | 39,000,060 |

## (2) 県指定文化財

| 事業区分      | 補助事業者 | 名称        | 種別    | 事業内容   | 金額（単位：円）   |      |            |            |
|-----------|-------|-----------|-------|--------|------------|------|------------|------------|
|           |       |           |       |        | 事業費        | 国庫補助 | 県費補助       | その他        |
| 建造物保存修理   | 南泉寺   | 南泉寺鐘楼門    | 建造物   | 建造物修理  | 3,234,280  | 0    | 1,070,000  | 2,164,280  |
| 建造物保存修理   | 南会津町  | 旧山内家住宅    | 建造物   | 建造物修理  | 25,481,080 | 0    | 5,410,000  | 20,071,080 |
| 建造物保存修理   | 高蔵寺   | 高蔵寺三重塔    | 建造物   | 建造物修理  | 32,179,710 | 0    | 10,720,000 | 21,459,710 |
| 美術工芸品保存修理 | 熊野神社  | 木造文殊菩薩騎獅像 | 美術工芸品 | 彫刻修復   | 6,699,000  | 0    | 1,780,000  | 4,919,000  |
| 美術工芸品保存修理 | 南須釜区  | 東福寺十二神将   | 美術工芸品 | 彫刻修復   | 3,734,812  | 0    | 1,240,000  | 2,494,812  |
| 美術工芸品保存修理 | 恵隆寺   | 木造二十八部衆   | 美術工芸品 | 彫刻修復   | 3,012,700  | 0    | 800,000    | 2,212,700  |
| 記念物保存修理   | 檜葉町   | 塩貝の大カヤ    | 天然記念物 | 指定地内整備 | 3,690,280  | 0    | 1,070,000  | 2,620,280  |
| 記念物保存施設   | 東禅寺   | 東禅寺のめおとスギ | 天然記念物 | 指定地内整備 | 3,078,106  | 0    | 1,020,000  | 2,058,106  |
| 記念物保存施設   | 矢祭町   | 戸津辺のサクラ   | 天然記念物 | 指定地内整備 | 2,941,200  | 0    | 630,000    | 2,311,200  |
| 計         | 9 件   |           |       |        | 84,051,168 | 0    | 23,740,000 | 60,311,168 |

## 3 令和6年度 指定文化財保存活用事業（災害復旧事業）

令和4年3月福島県沖地震等により被災した国指定文化財等の修復等保存事業に必要な経費について、助成を行った。

### (1) 国指定文化財

| 事業区分 | 補助事業者   | 名称           | 種別  | 事業内容   | 金額（単位：円）    |             |            |             |
|------|---------|--------------|-----|--------|-------------|-------------|------------|-------------|
|      |         |              |     |        | 事業費         | 国庫補助        | 県費補助       | その他         |
| 災害復旧 | 安積歴史博物館 | 旧福島県尋常中学校本館  | 建造物 | 災害復旧工事 | 130,000,000 | 110,500,000 | 870,000    | 18,630,000  |
| 災害復旧 | 願成寺     | 阿弥陀堂（白水阿弥陀堂） | 建造物 | 災害復旧工事 | 115,088,110 | 97,824,000  | 6,900,000  | 10,364,110  |
| 災害復旧 | いわき市    | 白水阿弥陀堂境域     | 史跡  | 災害復旧工事 | 283,772,663 | 198,640,000 | 2,500,000  | 82,632,663  |
| 災害復旧 | 願成寺     | 阿弥陀堂（白水阿弥陀堂） | 建造物 | 災害復旧工事 | 18,000,000  | 15,300,000  | 1,080,000  | 1,620,000   |
| 計    | 4 件     |              |     |        | 546,860,773 | 422,264,000 | 11,350,000 | 113,246,773 |

### (2) 県指定文化財

| 事業区分 | 補助事業者 | 名称     | 種別  | 事業内容   | 金額（単位：円）   |      |            |            |
|------|-------|--------|-----|--------|------------|------|------------|------------|
|      |       |        |     |        | 事業費        | 国庫補助 | 県費補助       | その他        |
| 災害復旧 | 郡山市   | 開成館    | 建造物 | 災害復旧工事 | 69,650,000 | 0    | 7,400,000  | 62,250,000 |
| 災害復旧 | 相馬市   | 相馬中村城跡 | 史跡  | 災害復旧工事 | 15,250,400 | 0    | 3,290,000  | 11,960,400 |
| 計    | 2 件   |        |     |        | 84,900,400 | 0    | 10,690,000 | 74,210,400 |

## 第4節 文化財の保護と公開の推進

### 1 第66回北海道・東北ブロック民俗芸能大会

北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、その価値を周知するとともに、無形民俗文化財の保存・伝承、文化財公開による地域振興等に寄与する。

期 日 令和6年 10月26日 リハーサル・実行委員会

10月27日 開会式・民俗芸能公開

場 所 多賀城市民会館（宮城県多賀城市）

### 2 文化財防火デーの実施

文化財の防火について、所有者・管理者はもとより、県民の理解と協力を高めるため、1月26日の「第71回文化財防火デー」を中心に、ポスターを配布するなどの啓発活動を行った。

また、各市町村においては、消防署や地元消防団の協力を得て、消火訓練、防火診断、防火査察等を実施した。

## 第5節 銃砲刀剣類の登録状況

美術品若しくは骨とう品としての価値のある火縄式銃砲等の古式銃砲又は美術品としての価値のある刀剣類の登録審査会を次のとおり実施した。

### 1 登録審査委員

溝井辰美、佐藤安弘、塚本剛之、塚本浩之

### 2 登録審査会の実施状況

| 期 日    | 会 場       | 審査数 | 失格数 | 登録数 | 登録数の内訳 |     |
|--------|-----------|-----|-----|-----|--------|-----|
|        |           |     |     |     | 刀 剣    | 銃 砲 |
| 5月16日  | いわき合同庁舎   | 22  | 0   | 22  | 22     | 0   |
| 7月19日  | 郡山市労働福祉会館 | 26  | 0   | 26  | 26     | 0   |
| 9月10日  | 会津若松合同庁舎  | 31  | 0   | 31  | 31     | 0   |
| 11月19日 | 杉妻会館      | 35  | 0   | 35  | 35     | 0   |
| 2月13日  | 郡山市労働福祉会館 | 37  | 1   | 36  | 34     | 2   |
| 計      |           | 151 | 1   | 150 | 148    | 2   |

※ 再交付に係る審査を除く。

### 3 銃砲刀剣類の譲受け・相続等の届出状況

| 区 分   | 銃 砲 等 | 刀 剣 類 |
|-------|-------|-------|
| 譲 受 け | 36    | 611   |
| 相 続   | 2     | 109   |
| 貸 付   | 1     | 0     |
| 保管の委託 | 0     | 1     |
| 計     | 39    | 721   |

## 第6節 福島県文化財センター白河館の運営状況

### 1 入館者数

令和6年度の入館者は17,442人であり、前年度の入館者(14,383人)に比べ3,059人増加した。団体利用は、前年度に比べ324名増加した。平成13年7月の開館からの延べ入館者数は、630,637人となった。

### 2 入館者の内訳と傾向

地域別利用状況 県内者 77.7% (うち総入館者数に占める白河市の割合 36.5%)

県外者 22.3%

年齢層別利用状況 入館者全体のうち、児童生徒(高校生以下)が35.5%、団体入館者が15.1%を占める。

| 月   | 入館者数(人) | 1日平均入館者数(人) |
|-----|---------|-------------|
| 4月  | 1,550   | 62          |
| 5月  | 2,177   | 81          |
| 6月  | 1,622   | 62          |
| 7月  | 1,655   | 64          |
| 8月  | 2,072   | 77          |
| 9月  | 1,356   | 54          |
| 10月 | 1,063   | 39          |
| 11月 | 2,545   | 98          |
| 12月 | 708     | 31          |
| 1月  | 673     | 29          |
| 2月  | 922     | 38          |
| 3月  | 1,099   | 44          |
| 計   | 17,442  | 57          |

### 3 団体利用者の内訳と傾向

(単位 人)

|                       |      | 4月  | 5月 | 6月  | 7月  | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計   |
|-----------------------|------|-----|----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 幼稚園・保育園               | 団体数  | 3   | 2  | 4   | 1   |    | 1  | 1   | 3   | 2   | 2  | 2  | 1  | 22  |
|                       | 入館者数 | 27  | 15 | 78  | 6   |    | 9  | 9   | 39  | 19  | 22 | 20 | 9  | 253 |
| 小学校                   | 団体数  | 1   | 1  | 11  | 7   |    | 2  | 1   |     |     |    |    | 1  | 24  |
|                       | 入館者数 | 14  | 24 | 480 | 233 |    | 90 | 9   |     |     |    |    | 90 | 940 |
| 中学校                   | 団体数  | 1   |    |     |     |    | 1  |     |     |     |    |    |    | 2   |
|                       | 入館者数 | 22  |    |     |     |    | 72 |     |     |     |    |    |    | 94  |
| 高等学校                  | 団体数  | 1   | 1  |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    | 2   |
|                       | 入館者数 | 166 | 22 |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    | 188 |
| 支援学校                  | 団体数  |     | 1  |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    | 1   |
|                       | 入館者数 |     | 17 |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    | 17  |
| 大学                    | 団体数  |     |    |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    | 0   |
|                       | 入館者数 |     |    |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    | 0   |
| 幼小中高PTA<br>(保護者のみ)    | 団体数  |     |    |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    | 0   |
|                       | 入館者数 |     |    |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    | 0   |
| 幼小中高PTA<br>(保護者と児童生徒) | 団体数  |     |    | 1   |     |    |    |     | 1   |     |    |    |    | 2   |
|                       | 入館者数 |     |    | 52  |     |    |    |     | 55  |     |    |    |    | 107 |
| 研究会                   | 団体数  |     |    |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    | 0   |
|                       | 入館者数 |     |    |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    | 0   |
| 子ども会                  | 団体数  |     |    |     | 1   |    |    | 1   |     |     |    |    |    | 2   |
|                       | 入館者数 |     |    |     | 82  |    |    | 20  |     |     |    |    |    | 102 |
| 公民館等                  | 団体数  |     | 1  |     | 1   | 1  | 1  | 2   | 1   |     |    |    |    | 7   |
|                       | 入館者数 |     | 26 |     | 10  | 25 | 29 | 65  | 31  |     |    |    |    | 186 |
| 福祉施設・<br>デイケアサービス     | 団体数  |     |    | 2   | 2   | 2  | 3  | 4   | 3   |     |    | 2  |    | 18  |
|                       | 入館者数 |     |    | 27  | 27  | 24 | 55 | 58  | 57  |     |    | 51 |    | 299 |

|                            |      | 4月    | 5月   | 6月    | 7月    | 8月   | 9月    | 10月   | 11月  | 12月  | 1月   | 2月   | 3月   | 計     |
|----------------------------|------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|------|------|------|------|-------|
| 資 料 館 等                    | 団体数  |       |      |       |       |      |       |       |      |      |      |      |      | 0     |
|                            | 入館者数 |       |      |       |       |      |       |       |      |      |      |      |      | 0     |
| 歴史研究団体                     | 団体数  |       |      |       |       |      | 1     | 1     |      |      |      |      |      | 2     |
|                            | 入館者数 |       |      |       |       |      | 25    | 23    |      |      |      |      |      | 48    |
| 県・市町村・<br>教委・審議会等          | 団体数  |       |      | 1     |       |      |       |       |      |      |      |      |      | 1     |
|                            | 入館者数 |       |      | 32    |       |      |       |       |      |      |      |      |      | 32    |
| そ の 他                      | 団体数  | 2     | 2    |       | 4     | 2    | 2     |       |      | 1    | 1    | 1    |      | 15    |
|                            | 入館者数 | 35    | 53   |       | 93    | 120  | 29    |       |      | 8    | 16   | 14   |      | 368   |
| 計                          | 団体数  | 8     | 8    | 19    | 16    | 5    | 11    | 10    | 8    | 3    | 3    | 5    | 2    | 98    |
|                            | 入館者数 | 264   | 157  | 669   | 451   | 169  | 309   | 184   | 182  | 27   | 38   | 85   | 99   | 2,634 |
| 月別総入館者数に占める<br>団体入館者の割合(%) |      | 17.03 | 7.21 | 41.25 | 27.25 | 8.16 | 22.79 | 17.31 | 7.15 | 3.81 | 5.65 | 9.22 | 9.01 | 15.10 |

**4 情報発信事業の利用者**  
 ホームページアクセス件数 33,810 件  
 （文化財データベースのほか、福島県文化財センター白河館の行事予定等をホームページで紹介している。）

**5 資料管理業務**  
 県教育委員会による調査の出土品等 58,990 箱を、教育・普及・研究への活用が可能な環境に整備して収蔵管理している。  
 写真掲載・転載の申し込み 40 件、出土品借受の申し込み 17 件、収蔵庫保管品の館内閲覧 20 件であった。

**6 研修事業の状況**  
 埋蔵文化財や無形の文化財の調査・保護を担当する自治体・団体職員、文化財保護指導者、学校教育・生涯学習に携わる教職員などを対象とした研修を実施する。

| 区分           | 研修対象               | 研修内容                                                       |
|--------------|--------------------|------------------------------------------------------------|
| 基礎研修<br>（1回） | 市町村職員等             | 市町村が直面する課題や先行実践例の検証などを通して、文化財に対する災害対応、埋蔵文化財調査の監理・監督について学ぶ。 |
| 専門研修<br>（2回） | 市町村職員、市町村文化財保護指導者等 | 市町村文化財保護行政の実践例を現地で検証し、まちづくりと展示施設の整備及び展示施設における展示環境について学ぶ。   |
| 特別研修<br>（6回） | 市町村職員等             | 市町村の要望に応じて館内外において随時実施。                                     |

**令和6年度研修実施状況**

|                    |          |       |     |
|--------------------|----------|-------|-----|
| ・基礎研修（1回）          |          |       |     |
| 「文化財保護行政実務者研修」     | 7月19日    | 参加者   | 23名 |
| 「埋蔵文化財発掘調査研修」      | 2月7日     | 参加者   | 12名 |
| ・専門研修（2回）          |          |       |     |
| 「文化財保護指導者研修会」      | 10月3日～4日 | 参加者延べ | 81名 |
| 「文化財活用研修」          | 12月8日    | 参加者   | 13名 |
| ・特別研修（6回）          |          |       |     |
| 「西郷村立米小学校 出前授業」    | 6月13日    | 参加者   | 42名 |
| 「県立白河旭高等学校 探求学習活動」 | 10月29日   | 参加者   | 15名 |

|                      |        |     |     |
|----------------------|--------|-----|-----|
| 「川内村ふるさと学校 土器づくり」    | 10月30日 | 参加者 | 25名 |
| 「マイタウン白河カルチャー教室」     | 12月7日  | 参加者 | 3名  |
| 「川内村ふるさと学校 土器野焼き」    | 12月8日  | 参加者 | 19名 |
| 「塙町青少年育成町民会議 はなわ探検隊」 | 12月14日 | 参加者 | 32名 |

**7 体験学習事業の状況**  
 過去の生活の一部を体験しながら学べるよう、復元品等を用いた体験学習の普及活動を、館内・館外で行う。  
 活動を行うための施設として、屋内に体験活動室を設けている。また野外展示施設では、体験広場を囲むように、縄文時代の家、前方後円墳、奈良時代の家、奈良時代の倉庫、製鉄炉、室町時代の館を復元展示している。

**(1) いつでもできる体験学習**  
 事前に予約を必要としない個人来館者を対象に実施するメニューと、事前予約制で、団体で体験学習を希望する場合を対象とするものを用意している。内容は、「勾玉づくり」「火おこしに挑戦」のほか、月替わりの期間限定メニューを用意している。

| いつでもできる体験学習活動状況 |         |         |       |
|-----------------|---------|---------|-------|
| 月               | 来館者数(人) | 体験者数(人) | 割合(%) |
| 4月              | 1,550   | 1,055   | 68.0  |
| 5月              | 2,177   | 1,714   | 78.7  |
| 6月              | 1,622   | 600     | 36.9  |
| 7月              | 1,655   | 1,352   | 81.7  |
| 8月              | 2,072   | 2,468   | 119.1 |
| 9月              | 1,356   | 888     | 65.5  |
| 10月             | 1,063   | 299     | 28.1  |
| 11月             | 2,545   | 1,067   | 41.9  |
| 12月             | 708     | 331     | 46.8  |
| 1月              | 673     | 296     | 44.0  |
| 2月              | 922     | 559     | 60.6  |
| 3月              | 1,099   | 665     | 60.5  |
| 計               | 17,442  | 11,294  | 64.8  |

※ 体験者数は1人で複数メニューを体験した場合も合算した延べ人数である。

## (2) 募集型体験学習

事前に参加者を募集して土器づくり、大堀相馬焼などの単発プログラムを行う「実技講座」、事前に参加者を募集し、関連性・継続性のあるメニューを年間で実施する「まほろん森の塾」などのプログラム。

### a まほろん森の塾

|                     |        |        |
|---------------------|--------|--------|
| 第1回 「開塾式ほか」         | 6月9日   | 参加者12名 |
| 第2回 「土笛づくりほか」       | 7月7日   | 参加者11名 |
| 第3回 「石庖丁づくりほか」      | 9月8日   | 参加者12名 |
| 第4回 「稲刈りほか」         | 10月20日 | 参加者10名 |
| 第5回 「しめ飾りづくり・開塾式など」 | 12月8日  | 参加者13名 |

### b 実技講座

|                 |           |        |
|-----------------|-----------|--------|
| 白河だるまづくり①下塗り    | 5月25日     | 参加者14名 |
| 白河だるまづくり②絵付け    | 6月29日     | 参加者14名 |
| U-15実技講座「土器づくり」 | 7月27日・28日 | 参加者29名 |
| 「土笛づくり」         | 8月25日     | 参加者8名  |
| 「大堀相馬焼体験①ろくろ体験」 | 10月13日    | 参加者8名  |
| 「大堀相馬焼体験②墨入れ」   | 11月17日    | 参加者8名  |
| 縄文土器づくり 1日目     | 1月18日     | 参加者9名  |
| 縄文土器づくり 2日目     | 1月19日     | 参加者9名  |
| 縄文土器づくり 3日目     | 1月25日     | 参加者7名  |
| 縄文土器づくり 4日目 野焼き | 3月9日      | 参加者8名  |

### c 実技講座（Web配信）

|                |    |        |
|----------------|----|--------|
| 「おうちでできる土器づくり」 | 通年 | 参加者24名 |
|----------------|----|--------|

## (3) 館外体験学習

### ア おでかけまほろん

福島県文化財センター白河館から、小中学校等教育機関等へ職員が出向き、収蔵資料等を活用した学習や体験学習を教職員と協働で行うプログラム。令和6年度は22カ所で行い、参加者数は合計560名であった。

|                        |        |        |
|------------------------|--------|--------|
| 第1回 南相馬市立原町第二小学校       | 5月23日  | 参加者34名 |
| 第2回 南相馬市立石神第二小学校       | 5月23日  | 参加者48名 |
| 第3回 伊達市立保原小学校          | 5月30日  | 参加者96名 |
| 第4回 柳津町立柳津小学校          | 6月13日  | 参加者20名 |
| 第5回 本宮市立糠沢小学校          | 6月20日  | 参加者16名 |
| 第6回 本宮市立五百川小学校         | 6月20日  | 参加者39名 |
| 第7回 喜多方市立山都小学校         | 6月27日  | 参加者12名 |
| 第8回 いわき市立宮小学校          | 7月4日   | 参加者15名 |
| 第9回 いわき市立湯本第二小学校       | 7月4日   | 参加者22名 |
| 第10回 郡山市立東芳小学校         | 7月11日  | 参加者14名 |
| 第11回 郡山市立小原田小学校        | 7月11日  | 参加者65名 |
| 第12回 喜多方市姥堂公民館         | 7月28日  | 参加者25名 |
| 第13回 二本松市立杉田小学校        | 9月12日  | 参加者31名 |
| 第14回 県立ふたば支援学校中等部      | 9月26日  | 参加者7名  |
| 第15回 県立たむら支援学校高等部      | 10月3日  | 参加者11名 |
| 第16回 国見町公民館（観月台文化センター） | 10月20日 | 参加者30名 |
| 第17回 福島大学附属特別支援学校高等部   | 11月14日 | 参加者23名 |
| 第18回 小野町ふるさと文化の館       | 11月17日 | 参加者10名 |
| 第19回 県立視覚支援学小学部・中学部    | 11月21日 | 参加者3名  |
| 第20回 いわき市立勿来第二小学校      | 11月28日 | 参加者20名 |

|                       |        |        |
|-----------------------|--------|--------|
| 第21回 二本松市岩代公民館        | 12月1日  | 参加者8名  |
| 第22回 飯館村立いたて希望の里学園小学部 | 12月12日 | 参加者11名 |

### イ 生涯学習行事への出展

生涯学習施設等が主催する行事に出展し、収蔵資料を活用したミニ展示や体験学習を行う。令和6年度は4回実施し、参加者数は合計663名であった。

|                      |           |         |
|----------------------|-----------|---------|
| 第1回 福島県ハイテクプラザ       | 8月4日      | 参加者193名 |
| 第2回 那須高原ビジターセンター     | 10月26・27日 | 参加者153名 |
| 第3回 にほんまつ城報館冬季自主イベント | 2月1・2日    | 参加者88名  |

## 8 講演会・講習会

文化財に親しみ、文化財への理解を深めるために、講演会や講座を開催した。

### (1) 館長講演会 5回開催

|                                       |       |        |
|---------------------------------------|-------|--------|
| 第1回 「右と左の考古学」                         | 6月15日 | 聴講者34名 |
| 第2回 「石斧の考古学」                          | 8月24日 | 聴講者28名 |
| 第3回 「縄文土器を読むー私が惚れたまほろんの一品」            | 9月22日 | 聴講者26名 |
| 第4回 「地中から地域史を書き直すー会津坂下町の吉田博行さんをお迎えして」 | 12月8日 | 聴講者29名 |
| 第5回 「時間の考古学」                          | 2月15日 | 聴講者36名 |

### (2) 文化財講演会等 6回開催

|                              |        |        |
|------------------------------|--------|--------|
| ア こども考古学教室1 「古代のしらかわ」        | 7月21日  | 参加者21名 |
| イ こども考古学教室2 「県内地名の詠まれた和歌」    | 8月4日   | 参加者33名 |
| ウ 「前田遺跡から出土した編み組製品」          | 10月27日 | 参加者42名 |
| エ 「前田遺跡出土木製品の樹種同定」・「前田遺跡を掘る」 | 11月30日 | 参加者56名 |
| オ 「銅谷迫遺跡・後迫B遺跡の調査について」       | 1月26日  | 参加者19名 |
| カ 「福島県における復興調査について」          | 3月1日   | 参加者17名 |

## 9 常設展事業

常設展示では、以下のコーナーを設けて、収蔵物や復元品を理解しやすい形で展示している。

「暮らしのうつりかわり」「暮らしをささえた道具」「A：旧みんなの研究ひろば」「B：旧話題の遺跡」「C：旧しらかわ歴史名場面」各コーナーにおいては展示替えを積極的に行い、歴史や文化財等に関する新鮮な情報を提供した。

### (1) 暮らしのうつりかわり

(ア) 展示替え 1回

(イ) 昭和～旧石器時代の出土品等

### (2) 旧みんなの研究ひろば

(ア) 展示替え 6回

(イ) 桜町遺跡の弥生土器、会津地方弥生時代後期の土器と関連遺跡、郡山市徳定A・B遺跡展、白河結城氏の居城・白川城の全貌を見る、まほろん森の塾成果、第一学院高等学校郡山キャンパス歴史探究部卒業研究発表

### (3) 旧話題の遺跡

(ア) 展示替え 7回

(イ) ふくしまの旧石器時代遺跡、X線CTで調べたまほろんの土偶たち、実技講座「U-15土器づくり」紹介、実技講座「白河だるまづくり」作品展、白河高校震災復興しらかわゼミ令和5年度活動報告、ふくしまのおひなさま、実技講座「縄文土器をつくろう」作品展

### (4) 旧しらかわ歴史名場面

(ア) 展示替え 4回

(イ) 博物館実習生による展示「新収蔵資料浪江町鹿屋敷・赤坂D遺跡」、同「南相馬市谷地中遺跡」、「福島市孫六橋遺跡出土の弥生土器」、「双葉郡浪江町赤坂D遺跡の軒丸瓦」

### (5) 「重要文化財公開」

(ア) 展示替え 6回

(イ) 国重要文化財ほか法正尻遺跡出土品

### (6) プロムナードギャラリー等でのミニ展示及び展示替え「まほろんの逸品」

(ア) 展示替え 5回

(イ) 磐梯町・猪苗代町法正尻遺跡縄文土器、【白河の逸品】白河だるま、浪江町田子平遺跡出土土笛、飯舘村日向遺跡出土縄文土器・浪江町田子平遺跡出土縄文土器、本宮市高木遺跡出土縄文土器

## 10 企画展事業

特別展示室では、以下の企画展を開催している。

### (1) 「戦後ふくしまの考古学2－高度経済成長期の発掘調査－」

会期(6年度)：4月1日～5月6日 観覧者 2,962名

全会期(前年度1月20日～3月10日含む)

累計観覧者 4,632名

### (2) 「U-15の考古学－ふくしまの平安時代のはじまり－」

会期：6月15日～9月29日

観覧者 5,926名

### (3) 「この木、なんの木？前田遺跡！－縄文時代の植物利用－」

会期10月26日～12月15日

観覧者 3,236名

### (4) 「復興祈念展－人びとのいとなみの継承－」(前期展)

会期1月25日～3月16日

観覧者 1,800名

## 11 ボランティア運営事業

### (1) 「まほろんボランティア」の活動状況

縄文時代の家、奈良時代の家の燻蒸

体験学習用器材の整備など

ボランティア連絡会・研修会(3回開催)

### (2) 登録数

個人ボランティア 39名

## 12 市町村への技術支援の状況

文化財保護に対する個別の技術支援が必要な市町村に対して、専門職員の派遣を実施する。令和6年度は、1市1町に対し計2回、職員を派遣した。

・模擬原爆破片の劣化防止作業支援 福島市(1回)

・前田遺跡出土土器補強作業 川俣町(1回)

## 13 その他

### イベントの開催

・「まほろん感謝デー」・「移動水族館アクアラバン」

11月2日～4日 参加者 1,604名

## 第 11 章 福利厚生

### 〔教職員の健康管理・福利厚生事業〕

#### 第 1 節 概要

(1) 教職員の健康管理については、教職員の安全確保と健康の保持増進のため、労働安全衛生法や学校保健安全法等に基づき各種健康診断やストレスチェック事業等を実施した。また、各種感染症対策として県立学校等にマスク等保健衛生用品の配付及び備蓄を行った。

(2) 保健・厚生事業については、特定健康診査等を実施するとともに、教職員人間ドック等をはじめとする健診事業を県、市町村、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会等が連携を図りながら実施した。教職員の健康管理を重点目標とし、生活習慣病の早期発見・早期治療等健康づくりを支援するための人間ドックや大腸がん検診等の健診事業のほか、保養所等利用助成事業等を実施した。

また、教職員の生涯生活設計の推進のためのライフプラン講座、教職員の健康管理意識を高めるため、体質改善、メンタルヘルス等に関する各種セミナー事業を実施し、教職員の心身の健康づくりを支援した。さらに、ふくしま教職員こころのケア事業等をはじめとする各種相談事業やストレスチェック事業を実施し、メンタルヘルス対策の充実を図った。

主な事業と実績は、以下のとおりである。

#### 第 2 節 事業実績

##### 1 教職員の健康管理

##### (1) 雇入時健康診断結果

教育庁及び県立学校等の新規採用教職員

ア 健康診断実施状況

| 受診者   | 異常なし |       | 要注意者 |       | 要精密検査者 |       | 治療中 |      |
|-------|------|-------|------|-------|--------|-------|-----|------|
|       | 人数   | 割合    | 人数   | 割合    | 人数     | 割合    | 人数  | 割合   |
| 123 人 | 31 人 | 25.2% | 43 人 | 35.0% | 43 人   | 35.0% | 6 人 | 4.8% |

イ 検査項目ごとの状況

(人)

| 検査項目    | 聴力   | 血圧   | 血液   | 脂質    | 肝機能  | 血糖   | 尿    | 心電図  | 胸部   |
|---------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|
| 受 診 者   | 123  | 123  | 122  | 122   | 122  | 120  | 121  | 122  | 122  |
| 異 常 な し | 122  | 107  | 102  | 78    | 98   | 110  | 115  | 95   | 120  |
| 要 注 意 者 | 0    | 10   | 16   | 24    | 14   | 10   | 0    | 22   | 1    |
| 要精密検査者  | 1    | 3    | 4    | 17    | 8    | 0    | 6    | 5    | 1    |
| 治 療 中   | 0    | 3    | 0    | 3     | 2    | 0    | 0    | 0    | 0    |
| 要精密検査率  | 0.8% | 2.4% | 3.3% | 13.9% | 6.6% | 0.0% | 5.0% | 4.1% | 0.8% |

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が 1 人で 2 つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

##### (2) 教職員定期健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

ア 健康診断実施状況

(人)

| 区分     |    | 受診者   | 異常なし | 要注意者  | 要精密検査者 | 治療中   |
|--------|----|-------|------|-------|--------|-------|
| 35 歳以上 | 男性 | 3,140 | 72   | 651   | 1,593  | 824   |
|        | 女性 | 2,397 | 156  | 741   | 1,251  | 249   |
|        | 計  | 5,537 | 228  | 1,392 | 2,844  | 1,073 |
| 35 歳未満 | 男性 | 590   | 89   | 268   | 206    | 27    |
|        | 女性 | 571   | 201  | 201   | 144    | 25    |
|        | 計  | 1,161 | 290  | 469   | 350    | 52    |
| 合計     | 男性 | 3,730 | 161  | 919   | 1,799  | 851   |
|        | 女性 | 2,968 | 357  | 942   | 1,395  | 274   |
|        | 計  | 6,698 | 518  | 1,861 | 3,194  | 1,125 |

イ 検査項目ごとの状況

(人)

| 検査項目    | 聴力     |        | 血圧     |        | 血液一般   |        | 血中脂質   |        | 肝機能    |        | 腎機能    |        |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 年 齢     | 35 歳未満 | 35 歳以上 | 35 歳未満 | 35 歳以上 | 35 歳未満 | 35 歳以上 | 35 歳未満 | 35 歳以上 | 35 歳未満 | 35 歳以上 | 35 歳未満 | 35 歳以上 |
| 受 診 者   | 1,170  | 5,331  | 1,176  | 5,342  | 1,176  | 5,336  | 1,176  | 5,337  | 1,176  | 5,019  | 1,142  | 5,328  |
| 異 常 な し | 1,155  | 4,473  | 1,014  | 3,364  | 964    | 3,948  | 657    | 2,613  | 864    | 3,288  | 969    | 4,247  |
| 要 注 意 者 | 0      | 230    | 84     | 641    | 164    | 1,000  | 315    | 1,118  | 195    | 1,230  | 110    | 783    |
| 要精密検査者  | 15     | 321    | 55     | 492    | 32     | 188    | 155    | 807    | 108    | 400    | 63     | 275    |
| 治 療 中   | 0      | 307    | 23     | 845    | 16     | 200    | 49     | 799    | 9      | 101    | 0      | 23     |
| 要精密検査率  | 1.3%   | 6.0%   | 4.7%   | 9.2%   | 2.7%   | 3.5%   | 13.2%  | 15.1%  | 9.2%   | 8.0%   | 5.5%   | 5.2%   |

| 検査項目    | 血糖     |        | 尿      |        | 心電図    |        | 胃エックス線 |        | 大腸がん   |        | 眼底     |        |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 年 齢     | 35 歳未満 | 35 歳以上 | 35 歳未満 | 35 歳以上 | 35 歳未満 | 35 歳以上 | 35 歳未満 | 35 歳以上 | 35 歳未満 | 35 歳以上 | 35 歳未満 | 35 歳以上 |
| 受 診 者   | 1,149  | 5,339  | 1,163  | 5,260  | 1,176  | 5,330  |        | 3,874  |        | 4,764  |        | 5,243  |
| 異 常 な し | 1,058  | 2,957  | 1,099  | 4,893  | 987    | 3,863  |        | 3,131  |        | 4,043  |        | 4,218  |
| 要 注 意 者 | 87     | 1,673  | 0      | 3      | 158    | 1,103  |        | 677    |        | 483    |        | 138    |
| 要精密検査者  | 4      | 188    | 64     | 362    | 31     | 353    |        | 56     |        | 231    |        | 793    |
| 治 療 中   | 0      | 521    | 0      | 2      | 0      | 11     |        | 10     |        | 7      |        | 94     |
| 要精密検査率  | 0.3%   | 3.5%   | 5.5%   | 6.9%   | 2.6%   | 6.6%   |        | 1.4%   |        | 4.8%   |        | 15.1%  |

(注) 要精密検査者については、要精密検査項目が1人で2つ以上ある場合には、該当項目にそれぞれ計上した。

(3) 教職員結核健康診断結果

教育庁及び県立学校等教職員（新規採用教職員を除く）

| 受診者     | 異常なし    | 要注意者  | 要精密検査者 | 治療中  | 要精密検査率 |
|---------|---------|-------|--------|------|--------|
| 6,403 人 | 5,939 人 | 338 人 | 100 人  | 26 人 | 1.6%   |

(4) 教職員ストレスチェック事業（県）

教育庁及び県立学校等教職員

（令和6年7～11月実施）

検査を受けた職員数、率 6,673 人、98.6%

(5) 情報機器作業従事教職員健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者数 5,655 人

(6) 警戒区域等で業務に従事した職員の健康診断（県）

教育庁及び県立学校等教職員のうち作業に従事したもの

受診者延べ人数 839 人

(7) 学校保健特別対策事業（県）

県立学校等教職員に対し感染症対策用のマスク等保健衛生用品の配付を行った。

配付学校数 99 校

配付衛生用品

|                     |           |
|---------------------|-----------|
| サージカルマスク            | 164,000 枚 |
| 手指消毒液（1ℓ）           | 1,670 ℓ   |
| 清拭用消毒液（1.5ℓ）        | 243 本     |
| 消毒用手袋（使捨て）100 枚/1 箱 | 594 箱     |
| ペーパータオル 200 枚/1 箱   | 1,485 箱   |

## 2 保健事業

### (1) 特定健康診査等（共済組合）

令和6年度中に、40～74歳となった公立学校共済組合員（任意継続組合員も含む）とその被扶養者を対象に、特定健康診査を実施した。特定健康診査の結果、生活習慣病のリスクが高い場合、その程度に応じて特定保健指導を実施した。

| 対象者数    | 受診者数    | 受診率   | 保健指導   |
|---------|---------|-------|--------|
| A       | B       | B/A   | 対象者    |
| 16,925人 | 14,440人 | 85.3% | 2,338人 |

### (2) 人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

ア 教職員人間ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和6年4月1日現在、満35・38・40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、人間ドック（脳ドックを含む。）を実施した。

| 対象者数   | 申込者数   | 受診者数   | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果 |       |       |       |
|--------|--------|--------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
| A      | B      | C      | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 6,995人 | 5,063人 | 4,985人 | 72.4% | 71.3% | 98.5% | 2.2% | 31.5% | 33.6% | 32.7% |

イ 配偶者人間ドック（共済組合・互助会）

令和6年4月1日現在、満35歳以上の被扶養配偶者を対象に、人間ドックを実施した。

| 申込者数 | 受診者数 | 受診率   | 検診結果 |       |       |       |
|------|------|-------|------|-------|-------|-------|
| A    | B    | B/A   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 243人 | 223人 | 91.8% | 4.5% | 32.3% | 35.9% | 27.3% |

ウ 節目年齢人間ドック（互助会）

令和6年4月1日現在、満59歳の教職員を対象に、人間ドックを実施した。

| 対象者数 | 申込者数 | 受診者数 | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果 |       |       |       |
|------|------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
| A    | B    | C    | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし | 要注意   | 要精検   | 治療中   |
| 810人 | 400人 | 387人 | 49.4% | 47.8% | 96.8% | 1.0% | 28.4% | 20.7% | 49.9% |

### (3) 大腸がん検診（共済組合・互助会）

令和6年4月1日現在、満35歳以上の教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、検診を実施した。

| 対象者数   | 申込者数 | 受診者数 | 申込率  | 受診率  |       | 検診結果  |       |       |      |
|--------|------|------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|
| A      | B    | C    | B/A  | C/A  | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検   | 治療中  |
| 8,961人 | 735人 | 669人 | 8.2% | 7.5% | 91.0% | 57.9% | 30.8% | 11.2% | 0.1% |

### (4) 乳がん・子宮がん検診（県・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和6年4月1日現在、満20歳以上の女性教職員（人間ドック及び脳ドック受診者を除く。）を対象に、乳がん・子宮がん検診を実施した。

| 対象者数   | 申込者数   | 受診者数   | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |      |      |
|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| A      | B      | C      | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 8,280人 | 4,162人 | 3,939人 | 50.3% | 47.6% | 94.6% | 81.4% | 11.9% | 5.6% | 1.1% |

### (5) 脳ドック（県・市町村・公立大学法人・共済組合・互助会）

令和6年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳ドックを実施した。

※申込者数及び受診者数は教職員人間ドックの内数で、検診結果は人間ドック項目を除いた項目の構成比率である。

| 対象者数   | 申込者数 | 受診者数 | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |       |      |
|--------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| A      | B    | C    | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検   | 治療中  |
| 6,222人 | 900人 | 884人 | 14.5% | 14.2% | 98.2% | 44.5% | 40.2% | 14.8% | 0.5% |

### (6) 脳検診（共済組合・互助会）

令和6年4月1日現在、満40・43・45・48・50・53・55・58歳、61歳以上の教職員を対象に、脳検診を実施した。

| 対象者数   | 申込者数   | 受診者数   | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |       |      |      |
|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|
| A      | B      | C      | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検  | 治療中  |
| 6,222人 | 1,642人 | 1,580人 | 26.4% | 25.4% | 96.2% | 73.7% | 21.3% | 4.9% | 0.1% |

(7) 肺がん検診（共済組合・互助会）

令和6年4月1日現在、満40歳以上の教職員を対象に、肺がん検診を実施した。

| 対象者数    | 申込者数   | 受診者数   | 申込率  | 受診率  |       | 検診結果  |       |       |      |
|---------|--------|--------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|
|         |        |        | B/A  | C/A  | C/B   | 異常なし  | 要注意   | 要精検   | 治療中  |
| A       | B      | C      |      |      |       |       |       |       |      |
| 14,127人 | 1,362人 | 1,335人 | 9.6% | 9.4% | 98.0% | 58.2% | 30.2% | 10.0% | 1.6% |

(8) 胃がん検診（共済組合・互助会）

令和6年4月1日現在、満30・33歳の教職員を対象に胃がん検診を実施した。

| 対象者数 | 申込者数 | 受診者数 | 申込率   | 受診率   |       | 検診結果  |      |      |     |
|------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|-----|
|      |      |      | B/A   | C/A   | C/B   | 異常なし  | 要注意  | 要精検  | 治療中 |
| A    | B    | C    |       |       |       |       |      |      |     |
| 834人 | 128人 | 110人 | 15.3% | 13.2% | 85.9% | 88.1% | 6.4% | 5.5% | 0%  |

3 厚生事業

(1) 厚生事業

ア 管理監督者メンタルヘルス研修会（県、共済組合）  
管理監督者に対し、メンタルヘルスケアに関する基礎知識や職場環境等の改善方法を習得させるため、研修会を実施した。

|      |                      |                      |
|------|----------------------|----------------------|
| 日 程  | R6. 7. 1～R6. 8. 31   | R6. 11. 1～R6. 12. 31 |
| 会 場  | オンデマンド               |                      |
| 講 師  | 東北中央病院 主任臨床心理士 古澤 あや |                      |
| 視聴回数 | 790 回                | 707 回                |

イ メンタルヘルスセミナー（若年層対象）（県、共済組合）  
若年層の組合員に対して、心の健康を保持増進するため、メンタルヘルスに関する基礎知識を習得するための講座をオンデマンド形式で実施した。

|      |                      |  |
|------|----------------------|--|
| 日 程  | R6. 6. 1～R6. 8. 31   |  |
| 会 場  | オンデマンド               |  |
| 講 師  | 東北中央病院 主任臨床心理士 古澤 あや |  |
| 視聴回数 | 779 回                |  |

ウ メンタルヘルスセミナー（共済組合）  
組合員の心の健康を保持増進するため、メンタルヘルスに関する基礎知識を習得するための講座を実施した。

|          |               |                     |
|----------|---------------|---------------------|
| 日 程      | R6. 8. 6      | R6. 7. 22～R6. 8. 31 |
| 会 場      | 飯坂保養所あづま荘     | オンデマンド              |
| 講 師      | あさかストレスケアセンター | ウエルリンク（株）           |
| 受講者・視聴回数 | 計 15 名        | 視聴回数 347 回          |

エ 在宅介護講座（共済組合）  
組合員を対象に、在宅介護に必要な知識や技術を身につけるための実技中心の介護講座を実施した。

|      |                                    |  |
|------|------------------------------------|--|
| 日 程  | R6. 7. 23、R6. 7. 30、R6. 8. 1（計3回）  |  |
| 会 場  | 第1、2回：福島県男女共生センター<br>第3回：飯坂保養所あづま荘 |  |
| 講 師  | （一社）福島県介護福祉士会<br>特定非営利活動法人豊心会      |  |
| 受講者数 | 計 75 人                             |  |

オ リラックスセミナー（共済組合）  
組合員の心身の健康づくりを支援するため、アロマセラピ

ーに関する講演やアロマ実習を行うセミナーを実施した。

|      |           |             |           |           |
|------|-----------|-------------|-----------|-----------|
| 日 程  | R6. 7. 25 | R6. 7. 26   | R6. 7. 29 | R6. 8. 7  |
| 会 場  | 飯坂保養所あづま荘 | ビックパレットふくしま |           | 飯坂保養所あづま荘 |
| 講 師  | 一十八日      |             | エフハート     |           |
| 受講者数 | 計 45 名    | 計 41 名      | 計 45 名    | 計 44 名    |

カ 体質改善セミナー（共済組合）  
組合員を対象に、生活習慣病の知識と予防法等に関するセミナーを実施した。

|      |                     |  |
|------|---------------------|--|
| 日 程  | R6. 7. 22～R6. 8. 31 |  |
| 会 場  | オンデマンド              |  |
| 委託先  | RIZAP（株）            |  |
| 視聴回数 | 243 回               |  |

キ ライフブラン講座（共済組合、互助会）  
組合員が、生涯にわたり健やかで充実した生活を送れるよう、退職後を視野に入れた生涯生活設計づくりとその実現を支援する講座をオンデマンド形式で実施した。

|      |                                           |  |
|------|-------------------------------------------|--|
| 日 程  | R6. 7. 22～R6. 8. 31                       |  |
| 会 場  | オンデマンド                                    |  |
| 講 師  | （一財）教職員生涯福祉財団                             |  |
| 視聴回数 | 経済生活設計型 103 回、生活設計型 140 回、<br>退職準備型 492 回 |  |

ク 保育補助（共済組合）  
令和6年度内に出産し又は出産を予定する女性組合員及び被扶養配偶者を有する組合員に対し、保育の支援及び福祉の向上に資するため、乳幼児の保育に必要な用品を出生児1人につき1セット交付した。

| 区分   | 内容                                      | 交付件数  |
|------|-----------------------------------------|-------|
| Aセット | 電子レンジで除菌セット<br>ベビー用つめきりはさみ<br>ベビー用耳式体温計 | 38 件  |
| Bセット | ベビー食器セット（14点セット）<br>ベビーマグセット            | 48 件  |
| Cセット | 出産お祝いカタログギフト                            | 317 件 |
| 計    |                                         | 403 件 |

ケ 教職員健康相談事業（共済組合）  
（こころとからだの健康相談）  
健康上の不具合や心身の悩みについて相談を受けられるよう、16 医療機関に相談業務を委託し実施した。

延べ利用件数 11 件

コ 教職員相談事業（県）  
専任の相談員を配置し、教職員の各種相談に応じた。

延べ相談件数 321 件

サ メンタルヘルスサポート事業（共済組合）  
日常のストレスや生活習慣をインターネットでセルフチェックできる機会を提供した。

アクセス数 17,573 件

シ ふくしま教職員こころのケア事業（共済組合）  
東日本大震災を受けて、日常のストレスやこころの悩みを専門のカウンセラーに相談できる機会を提供するため、9 カウンセリング機関に業務を委託し実施した。

カウンセリング延べ利用件数 690 件

講師派遣利用件数 3 件

グループカウンセリングコース・

ピアカウンセリングコース利用件数 1 件

ス 保養所等利用助成（共済組合）  
組合員が福島支部指定の共済組合宿泊施設を利用した場合、利用料金の一部を助成した。

○ あづま荘利用助成

| 区分            | 助成対象                                             | 助成内容                                                 | 助成件数       |
|---------------|--------------------------------------------------|------------------------------------------------------|------------|
| 宿 泊<br>利用助成   | 組合員・被扶養者<br>・配偶者・子・父<br>母・祖父母が宿泊<br>したとき         | 1 人 1 泊 1 食まで<br>2,000 円<br>1 人 1 泊 2 食<br>3,000 円 等 | 4,899<br>件 |
| 会 議 室<br>利用助成 | 組合員が開催する諸<br>会議                                  | 会議室料金の<br>2 分の 1 の額                                  | 29 件       |
| 会 食<br>利用助成   | 組合員が 5 名以上<br>で、かつ 1 人 5,000<br>円以上の会食を行っ<br>たとき | 1 人<br>1,000 円                                       | 117 件      |
| 法 要<br>利用助成   | 組合員及び直系親族<br>が法要を行うとき                            | 利用額の 30%<br>（上限 70,000 円）                            | 0 件        |

○ 他支部保養所等利用助成

県内 1、県外 7 の指定宿泊施設利用に対し、1 人 1 泊  
1,500 円、計 693 件の助成を行った。

セ 指定旅館等利用助成（互助会）  
会員の保養及び健康の保持増進を図るため、県内（22  
施設）、県外（7 施設）の宿泊施設等を指定し、会員が利  
用したとき、利用料金の一部を助成した。

| 区 分        | 助成件数    | 金 額       |
|------------|---------|-----------|
| 宿泊利用助成     | 5,760 件 | 15,389 千円 |
| 会食利用助成     | 117 件   | 117 千円    |
| アクアマリン利用助成 | 459 件   | 399 千円    |
| 計          | 6,336 件 | 15,905 千円 |

ソ 弔慰供花（共済組合）  
在職中に亡くなった組合員の霊前に供花を行い、哀悼  
の意を表した。

供花件数 12 件

タ 法律相談（共済組合）  
組合員が抱える民事問題を早期解決に導くため法律相  
談を実施した。

相談件数 6 件

チ 災害対策事業（共済組合）  
災害救助法が適用された地域内で被災（地域外で同一  
の事由での被災を含む。）し、短期給付の災害見舞金の  
給付該当会員に見舞金を支給した。

給付件数 4 件

ツ リフレッシュ給付（互助会）  
勤続 10 年及び 20 年の節目に心身のリフレッシュを図  
るための給付を行った。

実施件数 588 件

テ 永年勤続リフレッシュ給付（互助会）  
永年勤続表彰会員及び 20 年以上 30 年未満勤続し退職  
した会員等に対し、給付を行った。

永年勤続表彰会員 520 名

20 年以上 30 年未満勤続し退職した会員 7 名

勤続 30 年以上で表彰を受けずに退職した会員 3 名

ト 国内外旅行助成（互助会）  
福島空港を利用して旅行した会員に対し、旅行代金の  
一部を助成した。

| 区 分  | 助成件数  | 金 額      |
|------|-------|----------|
| 国内旅行 | 193 件 | 965 千円   |
| 海外旅行 | 26 件  | 260 千円   |
| 計    | 219 件 | 1,225 千円 |

ナ 会員交流促進事業（互助会）  
福島市において実施。参加者 11 名。

## (2) 公益事業

ア ヘキ地等教育事業助成（互助会）  
県人事委員会指定の特地以上のヘキ地学校及び特別支  
援学校に在学する児童生徒の健全育成を図るため、これ  
らの学校に図書を贈呈した。

対 象 校 74 校

児童生徒数 4,666 人

イ 互助会文庫（互助会）  
県民の教育文化の向上に寄与するため、県立図書館に  
図書を寄贈し、広く県民の利用に供した。

一般・児童生徒用 1,148 冊（累計 70,153 冊）

## 第3節 貸付事業

### 1 共済組合

令和6年度における共済組合貸付事業は、住宅貸付けをはじめ、一般、特別、教育、医療、結婚、住宅災害、葬祭の8種類の新規貸付けを行った。

### 2 貸付けの状況

種類別貸付けの状況は次のとおりである。

(単位：件、千円)

| 種 類 別     | 件 数 | 金 額     | 金額割合% |
|-----------|-----|---------|-------|
| 一 般 貸 付 け | 123 | 157,114 | 48.6  |
| 特 別 貸 付 け | 2   | 1,100   | 0.3   |
| 住 宅 貸 付 け | 13  | 51,310  | 15.9  |
| 教 育 貸 付 け | 69  | 88,346  | 27.3  |
| 医 療 貸 付 け | 1   | 1,200   | 0.4   |
| 結 婚 貸 付 け | 5   | 8,500   | 2.6   |
| 住宅災害貸付け   | 1   | 12,000  | 3.7   |
| 葬 祭 貸 付 け | 2   | 3,700   | 1.2   |
| 計         | 216 | 323,270 | 100.0 |

## 第4節 宿泊・保養施設

公立学校共済組合では、組合員の福利厚生施設として、飯坂保養所「あづま荘」を運営しているが、令和6年度の利用状況は、次のとおりである。

| 種別 \ 施設 |       | あづま荘     |
|---------|-------|----------|
| 利用人員    | 宿 泊   | 10,386 人 |
|         | 会 議   | 1,015 人  |
|         | 宴 会   | 396 人    |
|         | 婚 礼   | 0 人      |
|         | 休 憩   | 0 人      |
|         | 計     | 11,797 人 |
| 利用率     | 宿 泊   | 31.3 %   |
|         | 宿 泊 外 | 1.1 %    |

※利用率

$$\text{・ 宿泊} = \frac{\text{利用人数 (宿泊)}}{\text{宿泊延定員 (宿泊定員} \times \text{営業日数)}} \times 100$$

$$\text{・ 宿泊外} = \frac{\text{利用人数 (会議・宴会・婚礼)}}{\text{宿泊外延定員 (宿泊外定員} \times \text{営業日数)}} \times 100$$

## 第5節 児童手当（特例給付を含む）

次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目的とする「児童手当法」に基づき、年5回（児童手当制度拡充に伴い、令和6年10月分の児童手当から支払回数が年3回から隔月（偶数月）の年6回に変更）、定期支給を行った。

(単位：人、千円)

|          | 支給対象<br>者 数<br>(R7.4月期) | 支給対象<br>児 童 数<br>(R7.4月期) | 支 給 額<br>(年間) |
|----------|-------------------------|---------------------------|---------------|
| 本庁・教育機関等 | 167                     | 289                       | 40,280        |
| 小学校      | 1,180                   | 1,988                     | 290,715       |
| 中学校      | 854                     | 1,442                     | 212,460       |
| 高等学校     | 972                     | 1,652                     | 236,300       |
| 特別支援学校   | 393                     | 680                       | 103,395       |
| 計        | 3,566                   | 6,051                     | 883,150       |

(注) R7.4月期は、令和7年2月及び3月分の支給実績

## 第6節 財産形成貯蓄制度

教職員の計画的な財産形成を促進するために財産形成貯蓄を導入し、昭和62年3月から控除預入を開始したが、令和6年度における契約状況は次のとおりである。

財産形成貯蓄契約状況（契約者数 6,509 人）

◎貯蓄種類別契約件数（令和7年3月31日現在）

|      | 期日指定<br>定期預金 | 金銭<br>信託 | 公 社 債<br>投資信託 | 積立<br>保険 | 計     |
|------|--------------|----------|---------------|----------|-------|
| 一般貯蓄 | 5,197        | 29       | 61            | 308      | 5,595 |
| 年金貯蓄 | 1,579        | 38       | 49            | 322      | 1,988 |
| 住宅貯蓄 | 205          | 5        | 4             | 25       | 239   |
| 計    | 6,981        | 72       | 114           | 655      | 7,822 |

## 【福利給付事業】

## 第7節 概要

教職員の福利給付事業については、県教育委員会、公立学校共済組合、一般財団法人福島県教職員互助会において、組合員（会員）に対する各種の給付事業を実施した。

一方、長期給付事業については、教職員等への退職手当、厚生（共済）年金及び恩給の支給を行った。

なお、令和6年度の年金額は令和5年度から2.7%プラスで改定された。

第 8 節 短期給付

1 共済組合

令和 6 年度末現在における組合員数は、現職組合員 21,457 人（前年同期比 124 人減）、任意継続組合員 465 人（同 34 人減）、継続長期組合員 4 人（同 1 人減）の計 21,926 人（同 159 人減）である。

また、被扶養者数は、14,036 人（同 687 人減）、組合員 1 人当たりの被扶養者数は、0.64 人となっている。

令和 6 年度の共済組合短期給付の給付総額は、6,436,581 千円で、前年度対比 75,652 千円の増加となった。

総額に占める割合は、法定給付 97.55%、附加給付 2.45%となっており、給付の内訳は次のとおりである。

| 法 定 給 付    |          |          |             | 附 加 給 付       |             |          |             |
|------------|----------|----------|-------------|---------------|-------------|----------|-------------|
| 種 別        |          | 件数（件）    | 給付額（千円）     | 種 別           |             | 件数（件）    | 給付額（千円）     |
| 医療給付       | 本人医療費    | 222, 451 | 2, 437, 811 | 医療給付          | 家族療養費       | 931      | 26, 909     |
|            | 家族医療費    | 135, 495 | 1, 399, 078 | その他の<br>給付    | 家族訪問看護療養費   | 17       | 101         |
|            | 高額療養費    | 3, 790   | 417, 799    |               | 出産費         | 346      | 17, 300     |
|            | 薬剤       | 176, 346 | 1, 191, 340 |               | 家族出産費       | 56       | 2, 800      |
|            | 移送費      | 0        | 0           |               | 埋葬料         | 13       | 325         |
|            | 小計       | 538, 082 | 5, 446, 028 |               | 家族埋葬料       | 14       | 350         |
| その他の<br>給付 | 出産費      | 352      | 174, 463    |               | 直営保健給付家族療養費 | 0        | 0           |
|            | 家族出産費    | 63       | 31, 510     |               | 傷病手当金       | 46       | 9, 059      |
|            | 埋葬料      | 15       | 710         |               | 災害見舞金       | 0        | 0           |
|            | 家族埋葬料    | 14       | 700         |               | 結婚手当金       | 0        | 0           |
|            | 傷病手当金    | 481      | 93, 686     |               | 入院附加金       | 0        | 0           |
|            | 出産手当金    | 3        | 399         |               |             |          |             |
|            | 休業手当金    | 0        | 0           |               |             |          |             |
|            | 育児休業手当金  | 3, 134   | 521, 833    |               |             |          |             |
|            | 介護休業手当金  | 38       | 6, 615      |               |             |          |             |
|            | 弔慰金      | 0        | 0           |               |             |          |             |
|            | 家族弔慰金    | 0        | 0           |               |             |          |             |
|            | 災害見舞金    | 5        | 2, 620      |               |             |          |             |
|            | 小計       | 4, 105   | 832, 536    |               |             |          |             |
|            | ① 法定給付 計 |          | 542, 187    | 6, 278, 564   | ② 附加給付 計    |          | 1, 423      |
|            |          |          |             | ③ 一部負担金払戻金    |             | 3, 600   | 101, 173    |
|            |          |          |             | 短期給付合計（①＋②＋③） |             | 547, 210 | 6, 436, 581 |

2 互助会

令和 6 年度末現在の互助会の会員数は、18,033 人（前年同期比 123 人減）となっている。

互助会給付規程に基づいた短期給付金及び厚生給付金事業の内訳については、次のとおりである。

(1) 短期給付金

| 種 別   |        | 件数（件）  | 給付額（千円） |
|-------|--------|--------|---------|
| 医療補助金 | （被扶養者） | 11,132 | 43,760  |
|       | （会員）   | 12     | 600     |
| 死亡弔慰金 | （被扶養者） | 15     | 650     |
|       |        |        |         |
| 災害見舞金 |        | 3      | 180     |
| 出産見舞金 | （会員）   | 250    | 12,500  |
|       | （被扶養者） | 49     | 1,470   |
| 計     |        | 11,461 | 59,160  |

(2) 厚生給付金

| 種 別       | 件数（件）  | 給付額（千円） |
|-----------|--------|---------|
| 医 療 給 付 金 | 52,402 | 196,762 |
| 死 亡 給 付 金 | 556    | 19,200  |
| 出 産 給 付 金 | 135    | 4,110   |
| 結 婚 祝 金   | 280    | 14,000  |
| 入 学 祝 金   | 438    | 13,140  |
| 入院療養見舞金   | 1,367  | 14,526  |
| 障 害 見 舞 金 | 101    | 5,050   |
| 育児休業給付金   | 2,467  | 35,855  |
| 介護休暇給付金   | 17     | 3,262   |
| 計         | 57,763 | 305,905 |

## 第9節 長期給付

令和6年度の教職員等に対する退職給付の執行状況は、次のとおりである。

### 1 恩給

#### (1) 恩給の受給者数及び支給の状況

ア 支給人員及び支給額

普通恩給等の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

令和6年度末現在の受給者数は17人(前年度比5人減)、令和6年度における支給総額は24,971千円(同6,760千円減)となっており、受給者の高齢化に伴い、いずれも減少傾向にある。

| 学校種別    | 普通恩給      |             | 扶助料       |             | 退隠料       |             | 遺族扶助料     |             | 計         |             |
|---------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|-----------|-------------|
|         | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) | 人員<br>(人) | 支給額<br>(千円) |
| 小 学 校   | 0         | 0           | 11        | 14,702      | 0         | 0           | 0         | 0           | 11        | 14,702      |
| 中 学 校   | 0         | 0           | 4         | 8,730       | 1         | 1,423       | 0         | 0           | 5         | 10,153      |
| 特別支援学校  | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 1         | 116         | 1         | 116         |
| 高 等 学 校 | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           |
| 教育庁・その他 | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           | 0         | 0           |
| 計       | 0         | 0           | 15        | 23,432      | 1         | 1,423       | 1         | 116         | 17        | 24,971      |

イ 裁定及び失権

裁定を受けた者及び死亡等により受給権を失った者は、次のとおりである。(単位：人)

| 恩給種別    | 裁 定 | 失 権 | 左のうち<br>完全失権 |
|---------|-----|-----|--------------|
| 普 通 恩 給 | 0   | 0   | 0            |
| 扶 助 料   | 0   | 5   | 4            |
| 退 隠 料   | 0   | 0   | 0            |
| 遺族扶助料   | 0   | 0   | 0            |
| 計       | 0   | 5   | 4            |

### 2 退職手当

#### (1) 退職手当の支給人員及び支給額

退職手当の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

| 学校種別        | 人員 (人) | 支給額 (千円)   |
|-------------|--------|------------|
| 教育庁・その他     | 18     | 241,167    |
| 小 学 校       | 512    | 7,006,102  |
| 中 学 校       | 322    | 5,181,967  |
| 高 等 学 校     | 256    | 4,024,106  |
| 特 別 支 援 学 校 | 86     | 698,180    |
| 計           | 1,194  | 17,151,522 |

#### (2) 恩給の改定について

恩給は、国民年金改定率(国民年金法第27条で規定する改定率)を基準に毎年度改定し、当該年度の4月以降に適用される。

令和6年度の恩給年額は2.7%の引上げとなり、24年ぶりのペースアップとなった。

なお、被用者年金一元化法により、平成28年4月分以後の支払額について端数処理の方法が変更された。

#### (2) 失業者の退職手当

退職手当のうち「失業者の退職手当」の支給人員及び支給額は、次のとおりである。

| 学校種別        | 人員 (人) | 支給額 (千円) |
|-------------|--------|----------|
| 教育庁・その他     | 0      | 0        |
| 小 学 校       | 13     | 3,578    |
| 中 学 校       | 7      | 2,663    |
| 高 等 学 校     | 4      | 778      |
| 特 別 支 援 学 校 | 2      | 559      |
| 計           | 26     | 7,578    |

### 3 年金

#### (1) 進達件数

老齢厚生（退職共済）年金等の本部への進達件数は、次のとおりである。

（単位：件）

| 進達<br>区分 | 旧共済法による年金 |      | 新共済法・一元化法による年金       |                          |                          |                    |                    | 計   |
|----------|-----------|------|----------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------|--------------------|-----|
|          | 退職年金      | 障害年金 | 老齢厚生<br>（退職共済）<br>年金 | 老齢厚生<br>（退職共済）<br>年金（特別） | 老齢厚生<br>（退職共済）<br>年金（繰上） | 障害厚生<br>（共済）<br>年金 | 遺族厚生<br>（共済）<br>年金 |     |
| 決定請求     | 0         | 0    | 133                  | 250                      | 28                       | 19                 | 14                 | 444 |
| 改定請求     | 0         | 0    | 87                   | 65                       | 0                        | 0                  | 0                  | 152 |

#### (2) 支給人員及び支給額

老齢厚生（退職共済）年金等の令和6年度末現在における支給人員は35,358人で、令和6年度における支給額は、35,600,593千円である。前年度に比較して、人員で2,495人、支給額で826,965千円の増加となっている。

平成27年10月の被用者年金一元化以降は、新たに厚生年金、職域加算額の年金及び年金払い退職給付の年金が決定されることになったが、一人の者に厚生年金と職域加算額の年金など複数の年金受給権が発生することになるため、年金種別ごとの受給者数が増加している。

| 年金種別                       |                  | 受給者数<br>(人) | 平均年金額<br>(円) | 支給額<br>(円)     |
|----------------------------|------------------|-------------|--------------|----------------|
| 厚生<br>年金                   | 老齢厚生年金           | 6,118       | 1,302,583    | 7,969,202,794  |
|                            | 老齢厚生年金(特別)       | 850         | 1,213,880    | 1,031,798,000  |
|                            | 障害厚生年金           | 109         | 1,077,541    | 117,451,969    |
|                            | 遺族厚生年金           | 883         | 1,272,120    | 1,123,281,960  |
|                            | 小 計              | 7,960       | —            | 10,241,734,723 |
| 年金<br>払給付                  | 終身退職年金           | 2,835       | 7,554        | 21,415,590     |
|                            | 有期退職年金           | 2,539       | 13,278       | 33,712,842     |
|                            | 公務障害年金           | 0           | 0            | 0              |
|                            | 公務遺族年金           | 0           | 0            | 0              |
|                            | 小 計              | 5,374       | —            | 55,128,432     |
| 新共<br>済年<br>金・<br>職域<br>加算 | 退職共済年金(既裁定)      | 7,619       | 1,786,433    | 13,610,833,027 |
|                            | 退職共済年金(職域加算額)    | 6,002       | 234,615      | 1,408,159,230  |
|                            | 退職共済年金(特別・職域加算額) | 817         | 203,979      | 166,650,843    |
|                            | 退職共済年金(追加費用)     | 0           | 0            | 0              |
|                            | 障害共済年金(既裁定)      | 252         | 1,147,792    | 289,243,584    |
|                            | 障害共済年金(職域加算額)    | 59          | 181,680      | 10,719,120     |
|                            | 遺族共済年金(既裁定)      | 2,646       | 1,716,551    | 4,541,993,946  |
|                            | 遺族共済年金(職域加算額)    | 2,183       | 158,643      | 346,317,669    |
|                            | 遺族共済年金(追加費用)     | 1,312       | 1,738,232    | 2,280,560,384  |
|                            | 小 計              | 20,890      | —            | 22,654,477,803 |
| 旧共<br>済年<br>金              | 退職年金             | 786         | 2,695,194    | 2,118,422,484  |
|                            | 減額退職年金           | 89          | 2,108,495    | 187,656,055    |
|                            | 通算退職年金           | 4           | 695,540      | 2,638,160      |
|                            | 障害年金             | 27          | 2,104,656    | 56,825,712     |
|                            | 遺族年金             | 228         | 1,244,341    | 283,709,748    |
|                            | 通算遺族年金           | 0           | 0            | 0              |
|                            | 小 計              | 1,134       | —            | 2,649,252,159  |
| 合 計                        |                  | 35,358      | —            | 35,600,593,117 |

- ※ 支給額は平均年金額に受給者数を乗じた額である。
- ※ 受給者数について、1人の者に厚生年金及び職域加算額が裁定された場合はそれぞれ1件の年金受給権が発生するものとして合計している。
- ※ 既裁定とは一元化前に裁定された共済年金であり、職域加算とは一元化後に裁定された厚生年金等の旧職域部分の年金である。
- ※ 追加費用とは一元化後に受給権が発生した共済年金であり、厚生年金保険法が適用される。

### (3) 年金額の改定

年金額の改定は、名目手取り賃金変動率がマイナスで、名目手取り賃金変動率が物価変動率を下回る場合、年金を受給し始める際の年金額(新規裁定年金)、受給中の年金額(既裁定年金)ともに名目手取り賃金変動率を用いることが法律により定められている。

令和6年度年金額については、新規裁定年金・既裁定年金ともに、名目手取り賃金変動率(3.1%)を用いて改定された。

この率を令和6年度のマクロ経済スライドによる調整率(▲0.4%)により調整した結果、令和6年度の年金額改定率は2.7%となった。

## 第12章 福島県教育センター

### 第1節 概要

教育センターは、本県の教育に関する研究と研修を担う機関である。具体的には教育に関する専門的・技術的事項の調査研究、基本研修、職能研修、専門研修からなる教育関係職員の研修、情報教育、教育相談、教育に関する図書及び資料の作成・収集及び活用等、本県教育の向上・発展に寄与するための事業を実施してきた。

また、カリキュラムセンター業務として、学校や教職員及び市町村教育委員会をはじめとする教育機関等を対象に、学校経営を含む教育活動全般について、研究成果・資料・情報を提供するとともに、要請に応じて指導主事の派遣等の支援を行ってきた。

なお、事業概要は、次のとおりである。

#### 1 調査・研究事業

教育センターの使命と役割を自覚し、県教育委員会のシンクタンクとして期待に応えるとともに、本県の教育を推進する上での課題や学校教育の在り方に対応するために、本県学校教育の課題解決に役立つ先導的、実証的な調査・研究を進めてきた。

##### (1) 調査

本県の教育に関する実態や課題を的確に把握するため、客観的で広範囲な基礎データを継続的に収集し分析した。さらに、その調査結果を教育センターでの研究に生かし、各学校や教育機関等へ提供した。

##### (2) 研究

「学校での様々な実践に生かす」視点から、本県の教育課題を具体的に把握し、それらの課題に対処する基礎的・実証的な研究を行った。

研究の推進に当たっては、調査・研究のためのチームを組織し、教育センターの役割と学校現場のニーズに基づく研究とするために、研究協力校、研究協力者を全県的に募り、開かれた研究の実践に努めた。また、調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームがそれぞれ共同研究を行った。

これらの研究成果は、「教育センターWebサイト」、「研究紀要」、「所報ふくしま『窓』」等に掲載するとともに、令和6年11月21日（木）に実施した「福島県教育研究発表会」（集合形式とオンライン形式を組み合わせ実施）においても発表し、その成果を各学校や教育機関へ提供した。

#### 2 研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「令和6年度福島県公立学校教職員現職教育計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

基本研修、職能研修（職能研修Ⅰ、職能研修Ⅱ）、専門研修について、令和6年度の実績は次のとおりである。令和6年度から集計方法を変更したため、令和5年度と単純に比較することはできないが、基本研修対象者の増加により、受講者数が増加した。

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 講座数    | 87講座              |
| 講座実施数  | 137回              |
| 講座受講者数 | 8,354人（延べ人数）      |
| 講座開設期間 | 令和6年4月3日～令和7年2月6日 |
| 前年度比   |                   |
| 講座数    | 3増                |
| 講座実施数  | 15減               |
| 講座受講者数 | 3,025増            |

#### 3 情報教育事業

情報教育事業では、学習指導要領に対応した研修の充実を図り、「教科指導におけるICT活用」、「児童生徒の情報活用能力の育成」、「校務の情報化」を3つの柱とした「教育の情報化」の推進に向けて取り組んだ。

専門研修では、「校務処理に生かす表計算活用講座」や「授業力向上のためのICT活用実践講座」、「グループウェアで活用するクラウドサービス実践講座」、「適切で責任ある行動力の育成を目指した情報モラル教育講座」を行った。また、基本研修での講義等を通して、「情報モラル教育」及び「教科指導におけるICT活用」の研修の充実を図った。さらに、職能研修では「『学びの変革』に向けたICTの活用」の講義を行い、教育の情報化が円滑かつ確実に実施されるよう努めた。

#### 4 教育相談事業

教育相談事業では、児童生徒の教育上の諸課題について、児童生徒本人及び保護者から来所及び電話で相談を受け、課題の改善・解決を目指した。

来所相談では、不登校、いじめ、友人関係に関する主訴が多かった。また、電話相談では学校への不満、不登校に関する主訴が多かった。

これらの相談については、相談者の話をよく聞き、思いを受け止めるとともに、今後の対応と一緒に考えたり、身近な相談機関を紹介したりした。

また、来所相談では、精神保健指定医や心理判定員を活用し、効果的で具体的な支援を行った。

#### 5 教育図書・資料事業

県内教職員の教育活動に役立つ教育図書及び教育資料の収集・分類・整理に努めた。小・中・義務教育学校の学校要覧・教育課程については、データベース化して教育センターWebサイトに掲載し、検索を可能にした。また、文献資料利用相談への対応並びに貸出し等のサービスを行い、教職員の研修・研究活動を援助した。

教育センター広報誌「所報ふくしま『窓』」第187号、188号及び「研究紀要」第54集を発行した。

### 第2節 調査・研究事業

#### 1 調査・研究

令和6年度は、教育センターにおける実施要項に基づき、教育庁より承認を得た調査研究課題について調査研究チーム、情報教育チーム、教育相談チームで取り組んだ。

##### (1) 調査研究チームによる研究

「学び続ける力」を高める学習指導の在り方（第2年次）－研究協力校における実践的研究を通して－

すべての児童生徒に必要な資質・能力を育成するためには、「批判的思考力」の向上が重要である。批判的思考が高まることで、「探究的な学び」を支える「物事を多様な視点から俯瞰して捉える力」や「問い続ける力」、さらには「学び続ける力」へとつながると考えられる。

「学び続ける力」を育むためには、「個別最適化された学び」「協働的な学び」「探究的な学び」の中で、児童生徒が学びを主体的にコントロールする場面を意図的に増やすことが求められる。

そこで本研究では、児童生徒が学びの中に意味や価値を見いだすことにつながる学習指導の工夫・改善の在り方に焦点を当てて研究を行った。

#### (成果)

- 学習指導法の実践により児童の「学び続ける力」が有意に向上し、学力との正の相関を含む多面的な肯定的変化が見られた。
- 「学び続ける力」の高まりは児童生徒の「Well-being」と中程度の正の相関を示し、幸福感の向上に寄与する重要な要素であることが確認された。
- 「探究的な学び」を核に、「個別最適化された学び」と「協働的な学び」が相互に充実することで、児童生徒の主体的な学びの自走が促された。
- 学習指導の工夫で「学び続ける力」が高まり、多くの児童生徒が知識活用や協働、新たな問題発見の学びの意義を実感した。

#### (課題)

- 教員が「学びの変革」ガイドを効果的に活用できるよう、配布・Web掲載・研修での活用に加え、現場訪問や動画発信による具体的な活用法の周知が課題である。
- 教育データと実践知を往還させる重要性を再認識した。教員主体のデータ分析で指導改善を図り、資質・能力の育成につなげる活用法の模索が必要である。

### (2) 情報教育チームによる研究

教育の情報化の推進に向けた教員研修の在り方

本研究では、「学びの変革応援事業」として教員同士が主体的で探究的に取り組む教育の情報化の推進に向けた教員研修の在り方を探った。端末活用中核教員や端末活用推進教員を育成しペーパーレス職員会議や教員（校内）研修を計画・実施することで教員のICT活用指導力を向上させた。この結果クラウドの利便性を実感した教員が1人1台端末を日常的に活用するようになったことで児童生徒の情報活用能力の育成につながった。

#### (成果)

- 教員研修の成果として、「研修デザインの三角形」に基づいた校内研修を計画・実施したことで、研修後のリフレクションにおいて目標達成の瞬間を見取ることができた。中核教員や推進教員を中心に、リンクの共有、リアルタイムでのコメント、同時編集などのクラウド活用を体験する機会が設けられ、校務におけるICT活用スキルが学校全体に広がっていった。さらに、教員が日常的に端末を使うことにより、校務と授業のICT活用が相形形であることに気づき、授業での新たな活用アイデアも生まれた。教員の意識は校務DXから授業DXへと変化し、日常的に教室で端末を活用する姿が定着した。
- 上記の取組の結果として、児童生徒の情報活用能力の育成にも効果が見られた。思考の可視化や他者参照といった端末の活用場面が増え、児童生徒が主体的に学びを深める姿が現れた。これらの成果を通して、教育の情報化を推進するためには、仮説通り、校務でのICT活用が授業での活用につながり、最終的には児童生徒の情報活用能力の向上につながるという結論に達した。

#### (課題)

- 教員のICT活用が進み、「他者参照」が授業中に見られるようになった一方で、授業の中心は依然として教師主導であり、児童生徒が自ら学習方法を選択したり、学び方を調整したりする場面は限定的であった。これは、児童生徒の情報活用能力が端末の操作スキルに偏りがちな傾向にあるためである。今後は情報の収集・整理・分析・表現といった、本質的な活用能力を段階的に身に付けていくことが求められる。
- 今後は、児童生徒が粘り強く学び続ける力を育むため、情報活用能力のさらなる深化が求められる。そのため、「他者参照」の質を授業内で高めることが重要であり、教師が目的意識をもって指導するための手がかり

りとして「他者参照ルーブリック」の導入が提案された。また、中核教員が提案した「学びのスタイル」（「調べる」「まとめる」「発表する」「振り返る」）の各場面において、このルーブリックを全教職員で活用することで、情報活用能力を教科横断的に育成していくことが期待される。

### (3) 教育相談チームによる研究

チームで取り組む親和的な集団づくり（第一年次）

「学びの変革応援事業」として、親和的な集団づくりに関する支援を支援校に対して行った。支援においては、支援校の課題や希望を把握し、校内の担当者と教育相談チーム指導主事が打ち合わせを行いながら支援内容や方法の検討を行い、支援校の教員がチームとなって親和的な集団づくりの実践を行えるようにした。そして、支援校に対する支援の実際や成果や課題を踏まえて、教員がチームで取り組む親和的な集団づくりを支援するためのモデルプランを提案できた。

#### (成果)

- 支援校の課題や希望に応じて行ってきた支援は、教員がチームとなって親和的な集団づくりを目指す一助となった。特に、Q-U実施後の校内研修の設定や研修内容及び方法を支援校の担当者との打ち合わせを基に計画することで、支援校の実態に応じた支援の充実につながった。
- 中学校における支援を踏まえ、親和的な集団づくりを目指す学校を支援するためのモデルプランを作成することができた。

#### (課題)

- 支援校の課題や希望に応じてその都度、支援を行ったが、支援校が年間の見通しをもって活用するためには、所員による具体的な提案が必要であった。多忙な学校現場において、今後は所員がモデルプランを支援校に提示し、それらを支援校が年間計画に位置付けることで、より効率的・効果的な支援を実現できると考える。

## 2 長期研究員制度による研究

長期研究員は、年間を通じて各自が研究テーマを設定して計画、実践、評価、まとめを行うこととしている。令和6年度は、13名が研究に取り組み、福島県教育研究発表会では7名が成果を発表した。また、研究結果を『研究紀要』にまとめるとともにWebサイトに掲載した。

## 第3節 研修事業

### 1 研修講座の概要

#### (1) 基本研修

ア 初任者研修、新規採用者研修

新任の教員に対し実践的指導力と使命感を養うとともに、幅広い知見を習得する研修である。

(イ) 幼稚園等教諭

a 園内における研修（10日）

b 園外における研修（10日）

集合研修（3日）、地区別研修（3日）（各地区）、参観研修（3日）、選択研修（1日）

(ロ) 小・中学校教諭

a 校内における研修（100時間以上）

b 校外における研修（22日）

(a) 教育センター等における研修（6日）

一次研修（3日）、二次研修（3日）

(b) 地区別研修（16日）

- ・地区別研修A（7日）（各地区）  
一般研修、授業研修、へき地校研修、カウンセ  
リング研修、特別支援学校研修
- ・地区別研修B（9日）  
（市町村教育委員会、各学校による計画）  
研究発表集会等研修、一般研修、社会奉仕体  
験活動研修、他校種園参観研修
- (ウ) 高等学校教諭
  - a 校内における研修（150 時間以上）
  - b 校外における研修（22 日）
    - (a) 教育センター研修（8 日）  
基本研修（2 日）、一次研修（3 日）、二次研  
修（3 日）
    - (b) 教科別研修（3 日）  
（教科ごとに初任者配置校を会場として実施）
    - (c) 地区別研修（11 日）
      - ・地区別研修A（7日）（各地区）  
一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリ  
ング研修、特別活動等研修、安全教育研修
      - ・地区別研修B（4日）（各学校による計画）  
特別支援学校研修、他校種及び他校での授業  
参観等研修
- (エ) 公立学校実習助手  
（高校教育課所管 高等学校初任者研修と合同開  
催）
  - a 校内における研修（2 日程度）
  - b 校外における研修（9 日）
    - (a) 基本研修（2 日）
    - (b) 地区別研修（7 日）（各地区）  
一般研修、社会奉仕等体験研修、カウンセリ  
ング研修、特別活動等研修、安全教育研修
- (オ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）
  - a 校内における研修（15 日）
  - b 校外における研修（14 日）
    - (a) 教育センター等における研修（6 日）  
一次研修（3 日）、専門領域研修（2 日）、二  
次研修（1 日）
- ＜小・中学校＞
  - (b) 地区別研修（8 日）
    - ・地区別研修A（6日）（各地区）  
一般研修、カウンセリング研修、特別支援学  
校研修、学校訪問研修
    - ・地区別研修B（2日）  
（市町村教育委員会、各学校による計画）  
一般研修、企業等体験研修
- ＜高等学校＞
  - (b) 地区別研修（8 日）
    - ・地区別研修A（6日）（各地区）  
一般研修、カウンセリング研修、社会奉仕等  
体験研修、企業等体験研修
    - ・地区別研修B（2日）（各学校による計画）  
特別支援学校研修、学校訪問研修
- ＜特別支援学校＞
  - (b) 特別支援教育センター等における研修（8 日）
    - ・特別支援教育センター研修（5 日）  
（特別支援教育センターによる計画）  
基本研修、カウンセリング研修、特別支援学  
校教育課程研修
    - ・地区別研修（3 日）  
（特別支援教育センター、各学校による計  
画）  
企業等体験研修、学校訪問研修
- (カ) 学校栄養職員
  - a 学校等内における研修（15 日）
  - b 学校等外における研修（13 日）
    - (a) 教育センター等における研修（6 日）
      - ・一次研修（共通研修）（3 日）
      - ・専門領域研修（専門研修）（3 日）
    - (b) 地区別研修（7 日）
      - ・地区別研修A（4 日）（各地区）  
一般研修、特別支援学校研修、単独校実地研  
修、共同調理場実地研修
      - ・地区別研修B（3 日）  
（市町村教育委員会による計画）  
一般研修、他校園参観研修、企業等体験研修
- イ 2 年次教員フォローアップ研修  
初任者研修を修了した教諭に対して、初年度に培った  
基礎的な力を、日々の教育実践に生きる確かな資質・能  
力へと高める研修である。
- (7) 小学校・中学校教諭
  - a 校内研修（30 時間以上）
  - b 校外研修（3 日）
- (イ) 高等学校教諭
  - a 校内研修（30 時間以上）
  - b 校外研修（3 日）
- (ウ) 公立学校実習助手  
（高校教育課所管 高等学校 2 年次教員フォローア  
ップ研修と合同開催）
  - a 校外研修（2 日）
- ウ 5 年経験者研修  
在職期間が 5 年に達した教職員を対象とし、教科指導  
や生徒指導等の力量の向上を図るとともに、社会  
の変化に応じた教育課題等について実践的に学ぶ研修で  
ある。
- (7) 小・中学校教諭
  - a 校内研修（5 日）
  - b 校外研修（3 日）  
教育センター等において実施する研修（3 日）
- (イ) 高等学校教諭
  - a 校内研修（5 日）
  - b 校外研修（3 日）  
教育センター等において実施する研修（3 日）
- (ウ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）
  - a 校内研修（3 日）
  - b 校外研修（3 日）  
教育センター等において実施する研修（3 日）
- (エ) 学校栄養職員（隔年実施、令和 6 年度は実施せず）
  - a 校内研修（2 日）
  - b 校外研修（2 日）  
教育センター等において実施する研修（2 日）
- エ 中堅教諭等資質向上研修  
在職期間が 10 年に達した教職員を対象とし、10 年の  
経験を基盤に、教科指導や生徒指導等、職責遂行上必要  
な専門的知識・技能等の資質・能力の向上を図るととも  
に、教科経営、学級・学年経営、校務分掌のリーダーと  
しての力量の向上を図る研修である。
- (7) 幼稚園等教諭
  - a 園内研修（7 日）
  - b 園外研修（5 日）  
マネジメント研修（2 日）、共通研修（1 日）  
（各地区）、社会体験研修（1 日）、選択研修  
（1 日）
- (イ) 小・中学校教諭
  - a 校内における研修（15 日）

- b 校外における研修（10日）  
 共通研修（各地区）（1日）、マネジメント研修（3日）、生徒指導研修（各地区）（1日）、社会体験研修Ⅰ（2日）、選択研修（3日）
- (ウ) 高等学校教諭
  - a 校内における研修（15日）
  - b 校外における研修（10日）  
 共通研修（1日）、生徒指導研修（1日）、教科指導研修Ⅰ（1日）、教科指導研修Ⅱ（1日）、社会体験研修Ⅰ（2日）、マネジメント研修（1日）、選択研修（3日）
- (エ) 養護教諭（小・中・高・特別支援）
  - a 校内研修（4日）
  - b 校外研修（6日）  
 共通研修（1日）、専門領域研修（3日）、社会体験研修Ⅰ（1日）、選択研修（1日）
- (オ) 学校栄養職員（隔年実施）
  - a 校内研修（4日）
  - b 校外研修（6日）  
 共通研修（1日）、専門領域研修（3日）、社会体験研修Ⅰ（1日）、選択研修（1日）
- オ 中核教諭研修  
 教員個々の専門的知識・能力の深化や伸長を図るとともに、学級・学年経営等、全校的視野での教育活動の中核的立場として、広い視野に立った教育実践について力量の向上を図る研修である。
- (イ) 市町村立学校教諭  
 教育センター（3日）
- (イ) 県立学校教諭  
 教育センター（3日）
- (ウ) 中核養護教諭研修（隔年実施、令和6年度実施）  
 教育センター等（3日）
- (エ) 中核学校栄養職員研修（隔年実施、令和6年度は実施せず）  
 教育センター等（3日）

## (2) 職能研修

新任の校長・副校長・教頭・主幹教諭・教務主任に対する職能研修Ⅰ及び学校の教育活動が円滑に展開できるよう担当教員の職責・職能に応じた研修を実施する職能研修Ⅱがある。

### ア 職能研修Ⅰ

- (イ) 市町村立学校新任校長・副校長研修会  
 所属校、教育センター（2日）
- (イ) 県立学校新任校長・副校長研修会  
 教育センター（2日）
- (ウ) 市町村立学校新任教頭研修会  
 所属校、教育センター（2日）
- (エ) 県立学校新任教頭研修会  
 教育センター（2日）
- (オ) 新任主幹教諭研修会  
 教育センター（1日）
- (カ) 新任教務主任研修会（小・中・高・特別支援）  
 各地区（1日）（関係教育事務所または各中核市教育委員会による計画）

### イ 職能研修Ⅱ

- (イ) 複式指導（国語・算数）担当教員研修会  
 教育センター（1日）
- (イ) 免許外教科担任教員研修会  
 所属校、教育センター（2日）
- (ウ) 校長のためのマネジメント講座  
 所属校、教育センター（2日）

- (エ) 教頭のためのマネジメント講座  
 所属校、教育センター（2日）
- (オ) 小・中学校におけるキャリア教育実践講座  
 教育センター（1日）

## (3) 専門研修

個に即応した指導力の向上を図るために、教科教育系、教育相談系、情報教育系、教科外教育系の4つの系統において各研修講座を設けている。

## 2 研修講座

### (1) 令和6年度研修講座数・受講者数

#### ア 基本研修

|        | 基本研修  |     |     |     |     | 計     |
|--------|-------|-----|-----|-----|-----|-------|
|        | 初任研   | 2年次 | 5年研 | 中堅研 | 中核研 |       |
| 講座数    | 6     | 3   | 4   | 6   | 3   | 22    |
| （延べ数）  | 40    | 5   | 7   | 15  | 3   | 70    |
| 延べ受講者数 | 4,133 | 280 | 765 | 913 | 315 | 6,406 |

#### イ 職能研修

|        | 職能研修  |       | 計   |
|--------|-------|-------|-----|
|        | 職能研修Ⅰ | 職能研修Ⅱ |     |
| 講座数    | 5     | 5     | 10  |
| （延べ数）  | 7     | 5     | 12  |
| 延べ受講者数 | 334   | 458   | 792 |

#### ウ 専門研修

|        | 専門研修  | 計     |
|--------|-------|-------|
| 講座数    | 55    | 55    |
| （延べ数）  | 55    | 55    |
| 延べ受講者数 | 1,156 | 1,156 |

#### エ 総計

|        | 基本研修  | 職能研修 | 専門研修  | 計     |
|--------|-------|------|-------|-------|
| 講座数    | 22    | 10   | 55    | 87    |
| （延べ数）  | 70    | 12   | 55    | 137   |
| 延べ受講者数 | 6,406 | 792  | 1,156 | 8,354 |

## (2) 令和6年度研修講座実施状況

### ア 基本研修

| 講 座 名              |        | 会 場             | 期 日              | 受講者数  |
|--------------------|--------|-----------------|------------------|-------|
| 初任者研修              | 幼稚園等   | 所属園、教育センター      | 7月3日、8月19日～20日   | 46    |
|                    | 小 学 校  | 所属校、国立磐梯青少年交流の家 | 5月14日～15日、28日    | 378   |
|                    |        |                 | 5月14日～15日、29日    |       |
|                    |        | 所属校、教育センター      | 7月5日、7月30日、9月12日 |       |
|                    |        |                 | 7月5日、7月31日、9月17日 |       |
|                    |        |                 | 7月5日、8月1日、9月24日  |       |
|                    | 中 学 校  | 所属校、国立磐梯青少年交流の家 | 5月14日～15日、28日    | 233   |
|                    |        |                 | 5月14日～15日、29日    |       |
|                    |        | 所属校、教育センター      | 7月24日～25日、9月4日   |       |
|                    | 高等学校   | 所属校、教育センター      | 4月3日、10日         | 99    |
|                    |        | 所属校、教育センター      | 4月24日～25日、5月1日   |       |
|                    |        | 所属校、教育センター      | 1月29日、2月5日～6日    |       |
|                    | 養護教諭   | 所属校、国立磐梯青少年交流の家 | 5月14日～15日、29日    | 52    |
|                    |        | 所属校、教育センター      | 9月18日～19日        |       |
|                    |        | 教育センター          | 2月6日             |       |
| 2年次教員<br>フォローアップ研修 | 栄養職員   | 所属校、国立磐梯青少年交流の家 | 5月14日～15日、29日    | 7     |
|                    |        | 所属校、教育センター      | 8月27日～29日        |       |
|                    | 地区別研修  |                 | 各地区で開催           | 1,764 |
|                    |        |                 | 各地区で定めた日程        |       |
| 5年経験者研修            | 小 学 校  | 教育センター          | 6月12日、28日        | 122   |
|                    | 中 学 校  | 教育センター          | 6月27日            | 71    |
|                    | 高等学校   | 教育センター          | 7月1日             | 38    |
|                    | 地区別研修  |                 | 各地区で開催           | 49    |
| 中堅教諭等<br>資質向上研修    | 小 学 校  | 所属校、教育センター      | 6月4日、7日、8月20日    | 128   |
|                    |        | 所属校、教育センター      | 6月4日、10日、8月21日   |       |
|                    | 中 学 校  | 所属校、教育センター      | 9月6日、10月2日、21日   | 64    |
|                    |        | 所属校、教育センター      | 9月13日、10月18日、21日 |       |
|                    | 高等学校   | 所属校、教育センター      | 9月6日、10月2日、21日   | 43    |
|                    |        | 所属校、教育センター      | 9月13日、10月18日、21日 |       |
|                    | 養護教諭   | 所属校、教育センター      | 11月6日～8日         | 23    |
| 中核教諭研修             | 学校栄養職員 | 所属校、教育センター      | 令和6年度は実施せず       | -     |
|                    | 幼稚園等   | 所属園、教育センター      | 6月20日～21日        | 25    |
|                    | 小 学 校  | 所属校、教育センター      | 6月18日～19日、10月3日  | 47    |
|                    | 中 学 校  | 所属校、教育センター      | 6月25日、9月26日～27日  | 31    |
|                    | 高等学校   | 所属校             | 4月16日            | 317   |
|                    |        | 教育センター          | 6月13日            |       |
|                    |        | 教育センター          | 7月4日             |       |
|                    |        | 教育センター          | 7月8日             |       |
|                    |        | 教育センター          | 2月3日             |       |
|                    | 養護教諭   | 所属校、教育センター      | 8月2日、5日～6日       | 13    |
|                    | 学校栄養職員 | 所属校、教育センター      | 7月25日～26日、29日    | 11    |
|                    | 地区別研修  |                 | 各地区で開催           | 244   |
|                    |        |                 | 各地区で定めた日程        |       |
|                    | 小・中・特支 | 教育センター          | 10月9日～11日        | 31    |
| 中核教諭研修             | 県立学校   | 教育センター          | 10月23日～25日       | 50    |
|                    | 養護教諭   | 所属校、教育センター      | 9月10日～12日        | 24    |
|                    | 学校栄養職員 | 所属校、教育センター      | 令和6年度は実施せず       | -     |
|                    |        |                 |                  |       |

イ 職能研修

| 講 座 名 |                     | 期 日                        | 受講者数 |
|-------|---------------------|----------------------------|------|
| 職能研修Ⅰ | 市町村立学校新任校長・副校長研修会   | 4月22日、25日                  | 39   |
|       |                     | 4月22日、5月13日                | 18   |
|       | 県立学校新任校長・副校長研修会     | 5月7日～8日                    | 10   |
|       | 市町村立学校新任教頭研修会       | 4月24日、26日                  | 43   |
|       |                     | 4月24日、5月20日                | 26   |
|       | 県立学校新任教頭研修会         | 5月9日～10日                   | 19   |
|       | 新任主幹教諭研修会           | 5月24日                      | 24   |
|       | 新任教務主任研修会           | 各教育事務所の日程                  | 82   |
| 職能研修Ⅱ | 複式指導（国語・算数）担当教員研修会  | 5月28日                      | 32   |
|       | 免許外教科担任教員研修会        | 5月14日～16日<br>5月21日～24日、27日 | 78   |
|       | 校長のためのマネジメント講座      | 6月13日～14日                  | 60   |
|       | 教頭のためのマネジメント講座      | 9月2日～3日                    | 60   |
|       | 小・中学校におけるキャリア教育実践講座 | 9月11日                      | 31   |

ウ 専門研修

| 講 座 名 |                                       | 期 日                    | 受講者数 |
|-------|---------------------------------------|------------------------|------|
| 教科教育系 | 「言葉による見方・考え方」を働かせ、深い学びを実現する小学校国語講座    | 9月2日                   | 21   |
|       | 「言葉による見方・考え方」を働かせ、深い学びを実現する中学校国語講座    | 8月5日                   | 16   |
|       | 授業改善に結び付く国語科の評価問題作成・研究講座              | 8月26日～27日              | 5    |
|       | 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた国語科の授業づくり講座        | 9月27日                  | 11   |
|       | 地域素材の教材化を通して授業が楽しくなる社会科講座             | 7月22日～23日              | 10   |
|       | 地理歴史科における地理総合・歴史総合の授業づくり講座            | 8月6日                   | 12   |
|       | 社会科・地理歴史科・公民科における社会に参画する力を育成する授業づくり講座 | 8月26日                  | 16   |
|       | 数学的活動の充実を図る算数科授業づくり講座（Ⅰ班）             | 8月6日、7日                | 15   |
|       | 数学的活動の充実を図る算数科授業づくり講座（Ⅱ班）             | 8月6日、8日                | 3    |
|       | 教える授業から子どもが学ぶ授業に変わる数学科授業改善講座          | 11月22日                 | 18   |
|       | 数学的に考える資質・能力を育む高等学校数学科単元・授業づくり講座      | 8月26日                  | 8    |
|       | 新課程に対応した高等学校数学科統計授業づくり講座              | 10月1日                  | 15   |
|       | 子どもが目を輝かせて学びを進める理科授業づくり講座             | 8月8日                   | 11   |
|       | 見方・考え方を豊かにする中学校理科教材づくり講座              | 8月9日                   | 13   |
|       | 科学的に探究する力を育成する理科授業づくり講座               | 7月18日                  | 8    |
|       | 高等学校理科観察・実験講座                         | 7月11日、8月7日             | 19   |
|       | 主体的に表現する児童を育てる小学校外国語講座                | 11月6日                  | 9    |
|       | 英語パフォーマンステストと評価実践講座（話すこと・書くこと編）       | 7月30日                  | 16   |
|       | 英語パフォーマンステストと評価実践講座（聞くこと・読むこと編）       | 9月25日                  | 11   |
|       | 思考力、判断力、表現力を育成するための英語授業づくり実践講座        | 10月1日                  | 22   |
|       | 英語教員のための英語スキル向上研修                     | 8月5日、10月15日、<br>11月25日 | 4    |
|       | ICTで変わる音楽の授業づくり講座（小学校編）               | 10月29日                 | 18   |
|       | ICTで変わる音楽の授業づくり講座（中学・高等学校編）           | 11月15日                 | 16   |
|       | 児童・生徒が音楽を好きになる！歌唱指導法講座                | 11月7日                  | 19   |
|       | 思考力・判断力・表現力等を育む器楽指導法講座（ギター編）          | 10月11日                 | 10   |

| 講 座 名  |                                       | 期 日        | 受講者数 |
|--------|---------------------------------------|------------|------|
| 教科教育系  | 楽しみながら力を伸ばす図画工作科指導法講座                 | 10月23日     | 11   |
|        | 創造性を育む図画工作・美術の鑑賞指導法講座                 | 11月8日      | 11   |
|        | 創造性を育む美術の表現指導法講座                      | 10月10日～11日 | 10   |
|        | 発想と技法を学ぶ書道実技講座                        | 令和6年度は実施せず | －    |
|        | 運動が苦手な児童生徒のための体育指導講座                  | 8月9日       | 29   |
|        | 1人1台端末を活用した保健体育の授業づくり講座               | 11月8日      | 18   |
|        | 実践力を高める技術科講座（情報・エネルギー変換編）             | 8月5日、8日    | 5    |
|        | 家庭科の指導力向上をめざす基礎・基本講座（調理編）             | 8月9日       | 10   |
|        | 保育に関する指導の充実をめざす家庭科講座                  | 11月7日～8日   | 7    |
|        | 指導力向上をめざす福祉科講座                        | 10月22日     | 2    |
|        | 問題の発見・解決に向かうプログラミング指導講座（データサイエンス編）    | 8月30日      | 11   |
|        | 子どもの成長を見取り評価に生かす小学校道徳科講座              | 7月23日      | 14   |
|        | 子どもの成長を見取り評価に生かす中学校道徳科講座              | 9月2日       | 17   |
|        | 授業力基礎基本向上講座                           | 7月23日      | 5    |
|        | 授業力ブラッシュアップ講座                         | 8月5日       | 6    |
| 教育相談系  | 学校教育相談基本講座                            | 8月2日       | 54   |
|        | 学校が変わる！解決志向で取り組む学校教育相談実践講座            | 11月11日     | 24   |
|        | 体験的に学ぶ人間関係づくり講座                       | 9月9日       | 33   |
|        | スマホ時代のいじめの理解と対応講座                     | 10月17日     | 39   |
|        | 不登校の理解と対応講座                           | 9月25日      | 56   |
| 情報教育系  | 校務処理に役立つ表計算活用講座                       | 9月30日      | 54   |
|        | 授業力向上のための ICT 活用実践講座（義務系）             | 11月5日      | 32   |
|        | 授業力向上のための ICT 活用実践講座（県立系）             | 10月15日     | 69   |
|        | グループウェアで活用するクラウドサービス実践講座              | 7月19日      | 19   |
| 教科外教育系 | 子どもたちが支え合い、高め合う学級をつくる学級活動講座           | 7月24日      | 34   |
|        | 放射線・防災教育指導力向上講座                       | 8月2日       | 33   |
|        | 児童・生徒が自己の生き方を考えていく総合的な学習・探究の時間授業づくり講座 | 11月25日     | 18   |
|        | 小学校プログラミング教育を取り入れた授業づくり講座             | 8月28日      | 5    |
|        | 適切で責任ある行動力の育成を目指した情報モラル教育講座           | 7月29日      | 30   |
|        | 養護教諭のための指導力向上講座（救急処置編）                | 9月27日      | 71   |
|        | 養護教諭のための指導力向上講座（保健教育編）                | 11月15日     | 21   |

### 3 指導主事派遣等

各種教育団体等 11 件

令和6年度の指導主事派遣の概要は次のとおりである。（ ）内は昨年度比。「出前講座」での指導主事派遣件数は、指導主事派遣件数に含む。

|                  |             |
|------------------|-------------|
| 指導主事派遣件数         | 90 件（10 件増） |
| （内訳）小学校          | 19 件（3 件増）  |
| 中学校              | 4 件（5 件減）   |
| 高等学校             | 10 件（2 件増）  |
| 教育委員会等           | 15 件（6 件増）  |
| 各種教育団体等          | 42 件（4 件増）  |
| 「出前講座」での指導主事派遣件数 | 42 件        |
| （内訳）小学校          | 12 件        |
| 中学校              | 4 件         |
| 高等学校             | 5 件         |
| 教育委員会等           | 10 件        |

## 第4節 情報教育事業

基本研修においては、国や県の情報教育の施策に基づき情報教育の意義や重要性を強調し、また、個人情報扱いや情報セキュリティについても、その重要性・緊急性に言及した。

自主講座においては、6月1日に「基礎から学ぶクラウドサービス入門講座」を実施し、各地から28名の参加を得た。また、7月27日に一般社団法人「福島県情報産業協会」と連携し「子どものためのロボットワークショップ」を実施し、県内の中学生及び小学6年生とその保護者25名の参加を得た。

## 研修講座の概要

小・中・高等学校・特別支援学校の情報教育に関する教員研修（専門研修）の概要は以下のとおりである。

### 1 ネットワークを活用するための講座（小・中・高・特支）

グループウェアで活用するクラウドサービス実践講座

### 2 授業実践講座（小・中・高・特支）

#### (1) 授業力向上のためのICT活用実践講座

#### (2) 適切で責任ある行動力の育成を目指した情報モラル講座

#### (3) 小学校プログラミング教育を取り入れた授業づくり講座

### 3 校務の効率化を目指す講座（小・中・高・特支）

校務処理に役立つ表計算活用講座

## 第5節 教育相談

教育相談チームでは、来所及び電話による教育相談を受けている。令和6年度の来所相談・電話相談の概要は、以下のとおりである。

### 1 対象別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分は、誰についての相談内容かで分けたものである。来所相談日数は117日、電話相談日数は233日であった。

| 種別       | 対象 | 幼 | 小   | 中  | 高  | 一般 | 教員 | 計   |
|----------|----|---|-----|----|----|----|----|-----|
| 来所<br>相談 | 件数 | 0 | 3   | 0  | 5  | 0  | 0  | 8   |
|          | 人数 | 0 | 7   | 0  | 7  | 0  | 0  | 14  |
| 電話<br>相談 | 回数 | 0 | 100 | 85 | 69 | 41 | 0  | 295 |

### 2 区分別

来所相談件数・電話相談回数

※ 対象の区分で数値の高い「性格行動」には「不登校」の相談、「教育一般」には「いじめ」、「学校への不満」の相談が含まれる。

| 種別       | 対象 | 知能<br>学業 | 性格<br>行動 | 身体<br>神経 | 進路<br>適性 | 教育<br>一般 | その他 | 計   |
|----------|----|----------|----------|----------|----------|----------|-----|-----|
| 来所<br>相談 | 件数 | 2        | 4        | 1        | 0        | 0        | 1   | 8   |
|          | 人数 | 5        | 6        | 2        | 0        | 0        | 1   | 14  |
| 電話<br>相談 | 回数 | 0        | 48       | 7        | 3        | 170      | 67  | 295 |

### 3 地区別来所相談件数

| 県北 | 県中 | 県南 | 会津 | 南会津 | 相双 | いわき | 県外 | 計 |
|----|----|----|----|-----|----|-----|----|---|
| 8  | 0  | 0  | 0  | 0   | 0  | 0   | 0  | 8 |

### 4 月別相談件数・回数

| 種別       | 月  | 4  | 5  | 6  | 7  | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 1  | 2  | 3  | 計   |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 来所<br>相談 | 件数 | 0  | 1  | 1  | 0  | 0  | 1  | 0  | 2  | 1  | 2  | 0  | 0  | 8   |
|          | 人数 | 0  | 2  | 1  | 0  | 0  | 1  | 0  | 3  | 2  | 5  | 0  | 0  | 14  |
| 電話<br>相談 | 回数 | 29 | 32 | 35 | 30 | 16 | 23 | 24 | 22 | 21 | 29 | 19 | 15 | 295 |

## 第6節 教育図書・資料事業

全国各教育研究機関から送付された研究紀要や資料及び県内各学校から寄せられた研究資料を収集、整理・保管し、レファレンスサービスを行っている。所の研究成果を普及するため、研究紀要や「所報ふくしま『窓』」を刊行した。

### 1 教育図書・教育資料の収集

|            |     |
|------------|-----|
| 教育図書購入冊数   | 36冊 |
| 定期刊行図書購入冊数 | 24冊 |
| 研究紀要等寄贈冊数  | 68冊 |
| 恵贈定期刊行物数   | 23冊 |

### 2 教育資料の刊行

|           |             |
|-----------|-------------|
| 研究紀要      | 第54集        |
| 所報ふくしま「窓」 | 第187号～第188号 |

### 付記

平成16年度より、教育センターにおいて、指導が不適切である教員等に対して長期特別研修を開始し、平成20年度から「指導が不適切である教員等の取扱いに関する要綱」に基づき、指導改善研修を実施している。令和6年度は研修者なし。

# 第 13 章 福島県特別支援教育センター

## 第 1 節 概要

昭和 61 年の開所以来、関係機関と連携協力しながら、教育相談、教職員の研修、調査・教育研究、図書・資料の収集と情報提供、広報・啓発等の事業を行ってきた。

今年度は、第 7 次福島県総合教育計画に基づき、早期からの教育的支援、小・中学校及び高等学校等に在籍する発達障がいを含む特別な支援を必要とする児童生徒等への支援、特別支援学校の専門性の向上と特別支援教育におけるセンターの機能の充実に向けた支援、関係機関との連携等の充実に努めてきた。

### 1 教育相談事業

障がい等の心配のある乳幼児・児童生徒に関する教育相談機関として、本人、保護者（家族）、保育所・幼稚園、小・中学校及び高等学校、特別支援学校関係者、教育委員会等からの依頼に応じ、疑問や悩みを一緒に話し合い、特別支援教育の専門的観点からの相談を行った。相談者の心情に寄り添い、相談を通して、子どもへの適切な支援策や指導法について共に見つけだすようにした。また、面接、行動観察等を行い、関係機関との連携を図りながら専門的・総合的観点からの相談を進めた。

センターでの相談受理件数は 122 件(昨年度比 89.1%)、延べ件数は 554 件(昨年度比 105.1%)であった。障がい種別による相談実件数では、発達障がいの相談が最も多く 50.8%、続いてその他（医師による診断のない者）が 23.8%であった。これらを合わせると実件数の 74.6%を占めている。知的障がいに関する相談は約 13.9%であり、合わせると実件数全体の 88.5%を占める。相談者は、本人、保護者、教員、関係機関等である。

その他、学校等のニーズに応じて学校・地域等に出向き、支援を必要としている子どもに対し、教職員が適切な支援と指導が行えるよう必要な支援や助言、ケース検討会、校内研修会等の開催・運営等への支援を行った。さらに、地域における教育相談機能の質的向上を図るため、学校等と保健福祉の関係機関、教育委員会、教育事務所、医療機関等との適切な連携を支援し、地域の支援体制の整備を進めた。

### 2 教職員研修事業

教職員の資質と指導力の向上を図るために、「令和 6 年度福島県公立学校教職員現職計画」に基づいて各種の研修講座を計画した。

特別支援学校の基本研修においては、初任者研修、2 年次教員フォローアップ研修、5 年経験者研修・中堅教諭等資質向上研修と教職経験年数に応じて、基礎的・基本的な事項を中心とした研修や教員の専門的な知識・能力の深化と授業力・職務遂行能力の向上を図る研修、実践的授業能力の向上と

職務を遂行する上で必要とされる資質・能力の育成を図る研修など、教職経験と一人一人の課題に応じた指導力の向上を目指した研修等を実施した。また、小・中学校や高等学校、特別支援学校等の教員を対象とする職能研修では、特別支援学級等新任担当教員研修会や特別支援教育コーディネーター研修会など、教員一人一人の職責・職能に応じた教育活動に求められる資質・力量の向上を目指した研修を行った。さらに、専門研修の各講座では、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の基礎的な理解と対応、各教科の指導の充実につながる研修を行うなど社会の変化に対応し、複雑化・多様化する教育課程に応じた各種講座を設け実施した。

基本研修の受講者総数は延べ 372 名（初任者研修、2 年次教員フォローアップ研修、5 年経験者研修、中堅教諭等資質向上研修）であった。職能研修の受講者総数は延べ 583 名（特別支援学級等新任担当教員研修会、特別支援学級担当教員（経験 3 年）研修会、小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会、高等学校特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会、特別支援学校教務主任・学部主事研修会、特別支援学校実習助手等研修会、通級指導教室担当教員研修会）であった。そして、専門研修講座（16 講座）については、受講者総数は延べ 469 名であった。また、研修の機会を広く提供する公開講座（7 講座）の聴講者総数は 211 名であった。

### 3 調査研究・教育研究事業

本県が当面している特別支援教育の今日的課題及び学校における教育実践上の具体的課題解決に向けて、以下の研究等を行った。

#### (1) 調査研究

「小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実に向けた研修の在り方～特別支援教育の資質・能力を育成するために必要な研修内容・研修体系の再考～（2 年次）」我が国では障がいの有無に関わらず、誰もがその能力を発揮し、社会の一員として共に認め合い、支え合い、誇りをもって生きられる「共生社会」の構築を目指している。そのためには、特別支援教育の充実が求められ、管理職を含む全ての教員の特別支援教育に関する専門性の向上が不可欠である。

そこで、令和 5～7 年度の調査研究として、特別支援教育の資質・能力を育成するために必要な研修内容・研修体系について捉え直すことを通して、小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実に向けた研修の在り方を追究することとした。なお、本研究は文部科学省実施「発達障害のある児童生徒等に対する支援事業（管理職をはじめとする教員の理解啓発・専門性向上のための体制構築事業）」の一環として実施したものである。

令和 6 年度は、研究協力校である小・中学校、高等学

校をそれぞれ5回ずつ訪問し、研修体系表（試案）に基づき、研究協力校との研修を進めた。研究アドバイザー、伊達市教育委員会指導主事、教育事務所指導主事にも研修を見ていただき、助言をいただいた。また、教員一人一人が自分に必要な特別支援教育の資質・能力や研修内容を意識し、主体的に学ぶことができるよう、研究協力校や県内の市町村教育委員会の意見を踏まえ、研修体系表（試案）を改訂し、研修体系表（第2案）を作成・公表した。

課題を踏まえ、研修体系表（第2案）に基づき、各学校の実状に応じて研修実施するための「学びの道標」を作成し、研修の受講や研修の企画・立案に有効活用できるようにした。

## (2) 教育研究

「特別支援学校高等部における自立と社会参加につなげる自立活動の指導の在り方～生徒が学習の意義を理解して、主体的に学ぶ姿を目指した実践研究～（二年次）」

自立活動は、特別支援学校の教育課程に特別に設けられた指導領域であり、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服することを目的としている。小・中学校の特別支援学級や、小・中学校、高等学校の通級による指導でも取り入れられており、障がいのある児童生徒にとって自立と社会参加に向けた重要な学習となっている。

自立活動の指導は、特別支援学校の教員に求められる専門性の一つであり、これまで、各特別支援学校でその充実に努めてきた。しかし、より一層充実させるためには、本人が学ぶ意義を理解し、主体的に取り組むことができる自立活動を目指す必要があると考える。

そこで、令和5・6年度の教育研究として、自立と社会参加に向けて生徒自身が学習の意義を理解し、主体的に学ぶ姿を目指した自立活動の実践研究を行い、指導の経過や成果をまとめることで、自立活動の指導の充実に目指している。

令和6年度は、昨年度に引き続き、聴覚支援学校（高等学校に準ずる教育課程）とたむら支援学校（知的障がいの教育課程）の2校を研究協力校とし、各校より高等部生徒2名を対象生徒として抽出し、①生徒一人一人に応じた自立活動の指導内容の設定方法、②生徒が学習の意義を理解し、主体的に学ぶための自立活動の指導方法について検討した。

一年次から見出された成果や気づきを踏まえ、二年次は、生徒の「目指す姿」、「なりたい自分」を把握し、個別の指導計画に反映していく進め方、「目指す姿」、「なりたい自分」を生徒と教師が共有し、生徒自身が学ぶ意義を理解して取り組むための具体的な指導の在り方に重点を置き研究を進め、生徒が学習の意義を理解して、主体的に学ぶ姿を育むために大切にしたい視点を整理した。

## 4 教育図書・資料の収集・提供事業

本県特別支援教育の中心的施設としての機能の充実を目指して広く特別支援教育関係図書・資料の収集に努め、関係教職員等が活用できるよう、整備・充実に図った。

本年度も特別支援教育の指導に関する図書の充実と教育資料の収集、Webサイトによる紹介等を推進した。

なお、3月末日現在での特別支援教育関係図書の蔵書数は8,175冊、定期刊行物6種、教育資料数5,515点である。

## 5 広報・啓発事業

特別支援教育に関する情報及び資料、並びに本センターの事業内容を広報誌や各種発行物として関係諸機関等に配付し、特別支援教育に対する啓発や理解推進を図った。併せて、事業内容を多くの方々に伝えるため、Webサイトでも情報提供に努めた。

## 6 情報教育事業

専門研修講座を中心に、GIGAスクール構想の推進を踏まえた特別支援教育におけるICT活用に関する研修の企画運営を行った。障がいのある児童生徒の自立と社会参加に向け、学習の個別最適化と学びの充実を図るためのICT活用を推進できるよう努めた。

# 第2節 教育相談事業

## 1 教育相談対象

教育相談は、障がいのある、またはその心配のある乳幼児、児童、生徒及びその保護者や関係者を対象として実施した。教育相談の障がい種別は次のとおりである。

- 視覚障がいにかかわる教育相談
- 聴覚障がいにかかわる教育相談
- 知的障がいにかかわる教育相談
- 肢体不自由にかかわる教育相談
- 病弱・身体虚弱にかかわる教育相談
- 言語障がいにかかわる教育相談
- 情緒障がい（場面緘黙等）にかかわる教育相談
- 発達障がいにかかわる教育相談
- その他（医師による診断のない者）の教育相談

## 2 形態

### (1) センターでの教育相談

電話での申込みにより、来所日時をあらかじめ調整し、相談者の来所による教育相談を行った。また、教育相談の内容等によっては電話のみによる教育相談も行った。

### (2) 要請を受けての学校・地域支援

困難な事例や特に必要な場合には保育所・幼稚園、認定こども園、小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校から支援要請を受けて学校等に出向き、現地においての授業参観やケース会議を通しての教育相談を行った。

### 3 現状と課題

本センターでは、「相談者の思いや願いに寄り添い、健やかな成長を促す教育相談」の方針のもと、障がい等の心配のある乳幼児から高等学校までの生徒と、その保護者・教員等を対象とした教育相談を実施している。

教育相談においては、「主体は本人であり、本人のを中心にした話し合いを行う」ことを大切にしている。「傾聴・受容・共感に基づく対話」を基本とし、本人と対話を重ねることで信頼関係を構築し、その中で本人の思いや願いを丁寧に聞き、得られた情報から状況や課題を整理したり、リフレーミングしたりしてきた。

教育相談の主訴は、幼児については、養育及び就学に関する主訴が多い。小学生から高校生については、学校生活や学習面の対応、不登校に関する主訴が多く、教員が本人の特性等を理解せず、必要な支援を提供していないことによる「登校しづり」「不登校」の教育相談や、「障がい特性に応じた支援内容の提供」についての教育相談がある。子どもが困難さを

感じている背景・要因を探り、本人の意思を尊重しながら、必要な支援内容を整理している。

「不登校」や「障がい特性に応じた支援内容の提供」の教育相談は長期化する傾向にあるが、時間をかけて丁寧に教育相談を重ねることで、本人及び保護者、学校の気づきや理解が進み、状況が改善される傾向にある。また、本人が、できていることやがんばっていること、自分の考え方の傾向や周囲の人の多様な考え方を知り、自分はどのようになりたいか、困難な場面でどのように対応するとよいかなどの自己理解を促す教育相談も重ねている。そのことを保護者や学校と共有することも大切にしている。

本センターの教育相談においては、保護者、学校、地域等の組織とともに、本人の困難さの背景・要因を推察し、支援内容等を検討するケース会議も実施している。今後、学校が本人を支えるための校内体制を整備していくために、地域等の組織がどのように関与していけばよいか、さらに検討していく必要がある。

#### <年齢・学校別相談件数>

| 年齢・学校  |     | 乳幼児(歳) |    | 小 学 校(学年) |    |    |    |    |    | 中学校(学年) |    |    | 高等学校(学年) |    |    | 一般他 | 計   |
|--------|-----|--------|----|-----------|----|----|----|----|----|---------|----|----|----------|----|----|-----|-----|
|        |     | 0～4    | 5  | 1         | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 1       | 2  | 3  | 1        | 2  | 3  |     |     |
| センター相談 | 実件数 | 7      | 6  | 7         | 11 | 7  | 10 | 12 | 6  | 12      | 13 | 9  | 6        | 8  | 4  | 4   | 122 |
|        | 延件数 | 8      | 14 | 22        | 51 | 53 | 47 | 75 | 16 | 68      | 58 | 59 | 18       | 44 | 16 | 5   | 554 |

#### <障がい種別相談件数>

| 障がい種   |     | 視 覚障がい | 聴 覚障がい | 知 的障がい | 肢 体不自由 | 病 弱虚 弱 | 言 語障がい | 情 緒障がい | 発 達障がい | その他 | 計   |
|--------|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----|-----|
| センター相談 | 実件数 | 1      | 7      | 17     | 4      | 1      | 1      | 0      | 62     | 29  | 122 |
|        | 延件数 | 10     | 21     | 74     | 7      | 2      | 1      | 0      | 320    | 119 | 554 |

#### <地区別相談件数>

| 地区  | 県 北 | 県 中 | 県 南 | 会 津 | 南会津 | 相 双 | いわき | その他 | 計   |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 延件数 | 96  | 335 | 23  | 27  | 5   | 1   | 62  | 5   | 554 |

## 第3節 教職員研修事業

受講者の資質、指導力、専門性の向上を目指し、講座内容の一層の充実を図った。

- 専門研修講座を16講座設け、そのうち7講座を公開講座とし、受講者のニーズに応えるようにした。
- 講義、演習、協議という流れで進めることで、理論から実践へ内容を展開することができ、研修者の理解を深めることができた。演習での話し合い活動や協議では、小集団にすることで、受講者同士の話し合いが深まり、主体的な学びにつながった。
- 一部の研修講座において、講義を事前のオンデマンド視聴として実施した。県内各地から参集するため、ゆとりをもって開始時間を設定できたとともに、協議の時間の確保ができた。

- 特別支援教育に関する県内外の専門家や各学校で先進的な実践をしている教員などを招へいして、新たな知見を広げたり具体的な実践に触れたりする機会の充実を図った。
- 調査研究や教育研究等の成果を基にして、特別支援教育に関する専門的知識・技能の習得とともに、真摯に実践に取り組む資質の向上に努めた。

## 1 教職員の研修講座

### (1) 基本研修

| 研 修 名                       | 期日及び期間                           | 受講者数(人) |
|-----------------------------|----------------------------------|---------|
| 特別支援学校初任者研修一般研修             | 4月10日～11日                        | 46      |
| 特別支援学校初任者研修カウンセリング研修        | 6月5日～6日                          | 39      |
| 特別支援学校初任者研修一次研修             | 7月23日～25日                        | 36      |
| 特別支援学校初任者研修教育課程別研修          | 9月4日                             | 36      |
| 特別支援学校初任者研修学部別研修            | 11月6日                            | 36      |
| 特別支援学校初任者研修二次研修             | 2月4日～6日                          | 36      |
| 特別支援学校2年次教員フォローアップ研修教科等指導研修 | 8月22日                            | 38      |
| 特別支援学校5年経験者研修               | 6月7、10～11日 (1班)<br>6月12～14日 (2班) | 53      |
| 特別支援学校中堅教諭等資質向上研修 共通研修      | 6月26日～28日                        | 26      |
| 特別支援学校中堅教諭等資質向上研修 教科等指導研修   | 1月14日～15日                        | 26      |
| 計                           |                                  | 372     |

### (2) 職能研修

| 研 修 名                   | 期日及び期間    | 受講者数(人) |
|-------------------------|-----------|---------|
| 特別支援学級等新任担当教員研修会        | (共通) 4月   | 159     |
|                         | (地区別) 10月 | 114     |
| 特別支援学級担当教員(経験三年)研修会     | (地区別) 8月  | 55      |
| 小・中学校特別支援教育コーディネーター研修会  | (地区別) 5月  | 117     |
| 高等学校特別支援教育コーディネーター研修会   | 5月 9日     | 41      |
| 特別支援学校特別支援教育コーディネーター研修会 | 5月 8日     | 25      |
| 特別支援学校実習助手等研修会          | 8月 1日     | 8       |
| 通級指導教室担当教員研修会           | 7月 9日     | 38      |
| 特別支援学校教務主任・学部主事研修会      | 5月30日     | 26      |
| 計                       |           | 583     |

### (3) 専門研修

| 講 座 名                                                  | 期日及び期間 | 受講者数(人) |
|--------------------------------------------------------|--------|---------|
| 発達障がいのある幼児児童生徒の基礎的な理解と対応 ～「気づく」から始めよう～                 | 7月17日  | 34      |
| 発達障がいのある幼児・児童のライフステージに応じた支援<br>～今日の「できた」を未来(あした)へつなげる～ | 8月6日   | 36      |
| 発達障がいのある生徒のライフステージに応じた支援 ～豊かな現在(いま)が未来を拓く～             | 8月21日  | 17      |
| 教育相談(基礎編) ～わかり合うところがスタートライン～                           | 8月2日   | 39      |
| 教育相談(応用編) ～チームでつくる笑顔の相談～                               | 9月12日  | 22      |
| 指導に活かすアセスメント ～もっと知りたい 子どもたちのこと～                        | 7月19日  | 30      |
| 早期からの一貫した教育支援 ～教育的ニーズの整理と学びの充実～                        | 9月10日  | 28      |
| 特別支援学級の授業の充実 ～主体的に学べる授業を考えよう～                          | 8月9日   | 24      |
| 自立活動の指導の充実(小学校、中学校、高等学校編) ～実態把握と具体的な指導内容の設定～           | 7月2日   | 29      |
| 自立活動の指導の充実(特別支援学校編) ～指導事例から学ぶ～                         | 10月1日  | 31      |
| 特別支援学校における教科指導の充実 ～知的障がい算数・数学編～                        | 9月19日  | 25      |
| 重度・重複障がいのある子どもの学びを支える ～伝わる・伝えたい関係づくり～                  | 7月3日   | 27      |
| 特別支援学校における授業の充実 ～確かな学びに向かう授業づくり～                       | 9月3日   | 36      |
| 児童生徒の可能性や個性を伸ばす進路指導 ～一人一人の多様な幸せと進路実現に向けて～              | 10月3日  | 27      |
| 授業におけるICTの活用(基礎編) ～やってみよう!写真・動画を使った授業～                 | 9月6日   | 33      |
| 授業におけるICTの活用(応用編) ～主体的な学びを支える実践の共有～                    | 8月8日   | 31      |
| 計                                                      |        | 469     |

(他に公開講座に211名が参加)

## 第4節 調査研究・教育研究事業

### 1 調査研究

「小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実に  
向けた研修の在り方～特別支援教育の資質・能力を育成す  
るために必要な研修内容・研修体系の再考～（二年次）」

#### (1) 研究の趣旨と目的

福島県では「第7次福島県総合教育計画」を策定し、その  
施策の中で「地域で共に学び、共に生きる共生社会の形成  
に向けた特別支援教育の充実」に取り組んでいる。また、  
「校長及び教員としての資質の向上に関する指標【第2  
版】」（以下「指標【第2版】」と表記する）を策定し、研  
修を通じて身に付けるべき資質を示している。障がいの有  
無に関わらず、誰もがその能力を発揮し、社会の一員とし  
て共に認め合い、支え合い、誇りをもって生きられる「共生  
社会」の構築には、特別支援教育の充実が求められ、管理職  
を含む全ての教員の特別支援教育に関する専門性の向上が  
不可欠である。

福島県教育委員会が実施した「令和4年度体制整備状  
況調査」では、県内の幼稚園・認定こども園、小・中学校、  
高等学校における、特別支援教育に関する校内研修の実  
施率は、91.5%であることが明らかとなっている。一方  
で、研修の効果や研修ニーズはこれまでに調査されてい  
ない現状がある。このことから、新たな教育課題に対応し  
た研修や基礎的な知識・技能、専門性向上に関する研修  
等、研修の在り方を考える上で、小・中学校、高等学校で  
現在行われている研修の効果や特別支援教育に関する研  
修ニーズを調査することが必要であると考えた。

本研究は、これらの現状を踏まえ、特別支援教育の資質・  
能力を育成するために必要な研修内容・研修体系とはどの  
ようなものであるか、捉え直すことを通して、小・中学校、  
高等学校における特別支援教育の充実に向けた研修の在り  
方を追究することとした。

#### (2) 研究の経過

二年次の取組として、研究協力校において特別支援教育  
に関わる校内研修を実施し、その効果を検証した。研究協  
力校として、伊達市立保原小学校、伊達市立桃陵中学校、福  
島県立伊達高等学校において5回ずつ研修を実施し、研修  
実施前後のアンケート調査、研修実施後の聞き取りによる  
効果の検証をする。研究協力機関として、伊達市教育委員  
会、県北教育事務所に研修を参観していただき、助言を得  
ることとした。

ア 研究協力校における特別支援教育に関わる校内研修の  
実施・検証

##### (イ) 校内研修の実施

研究協力校である小・中学校、高等学校をそれぞれ  
5回ずつ訪問し、研修を行った。研究アドバイザー、伊  
達市教育委員会指導主事、教育事務所指導主事にも研  
修を見ていただき、助言をいただいた。

##### (ロ) 研修の構成と意図

研究協力校訪問の2回目から4回目の研修内容を  
「子どもを理解するために大切なこと」として、3回  
の研修で構成した。2回目は、子どもの行動の背景に  
ある見えない理由を探り、その時に大切なポイントを知  
ること。3回目は、ある行動が成立するために必要  
となる力を細かく分析すること。4回目は、推察した  
理由を踏まえて指導や支援の内容を検討すること。こ  
れらは、子ども理解を深め、指導・支援に生かすために  
欠かせない内容である。

##### (ハ) 各学校の研修方法

小学校は、管理職を含む教員全員の参集型の研修と  
するため、放課後に研修を行い、演習時に多様な意見  
に気付けるようグループ編成を工夫した。

中学校は、管理職を含む教員全員の参加型の研修と  
するため、職員会議の後に研修を行い、一部の研修を  
オンデマンドで事前視聴し、演習時間の充実を図った。

高等学校は、管理職及び特別支援教育推進委員と希  
望者による研修を行い、研修の予告・宣伝をすること  
で、参加しやすくなるよう工夫した。

##### (ニ) 研修内容

1 回目「多様性に応じた指導・支援」・アンケート調  
査

2 回目「冰山モデルによる行動理解」

3 回目「ある行動に必要な力を考える」

4 回目「背景・要因から指導・支援を考える」

5 回目アンケート調査と振り返り

##### (ホ) 校内研修の検証

研修全体を振り返り、研修方法についての意見を先  
生方の協議シートやアンケートから集めた。短時間、  
定期的でコンパクトな設定が、負担感がなく効果的だ  
ったこと、各校の参加しやすい方法を工夫できたこと  
が成果として挙げられた。さらにオンデマンドで繰り  
返し学べると良いという声や学校の実情に合わせた研  
修方法を選択できると良いという声もあった。研究協  
力校での実践のように、研修内容を焦点化し、精選す  
ることで、研修を放課後や会議後に位置付けたり、学  
年会で実施したりするなど、多様なニーズに応じた形  
態が工夫できると考えられる。

##### (ヘ) アンケート調査の分析

研修実施前後に変化があったかどうか、研修体系表  
の主な研修内容に関する質問（8つ）への回答状況か  
ら、研修前後にどのような変化があったかを調査し、  
研修内容の効果を測定した。回答者は50名（小：27名  
中：17名 高：6名）、校種と時期の2要因分散分析で  
比較した。ただし、校種については人数比の関係もあ  
るため、参考値とした。冰山モデルの項目は、「授業中  
に話を聞いていない児童生徒の行動の理由として、ど  
のようなことが推察されるか」という質問に、思いつ  
く限り回答いただいた。記述から、本人の特性・資質・

能力にせまる記述を2点、その他を1点で評価し、1回目と5回目と比較をした。1回目と5回目では、全体的に得点の山が上昇傾向にあることが分かった。

| 得点 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 総計 |
|----|-----|-----|------|----|
| 12 |     |     |      |    |
| 11 |     |     | 1    | 1  |
| 10 |     |     |      |    |
| 9  |     |     |      |    |
| 8  | 2   |     |      | 2  |
| 7  |     |     |      |    |
| 6  | 1   | 1   | 1    | 3  |
| 5  | 5   | 2   |      | 7  |
| 4  | 7   | 3   |      | 10 |
| 3  | 7   | 6   | 3    | 16 |
| 2  | 5   | 5   |      | 10 |
| 1  |     |     | 1    | 1  |
| 0  |     |     |      |    |

| 得点 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 総計 |
|----|-----|-----|------|----|
| 12 | 1   |     |      | 1  |
| 11 |     |     |      |    |
| 10 |     |     |      |    |
| 9  | 1   |     | 1    | 2  |
| 8  |     |     | 1    | 1  |
| 7  | 5   | 3   |      | 8  |
| 6  | 3   |     | 1    | 4  |
| 5  | 8   | 2   | 1    | 11 |
| 4  | 5   | 5   | 2    | 12 |
| 3  | 2   | 4   |      | 6  |
| 2  | 2   | 2   |      | 4  |
| 1  |     | 1   |      | 1  |
| 0  |     |     |      |    |

#### (キ) アンケートの記述内容

実際にアンケートの記述内容は、1回目では、「本人のやる気」や「障がい」などに起因する記述、指導者が調整しにくい情報が多くみられたが、5回目では「本人の資質・能力や特性」に関する記述や指導者が調整可能な情報が多くなった。研修を通して、子どもの「資質・能力や特性」に注目するようになり、先生方の見取りの質が変容したことが分かった。

#### (ク) 研修中の変容

2回目と4回目訪問時に実際の演習場面で活用したワークシートの内容では、2回目は「課題が出せない」、4回目は「整理整頓が苦手」というテーマで、行動の背景・要因の推察を、それぞれ行った。2回目の推察では、本人のやる気や家庭の問題など、すぐに改善しづらく、指導・支援に結びつかない記述が目立った。4回目になると、本人の認知面の要因や、教師の指導面についても意識する記述が多く見られた。このことから、2回目の研修をきっかけに、様々な場面においても、「なぜか」を考え、背景・要因を推察したり、自らの指導を振り返ったりしていたことで、テーマが変わっても、注目すべきポイントを意識して推察できたと考えられる。研修をきっかけに、普段から本人の特性や認知面を見ようしたり、自らの指導に目を向けたりするようになると、見取りに関する資質・能力は、場面や課題が変わっても同じように発揮されると考えられる。

#### イ 「研修体系表（第2案）」と「学びの道標」の作成

##### (ア) 研修体系表とは

「指標【第2版】」に基づき、特別支援教育に関する専門性やキャリアに応じた資質を整理し、資質向上に必要な研修項目を示したものである。また、参照することで、特別支援教育の専門性向上に必要な事項、現状（ステップ）、該当ステージで求められる姿など、専門性向上の道筋を教員が自ら確認できるものである。

「ステージ」は、「指標【第2版】」に示された、教員としての成長過程を経験年数ごとに示している。本研究においては、3年間を通して、修正・改善を重ね、令和7年度末に完成を目指す。二年次は「研修体系表（第

2案）」として、完成・公表を目指して研究を進めた。

#### (イ) 研修体系表（第2案）の内容

「指標【第2版】」に示されたステージと児童生徒を指導・支援するためのステップを軸とした表で、教員が研修や経験を重ねながらキャリアを向上していく道筋を示したものとなっている。「ステップ」は、子どもに対する指導・支援の観点から4領域に分け、段階を設定している。ステージを示す縦軸では、自己のステージに求められる資質・能力を確認することができる。ステージごとの資質・能力の設定にあたっては、「指標【第2版】」の項目Ⅲ－9「特別な支援を必要とする児童生徒への対応」だけではなく、「Ⅲ児童生徒の理解と指導」の領域に示されている内容も含めて検討した。また、ステップを示す横軸は、「ガイドライン」を参考として、「子ども理解」を主軸とした支援のステップとの位置付けで内容を検討した。表では、各ステージ、各ステップで目指す姿の達成に必要な研修項目も示している。研修項目は、文部科学省、福島県の各種資料に基づき、内容を検討した。

一年次に公表した研修体系表（試案）の評価・フィードバックを各所からいただき、研修体系表（第2案）の研修イメージを作成し、併せて使用することで研修の受講計画や研修の企画・立案に有効だと考えた。研修イメージについて、研究協力校の先生方や特別支援教育センター研究発表会に参加された先生方から意見をいただいた。

#### (ウ) 「研修体系表（第2案）」と「学びの道標」の公表

作成した研修体系表（第2案）と学びの道標は、県内の小・中学校、高等学校、市町村教育委員会に発出するとともに本センターWebサイトに掲載している。

URL: <https://special-center.fcs.ed.jp/>

### (3) 今後の取組

#### ア 三年次に向けて

三年次も、小・中学校、高等学校の研究協力校と実践研究に取り組む。実践に生きる研修を支える体制づくり、そして共に学び合う教員集団の形成に向けた取組を行う。校内研修の自校化に向けて、研修が実践可能、持続可能なものとなるよう、研修方法の選択や、既存の組織の活用・工夫など、各校の実情に応じて取り組む。

#### イ 本研究により期待される姿

本センターは、三年間にわたる本研究を通して、特別支援教育の資質向上のための研修体系表を作成し、研修コンテンツ・研修パッケージの開発を行う。これらは、各学校における、より充実した研修の実施に向けた情報提供・研修支援の役割を果たすものとする。また、教員にとっては、特別支援教育に関する各学校のニーズに応じた研修が効果的に行われ、研修が充実することで、子どものかかわりの変容や校内支援体制の整備等につながることも期待される。

## 2 教育研究

「特別支援学校高等部における自立と社会参加につなげる自立活動の指導の在り方～生徒が学習の意義を理解して、主体的に学ぶ姿を目指した実践研究～（二年度）」

### (1) 研究の趣旨と目的

自立活動は、特別支援学校の教育課程に特別に設けられた指導領域であり、個々の幼児児童生徒が自立を目指し、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服することを目的としている。小・中学校の特別支援学級や、小・中学校、高等学校の通級による指導でも取り入れられており、障がいのある児童生徒にとって、自立と社会参加に向けた重要な学習となっている。

自立活動の指導は、平成29年告示の特別支援学校学習指導要領では、具体的な指導内容を設定する際の考慮点として、「カ 自己選択・自己決定を促す指導内容」、「キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容」の2点が新たに追加された。これらは、幼児児童生徒が自ら環境や状況に対して判断や調整をしたり、自立活動の学習の意味を将来の自立と社会参加に必要な資質・能力との関係において理解したりするなど、幼児児童生徒自身が自立と社会参加に向けて主体的に学んでいく姿を育む取組が、より一層求められていることを示している。また、本県では、特別支援学校卒業後の課題として、周囲との適切なコミュニケーションの苦手さ、感情のコントロールの苦手さ、就労意識のもちにくさ等が挙げられており、個々の実態に応じた自立と社会参加に必要な力を高めること、そして、幼児児童生徒が自分に必要な力を主体的に学ぶ姿を育むことが必要であり、全ての学習の基盤となる力を育む自立活動の指導の充実が求められている。さらに、自立活動の指導は教師個々の経験や専門性に任される部分が大きく、「自立活動の計画・実践における」、「中心的な課題の整理」や「具体的な指導内容、指導方法の設定」に難しさを感じている教師は多い。これらを踏まえて、自立と社会参加に向けて生徒自身が学習の意義を理解し、主体的に学ぶ姿を目指した自立活動の実践研究を行い、指導の経過や成果をまとめることで、自立活動の指導の充実に向けた一助にしたいと考える。

### (2) 研究の経過

聴覚支援学校（高等学校に準ずる教育課程）とたむら支援学校（知的障がいの教育課程）の2校を研究協力校とし、各校より高等部生徒2名を対象生徒として抽出し、2年間の指導と学びの経緯について考察していく。

ア 生徒一人一人に応じた自立活動の指導内容の設定方法

(イ) 生徒の「目指す姿」、「なりたい自分」の把握

a 聴覚支援学校の取組から

合同学習を設定し、自己評価と他者評価から総合的な振り返りをもとに、数年先のなりたい自分を考え、なりたい自分になるためには、今、何を頑張る必要があるかを教師や友達と話し合った。集団の活動

の中で対話的に活動を進めることで、生徒自身では想像しきれない部分を友達や教師から多角的・多面的に意見をもらいながら自己理解を深め、なりたい自分と、今、何を頑張るかについて具体的に考えることができた。

b たむら支援学校の取組から

生徒と教師が個別に自分の課題やなりたい自分について話し合い、共有する時間を設定した。生徒の実態に応じて思いや考えの整理の仕方を工夫ながら、生徒と教師がじっくり対話をする時間を設定することで、生徒自身が感じている学習の意義や目的を教師が知ったり、生徒自身も考えが整理され自分の思いや考えに気付いたりすることができた。

(イ) 生徒の「目指す姿」、「なりたい自分」を個別の指導計画へ反映

a 聴覚支援学校の取組から

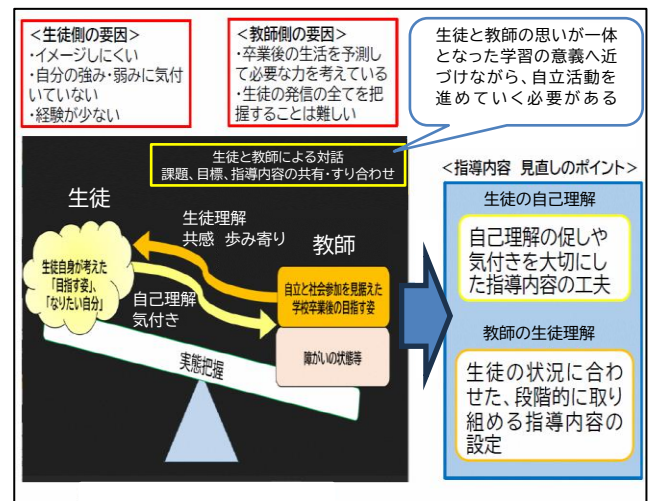
必要に応じて、複数の教師で実態や課題の整理を行い、複数の視点で多面的に実態を整理したことで、生徒の全体像を捉えた中心的な課題が整理でき、指導の根拠を明確にした個別の指導計画の修正につながった。

b たむら支援学校の取組から

生徒との対話から把握した「生徒自身が感じている得意・不得意、困難さ」や生徒自身の「目指す姿」、「なりたい自分」を整理したり、実態の背景・要因を推察したりし、実態把握をより深めることができた。

c 両校共通の気付き

両校共通して、教師が作成した個別の指導計画の指導目標や指導内容と、授業の中で把握した、生徒の「目指す姿」、「なりたい自分」の情報をすり合わせていくと生徒の思いと教師の思いにズレがあることが分かった。そこで、そのズレの要因を整理し、個別の指導計画を修正する必要があることが意見として挙げられ、生徒と教師の思いがズレる状況と指導内容の見直しのポイントを次のように考えた。



## イ 生徒が学習の意義を理解し、主体的に学ぶための自立活動の指導方法

### (ア) 実体験をもとに困難さを探り、自分に必要なことの気付きを促す実践（聴覚支援学校の取組）

対象生徒の実態や生活の状況から、未来の状況は経験がなく、何が必要かイメージすることが難しかったり、学校や家庭では、周囲の状況が整備されているため、困難さを感じにくかったりしている状況が教師との思いのズレの要因と考えた。そこで、実体験について①自分での振り返りと②一緒に活動した教師からのコメントを手掛かりにした振り返りを行い、自分の気付きにくさに意識を向ける必要性を実感できるようにした。体験をした活動について自己評価と他者評価を通して振り返ることにより、本人の実感を伴った自分事の学びとなり、自分に必要なことを、より深く考えることができた。

### (イ) 「なりたい自分」と振り返り活動を関連付け、活動の意義の理解を促す実践（聴覚支援学校の取組）

対象生徒は、「めざす姿、必要な力」を夢や職業として捉え、教師は、よりよく生活するために必要な力として捉え、自分の行動や考えを振り返り、見直しをもって次の行動を考える力を育みたいと考えた。その捉えの違いによりズレが生じ、学習の意義を実感しにくい状況になっていると考えていた。そこで、実際にスポーツインストラクターの仕事を体験した職場体験をテーマにして振り返り活動を行い、振り返ることの良さに気付くことをねらい授業を実践した。目指す姿に向けた振り返りは、必要性を実感できる主体的な学びとなり、振り返りの良さの気付きにつながった。

### (ウ) 対話を通し、生徒の内面の気付きを促し、自己の課題解決に取り組む実践（たむら支援学校の取組）

対象生徒は、自己の状況を明確には捉えられておらず、課題と感じているコミュニケーションについて何をどうすれば良いか、イメージがもてず漠然としていることが教師とのズレの要因と考えた。そこで、個別の自立活動の時間で、対話を通して思いを深く掘り下げていく活動を行い、集団での自立活動では、個別の時間に考えた対象生徒の学びたいことを題材に設定し、架空事例についてネガティブな捉え方をポジティブな捉え方に変換し、相手とよりよくかかわるために必要な対応について友達と話し合って考える活動を行った。授業の目標と自分自身が必要と感じていることが共通していることで、学習の意義を実感でき、学習への意欲の向上につながり、自分から自身の考えを友達に伝えることができた。

### (エ) 自己評価を通し、強みに気付き、コミュニケーション手段を広げる実践（たむら支援学校の取組）

対象生徒は、言葉に不明瞭さがあり、音声言語のみでは、相手に意思が伝わりづらい状況であり、教師は、

やりとりが広がりづらい状況を改善するために、コミュニケーション手段を増やしたいと考えた。一方、本人は音声言語のみでも相手に伝わっていると思っており、自分の状況を適切に把握できていないことが教師のねらいとのズレの要因と考えた。そこで、自分のコミュニケーションの状況について理解を深め、伝える方法を自分で選択できるようにするため、伝える方法を考えながらクイズを出題したり、質問に答えたりする活動を行い、相手に伝わったかどうかを自己評価と他者評価で振り返った。他者評価を踏まえた自己評価による、自分の強みや弱みの気付きと成功体験の積み重ねが、主体的に伝える手段を工夫し、改善していく姿につながった。

## (3) 研究のまとめ

本研究の取組から、生徒が学習の意義を理解して、主体的に学ぶ姿を育むために大切にしたいこととして、3つの視点が整理された。

ア 生徒の一人一人に応じた指導内容を設定するために、生徒の思いや考えに教師が向き合うとともに、個々の専門性を高め、チームによる複数の視点で、多面的に実態を捉えることが大切。

イ 生徒が学習の意義を理解し、主体的に学ぶために、生徒と教師との対話を通して、「教師の生徒理解」と「生徒の自己理解」を深め、学びを通し目指す姿を鮮明にしていくことが大切。

ウ 指導の妥当性を高め、よりよい学びにつなげるために、生活や各教科と関連付けて指導を行い、生徒の学ぶ姿から指導を見直し、繰り返し修正・改善を図ることが大切。

## (4) 今後の展望

ア 子どもの思いに寄り添う、子ども主体の学習に向けて本研究を通し、生徒と教師の対話の重要性が見出された。子どもの実態や目的に応じた対話の質を高めることで、教師の子ども理解と子どもの自己理解が深まり、自立活動の指導が、子どもの思いに寄り添った、子どもの学習上・生活上の困難さや必要性に対して学んでいく、子ども主体の学習につながると考える。

イ 自立と社会参加に向けた力を育む指導を目指して

子ども主体の自立活動の学びが、子どもの学習や生活にどのように生かされ、子どもがどのように変わったかを評価するためには、各教科等や生活と関連付けて指導をしていくことが大切である。その指導を進めるためには、学校や学部全体、指導者間など、チームで連携してPDCAサイクルを確立した校内体制を整備することが必要である。これらの取組を進めることで、自立活動の指導と自立活動を基盤としたすべての教育活動の充実につながり、その結果、すべての教育活動が「自立と社会参加に向けた力を育む指導」となっていくと考える。

### 3 長期研究員制度による研究

平成 29 年度より再び長期研究員制度を実施した。長期研究員は、各自が研究テーマを設定して、計画、実践、評価をして二年次に研究をまとめ、発表・報告を行うこととしている。令和 6 年度は 2 名が研究に取り組み、福島県特別支援教育センター研究発表会では二年次の 1 名が研究のまとめを発表し、一年次の 1 名がポスター発表で中間報告した。また、研究成果を「研究紀要」にまとめた。

## 第 5 節 教育図書・資料の収集・提供事業

### 1 教育図書の収集・整理

教育図書については、特別支援教育に関する専門図書の充実に努め、本年度 200 冊の新規購入及び受贈の結果、蔵書数は 8,175 冊になった。図書については、利用しやすいように障がい別（視覚障がい、聴覚障がい、知的障がい、肢体不自由、病弱、言語障がい、情緒障がい、重複障がい等）に配架している。

### 2 教育関係定期刊行物の収集・整理

教育関係定期刊行物は 6 種類購入し、いつでも閲覧できるように分類・配架した。

### 3 教育資料の収集・整理

全国の関係機関や県内の教育機関の協力により、研究紀要・研究報告書・ハンドブック等の収集に努め、本年度収集した 27 冊を分類・配架した。県内の資料についても、学校別に分類・配架した。

## 第 6 節 広報・啓発事業

### 1 所報「特別支援教育」(77 号)

#### (1) 内容

##### ア 巻頭言

「子どもたち一人一人の可能性を引き出し、伸ばす教育の充実に向けて」

福島県立聴覚支援学校長 西村 則昌 氏

##### イ 特集「対話を通した子どもの思いや長居に応える教育を目指して」

(ア) 調査研究から「特別支援教育の充実に向けた研修の在り方」

(イ) 教育研究から「生徒との対話を通した、子ども主体の自立活動の授業実践」

(ウ) 教育相談実践報告「本人の歩みを支える保護者のかわりについて～共に伴走する存在であるために～」

##### ウ 研修ノート

(ア) 学校教育指導委員から

(イ) 実践協議会の参加者から

##### エ 随想

(ア) 各学校の先生方から

(イ) 2 年間の長期研究を通して

##### オ 研修報告

(ア) 国立特別支援教育総合研究所での研修から

(イ) 福島大学教職大学院での研修から

##### カ インフォメーション

(ア) 教育相談「教育相談に携わって考えること～対話の大切さと難しさ～」

(イ) 教員研修「学びを支える～令和 6 年度 教員研修を振り返って～」

(ウ) 学校・地域支援「～やってみよう！ケース会議～」

(エ) 教育資料・情報「いつでもどこでも短時間で学べる！特別支援教育に関する研修資料」

##### キ 編集後記

#### (2) 規格、ページ数

A 4 判 30 ページ

#### (3) 公開方法

Web サイトで公開し、各関係機関へは PDF にて配付した。

### 2 研究紀要「第 38 号」

#### (1) 内容

##### ア はじめに

##### イ 調査研究

「小・中学校、高等学校における特別支援教育の充実に向けた研修の在り方～特別支援教育の資質・能力を育成するために必要な研修内容・研修体系の再考～（二年次）」

##### ウ 教育研究

「特別支援学校高等部における自立と社会参加につなげる自立活動の指導の在り方～生徒が学習の意義を理解して、主体的に学ぶ姿を目指した実践研究～（二年次）」

##### エ 長期研究員研究

○「子ども一人一人が安心するかかわり・つながりのある姿を目指して～多面的・総合的な子ども理解と効果的なしかけの在り方（一年次）」

○「特別支援教育の視点を取り入れた国語科の指導の在り方～「書き」につまづく要因の把握と効果的な指導と支援～（二年次）」

##### オ おわりに

#### (2) 規格、ページ数

A 4 判 61 ページ

#### (3) 公開方法

Web サイトで公開し、各関係機関へは PDF にて配付した。

## 第7節 情報教育事業

### 1 ICT活用支援

専門研修講座において、ICTに関する講座を「授業におけるICTの活用（基礎編）～やってみよう！写真・動画を使った授業～」「授業におけるICTの活用（応用編）～主体的な学びを支える実践の共有～」の2講座とし、研修者のニーズに応じた内容を設定し実施した。基礎編では、情報活用能力やICTの活用についての基礎的な知識の講義や、タブレット端末の標準アプリやGoogleアプリの基本的な活用についての演習を行い、そこで得た知識や経験をもとに、今後の授業づくりの構想を協議する研修を行った。また、応用編では、情報活用能力を育成するための授業づくりや校内体制の工夫について、講義や協議をもとに考え、外部講師の講演をいただくことによって、ICTを活用し、専門性を発揮できるような実践について学ぶ機会とすることができた。

基本研修においては、初任者研修の中で情報モラルと著作権に関する講義を実施し、指導のポイントと教育活動で注意する著作権について事例をとおして学んだ。

また、全ての講座において、ICTの基礎的な理解を促し、教育活動における活用について理解啓発に努めた。

### 2 情報機器活用

オンラインでの講義配信を行い、外部講師の講義をリアルタイムで配信する形での公開講座を行った。また、講義等でWi-Fi環境を活用したオンラインアンケートやGoogleアプリの演習などにも取り組んだ。

### 3 情報教育ネットワークとWebサイトの充実

Webサイトで本センターの事業内容を多くの方々に伝えるため、研修や研究の広報充実に努めた。

調査研究で行っている「令和6年度発達障害のある児童生徒等に対する支援事業（管理職をはじめとする教員の理解啓発・専門性の向上のための体制構築事業）」の成果物「研修体系表」や動画や資料、手引き等を加えた研修コンテンツ・研修パッケージをホームページに掲載し、特別支援教育の理解啓発に努めた。

相談係と協力し、「教育相談だより」の掲載を行った。また、教育研究担当者と協力し、「教材・支援機器ポータル」にICT教材の活用事例の追加を行った。この事例については、国立特別支援教育相応研究所からの依頼を受け、当Webサイトの「特別支援教育教材ポータルサイト」に実践事例として公開された。

---

## 令和6年度実績 教育年報

発行 令和7年11月1日  
編集発行 福島県教育委員会  
福島市杉妻町2番16号  
TEL (024) 521-8658

---